教育実習事前指導【社会】

1000
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
分かりやすい授業ができるようになる。
生徒、先生、保護者と良好な関係を築く素地を作る。
〔授業の概要〕
教員養成６年制や教員免許更新制の背景にあるのは、教員の資質向上である。本講座では、授業の中で具体に「生徒指導力」や「授業力」の本質に迫りながら、お互い意見を出し合い、教育実習に備える。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
必ず2問以上の質問事項を用意して授業に臨むこと。また、授業後には、授業ふり返りレポートを提出のこと。
〔授業計画〕
第 1 回　中学校の現状について
生徒・保護者・教員の実情について具体に説明し、問題・課題を提示する。
第 2 回　高等学校の現状について
生徒・保護者・教員の実情を説明し、問題・課題の解決策を考える。
第 3 回　介護体験について
各施設の概要と、実習のあり方について具体に指導する。
第 4 回　教育実習の目的
なぜ教育実習が重要か？その目的について説明する。
第 5 回　教育実習の心構えⅠ
教職員集団の中の教育実習生は、どうあるべきか具体に提示し討論する。
第 6 回　教育実習の心構えⅡ
生徒・保護者対応は、どうあるべきか具体に指導する。
第 7 回　教育実習生の仕事と内容
実習期間中、どのような勤務態度が必要か等について指導する。
第 8 回　教育実習への期待と不安
失敗を恐れず、意欲的に取り組む姿勢が重要なので、その方法論を指導する。
〔成績評価〕
期末のレポート（50パーセント）
模擬授業の評価（30パーセント）
授業への取り組み（20パーセント）
〔教科書〕
文部科学省学習指導要領
芦屋大学編「教育実習の手引き」
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（社会）、必修
〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

教育実習事前指導【英語】

1002
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
中学・高校での教育実習で必要な知識・技能を学修する。
中学・高校での教育実習を振り返り、学校現場での実践基盤を身につける。
〔授業の概要〕
教育者として必要な資質を振り返りながら、教育実習生としての心構え、学習指導案作成と模擬授業実践を行う。
また、教育実習で行った授業を実践しながら授業内容の改善を図る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１.学習指導案を作成する(60分)
２.指導案に基づき、45分授業を練習する。(30分)
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
教育実習の意義・目的・内容を理解する。
第 2 回　教育実習の実際１
実習期間中の心構え、服務、過ごし方を理解する。
第 3 回　教育実習の実際２
実習校への事前訪問の仕方と内容、手続き等実習までの準備について理解する。
第 4 回　教育実習の実際３
実習中の観察記録や指導講話記録の取り方、教育実習記録簿への記入の仕方を理解する。
第 5 回　学習指導案作成１
研究授業を想定した学習指導案作成の仕方を理解する。
第 6 回　学習指導案作成２
研究授業を想定した学習指導案を作成する。
第 7 回　模擬授業１
授業の導入場面を行い、評価改善を図る
第 8 回　模擬授業２
前時の改善を生かして、授業の導入場面を行い授業演習をまとめる。

〔成績評価〕
模擬授業(６０％)
毎時間の小レポート(２０％)
学習態度（２０％）
〔教科書〕
芦屋大学「教育実習ハンドブック」
中学校学習指導要領　外国語編（平成29年告示　文部科学省）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ
〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（英語）、高一種（英語）、必修
〔オフィスアワー〕
前期・後期　水曜日　14時～15時　研究室１１
tange@ashiya-u.ac.jp

中等教科教育法Ⅰ（保健･体育）

1006
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
青木　　敦英

〔到達目標〕
本講義では、中学・高等学校の学習指導要領の理解を深めるために、その要点を的確に把握しながら、それらを支えている新しい体育科教育の考え方や、学習指導の進め方について理解する。
〔授業の概要〕
中学校および高等学校における保健体育科の教員にとって、教科に関する知識や指導方法を学ぶことは必須である。本講義では、保健体育の指導基準である学習指導要領の内容を理解することを最重要課題とする。これらを学習する中でどのような目的で保健体育が行われなければならないのか、教科が抱える使命について解説するとともに、指導すべき内容について理解を深めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
教育やスポーツに関する時事問題やニュースに関心を持つようにしてください。中学・高等学校で使用した保健体育の教科書を見直おくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　本講義の目的、内容、評価方法について
第 2 回　保健体育教師の資質
　　保健体育の教員として指導上の留意点を解説
第 3 回　学習指導要領の方針
　　学習指導要領における保健体育科の目標及び主な内容並びに全体構造を解説
第 4 回　学習指導計画
　　保健体育科における学習計画の種類と果たす役割について
第 5 回　学習指導要領の内容理解①
　　体つくり運動の内容と解説
第 6 回　学習指導要領の内容理解②
　　器械運動の内容と解説
第 7 回　学習指導要領の内容理解③
　　陸上競技の内容と解説
第 8 回　学習指導要領の内容理解④
　　水泳の内容と解説
第 9 回　学習指導要領の内容理解⑤
　　球技の内容と解説
第 10 回　学習指導要領の内容理解⑥
　　武道・ダンスの内容と解説
第 11 回　学習指導要領の内容理解⑦
　　体育理論の内容と解説
第 12 回　学習指導要領の内容理解⑧
　　保健の内容と解説
第 13 回　保健体育の学習評価
　　保健体育における学習評価の考え方ついて解説
第 14 回　青少年への運動指導を考える
　　青少年期における心と体の発達から運動指導を考える
第 15 回　保健体育での場面対応
　　体育指導に関わるさまざまな場面についての対応方法について解説
〔成績評価〕
授業への取り組みおよび受講態度 20%、定期試験（筆記試験）50%、レポート課題30%から総合的に評価する。
〔教科書〕
中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　東山書房（平成29年3月）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　東山書房（平成30年7月）
〔参考文献〕
めざそう！保健体育教師　杉山重利・佐藤豊・園山和夫（編）　朝日出版社
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教育実習【社会】

1007
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　前期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.学校組織の仕組みを、校務分掌のあり方等に関する講話とともに、実際の教職員の動きの中にあって理解する。
2.教員としての初歩的な実践力を学ぶとともに、服務・規範意識など教育に携わる者としての自覚と態度を身に付ける。
3.実習生どうしの相互討論・共同作業によって同僚性を養うことを目指す。

〔授業の概要〕
実習校でプログラムされた講話の中で、学習指導・生徒指導や教育課程の現実と留意事項を学び、学級担任の補助として学級経営の一端を担う。主たる取組は、実習校における教員の学習指導を参観しつつ、自らも学習指導案を作成して授業実践に臨む。生徒とのコミュニケーションを通じて良い人間関係を構築することを目指しながら、なおかつ自分が教育に携わる者であることを自覚する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊教育実習の1年前までには関係教育委員会もしくは当該実習校に対し、大学を通じて、実習受入願いの手続きを申請する
＊教育実習参加要件を満たす必要があり、「教職課程の手引き」を確認しておくこと

〔授業計画〕
第 1 回　実習校での事前打合せ
（留意事項の理解、実習に用意するもの）
第 2 回　事前学習の復習
（学習指導案の作成、道徳科の授業づくり）
第 3 回　実習校での実習①
（職員・生徒への挨拶、講話：校長より、教育課程・学習指導・生徒指導について、等）
第 4 回　実習校での実習②
（ショート・ホームルームの運営、給食指導）
第 5 回　実習校での実習③
（指導教員の授業を参観）
第 6 回　実習校での実習④
（学習指導案作成に向けた教材研究）
第 7 回　実習校での実習⑤
（実習日誌の記入と指導教官からの指導助言）
第 8 回　実習校での実習⑥
（部活動指導への参加）
第 9 回　実習校での実習⑦
（学年集会、全校集会への参加）《全体指導・生徒への語りかけ方の学び》
第 10 回　実習校での実習⑧
（実習生どうしによるマイクロティーチング）
第 11 回　実習校での実習⑨
（授業実践とリフレクション、指導教官からの指導助言）
第 12 回　実習校での実習⑩
（実習生どうしによる授業評価）
第 13 回　実習校での実習⑪
（研究授業に向けた教材研究）
第 14 回　実習校での実習⑫
（研究授業のための学習指導案づくり）
第 15 回　実習校での実習⑬
（研究授業実践と研究協議、教育実習の総括）

〔成績評価〕
研究授業もしくは学習指導案(15%)、実習日誌(15%)、実習校からの評価 (70%)

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編
芦屋大学編「教育実習の手引き」（実習日誌）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（社会）、必修

〔オフィスアワー〕
水曜日：14:00から15:00　場所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

教育実習【英語】

1008
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　前期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
１．教育実習の意義や心得等、教育実習に臨む態度と能力を持つことができる。
２．授業実践者に相応しい英語科の知識や技能、指導力を持つことができる。
３．学習指導要領「中学校（英語）」の内容が反映された指導案を作成することができる。
４．ICT機器などを利用して、英語科５領域の内容を熟知し指導できる。
５．様々な場面で生徒理解に努め、実習校に対して有意義な活動を行うことができる。

〔授業の概要〕
教職課程及び教科に関する専門科目の学習で身につけた知識や理解をもとに、教育実習を行う。また、教育実習の事前・事後指導を行う。事前指導では、教育実習の意義や実習にあたっての心得を中心に、教材研究、指導案作成、模擬授業、授業評価を確認する。事後指導では、各自の教育実習を振り返り、学生間で学びや反省を共有して学びを深

める。実習中は、実習校での指導を仰ぎながら生徒との対話的で深い学びを自ら企画し教師力を磨く。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学校現場での様々な教育活動に実際に関わり、教材研究や指導案の作成などは時間外学習で行う。（120分）

・担当教員や管理職の指示があれば、校外学習や休日の部活指導等にも積極的に参加する。

（120分）

〔授業計画〕

第 1 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 2 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 3 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 4 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。

第 5 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。

第 6 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。

第 7 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。

第 8 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。

第 9 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。

第 10 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。

第 11 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。

第 12 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。研究授業の準備をする。

第 13 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。専門教科外の授業も含め複数の授業参観から教師像を学び、教師の実践力を習得する。研究授業の準備をする

第 14 回　実習校での指導実践
職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、様々な教育活動を率先して行う。研究授業を行い、実習校教員から事後指導を受け、授業の振り返りを行う。

第 15 回　実習校での指導実践
教育実習全体を振り返り、自らが改善すべき教師の資質・能力を把握し、今後の修養の糧とする。

〔成績評価〕

教育実習の実績（40%）、指導案＆研究授業の実績（40%）、教育実習の感想記録、生徒・担当教員などへのお礼の手紙など（20%）で総合的に評価する。

〔教科書〕

中学校学習指導要領解説、外国語編（平成29年告示、文部科学省）

実習校で使用している「英語科」教科書

〔参考文献〕

教育実習事前指導で扱った資料

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

教育実践に関する科目、教育実習、中一種（英語）、高一種（英語）、必修

〔オフィスアワー〕

水曜日　14時～15時　　研究室１１

tange@ashiya-u.ac.jp

教育実習事前指導【保体】

1013
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
青木　　敦英

〔到達目標〕
教育実習の意義について理解するとともに、学習指導案の作成、教材研究の行い方など、教育実習で実践的な指導力が身につくように、教育実習に向けてしっかりとした準備ができることをねらいとする。
〔授業の概要〕
「保健体育」科目の教育実習を行うにあたって、実習の意義と心構えについて理解するだけでなく、学習指導案の作成や教材研究を通して、教育実習で必要な内容について学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習指導要領の内容をしっかりと復習しておくこと。本講義の受講は、教育実習参加が認められていることが履修要件となる（前年度の認定面接合格者のみ）。
〔授業計画〕
第 1 回　教育実習の意義と心構え
　　教育実習にあたって、その意義と心構えについて
第 2 回　体育科における教育課題
　　学校現場、体育の授業に関わる問題点とその対処について
第 3 回　学習指導案の作成（体育）
　　体育実技における学習指導案作成の留意点について
第 4 回　学習指導案の作成（保健）
　　保健における学習指導案作成の留意点について
第 5 回　教材研究（器械運動）
　　器械運動における様々な教材研究について
第 6 回　教材研究（球技）
　　球技における様々な教材研究について
第 7 回　教材研究（体育その他）
　　陸上競技、武道などにおける教材研究について
第 8 回　教材研究（保健）
　　保健における様々な教材研究について
〔成績評価〕
受講態度、授業内レポートなどによって総合的に評価する。
〔教科書〕
中学校学習指導要領解説　保健体育　文部科学省
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　文部科学省
教育実習の手引き　芦屋大学編
〔参考文献〕
めざそう！保健体育教師　杉山重利・佐藤豊・園山和夫（編）　朝日出版社
〔履修条件〕
〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00〜11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教育実習【保健体育】

1014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
青木　　敦英

〔到達目標〕
教育実習の目的は多岐にわたるが、保健体育教師としての実践的な力量を習得することや教育者としての自覚を育てることを目標としてほしい。
〔授業の概要〕
実際の教育現場にて、教員として経験が出来る貴重な場である。最も大事なことは教科指導であるが、他にも学級指導、部活動指導、生徒指導など様々な指導の機会がある。生徒理解を中心としながら、様々な指導力を高めるように心がけること。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
教育実習を行うには、実習の1年前には各自で実習校への受け入れを申請する必要がある。また、教育実習に参加するためにはいくつかの要件を満たすことが必要である。「教職課程の手引き」をしっかりと確認してください。
〔授業計画〕
第 1 回　実習校での事前打ち合わせ
　　担当クラス、授業内容等の確認
第 2 回　実習校での実習①
　　授業観察、学内業務についての理解
第 3 回　実習校での実習②
　　学級担任の仕事についての理解
第 4 回　実習校での実習③
　　学校経営についての理解
第 5 回　実習校での実習④
　　学級指導および生徒指導の実践
第 6 回　実習校での実習⑤
　　実習生同士によるマイクロティーチング
第 7 回　実習校での実習⑥
　　授業実習に向けた教材研究
第 8 回　実習校での実習⑦
　　部活動指導
第 9 回　実習校での実習⑧
　　職員会議および職員研修への参加
第 10 回　実習校での実習⑨
　　学習指導案の作成（体育と保健）
第 11 回　実習校での実習⑩
　　体育の授業実践とリフレクション
第 12 回　実習校での実習⑪
　　保健の授業実践とリフレクション

第 13 回　実習校での実習⑫
　　研究授業に向けた教材研究
第 14 回　実習校での実習⑬
　　研究授業
第 15 回　実習校での実習⑭
　　研究授業のリフレクション

〔成績評価〕

実習校の指導教員による評価、教育実習ノートの内容、学習指導案などから総合的に判断する

〔教科書〕

中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　東山書房（平成29年3月）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　東山書房（平成21年3月）

〔参考文献〕

めざそう！保健体育教師　杉山重利・佐藤豊・園山和夫（編）　朝日出版社

〔履修条件〕

〔備考〕

教育実践に関する科目、教育実習、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕

①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

中等教科教育法Ⅰ（保健体育）（再履修）

1015
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
青木　　敦英

〔到達目標〕

本講義では、中学・高等学校の学習指導要領の理解を深めるために、その要点を的確に把握しながら、それらを支えている新しい体育科教育の考え方や、学習指導の進め方について理解する。

〔授業の概要〕

中学校および高等学校における保健体育科の教員にとって、教科に関する知識や指導方法を学ぶことは必須である。本講義では、保健体育の指導基準である学習指導要領の内容を理解することを最重要課題とする。これらを学習する中でどのような目的で保健体育が行われなければならないのか、教科が抱える使命について解説するとともに、指導すべき内容について理解を深めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

再履修するにあたって、保健体育教師に求められる資質について考えておくとともに、短期集中で行うため、事前にどのような準備が必要かよく考えて履修してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　　本講義の目的、内容、評価方法について
第 2 回　保健体育教師の資質
　　保健体育の教員として指導上の留意点を解説
第 3 回　学習指導要領の方針
　　学習指導要領における保健体育科の目標及び主な内容並びに全体構造を解説し、情報教材を活用した授業展開について考える
第 4 回　学習指導計画
　　保健体育科における学習計画の種類と果たす役割について
第 5 回　学習指導要領の内容理解①
　　体つくり運動の内容と解説
第 6 回　学習指導要領の内容理解②
　　器械運動の内容と解説
第 7 回　学習指導要領の内容理解③
　　陸上競技の内容と解説
第 8 回　学習指導要領の内容理解④
　　水泳の内容と解説
第 9 回　学習指導要領の内容理解⑤
　　球技の内容と解説
第 10 回　学習指導要領の内容理解⑥
　　武道・ダンスの内容と解説
第 11 回　学習指導要領の内容理解⑦
　　体育理論の内容と解説
第 12 回　学習指導要領の内容理解⑧
　　保健の内容と解説
第 13 回　保健体育の学習評価
　　保健体育における学習評価の考え方ついて解説
第 14 回　青少年への運動指導を考える
　　青少年期における心と体の発達から運動指導を考える
第 15 回　保健体育での場面対応
　　体育指導に関わるさまざまな場面についての対応方法について解説

〔成績評価〕

授業への取り組みおよび受講態度40%、定期試験（筆記試験）50%、レポート課題10%から総合的に評価する。

〔教科書〕

中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　東山書房（平成29年3月）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　東山書房（平成30年7月）

〔参考文献〕

めざそう！保健体育教師　杉山重利・佐藤豊・園山和夫（編）　朝日出版社

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕

①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室

④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教育哲学Ⅰ

1030
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
廣岡　義之

〔到達目標〕
子ども一人ひとりの成長や発達を促すという観点から、教師として彼らとどのように主体的な関係を構築していくかという理解を深める。そのために、様々な教育思想家の哲学的理念を自分の生き方やあり方と重ねつつ考察する把握力を身につける。

〔授業の概要〕
１．教育の理念、意義や目的について理解する。
２．教育の哲学的思想について学び、教育哲学に関する基礎的な理論について理解する。
３．様々な教育哲学的思想家の考え方について理解する。
４．教育と実存的に関わるとはどういうことかについて理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。(90分)
特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。(90分) ここをクリックまたはタップしてテキストを入力してください。

〔授業計画〕
第 1 回　フランクルの生涯と思想①誕生から25歳まで
テキストのフランクル略年表前半を熟読すること。
第 2 回　フランクルの生涯と思想②26歳から40歳まで
テキストのフランクル略年表中盤を熟読すること。
第 3 回　フランクルの生涯と思想③41歳から亡くなるまで
テキストのフランクル略年表後半を熟読すること。
第 4 回　フランクルの講演①実存的空虚、実存的療法等
テキスト第1部第1章前半を熟読すること。
第 5 回　フランクルの講演②逆説志向、価値、意味等
テキスト第1部第1章中盤を熟読すること。
第 6 回　フランクルの講演③良心、苦悩、智慧等
テキスト第1部第1章後半を熟読すること。
第 7 回　フランクルを読み解く①幸福、タゴール、生きる意味等
テキスト第2部第1章前半を熟読すること。
第 8 回　フランクルを読み解く②ヘルダーリン、リルケ、自殺、死等
テキスト第2部第1章後半を熟読すること。
第 9 回　フランクルを読み解く③ロゴセラピー、自己超越
テキスト第2部第2章を熟読すること。
第 10 回　フランクルを読み解く④夜と霧、それでも人生にイエスという等
テキスト第2部第3章を熟読すること。
第 11 回　フランクルを読み解く⑤世界存在の意味、人生の問い等
テキスト第2部第4章を熟読すること。
第 12 回　フランクルを読み解く⑥からし種の寓話、意味への意志等
テキスト第2部第5章を熟読すること。
第 13 回　フランクルを読み解く⑦道徳とフランクル思想の関連性
テキスト第2部第6章前半を熟読すること。
第 14 回　フランクルを読み解く⑧山本有三の『路傍の石』とフランクル
テキスト第2部第6章後半を熟読すること。
第 15 回　フランクルを読み解く⑨現代社会に求められているもの
テキスト第2部第7章を熟読すること。

〔成績評価〕
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

〔教科書〕
『フランクル哲学と出会って、ほんとうの自分と幸せを感じるための本---フランクル教育哲学入門---』広岡義之著　あいり出版

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕
Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

情報機器の操作（上級）

1099
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
黒川　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）

聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。

授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕

毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作（初級）

1100
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　宏敏

〔到達目標〕

情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕

１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成

視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作【留学生対象】

1101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
林　　泰子

〔到達目標〕
・Gmail（大学の各学生のメール）を活用することができる。
・Wordを活用し、基礎的な文書を作成することができる。
・Excelを活用し、基礎的な計算とグラフを作成することができる。
・Power Pointを活用し、基礎的なプレゼンテーション用スライドを作成することができる。
・ネット社会での情報モラルの重要性を理解し、情報を適切に活用することができる。

〔授業の概要〕
レポート作成、課題・研究発表など、大学でのコンピュータ利用に対応できる基礎的な知識や技能を修得する。
Word、Excel、Power Pointを用いて課題を作成する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前にテキストに目を通して予習しておくこと。また、授業の復習をして分からなかったところなどを振り返り、次の授業での課題作成がスムーズにできるようにしておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の進め方、授業概要、成績評価
Gmailの基礎
第 2 回　Wordを活用した文書作成１
Wordの基本操作、入力チェック、文章の入力
第 3 回　Wordを活用した文書作成２
表と罫線、ビジネス文書
第 4 回　Wordを活用した文書作成３
図形の描画と編集
第 5 回　Wordを活用した文書作成４
表や図形を活用した文書作成
第 6 回　Wordの総復習
Wordのチェックテスト
第 7 回　Excelを活用したデータ処理１
Excelの特徴、データ入力と編集
第 8 回　Excelを活用したデータ処理２
いろいろな計算方法、相対参照、絶対参照
第 9 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化
第 10 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 11 回　Excelの総復習
Excelのチェックテスト
第 12 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成１
スライド作成の基礎
第 13 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成２

効果的で説得力のあるスライド編集
第 14 回　Power Pointを活用したプレゼンテーション
自作のプレゼンテーション用スライドによる発表
第 15 回　情報モラル
情報の適切な取り扱い、情報セキュリティ

〔成績評価〕
課題　60%
チェックテスト　40%

〔教科書〕
『留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー』橋本恵子・林泰子他、共立出版、2,200円＋税

〔参考文献〕
必要に応じて資料を配布します。

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
それ以降は、メールで受け付けます。

情報機器の操作（上級）

1104
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕
本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

教育課程論【中等】

1302
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
三羽　光彦

〔到達目標〕
中学校・高等学校の教育課程のしくみについて理解すること、すなわち、中学校・高等学校の教育課程（中等教育課程）の性質・特徴および編制原理を理解し、中学校・高等学校の学習指導要領の特色と概要を把握することを目標とする。

〔授業の概要〕
教育課程（カリキュラム）とは何か、その類型や教育課程改革の動向について中等教育課程のあり方という観点から理解する。中学校・高等学校の目的・目標について学校教育法、同法施行規則にそってその意義を理解する。教育課程の性質・特徴および編制原理を理解し、学習指導要領の特色と概要を把握するとともに、その編成方法を具体的に考察する。また学校におけるカリキュラムマネジメントの確立について具体例を検討する。その際、各学校における教育課程編成の具体的なあり方について、受講生同士が意見を出し合って討論し、グループで発表することとする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
指示または配付した参考資料等をあらかじめ90分くらいかけて読んでくること。また授業後適宜に内容のまとめを行うこととする。

〔授業計画〕
第 1 回　教育課程（カリキュラム）とは何か
教育の三要素（教育者・学習者・教育内容）とカリキュラム、教育目的・目標と教育課程編成、教育観とカリキュラム観について考察する。
第 2 回　中学校の目的・目標と教育課程構造
中学校の教育目的、中学校教育の目標などについて理解し、さらに教科・教科外の教育課程構造を理解する。
第 3 回　高等学校の目的・目標と教育課程構造
高等学校の目的、高等学校教育の目標などについて理解し、課程（全日制・定時制・通信制・単位制）や学科（普通・専門・総合学科）などの違いや、教科・教科外の教育課程構造を理解する。
第 4 回　教育課程（カリキュラム）の類型
大きく分けて、系統主義的な教科（学問）中心カリキュラムと、経験主義的な児童（生活）中心カリキュラムの二つの類型がある。その相互の特徴と得失を考察する。
第 5 回　学習指導要領の役割と意義
戦後登場した学習指導要領の意義とその役割について、戦前法制との比較や学校教育法制全体から考察する。
第 6 回　教育課程改革（カリキュラム開発）の動向
1960年代以降のアメリカの教育思想（教育の現代化や人間化）の動向を背景として、揺れ動いたカリキュラム開発論を理解する。
第 7 回　学習指導要領改訂のあゆみ
1947年から今日までの学習指導要領の改訂の歩みを理解し、その背景となった社会経済的要因や教育観を考察する。
第 8 回　新学習指導要領の改革の要点
新学習指導要領の改訂の背景、その要点（主体的・対話的な深い学びを目指して）について理解する。
第 9 回　教育課程行政と教科書
国（文部科学省）、教育委員会、学校との教育課程編成に関する行政制度を理解し、あわせて教科書と教科書制度の意味を考察する。
第 10 回　学校におけるカリキュラムマネジメント
各学校や学年全体でカリキュラム編成を実施するさい、どのように「チーム学校」で取り組むかその方途を考察する。
第 11 回　アクティブ・ラーニングとカリキュラム編成
「主体的・対話的な深い学び」を実現するためには、アクティブラーニングが必要だといわれている。そううした教育を行うためにはいかなるカリキュラム観、カリキュラム編成が求められるかを考察する。
第 12 回　道徳の教育課程上の位置
学習指導要領で新たに特別な教科として位置づけられた道徳について、その教育課程上の位置や諸問題、中学校と高等学校の違いなどについて考察する。
第 13 回　特別活動の教育課程上の位置
学校行事や自治活動などの特別活動の教育課程上の位置について、また部活動や就職指導について教育課程との関係から考察する。
第 14 回　総合的学習の時間の教育課程上の位置
体験活動やキャリア教育など総合的学習の時間の意義と、その教育課程上の位置について考察する。
第 15 回　まとめ
全体として授業を振り返って、中学校・高等学校の教育課程のしくみについて復習する。

〔成績評価〕
学生に対する評価：定期試験（40%）、中間小テスト（60%）、試験・テストをレポートに変えることもある。

〔教科書〕
特になし、適宜資料を提示または配布する。

〔参考文献〕
文部科学省『中学校学習指導要領』、同『高等学校学習指導要領』。

〔履修条件〕

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、中一種、高一種、必修
〔オフィスアワー〕
毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できればあらかじめアポを取ってください。

情報科学

1307
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
森下　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。情報リテラシーから継続して学び、この情報科学を受講してExcelの応用技術を身につける。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。
〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、より効果的にコンピュータを活用する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
　　セル操作(ワークシート操作と情報リテラシーの復習)
第 3 回　Excel基本操作(2)
　　関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索、情報リテラシーの復習)
第 4 回　Excel基本操作(3)
　　値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
　　SUM ／ AVERAGE ／ MAX ／ MIN ／ COUNT ／ COUNTA／RANK／絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
　　ROUND／ROUNDUP／ROUNDDOWN／INT
第 7 回　Excel関数(3)
　　SUMIF ／ COUNTIF ／ COUNTBLANK ／ AVERAGEIF
第 8 回　Excelデータベース機能
　　並べ替え／オートフィルタ
第 9 回　Excelグラフ機能
　　グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
　　基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
　　IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
　　IF(発展・実践と発展・多重判断文、AND、OR)
第 13 回　データ分析とデータベース関数
　　VLOOKUP
第 14 回　プレテスト
　　定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
　　定期試験
〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「教養情報科学概論」共立出版
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

国際法 I

1311
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
松本　達也

〔到達目標〕
国際関係と国内関係が相互に作用し、複雑化している現在、国際関係を規律する国際法を知ることは不可欠である。国

際法の基礎と現実社会への理解を進めると共に思考力、判断力、表現力等を身に付ける。

〔授業の概要〕

独立した主権国家も、国際社会の安定確保のためには国際法による規律が必要。ここでは、平時と戦時の国際法、さらに国際慣習法、条約等に対する基本的な理解を学習する中で、具体的事例を通じて多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：一週間海外等の動きを新聞等を通じて理解し、問題点を深く追求する。

復習：毎回の講義テーマを200字程度で論述する。

〔授業計画〕

第 1 回　国際法の概念
　　国際社会と法、国際法の法源、国際法と国内法との関係
第 2 回　国際法における国家
　　国家とは、国家承認と政府承認、国家の基本的権利と義務
第 3 回　国際法における個人（1）
　　国籍の概念、外国人の地位、政治犯引き渡しと難民の保護
第 4 回　国際法における個人（2）
　　個人の国際犯罪、人権の国際的保障
第 5 回　国際法における領域
　　概念、国際化地域の特質、海洋区分と法的地位、宇宙空間
第 6 回　国際組織（1）
　　国際組織の概念、歴史、国際連盟の設立
第 7 回　国際組織（2）
　　国際連合の創設、目的、原則
第 8 回　国際組織（3）
　　国際連合の機構、国連ファミリー
第 9 回　対外関係の機関
　　外交機関、領事機関
第 10 回　条約法
　　条約の概念、成立、効力、改正と終了、解釈と適用
第 11 回　紛争の平和的解決
　　平和的解決の義務と方法、国際裁判
第 12 回　国際平和と安全の維持（1）
　　武力行使の規則と集団安全保障
第 13 回　国際平和と安全の維持（2）
　　平和維持活動、中立の法的地位
第 14 回　軍縮
　　軍縮の歴史と表現
第 15 回　総括
　　現代の国際情勢と国際法

〔成績評価〕

講義時間に適宜課題を与えて小論文にまとめる。成績評価はこの課題の提出及び講義時間内での積極的な提言や意見を参考資料としながら定期試験の評価を併せて行う。

〔教科書〕

講義時間ごとに教材・資料等を印刷物で配布する。

〔参考文献〕

文部科学省　高等学校新学習指導要領解説
現代国際法（松本他嵯峨野書院）

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕

① 前期・後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

英語Ⅰ③

1503
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕

TOEIC新形式の初級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。
教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。

〔授業の概要〕

各UnitのPart 1~Part 4でListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。
また、既習文法の整理とする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎時間の復習をし、次時の確認テストへの学習をすること。（120分）
指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。（120分）

〔授業計画〕

第 1 回　Unit 1 Activities
　　TOEICについての説明
　　人物の動作に関する英語の学習　　現在時制、過去時制の整理
第 2 回　Unit 2　Eating Out
　　料理、外食などに関する英語の学習
　　未来形、完了形の整理
第 3 回　Unit 3　Entertainment
　　娯楽、趣味に関する英語の学習
　　進行形、助動詞の整理
第 4 回　Unit 4 Travel
　　旅行に関する英語の学習
　　受動態、使役動詞の整理
第 5 回　Unit 5　Housing

賃貸物件、リフォームなどに関する英語の学習
There 構文、付加疑問文の整理
第 6 回　Unit 6 School
教育、授業に関する英語の学習
可算名詞、不可算名詞の整理
第 7 回　Unit 7　Health
健康に関する英語の学習
冠詞、代名詞の整理
第 8 回　Unit 8 Shopping
Shoppingに関する英語の学習
形容詞、副詞の整理
第 9 回　Unit 9　Family
家族や家庭に関する英語の学習
比較級、最上級の整理
第 10 回　Unit 10 News
ニュースに関する英語の学習
不定詞と動名詞の整理
第 11 回　Unit 11 Job Hunting
就職活動に関する英語の学習
前置詞、接続詞の整理
第 12 回　Unit 12　Advertisements
広告に関する英語の学習
直接話法、間接話法の整理
第 13 回　Unit 13　Office Work
仕事に関する英語の学習
命令文、感嘆文の整理
第 14 回　Unit 14　Office Messages
仕事で使うメッセージに関する英語の学習
関係代名詞、関係副詞の整理
第 15 回　Unit 15　Meetings
会議に関する英語の学習
仮定法の整理

〔成績評価〕

授業での課題への取り組み　25%　　テスト　75%

〔教科書〕

Practical TOEIC Bridge L&R Tests (南雲堂)

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】

中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。

〔オフィスアワー〕

tange @ashiya-u.ac.jp

水曜日　14時～15時　　研究室11

英語Ⅰ④

1504
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
浜本　　幸子

〔到達目標〕

１．類義語、派生語などを学び、語彙力を高める
２．学んだ語彙を積極的にコミュニケーションで利用できるようになる
３．基本的な英語文の構造を理解・習得し、表現力を高める

〔授業の概要〕

基本語彙、類義語、反義語、派生語、文章やまとまりのある会話文などを授業毎に提示する。それらをノートに取り、各自でオリジナルノートを作成する。学んだ内容を使ってクラス内で英語でインタビューをし、その内容を英文書としてまとめ、かつ発表する。
補足として、各回の授業内容に関連する文法事項や練習問題を含んだプリントを配布する場合もある。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎回の授業内容（語彙や会話文）を復習し、定着させる。(90分)
副読本の指定された部分を読み、内容を理解して授業に臨む。(90分)

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション・英語力をつける学習方法
英語力を効果的に養う学習方法を複数紹介し、実践する。各自に合った学習方法を見つける。
第 2 回　語彙を増やす１
日常生活で使用する語彙を習得。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。
第 3 回　語彙を増やす２
ワードマッピングで関連語をまとめて覚え、語彙を増やす。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。
第 4 回　語彙を増やす３
類義語、反義語、派生語などを習得。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。
第 5 回　語彙を増やす４
コロケーション、語彙の選択について学ぶ。口頭実践練習。ペアワークで学びを確認しあう。
第 6 回　語彙のまとめ、復習
ワークシートを利用し、ペアでお互いの語彙力を確認しあう。小テスト実施
第 7 回　単語と文１
単語を並べて文を作成。日本語との語順の違いに注目。また、文法的正しさ、内容の適切さなどを考える。
第 8 回　単語と文２

文の構造を考えながら英語で文を作成する。自作の文章をペア相手に読み聞かせ、自分の書いた内容が相手に伝わっているか確認。

第 9 回　学びの実践
今までに習得した内容に関連した文章（副読本など）を読み、各自学びの定着を図る。

第 10 回　発表１
与えられたテーマに沿って、学んだ内容を使って作文し、発表する。

第 11 回　複雑な文１
単分から重文、複文へ理解を深める。副読本等を使って練習。

第 12 回　複雑な文２
複雑な構造の文をわかりやすく分析する。そのうえで、複雑な構造の文を含んだ文章を作り、提出する。

第 13 回　二人の会話
ある特定の状況を設定する。そこで起こりうる会話を考えながら、二人の登場人物が話す内容を英語で考え、会話文を作る。

第 14 回　発表に向けての準備
前回作成した会話文を各ペアーで覚え、身振りなども交えて練習する。

第 15 回　発表と評価
すべてのペアがそれぞれ発表し、聞く側としては評価基準に基づいて評価する。

〔成績評価〕
提出物（10%）
小テスト・発表（35%）
定期試験（55%）

〔教科書〕
担当者作成のパワーポイント資料で授業を進める。ワークシートや復習の資料などを配布する。副読本を指定。

〔参考文献〕
必要に応じて紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日

英語Ⅰ⑤

1505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
中田　　智也

〔到達目標〕
基本的な文法事項を理解する。
簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。
簡単な英作文ができるようになる。

〔授業の概要〕
この授業は、大きく分けて、①文法事項の確認、②英文和訳（英語から日本語）、③和文英訳（日本語から英語）、の３つの部分から成ります。①と②で文法事項を理解したうえで③に取り組みます。簡単な英作文を数多くこなすことにより、英語に慣れていきましょう。また、クラス全体で問題を共有しながら、難しく感じる部分も丁寧に学んでいきましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で学んだことの復習
難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
授業の進め方・決まり事などについて

第 2 回　動詞（1）be動詞　英文和訳
be動詞の意味、使い方、語形変化（原形・現在形・過去形など）
否定文、疑問文の作り方

第 3 回　動詞（1）be動詞　和文英訳
be動詞の意味、使い方、語形変化（原形・現在形・過去形など）
否定文、疑問文の作り方

第 4 回　動詞（2）一般動詞　英文和訳
一般動詞とbe動詞の区別
「三・単・現」の ”s”、規則変化と不規則変化
否定文、疑問文の作り方

第 5 回　動詞（2）一般動詞　和文英訳
一般動詞とbe動詞の区別
「三・単・現」の ”s”、規則変化と不規則変化
否定文、疑問文の作り方

第 6 回　未来形　英文和訳
will と be going to
will と be going to の使い方（will + 動詞の原形、be going to + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方

第 7 回　未来形　和文英訳
will と be going to
will と be going to の使い方（will + 動詞の原形、be going to + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方

第 8 回　助動詞　英文和訳
さまざまな助動詞（will, can, may, must など）
助動詞の使い方（助動詞 + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方

第 9 回　助動詞　和文英訳
さまざまな助動詞（will, can, may, must など）
助動詞の使い方（助動詞 + 動詞の原形）
否定文、疑問文の作り方

第 10 回　冠詞　英文和訳
a,an（不定冠詞）の基本的な使い方と意味
the（定冠詞）の基本的な使い方と意味
冠詞が不要な場合、その他

第 11 回　冠詞　和文英訳

a,an（不定冠詞）の基本的な使い方と意味
the（定冠詞）の基本的な使い方と意味
冠詞が不要な場合、その他

第 12 回　代名詞　英文和訳
代名詞の人称（1人称・2人称・3人称と単数・複数の区別）
代名詞の格変化（例：”I”, ”my”, ”me”, ”mine”）
指示代名詞、疑問代名詞、その他

第 13 回　代名詞　和文英訳
代名詞の人称（1人称・2人称・3人称と単数・複数の区別）
代名詞の格変化（例：”I”, ”my”, ”me”, ”mine”）
指示代名詞、疑問代名詞、その他

第 14 回　前期のまとめ
前期の要点のおさらい

第 15 回　前期のまとめ
前期の要点のおさらい

〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。
〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜資料を配布します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

英語Ⅰ⑥

1506
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
山片　崇嗣

〔到達目標〕
・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。
〔授業の概要〕
・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的な授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的・方針、評価方法などの紹介。

第 2 回　第１章　動詞と文型①
自動詞と他動詞

第 3 回　第１章　動詞と文型②
第１・第２・第３文型

第 4 回　第１章　動詞と文型③
第4・第5文型

第 5 回　第２章　時制①
現在時制

第 6 回　第２章　時制②
過去時制

第 7 回　第２章　時制③
完了時制

第 8 回　第３章　助動詞①
・基本用法
・助動詞の種類①

第 9 回　第３章　助動詞②
助動詞の種類②

第 10 回　第４章　受動態①
・能動態と受動態
・受動態の基本形

第 11 回　第４章　受動態②
・受動態の様々な形式
・受動態の否定文・疑問文

第 12 回　第５章　仮定法①
直接法と仮定法

第 13 回　第５章　仮定法②
・仮定法過去
・仮定法過去完了

第 14 回　前期授業のまとめ

第 15 回　定期考査

〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験
〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」（旺文社）
その他、必要に応じてプリント等を配布します。

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の20分間
場所：教室または講師控室

英語Ⅰ【再履修】

1507
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
野島　　晃子

〔到達目標〕
１．基本的な単語、熟語を身につける。
２．基礎的な英文の構造を理解し、応用できるようにする。
３．日常会話程度のリスニング力を身につける。
〔授業の概要〕
英語の基本文型などを授業毎に提示する。解説を理解したうえで問題を解き基礎固めをする。
各回の授業内容に関連する文法事項や練習問題を含んだプリントを配布して進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内容（語彙や会話文）を復習し、定着させる。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・英語の基礎
授業の進め方についての説明をおこない、英語の基礎の「基礎」の復習を兼ねて問題を解く。
第 2 回　be動詞
be動詞の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 3 回　一般動詞
一般動詞の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 4 回　現在形
現在形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 5 回　過去形
過去形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 6 回　未来表現
未来表現の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
小テストの実施
第 7 回　助動詞①
助動詞canの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 8 回　助動詞②
助動詞mustの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 9 回　助動詞③
助動詞shouldの習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 10 回　現在進行形
現在進行形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 11 回　現在完了形
現在完了形の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 12 回　疑問文①
Yes/Noで答えられる疑問文の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
小テスト実施
第 13 回　疑問文②
疑問詞を使った疑問文の習得。基本問題→応用問題→リスニング問題
第 14 回　これまでの振り返り①
第1回から第15回までに習得した内容の総復習
第 15 回　最終試験
期末試験に相当する試験を実施する
〔成績評価〕
毎回の課題の提出（30%）
小テスト（20%）
定期試験（50%）
〔教科書〕
配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。
〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日

英語Ⅰ⑦

1508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
野島　　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら単語や熟語の知識を増やすことができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。
〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。
〔授業計画〕
第 1 回　Orientation, Unit 1: Welcome to L.A.
・授業方針、目標、内容、評価方法、履修にあたっての注意事項などについて説明する。
・教員およびクラスメイト同士での簡単な自己紹介をする。
・テキスト Unit 1: be動詞
第 2 回　Unit 2: I love fruit!
テキスト Unit 2: 可算名詞／不可算名詞
第 3 回　Unit 3: Campus Life
テキスト　Unit 3: 一般動詞（現在時制）
第 4 回　Unit 4: Lunchtime
テキスト　Unit 4: 代名詞
第 5 回　Unit 5: First Date
テキスト　Unit 5: 一般動詞（過去時制）
第 6 回　Unit 6: Where’s Linda?
テキスト　Unit 6: 進行形
第 7 回　Unit 7: Andy’s News
テキスト　Unit 7: will / be going to
第 8 回　Unit 8: Shopping in Santa Monica
テキスト　Unit 8: 助動詞
第 9 回　Unit 9: Moving Day
テキスト　Unit 9: 前置詞
第 10 回　Unit 10: A Beautiful View
テキスト　Unit 10: 現在完了
第 11 回　Unit 11: Sunday Fun
テキスト　Unit 11: 比較
第 12 回　Unit 12: Seeing Stars
テキスト　Unit 12: WH疑問文
第 13 回　Unit 13: Buying Food for a BBQ
テキスト　Unit 13: 動名詞／不定詞
第 14 回　Unit 14: Putting on a New Face, Unit 15: Nice Surprises
テキスト　Unit 14: 接続詞
テキスト　Unit 15: 受動態
第 15 回　End-of-term Exam
前期期末試験
〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　50%
・定期試験　50%
〔教科書〕
『We Love L.A.』Robert Hickling and Misato Usukura, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4049-5
〔参考文献〕
必要に応じて適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

英語Ⅰ⑧

1509
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
杉島　未来

〔到達目標〕
中学生レベルの基本的な英語の知識を再確認しながら、英語抜きでは成り立たない、私たちの身の回りで接する英語への興味を高め、自信をつける。
英語の基礎的な問題を解くことで理解を深め、知識を蓄積することができ、なおかつその知識を運用して考える力、思考力や表現力をつけることもできる。最初から簡単にはできないであろうが、思考力・表現力を必要とする問題を自ら回答していくことにより、じっくり問題と向き合って、自分で考え、自分の力で解けたときの高揚感や達成感を経験することにより、各自英語への自信が持てるようになる。
〔授業の概要〕
日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習・復習課題を出します。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（授業概要・単位取得・自己紹介）
第 2 回　インタラクティブ自己紹介 FB based on T'sComment
第 3 回　Nice to Meet You
第 4 回　This Is My Friend
第 5 回　Where Do People Hang Out?
第 6 回　I Went to That Place
第 7 回　I Have a Question
第 8 回　Would It Be Possible to Study This?
第 9 回　I Have to Miss Next Class
第 10 回　What Are You Doing on Sunday?
第 11 回　What Should We Get?
第 12 回　Yeah, I'll Give You That
第 13 回　Come On! I'll Help You
第 14 回　What Should We Do?
第 15 回　Preparation for Term Final Exam
〔成績評価〕
評価方法および評価の割合を明記すること
出席点は入れないこと

出席状況・出席重視・出席回数を加味する表記は避けること

〔教科書〕

Encounters on Campus

〔参考文献〕

学研パーフェクトコース　中学英語

Basic College English

学習指導要領 他適宜紹介

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

授業時間内

英語Ⅰ⑨

1510
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
成田　沙央子

〔到達目標〕

基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分をしっかりと作りあげる。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。

〔授業の概要〕

問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎回課題を提出する。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション・Unit1
　　一般動詞とbe動詞（現在形）（１）
第 2 回　Unit1
　　一般動詞とbe動詞（現在形）（２）
第 3 回　Unit1
　　一般動詞とbe動詞（現在形）（３）
第 4 回　Unit2
　　一般動詞とbe動詞（過去形）（１）
第 5 回　Unit2
　　一般動詞とbe動詞（過去形）（２）
第 6 回　Unit2
　　一般動詞とbe動詞（過去形）（３）
第 7 回　Unit3
　　疑問文（１）
第 8 回　Unit3
　　疑問文（２）
第 9 回　Unit3
　　疑問文（３）
第 10 回　Unit4
　　否定文（１）
第 11 回　Unit4
　　否定文（２）
第 12 回　Unit４
　　否定文（３）
第 13 回　Unit１・２
　　復習・問題演習
第 14 回　Unit３・４
　　復習・問題演習
第 15 回　復習テスト

〔成績評価〕

授業内評価 60%

学期末テスト40%

〔教科書〕

Laugh and Learn: Back to the Basics（南雲堂）

〔参考文献〕

適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜12:10~15:30

英語Ⅰ⑩

1511
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕

様々な英語表現に触れることによって大学生にふさわしい知識と教養を身につけ、英語の持つ特徴を知り英語を母国語とする人々の文化や考え方を理解できるようになる。

〔授業の概要〕

多様な視点から英語にアプローチし、言葉を通して英語圏の文化を知る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学習内容を復習し、毎回課題を提出する。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方や評価の方法について説明する。
第 2 回　辞書に親しむ
　　辞書の引き方や読み方を知る。また、内容と関連した文法を学習する。
第 3 回　"Look Out!" ①
　　イディオムについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 4 回　"Look Out!" ②
　　イディオムについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 5 回　You Are My Sunshine ①
　　アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。

第 6 回　You Are My Sunshine ②
アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。
第 7 回　You Are My Sunshine ③
アメリカのカントリー・ウェスタン "You Are My Sunshine"を素材とした文法学習を行う。
第 8 回　Riddles
英語のなぞなぞを考えることにより、英語という言語の持つ特徴を知る。また、内容と関連した文法を学習する。
第 9 回　コンテクスト
文脈に合わせて柔軟に単語の意味を解釈できる力を養う。また、内容と関連した文法を学習する。
第 10 回　翻訳への第一歩
英文解釈について考え、実践する。また、内容と関連した文法を学習する。
第 11 回　英作文への第一歩
和文英訳について考え、実践する。また、内容と関連した文法を学習する。
第 12 回　同一語の反復を避ける
英文中の言い換えについて学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 13 回　Charmingの本来の意味
自動詞と他動詞の区別について学ぶ。また、内容と関連した文法を学習する。
第 14 回　まとめ①
これまでの学習事項を振り返る。
第 15 回　まとめ②
これまでの学習事項を振り返る。

〔成績評価〕
毎回の提出物　100%

〔教科書〕
行方昭夫『ユニーク英語講座―英語の根幹―』音羽書房鶴見書店

〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyのメッセージ機能で受け付ける。

アーツマネジメント

1811
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
井村　薫子

〔到達目標〕
アーツマネジメントの概念を説明できるようになる。社会の仕組みの中でのアーツマネジャーの存在を関係づけられるようになる。プロジェクトのシュミレーションをプレゼンテーションができるようになる。

〔授業の概要〕
アーツマネジメント論の概念とその成功例を学び、その手法と社会の仕組みとの兼ね合いを考察する。興味のあるテーマを選び、どのようにプロジェクトとして成功させることができるかを資料をやデータを収集して、シュミレーションし、プレゼンテーションする。他の学生の発表について、全員で論議する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
資料やデータを読む
個々のテーマに沿ったプレゼンテーションの準備をする

〔授業計画〕
第 1 回　アーツマネジメント論　入門
アーツマネジメントの歴史と概念。
第 2 回　アーツマネジメントの成功例
アーツマネジメント学会の資料などから実例をみる。
第 3 回　アーツマネジメント学　1
小暮氏の「アーツマネジメント学」より、様々な側面からの理論を学ぶ。
第 4 回　アーツマネジメント学　2
小林氏著「芸能と経営」より、手法と公的機関からの援助の求め方の実例を学ぶ。
第 5 回　アーツマネジメント学　3
その他の「アーツマネジメント学」の理論。
第 6 回　アーツマネジメント学　4
欧米や日本でのアーツマネジメントの実際について。
第 7 回　個々のテーマを選ぶ
個々の興味のあるテーマを選ぶ。テーマの選び方について。
第 8 回　プロジェクトスタディーの準備の仕方
プロジェクトスタディーに向けての準備の方法を学ぶ。
第 9 回　資料の作り方
資料やデータの作成方法について。
第 10 回　資料作成と経過報告
個々（もしくはチーム）のテーマについて収集した資料を発表する。
第 11 回　中間発表
中間発表と質疑応答。
第 12 回　プレゼンテーション準備

中間発表の結果を踏まえてグループにて話し合う。
第 13 回　改善案の提案
お互いのプロジェクトについての改善・補足すべきところについて議論する。
第 14 回　プロジェクト発表
各グループのプロジェクト発表と質疑応答。
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
提出物４０％、プレゼンテーション６０％
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
芸能と経営　小林進著
アーツマネジメント学（水曜社）
アーツマネジメント（放送大学教育振興会）
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13：00～16：00、水曜日：13：00～16：00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします

演劇Ⅱ-1

1910
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
谷　えりか

〔到達目標〕
・演劇の応用トレーニングを実践するこよにより、パフォーマンスの幅を広げる
・想像力や柔軟な対応力を磨く
〔授業の概要〕
・体を使った声の出し方と息のコントロール
・声と動きでの表現
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・トレーニングメニューの復習をしておくこと
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
自己紹介及び事業計画の説明
第 2 回　基礎及び応用トレーニングを覚える
呼吸・開口・発声のトレーニング方法と、応用トレーニングメニューのルーティンを覚え実践する
第 3 回　基礎トレーニング及び朗読①
詩を読む
第 4 回　基礎トレーニング及び朗読②
物語を読む
第 5 回　基礎トレーニング及びナレーション
説明文読む
第 6 回　基礎トレーニング及びリポート①
提示したテーマについてリサーチし内容をまとめる
第 7 回　基礎トレーニング及びリポート②
まとめた内容についてリポート発表し意見交換を行う
第 8 回　基礎トレーニング及びマイム①
表現と動きでシチュエーションを体現する
第 9 回　基礎トレーニング及びマイム②
表現と動きで新たなシチュエーションを体現する
第 10 回　基礎トレーニング及び自然な動作①
日常の動作を用いて表現トレーニングを行う
第 11 回　基礎トレーニング及び自然な動作②
喜怒哀楽の表現及び体現トレーニングを行う
第 12 回　基礎トレーニング及びエチュード①
台詞と動きで即座にパフォーマンスする
第 13 回　基礎トレーニング及びエチュード②
新たなテーマの台詞と動きで即座にパフォーマンスする
第 14 回　定期試験用の課題パフォーマンスを覚える
試験課題のパフォーマンスを覚える
第 15 回　まとめ
総復習
〔成績評価〕
授業態度・意欲（70%）
定期試験（30%）
〔教科書〕
必要時、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
希望日時を応相談

ジャズ（int.）Ⅰ-1

1935
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
加藤　雅子

〔到達目標〕
フリースタイルジャズを学ぶ。
Jazzに必要な身体の使い方、Streetに必要な身体の使い方、リズム感を身につける。
前期、後期で１作品を完成させ、最終的には卒業公演へ出展する。
前期後期共に履修する事が望ましいが、今後履修が厳しそうと個人で判断した場合は途中辞退も可能とする。
〔授業の概要〕
Jazz、ストリートのベーシック習得。
作品の振り付け、構成の習得、毎回の復習、それを披露する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業の復習、自主練習 90分
〔授業計画〕
第 1 回　身体づくりを中心に学ぶ
　　基礎トレーニング 身体作りを中心に学ぶ
　　振り付けを学ぶ
第 2 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 3 回　作品を覚える
　　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 4 回　作品を覚える
　　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 5 回　作品を覚える
　　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 6 回　作品を覚える
　　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 7 回　作品を覚える
　　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 8 回　作品を覚える
　　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 9 回　作品を覚える
　　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 10 回　作品を覚える
　　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 11 回　作品構成覚える
　　作品の構成を中心に覚える
第 12 回　作品構成を覚える
　　作品の構成を中心に覚える
第 13 回　作品を全ておさらい確認
　　最初から全て確認おさらい
第 14 回　作品踊り込み
　　出来ている所まで全て踊り込み
第 15 回　まとめ
　　総復習
〔成績評価〕
授業態度50%、技術力50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
いつでも受付ます

ジャズ（beg.） I

1936
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
中村　友理

〔到達目標〕
ジャズダンスの基礎を習得する
〔授業の概要〕
・柔軟性のある身体づくりの為のストレッチ
・身体の軸をつくる為のプリエ
・ジャズダンスの基本的テクニック
・振付の中で、振り覚えや表現力を養う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業で学んだ事を復習しておく（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　基礎の習得?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、パッセ、振り
第 2 回　基礎の習得?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、パッセ、シェネ、振り
第 3 回　基礎のブラッシュアップ?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、振り
第 4 回　基礎のブラッシュアップ?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右）、振り
第 5 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右・左）、振り
第 6 回　少しづつ難易度を上げたテクニックにトライする?
　　ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右・左）、パドブレ、振り
第 7 回　複合的なテクニックの習得を目指す?
　　ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、振り
第 8 回　複合的なテクニックの習得を目指す?
　　ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右）、振り
第 9 回　左右共、身体技術表現ができるよう練習する?
　　ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、振り
第 10 回　左右共、身体技術表現ができるよう練習する?

ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左)、ジュッテ、振り
第 11 回　コンビネーションの難易度を少しづつ上げる?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左)、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 12 回　コンビネーションの難易度を少しづつ上げる?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左)、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 13 回　発表に向けて、同レベルのコンビネーションにトライする
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左)、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 14 回　発表の振りわたし
ストレッチ、プリエ、発表の振りわたし
第 15 回　発表
ストレッチ、発表

〔成績評価〕
テクニックの習得度（50%）・表現力（50%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
／

ジャズ（int.）Ⅱ-1

1937
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
加藤　雅子

〔到達目標〕
フリースタイルジャズを学ぶ。
Jazzに必要な身体の使い方、Streetに必要な身体の使い方、リズム感を身につける。
前期、後期で１作品を完成させ、最終的には卒業公演へ出展する。
前期後期共に履修する事が望ましいが、今後履修が厳しそうと個人で判断した場合は途中辞退も可能とする。
〔授業の概要〕
Jazz、ストリートのベーシック習得。
作品の振り付け、構成の習得、毎回の復習、それを披露する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
毎回の授業の復習、自主練習 90分
〔授業計画〕
第 1 回　身体づくりを中心に学ぶ
基礎トレーニング 身体作りを中心に学ぶ
振り付けを学ぶ
第 2 回　前回のおさらい
作品の振り付けを覚える
第 3 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 4 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 5 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 6 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 7 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 8 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 9 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 10 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 11 回　作品構成覚える
作品の構成を中心に覚える
第 12 回　作品構成覚える
作品の構成を中心に覚える
第 13 回　作品を全ておさらい確認
最初から全て確認おさらい
第 14 回　試験用コンビネーションの踊りこみ?
試験用振り付け 振付全て覚える
第 15 回　まとめ
総復習
〔成績評価〕
授業態度50%、技術力50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
いつでも受付ます

ジャズ（beg.） Ⅱ-1

1938
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
中村　友理

〔到達目標〕
ジャズダンスの基礎を習得する
〔授業の概要〕
・柔軟性のある身体づくりの為のストレッチ
・身体の軸をつくる為のプリエ
・ジャズダンスの基本的テクニック
・振付の中で、振り覚えや表現力を養う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業で学んだ事を復習しておく（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　基礎の習得?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、パッセ、振り
第 2 回　基礎の習得?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、パッセ、シェネ、振り
第 3 回　基礎のブラッシュアップ?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、振り
第 4 回　基礎のブラッシュアップ?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右）、振り
第 5 回　少しづつ難易度を上げたテクニックにトライする?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右・左）、振り
第 6 回　少しづつ難易度を上げたテクニックにトライする?
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右・左）、パドブレ、振り
第 7 回　複合的なテクニックの習得を目指す?
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、振り
第 8 回　複合的なテクニックの習得を目指す?
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右）、振り
第 9 回　左右共、身体技術表現ができるよう練習する?
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、振り
第 10 回　左右共、身体技術表現ができるよう練習する?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、ジュッテ、振り
第 11 回　コンビネーションの難易度を少しづつ上げる?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 12 回　コンビネーションの難易度を少しづつ上げる?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 13 回　発表に向けて、同レベルのコンビネーションにトライする
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 14 回　発表の振りわたし
ストレッチ、プリエ、発表の振りわたし
第 15 回　発表
ストレッチ、発表
〔成績評価〕
テクニックの習得度（50%）・表現力（50%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
／

ジャズ（int.） Ⅲ-1

1939
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
加藤　雅子

〔到達目標〕
フリースタイルジャズを学ぶ。
Jazzに必要な身体の使い方、Streetに必要な身体の使い方、リズム感を身につける。
前期、後期で1作品を完成させ、最終的には卒業公演へ出展する。
前期後期共に履修する事が望ましいが、今後履修が厳しそうと個人で判断した場合は途中辞退も可能とする。
〔授業の概要〕
Jazz、ストリートのベーシック習得。
作品の振り付け、構成の習得、毎回の復習、それを披露する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業の復習、自主練習 90分
〔授業計画〕
第 1 回　身体づくりを中心に学ぶ
　　基礎トレーニング 身体作りを中心に学ぶ
　　振り付けを学ぶ
第 2 回　前回のおさらい
　　作品の振り付けを覚える
第 3 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 4 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 5 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 6 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 7 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 8 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 9 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 10 回　作品を覚える
　　作品の振り付けを覚える
第 11 回　作品構成覚える
　　作品の構成を中心に覚える
第 12 回　作品構成覚える
　　作品の構成を中心に覚える
第 13 回　作品を全ておさらい確認
　　最初から全て確認おさらい
第 14 回　作品踊り込み
　　出来ている所まで全て踊り込み
第 15 回　まとめ
　　総復習
〔成績評価〕
授業態度50%、技術力50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
いつでも受付ます

ジャズ（beg.）Ⅳ-1

1940
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
中村　友理

〔到達目標〕
ジャズダンスの基礎を習得する
〔授業の概要〕
・柔軟性のある身体づくりの為のストレッチ
・身体の軸をつくる為のプリエ
・ジャズダンスの基本的テクニック
・振付の中で、振り覚えや表現力を養う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業で学んだ事を復習しておく（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　基礎の習得?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、パッセ、振り
第 2 回　基礎の習得?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、パッセ、シェネ、
　　振り
第 3 回　基礎のブラッシュアップ?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、振り
第 4 回　基礎のブラッシュアップ?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右）、振り
第 5 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする?
　　ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右・左）、振り
第 6 回　少しづつ難易度を上げたテクニックにトライする?
　　ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右・左）、パドブレ、振り
第 7 回　複合的なテクニックの習得を目指す?
　　ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、振り
第 8 回　複合的なテクニックの習得を目指す?
　　ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右）、振り
第 9 回　左右共、身体技術表現ができるよう練習する?
　　ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、振り

第 10 回　左右共、身体技術表現ができるよう練習する?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左)、ジュッテ、振り
第 11 回　コンビネーションの難易度を少しづつ上げる?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左)、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 12 回　コンビネーションの難易度を少しづつ上げる?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左)、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 13 回　発表に向けて、同レベルのコンビネーションにトライする
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左)、ジュッテ、インサイドターン、振り
第 14 回　発表の振りわたし
ストレッチ、プリエ、発表の振りわたし
第 15 回　発表
ストレッチ、発表

〔成績評価〕
テクニックの習得度（50%）・表現力（50%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
／

ジャズ（int.）Ⅳ-1

1941
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
加藤　雅子

〔到達目標〕
フリースタイルジャズを学ぶ。
Jazzに必要な身体の使い方、Streetに必要な身体の使い方、リズム感を身につける。
前期、後期で１作品を完成させ、最終的には卒業公演へ出展する。
前期後期共に履修する事が望ましいが、今後履修が厳しそうと個人で判断した場合は途中辞退も可能とする。

〔授業の概要〕
Jazz、ストリートのベーシック習得。
作品の振り付け、構成の習得、毎回の復習、それを披露する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
毎回の授業の復習、自主練習 90分
〔授業計画〕
第 1 回　身体づくりを中心に学ぶ
基礎トレーニング 身体作りを中心に学ぶ
振り付けを学ぶ
第 2 回　前回のおさらい
作品の振り付けを覚える
第 3 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 4 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 5 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 6 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 7 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 8 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 9 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 10 回　作品を覚える
作品の振り付けを覚える
第 11 回　作品構成覚える
作品の構成を中心に覚える
第 12 回　作品構成覚える
作品の構成を中心に覚える
第 13 回　作品を全ておさらい確認
最初から全て確認おさらい
第 14 回　作品を全ておさらい確認
最初から全て確認おさらい
第 15 回　まとめ
総復習

〔成績評価〕
授業態度50%、技術力50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
いつでも受付ます

ダンス表現Ⅰ（ロック）(beg)

1942
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
戸嶋　雄二

〔到達目標〕
・LOCKに必要な基本的なリズム取り、技を身に付ける。
・LOCKを中心に音楽への様々なアプローチを表現する。
〔授業の概要〕
ウォームアップも兼ね、筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニングでLOCKに必要な体作りをし、その日のルーティンで成果を発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
２週でルーティンを完成させるため、次週までに前回のルーティンの復習。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の流れについての説明。
第 2 回　ルーティン①前半（ロック、ポイント、クラップなどを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ロック、ポイント、クラップなどを中心に、ルーティン①に取り組む。
第 3 回　ルーティン①後半（ステップを混ぜ、ロック、ポイント、クラップなどを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、それにステップを混ぜた応用として続きを行う。
第 4 回　ルーティン②前半（クロスハンドを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・クロスハンドを中心に、ルーティン②に取り組む。
第 5 回　ルーティン②後半（ストップ＆ゴーを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ストップ＆ゴーを中心に続きを行う。
第 6 回　ルーティン③前半（ウィッチアウェイを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ウィッチアウェイを中心に、ルーティン③に取り組む。
第 7 回　ルーティン③後半（スクーバーを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、スクーバーを中心に続きを行う。
第 8 回　ルーティン④前半（スキーターラビットを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・スキーターラビットを中心に、ルーティン④に取り組む。
第 9 回　ルーティン④後半（ロックステディを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ロックステディを中心に続きを行う。
・中間発表についての説明。
第 10 回　中間発表
自分たちでルーティンを考え、作品を作る。
第 11 回　ルーティン⑤前半（フロアームーブを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・フロアームーブを中心に、ルーティン⑤に取り組む。
第 12 回　ルーティン⑤後半（キックウォークを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、キックウォークを中心に続きを行う。
第 13 回　ルーティン⑥前半（ベビーシッターを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ベビーシッターを中心に、ルーティン⑥に取り組む。
第 14 回　ルーティン⑥後半（ソウルステップを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ソウルステップを中心に続きを行う。
・総合発表についての説明。
第 15 回　総合発表
自分たちでルーティン、構成を考え、作品を作る。
〔成績評価〕
授業態度・意欲（６０％）
スキルアップ度（４０％）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業終了後

ロックⅡ-1（Beg）

1943
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
戸嶋　雄二

〔到達目標〕
・LOCKに必要な基本的なリズム取り、技を身に付ける。
・LOCKを中心に音楽への様々なアプローチを表現する。
〔授業の概要〕
ウォームアップも兼ね、筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニングでLOCKに必要な体作りをし、その日のルーティンで成果を発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
２週でルーティンを完成させるため、次週までに前回のルーティンの復習。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の流れについての説明。
第 2 回　ルーティン①前半（ロック、ポイント、クラップなどを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ロック、ポイント、クラップなどを中心に、ルーティン①に取り組む。
第 3 回　ルーティン①後半（ステップを混ぜ、ロック、ポイント、クラップなどを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、それにステップを混ぜた応用として続きを行う。
第 4 回　ルーティン②前半（クロスハンドを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・クロスハンドを中心に、ルーティン②に取り組む。
第 5 回　ルーティン②後半（ストップ＆ゴーを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ストップ＆ゴーを中心に続きを行う。
第 6 回　ルーティン③前半（ウィッチアウェイを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ウィッチアウェイを中心に、ルーティン③に取り組む。
第 7 回　ルーティン③後半（スクーバーを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、スクーバーを中心に続きを行う。
第 8 回　ルーティン④前半（スキーターラビットを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・スキーターラビットを中心に、ルーティン④に取り組む。
第 9 回　ルーティン④後半（ロックステディを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ロックステディを中心に続きを行う。
・中間発表についての説明。
第 10 回　中間発表
自分たちでルーティンを考え、作品を作る。
第 11 回　ルーティン⑤前半（フロアームーブを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・フロアームーブを中心に、ルーティン⑤に取り組む。
第 12 回　ルーティン⑤後半（キックウォークを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、キックウォークを中心に続きを行う。
第 13 回　ルーティン⑥前半（ベビーシッターを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ベビーシッターを中心に、ルーティン⑥に取り組む。
第 14 回　ルーティン⑥後半（ソウルステップを中心に。）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ソウルステップを中心に続きを行う。
・総合発表についての説明。
第 15 回　総合発表
自分たちでルーティン、構成を考え、作品を作る。
〔成績評価〕
授業態度・意欲（６０％）
スキルアップ度（４０％）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業終了後

学校安全及び救急法

1992
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
伊藤　　武徳

〔到達目標〕
①学校安全や危機管理についての基本的事項を理解することができる。
②安全学習・指導の展開が出来るようになる。
③危機対応（リスク・マネージメント）能力の基本的な姿勢を修得することができる。
④救急処置に対する日頃の関心、心構えや実践の能力を高める。

〔授業の概要〕
①事例や情報を用いながら、学校での安全教育のための知識と技能を身に付けるための講義を行う。
②内容により討論形式(グループ学習)で行う。
③救急処置の基礎的知識や具体的な方法について概説し、実際の救急処置の事例を紹介する
。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
＜予習＞日ごろから新聞・ニュースを通じて「学校安全と危機管理」に関わる情報の収集に努めること。(毎回２時間)
＜復習＞講義内での、技能のスキルアップのための実践的練習を行う。(毎回２時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　ガイドラインの概要説明を行う。
第 2 回　学校安全の概念
　　概念の概要と解説を行う。
第 3 回　学校安全の領域
　　領域の概要と解説を行う。
第 4 回　学校安全の事例紹介と解説
　　事例の紹介と解説を行う。
第 5 回　＜防犯・防災＞安全教育の展開
　　防犯・防災を通して、安全教育の展開の概要と説明を行う。
第 6 回　＜外傷予防＞安全教育の展開
　　外傷予防を通して、安全教育の展開の概要と説明を行う。
第 7 回　＜交通安全＞安全教育の展開
　　交通安全を通して、安全教育の展開の概要と説明を行う。
第 8 回　附属池田小学校事件の概要
　　事件の概要と説明を行う。
第 9 回　学校の危機管理体制
　　危機管理体制の概要と説明。
第 10 回　事件・事故発生時の対応
　　学校における対応の説明を行う。
第 11 回　救急処置
　　救急処置の概要と説明を行う。
第 12 回　心肺蘇生、AED
　　心肺蘇生法・AEDの使用法を解説する。
第 13 回　熱中症
　　熱中症の分類と対応を解説する。
第 14 回　食中毒に対する処置
　　食中毒の概要と処置の説明(ノロウイルスに対する対応含む)
第 15 回　まとめ
　　前期のまとめ

〔成績評価〕
授業への取り組み・態度　　20点
課題レポート　　40点
テストレポート　　40点
※レポートについては評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（平成31年３月31日　改訂２版発行　文部科学省）

〔参考文献〕
文部科学省　学校安全: https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1289303.htm
小山健蔵・藤田大輔・白石龍生・大道乃里江「教師のための学校安全 -改訂版-」 学習研究社、2014

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)、中一種（保健体育)、高一種（保健体育)、選択

〔オフィスアワー〕
水曜日12:10～13:10　事前予約をお願いします。メール tito@ashiya-u.ac.jp。

体育実技Ａ(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ)男子①

1993
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有
番平　　守

〔到達目標〕
１）バレーボール競技を通して、ネット型ゲームの理論を説明することができる。
2）ゲーム実践に求められ得る個人の基礎技能の習得および仲間との協力関係における集団技能の習得、そして円滑なゲーム運営に関する審判法を身に付けることができる。
3）バレーボール競技の特性を理解しながら、自らがバレーボール競技の楽しさについて触れる機会を増やし、自発的に学習に取り組むことができる。

〔授業の概要〕
双方向型学習及びPBL(課題解決型学習)を取り入れた授業展開をおこない、バレーボールの基本技術習得の基礎練習法及びゲームを通じての練習方式を学ぶ。

また、コートの設営方法やゲームの企画・運営力及び審判法の理解を深め専門知識の習得を図る。
※ホイッスルを準備すること
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：次回の実技課題を確認し、事前にルールブック(ルールとシグナル)を熟読すること。(2時間)
復習：バレーの特性を理解するために、積極的にバレーボールゲームの観戦及び審判のジャッジに注目する。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、評価、注意事項
第 2 回　バレーボールの歴史と発展
　　歴史的側面からバレーボール競技の特徴を理解する
第 3 回　基礎技能の理解と習得①
　　コートづくり ボールハンドリング
第 4 回　基礎技能の理解と習得②
　　パス技術の獲得とその練習法①
第 5 回　基礎技能の理解と習得③
　　パス技術の獲得とその練習法②
　　簡単なパスゲーム
第 6 回　基礎技能の理解と習得④
　　パス技術の練習と指導法
第 7 回　基礎技能の理解と習得⑤
　　サーブ技術の獲得とその練習法
　　簡易ゲーム
第 8 回　基礎技能の理解と習得⑥
　　サーブレシーブ技術の獲得とその練習法・指導法
第 9 回　基礎技能の理解と習得⑦
　　スパイク技術の獲得とその練習法
第 10 回　基礎技能の理解と習得⑧
　　スパイク技術の獲得とその練習法
　　簡易ゲーム
第 11 回　基礎技能の理解と習得⑨
　　レシーブとトス技術の獲得とその練習法
第 12 回　基礎技能の理解と習得⑩
　　スパイクレシーブとブロック技術の獲得とその練習法
第 13 回　運営計画と審判技術の獲得
　　主審・副審・線審の役割
第 14 回　大会運営の実際（戦術と戦略）
　　グループによる試合及び試合運営
第 15 回　実技テスト
　　スキルテスト及びレポート課題
〔成績評価〕
・授業態度による評価 50%
・実技テスト　30%
・レポート課題 20%
〔教科書〕
・文部科学省 学習指導要領
・文部科学省 学習指導要領
・バレーボール 6 人制競技規則(ルールブック)の購入が望ましい
〔参考文献〕
「わかりやすいバレーボールのルール」(成美堂出版)
「バレーボール6人制競技規則」(財団法人日本バレーボール協会)
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
企業チームでのコーチ経験を活かし、体育教員としてのコーチング（方法論）やバレーボールにおける理論や技術・戦術、指導方法に関する講義を行う。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日：11:30〜13:30
③場所：体育準備室(福山記念館 1 階　入り口左側)
④連絡先：メール(bandaira@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

学校保健

1995
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
山田　浩平

〔到達目標〕
学校の教員として必要な、健康・保健教育の基礎的な知識の習得。また、健康・保健教育と学校保健活動の実際を知ることからそれらの関係性を学
ぶ。
さらに「健康」というテーマから世の中の出来事への興味関心を強く待った大人に成長していくことを到達目標とする。
〔授業の概要〕
学校保健全般にわたる基礎知識を学ぶ。さらに現在小・中学校、高等学校で行われている学校保健活動の実例を知る。そして、学んだ知識を活用し「保健だよりの作成」や「健康観察や気づきの方法についての事例発表」を行う、さらにテーマ別のレポート作成と発表といった実践的な授業をめざす。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「保健便り」の作成資料の収集と下調べ等は授業時間外（およそ7週間）で行う。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　自己紹介、授業の心得と授業づくり、成績評価と授業評価、「学校保健」について
第 2 回　学校保健の構造
　　法的根拠―「学校保健安全法」等について。「生活習慣病と寿命」

第 3 回　学校における健康
近年の健康面に関する情報紹介「感染症」等
第 4 回　学校保健に関する組織の活動と役割
学校保健計画、学校保健委員会とは
第 5 回　学校保健の担当者（保健主事、養護教諭、学校三師)と役割
「学校における健康診断の意義」
第 6 回　観察実習の実施
「健康観察」と「健康相談」の実習
第 7 回　学校における健康問題について
「ストレスと心身相関」 、「ストレスチェックの一例」
第 8 回　学校における保健指導について
「薬物汚染、交通問題、エイズ」
第 9 回　学校における保健指導について
「保健だより」作成作業①。教育相談のあり方
第 10 回　学校における保健指導について
「保健だより」作成作業②。
第 11 回　学校における保健指導について
「保健だより」作成作業③。
第 12 回　学校における健康課題について
「学校給食と食育」「アナフラキシーと給食」
第 13 回　「学校給食と食育」についての発表
個人またはグループでのまとめを発表する
第 14 回　最近の学校における健康課題について
「学校環境衛生」、「突然死」
第 15 回　まとめ
授業のまとめと授業評価の実施　　テストについての説明

〔成績評価〕

① 定期試験（５０％）
② 授業や学習活動や課題への取組度（２０％）
③ 保健だより作成といった授業外課題への取組度（３０％）

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

最新学校保健安全ハンドブック（教育開発研究所版)。文部科学白書　文部科学省学習指導要領(中高保健)
「現代保健体育改訂版」大修館書店
新聞記事。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

授業終了時に教室もしくは講師控室まで来てください。

ダンス（教職）①

2000
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
実務経験有
磯貝　　康成

〔到達目標〕

本講義では、学校体育で取り扱うダンス領域の理解を深める。また、学習指導要領で取り上げられる内容に従事した講義内容で実施し、運動技能の向上も含めて身体表現について習得していくことを目標とする。

〔授業の概要〕

本講義では、ダンスの実技を通じて、様々な身体表現の仕方について学習していく。個人的な技能と合わせて、グループ学習を通じた他人とのコミュニケーションを深めつつ様々な表現技能を身に着ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

実技科目にふさわしい服装で受講すること。
準備運動をしっかりと行い、怪我がないように準備をしておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション
第 2 回　ダンスとリズム
リズムやテンポに合わせた身体活動について
第 3 回　ストレッチ講座
ストレッチングについて
第 4 回　リズムダンス①
第 5 回　リズムダンス②
第 6 回　リズムダンス③
第 7 回　リズムダンス④
第 8 回　学校教育とダンス
学校教育におけるダンスの必要性
第 9 回　創作ダンス①
ワークショップ
第 10 回　創作ダンス②
模倣
第 11 回　創作ダンス③
即興
第 12 回　創作ダンス④
ひとながれの動きづくり
第 13 回　創作ダンス⑤
作品づくり
第 14 回　創作ダンス⑥
群舞
第 15 回　まとめ
総括

〔成績評価〕

平常点　100点
【内訳】
・ノート提出　70点

・授業態度等　30点
※上記を踏まえ総合的に判断する。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
現場での実体験を踏まえた、実技指導においてのポイント、技の習得ができる実技授業の展開する。また民間企業、学校現場における今後の社会で求められる人物像、能力を伝えていき、学生の進路により幅広い考え方がもたらせられる指導をする。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②水曜10－13:40(後期は－11:30)、木曜10－11:30
③授業終了後、講義教室で対応
④isogai@ashiya.ac.jpおよびPhollyのメッセージにて対応
⑤特になし

レクリエーション概論

2002
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
西山　　清子

〔到達目標〕
レクリエーションの意義と効果を理解する。
多種多様なレクリエーションを学習し、コミュニケーション能力の向上に役立てる。
〔授業の概要〕
レクリエーションの意義を学びながらポジティブ思考を身に付けて自己肯定感の向上につなげていく。また、自分なりの気分転換の方法やストレス解消法を見つける。
自身の課題を見つけて解決できるように、毎授業後に振り返りシートを実施する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日常生活で心を動かされたニュースなどを調べておく。
日頃からポジティブ思考を心がけて生活する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業内容と受講態度の説明。
第 2 回　レクリエーションの基礎理論
　　レクリエーションとは何かについて。
第 3 回　レクリエーション運動の歴史
　　余暇とレクリエーションの違いについて。
　　日常生活に余暇を定着させる意味について。
第 4 回　余暇の役割
　　余暇の３機能と疲労回復の関係について。
第 5 回　過去の余暇と現代の余暇
　　余暇の考え方に違いについて学ぶ。
　　人生における余暇の役割について。
第 6 回　レクリエーションの4つの分類
　　多種多様なレクリエーション。
第 7 回　レクリエーション・ワーク
　　アイスブレーキング。
　　コミュニケーションが持つ役割。
第 8 回　レジャーとレクリエーション
　　レジャーとレクリエーションの違いについて理解し生活への取り入れ方について学ぶ。
第 9 回　生涯スポーツとレクリエーション
　　生涯スポーツについて理解する。また、レクリエーションとの関係について学ぶ。
第 10 回　レクリエーション支援
　　レクリエーション支援の目標を理解する。
第 11 回　レクリエーションの役割
　　教育現場におけるレクリエーションの意義と役割。
第 12 回　レクリエーションとスポーツ
　　スポーツの分類について。
第 13 回　レクリエーション支援者の役割
　　レクリエーション支援が持つ意義と活用方法。
第 14 回　レクリエーション・プログラム
　　A-PAEプロセスについて。また、レクリエーション・プログラムを作成する。
第 15 回　レクリエーションの活用方法
　　「気分転換」についてのグループワーク。
　　授業のまとめ。
〔成績評価〕
授業中の課題（20%）
提出物（１0%）
授業の取り組み（20%）
定期試験（50%）
〔教科書〕
特になし
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
「レクリエーション支援の基礎」日本レクリエーション協会編

〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択
〔オフィスアワー〕
火曜日授業終了後

体育実技Ｂ(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ) 男子①

2004
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有
別當　　和香

〔到達目標〕
1）バスケットボールの基礎技能、戦術の専門的知識を身に付け、実践することができる。

2）球技の特性を生かした学習指導法の探求及びルール・審判法を習得し、球技の指導実践に寄与することができる。
〔授業の概要〕
シュート、ハ?ス、ドリブルなどの個人的技能を高めるとともに、攻撃や防御の戦術をチームで工夫、 協力しておこなうことから、意図的に変化に富んだゲームを運営していくことに期待する。

◇受講要件◇
・実技科目にふさわしい服装で受講すること
・体育館では室内シューズを使用すること
・15分を過ぎての入室及び15分以上の退室は欠席扱いとする
・腕時計、ピアス等の着用禁止
・爪は短く、長い者はテーピングで保護する事
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
予習：技術的課題と戦術的課題を前もって確認しておくこと。(2時間)
復習：配布プリントの熟読と理解をおこない、ノートにまとめておくこと。
また、戦術ににについて各チームで次週に繋げられるグループワーク
をおこなうこと。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。
第 2 回　バスケットボールの基礎①
　　基本運動（特性を生かす準備運動と補強運動）と基本ルールの習得
第 3 回　バスケットボールの基礎②
　　基本技術（パス・ドリブル・シュート）の習得
第 4 回　審判法とゲームの基本理解
　　ルールの理解および審判法を知る
第 5 回　リーグ戦(1回目)
　　リーグ戦の運営方法を学ぶ。チームの戦力を把握する
第 6 回　パッシング・ゲームを作る①(ハーフコート3対3)
　　技術的課題 :キャッチングとピボットの基本
　　戦術的課題 :場所の優先順位を理解して攻撃する
第 7 回　パッシング・ゲームを作る②(ハーフコート3対3)
　　技術的課題 :ピボットを使ってボールを守る
　　戦術的課題 :空間へパスを送って攻撃する
第 8 回　パッシング・ゲームを作る③(ハーフコート3対3)
　　技術的課題 :各種パスを使い分ける
　　戦術的課題 :2人のコンビネーションプレーを使って攻撃する
第 9 回　パッシング・ゲームを作る④(ハーフ3対3→ハーフ5対5)
　　戦術的課題 :パスを自由自在に使い、攻撃する空間を創りながら攻撃を連続する
第 10 回　パッシング・ゲームを作る⑤(ハーフ5対5→オール5対5)
　　戦術的課題 :速攻とセットオフェンスを使い分ける
第 11 回　リーグ戦(2回目)
　　パスを効果的に使って戦う。チームの戦力向上度を評価する
第 12 回　攻撃にドリブルを加える1 (ハーフコート3対3)
　　技術的課題 : ドリブルペネトレーション
　　戦術的課題 :ドリブルを使うべき状況を理解して攻撃する
第 13 回　攻撃にドリブルを加える2 (オールコート5対5)
　　戦術的課題 :ドリブルとパスを効果的に使い分けて攻撃する

第 14 回　トーナメント戦
　　トーナメント戦の方法を知る。戦術課題評価
第 15 回　スキル評価
　　ボールハンドリング・ドリブル・パス・シュートスキルの評価
〔成績評価〕
≪配点内訳≫
・ノート提出 :20点　　・授業内レポート :20点
・スキルテストによる個人技術評価及びチーム戦術達成度評価 ：40点
・チーム勝敗成績評価　:20点
〔教科書〕
文部科学省 学習指導要領
〔参考文献〕
成美堂出版/「わかりやすいバスケットのルール」 日本バスケットボール協会/バスケットボール指導教本/大修館書店
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
部活動指導を通じて、専門的な技術・戦術の指導及び学校体育現場の球技に関する指導。また、保護者対応やコーチングに必要な知識や実践例の紹介を行う。
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30

③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

陸上競技①

2005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
石川　　峻

〔到達目標〕
１）自身の記録の向上や仲間との競争を楽しむことができる。
２）各種競技の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントを理解する。
３）基本的な動きや効率のよい動きを身につける。

〔授業の概要〕
陸上競技は、走・跳・投といった個人的な基本運動から構成されており、自己の能力を最大限に発揮し技能を高めることに楽しさを見いだすことが出来る。本講義では陸上競技の走種目・跳躍種目・投擲種目にかかわる技能の習得だけではなく測定方法やルール、技能構造などの知識についての理解を深める。また、グループで指導案を作成した後、ディスカッションを通してより良い指導法に関して考察していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業後のレポート作成（2時間）
指導案の作成（2時間）

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、短距離走、リレーの指導法解説
授業の概要や進め方、受講上の注意事項、評価方法等
短距離走、リレーの競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイント
第 2 回　短距離走①
スタートについて基本的な技能を身につける。
第 3 回　短距離走②
中間疾走について基本的な技能を身につける。
第 4 回　短距離走③
リレーの効率的なバトンパスについて基本的な技能を身につける。
第 5 回　短距離走のまとめ・ハードル走、長距離走の指導法解説
短距離の指導法についてディスカッションを通して考える。
ハードル走、長距離走の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントについて理解する。
第 6 回　ハードル走①
自分にあったインターバルを知り、リズミカルに走る技能を身につける。
第 7 回　ハードル走②
抜き足と振り上げ足の使い方を理解し、スムーズなハードリングについて基本的な技能を身につける。
第 8 回　長距離走①
リラックスして走れるフォームを身につける。
第 9 回　長距離走②
自分にあったペースを理解し、そのペースでの走り方を身につける。
第 10 回　長距離走のまとめ・跳躍、投擲の指導法解説
ハードル走、長距離走の指導法についてディスカッションを通して考える。
跳躍、投擲の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントについて理解する。
第 11 回　跳躍競技①
走り幅跳びにおいて踏み切り、着地の基本的な技能を身につける。
第 12 回　跳躍競技②
走り幅跳びおいて助走の基本的な技能を身につける。
第 13 回　投擲競技①
ターボジャブを前方にまっすぐ投げる技能を身につける。
第 14 回　投擲競技②
ターボジャブを短い助走から投げる技能を身につける。
第 15 回　跳躍、投擲のまとめ
跳躍、投擲の指導法についてディスカッションを通して考える。
まとめレポートを作成する。

〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　20%
技能評価　20%
授業内外レポート　40%
期末試験 20%

〔教科書〕
適宜プリントを配布する

〔参考文献〕
文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説（平成29年7月告示）保健体育編.
文部科学省（2018）高等学校学習指導要領解説（平成30年7月告示）保健体育編体育編.
小木曽一之ほか（2017）中学・高校　陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫. 道和書院.
日本陸上競技連盟 編（2018）中学校部活動における陸上競技指導の手引き.

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
水曜１限、２限

コーチング論

2008
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
別當　和香

〔到達目標〕
1）スポーツ指導についての、正しい知識と効果的な指導法を理解できる。
2）競技者育成の高度な知識やスポーツ競技力向上のためのトレーニング方法を説明できる。
3）競技力向上や健康体力づくりの指導現場で活かせるコーチング方法を身につけることができる。

〔授業の概要〕
選手の「やる気」を引き出し、目標達成に自ら進んで積極的に取り組むことができるようにするために、選手の意欲を掻き立てるためのより具体的なコミュニケーションスキルを双方向授業を活用し学習する。
また、選手が最高のパフォーマンスを発揮するために必要な指導計画や評価方法、勝つためのチームづくり、ITを利用したトレーニングに関する情報などの知見を深め、競技者の目標を達成するために求められるコーチングの知識や指導技術を学ぶ。
コーチング論を履修する学生は、後期にコーチング演習を履修することが望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：授業中に提示する次回の授業テーマについて事前に調べておくこと。(２時間)
復習：授業内容を自分の専門種目に置き換えてまとめ・復習しておくこと。(２時間)

〔授業計画〕
第 1 回　スポーツコーチングの理念
①スポーツ指導に対する心構え　②視点を変える，視点を増やす
③指示的行動（教える）と支援的行動（引き出す）の理解
第 2 回　スポーツコーチングの原則
①コーチの役割　②指導哲学の確立　③人格の指導
第 3 回　スポーツ指導者とは
①スポーツ指導者の必要性　②スポーツ指導における倫理観
③コーチに求められる知識とスキル（専門的知識・対他者の知識・対自己の知識）
第 4 回　指導者の行動の原則
①スポーツ指導と人権　②コーチ―のセルフマネジメント
②指導者として必要なコミュニケーションスキル(対他者理解の構築)
第 5 回　アスリート育成プログラムの理念
①世界を目指す競技者育成の重要性について
②日本における協議スポーツを取り巻く環境
第 6 回　アスリート育成プログラムの具体的指導法
①一貫指導システム　②指導者の役割と指導計画
③ネットワーク　④ゲーム形式のコーチング方法
第 7 回　ハイパフォーマンススポーツにおける今日的な指導法
①ハイパフォーマンススポーツの意味と本質　②今日的な指導法
第 8 回　スポーツ指導の方法と運動の評価について
スポーツ指導と評価の必要性
評価方法（診断的評価・形成的評価・総括的評価）
指導のあり方についての評価
第 9 回　コーチング環境の特徴と指導計画①
①ジュニア期・年齢区分からみたスポーツ指導の考え方と留意点
②トレーニングの至適年齢　③遺伝の影響
第 10 回　コーチング環境の特徴と指導計画②
①運動部活動におけるスポーツ指導の考え方と留意点
②中高年に対する運動指導　③性別の配慮について
第 11 回　時代をリードするコーチング
①女性スポーツ選手の身体的特徴に伴うスポーツ指導の考え方と留意点
②女性コーチの活躍とスポーツを通した女性の社会進出
第 12 回　スポーツ活動と安全管理
①スポーツにおける安全確保の知識　②施設・用具の点検
③スポーツ活動における安全確保のための具体的行動
④スポーツに関する保険制度
第 13 回　リスクのマネジメント①
スポーツ指導における法的義務と責任について
第 14 回　リスクのマネジメント②
スポーツ事故による指導者の法的責任について
第 15 回　競技力向上のための情報とその活用法
＜グループワーク＞
・情報の種類と収集方法
・情報の活用と取り扱いに関するモラルについて

〔成績評価〕
平常点等(100点)
≪配点内訳≫
グループワーク　：40点
小テスト課題　：10 点×3回
試験　：30点

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
伊藤 守 「コーチング・マネージメント」/Discover

〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

【実務経験の活用】
部活動指導を通じて、専門的な技術・戦術の指導及び学校体育現場の球技に関する指導。また、保護者対応やコーチングに必要な知識や実践例の紹介を行う。
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

ｽﾎﾟｰﾂ演習Ⅰ【卓球･ミニテニス】

2009
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
竹安　　知枝

〔到達目標〕
・卓球とミニテニスの基本的なルールや運動特性について説明できる。
・卓球とミニテニスの運動技能を修得し、積極的にスポーツに関わる。
・生涯スポーツに対して、興味・関心を示す。
〔授業の概要〕
　卓球とミニテニスのルールや運動特性について理解し、基本的なショットを習得する。そして、段階的に応用的なショットの技術も身に付け、授業の後半では、卓球やミニテニスのシングルスやダブルスの試合が行えるようにする。また、運動が心身に与える影響についてなど、グループごとにディスカッションをして、最後に発表を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
【予習】毎回、授業時間までにランニング・体操・素振り等を行う。また、ルールに関して確認しておくこと。（２時間）
【復習】実技内容を振り返り、苦手なショットについては練習を行うこと。そして、最後にクールダウン（ランニングやストレッチ体操）を念入りに行うこと。（２時間）
〔授業計画〕
第 1 回　授業の概要と評価について・卓球について
　①授業の概要と評価について
　②卓球の基本的なショットの名称と主なルール
第 2 回　フォアハンド・バックハンドの基本
　①フォアハンドとバックハンドのスイングの仕方
　②球出しによる基本練習
第 3 回　ラリー（基本ショット）・フットワーク（基本）
　①フットワークの基本
　②フォアハンド・バックハンドの球出し練習・ラリー練習
第 4 回　ラリー（打ち分け）・フットワーク（応用）
　①フォアハンド・バックハンドのコースの打ち分け（クロス・ストレート）
　②フットワーク（ダブルスでの動き方）
第 5 回　サーブ・レシーブ・スマッシュ
　①サーブとレシーブの基本練習
　②スマッシュの練習（球出しによる基本練習）
第 6 回　試合の形式練習（シングルス・ダブルス）
　①シングルスとダブルスのルール
　②試合の方法（ポイントの数え方・セットの考え方等）・試合の形式練習
第 7 回　試合（シングルス・ダブルス）
　①シングルスとダブルスの試合（１～２セット）
　②試合の振り返り
第 8 回　【ミニテニス】基本なショットとルール
　①基本的なショットの名称
　②主なルール・グリップの握り方（フォアハンドとバックハンド）
第 9 回　ストロークの基本
　①フォアハンドとバックハンドスイングの仕方
　②球出しによる基本練習・ラリー練習
第 10 回　フットワークとネットプレーの基本
　①フットワークの基本
　②ネットプレー（ボレー・スマッシュの球出し練習）
第 11 回　ストローク・シングルスの試合方法
　①フォアハンド・バックハンドのコースの打ち分け（クロス・ストレート）
　②シングルスの試合方法・形式練習（シングルス）
第 12 回　ダブルスの試合方法
　①サーブとレシーブの練習
　②ダブルスの試合方法・形式練習（ダブルス）
第 13 回　各ショットの復習とシングルスの試合
　②各ショットの復習（ストローク・サーブ・レシーブ・ボレー）
　③試合（シングルス）
第 14 回　ダブルスの試合
　①ダブルスの基本フォーメーション
　②試合（ダブルス）
第 15 回　実技の振り返り・ケガの予防と運動の重要性について
　①実技の振り返り（卓球・ミニテニス）
　②ケガの予防と運動の重要性・生涯スポーツについて
　（グループごとに意見を出し合い、発表を行う）
〔成績評価〕
実技試験（40%）
レポート試験（40%）
学習意欲・授業態度（20%）

〔教科書〕
【体育編】小学校学習指導要領解説（平成29年告示、文部科学省）
【保健体育編】中学校学校学習指導要領解説（平成29年告示、文部科学省）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択
〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日：16：00～17：00
【後期】月曜日：16：00～17：00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

水泳実習

2011
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
青木　敦英　金　相煥　西光　哲治　石川　峻　伊藤　武徳　武田　光平　別當　和香

〔到達目標〕
水泳における基本泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の技能習得だけでなく、水泳の安全に関わる救急法（一次救命処置）についても学習し、指導者としての資質の向上を目指す。
〔授業の概要〕
学外施設を使用し、個人のレベルに応じ班別で水泳の技能を習得する。また、マナー・ルール・傷害防止・安全への配慮といった水泳に関する知識を学習していくとともに、救急処置の方法について学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
集中講義のため全日程の出席が最低要件となる。実習前および実習期間中の健康管理には十分留意すること。
〔授業計画〕
第 1 回　事前授業①
　　実習の詳細、評価、内容について
第 2 回　事前授業②
　　水泳の特性と各種泳法の技能解説
第 3 回　事前授業③
　　学習指導要領における水泳の内容と指導法
第 4 回　実習①
　　・基本動作；伏し浮き、け伸び、バタ足など
第 5 回　実習②
　　・クロール；脚、腕のコンビネーション、呼吸法
第 6 回　実習③
　　・平泳ぎ；脚、腕のコンビネーション、呼吸法
第 7 回　実習④
　　・背泳ぎ；脚、腕のコンビネーション、呼吸法
第 8 回　実習⑤
　　・バタフライ；脚、腕のコンビネーション、呼吸法
第 9 回　実習⑥
　　・安全なスタート（飛び込み）とターン
第 10 回　実習⑦
　　・リレー（個人メドレー）
第 11 回　実習⑧
　　・リレー（メドレーリレー）
第 12 回　実習⑨
　　・泳法習得確認テスト
第 13 回　一次救命処置①
　　水の安全と一時救命処置の方法と理論
第 14 回　一次救命処置②
　　水の安全と一時救命処置の実習
第 15 回　事後指導
　　レポート作成「水泳の特性と期待できる教育効果について」
〔成績評価〕
授業への取り組む姿勢（50%）、水泳技能（30%）、レポート（20%）にて、総合的に判断する。
〔教科書〕
適宜、プリントを配布します。
〔参考文献〕
中学校学習指導要領解説　保健体育　文部科学省
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　文部科学省
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

中等教科教育法Ⅲ（保健 体育）

2013
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
青木　敦英

〔到達目標〕
本講義では、教育実習へ向けて体育だけでなく保健も取り上げて、教材研究および授業研究を行い、模擬授業を通してより「実践的な保健体育教師としての力量（指導力）」を高めることを目的とする。

〔授業の概要〕
中学校および高等学校における保健体育科の教員にとって、教科に関する知識や指導方法を学ぶことは必須である。本講義では、実際の指導から見えてくる問題を模擬授業から探り、保健体育科の実践的指導法について解説するものである。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
中等教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておくとともに、保健領域の知識を積極的に身につけようとする姿勢が求められる。中学校または高等学校で使用した保健（体育）の教科書を用意しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本講義の目的、内容、評価方法について
第 2 回　近年の保健体育科の授業展開について
保健体育科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計での活用の仕方について解説
第 3 回　模擬授業（体育）①
体つくり運動の指導および実技
第 4 回　模擬授業（体育）②
器械運動の指導および実技
第 5 回　模擬授業（体育）③
陸上競技（ハードル走）の指導および実技
第 6 回　模擬授業（体育）④
球技（ネット型）の指導および実技
第 7 回　模擬授業（体育）⑤
球技（ゴール型）の指導および実技
第 8 回　模擬授業（体育）⑥
武道とダンスの指導および実技
第 9 回　模擬授業のまとめ（中間）
体育の模擬授業の評価と保健の模擬授業について
第 10 回　模擬授業（保健）①
中学校保健領域「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業
第 11 回　模擬授業（保健）②
中学校保健領域「健康と環境」の模擬授業
第 12 回　模擬授業（保健）③
中学校保健領域「傷害の防止」の模擬授業
第 13 回　模擬授業（保健）④
中学校保健領域「健康な生活と疾病の予防」の模擬授業
第 14 回　模擬授業（保健）⑤
等学校保健領域「現代社会と健康」「生涯を通じる健康」「社会生活と健康」の模擬授業
第 15 回　まとめ
授業実践を通しての問題点と課題について
〔成績評価〕
模擬授業（30%）、学習指導案（30%）、レポート（30%）、受講態度（10%）から総合的に評価する。
〔教科書〕
中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　東山書房（平成29年3月）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　東山書房（平成30年7月）
〔参考文献〕
新学習指導要領による中学校体育の授業 上・下巻 大修館書店
新学習指導要領による高等学校体育の授業 上・下巻 大修館書店
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00〜11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

運動処方

2014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
西山　清子

〔到達目標〕
生活習慣病の原因を理解し予防・改善方法を学ぶ。
また、個人に合った運動プログラムの立案および運動指導が出来るようになる。
〔授業の概要〕
生活習慣病の背景と現状について学び身近な問題として捉え、生活習慣病の原因と予防方法を学習する。また、対象者に合った運動プログラムを作成しプレゼンテーションする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
健康関連の情報をニュースやネットニュースなどから収集しておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業内容および受講についての説明。
第 2 回　健康の概念
健康の定義について。
第 3 回　社会と健康
時代の変化に伴う健康阻害要因と病気の変化について。
第 4 回　国民衛生の動向
平均寿命と健康寿命について世界と日本の違いを学ぶ。
少子化と高齢社会の現状。
第 5 回　国民衛生の動向
高齢社会と健康づくりの現状。
成人病から生活習慣病へ変化および日本の死因について。

第 6 回　日本の健康づくり施策
健康づくりの3本柱「栄養」「運動」「休養」について。
第 7 回　社会と健康
公衆衛生が果たしてきた役割と健康運動の役割について。
第 8 回　運動処方のあり方
運動の種類、運動強度、運動実施時間について。
第 9 回　メディカルチェック
運動負荷試験の意義、運動強度の設定とその問題点について。
第 10 回　糖尿病のメカニズム
糖尿病の概念、病型、症状、合併症について。
第 11 回　高血圧症のメカニズム
高血圧症とは、判定方法、体力と高血圧症の関係について。
第 12 回　肥満およびメタボリックシンドローム
肥満の定義、判定方法およびメタボリックシンドロームの判定方法について。
第 13 回　健康づくり運動
有酸素運動、運動強度、レジスタンス運動、ストレッチについて学び運動の効果について。
第 14 回　運動プログラムの作成
糖尿病、高血圧、脂質異常症について運動プログラムを作成する。
第 15 回　運動指導のプレゼンテーション
対象者、原因、運動指導について一人10分間のプレゼンテーションを行う。

〔成績評価〕

授業への取り組み（20%）
授業中の課題（10%）
プレゼンテーション（20%）
提出物（10%）
定期試験（40%）

〔教科書〕

特になし
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

「糖尿病の運動療法」藤井暁、田中史郎　（金芳堂）
「健康スポーツ科学」浅野勝己、田中喜代次（文光堂）

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後に日時を相談して研究室で行う。

ｽﾎﾟｰﾂ演習Ⅲ【ｴｱﾛﾋﾞ･ﾘｽﾞﾑﾀﾞﾝｽ】

2015
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有
磯貝　　康成

〔到達目標〕

本科目は、リズムに合わせた身体活動及び身体表現等の技術の習得と合わせて、専門的な知識や指導法の習得を目指す。

〔授業の概要〕

本講義では、音楽に合わせた身体活動・身体表現の仕方を学ぶとともに、様々なリズム・テンポにあわせて身体を動かせるようにする。
また、様々な人に合わせた指導ができるよう実践も含めて講義を進めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

様々な音楽を聴き、リズムやテンポの違いについて自ら学習すること。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業オリエンテーション
第 2 回　リズムとテンポ
様々なリズムとテンポについて
第 3 回　ノンバーバルコミュニケーションと身体表現
コミュニケーションとしての身体表現について
第 4 回　ストレッチ講座
ストレッチの重要性と実践
第 5 回　リズム遊び
リズム運動の導入について
第 6 回　エアロビクス①
エアロビクスの導入
第 7 回　エアロビクス②
エアロビクスの発展
第 8 回　リズムダンス①
基本的なステップ
第 9 回　リズムダンス②
ステップの発展・応用
第 10 回　指導実習①
グループで指導実習
第 11 回　指導実習②
グループで指導実習
第 12 回　指導実習③
グループで指導実習
第 13 回　指導実習④
グループで指導実習
第 14 回　指導法まとめ
音楽を扱う際の指導法まとめ
第 15 回　まとめ
総括

〔成績評価〕
平常点　100点
【内訳】
・試験　70点
・授業態度　30点
※上記をふまえ総合的に判断する。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

【実務経験の活用】
現場での実体験を踏まえた、実技指導においてのポイント、技の習得ができる実技授業の展開する。また民間企業、学校現場における今後の社会で求められる人物像、能力を伝えていき、学生の進路により幅広い考え方がもたらせられる指導をする。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②水曜10－13:40(後期は－11:30)、木曜10－11:30
③授業終了後、講義教室で対応
④isogai@ashiya.ac.jpおよびPhollyのメッセージにて対応
⑤特になし

運動プログラム

2017
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
西山　　清子

〔到達目標〕
生活習慣病の改善方法としての運動の効果を理解する。
健康運動実践指導者資格の合格を目指す。
〔授業の概要〕
健康づくりに必要な運動について学習する。
対象者に合わせた健康指導が出来ることを目的に運動プログラムの作成と運動指導が出来るように学習する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃の運動の中で様々な自覚的運動強度を体験しておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業内容と受講態度の説明
第 2 回　健康づくり施策概論
　　健康の定義について
第 3 回　健康づくりの我が国の現状
　　国民健康づくり対策（健康日本２１・第二次）
第 4 回　運動生理学
　　筋収縮のエネルギー供給および3つのエネルギー機構について
第 5 回　栄養摂取と運動
　　3代栄養素の役割と運動の関係
第 6 回　肥満
　　肥満の要因と生活習慣について。肥満のメカニズムおよび改善方法について
第 7 回　体力測定と評価
　　文部科学省新体力測定での測定内容を学び評価結果から体力を推定する
第 8 回　身体活動指針
　　身体活動基準2013について。身体活動量やエネルギー消費量の評価と活用。
第 9 回　ロコモティブシンドローム
　　ロコモ度テストによるロコモティブシンドロームの概念と評価法
第 10 回　サルコペニア
　　サルコペニアの現状とサルコペニアの運動療法について
第 11 回　子どもの運動と健康
　　子どもの運動不足による体力低下の現状。発育発達と運動
第 12 回　トレーニング
　　トレーニングの原理原則。健康づくりのための安全で効果的な運動について
第 13 回　運動プログラムの作成の基礎
　　体力水準と高血圧・糖尿病・肥満について。運動様式の提案（①簡便性②安全性③楽しさ④継続性⑤多様性）
第 14 回　運動プログラムの作成
　　運動強度、運動頻度、運動時間の設定および有酸素運動、レジスタンス運動の効果につて
第 15 回　指導上の留意点
　　運動機器の選択と指導のポイントおよび運動強度の設定での留意点
〔成績評価〕
授業への取り組み（20%）
授業中の課題（20%）
提出物（10%）
定期試験（50%）
〔教科書〕
特になし
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
「健康運動実践指導者養成テキスト」健康・体力づくり事業財団
「健康スポーツ科学」浅野勝己、田中喜代次（文光堂）
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後、日時を相談して研究室にて行う。

ｽﾎﾟｰﾂ演習Ⅱ【ｻｯｶｰ指導法】

2018
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有
金　　相煥

〔到達目標〕
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で、試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導ができる人材を育成・養成することを目的とする
〔授業の概要〕
サッカーの戦術を理解し、その中で必要な個人技術やグループ戦術・チーム戦術を習得し、それらの技術・戦術を指導できるような試合形式の実践を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
サッカーに関する知識はメディア・インターネット・参考書等で予習・復習を通して情報収集することを望む
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の目標・計画・グループ分け
第 2 回　サッカーの技術指導①
　　キック、ドリブルの指導について
第 3 回　サッカーの技術指導②
　　トラップ、ヘディングの指導について
第 4 回　サッカーの戦術指導①
　　個人戦術・グループ戦術について
第 5 回　サッカーの戦術指導②
　　チーム戦術について
第 6 回　指導実践1
　　「パス＆コントロール」 をテーマに監督1名・コーチ1名の役割を決め指導を行う
第 7 回　指導実践2
　　「チャレンジ＆カバー」 をテーマに監督1名・コーチの1名の役割を決め指導を行う
第 8 回　指導実践3
　　「フィニッシュの改善」 をテーマに監督1名・コーチ1名の役割を決め指導を行う
第 9 回　指導実践4
　　「守備の２ライン」 をテーマに監督1名・コーチ1名の役割を決め指導を行う
第 10 回　指導実践5
　　「前線の崩し」 をテーマに監督1名・コーチ1名の役割を決め指導を行う
第 11 回　指導実践6
　　「ゴール前の守備の改善」 をテーマに監督1名・コーチ1名の役割を決め指導を行う
第 12 回　指導実践7
　　「ビルドアップ」 をテーマに監督1名・コーチ1名の役割を決め指導を行う
第 13 回　指導実践8
　　「ポゼッション」 をテーマに監督1名・コーチ1名の役割を決め指導を行う
第 14 回　指導実践9
　　「攻守の切り替え」 をテーマに監督1名・コーチ1名の役割を決め指導を行う
第 15 回　まとめ
　　指導実践を振り返ってディスカッションを行い、指導法についてのまとめを行う
〔成績評価〕
指導テスト（70%）、実技テスト（30%）
〔教科書〕
必要に応じて資料を配布する
〔参考文献〕
必要に応じて授業内で指示する
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

【実務経験の活用】
「地域スポーツの現場やプロスポーツクラブでの経験を生かした指導実習を行う」
「学内の課外活動（部活動）における課題についての対処法などの指導を行う」
〔オフィスアワー〕
① 前期・後期共通
② 木曜日：14：30～15：30
③ 場所：金相煥研究室
④ 連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください

ダンス（教職）②

2019
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
斉尾　　博美

〔到達目標〕
本科目は教職課程認定で中学校及び高等学校第一種免許状保健体育の「教科に関する科目」として配置されています。保健体育実技におけるダンス分野を一般的包括的な内容を含み、専門的知識と基本的知識と基本的技能の習得を目標としています。
ダンスの特性や由来、表現の仕方などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通した交流ができるようになることを目標とします。
〔授業の概要〕
ダンスについて次の事項を身につける。
①感じを込めて踊る。
②みんなで自由に踊る楽しさや喜びを味わう。
③ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や

発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解する。
④イメージを深めた表現、踊りを通して交流や発表をする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業の復習を行い次週に備えて予習する。（３０分）
フォークダンス、リズムダンスは最後の回に発表があるので予習、復習をする。（３０分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業内容についてのガイダンス
　　身体作りの基礎プログラム①ストレッチ②リズム取り
第 2 回　リズムと身体表現
　　リズムの取り方を習得する
第 3 回　リズムと身体表現
　　様々な音楽に合わせてリズム感を養う
第 4 回　リズムと身体表現
　　リズムの特徴を捉え、リズムにのって全身で表現し踊る
第 5 回　フォークダンス
　　外国のフォークダンス「マイム・マイム」の習得
第 6 回　フォークダンス
　　外国のフォークダンス「オクラホマ・ミクサー」「コロブチカ」の習得
第 7 回　フォークダンス
　　日本の民謡「よさこいソーラン節」踊りの習得
第 8 回　フォークダンス
　　日本の民謡「よさこいソーラン節」踊りの習得
第 9 回　フォークダンス
　　日本の民謡「よさこいソーラン節」発表
第 10 回　リズムダンス
　　リズム取り、アイソレーションの習得
第 11 回　リズムダンス
　　基本ステップ、テクニック習得
第 12 回　リズムダンス
　　テクニック、ダンスフレーズ習得
第 13 回　リズムダンス
　　現代的なダンスの作品練習
第 14 回　リズムダンス
　　現代的なダンスの作品練習、フォーメーション構成の習得
第 15 回　リズムダンス
　　現代的なダンスの作品発表
　　前期のまとめ
〔成績評価〕
授業への取り組み７０％
作品発表２０％
レポート１０％
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
中学校学習指導要領（ダンス）
高等学校学習指導要領（ダンス）
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修
〔オフィスアワー〕
前期
土曜日　１１：００から１２：００
授業前にダンススタジオで対応します。
GメールのSaio@ashiya-u.ac.jpかPhollyのメッセージに前日までに質問・相談の連絡の有無を入れ確認をしてください。

体育実技B(ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ)女子

2020
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
実務経験有
石川　　峻

〔到達目標〕
１）バスケットボールの技術の名称やルールを説明することができる。
２）バスケットボールの基本的なスキルを実施することができる。
３）安全に配慮してバスケットボールを実施することができる。
４）仲間と協力して積極的に授業に参加することができる。
〔授業の概要〕
バスケットボールは多くの学校で実施されている代表的なゴール型球技である。この講義では体育教員に必要なバスケットボールの知識や技能、指導法の習得を目指す。また、グループで指導計画を作成、実施した後、ディスカッションを通してより良い指導法に関して考察していく。

受講上の注意事項
・実技科目にふさわしい服装で受講すること
・体育館では室内シューズを使用すること
・15分を過ぎての入室及び15分以上の退室は欠席扱いとする
・腕時計、ピアス等のアクセサリーは着用禁止
・爪は短く、長い者はテーピングで保護する事
・水分が必要な者は蓋つきの物を用意する
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の予習（3時間）
授業後の振り返り（3時間）
指導計画の作成（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の流れ、成績評価、バスケットボールの歴史
第 2 回　バスケットボールの基礎①
　　バスケットボールに繋がる遊び、ボールハンドリング、スキルチェック
第 3 回　バスケットボールの基礎②
　　ドリブル技能の習得

第 4 回　バスケットボールの基礎③
　　パス技能の習得
第 5 回　バスケットボールの基礎④
　　ショット技能の習得
第 6 回　バスケットボールの基礎⑤
　　ディフェンス技能の習得
第 7 回　グループ戦術①
　　スペースへの動き、パス＆ラン
第 8 回　グループ戦術②
　　スクリーンプレイ
第 9 回　アウトナンバー①
　　2 on 1
第 10 回　アウトナンバー②
　　3 on 2
第 11 回　リーグ戦①
　　リーグ戦の運営と審判法
第 12 回　リーグ戦②
　　リーグ戦の運営と審判法
第 13 回　指導実践①
　　グループでの指導計画の作成と実施、ディスカッション①

第 14 回　指導実践②
　　グループでの指導計画の作成と実施、ディスカッション②
第 15 回　まとめ
　　スキルテスト

〔成績評価〕

技能・知識　40%
レポート、提出物　40%
授業への取り組み態度・意欲　20%

〔教科書〕

文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説（平成29年7月告示）保健体育編.
文部科学省（2018）高等学校学習指導要領解説（平成30年7月告示）保健体育編体育編.
※その他、適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕

日本バスケットボール協会（2014）バスケットボール指導教本 改訂版 上巻. 大修館書店
日本バスケットボール協会（2016）バスケットボール指導教本 改訂版 下巻. 大修館書店

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
部活動指導やプロバスケットボールクラブのバスケットボールスクールコーチの経験から、発育発達段階に則したバスケットボールの指導法について指導する。

〔オフィスアワー〕

水曜１、２限

体力測定と評価①

2021
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
石川　　峻

〔到達目標〕

１）基本的な体力の測定方法について説明することができる。
２）基本的な体力の分析方法について説明することができる。
３）安全に配慮して体力測定を実施することができる。
４）仲間と協力して積極的に授業に参加することができる。

〔授業の概要〕

本講義では身体能力や運動の基礎能力を知るための客観的尺度について理解し、その手法を習得することを目的とする。具体的には形態や身体組成の測定法や体力テストの実施方法について理解し、実践することが出来るようになること、また測定したデータに対して客観的な検証を行うことが出来る能力を身につける。また、結果の考察等においてはグループディスカッションも用いる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前の予習（3時間）
授業後の振り返り（3時間）
Excelの基本的な操作方法の予習（2時間）

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　　授業の目的・内容、体力とは
第 2 回　体力測定の歴史と意義、行い方
　　体力測定の歴史と意義、行い方の注意点について
第 3 回　形態および身体組成の測定と評価
　　形態および身体組成の測定方法やその意義について
第 4 回　筋力、筋パワーの測定と評価
　　筋力、筋パワーの計測方法やその意義について
第 5 回　測定演習①
　　形態および身体組成の計測、筋力の測定
第 6 回　測定演習②
　　筋力、筋パワーの測定
第 7 回　調整力の測定と評価
　　柔軟性や平衡性、巧緻性の測定方法やその意義について
第 8 回　アジリティ、スプリント能力の測定と評価
　　アジリティ、スプリント能力の測定方法やその意義について
第 9 回　測定演習③
　　調整力の測定
第 10 回　測定演習④
　　アジリティ、スプリント能力の測定
第 11 回　全身持久力、運動強度、身体活動量の測定と評価
　　全身持久力、運動強度の測定方法やその意義について
第 12 回　測定演習⑤
　　全身持久力、運動強度についての測定
第 13 回　基本統計演習①

表計算ソフトExcelを使った度数分布、平均値、標準偏差等の算出とグラフの作成
第 14 回　基本統計演習②
表計算ソフトExcelを使った平均値の検定方法（t検定）について
第 15 回　基本統計演習③
表計算ソフトExcelを使った相関と回帰

〔成績評価〕
期末試験　30%
レポート、提出物　40%
授業への取り組み態度・意欲　30%

〔教科書〕
適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕
山本利春（2004）測定と評価．ブックハウスHD
David H. Fukuda（2019）スポーツパフォーマンスのアセスメント．ナップ
独立行政法人日本スポーツ振興センター（2021）フィットネスチェックハンドブック．大修館書店
大阪体育大学体力トレーニング教室（2015）体力トレーニングの理論と実際．大修館書店

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、生理学（運動生理学を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕
水曜１、２限

スポーツ演習Ⅵ【バドミントン】

2023
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
青木　　敦英

〔到達目標〕
バドミントンの特性やルールの理解を深めるとともに、授業を通した社会的態度の育成を目指す。また、将来体育教員となった際の指導に役立てるようにバドミントンの指導方法についても学習する。

〔授業の概要〕
バドミントンは比較的運動強度が高く、健康の維持にも役立つ生涯スポーツとして取り上げられることがある親しみやすいスポーツである。中学・高等学校の学習指導要領においてもネット型の球技として取りあげられている。本講義ではバドミントンの基本技術やルールなどの知識の修得をするだけでなく、バドミントンを通してマナーなどの社会性を身につけることも重要視している。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業にあたっては、体調を整えることはもちろん、服装やシューズをきちんと用意しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本講義の目的、内容、評価について
第 2 回　基本技能①
グリップと基本姿勢
第 3 回　基本技能②
サーブとハイクリア
第 4 回　基本技能③
スマッシュ
第 5 回　基本技能④
ドロップ
第 6 回　基本技能⑤
ヘアピンおよびプッシュ
第 7 回　基本技能⑥
フットワークとポジショニング
第 8 回　ルールの解説とゲーム
シングルスゲームとダブルスゲームのルールおよび審判方法を理解し、ゲームを行う
第 9 回　シングルスゲーム①
基本技能を生かしたシングルスゲームが出来るようにする
第 10 回　シングルスゲーム②
基本技能を生かしたシングルスゲームが出来るようにする
第 11 回　ダブルスゲーム①
基本技能とチームメイトとのコミュニケーションを生かしたゲーム展開をする
第 12 回　ダブルスゲーム②
基本技能とチームメイトとのコミュニケーションを生かしたゲーム展開をする
第 13 回　団体戦①
チーム対抗でシングルスとダブルスのゲームを行う
第 14 回　団体戦②
チーム対抗でシングルスとダブルスのゲームを行う
第 15 回　まとめ
生涯スポーツとしてのバドミントンの特性について

〔成績評価〕
受講態度（50%）、技術習得度および実技成績（30%）、レポート（20%）などから総合的に評価する。

〔教科書〕
必要に応じて資料を配付します。

〔参考文献〕
『バドミントン教本?基本編?』（財）バドミントン協会編（ベースボールマガジン社）
『ザ・ベスト　バドミントン』池田昌道（大修館）

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

健康運動実践演習Ⅱ

2026
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
西山　　清子

〔到達目標〕
健康運動実践指導者の資格を目標に健康・体力づくりに必要な知識を身に付ける。
健康運動実践指導者資格に合格するために、体の仕組みを理解した運動指導ができる。また、専門知識を理解する。
〔授業の概要〕
テキストに沿った授業を行う。
過去問を活用し、重要箇所を単元ごとにまとめながら理解を深める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学生間でテキストに引いたアンダーラインの確認をし合う。また授業前に読み返しておく。
〔授業計画〕
第 1 回　健康運動実践演習Ⅰのまとめ
健康運動実践演習Ⅰを振り返り、資格合格に向けて重要箇所の確認を行う
第 2 回　健康づくり施策概論
生活習慣病とメタボリックシンドローム
第 3 回　運動生理学①
呼吸循環器系の機能と運動に伴う呼吸循環器能の変化
第 4 回　運動生理学②
運動時の酸素利用。トレーニングによる呼吸循環器系の適応
第 5 回　栄養摂取と運動
健康づくりのための栄養について。食事バランスガイド
第 6 回　体力測定と評価
無酸素性閾値について。ガス分析と血中乳酸によるAT測定
第 7 回　健康づくりと運動プログラム①
運動プログラム作成の基礎と作成上のポイント
第 8 回　健康づくりと運動プログラム②
有酸素性運動の効果と指導上の留意点
第 9 回　運動指導の心理学(社会学)的基礎
個別指導における動機づけ
第 10 回　運動指導と実際①
健康運動実践指導者に必要とされる能力。運動指導のポイントについて
第 11 回　運動指導と実際②
陸上運動(ウォーキング、ジョギング、エアロビクスダンス)と水中運動の強度設定、エネルギー消費量について
第 12 回　運動指導と実際③
有酸素運動の特性と効果について。安全に対する注意
第 13 回　運動指導①
実技試験に向けたエアロビクスダンスの指導法のポイント
第 14 回　運動指導②
実技試験に向けたレジスタンス運動の指導法のポイント
第 15 回　運動障害
突然死の予防。捻挫、骨折の処置法。膝のケガと処置法。
〔成績評価〕
授業への取り組み(50%)
授業中の課題(20%)
小テスト(30%)
〔教科書〕
「健康運動実践指導者養成テキスト」健康・体力づくり事業財団
〔参考文献〕
「健康運動実践指導者必携ハンドブック」健康・体力づくり事業財団
厚生労働省発表資料
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
相談して日時を設定し、後日研究室にて行う。

武道論Ⅰ（剣道）

2030
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有
伊藤　　武徳

〔到達目標〕
1）この授業を通して、剣道を通して武道の根幹を学ぶ。
2）武道の歴史や伝統的な所作を理解する。
3）武道関連の書籍から，現代に活用できる力を養う。
〔授業の概要〕
・剣道をとおして、武道の歴史や伝統的な所作の必要性を考え方いく。
・武道関連書籍や動画などから，精神性や文化性を紐解いていく。
・課題に対してペアワークやグループワークを活用し学生主体による学習形態を構築する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
剣道の歴史（全日本剣道連盟）を熟読しておくこと。
https://www.kendo.or.jp/knowledge/kendo-history/

予習：毎時指定した当該教科の文献を熟読してくること。(毎回2時間)。
復習：毎時課題に対しての知識的理解をすること。(毎回2時間)。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、剣道の概要説明を行う。
第 2 回　武道とは何か
　　武道概念の説明を行う。
第 3 回　武道の歴史
　　武道の歴史的変遷の説明を行う。

第 4 回　剣道の歴史
　　剣道の歴史的変遷の説明を行う。
第 5 回　武道種目について
　　武道種目の紹介と各種目の歴史的変遷についての説明を行う。
第 6 回　対人による遊び
　　武道の特徴でもある、対人性を生かして様々な遊びや体験をする。
第 7 回　礼法について
　　武道特に剣道における礼法について説明を行い実践する。
第 8 回　所作について
　　所作について説明を行い実践する。
第 9 回　剣道の基本動作①
　　基本動作（素振り・送り足）の説明と実践を行う。
第 10 回　剣道の基本動作②
　　基本動作（素振り・送り足)、基本（面・小手・胴）となる技の説明と実践を行う。
第 11 回　「木刀による基本稽古法①」
　　基本動作（素振り・送り足)、受け方、打ち方の説明と実践を行う。
　　「基本１」 一本打ちの技　　＜正面、小手、胴(右胴)、突き＞
　　「基本２」 二・三段の技　　＜小手⇒面＞
　　「基本３」 払い技　　＜払い面（表）＞
　　「基本４」 引き技　　＜引き胴（右胴）＞
　　「基本５」 抜き技　　＜面抜き胴（右胴）＞
第 12 回　「竹刀打ちこみ稽古法②」
　　基本動作（素振り・送り足)、受け方、打ち方の説明と実践を行う。
　　「基本６」 すり上げ技　　＜小手すり上げ面(裏）＞
　　「基本７」 出ばな技　　＜出ばな小手＞
　　「基本８」 返し技　　＜面返し胴（右胴）＞
　　「基本９」 打ち落とし技　＜胴（右胴）打ち落とし面＞
第 13 回　武道書の概要①
　　武道書の概要と説明を行う。
第 14 回　武道書の概要②
　　武道書の概要と説明を行う。
第 15 回　試験とまとめ
　　レポート課題による試験。
〔成績評価〕
・技能（10%）
・知識理解（40%）
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ)」(50%）を総合的に評価する。
※レポート課については評価後、個別コメントつけて返します。
〔教科書〕
文部科学省：『剣道指導の手引き』
全日本剣道連盟：『剣道の歴史』

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
金曜日　15時30～16時

ｽﾎﾟｰﾂｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ

2031
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
別當　和香

〔到達目標〕
1）自身の体調を総合的に整えることを焦点にあてた運動プログラムを実践することができる。

2）より機能的に動ける身体づくりから、身体を良い状態に高め、それを維持する実践能力を身に付けることができる。
〔授業の概要〕
姿勢や身体の動かし方の偏りに気づき、ストレッチングやレジスタンスによる整えエクササイズを習得する。また、機能的な身体の動きに必要なコーディネーション能力を構成する７つの能力を理解し、それらを高めるトレーニング法を身につける。また、それとともに適正なウェイトコントロールのためのエクササイズや食事との関連も理解する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：授業でおこなう内容を確認しておく。(2時間)
復習：授業時間に提示された課題の達成(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方・評価方法
第 2 回　コンディショニング理解

心身の状態チェック
第 3 回　動きを通しての自己身体状態の理解
姿勢・動きのチェック
第 4 回　身体動作方法①
身体の動きをよくするムーブメントの理解
第 5 回　身体動作方法②
身体の動きをよくするムーブメントの実践
第 6 回　ストレッチング方法①
ストレッチングの理解
第 7 回　ストレッチング方法②
ストレッチングの実践
第 8 回　レジスタンストレーニング①
レジスタンストレーニングの理解
第 9 回　レジスタンストレーニング②
レジスタンストレーニングの実践
第 10 回　コーディネーショントレーニングの体験①
コーディネーショントレーニングの理解と体験(平衡性・協調性)
第 11 回　コーディネーショントレーニングの体験②
コーディネーショントレーニングの体験（他者・道具とのタイミングをはかる）
第 12 回　コーディネーショントレーニングの体験③
日本の伝承遊び（鬼ごっこ系・鞠突き系・縄跳び系）
第 13 回　コーディネーショントレーニングの体験④
コーディネーショントレーニングのテスト
第 14 回　ウェイトコントロールについて
ウェイトコントロールの正しい理解
第 15 回　ウェイトコントロールの実践について
ウェイトコントロールの運動実践
自身のコントロール方法の発表

〔成績評価〕

≪配点内訳≫

授業への取り組み・態度	30点
授業内課題テスト	50点
テストレポート	20点

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

日本体育協会編，公認スポーツ指導者
養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

コーチング法演習Ⅰ【サッカー】

2032
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
金　　相煥

〔到達目標〕

サッカーの指導法（技術・戦術・指導実践）の獲得を目的とし、技術と戦術の基本を理解し、少人数のサッカーから最終的には１１人制のサッカーに発展させることを学ぶ。サッカーの技術の獲得のみならず自らが指導者としての実践できるレベルになることを目標とする。
また、実践指導を実体験し、継続して行うことで指導力の向上を目指す

〔授業の概要〕

サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を取得した上で、試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導できる人材を育成・養成することを目的とする
※1回目の授業に参加しなければ履修できない。また、人数制限があるため、抽選を行うこともある

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

ポーツに関する知識は、メディア、インターネット、参考書等、予習・復習を通して情報収集することを望む。また、教職課程に関わる内容については、学習指導要領を積極的に参照する。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方・運営面での約束事の徹底
第 2 回　サッカーってなに？
サッカー文化とスポーツマネージメント
第 3 回　子どもの成長とサッカー
子どもの能力を伸ばす
第 4 回　サッカーとコミュニティー形成
NPO法人とこれからのクラブ、クラブ、サッカー協会との連携
第 5 回　コミュニティーにおけるサッカーの現状
兵庫県・芦屋市のキッズ及びユース改革
第 6 回　サッカー文化の構築に向けて
日本におけるサッカーの現状と未来、サッカーの楽しさ・本質を探る
第 7 回　基本運動と基礎技能の習得
サッカーの基礎技術・基礎技能の確認
第 8 回　実践指導①
学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 9 回　実践指導②
学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 10 回　実践指導③

学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 11 回　実践指導?
学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 12 回　実践指導⑤
学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 13 回　実践指導⑥
学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 14 回　実践指導⑦
学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 15 回　まとめ
指導実践を振り返ってディスカッションを行い、指導法についてのまとめを行う

〔成績評価〕
指導テスト（70%）、実技テスト（30%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
日本サッカー協会発刊
・テクニカルレポート
・キッズドリル

〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
① 前期・後期共通
② 木曜日：14：30～15：30
③ 場所：金相煥研究室
④ 連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください

中等教科教育法Ⅰ（社会）

2102
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.中学校学習指導要領解説社会編の示す「社会科の使命もしくは目標」について深く理解し、自らもまた、社会生活の正しい理解と民主的な国家・社会の形成者としての資質を育成している。
2.中学校学習指導要領解説社会編の示す「社会科的な見方・考え方」を理解している。
3.授業デザインの基本を理解し、教育実践にも活かせる指導案の原案を作成できるノウハウを身に付けている。

〔授業の概要〕
学校現場で教員が生徒に対して行う授業場面では、「生徒理解と生徒と教員の信頼関係」「教員の授業を展開する指導力」「1人1人の生徒に対するきめ細やかな配慮」など、様々な要素が求められる。しかし、何よりも、生徒が求めているのは、「分かりやすい授業」「面白く魅力のある授業」であり、それを展開しようとするならば、どんなに多忙な中であろうとも、毎時間の授業デザインに心を砕き、教材研究を行なうことが欠かせない。そこで、前期の授業では、中学校学習指導要領解説社会編の見方、授業デザインの考え方を中心に学び、その１つの完成形としての学習指導案を作成する力を身に付けることを目指したい。
なお、後期の授業においては、各自が作成した指導案にもとづきながら、模擬授業を通じて、「発問」「指示」「板書」などを含む実際の授業を展開する際の指導上の留意事項について学びたい。そのためにこそ、前期の授業の中で、中学校の社会科教育の目標と内容について十分に理解を深め、自分なりの授業づくりの手法を身に付けてほしい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊授業の際に範囲を指定するので、次の授業までに「中学校学習指導要領解説」（総則編、社会編）に眼を通してから授業に臨む
＊指導案作成などの課題が出される
＊授業後の振り返りシートを提出する
〔授業計画〕
第 1 回　生徒にとっての授業　若い教員に求められるもの
（学習指導と生徒指導、良い授業とは）
第 2 回　学習指導要領が示すもの　はぐくむべき力と授業のあり方
（学習指導要領解説〈総則編・社会編〉の見方、アクティブラーニング）
第 3 回　単元構成作成の考え方　授業デザイン・学習指導案の構造とつくり方
（年間指導計画の作成と単元構成、学習指導案作成の実際）
第 4 回　中学校地理的分野の授業づくりの基礎基本①
（「社会科的な見方・考え方」とは）
第 5 回　中学校地理的分野の授業づくりの基礎基本②
（「動態的地誌学習」をふまえて）
第 6 回　新しい地理的分野の内容を踏まえた授業づくりのポイント
（年間指導計画、単元指導計画作成上の留意点）
第 7 回　世界の諸地域の授業づくり
（「オセアニア州」を例に）
第 8 回　学習評価、授業評価に対する取組
（評価基準と評価材料、研究授業に対する視点）
第 9 回　中学校歴史的分野の授業づくりの基礎基本
（「時代を体感する学習」「世界史的内容の充実」）
第 10 回　中学校歴史的分野の内容を踏まえた授業づくりのポイント
（「世界史的内容の充実」に対する留意点、「主権者教育」の視点）
第 11 回　「エンパシー」に着目した授業づくり
（「中世の日本」を例に）

第 12 回　中学校公民的分野の授業づくりの基礎基本
（実態や関係性を概念化し、判断力・行動力を育成する）
第 13 回　新しい中学校公民的分野の内容を踏まえた授業づくりのポイント
（世界のグローバル化、情報化社会、防災、SDGs、などからテーマを１つ選んで考える）
第 14 回　「憲法学習」の授業づくり
（「憲法学習」の教材化と学習課題）
第 15 回　「ICT教育」についての理解
（ICT機器を用いた授業の効果と陥りがちな「落とし穴」）

〔成績評価〕
期末のレポート(60%)、振り返りシート(30%)、学習指導案作成 (10%)

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

〔参考文献〕
テキストは使用せず授業の中で随時紹介、または適宜プリントを配付

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む)、
中一種（社会)、必修
☆学習指導要領の示す内容を噛み砕いて理解することを意識して授業を進めたい

【実務経験の活用】
教員、市教委事務局職員として学んだことを基に、最新の情報を含めた教科指導法として、将来、教員を目指そうという志をもつ学生に伝える

〔オフィスアワー〕
・水曜日：15:30～16:30
・場　所：研究室
・連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
・その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

環境と生物（1年教育・経営・上級生全学科対象）

2109
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
渡　　康彦

〔到達目標〕
生物の多様性と普遍性を解釈する。
生物の環境への適応を説明できる。

〔授業の概要〕
我々人間を含む生物の世界は多様である。様々な環境に対する生物の適応を生理的な面からみていくと普遍的な面もある。生物のいろんな環境、すなわち温度、水、酸素、光そして時間への適応様式を学んでいく。
当面の間オンデマンド授業が中心となるが、対面授業が可能な場合は学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布プリントを見直す（120分）
プリントでわからないこと、興味のあることなどを調べる（120分）

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
環境と生物でどのようなことを学んでいくかについて知る。
第 2 回　生物と温度（1）
変温動物と恒温動物は高温あるいは低温環境にたいしてどのように適応しているのかを考える。
第 3 回　生物と温度（2）
植物は高温あるいは低温環境にどのように適応しているのかを考える。
第 4 回　生物と水
生物の水の出入りを考える。
第 5 回　生物と乾燥
生物が乾燥にたいしてどのように適応しているのかを考える。
第 6 回　生物と酸素
生物の呼吸の仕組みと生物が低酸素状態へどのように適応しているのかを考える。
第 7 回　生物と光（1）
植物の光合成のしくみと光発芽種子、植物の光周性について考える。
第 8 回　生物と光（2）
動物の光周性について考える。
第 9 回　生物と光（3）
光周性のメカニズムについて考える。
第 10 回　地球の進化
地球誕生から地球環境の変化を考える。
第 11 回　生命の進化
生命誕生から生物の進化を考える。
第 12 回　オゾン層
生物への紫外線の影響とオゾン層破壊について考える。
第 13 回　地球温暖化
生物への地球温暖化の影響を考える。
第 14 回　生物と時間
体内時計の重要性を考える。
第 15 回　まとめ
環境と生物についての総括する。

〔成績評価〕
確認問題、レポート提出（60%）と期末試験（40%）にて評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

情報機器の操作（初級）

2192
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。
〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)
〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ
〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある
〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)
〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

情報機器の操作（初級）

2193
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕
１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕
第 1 回　講義　授業の目的
　　記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
　　ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
　　基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
　　定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
　　均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
　　視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
　　小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
　　オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1
　　条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
　　データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
　　身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
　　プレゼンテーションソフトの基本操作
　　インターネットを活用して旅行計画を立てる
　　調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
　　そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
　　作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
　　プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
　　情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕
授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕
教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕
私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
　　「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日2限目

外国史概論Ⅰ

2203
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
矢野　涼子

〔到達目標〕
１．現代世界の基層をなす世界の歴史をグローバルな視点から広く理解し，考える力を修得する。
２．中学社会科や高校の地理歴史科の教員となる上で必要な歴史の知識を修得する。
〔授業の概要〕
この授業ではグローバルな視点からみた外国史を学ぶ。古代からおよそ17世紀末までの世界の歴史について基礎的な内容を広く概観した上で，人類の出現と文明の出現，キリスト教とヨーロッパ世界，イスラームの成立と展開，インドの古典文明と宗教，東アジアの帝国と文化圏の成立，といった問題についてより踏み込んだ内容を学ぶ。後期の外国史概論IIと合わせて履修することが望ましい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内容についてのまとめ（復習）60分
〔授業計画〕
１．ガイダンス――なぜ世界史を学ぶのか？
２．古代オリエント世界
３．古代地中海世界
４．中央ユーラシアの発展と東アジアの再編
５．東アジア世界の形成と発展
６．モンゴル帝国
７．イスラーム世界の成立と変遷
８．ゲルマン人の大移動と封建社会の成立
９．ビザンツ帝国と東ヨーロッパ
１０．十字軍と諸文明の接触と交流
１１．西ヨーロッパ中世世界の変容
１２．海陸の交流と明を中心とする国際秩序
１３．大航海時代とルネサンス
１４．東アジア諸国の「鎖国」
１５．パブリックヒストリー――民衆の歴史・ジェンダー史
〔成績評価〕
授業への参加態度［授業内で行う活動や討論への参加の積極性と内容を評価する］(25%)
各授業の最後に毎回、小レポートの提出を求める。小レポートの内容を総合的に判断し、成績評価を行う（75%）
〔教科書〕
高等学校学習指導要領　2018（平成30）年3月告示，文部科学省
高等学校学習指導要領解説　地理歴史科編　2018（平成30）年3月告示，文部科学省
その他，授業時に資料を配布する。
〔参考文献〕
授業時に適宜指示する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、日本史・外国史、中一種（社会)、必修
〔オフィスアワー〕
授業前後の時間に対応する。また、質問等はメールでも受け付ける。

体育実技Ｃ(ｻｯｶｰ･ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ)男子①

2206
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
金坂　　正廣

〔到達目標〕
ゴール型球技であるサッカーと野球型球技のソフトボールを「マッチ（試合形式)」を通してその楽しみを体験することを第一目標とする。授業の展開はＭＴＭ法を活用し、基本的な技術や戦術の取得をより効果的に高める方法を学び合うことで競技への興味関心と理解を高める基礎としたい。さらに、小学生から中学生を指導するノウハウを獲得するため各授業の振り返り学習を重視する。加えて、指導者としての「デモンストレーション力」の向上を目指す。
〔授業の概要〕
実技と理論の乖離を避けるため各時間にゲーム形式を重視する事で繋がりを持つ授業内容とした。そのために「前振り」と「振り返り」を取り入れた授業を行う。また、グループ活動で学生同士の気づきを共有することで将来の「指導実践」に繋がる授業を展開する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
スポーツに関する情報収集学習として、新聞・雑誌、インターネットなど各種メディアの活用して、「スポーツとは」、サッカー競技の「歴史」、さらにサッカー競技の「構成要素」と「特性」、サッカー競技の「指導者」に関する理論に関する課題を提示し、その課題に関して自学自習とレポート作成を通してサッカー競技に関しての造詣を深めて欲しいと考えている。次にもう一つのテーマとして、今後ソフトボールに代わって手軽なベースボール型スポーツとなるであろう「ベースボール５」についての理解を「実技」をとおして深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
①指導者、学生の自己紹介。②授業進行等の説明、諸注意。③理論Ⅰ：「ｽﾎﾟｰﾂとは」
第 2 回　①サッカー実技Ⅰ　②理論Ⅱ：サッカーの歴史
技術Ⅰ：ﾎﾞｰﾙﾌｨｰﾘﾝｸﾞ（体とボールを馴染ませる運ぶ、止める、蹴る）とGAME（少人数の試合形式）でサッカーを楽しむ　　理論Ⅱ　サッカーの歴史古代～現在
第 3 回　①サッカー実技Ⅱ　②理論Ⅲ：サッカーの特性
技術Ⅱ：全身でボールに触れる動き（運ぶ、止める、蹴る、投げる、打つ、捕らえる)、測定2種（8の字ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ、リフテイング）とGAME

(LineGoal、2GOAL)
理論Ⅲ：サッカー競技の特性

第 4 回　①サッカー実技Ⅲ　②理論Ⅳ：サッカーのﾃｸﾆｯｸ
技術Ⅲ：GoalKeeper　トレーニング　とGAME
理論Ⅳ：サッカーの様々な技術

第 5 回　①サッカー実技Ⅳ　②理論Ⅴ：指導者とは
技術Ⅳ：ボールを奪われないための技術（ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ）とボールを奪うための技術（ﾁｬｰｼﾞとﾀｯｸﾙ）
戦術Ⅰ：ボールを奪われないための戦術（ｻﾎﾟｰﾄ）とボールを奪うための戦術（ｶﾊﾞｰﾘﾝｸﾞ）
理論

第 6 回　①サッカー実技Ⅴ　②理論：今日の実技振返り
技術Ⅳ：ボールを奪われないための技術（キックやパスプレーの精度ＵＰ）　ボールを奪うための技術（チャージとタックル）
戦術Ⅲ：ボールを奪われないための戦術（周囲の状況を観て判断するプレー)
ボールを奪うための戦術（インターセプト）
実技振り返りレポート作成

第 7 回　①サッカー実技Ⅵ　②理論：今日の実技振返り
ゲームⅠ：様々なゲーム（スモールサイド、4ゴール、ラインゴール、複数ゴール）
実技振り返りレポート作成

第 8 回　①サッカー実技Ⅶ　②理論：今日の実技振返り
ゲームⅡ：クアトロゲームによる試合運営と審判
実技振り返りレポート作成

第 9 回　①サッカー実技Ⅸ　②理論：今日の実技振り返り
ゲームⅢ：ノーマルゲーム（８－８or11－11）
実技振り返りレポートの作成

第 10 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５）②理論　ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5の技術Ⅰ：投げる、捕らえる、打つ。走る動作の要素を知る

第 11 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5）②理論　実技振返り
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5技術Ⅱ：投げる、捕らえる、打つ、走る動作を試合で試す。
理論Ⅰ　今日の試合を振り返りレポートの作成

第 12 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5）
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５技術Ⅲ：相手選手の裏をかくプレーにチャレンジする。
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5戦術Ⅰ：技術を発揮するために、ルールを理解し模擬試合で戦い方等を学ぶ

第 13 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５）
試合Ⅰ：試合の運営方法等の再認識とルールの統一
理論　今日の試合に関する振り返りレポートを作成する。

第 14 回　①サッカー実技　②今日の試合の振り返り
試合Ⅱ：GAME（学生が考えたルールと運営）
理論：今日の実技振り返りレポートの作成

第 15 回　①サッカー実技　②今日の試合の振り返り
試合Ⅲ：GAME（クアトロゲーム）個人の評価
理論：授業全体を通しての振り返りレポート作成。

〔成績評価〕
A:振り返りレポート等の提出物の成果（４０）
B:実技テスト・測定・試合結果（４０）
C:授業への取り組む姿勢（２０）

〔教科書〕
「なし」、適時資料を配布する。

〔参考文献〕
・日本サッカー（JFA）協会編　サッカー指導教本(2012,2014,2016,2018,2020版)
・ミニサッカーのいろいろ(遊戯社：監修　日本ミニサッカー連盟)
・21世紀のサッカー選手育成法ジュニアー編（大修館書店　ｹﾞﾛﾋﾞｻﾝﾂ他著)
※その他授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
※大学からの指示でCOVID19の感染状況により実技授業や対面授業の実施が出来ない状況になった場合には2020年度と同様にHollyによるリモート学習を活用した授業とします。なお、「実技の振り返りレポート」はHollyを活用してレポートを提出することとします。
また、シラバスを一部変更して授業を進める場合もあります。その時には事前或いは事後に受講学生に改めて内容を提示します。

〔オフィスアワー〕
基本的にはHolly上でのやり取りとします。

体育実技Ｃ（ｻｯｶｰ・ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ）女子

2207
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
金坂　正廣

〔到達目標〕
ゴール型球技であるサッカーと野球型球技のソフトボールを「マッチ（試合形式)」を通してその楽しみを体験することを第一目標とする。授業の展開はＭＴＭ法を活用し、基本的な技術や戦術の取得をより効果的に高める方法を学び合うことで競技への興味関心と理解を高める基礎としたい。さらに、小学生から中学生を指導するノウハウを獲得するため各授業の振り返り学習を重視する。加えて、指導者としての「デモンストレーション力」の向上を目指す。

〔授業の概要〕
実技と理論の乖離を避けるため各時間にゲーム形式を重視する事で繋がりを持つ授業内容とした。そのために「前振り」と「振り返り」を取り入れた授業を行う。また、グループ活動で学生同士の気づきを共有することで将来の「指導実践」に繋がる授業を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
スポーツに関する情報収集学習として、新聞・雑誌、インターネットなど各種メディアの活用して、「スポーツとは」、サッカー競技の「歴史」、さらにサッカー競技の「構成要

素」と「特性」、サッカー競技の「指導者」に関する理論に関する課題を提示し、その課題に関して自学自習とレポート作成を通してサッカー競技に関しての造詣を深めて欲しいと考えている。次にもう一つのテーマとして、今後ソフトボールに代わって手軽なベースボール型スポーツとなるであろう「ベースボール５」についての理解を「実技」をとおして深める。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
①指導者、学生の自己紹介。②授業進行等の説明、諸注意。③理論Ⅰ：「ｽﾎﾟｰﾂとは」

第 2 回　①サッカー実技Ⅰ　②理論Ⅱ：サッカーの歴史
技術Ⅰ：ﾎﾞｰﾙﾌｨｰｰﾘﾝｸﾞ（体とボールを馴染ませる運ぶ、止める、蹴る）とGAME（少人数の試合形式）でサッカーを楽しむ　理論Ⅱ　サッカーの歴史古代～現在

第 3 回　①サッカー実技Ⅱ　②理論Ⅲ：サッカーの特性
技術Ⅱ：全身でボールに触れる動き（運ぶ、止める、蹴る、投げる、打つ、捕らえる）、測定2種（8の字ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ、リフテイング）とGAME（LineGoal、2GOAL)
理論Ⅲ：サッカー競技の特性

第 4 回　①サッカー実技Ⅲ　②理論Ⅳ：サッカーのﾃｸﾆｯｸ
技術Ⅲ：GoalKeeper　トレーニング　とGAME
理論Ⅳ：サッカーの様々な技術

第 5 回　①サッカー実技Ⅳ　②理論Ⅴ：指導者とは
技術Ⅳ：ボールを奪われないための技術（ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ）とボールを奪うための技術（ﾁｬｰｼﾞとﾀｯｸﾙ）
戦術Ⅰ：ボールを奪われないための戦術（ｻﾎﾟｰﾄ）とボールを奪うための戦術（ｶﾊﾞｰﾘﾝｸﾞ）
理論

第 6 回　①サッカー実技Ⅴ　②理論：今日の実技振返り
技術Ⅳ：ボールを奪われないための技術（キックやパスプレーの精度ＵＰ）　ボールを奪うための技術（チャージとタックル）
戦術Ⅲ：ボールを奪われないための戦術（周囲の状況を観て判断するプレー)
ボールを奪うための戦術（インターセプト）
実技振り返りレポート作成

第 7 回　①サッカー実技Ⅵ　②理論：今日の実技振返り
ゲームⅠ：様々なゲーム（スモールサイド、4ゴール、ラインゴール、複数ゴール）
実技振り返りレポート作成

第 8 回　①サッカー実技Ⅶ　②理論：今日の実技振返り
ゲームⅡ：クアトロゲームによる試合運営と審判
実技振り返りレポート作成

第 9 回　①サッカー実技Ⅸ　②理論：今日の実技振り返り
ゲームⅢ：ノーマルゲーム（８－８or11－11）
実技振り返りレポートの作成

第 10 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５）②理論　ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5の技術Ⅰ：投げる、捕らえる、打つ。走る動作の要素を知る

第 11 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5）②理論　実技振返り
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5技術Ⅱ：投げる、捕らえる、打つ、走る動作を試合で試す。
理論Ⅰ　今日の試合を振り返りレポートの作成

第 12 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5）
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５技術Ⅲ：相手選手の裏をかくプレーにチャレンジする。
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5戦術Ⅰ：技術を発揮するために、ルールを理解し模擬試合で戦い方等を学ぶ

第 13 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５）
試合Ⅰ：試合の運営方法等の再認識とルールの統一
理論　今日の試合に関する振り返りレポートを作成する。

第 14 回　①サッカー実技　②今日の試合の振り返り
試合Ⅱ：GAME（学生が考えたルールと運営）
理論：今日の実技振り返りレポートの作成

第 15 回　①サッカー実技　②今日の試合の振り返り
試合Ⅲ：GAME（クアトロゲーム）個人の評価
理論：授業全体を通しての振り返りレポート作成。

〔成績評価〕

A:振り返りレポート等の提出物の成果（４０）
B:実技テスト・測定・試合結果（４０）
C:授業への取り組む姿勢（２０）

〔教科書〕

「なし」、適時資料を配布する。

〔参考文献〕

・日本サッカー（JFA）協会編　サッカー指導教本(2012,2014,2016,2018,2020版)
・ミニサッカーのいろいろ(遊戯社：監修　日本ミニサッカー連盟)
・21世紀のサッカー選手育成法ジュニアー編（大修館書店ｹﾞﾛﾋﾞｻﾝﾂ他著)
※その他授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

※大学からの指示でCOVID19の感染状況により実技授業や対面授業の実施が出来ない状況になった場合には2020年度と同様にHollyによるリモート学習を活用した授業とします。なお、「実技の振り返りレポート」はHollyを活用してレポートを提出することとします。
また、シラバスを一部変更して授業を進める場合もあります。その時には事前或いは事後に受講学生に改めて内容を提示します。

〔オフィスアワー〕

基本的にはHolly上でのやり取りとします。

法律学概論Ⅰ

2211
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
松本　　達也

〔到達目標〕
法の一般的概念を理解すると共に、新しい時代に即応できるように、更に従来の法学の領域を超えて発生する学際的な問題にも留意しながら幅広く法上の問題点を概説する。多面的・多角的に考察し、現代社会に見られる法的課題について公正に判断する力、それらを基に議論する力を養う。
〔授業の概要〕
憲法並びにいわゆる六法を社会人として最低限必要なスキルとして身に付け、日常生活をより豊かなものにする。更に、法上のトラブル等にも対応できるように講義の中で様々な事例を取り上げながら、考察し、議論する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：一週間の法律関連の新聞報道等の理解。新聞等の切り抜きを持参させ、熟考し、議論する。
復習：毎回の講義のテーマを２００字程度でまとめ、論述させる。
〔授業計画〕
第 1 回　法とは何か
　　法と社会、法の基本的要素。法の定義を学習する。
第 2 回　法の分類
　　自然法と実定法の分類を概観する。
第 3 回　法の効力
　　法の効力の根底とその範囲を学習する。
第 4 回　法の解釈と適用
　　法の解釈の意味と必要性。解釈の種類。法の適用を解説する。
第 5 回　家族と法
　　婚姻家族の成立と法的効果とその解消を解説する。
第 6 回　社会福祉と法
　　社会保障と社会福祉の仕組み、並びに高齢者福祉等を学習する。
第 7 回　財政と法
　　財産法の意義及び基本原理とその修正・展開概説する。
第 8 回　犯罪と刑罰の法
　　罪刑法定主義、不遡及禁止等の原理を理解する。
第 9 回　子供と法
　　法制の形成、構造、非行と子供保護法制と問題点を概括する。
第 10 回　教育と法
　　教育法を解説する。特に、私立学校、教育行政関連法を解説する。
第 11 回　労働と法
　　意義、個別的・集団的労働関係法を解説する。
第 12 回　企業と法
　　企業の概念、商法、会社関連法規を学習する。
第 13 回　政治社会と法
　　法と権力、行政と法について解説する。
第 14 回　国際社会と法
　　国際法上の国家及び個人について概観する。
第 15 回　裁判と法
　　民事・刑事裁判並びに裁判員制度の問題点を概説する。
〔成績評価〕
講義時間に適時課題を示して小論文を作成し、提出する。最終的な成績評価はこのことを含めて、定期試験の結果を併せて行う。
〔教科書〕
講義毎に教材・資料を印刷物で配布する。
〔参考文献〕
文部科学省中学・高等学校新学習指導要領解説
新版現代社会の法と憲法（松本他建帛社）
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学、政治学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、必修
〔オフィスアワー〕
① 前期・後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

Intercultural Studies Ⅰ (North Amerian and British Studies)

2217
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中田　　康行

〔到達目標〕
現代英米社会の中で言語と文化がいかに深く関わっているか、また英語が世界語としていかに有用であるか、英米の文化的起源と現状を深く理解すること。
〔授業の概要〕
世界語としての英語がいかにして世界語となり得たのかを考察する。さらに英米の大学の発展、民族間の問題の実相などを様々な文献を通して理解し、国際教養を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日常生活の中で様々な機会を捉えて英米の文化に関連する情報に接し、理解を深めること。
〔授業計画〕
第 1 回　授業概要の説明
　　授業概要、授業内容、成績評価等の説明
第 2 回　英語のルーツと世界への拡散

インド＝ヨーロッパ語族の中でも有力なゲルマン語族に属する英語は、西ゲルマン語派の有力な一言語であるが、その歴史的発展を考察する。

第 3 回　世界の中での英語の現状
英吾がいかに世界に拡散し、今やworld』Englishesと言われほど世界に広がっている。殿現状と問題点を考える。

第 4 回　英語母国語圏と非英語圏での英語
母国語。第二言語としての英語と外国語としての英語

第 5 回　アメリカの大学
日本の大学のモデルとなったアメリカの大学の特徴。

第 6 回　イギリスの大学（とカレッジ制）
OxfordとCambridge 大学の起源、および、その歴史的発展。カレッジとは何か。

第 7 回　イギリスのカレッジ制大学とキリスト教
キリスト教の発展とOxbridgeの発展・修道院と大学。

第 8 回　Anglo-American文化とラテン系文化(1)
アメリカ合衆国の形成とイギリスからの独立。メキシコ系移民の流入移民、。

第 9 回　Anglo-American文化とラテン系文化(2)
”Rehispanicization”とは何を意味するか、を考察し、アメリカが抱える移民問題を検討する。

第 10 回　アメリカ文化の諸特徴‘(1)
科学文明の最先端どう科学技術を駆使した様々な機械や道具といったイメージが強いアメリカの現代社会だが、必ずしもそうとは限らない、と、いう考察を行う。

第 11 回　アメリカ文化の諸特徴(2)
アメリカは「人種のるつぼ」などと言われるが、現実は「るつぼ」などではない。
人種的・民族的にいかなる問題があるかを考察する。

第 12 回　British English or American English?
アメリカ英語とイギリス英語はいかに異なるのか。21世紀の現在、この両者はどのような関係になっているのかを実例を取り上げ検討する。

第 13 回　イギリス文化の諸特徴（ルーツ）
アングロ=サクソン人はどこから来たのか、という古代史、歴史、文化史的観点からイギリス人のをルーツを考える。

第 14 回　イギリス文化の現状
21世紀のイギリスの文化の根源はアングロ=サクソンの文化に由来することを多様なアングルから検証する。

第 15 回　授業の総括と要点整理
イギリスとアメリカの文化はおおむね古代アングロ=サクソン文化を基礎とし、
その上に多様な文化の層が重なっていることを理解させる。
前期授業の総括と要点整理

〔成績評価〕
レポート(59%)
確認テスト(50%)
〔教科書〕
ハンドアウト、資料配布
〔参考文献〕
中田康行訳 『アングロ=サクソン人』（晃洋書房）
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

国際交流論

2231
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
本授業の目的は、身近な話題から国際文化や社会について考え、グローバル化社会での様々な現代的問題をさらに理解することである。
本授業を通して、学生は現代の様々な文化や社会の枠組みの中で起こっている問題について自らの意見を述べることができようになる。
〔授業の概要〕
本授業では、国際交流の意義の理解と国際交流の実践を考える。グローバル化が進展し、人・物・金・情報が地球上を自由に駆け回っている。その中で、国際交流が人間同士の相互理解を促進し、争いを避ける可能性があるため、国際交流の意義、現況、問題点等などを学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業と関連する新聞記事を授業の最初に話し合うために毎回持参すること。
〔授業計画〕
1. クラスオリエンテーション・アイスブレイク・国際交流とは何か
2. 現代社会（歴史的・地理的・民族的背景）季節と宗教：祭り、宗教、食べ物
3. 生活習慣：大浴場、ウォシュレット、箸、布団
4. 教育制度：就学前、小学校、中学校、高校、大学
5. 法制度：憲法、司法制度、陪審員制度
6. 社会構造：先輩後輩：年功序列と集団意識
7. 日本の心①：忖度、曖昧、沈黙
8. 日本の心②：建前と本音：根回し
9. 家系と男女関係：日本の家族制度と男女関係
10. 死亡率の低下：日本における育児
11. 少子高齢化社会：高齢化人口の増加
12. 外国人①：移民、難民
13. 外国人②：技能実習、特定技能
14. 少数民族に対する差別：LGBTIQ、部落、先住民族（アイヌ、沖縄）

15. 学生発表、期末レポート提出

〔成績評価〕
1. 期末レポート3,000語　50%　(最終日提出厳守)
2. クラスでの発表30%
3. 毎回、新聞記事を持参し、討議に積極的に参加し、コメント用紙に積極的に記入し提出する　　20%
〔教科書〕
適宜
〔参考文献〕

〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業の前後

教職論【中等】①

2303
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
・中学校・高等学校の教師を目指す者にとって必要な理念・制度・法律などの基礎的知識を
　修得する。
・教師としての資質・使命についての認識を深める。
・望ましい教師像の基盤を構築する。重ねて、将来の進路選択を考える機会とする。
〔授業の概要〕
教育に携わる者としての心得や教育の目指すべき姿を学校現場での具体的な事例を扱いながら，受講生個々の資質向上を図る。毎時間の演習課題に取り組みながら、生徒・保護者・地域に信頼される教師像を考察していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間の復習と演習課題に取り組む。(120分)
次時に向けて提示する資料を予習して授業に臨むこと。(120分)
〔授業計画〕
第 1 回　教職論の目的及び学校教育の目的
　　憲法、教育基本法に定める教育の目的。教師という言葉の概念。
第 2 回　教師に求められる資質・能力
　　教師の仕事の特殊性。これからの教員に求められる資質能力。
　　「チームとしての学校」が求められる背景。
第 3 回　児童・生徒の発達の特徴
　　発達段階区分の特徴。学習指導要領（特別活動の目標）から見る発達段階の目標。
　　受講生の中学時代の成長を振り返る。
第 4 回　生徒指導の意義
　　学校生活への適応・不適応。生徒理解の原理。
第 5 回　学級活動と生徒指導
　　集団形成に必要な学級経営の要素。学級活動と生徒指導の関連性。
第 6 回　授業と生徒指導
　　生徒の学習環境を整えるために必要な視点。学級担任が扱う実務・公簿などに関する基礎知識。
第 7 回　いじめと体罰
　　いじめ防止対策推進法の整理。学校教育法第11条から「懲戒と体罰」の違い。
第 8 回　教員の資格と研修
　　教員免許制度の概要。教員免許更新制の理解。
第 9 回　教員の服務制度
　　教育の服務上の義務と勤務時間外の身分上の義務。分限と懲戒。
　　綱紀粛正及び服務規律の確保。
第 10 回　教員の勤務条件
　　時間外勤務。休業日・週休日の勤務の違い。主な休暇・休業制度。
第 11 回　特別支援教育の概要とその必要性
　　障害を抱える生徒への関わり方。「障害者の権利に関する条約」及び「障害者差別解消法」に触れる。
第 12 回　特別の教科道徳
　　学習指導要領の変遷。道徳の目標及び道徳的価値。道徳科の評価。
第 13 回　学校法規基礎演習①
　　学校法規の種類。日本国憲法、教育基本法、学校教育法の必修内容を演習を通して理解する。
第 14 回　学校法規基礎演習②
　　学校教育施行令、学校教育施行規則に必修内容を演習を通して理解する。
　　教員が国民全体の奉仕者であることの定義。
第 15 回　教師という仕事の意義
　　授業全体を振り返りながら、教師に求められる資質と受講生自身の課題を整理する。
〔成績評価〕
定期試験75%　　平素の演習レポート25%
〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
授業中適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
生徒指導提要等（文部科学省）
教職論（教職につくための基礎・基本）　東海大学出版会等
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）、中一種、高一種、必修

【実務経験の活用】

中学校教諭や教育委員会での実体験を活かして、「教師に必要な資質」や「学校教育の抱える課題対応」を指導する。

〔オフィスアワー〕

tange@ashiya-u.ac.jp

水曜日　　14時～15時

English CommunicationⅦ

2319
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
中田　　康行

〔到達目標〕

英語のテープ（ディスク）を聞きながらリスニング力とスピーキング力を高められること。アメリカに留学した日本人学生のキャンパス・ライフを題材にした様々な場面を参考に英語運用力を養うこと。

〔授業の概要〕

アメリカの大学生の学業生活、キャンパスの様子、授業、パーティ、サンディェゴの気候など多様な内容をテーマとしながら、英語の音声を通して運用力を養う。授業はおおむね英語で行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

テレビやインターネットなどを利用し、英語の放送や番組などに進んで取り組むこと

〔授業計画〕

第 1 回　授業概要の説明
授業概要（方法、進度、成績・評価）の説明。

第 2 回　Teacher-Student Relationship
(本文聞き取り、リピート、確認)
先生と学生の関係が日本とは異なり、堅苦しくないことなど。

第 3 回　Teacher-Student Relationship
（練習問題）
とりわけCaliforniaでは人々は堅苦しくない生活様式を好むこと。

第 4 回　Wonderful San Diego
(本文聞き取り、リピート、確認)
San Diegoが自然のp環境に恵まれ、一年中様々なスポーツやリクリエーションが楽しめること。

第 5 回　Wonderful San Diego
（練習問題）
とりわけ海のスポーツが盛んであることや、メキシコ系の旧市街地が残り昔の面影もあること。

第 6 回　On Campus
(本文聞き取り、リピート、確認)
大学の授業形態や開講時間が日本の場合とは異なること。

第 7 回　On Campus
（練習問題）
早朝7時半にはすでに学生が数多くキャンパスにいること。多くの学生が仕事をしていることなど。

第 8 回　Americans Like to Party
(本文聞き取り、リピート、確認)
アメリカ人はよく週末にパ＾ティーを行うこと。(pot-luck party)

第 9 回　Americans Like to Party
（練習問題）
人公の女子学生 Misa が友人のパーティーに招かれる。

第 10 回　Being a Guest
(本文聞き取り、リピートl確認)パーティーに招かれた時の礼儀について。

第 11 回　Being a Guest
（練習問題）パー宇ティーと言っても正式な堅苦しいものではなく、招かれた者たちが何か(お菓子や花など）を持ち寄る pot-ｳck ﾊﾟrty というものの場合の対応の仕方。

第 12 回　San Diego Feels Good All Over
(本文聞き取り、リピート、確認) San Duegoのの一年を通しての天候のすばらしさ。

第 13 回　San Diego Feels Good All Over
（練習問題）San Diego のビーチでのマリーン・スポーツや付近の野山への散策など。

第 14 回　Male-Female Relationships
(本文聞きとり）男女間の友達付き合いについて。

第 15 回　Male-Female Relationships
（練習問題）男女間の付き合いで守るべき社会的なマナー。授業の総括といて、
口語英語学習上の要点の整理。

〔成績評価〕

聞き取りテスト数回(40%）
確認テスト(60%)

〔教科書〕

From Listening to Speaking
書籍絶版によりハンドアウト配布

〔参考文献〕

授業時に指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

武道Ｂ(剣道)③

2323
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有
伊藤　　武徳

〔到達目標〕
１）この授業を通して、剣道を基礎基本の段階から学び、授業構成をする上での知識を得る事ができる。
２）技能面では、１級受験可能レベルを目標とする。
３）教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。

〔授業の概要〕
・剣道の起源と変遷および剣道の特性を理解し、剣道の基本動作そして対人的技能を習得させる。
・剣道の理念である「剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。
・武道必修化に伴い中学生に剣道を伝えるための知識とスキルを学ぶ。
・課題に対してペアワークやグループワークを活用し学生主体による学習形態を構築する。
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ)」を提出する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
中学校における武道必修化に伴い、必ず身に付けないとならない知識技能であり、しっかりと身に付くまで授業外学習をすること。
予習：毎時指定した教科書及び当該教科の文献を熟読してくること。(毎回2時間)。
復習：毎時課題に対しての知識的理解と実践的取り組みを行うこと。(毎回2時間)。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、剣道の概要
第 2 回　剣道着の着脱法、 礼法（座礼・立礼）
　　稽古着・袴着脱法、 礼法（座礼・立礼）の説明と実践
第 3 回　「木刀による基本稽古法①」
　　基本動作（素振り・送り足)、受け方、打ち方の説明と実践
　　「基本１」 一本打ちの技　＜正面、小手、胴（右胴)、突き＞
　　「基本２」 二・三段の技　＜小手⇒面＞
　　「基本３」 払い技　＜払い面（表）＞
　　「基本４」 引き技　＜引き胴（右胴）＞
　　「基本５」 抜き技　＜面抜き胴（右胴）＞
第 4 回　「木刀による基本稽古法②」
　　基本動作（素振り・送り足)、基本となる技の説明と実践
　　「基本６」 すり上げ技　＜小手すり上げ面（裏）＞
　　「基本７」 出ばな技　＜出ばな小手＞
　　「基本８」 返し技　＜面返し胴（右胴）＞
　　「基本９」 打ち落とし技＜胴（右胴）打ち落とし面＞
第 5 回　「竹刀打ちこみ稽古法①」
　　基本動作（素振り・送り足)、基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 6 回　「竹刀打ちこみ稽古法②」
　　基本動作（素振り・送り足）
　　基本となる技：しかけ技（連続技・払い技・すり上げ技・打ち落とし技）
第 7 回　「防具を用いた稽古法①」
　　基本動作（素振り・送り足）
　　基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 8 回　「防具を用いた稽古法②」
　　基本動作（素振り・送り足）
　　基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手）
第 9 回　「防具を用いた稽古法③」
　　基本動作（素振り・送り足）
　　基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手・小手返し面）
第 10 回　剣道の審判法について
　　剣道の試合審判規則・細則の説明。
第 11 回　判定試合
　　判定による勝敗を通して審判を体験する。
第 12 回　1本勝負試合
　　有効打突（1本）による勝敗を通して審判を体験する。
第 13 回　試合（団体戦）
　　団体戦による試合形式を体験する。
第 14 回　演武会
　　演武を行うことで試合との違いや武道を体験する
第 15 回　試験とまとめ
　　実技試験

〔成績評価〕
・技能（20%）
・知識理解（20%）
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ)」(60%）を総合的に評価する。
※レポート課については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕
文部科学省：『剣道指導の手引き』
全日本剣道連盟：『木刀による基本指導法の手引き』

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
学校現場などでの武道（剣道）講師と指導者の経験より、実践教育と効果的な指導方法を学校教育の実態と体験を踏まえ指導する。

〔オフィスアワー〕
水曜日12：10～13：10となります。事前予約をお願いいたします。
tito@ashiya-u.ac.jp

武道A(柔道)②

2328
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
新　和己　武田　光平

〔到達目標〕
本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。
科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技)、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。
教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。
〔授業の概要〕
柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作そして対人的技能を習得させる。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
中高学習指導要領及び当該教科の文献などを積極的に参照すること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、柔道の概要
柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について学習する。
第 2 回　柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
柔道衣の着方について学習する。礼の意味を理解し、礼法（立礼、座礼）について学習する。
第 3 回　後ろ受け身、横受け身、前受け身
受け身の目的を理解し、後ろ受け身、横受け身、前受け身について
学習する。
第 4 回　：前回り受け身（立ち上がらない)、横四方固め
前回り受け身（立ち上がらない）について学習する。抑え込み技の定義について理解し、横四方固めについて学習する。
第 5 回　前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
前回り受け身（立ち上がる)、上四方固めについて学習する。
第 6 回　袈裟固め、組み方、八方の崩し
袈裟固め、組み方、八方の崩しについて学習する。
第 7 回　投げ技の基本①
柔道投技の「膝車」、「大外刈」について学習する。
第 8 回　投技の基本②
柔道投技の「大内刈」、「体落」について学習する。
第 9 回　投技の基本③
柔道投技の「釣込腰」、「背負投」について学習する。
第 10 回　動きの中で技を掛ける
これまでに習得してきた技を、動きの中で掛ける動作について学習する。
第 11 回　投の形（手技）
投の形（手技）「浮落」「背負投」「肩車」について学習する。
第 12 回　投の形（腰技）
投の形（腰技）「浮腰」「払腰」「釣込腰」について学習する。
第 13 回　投の形（足技）
投の形（足技）「送足払」「支釣込足」「内股」について学習する。
第 14 回　審判法
柔道のルールについて学習する。
第 15 回　まとめ
実技試験。
〔成績評価〕
・授業への積極的参加度も重視し、実技と合わせて総合的に評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布。
〔参考文献〕
講義中に紹介。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育)、高一種（保健体育)、必修
〔オフィスアワー〕
場所：記念館2階講師控室
日時：火曜日13:30～17:00
基本的に来室の際にはアポイントを取ってください。

English CommunicationⅤ

2331
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
中田　康行

〔到達目標〕
英語のディスクを聞きながら英語の表現に慣れること。文法的に妥当な表現ができるようになること。
〔授業の概要〕
アメリカに留学した女子学生を想定したテキストを聞き、、様々な場面での会話を中心に多様な表現を練習する。。文法を気にかけなくても良くなる程度にまで聞き取りの訓練を行い、発話ができるように練習する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ふだんから英語放送やインターネットなどの音声メディアに接し、耳の訓練をしておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　授業概要（方法、震度、成績・評価）の説明。
授業全般についての要点の説明。口語英語の練習の方法など。
第 2 回　Encountering an International Student（テキスト確認）
留学先でのルームメイトとの対面
第 3 回　Encountering an International Student（練習問題）
寮での生活や授業の準備など。
第 4 回　Talking about Judy’s Hometown（テキスト確認）
アメリカ人学生のルームメイトJudyの町の記述。
第 5 回　Talking about Judy’s Hometown（練習問題）
Judyの故郷の町を津図で探す。
第 6 回　Beautiful Santa Monica Beach（テキスト確認）
Santa Monicaの美しい海岸の景観。
第 7 回　Beautiful Santa Monica Beach（練習問題）
数多くの観光客が来ることやカリフォルニア州有数のリゾートであることなどの記述。
第 8 回　Judy’s Room in the Dormitory（テキスト確認）
寮の室内での会話(授業のことなど)。日常の表現に慣れる。
第 9 回　Judy’s Room in the Dormitory（練習問題）
週末のショッピングやパーティーの話題など。
第 10 回　On the Way to Mai’s Home（テキスト確認）
夏休み期間にJudyがMai(日本人学生の名前)の故郷(神戸)を訪ねる設定。
第 11 回　On the Way to Mai’s Home（練習問題）
MaiがJudyを日本の観光地に案内し、自分の家にも招待する。
第 12 回　What a Comfortable Home!（テキスト確認）
Maiの家でJudyが日j;本の生活を実体験する。
第 13 回　What a Comfortable Home!（練習問題）
アメリカ人学生のJudyとMaiの家族が様々な話題でもりあがる。簡単な口語表現を覚え、習熟できるように練習する。
第 14 回　Taking Summer Vacation in America（テキスト確認）
アメリカ人学生が夏休みをいかに過ごすかについて、Ｊｕｄｙが語る。
第 15 回　Taking Summer Vacation in America（練習問題）
Maigが秋学期前にアメリカに行き幾つかの都市を訪ねる。授業の総括として、口語
英語の練習上の要点を再確認する。
〔成績評価〕
確認テスト（60%）
数回の聞き取りテスト(40%)
〔教科書〕
Anthony Parker, Let’s Enjoy English at Home and Abroad ((松柏社)
(教科書を持参しない学生の受講は許可しない。)
〔参考文献〕
授業中に適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

英語教育の変遷

2333
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
平井　毎美

〔到達目標〕
英語を学習し、教える者として必要不可欠な史実を中心にし、日本における英語教育の発生の背景事情・変遷の理解を深める。
〔授業の概要〕
教師としてリサーチ力や必要なプレゼンテーション技術習得の為の練習をおこなう。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ハンドアウトを授業の前に読んで理解すること。
指定された事柄を次の授業時間までに調査し、まとめ、調査元の資料名を明記し提出すること。また、毎回講義中のノートを整理し復習を行うこと。

〔授業計画〕
第 1 回　Introduction 講義内容の説明と進め方及び評価方法について
Final Presentation: Research & Presentationの方法について
第 2 回　日本人にとっての最初の外国語は？
いつ？誰から？何処で?
第 3 回　和学 V.S. 洋学?!
では蘭学は？それぞれの変遷と役割
第 4 回　英学事始
英語教育史上最も有名な出来事とは？
第 5 回　First Native Speaker Teacherは誰でしょう？
学習方法とは？
第 6 回　日本初のテキスト及び学習方法
誕生秘話および発展
第 7 回　日本人初の留学生誕生秘話
その人の生死を掛けたおもい
第 8 回　Research & Presentationの方法についての説明
選択する人物についての詳しい説明
第 9 回　江戸時代～幕末～明治維新
江戸から明治維新までのある教育機関の変遷
第 10 回　Research & Presentation準備 I
個人指導を中心に
第 11 回　明治維新以降の教育環境の変化

英語教育直輸入：お雇い外国人教師及び教材の課題
第 12 回　Research & Presentation準備Ⅱ
個人指導を中心に
第 13 回　Research & Presentation発表
全員で評価も行う
第 14 回　Research & Presentation　Review
英語教育衰退期～現代まで
第 15 回　歴史からまなぶことそして未来へ
まとめ

〔成績評価〕

前期試験、課題、レポート発表、小テスト、平常の授業参加態度の総合評価とします。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布します。

〔参考文献〕

講義の流れに沿って紹介します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

水曜日14：00～１5：00
土曜日13：00～14：00

武道Ａ（柔道）①

2336
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
新　　和己　武田　　光平

〔到達目標〕

本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。
科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技）、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。
教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。

〔授業の概要〕

柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作そして対人的技能を習得させる。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

中高学習指導要領及び当該教科の文献などを積極的に参照すること。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション、柔道の概要
柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について学習する。
第 2 回　柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
柔道衣の着方について学習する。礼の意味を理解し、礼法（立礼、座礼）について学習する。
第 3 回　後ろ受け身、横受け身、前受け身
受け身の目的を理解し、後ろ受け身、横受け身、前受け身について
学習する。
第 4 回　：前回り受け身（立ち上がらない）、横四方固め
前回り受け身（立ち上がらない）について学習する。抑え込み技の定義について理解し、横四方固めについて学習する。
第 5 回　前回り受け身（立ち上がる）、上四方固め
前回り受け身（立ち上がる）、上四方固めについて学習する。
第 6 回　袈裟固め、組み方、八方の崩し
袈裟固め、組み方、八方の崩しについて学習する。
第 7 回　投げ技の基本①
柔道投技の「膝車」、「大外刈」について学習する。
第 8 回　投技の基本②
柔道投技の「大内刈」、「体落」について学習する。
第 9 回　投技の基本③
柔道投技の「釣込腰」、「背負投」について学習する。
第 10 回　動きの中で技を掛ける
これまでに習得してきた技を、動きの中で掛ける動作について学習する。
第 11 回　投の形（手技）
投の形（手技）「浮落」「背負投」「肩車」について学習する。
第 12 回　投の形（腰技）
投の形（腰技）「浮腰」「払腰」「釣込腰」について学習する。
第 13 回　投の形（足技）
投の形（足技）「送足払」「支釣込足」「内股」について学習する。
第 14 回　審判法
柔道のルールについて学習する。
第 15 回　まとめ
実技試験。

〔成績評価〕

・授業への積極的参加度も重視し、実技と合わせて総合的に評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布。

〔参考文献〕

講義中に紹介。

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
場所：記念館2階講師控室
日時：火曜日13:30～17:00
基本的に来室の際にはアポイントを取ってください。

健康スポーツ科学実習

2339
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有

西光　哲治　別當　和香　伊藤　武徳　武田　光平

〔到達目標〕
1）健康教育である運動・スポーツを実践することができる。

2）運動・スポーツを通して、自身の体力を向上させ、健康的な生活習慣の確立を身に付けることができる。

3）さらに、スポーツを通じて『コミュニケーション能力』『協調性』などの社会人基礎力を図ることができる。

〔授業の概要〕
近年、「運動不足」「体力の低下」「身体活動量の低下」が各年代の生活習慣病の原因であると多くの研究で明らかにされ、急務に改善しなければならない問題とされている。このような背景から、実技授業を通して体力の強化やケガをしない身体づくりはもちろんのこと、様々な運動やスポーツのルールの理解や運営方法を学び、スポーツの楽しさや表現力を習得する。実習場所は、福山記念館フロア（①）・第2体育館フロア（②）・卓球場（③）・グランド（④）の4ヶ所でおこない、各週学生が移動をして様々な競技を体験する。
◇受講要件◇
・実技科目にふさわしい服装で受講すること
・体育館では室内シューズを使用すること
・15分を過ぎての入室及び15分以上の退室は欠席扱いとする
・腕時計、ピアス等の着用禁止
・爪は短く、長い者はテーピングで保護する事

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：シラバスを確認し、関連スポーツに関する各競技のルールや特性などをノートにまとめておくこと。(2時間)

復習：実習でできたこと等をノートにまとめ、自身の健康維持・増進に向けて積極的にスポーツの実践を図ること。(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。
担当教員の紹介。（別當・武田）
第 2 回　新体力テスト①
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）
第 3 回　新体力テスト②
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）
第 4 回　新体力テスト③
①筋力・筋持久力系のテスト実施　（伊藤・西光）
②持久力・柔軟系のテスト実施　（武田）
③瞬発力系のテスト実施　（別當）
第 5 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価①
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當
第 6 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価②
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當
第 7 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価③
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當
第 8 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価④
①バスケットボール：伊藤　②バトミントン：武田　③卓球：西光　④サッカー：別當
第 9 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑤
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當
第 10 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑥
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當
第 11 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑦
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當
第 12 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑧
①バレーボール：伊藤　②ショートテニス：武田　③キンボール：西光　④ハンドボール：別當
第 13 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑨
①ラグビー：伊藤・西光　②インディアカ：武田　④アルティメット：別當
第 14 回　基本技術の習得とルール理解及びゲーム運営と評価⑩
①ラグビー：伊藤・西光　②インディアカ：武田　④アルティメット：別當
第 15 回　新体力テスト最終評価
グループ討議及びテストレポート（別當・伊藤）

〔成績評価〕
≪配点内訳≫
授業への意欲・態度（30%）
体力テスト結果(20%)
実技点(30%)
テストレポート(20%)
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領・解説（最新版）
適宜紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
保健授業の経験を活かし、体つくり運動や健康の維持・増進やスポーツ現場における課題や問題の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
毎週木曜日10:00～16:00
事前に下記のメールアドレスに連絡下さい。
tetsuji@ashiya-u.ac.jp
記念館1階西光哲治研究室

武道Ｂ（剣道）④

2342
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有
伊藤　　武徳

〔到達目標〕
１）この授業を通して、剣道を基礎基本の段階から学び、授業構成をする上での知識を得る事ができる。
２）技能面では、１級受験可能レベルを目標とする。
３）教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。
〔授業の概要〕
・剣道の起源と変遷および剣道の特性を理解し、剣道の基本動作そして対人的技能を習得させる。
・剣道の理念である「剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。
・武道必修化に伴い中学生に剣道を伝えるための知識とスキルを学ぶ。
・課題に対してペアワークやグループワークを活用し学生主体による学習形態を構築する。
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ）」を提出する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
中学校における武道必修化に伴い、必ず身に付けないとならない知識技能であり、しっかりと身に付くまで授業外学習をすること。
予習：毎時指定した教科書及び当該教科の文献を熟読してくること。（毎回2時間）。
復習：毎時課題に対しての知識的理解と実践的取り組みを行うこと。（毎回2時間）。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　授業の進め方、成績評価、剣道の概要
第 2 回　剣道着の着脱法、 礼法（座礼・立礼）
　稽古着・袴着脱法、 礼法（座礼・立礼）の説明と実践
第 3 回　「木刀による基本稽古法①」
　基本動作（素振り・送り足）、受け方、打ち方の説明と実践
　「基本１」 一本打ちの技　＜正面、小手、胴（右胴）、突き＞
　「基本２」 二・三段の技　＜小手⇒面＞
　「基本３」 払い技　＜払い面（表）＞
　「基本４」 引き技　＜引き胴（右胴）＞
　「基本５」 抜き技　＜面抜き胴（右胴）＞

第 4 回　「木刀による基本稽古法②」
　基本動作（素振り・送り足）、基本となる技の説明と実践
　「基本６」 すり上げ技　＜小手すり上げ面（裏）＞
　「基本７」 出ばな技　＜出ばな小手＞
　「基本８」 返し技　＜面返し胴（右胴）＞
　「基本９」 打ち落とし技＜胴（右胴）打ち落とし面＞
第 5 回　「竹刀打ちこみ稽古法①」
　基本動作（素振り・送り足）、基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 6 回　「竹刀打ちこみ稽古法②」
　基本動作（素振り・送り足）
　基本となる技：しかけ技（連続技・払い技・すり上げ技・打ち落とし技）
第 7 回　「防具を用いた稽古法①」
　基本動作（素振り・送り足）
　基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 8 回　「防具を用いた稽古法②」
　基本動作（素振り・送り足）
　基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手）
第 9 回　「防具を用いた稽古法③」
　基本動作（素振り・送り足）
　基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手・小手返し面）
第 10 回　剣道の審判法について
　剣道の試合審判規則・細則の説明。
第 11 回　判定試合
　判定による勝敗を通して審判を体験する。
第 12 回　1本勝負試合
　有効打突（1本）による勝敗を通して審判を体験する。
第 13 回　試合（団体戦）

団体戦による試合形式を体験する。
第 14 回　演武会
演武を行うことで試合との違いや武道を体験する
第 15 回　試験とまとめ
実技試験
〔成績評価〕
・技能（20%）
・知識理解（20%）
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ）」（60%）を総合的に評価する。
※レポート課については評価後、個別コメントつけて返します。
〔教科書〕
文部科学省：『剣道指導の手引き』
全日本剣道連盟：『木刀による基本指導法の手引き』
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
学校現場などでの武道（剣道）講師と指導者の経験より、実践教育と効果的な指導方法を学校教育の実態と体験を踏まえ指導する。
〔オフィスアワー〕
水曜日12：10〜13：10となります。事前予約をお願いいたします。
tito@ashiya-u.ac.jp

宗教学概論 I

2404
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
杉島　　威一郎

〔到達目標〕
キリスト教，イスラム教，仏教，儒教などの基本的な考え方を取り上げながら、宗教学の基本的理論を理解する。
〔授業の概要〕
宗教学の成立過程や初期の重要な学説について説明する。同時に主要な宗教の歴史を説明する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「次の授業に小テストを行うため、ノートを整理し重要語句を理解すること（90 分）」
「授業後のレポート作成（90 分）」など
〔授業計画〕
第 1 回　宗教学とは
広義の宗教学と狭義の宗教学の違いについて説明する。
第 2 回　宗教学の領域
宗教学の 4 分野について説明する。
第 3 回　原初の宗教について
考古学的・民俗学的方法により原初の宗教形態を説明する。
第 4 回　呪術とは
呪術とはどのような現象かについて説明する。
第 5 回　科学と呪術と宗教の関係
科学、呪術、宗教の類似点と相違点について説明する。
第 6 回　仏教について
原始仏教について説明する。
第 7 回　一神教について
ユダヤ教、キリスト教、イスラム教について説明する。
第 8 回　神道について
神道の成立と展開について説明する。
第 9 回　日本仏教について
日本における仏教の展開と神仏習合について説明する。
第 10 回　世界宗教と民衆宗教
世界宗教と民俗宗教との差異について説明する。
第 11 回　一神教の広がりについて
仏教、キリスト教、イスラム教の広がりについて説明する。
第 12 回　宗教の分類
宗教を様々な視点で分類する。
第 13 回　宗教進化論
宗教が多神教から一神教へと進化するかについて説明する。
第 14 回　宗教の変容
時代の変化と宗教の変化との関連について説明する。
第 15 回　グローバル化と宗教
現代の宗教事情について説明する。
〔成績評価〕
小テスト（40%）と期末試験（60%）の合計で判定する。
〔教科書〕
文部科学省　中学校及び高等学校学習指導要領

○○学校学習指導要領（平成○年○月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成○年○月告示、文部科学省）
○○学校学習指導要領解説　○○編（平成○年○月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
石井研二『プレステップ　宗教学』 弘文堂　平成２２年
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、必修

【実務経験の活用】
現代的な宗教の課題を示し、宗教者側の考えまた行政側の考えを提示し、どのような解決の方法があるか議論しながら授業を展開することもある。

〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

日本史概論Ⅰ

2405
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
杉島　　威一郎

〔到達目標〕
日本史上の重大な出来事、人物、文化などを時代ごとに理解する。
〔授業の概要〕
我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解し、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考える。
歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を確認する。国際関係や文化交流のあらましを理解し、国際協調の精神を養う。我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業のおわりに、まとめの課題を付す。(2時間)
授業冒頭に前回授業の小テストを行う。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　日本のあげぼの
　　農耕社会の成立から古墳時代まで
第 2 回　律令国家への歩み
　　飛鳥時代から奈良時代まで
第 3 回　貴族社会と文化
　　平安遷都から摂関政治まで
第 4 回　鎌倉幕府成立前後
　　院政時代から承久の乱まで
第 5 回　武士の社会と文化
　　執権政治から鎌倉幕府の衰退まで
第 6 回　武士社会の展開
　　室町時代を中心に
第 7 回　織豊政権と桃山文化
　　応仁の乱以降の社会と文化
第 8 回　幕藩体制と文化
　　幕政の安定と経済の発展について
第 9 回　江戸幕府の衰退
　　幕政の改革と幕府の衰退
第 10 回　近代国家の成立と展開
　　立憲国家と日清・日露戦争について
第 11 回　明治の時代と文化
　　近代産業の発展と文化
第 12 回　第一次世界大戦前後の日本
　　大正期の社会と文化を中心に
第 13 回　第二次世界大戦前後の日本
　　昭和初期の社会と文化を中心に
第 14 回　第二次世界大戦前後の日本
　　昭和初期の社会と文化を中心に
第 15 回　まとめ
　　前期のまとめを行う
〔成績評価〕
期末に筆記テスト（70パーセント）
授業時の小テスト（30パーセント）
〔教科書〕
中学校学習指導要領
高等学校学習指導要領
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、日本史・外国史、中一種（社会）、必修
〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

生徒・進路指導の理論と方法【中等】

2406
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
湯尾　　愼一

〔到達目標〕
生徒指導（進路指導を含む）に関する基礎的な理論と指導方法を理解することを目標とする。とくに実践的な課題を踏まえて、指導場面に即して適切な生徒指導（進路指導を含む）の基礎となる理論と指導方法を学ぶことを目標とする。
〔授業の概要〕
生徒指導と進路指導の本質と原理、および領域、進め方および方法について概説する。生徒指導や進路指導の方法については集団指導と個別指導の双方の視点から説明する。生徒指導上の諸問題については、生徒の問題行動や教育病理的現象を取り上げて説明する。キーワードは、自己指導力、問題行動、生徒理解、学級経営、自己理解、教科指導、進路指導。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学校教育における諸問題について新聞・雑誌などで知識を付けておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　生徒指導の教育的意義
　　生徒指導の意義について学ぶ
第 2 回　生徒指導の原理

生徒指導の原理について学ぶ。
第 3 回　生徒指導と進路指導の課題
生徒指導と進路指導の実勢的課題について学ぶ。
第 4 回　生徒指導の理論
発達と相談について学ぶ。
第 5 回　生徒指導と領域
生徒指導の領域について学ぶ。
第 6 回　生徒理解の目的
生徒理解の目的についてまなぶ。
第 7 回　生徒理解の進め方
生徒理解の進め方について学ぶ。
第 8 回　生徒理解の方法(１)
生徒理解の方法について学ぶ。
第 9 回　生徒指導と進路指導
進路指導の理論（進路発達理論）と指導の進め方について学ぶ。
第 10 回　生徒理解の方法(２)
進路指導のための生徒理解について学ぶ。
第 11 回　学級経営の進め方
学級経営の進め方について学ぶ。
第 12 回　教科指導と生徒指導・進路指導
教科指導を通じた生徒指導・進路指導
第 13 回　進路（職業）指導に通じるキャリア教育
将来の職業を見据えたキャリア教育 j について学ぶ。
第 14 回　生徒・進路指導体制と教員研修
指導体制を確立するための教職員研修
第 15 回　生徒・進路指導における家庭との連携
家庭との連携について学ぶ。

〔成績評価〕

試験７０％
講義時に提出する小レポート３０％

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

中学校学習指導要領（2017）文部科学省
高等学校学習指導要領（2018）文部科学省
生徒指導提要（2010）文部科学省

〔履修条件〕

〔備考〕

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法含む、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕

LMS経由で質問をしてください。

フードビジネス経営論

2448
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
永井　　正信

〔到達目標〕

外食産業、いわゆるフードビジネス業界への就職を目指す学生やこの業界での起業を目指す学生が、業界の概要や動向、ビジネスの基本的な理論や手法を学ぶことを目標とする。また、業界での就職や起業を目指さない学生であっても受講できる。

その場合は、フードサービスの仕組みや楽しさを学ぶことにより、豊かな人生を送る糧と出来るよう指導する。

〔授業の概要〕

フードサービス業界について、その市場規模や歴史、各種業態、チェーンレストランのシステムなど、産業としての業界の現状や今後について解説する。

店舗運営の実際を学ぶと共に上場会社外食トップの特別講義(予定))を取り入れるなど、実学としてのフードビジネス論を理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

普段身近にあるフードサービスの世界を、学問として、資料を基に理論的体系的に学べるよう授業を行う予定。

資料の復習や推奨レストランチェーンの授業外での視察（本年度は実施しない予定）などを積極的に行うことで更に理解が深まると考える。

〔授業計画〕

第 1 回　フードサービスの歴史
世界や我が国における食文化の発展や歴史を解説
第 2 回　外食産業の概要
講義の進め方,産業としてのフードサービスを学ぶことの意義を理解
第 3 回　産業としてのフードサービス
業界の市場規模や雇用の役割、産業としての位置づけを解説
第 4 回　フードサービスの業種業態
業種・業態の違いを客単価、客層などの分析により解説
第 5 回　レストラン経営の実際（１）
フードサービスビジネスの収益構造などについて解説
第 6 回　レストラン経営の実際（２）
「商圏」の考え方、より良い「出店立地」の考え方などについて解説
第 7 回　外食経営者による特別講義
実際の経営者によって、最新の業界動向や企業の経営戦略などを講義
第 8 回　チェーンレストランのシステム（１）
チェーンレストランの特徴及び組織運営やフランチャイズチェーン（FC）の概要とその仕組みについて解説（1/2）

第 9 回　チェーンレストランのシステム（2）
チェーンレストランの特徴及び組織運営やフランチャイズチェーン（FC）の概要とその仕組みについて解説（2/2）
第 10 回　フードサービスと人材育成（1）
教育産業と言われるフードサービス業界における教育・評価の仕組みを解説
（1/2）
第 11 回　フードサービスと人材育成（2）
教育産業と言われるフードサービス業界における教育・評価の仕組みを解説
（2/2）
第 12 回　フードサービスの社会的責任
安全・安心を基本とし、環境問題やCSR活動などフードサービス業界の果たすべき役割と現状について解説
第 13 回　フードサービスの課題
フードサービス業界に内在する課題や業界を取り巻く課題について解説
第 14 回　フードサービスの今後の展望
フードサービスのこれからのあり方や取組について解説
第 15 回　まとめ
上記の講義で学んだことを総括する。

〔成績評価〕

毎回の講義の課題レポート及び経営者による特別講義の課題レポートをもとに総合的に評価する。特別講義が実施できない場合は、毎回提出の講義レポートの評価をもとに総合的に評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】

フードサービス業界について、その市場規模や歴史、各種業態、出店戦略、コスト管理、人材育成のあり方など、産業としての外食業界の現状や今後について自らの経営者としての経験と共にチェーンシステム理論をベースに体系的に解説

教室での講義と共に、実際の店舗視察を通じて店舗運営の実際を実地で学ぶ（本年度は実施しない予定）など、実学としてのフードビジネス論を指導

〔オフィスアワー〕

①前期
②水曜日：15：30～17：00
③連絡先：m-nagai@ashiya-u.ac.jp にメールかPhollyのメッセージで質問・相談をしてください。

英語Ⅲ①

2501
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
ﾏｼｭｰ ｾﾊﾞｽﾁｬﾝ　ｸｰﾊﾟｰ

〔到達目標〕

基本的な英文法を再確認しながら、ペアワークやグループワークを取り入れて、単に知識だけではなく、日常で使える英語力を養う。

〔授業の概要〕

前期に引き続き、英文法を学びながら、さまざまな文に応用できるよう、練習問題を通して理解を深める。また、視聴覚教材を用いて、生きた英語に触れ、リスニングやスピーキングの力を伸ばす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎週、講義を復習する。
推奨すること：音段から、英語の歌を聴いたり、映画を見たり、英語に触れるようにする。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　Possessive nouns
第 3 回　Count and non-count nouns
第 4 回　Can and can’t
第 5 回　Simple past regular verbs
第 6 回　Simple past irregular verbs
第 7 回　Subject and object pronouns
第 8 回　How much and how many
第 9 回　There is and there are
第 10 回　Noun and adjective modifiers
第 11 回　Comparative adjectives
第 12 回　Prepositions of time
第 13 回　Future with Be Going To
第 14 回　本試験の準備
第 15 回　まとめ

〔成績評価〕

出席, 参加50%、
小テスト10%
期末テスト40%

〔教科書〕

不要；講師より教材の配布あり）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

授業後

英語Ⅲ②

2502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中田　　康行

〔到達目標〕
平易な英文を早く読みこなし、理解できるようになることに加えて、様々な英語の慣用表現になれること。
〔授業の概要〕
日本人の学生がイギリスに旅行に出かける話を通して、多様な場面での英語表現に習熟することを心がける。そのような場面には、レストラン、ホテルの予約、買い物や鉄道の切符購入などが含まれる。多様な場面の英語に接することで英語力を高め、表現に習熟する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
普段から、英語の放送や、英字新聞などに取り組んでみること。
〔授業計画〕
第 1 回　授業概要の説明
授業内容、進度の説明。成績・評価方法の確認。
qwWelcome to England
第 2 回　he　Carter Family
ロンドンへの飛行、イギリスの家族との対面。
第 3 回　Fish and Chips for lunch
イギリスの庶民的な食べ物fish and chipsと一般の生活
第 4 回　Train Tickets
イギリスの鉄道について。いかに切符を買い求めるか。またどのような
割引があるのかなど。
第 5 回　AWeekend away
イギリスのホスト・ファミリーと週末の小旅行に出かける際の鉄道の予約予約・利用方法など。
第 6 回　Reserving away
帰りの列車の予約や、行った先の宿泊場所の予約などを確実にしておくこと。小旅行の楽しみ。
第 7 回　At a Restaurant
ストランでの注文の仕方や、そこでの典型的な会話のやり土りなど。チップの習慣など。
第 8 回　London suburba\s
大都市ロンドンの郊外を訪ねて、人々の生活や、街並みの景観などの美しさを読み取る。
第 9 回　Shopping
町での風景。(とりわけクリスマスの時期の町の景観）買い物客の表情など。
第 10 回　The Local Pub
パブは単にお酒を飲むだけの場所ではない。一種の社交の場であることを理解することでイギリス人の生活に根を下ろす文化の一面であることを知る。
第 11 回　At the Post Office
郵便局での言葉のやり取り、切手を買う時の表現や荷物の送り方など・
第 12 回　Shopping for Clothes
服のサイズの表現や、装身具の買い求め方など、何でもない簡単な表現に習熟する。
第 13 回　The Weather
イギリスは雨がよく降る。天候や気候の記述にどのような日常表現が多く使われるかを学ぶ。
第 14 回　Yrk Minster
イギリスを代表する古刹であるヨーク・ミンスターを訪ねることで、その大教会の威様さに感動するだけではなく、大聖堂建築の歴史にも関心を抱かせる。
第 15 回　Going to a Doctor
体調を崩した時に病院などで診察を受けるが、そのような場面での言葉そやり取りを学ぶ。
授業内容の総括と要点の整理。
〔成績評価〕
授％業時の発表(20％)）
確認テスト2回(80＆￥％）
〔教科書〕
TerryO‘Brien著　A Trip to Britain（南雲堂）
（スマホ等によるコピーは許可しません。）
〔参考文献〕
業中に指示。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅲ③

2503
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
TOEIC新形式の初級～中級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。
〔授業の概要〕
各UnitのPart 1~Part 4はListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。
Part 5～Part 7は、文法理解と内容理解を目標に置く。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時の復習をし、次時の確認テストに向けて学習しておくこと。(120分)

指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。(120分)

〔授業計画〕

第 1 回　英語Ⅱの復習
既習の語彙、構文の復習　　授業内で確認テストをする

第 2 回　Unit 9 Shopping
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 3 回　Unit 9
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学修。

第 4 回　Unit 10
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 5 回　Unit 10
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。

第 6 回　Unit 11 Computers
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 7 回　Unit 11 Computers
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。

第 8 回　Unit 12 Offices
職場の場所や従業員などに関する主な語彙を整理する
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。

第 9 回　Unit 12 Offices
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。副詞、接続詞に注目した英文の読み方を整理する

第 10 回　Unit 13
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
職業、職役、事務用品など仕事に関する用語を整理する。

第 11 回　Unit 13
不定詞、動名詞の用法を復習
Part 5～Part 7 の内容理解。新出語彙、語句の学習

第 12 回　Unit 14 Business
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
示されたグラフィックの内容を平易な英語で表現する。

第 13 回　Unit 14　Business
Part 5～Part 7 の内容理解。新出語彙、語句の学習

第 14 回　Unit15 MINI TOEIC
TOEICテストの模擬　　授業内で自己採点をし、課題を見つける。

第 15 回　総復習
既習の表現を使って自己表現をしながら、総復習をする。

〔成績評価〕

授業での課題への取り組み　25%　　テスト　75%

〔教科書〕

RAISING YOUR LEVEL !
FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST （南雲堂）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。

〔オフィスアワー〕

tange @ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　　研究室11

英語Ⅲ④

2504
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
浜本　　幸子

〔到達目標〕

１．英語を聴き、読むことを通して必要な情報を的確に収集できるようになる。
２．さまざまな場面での特有の表現を習得し、状況に応じて対応できるようになる。
３．文構造の復習をし、自ら適切な文を考え表現できるようになる。

〔授業の概要〕

さまざまな場面設定毎に作成されたテキストを使用し、聴き取り、発話、作文などを行う。ペアワークやその他の言語活動を取り入れ、実践的なコミュニケーション力を養えるような授業構成にする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

復習中心。毎回の授業で学んだ内容をしっかり定着させるよう、各自の復習が重要。読むこと・　書くこと（90分）

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション・復習
授業の目標、方針、評価方法等の説明。過去1年間の復習。

第 2 回　空港で
入国審査や空港で必要な語彙、表現を習得する。また、文法の復習として「接続詞」を扱い、表現の幅を広げる。

第 3 回　ホテル
インターネットでホテルの予約をする時やホテル滞在時に必要な語彙、表現を学ぶ。また、文法として「不定詞」を復習する。

第 4 回　レストランで
メニューの見方、注文の仕方など、レストランで必要な語彙、表現を習得する。
文法として「形容詞」を復習する。
第 5 回　ここまでの復習と補足
前3回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。
第 6 回　ショッピング
買い物で使用する頻度の高い語彙、表現を習得する。また、「頻度を表す副詞」を復習する。
第 7 回　ベースボール
野球に関連する語彙、表現を習得する。文法として「比較級」を復習する。
第 8 回　ミュージカル鑑賞
ネット上でミュージカルに関する情報を読み、チケットを購入するのに必要な語彙、表現を習得する。また、「現在完了」を復習する。
第 9 回　前3回の復習と補足
前3回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。
第 10 回　旅行案内
ニューヨークへの旅行を想定して情報収集する中で必要な語彙、表現を習得する。
また、「受動態（1）」を復習する。
第 11 回　トラブル・シューティング
忘れ物をしたなど、困ったことが起きたときに必要な語彙、表現を習得する。
また、「受動態（2）」を復習する。
第 12 回　体調不良
体調不良を訴えるときに必要な語彙、表現を習得する。また、「分詞」について復習する。
第 13 回　電話での申し込み
電話で予約をしたり、人を誘ったりするときに必要な語彙、表現を習得する。
また、「動名詞」について復習する。
第 14 回　さよなら、アメリカ
訪問していたアメリカを去るという想定で、必要な語彙、表現を習得する。
また、別れ際の挨拶、感謝の述べ方などを学ぶ。
第 15 回　前５回と全体の復習と補足
前5回の語彙、文章、文法の復習と補足をし、学んだことを実際に自分の言葉として使用できるよう練習する。

〔成績評価〕
提出物（１０％）
小テスト・発表（30%）
定期試験（60%）

〔教科書〕
英語Ⅱで使用したテキストを引き続き使用する。
(Forerunner to Power-Up English, JACET リスニング研究会
発行所：南雲堂)

〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日

英語Ⅲ⑤

2505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
中田　智也

〔到達目標〕
基本的な文法事項を理解する。
簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。
簡単な英作文ができるようになる。
英語と日本語の類似点と相違点について、自覚的になる。

〔授業の概要〕
前年度の英語Ⅰ・Ⅱの復習を交えて、学習を進めていきましょう。前年度同様に、英文和訳、和文英訳をこなすなかで文法事項を理解していきましょう。難しいと思うところは、おそらく他にもそう思っている人がいるはずです。遠慮なく質問をするようにしてください。丁寧に学んでいきましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で学んだことの復習
難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の進め方・決まり事などについて
第 2 回　接続詞　英文和訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 3 回　接続詞　和文英訳
接続詞の種類・意味・使い方
文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 4 回　進行形　英文和訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 5 回　進行形　和文英訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 6 回　受動態（受け身形）　英文和訳

be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方

第 7 回　受動態（受け身形）　和文英訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方

第 8 回　完了形（現在完了・過去完了）　英文和訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方

第 9 回　完了形（現在完了・過去完了）　和文英訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方

第 10 回　比較　英文和訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級

第 11 回　比較　和文英訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級

第 12 回　不定詞　英文和訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）

第 13 回　不定詞　和文英訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）

第 14 回　動名詞　英文和訳
動名詞の形
文の中で果たす役割（主語、補語、目的語、前置詞の目的語）

第 15 回　動名詞　和文英訳／まとめ
動名詞の形
文の中で果たす役割（主語、補語、目的語、前置詞の目的語）
要点のおさらい

〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。
〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜資料を配布します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

英語Ⅲ⑥

2506
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
山片　崇嗣

〔到達目標〕
・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。
〔授業の概要〕
・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的に授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的・方針、評価方法などの紹介。

第 2 回　第16章　接続詞①
・等位接続詞
・従位接続詞

第 3 回　第16章　接続詞②
接続詞のさまざまな表現

第 4 回　第17章　関係詞①-1
・関係代名詞の限定用法
・関係代名詞の継続用法

第 5 回　第17章　関係詞①-2
・前置詞+関係代名詞
・関係代名詞+S+V

第 6 回　第18章　関係詞②-1
・関係副詞
・関係形容詞

第 7 回　第18章　関係詞②-2
・複合関係詞
・疑似関係代名詞

第 8 回　第９章　名詞・冠詞①
・名詞の種類
・可算名詞と不可算名詞

第 9 回　第９章　名詞・冠詞②

・定冠詞と不定冠詞
・冠詞の位置とさまざまな表現

第 10 回　第19章　さまざまな構文①
・強調構文
・否定表現

第 11 回　第19章　さまざまな構文②
・倒置表現
・さまざまな構文例

第 12 回　第20章　動詞の語法
・パターン別用法

第 13 回　第21章　名詞・形容詞の語法
・パターン別用法

第 14 回　前期授業のまとめ
第 15 回　定期考査

〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験

〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」(旺文社)
その他、必要に応じてプリント等を配布します。

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の10分間
場所：教室または講師控室

英語Ⅲ⑦

2507
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
野島　　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら語彙力の向上を図ることができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。

〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。

〔授業計画〕
第 1 回　Course Orientation, Unit 1 and Unit 2
Unit 1: Hello, I'm Bill!
Unit 2: I Was Doing Research
第 2 回　Unit 3 and Unit 4
Unit 3: I'm Gong to Visit Chicago
Unit 4: I Have Been to Nara
第 3 回　Unit 5: I Had Never Seen Such a Cute Animal
第 4 回　Unit 6: We Should Study Very Hard
第 5 回　Unit 7: Tomatoes Are Loved by Many People
第 6 回　Mid Term Test (Unit 1 to Unit 7)
第 7 回　Unit 8: I Study to Be an Interpreter
第 8 回　Unit 9: I Enjoy Talking About "Blood Type"
第 9 回　Unit 10: The Sleeping Student Is Mai
第 10 回　Unit 11: I rRespect Him Because...
第 11 回　Unit 12: She Likes Letters More Than Email
第 12 回　Unit 13: Kyoto Is the Most Famous City in Japan
第 13 回　Unit 14: I Have a Frien Who Lives in Australia
第 14 回　Unit 15: Kota, Whose Dream Is to Be a Teacher
第 15 回　Final Term Test (Unit 8 to Unit 15)

〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　40%
・定期試験　中間テスト30% 期末テスト30%

〔教科書〕
『Let's Output in Basic English アウトプットのための基本英語』佐藤臨太郎, ISBN 978-4-7647-4108-9, 金星堂

〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

英語Ⅲ⑧

2508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
杉島　　未来

〔到達目標〕
英語の生活語彙、表現を身につけ、さまざまな状況で適切な応答が英語でできる。異文化への理解を高め、異文化に積極的に接することができる。衣食住のさまざまな状況で適切な英会話ができるようになる。

〔授業の概要〕

日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習・復習課題を出します

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション（授業概要・単位認定について・春休みの出来事）
第 2 回　クラスメートの春休みの出来事
　Warm Up for the Subject
第 3 回　Where Are You Heading?
　教科書単語レベルチェック
　Dictation Listening
第 4 回　Meeting people en route
　Model Conversation
　Language Focus
第 5 回　Where Are You Heading?
　Communication Focus
　Putting It All Together
　Self-Assessment
第 6 回　May I See Your Passport?
　Warm Up
　Model Conversation
　Language Focus
第 7 回　May I See Your Passport?
　Communication Focus
　Putting It All Together
　Self-Assessment
第 8 回　Where To?
　Warm Up
　Model Conversation
　Language Focus
第 9 回　Where To?
　Communication Focus
　Putting It All Together
　Self-Assessment
第 10 回　I Asked for a Double
　Warm Up
　Model Conversation
　Language Focus
第 11 回　I Asked for a Double
　Communication Focus
　Putting It All Together
　Self-Assessment
第 12 回　What Would You Suggest?
　Warm Up
　Model Conversation
　Language Focus
　Communication Focus
　Putting It All Together (Role Play)
第 13 回　Here Are Your Keys
　Warm Up
　Model Conversation
　Language Focus
　Communication Focus
　Putting It All Together (Role Play)
第 14 回　Turn Left at the Light
　Warm Up
　Model Conversation
　Language Focus
　Communication Focus
　Putting It All Together (Role Play)
第 15 回　How Much Is This?
　Warm Up
　Model Conversation
　Language Focus
　Communication Focus
　Putting It All Together (Role Play)

〔成績評価〕

授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕

Encounters Abroad

〔参考文献〕

K. Scheibner & D. Martin, Just Talk, EFL Press
C. Granger, Play Games with English, Heinemann Education Books, TARGET! Elementary, 他適宜紹介

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、講義教室で対応します

英語Ⅲ⑨

2509
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
成田　沙央子

〔到達目標〕

基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分を完成する。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。

〔授業の概要〕

問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎回課題を提出する。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・Unit1
　　一般動詞とbe動詞（現在形）（１）
第 2 回　Unit1
　　一般動詞とbe動詞（現在形）（２）
第 3 回　Unit1
　　一般動詞とbe動詞（現在形）（３）
第 4 回　Unit2
　　一般動詞とbe動詞（過去形）（１）
第 5 回　Unit2
　　一般動詞とbe動詞（過去形）（２）
第 6 回　Unit2
　　一般動詞とbe動詞（過去形）（３）
第 7 回　Unit3
　　疑問文（１）
第 8 回　Unit3
　　疑問文（２）
第 9 回　Unit3
　　疑問文（３）
第 10 回　Unit4
　　否定文（１）
第 11 回　Unit4
　　否定文（２）
第 12 回　Unit４
　　否定文（３）
第 13 回　Unit１・２
　　復習・問題演習
第 14 回　Unit３・４
　　復習・問題演習
第 15 回　復習テスト
〔成績評価〕
授業内評価 60%
学期末テスト40%
〔教科書〕
Laugh and Learn: Back to the Basics（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜12:10~15:30

英語Ⅲ⑩

2510
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
様々な英文を読んで理解できる力を身につけ、英語圏の文化や歴史、国民性についての知識と教養を身につける。

〔授業の概要〕
英語や英語圏の人々を理解するために必要な文化的、歴史的事柄について学習し、内容と関連した英文を読んで理解する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習事項を復習し、毎回課題を提出。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方と評価方法について説明する。
第 2 回　聖書と英語①
　　聖書が英語や英語圏の文化に与えている影響について学習し、抜粋を読んで理解する。
第 3 回　聖書と英語②
　　聖書が英語や英語圏の文化に与えている影響について学習し、抜粋を読んで理解する。
第 4 回　マザー・グースと英語①
　　英国伝承童謡マザー・グースと英米文化の関係性や、それぞれの唄が持つ特徴的なリズムとイントネーションについて学習する。
第 5 回　マザー・グースと英語②
　　英国伝承童謡マザー・グースと英米文化の関係性や、それぞれの唄が持つ特徴的なリズムとイントネーションについて学習する。
第 6 回　シェイクスピアの名言①
　　英語圏を代表する作家シェイクスピアについて学び、作品からの抜粋を読んで内容を理解する。
第 7 回　シェイクスピアの名言②
　　英語圏を代表する作家シェイクスピアについて学び、作品からの抜粋を読んで内容を理解する。
第 8 回　英語のジョーク
　　英語のジョークを読んで、日本との文化背景の違いについて理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 9 回　キング牧師の演説①
　　キング牧師について学習し、スピーチ "I Have a Dream"からの抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 10 回　キング牧師の演説②
　　キング牧師について学習し、スピーチ "I Have a Dream"からの抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 11 回　アメリカ大統領の英語①
　　アメリカ歴代大統領について学習し、スピーチから抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 12 回　アメリカ大統領の英語②
　　アメリカ歴代大統領について学習し、スピーチから抜粋を読んで内容を理解する。また、関連した文法事項を学習する。
第 13 回　多読のすすめ
　　英語学習に効果的な多読について知る。
第 14 回　まとめ①
　　これまでの学習内容の復習とまとめを行う。
第 15 回　まとめ②

これまでの学習内容の復習とまとめを行う。

〔成績評価〕

毎回の提出物　100%

〔教科書〕

授業中に提示する資料

〔参考文献〕

必要に応じてプリントを配布

〔履修条件〕

〔備考〕

授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕

質問等はPhollyのメッセージ機能で随時受け付ける。

日本語聴解・会話Ⅰ

2710
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
前田　真弥

〔到達目標〕

自然な速さの日本語を聞き取り、聞き取った内容を伝えることができる。
また日本語を使って積極的な、円滑なコミュニケーションができるようになる。

〔授業の概要〕

シャドーイングや音読により発音練習を行う。
またロールプレイを通して会話能力を、グループワークを通してコミュニケーション能力を高める。
グループで課題を設定し、それをまとめプレゼンテーションすることによって、調べる、整理する、議論する、発表するスキルの向上を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
第 2 回　会話練習①レストラン・カフェで
　少し困った場面での会話を練習。
　次週の紹介スピーチ①「私の好きなもの（こと）」の準備。
第 3 回　紹介スピーチ①
　「私の好きなもの（こと）」をグループ内で発表する。意見交換。
第 4 回　会話練習②友だちを誘う
　授業の後で/休みの日に/旅行に、友だちを誘う練習。
　次週の紹介スピーチ②「私の故郷」の準備。
第 5 回　紹介スピーチ②
　「私の故郷」をグループ内で発表する。意見交換。
第 6 回　会話練習③アパート、マンションで
　あまり親しくない人と会話する練習。
　次週の紹介スピーチ③「私のおすすめの本」の準備。
第 7 回　紹介スピーチ③
　「私のおすすめの本」をグループ内で発表する。意見交換。
第 8 回　会話練習④ハプニング
　ハプニングが起こったときの会話を練習する。
　次週のディスカッション導入。
第 9 回　ディスカッション
　賛成意見や反対意見を言う練習。
第 10 回　会話練習⑤文化
　文化（ファッション、映画、音楽、スポーツなど）について話す。
第 11 回　発表準備①
　グループでテーマを決め、アンケートを作成する。協働学習。
第 12 回　発表準備②
　作成したアンケートをもとにインタビューする。結果をまとめる。
第 13 回　発表①
　グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 14 回　発表②
　グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 15 回　発表③
　グループによる発表。発表に対する相互評価。

〔成績評価〕

授業への取り組み30%
授業内提出物30%
授業内発表 40%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

『中級から上級への日本語会話』（凡人社）
『大学生のための文章表現＆口頭発表練習帳』（国書刊行会）
『日本人がよく使う日本語会話オノマトペ基本表現180』（Jリサーチ出版）

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

オフィスアワー
①前期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語文章表現Ⅰ

2711
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
前田　真弥

〔到達目標〕
学術的文章で使われる文型や表現、文章の展開の仕方を学び、日本語で論理的な文章を書く基本的な力をつける。日本語の書き言葉のルールに従って自然な日本語で書くことができるようになることを目指す。
〔授業の概要〕
論理的で明晰な文章にするためにはどんな点に気をつければいいかを、練習問題を解きながら考える。また、テーマにそって実際に作文練習をすることで、日本語によるレポート、小論文作成の技術を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
第 2 回　文体
　文の種類によって文体が違うことを学習する。
　作文①（テーマは授業内で伝える）
第 3 回　モードチェンジ
　話し言葉から書き言葉への切り替えができる。
　先週の作文フィードバック→書き直し。
第 4 回　正しい構造の文１
　主語と述語の関係。修飾する言葉と修飾される言葉の関係を学ぶ。
　作文②（テーマは授業内で伝える）
第 5 回　正しい構造の文２
　文末の制限を学ぶ。簡潔な文を書く練習。
　先週の作文フィードバック→書き直し。
第 6 回　「こと」と「の」
　名詞節「こと」と「の」を適切に使い分ける。
　作文③（テーマは授業内で伝える）
第 7 回　指示詞
　指示詞「こ」と「そ」を使い分ける。
　先週の作文フィードバック→書き直し。
第 8 回　文のつながり
　接続表現を学ぶ。
　作文④（テーマは授業内で伝える）
第 9 回　小論文の中でよく使われる表現１
　説明や意見をはっきり述べるための表現を学ぶ。
　先週の作文フィードバック→書き直し。
第 10 回　小論文の中でよく使われる表現２
　形が似ている表現を使い分ける。
　作文⑤（テーマは授業内で伝える）
第 11 回　過去と現在
　ル形、タ形、テイル形の使い分けによって、取り上げる出来事の「時」」を正しく表すことができる。
　先週の作文フィードバック→書き直し。
第 12 回　説明文
　具体的で分かりやすい文章を書く。自分の感想や主観を入れないで客観的に書く。
　作文⑥（テーマは授業内で伝える）
第 13 回　意見文
　意見を述べるときの文型を学習する。
　先週の作文フィードバック→書き直し。
第 14 回　要約文
　文章や話の要点をつかんで短くまとめることができる。
　作文⑦（テーマは授業内で伝える）
第 15 回　復習
　先週の作文フィードバック→書き直し。
　これまでに学習したことを復習する。
〔成績評価〕
定期試験30%
授業への取組20%
授業内提出物50%
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）
『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語読解Ⅰ

2713
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
島津　浩美

〔到達目標〕
大学の授業で必要な、専門的な文章を読んで内容を正確に把握し、その上で自分の考えを表現するといったことができるようになることを目指す。
〔授業の概要〕
文章を文脈の中で正確に把握し､自分なりの意見を発表する。この授業では、あるテーマ関する文章を読み、その内容に関して、考えたり、話し合ったり、調べて書いたりする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次の課の単語リストが配布されたら､意味を調べておく(30分)
あるテーマに関する文章を読んだ後、話し合ったり、それ

についての自分の意見を書いたりするため、授業中に考えがまとまらなかったり、調べられなかった場合は、準備してくる。(60分)

〔授業計画〕

第 1 回　あるプロジェクトについての文章を読む
第 2 回　コミュニケーションに関する文章を読む
第 3 回　科学に関する記事を読んで流れを理解する。
第 4 回　人生に関する文章を読んで、筆者の考え方を理解する
第 5 回　家庭科の授業実線に基づいた文章を読んで、筆者の考え方を理解する
第 6 回　環境に関する文章を読んで、その根拠を理解する
第 7 回　ソーシャルメディアに関する文章を読んで、筆者の考え方を理解する
第 8 回　科学的なデータを基にした文章を読んで、筆者の意見を理解する
第 9 回　データの読み取りに必要なグラフの説明の仕方を学ぶ
第 10 回　社会に関する文章を読んで、筆者の主張を読み取る
第 11 回　仕事に関する文章を読んで、働き方の変化を理解する
第 12 回　学習に関する文章を読んで、筆者の考えを理解する
第 13 回　公害に関する文章を読んで、筆者の考えを把握する
第 14 回　自分の国の公害病について調べて発表する
第 15 回　これまでのまとめと復習

〔成績評価〕

授業への参加度・態度　30%
課題・提出物　30%
定期試験　40%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

小野恵久子　遠藤千鶴　他(2016)
『話す・書くにつながる！日本語読解』 アルク

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語漢字・語彙Ⅰ

4424
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
島津　浩美

〔到達目標〕

中級レベルの漢字300字とそれに関連する語彙を習得する。
中級レベルの漢字300字の読み書きができるようになる。
また、合計650字程度の漢字と語彙を適切に使うことができるようになる。

〔授業の概要〕

テーマに沿って、日本語能力試験N2レベルに必要な漢字を毎回20字ずつ提示をし、その漢字を含んだ文を読んだり、書いたりして、定着を図る。特に中国語漢字との違いに留意する。
各課終了後にの漢字の小テストを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各回で習った漢字について練習し、正しく覚えておく。(40分)
次回に習う漢字の語彙を調べておく。(20分)

〔授業計画〕

第 1 回　授業概要説明　教室で使う漢字
第 2 回　テストで使われる漢字
第 3 回　形容詞の漢字
第 4 回　漢字の成り立ちと形
第 5 回　自己紹介で使うことば
第 6 回　部屋にあるもの
第 7 回　自動詞・他動詞の漢字
第 8 回　私の町
第 9 回　駅の表示
第 10 回　サイン・広告の表示
第 11 回　料理の作り方に使われることば
第 12 回　コンピューター関連で使われることば
第 13 回　日本での生活に関することば①
第 14 回　日本での生活に関することば②
第 15 回　これまでのまとめ

〔成績評価〕

授業への参加度・態度　20%
小テスト　30%
期末試験　50%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

佐藤尚子・佐々木仁子（2019）
『留学生のための漢字の教科書　中級700』［改訂版］ 国書刊行会
徳弘康代（2019）
『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30

③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語文章表現Ⅲ

2716
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　泰洋

〔到達目標〕
◎レポート、卒業論文などの学術的な文章を作成するための基礎的な表現力をつけることを目的とし、そうした学術的文章でよく使われる文系・表現や展開パターンなどについて学ぶ。
◎「日本語文章表現Ⅰ」「日本語文章表現Ⅱ」で学んだことを活用しながら、学術的文章へのステップアップを図っていく。
〔授業の概要〕
◎学習項目について学習者に確認し意見も聞きながら、表現活動をさせる。
◎作成した文章表現について、教授者・学習者自身・学習者相互でチェックし、評価する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎履修する専門科目等のテキストの日本語の文章を音読できるように予習して、専門科目等の授業に出席する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
作文と学術的な文章との違いについて、学習方法について指示する。
ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　文章表現の基本
文字や記号の書き方、記号の働き、文体、表現形式について復習する。
第 3 回　課題の提示
論文の構成要素について
序論の構成要素（1）について：課題の提示、問題解決の必要条件の提示、研究行動の提示
第 4 回　目的の提示
序論の構成要素（2）：研究テーマの説明、先行研究の問題点の指摘、研究目的の提示
第 5 回　定義と分類
本論の構成要素（1）：定義、分類、選択
第 6 回　図表の提示
本論の構成要素（2）：図表の提示、数値の大きさの表示、数値の大きさの評価
第 7 回　変化の形容
本論の構成要素（3）：変化の形容、変化の進行の指摘、判明事項の指摘
第 8 回　対比と比較
本論の構成要素（4）：対比、比較
第 9 回　原因の考察
本論の構成要素（5）：原因の考察、予測
第 10 回　列挙
本論の構成要素（6）：存在の指摘、列挙
第 11 回　引用
本論の構成要素（7）：論点の提示、引用
第 12 回　同意と反論
本論の構成要素（8）：同意、反論、注/文献の記述
第 13 回　帰結
本論の構成要素（9）：帰結、換言、補足
第 14 回　結論の提示
結論の構成要素：研究行動の確認、結論の提示、研究の評価、今後の課題の指摘
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。
また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。
〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、レポート提出（約70%）で総合的に評価する。
〔教科書〕
プリントを配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜提示し、資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。
〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

社会学入門

3101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
濱田　武士

〔到達目標〕
（1）社会学のテーマに関わるトピックについて理解し社会現象を説明することができる

（2）社会学のテーマとトピックについて体系的に説明することができる。

〔授業の概要〕

現代社会は情報通信技術や移動・交通の進展により様々なものが変化する「加速する社会」といえます。この中にあって、参加する集団や組織、人間関係、それに体験はどのように生まれ、どのように変容し、今度どのような方向に進んでいくのでしょうか。本講義では、主に講義形式の形で日常生活におけるみなさん自身の体験やみなさんがインターネットやテレビなどを通じて取得する情報などの身近な事柄に着目して「いま何が起きているのか」をあらためて理解し、それにより先入観や思い込みを問い直し、「社会とは何か」という問題に対しての興味関心を広げていきたいと思います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

〈予習〉

毎回の授業テーマのキーワードについて新聞、ニュース、インターネットの記事などから情報収集し、自分なりのイメージをもっておいてください。

情報の調べ方は授業の最後に指示をします。

〈復習〉

毎回の授業の最後に提示するお題に対して、授業の内容を踏まえて回答する授業課題（300字程度でまとめる）に取り組んでください。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション（授業の概要）および社会学のはじまりについて
社会学の起源やその後の展開が現代社会と関連していることを説明できる。

第 2 回　社会学とは何か
社会と社会学の違いについて説明できる。

第 3 回　「私」をめぐる社会学―自己について
心理学や文学との違いを踏まえて社会学的に自己を説明できる。

第 4 回　ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学①―「女らしさ」「男らしさ」について
「女らしさ」「男らしさ」が作られたものであることを説明できる。

第 5 回　ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学②―ジェンダーの社会化
ジェンダーがその時々の社会状況によって個人に要請されるものであることを説明できる。

第 6 回　若者と子どもをめぐる社会学①―若者たちの「やさしい関係」
人間関係について若者に着目してそのあり方の変容を説明できる。

第 7 回　若者と子どもをめぐる社会学②―子どもの貧困
「子どもの貧困」を社会の変容という点から説明できる。

第 8 回　家族をめぐる社会学①―家族の絆とは何か
近代家族の成立を踏まえて家族の結びつきについて説明できる。

第 9 回　家族をめぐる社会学②―結婚の個人化
社会変動という観点から結婚のありようについて説明できる。

第 10 回　労働・職場をめぐる社会学―感情労働
産業構造の変容を踏まえて労働の場面で「心」や感情がやり取りされていることをについて説明できる。

第 11 回　グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学①―「エスニシティ」とは何か
近代社会の成立と進展に伴い「エスニシティ」に着目する必要性がでてきたことを説明できる。

第 12 回　グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学②―難民・移民をめぐる諸問題
グローバリゼーションの進展との関連で難民・移民をめぐる諸問題を説明できる。

第 13 回　社会運動をめぐる社会学①―デモと民主主義
近代社会の成立や発展を社会運動の観点から説明できる。

第 14 回　社会運動をめぐる社会学②―社会運動
現代における様々な権利が社会運動によって獲得されてきたことを説明できる。

第 15 回　授業のふりかえり
全体的な学習内容についての体系的な整理ができる。

〔成績評価〕

以下の基準で評価を行います。

（1）社会学のトピックの理解について

・可：それぞれの社会学のトピックと関連する事例を紹介しおおまかに説明できる

・秀：それぞれの社会学のトピックと関連する事例を紹介し分析的に説明できる

（2）テーマとトピックの体系的な理解について。

・可:テーマとトピックの関連についておおまかに記述できる

・秀：テーマとトピックの関連について要点をおさえて説明できる

〔教科書〕

教科書は指定しません。

授業ごとに資料を配布します。

〔参考文献〕

各回のテーマに合わせて、新書、解説記事、論文等を紹介します。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

なし

世界教育史Ⅰ

3205
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
津田　徹

〔到達目標〕
特に西洋世界の社会背景や時代背景などを基本として、その中で展開される教育理念（子ども、教育者、教育機関、文化施設、教育手段など）の展開を学生自身が関心、意欲をもって、理解することに努め、最終的に教育史上の主要な展開について簡単に説明することができることを目指します。

〔授業の概要〕
世界教育の歴史のうち、西洋の教育理念（古代からバロックまで）を手がかりに、現代の教育現象や教育問題との関連や問題の原理を探ります。また視覚資料（映画、映像、絵画等）を用いたり、文字資料（文学作品等）を実際に読むこと、更にはグループ別の議論なども試みながら、教育理念の歴史的理解を深化させていきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分)。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　古代ギリシア１
　ホメロス（英雄叙事詩)、ヘシオドス（農耕と神話)、ピュタゴラス（数学と音楽)
第 3 回　古代ギリシア２
　ソクラテス（マイエウティケー)、プラトン（イデア論、対話法、想起説、アカデメイア）
第 4 回　古代ギリシア３
　アリストテレス（演繹法、学問の体系化、倫理学、音楽、体育、性格形成）
第 5 回　古代ローマ１
　キケロ（ローマ文学の模範)、セネカ（ネロの家庭教師、道徳理論）
第 6 回　古代ローマ２
　クィンティリアヌス（ローマの代表的教育、弁論家教育）
第 7 回　西洋教育中世史１
　キリスト教、アウグスティヌス、修道院制度、自由七科の成立
第 8 回　西洋教育中世史２
　カロリング・ルネサンス（カール大帝、宮廷学校)、大学の公認
第 9 回　西洋教育中世史３
　スコラ的教育、トマス・アクィナス、一斉授業
第 10 回　ルネサンスの教育
　ヒューマニズムの教育、イタリア人文主義、西ヨーロッパ諸国への影響と教育
第 11 回　宗教改革の時代の教育
　ルター、カルヴァンと新教徒の教育政策
第 12 回　反宗教改革の時代の教育
　イエズス会の布教活動と教育、日本への影響
第 13 回　17世紀の西洋の教育の展開１
　F・ベーコン、実学主義の教育、コメニウスの活躍
第 14 回　17世紀の西洋の教育の展開２
　イギリス経験論（ロック)、大陸合理論（デカルト）の各思想と教育
第 15 回　まとめ
　学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕
定期試験（70%)、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之他著、『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』、ミネルヴァ書房、2019年。
教科書を毎回使用します。一回目から持参すること。

小学校学習指導要領（平成28年度3月告示、文部科学省）
中学校学校学習指導要領（平成28年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
パーマー編（広岡他訳)、『教育思想の50人』、青土社。
レーブレ（広岡他訳)、『教育学の歴史』、青土社。

その他、授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜2時間目前の休み時間

教育心理学Ⅰ【中等】

3215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1年
2単位　前期
教育_必修
三浦　　正樹

〔到達目標〕
教職をめざす学生にとって必要な教育心理学の基本的知識の習得をめざす。従来の教育心理学の主要４領域の内、ここでは主に発達・学習領域を中心に述べる。発達領域では代表的な発達理論、遺伝と環境の関係、各発達段階の発達過程及び特徴の理解を目標とする。学習領域では代表的な学習理論、発達を踏まえた学習指導法、学習意欲、学級集団の特徴、教育評価の在り方などの理解を目指す。
〔授業の概要〕
現代の教育心理学は幅も広く奥も深い学問であって、教職をめざす学生にとっては是非身につけておかなければならない学問である。主に発達過程・学習過程全般について述べるが、この授業では特に中等課程の免許取得希望者を対象として意識した授業を展開する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予め授業計画に相当する教科書の章を読んでおくこと。(90分)
復習として、授業で示された重要キィワードをまとめておくこと。(45分)
発展学習として、まとめた重要キィワードについて図書館やネットで調べてみること。(45分)
授業で配布されたプリントを整理して保存しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　授業の目的、内容、進め方等について
第 2 回　教育心理学とは何か
　　教育心理学の歴史、内容、立場、方法
第 3 回　発達の理論
　　発達とは何か　エリクソン、ピアジェ、バルテス等発達の主要理論について
第 4 回　遺伝と環境
　　成熟優位説　環境優位説　相互作用説　臨界期　発達と教育の関係
第 5 回　乳幼児期の発達
　　乳幼児期の特徴 身体・運動発達　認知発達　言語発達　母子関係　愛着
第 6 回　児童期の発達
　　児童期の特徴　身体・運動発達　認知発達　言語発達　社会性の発達
第 7 回　青年期の発達
　　思春期・青年期の特徴　身体・運動発達　認知発達　アイデンティティ
第 8 回　青年期以降の発達（生涯発達）
　　成人期　中年期　老年期　生涯発達　ライフサイクル
第 9 回　学習の理論
　　学習の定義と意義　主要な学習理論　認知理論　社会的学習　学習の過程
第 10 回　認知心理学
　　情報処理過程　記憶　概念　思考　問題解決　知能
第 11 回　学習意欲（動機づけ）
　　動機の種類　内発的動機づけ　学習性無力感　学習意欲を高めるために
第 12 回　学習指導
　　有意味受容学習などのさまざまな学習指導法について　協同学習
第 13 回　学級集団の理解
　　学級集団の特徴、発達過程　集団づくり　教師のリーダーシップ
第 14 回　教育評価
　　教育評価の目的、種類、方法　形成的評価　ＰＤＣＡサイクル
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
定期試験(100％)
〔教科書〕
中学校学習指導要領(最新版、文部科学省)
高等学校学習指導要領(最新版、文部科学省)
『発達と教育の心理学』・八千代出版
〔参考文献〕
授業中に随時指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程、中一種、高一種、必修
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

教育心理学実験Ⅰ

3217
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
三島　利江子

〔到達目標〕
心理学における実験的研究の基礎を習得する。心理学の基礎的実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察して、実験レポートを作成することを通じて、心

理学における実験的技法・実証的手法の知識を身につける。また教育心理学における科学的手法の意義についても学ぶ。

〔授業の概要〕

教育心理学における実験的研究の基礎を習得するために、心理学の基礎的な実験・実習として著名なものを体験する。知覚、認知、社会などの領域を中心に、実験、観察、調査、心理テスト等の方法について、学習者が互いに協力しつつ、実験者および研究対象者として参加体験し、データ分析・考察、報告書作成により、基礎的体系的知識を学習する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各課題ごとの実験レポートの作成

〔授業計画〕

第 1 回　教育心理学実験とは
授業の進め方、内容、予定、評価方法等の説明, 参考文献等の紹介。教育心理学実験とは何かについて、データ処理、レポートの書き方について説明する。

第 2 回　ミューラー・リヤー錯視（1）
ミューラー・リヤー錯視の心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。

第 3 回　ミューラー・リヤー錯視（2）
実験者及び実験参加者として行ったミューラー・リヤー錯視の心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。

第 4 回　質問紙法のパーソナリティテスト（１）
質問紙法のパーソナリティテストの心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。

第 5 回　質問紙法のパーソナリティテスト（２）
実験者及び実験参加者として行った質問紙法のパーソナリティテストの心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。

第 6 回　質問紙法の作成（SD法）と実施（１）
質問紙法の作成（SD法）と実施の心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。

第 7 回　質問紙法の作成（SD法）と実施（２）
実験者及び実験参加者として行った質問紙法の作成（SD法）と実施の心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。

第 8 回　パーソナルスペースの観察（１）
パーソナルスペースの観察の心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。

第 9 回　パーソナルスペースの観察（２）
実験者及び実験参加者として行ったパーソナルスペースの観察の心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。

第 10 回　単語記憶の再生（１）
単語記憶の再生の心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。

第 11 回　単語記憶の再生（２）
実験者及び実験参加者として行った単語記憶の再生の心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。

第 12 回　知能検査（１）
知能検査の心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。

第 13 回　知能検査（２）
実験者及び実験参加者として行った知能検査の心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。

第 14 回　発表会
授業を通して行ってきた心理学実験について発表を行う。

第 15 回　授業のまとめ
授業全体のまとめを通じて心理学の実験的研究の重要点を学ぶ。

〔成績評価〕

平常点40%、レポート60%で総合的に評価を行う。

〔教科書〕

日本心理学会・認定心理士資格認定協会編（2015）. 認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房

〔参考文献〕

高石浩一・谷口高士著（2006）. 心理学実習基礎編　培風館
その他、授業中に適宜紹介、配布する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

金曜　13:40~14:00 ２０６教室

経済学概論 I

3221
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
岡田　　光正

〔到達目標〕

経済のグローバル化が進行し、私たちを取り巻く経済環境が大きく変貌しています。それとともに、私たちの日常生活にも様々な影響が現れています。授業では、主要な経済学者の市場観（市場経済に対する見方）の変遷を学習しながら、経済学に対する理解を深めるとともに、現代の経済社会や経済問題を見る目を養います。

〔授業の概要〕

18世紀末からの市場経済をめぐる主要経済学者の市場観（市場経済に対する見方）とその変遷を考察する。スミスの古典派経済学（自由放任主義）、A.マーシャルの新古典派経済学、ケインズ革命と自由放任主義の終焉、ケインズ経済学の全盛とその後の自由放任主義の台頭、破綻について学習しながら、経済学の基本的な概念や考え方、流れを習得します。　　アクティブラーニングとして、毎回、授業内容の要点や授業内容に対する意見を各自まとめて発表してもらいます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
普段から新聞や雑誌の経済記事、トピックに目を通したり、テレビのニュースや経済番組を視聴したりして、経済や経済問題への関心を育むように心がけてください。
〔授業計画〕
第 1 回　経済のグローバル化について
経済グローバル化が進行し、私たちを取り巻く経済環境が大きく変貌しています。経済のグローバル化とは何か。なぜグローバル化が進行しているのか。授業では、その背景や実態について学習します。
第 2 回　経済のグローバル化の影響について
経済のグローバル化によって、私たちの日常生活にも様々な影響が現れています。授業では、経済のグローバル化の影響について考察します。
第 3 回　市場経済の特徴と機能について
私たちは、「市場経済」の下で経済活動を営み、日々の暮らしに必要な糧を得ています。授業では、市場経済の特徴や機能について学習します。
第 4 回　市場メカニズムについて
市場経済には、価格を誘因として生産が調整され、経済的資源が効率的に配分される仕組みがあります。授業では、こうした機能を司る市場メカニズムについて学習します。
第 5 回　市場経済の限界（失敗）について
市場経済では、市場の競争性が維持されている場合においても、公共財が提供されにくいことや、環境破壊などの外部不経済が発生するなど市場の失敗があることについて考察します。
第 6 回　アダム・スミス『国富論』について
古典派経済学の創始者アダム・スミスが『国富論』（1776年）で展開した分業論や交換論、労働価値説、市場観について学習し、経済学の最初の体系的な著作について理解を深めます。
第 7 回　アダム・スミスの自由放任主義について
アダム・スミスが『国富論』で体系化し、その後アルフレッド・マーシャルを祖とする新古典派経済学に引き継がれていく、いわゆる自由放任主義（レッセフェール）の考え方について考察します。
第 8 回　ケインズの失業理論について
ケインズの失業理論を取り上げ、伝統的な経済学の考え方に革命をもたらしたとされる、『雇用、利子及び貨幣の一般理論』（1936年）の主要な内容と特徴について理解する。
第 9 回　ケインズの有効需要論について
ケインズの有効需要論について考察し、今日、総需要管理政策として景気対策等に幅広く応用されていることを理解する。
第 10 回　ケインズ経済学と戦後の黄金時代について
ケインズ経済学が戦後、自由経済圏の経済政策基盤として全盛期を迎え、経済の黄金時代（高度成長期）を将来、そのもとで社会保障の充実、国民皆保険制度、主要産業の国有化等、「大きな政府」という考え方が基調となっていくことを理解する。
第 11 回　新自由主義の台頭と自由放任主義の復活
1970年代初めに発生した石油危機を契機に、それまでのケインズ経済学に代わって新自由主義（ネオリベラリズム）が登場し、全盛期を迎えます。その背景と新自由主義の基本的な考え方について学習します。
第 12 回　新自由主義政策の展開について
1980年代にアメリカやイギリス、日本で展開された新自由主義的政策について検討し、ケインズ時代の「大きな政府」に代わって、「小さな政府」が政策基調となることについて理解を深めます。
第 13 回　フリードマンとハイエクの市場論について
自由競争市場の優位性を主張し、政府の介入に反対したフリードマン（1912～2006）と、計画経済に対して自由な市場経済の優位性を説いたハイエク（1899～1992）の市場論について学習します。
第 14 回　新自由主義政策の功罪について
新自由主義の弊害として、日本、欧米諸国における「格差の拡大」が指摘されています。格差拡大の背景やその実態について考えます。
第 15 回　授業のまとめ
授業のまとめを行い、定期試験の準備をします。
〔成績評価〕
定期試験（80%）
平常成績（授業への取り組み・発表など）（20%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

中学校学習指導要領（平成29年7月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年7月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成29年7月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成30年7月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
『経済社会学キーワード集』（経済社会学会編、富永健一監修、2015初版発行）

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、高一種（公民）、必修
〔オフィスアワー〕
LMSを通じた毎回の授業内容や課題レポートなどについて質問や疑問、相談があれば、eメールにて受け付けます。受講生の皆様とのメールでのやり取りを通じて、授業の内容がより深まり、学園生活の充実につながればと願っています。　時間：毎週

水曜日14:30～15:30　メール先：rqkw75325@leto.eonet.ne.jp
なお、メールでの返事が翌日以降になる場合もあるかと思いますが、ご了承ください。

中等教科教育法Ⅰ（英語）

3233
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
中学英語教師として必要な知識教養を身につける。
教師であることの基本を踏まえ，英語教師に必要な資質を身に付ける。
生徒の知識理解、関心意欲、技能表現を育む授業者としての技能の基礎を身に付ける。

〔授業の概要〕
授業内の課題を能動的かつ自立的に学び続けることができるよう、学生同士の話し合いや意見発表の機会を織り込みながら体験的に授業を進めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業の復習と演習課題を必ずすること。(120分)
次時の予習を十分に行って授業に臨むことが必至である。(120分)

〔授業計画〕
第 1 回　第二言語としての英語
　第二言語の解釈。日本語と大きく異なる英語を外国語として学ぶことの意義と課題を整理する。
第 2 回　英語教育の意義と目的（1）
　学習指導要領の内容理解
　　学習指導要領の変遷を整理し、求められる英語教育の姿を整理する
第 3 回　英語教育の意義と目的（2）
　学習指導要領の内容理解
　　外国語学習の目標を4技能（5領域）を焦点に整理する。
第 4 回　中等教育の教師に求められる資質
　多感期の中学生の授業者に求められる資質とは何かを整理する。
第 5 回　英語教師に求められる資質
　中学英語教師に必要な英語力や授業力の基盤となるものを整理する。
第 6 回　小学校外国語活動と外国語教科化の意義と課題
　小学校外国語活動及び5，6年生の教科としての英語の内容を把握する。
　英語教育における小中連携の在り方を整理する。
第 7 回　様々な英語教授法（1）
　オーラルメソッド，オーラルアプローチ，訳読法、パターンプラクティスなど様々な授業法の特徴を整理する。
第 8 回　様々な英語教授法（2）
　生徒の自主的かつ体験的な学習活動を促す実践例を提示しながら、生徒が自立した英語学習に向かう授業を整理する。
第 9 回　英語教師に求められる指導力
　多様な学習者に対応する指導力とは何かを考察する。授業内での支援とは何かを考察する。
第 10 回　英語教師に求められる英語力（文法力）
　学習指導要領にある言語材料を基に、中学教師に必要な英文法の基本を学修する。
第 11 回　英語教師に求められる英語力（会話力）
　小学校英語での教室英語を確認しながら、中学英語教師に必要な授業での発信力を整理する。
第 12 回　英語教師に求められる英語力（協働力）
　ALTとのティームティーチングに必要な協働力とは何かを考察する。
第 13 回　教材研究に必要なもの
　教科書の単元を取り上げ、授業づくりに必要な教材、教具、準備物などを考える。
第 14 回　模擬授業
　前時に考えた授業の略案をもとに、模擬授業を実践し、相互評価を行う。
第 15 回　まとめ
　前期授業を振り返り、学生個々が英語教師になるために必要な資質・能力をまとめ、相互交流する。

〔成績評価〕
授業への参加態度，レポート　２５％
定期試験　　７５％

〔教科書〕
中学校学習指導要領解説　外国語編（平成２９年３月告示、文部科学省）
適宜資料を配布する

〔参考文献〕
英語教育の基礎知識（大修館書店）
中学校用教科書
Let’s Try！, We can！　（文部科学省）
小学校用教科書　など

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。中学校教諭や教育委員会での実体験を活かして、「教師に必要な資質」や「学校教育の抱える課題対応」を指導する。

〔オフィスアワー〕
木曜日3限

ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ心理学Ⅰ

3301
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
林　　知代

〔到達目標〕
カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の基礎的な内容について学びます。理論間の相違点および共通点を把握してもらいます。そのうえで人間の抱える心理的諸問題についての理解と、心理臨床家としてのアプローチを多面的にとらえ、目の前の悩める人にどのような支援助言を行えるか考えることができるようになることを目標とします。

〔授業の概要〕
心理学の基礎的知識を振り返りながら、カウンセリング場面においてどのように生かされているかを知ります。心理相談の流れ、アセスメントのための心理テスト、カウンセリングにおける心理療法を理解し、理解を深めるためにロールプレーイングなどを取り入れ、体験を通して学びます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日常の出来事にまつわる情緒変化の意識化を予習とし記述してもらいます。復習として授業についてのレポートを書いてもらいます。

〔授業計画〕
第 1 回　開講にあたって
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介する。
第 2 回　カウンセリングの定義と目的
なぜカウンセリング心理学が必要であるか、またカウンセリング心理学とは何かを学びます。
第 3 回　心理アセスメント　1
心理アセスメントとは何かと課題について知る
第 4 回　精神分析１
臨床心理の土台となるFreudの精神分析的理論を学びます。
第 5 回　精神分析2
精神分析理論を基底にしたカウンセリングとはどのようなものかを学びます。
第 6 回　人間性心理学的療法
Carl Ransom Rogersの来談者中心療法を中心に実存分析、現存在分析、マズローの自己実現理論など人間性心理学に属する理論・療法を学びます。
第 7 回　行動療法
行動療法の基本的な理論と考え方、および行動療法技法を学びます。
第 8 回　自己心理学から間主観性理論へ　1
Kohutに始まる自己心理学は、Freudの自我心理学とどう違うかを理解します。
第 9 回　自己心理学から間主観性理論へ　2
Kohut理論から発展してきた間主観性理論について学びます。乳幼児の精神分析的発達理論の変遷を取り上げながら説明します。
第 10 回　認知行動療法
Aaron Beckの認知療法を理解したうえで、認知行動療法の基礎的理論と技法について学びます。
第 11 回　交流分析
Eric Berneによって提唱された心理療法の理論を学びますびます。
第 12 回　精神医学との領域
精神について医学領域と心理領域の重複するところと相違について学びます。
第 13 回　カウンセリングにおける相談・事例1
実際のカウンセリングはどのように進んでいくか、勉強してきた理論を振り返りながら対応について学びます。
第 14 回　カウンセリングにおける相談・事例2
実際のカウンセリングはどのように進んでいくか、勉強してきた理論を振り返りながら対応について学びます
第 15 回　総括
まとめ
レポート提出

〔成績評価〕
授業態度(1割)
発表　および　毎授業のレポート(3割)
試験(6割)

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
臨床心理学　青木紀久代編　新星出版社
中学校学習指導要領解説　文部科学省
高等学校学習指導要領解説　文部科学省
國分康孝「カウンセリングの理論」
國分康孝「カウンセリングの技法」

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
カウンセリング理論が机上のものでなく実践に即したものであることを伝えること、また、心理検査や観察などの手法が自身の理解を深めるよう教授する。

〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

ネットワーク技術

3318
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕
コンピュータネットワークを活用する知識の習得その活用手法を学び、web技術について広く学習し実験実習をする。教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
〔授業の概要〕
目的を持ったホームページ作成を通して情報発信モラルについて学習する。
ネット検索にかけるためにはどのようにす履きかなど、SEO対策についても広く学習をする。ホームページ作成については、計画段階と完成段階においてグループディスカッションを行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
基礎用語については事前の学習が必要（自宅や・本館1階のＰＣコーナーにて各自準備が必要）
ＷＥＢ制作については、素材集めや、文章作成は事業時間外に準備が必要
復習については学習確認プリントを配布
事前準備90分＋事後復習90分＋制作が間に合わない場合は本館1階ＰＣコーナーにて制作
〔授業計画〕
第 1 回　ネットワークの歴史について
　　インターネットの歴史について
第 2 回　ネットワークについて
　　そもそもネットワークにつながるとは
第 3 回　ダイアルアップからADSL・光無線LANまで
　　いろんな回線について
第 4 回　ネットワークケーブル作成と調査
　　カテゴリー5ケーブルの作成
第 5 回　簡易ネットワークの構築
　　ハブを使い小規模ネットワークの作成
第 6 回　ネットワークセキュリティについて
　　自分の使っているパソコンのｏｓやウィルス対策ソフト・ウィルスに感染したらどうなるかを事例を見ながら学習
第 7 回　Ｗｅｂ制作準備
　　スタイルシートを使いＷｅｂページの作成準備
　　企画したＷｅｂページをグループディスカッションで発表討議
第 8 回　Ｗｅｂ制作ソフト操作方法
　　ソフトの操作説明
第 9 回　Ｗｅｂページ制作1
　　トップページの重要性と閲覧者の心理
第 10 回　Ｗｅｂページ制作2
　　画像編集（大きなサイズでは表示に時間がかかる）
第 11 回　Ｗｅｂページ制作3
　　リンク構造について
第 12 回　Ｗｅｂページ制作4
　　制作作業
第 13 回　Ｗｅｂページ制作5
　　制作作業
第 14 回　SEO対策について
　　Ｗｅｂページ登録作業方法と検索サイトで上位に来るためには
第 15 回　学習のまとめ
　　全員で各自の作成したＷｅｂページを見て、自分が作成したＷｅｂページとの比較と評価、また、次回に作る機会があった場合の反省点をグループ討議する
〔成績評価〕
授業に対する意欲も評価をします。授業途中のレポート提出と実技、期末には試験を行い総合評価をします。
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
ここから始めるLAN　日本実業出版社
２台目からのパソコンLAN(株)技術評論社
初めての情報ネットワーク　森北出版(株)
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
学校現場でのネットワーク構造やネット環境、またネットワークを活用した情報発信などの自習作業を行う。
〔オフィスアワー〕
水曜日3限目

放送教育Ⅰ

3403
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
西光　　晴彦

〔到達目標〕
・教育における放送の役割の現状と未来像を学ぶ。
・教育における放送の更なる活用の可能性を探る。
〔授業の概要〕
後期に実施予定の教育における放送の活用、実施の実際を学ぶにあたって前提となるべきメディアを読み解く力（メディアリテラシー）を、実際のメディア活動から学ぶ。
なお、自ら学び、他者と積極的に意見交換するなど、能動的な学びを取り入れる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の年間計画、メディア接触率アンケート実施
第 2 回　マス・コミの成立

マス・コミの歴史と発展と、その時代への影響と役割
第 3 回　マス・コミと大衆文化①
文化の消費者としての大衆(社会的影響)
第 4 回　マス・コミと大衆文化②
商品としての大衆文化「テクノロジーとコミュニケーション技術の発達による」
第 5 回　マス・コミの影響過程①
放送技術とメディアの状況の解説
第 6 回　マス・コミの影響過程②
小集団とオピニオン・リーダーシップ「大衆支配のネットワーク」
第 7 回　マス・コミの影響過程③
マス・メデイアの受け手の相対的独立性
第 8 回　放送の歴史（黎明期）
放送の役割を歴史的に検証「初期」
第 9 回　放送の歴史（発展期）
欧米での歴史的発達段階を中心に考察
第 10 回　放送の歴史（現代）
未来像を探る放送の歴史的発展状況を理解した上で検証する
第 11 回　放送の可能性（娯楽）
現代社会において、放送が担っている役割「娯楽」具体例、具体的番組
第 12 回　放送の可能性（教養）
現代社会において、放送が担っている役割「教養」具体例、具体的番組
第 13 回　放送の可能性（報道）
現代社会において、放送が担っている役割「報道」具体例、具体的番組
第 14 回　放送の可能性（教育）
現代社会において、放送が担っている役割「教育」具体例、具体的番組
第 15 回　前期まとめ試験ガイダンス
前期授業を総括しながら、前期試験の採点方針を提示する

〔成績評価〕
その他平常点10%
小テスト20%
定期試験70%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
水曜日11：30～12：00

Writing I

3419
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
杉島　未来

〔到達目標〕
母国語から英語に変換して作文する場合、時として、母国語独特の発想や表現そのものに引っ張られて間違った英語表現をしてしまうことがある。
英語と日本語を比較しながら、英語らしい表現を追求するべく、英語の発想及び表現を学んでいくことを目的とする。

〔授業の概要〕
英語独自の表現は、他の言語における発想からではないことを観察し、それらを実際の場面で使えるようにならなければならない、ということに着目することが重要である。よって英語母国語話者が持っている直感や発想、また英語の背後にある文化を学ぶことも必要となる。
本授業においては、英語らしい英語を表現するための基礎作りを目指し、English Composition Writingの力を身に着け、各自が自分のこと、或いは自分が考えていることの表現方法を、実際に英文として書くことで、長文を完成させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習用の課題を出します。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（Self-Introduction・適性・アンケート）
授業方針、目標、授業内容、評価方法などについて説明する。
10 Simple Rules For Good Writing
第 2 回　Past Memories
第 3 回　My Daily Life
第 4 回　My Belief
第 5 回　My Future Profession
第 6 回　People I Respect
第 7 回　Things I Treasure
第 8 回　Looking Back
第 9 回　Places Worth Visiting
第 10 回　(Un)Pleasant Things)
第 11 回　Writing a Story
第 12 回　Words in My Vocabulary
第 13 回　Talking about ”Types”
第 14 回　Pitfalls for Youngsters
第 15 回　What I Want the World to Be

〔成績評価〕
授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕
A Passage to Paragraph Writing

〔参考文献〕
配布資料、文部科学省　学習指導要領、
English Composition Based on the Comparison Between English and Japanese
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

English Conversation I

3424
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。
〔授業の概要〕
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習事項の復習し、毎回課題を提出
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、英語のリズムとイントネーションについて
第 2 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 3 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 4 回　Unit2 How do you spell that? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 5 回　Unit2 How do you spell that? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 6 回　Unit3 What's the time? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 7 回　Unit3 What's the time? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 8 回　Unit4 Where are you from? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 9 回　Unit4 Where are you from? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 10 回　Unit5 What's your favorite food? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 11 回　Unit5 What's your favorite food? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 12 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 13 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 14 回　Unit7 What kind of music do you like? ①
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
第 15 回　Unit7 What kind of music do you like? ②
英語の発音練習を元に、それを生かしたリスニングやスピーキングの基礎練習を行う。
〔成績評価〕
毎回の提出物　100%
〔教科書〕
New Getting Into English　南雲堂
〔参考文献〕
適宜プリントを配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。
〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyで受け付ける。

情報処理技法 I （文書作成）

3501
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の

共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Wordのスキルチェック
第 3 回　文書の作成と管理①
　　文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 4 回　文書の作成と管理②
　　文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 5 回　文書の作成と管理③
　　文書の印刷、文書の保存
第 6 回　文字、段落、セクションの書式設定①
　　文字列や段落の挿入
第 7 回　文字、段落、セクションの書式設定②
　　文字や段落の書式設定、文字列や段落の並び替え、グループ化
第 8 回　表の作成
　　表の作成と変更
第 9 回　リストの作成
　　リストの作成と変更
第 10 回　参考資料の作成と管理
　　参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 11 回　オブジェクトの挿入と書式設定①
　　グラフィック要素の挿入と書式設定
第 12 回　オブジェクトの挿入と書式設定②
　　SmartArtの挿入と書式設定
第 13 回　文書表現の応用①
　　目的や状況に応じた文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
　　説得力のある文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕

・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕

＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（表計算）

3502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕

・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕

表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Excelのスキルチェック
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理①
　　ワークシートやブックの作成と書式設定、移動
第 4 回　ワークシートやブックの作成と管理②
　　オプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理①
　　データの挿入と書式設定
第 6 回　セルやセル範囲のデータの管理②
　　データのまとめと整理
第 7 回　テーブルの作成①
　　テーブルの作成と管理
第 8 回　テーブルの作成②
　　テーブルのスタイルと設定オプションの管理、レコードの抽出と並び替え
第 9 回　数式や関数を用いた演算の実行①
　　関数を用いた計算

第 10 回　数式や関数を用いた演算の実行②
条件付き関数を用いた計算、関数を用いた書式設定と文字列の変更
第 11 回　グラフやオブジェクトの作成①
グラフの作成と書式設定
第 12 回　グラフやオブジェクトの作成②
オブジェクトの挿入と書式設定
第 13 回　表計算の応用①
目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算
第 14 回　表計算の応用②
表計算の応用②
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕

・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕

＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報表現技法①

3503
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕

・PowerPointの基本的機能や操作方法を知る。
・PowerPointを使用し、効率的にスライドの作成ができる。
・PowerPointを使用し、目的や状況に応じたスライドの作成ができる。

〔授業の概要〕

プレゼンテーションに欠かせないPowerPointを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist PowerPoint 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、情報表現技法の概要
第 2 回　スキルチェック
PowerPointのスキルチェック
第 3 回　プレゼンテーションの作成と管理①
スライドの作成
第 4 回　プレゼンテーションの作成と管理②
スライドの挿入と書式設定、スライドの並び替えとグループ化
第 5 回　プレゼンテーションの作成と管理③
プレゼンテーションのオプションや表示の変更、印刷設定
第 6 回　プレゼンテーションの作成と管理④
スライドショーの設定と実行、スライド、配布資料、ノートの変更
第 7 回　グラフィック要素の挿入と書式設定①
テキスト・図形等の挿入と書式設定、図形の並び替えとグループ化
第 8 回　グラフィック要素の挿入と書式設定②
表・グラフ・SmartArtの挿入と書式設定、メディアの挿入と管理
第 9 回　画面切り替えやアニメーションの適用
画面の切り替えの適用、アニメーション設定、タイミングの設定
第 10 回　プレゼンテーションの管理
複数のプレゼンテーションのコンテンツ結合、プレゼンテーションの仕上げ
第 11 回　ビジュアル表現
ビジュアル表現の概要、色と図形、図解表現
第 12 回　効果的なスライドの作成①
効率的で魅力的なスライドの作成
第 13 回　効果的なスライドの作成②
研究発表用スライドの作成
第 14 回　プレゼンテーションの技術
プレゼンテーションの基本と要点
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕

・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕

＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS PowerPoint 2016対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,200円（税抜））

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ①（表計算）

3505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。
〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Excelのスキルチェック
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理①
　　ワークシートやブックの作成と書式設定、移動
第 4 回　ワークシートやブックの作成と管理②
　　オプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理①
　　データの挿入と書式設定
第 6 回　セルやセル範囲のデータの管理②
　　データのまとめと整理
第 7 回　テーブルの作成①
　　テーブルの作成と管理
第 8 回　テーブルの作成②
　　テーブルのスタイルと設定オプションの管理、レコードの抽出と並び替え
第 9 回　数式や関数を用いた演算の実行①
　　関数を用いた計算
第 10 回　数式や関数を用いた演算の実行②
　　条件付き関数を用いた計算、関数を用いた書式設定と文字列の変更
第 11 回　グラフやオブジェクトの作成①
　　グラフの作成と書式設定
第 12 回　グラフやオブジェクトの作成②
　　オブジェクトの挿入と書式設定
第 13 回　表計算の応用①
　　目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算
第 14 回　表計算の応用②
　　表計算の応用②
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ①（文書作成）

3506
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レ

ベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法 I（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Wordのスキルチェック
第 3 回　文書の作成と管理①
　　文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 4 回　文書の作成と管理②
　　文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 5 回　文書の作成と管理③
　　文書の印刷、文書の保存
第 6 回　文字、段落、セクションの書式設定①
　　文字列や段落の挿入
第 7 回　文字、段落、セクションの書式設定②
　　文字や段落の書式設定、文字列や段落の並び替え、グループ化
第 8 回　表の作成
　　表の作成と変更
第 9 回　リストの作成
　　リストの作成と変更
第 10 回　参考資料の作成と管理
　　参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 11 回　オブジェクトの挿入と書式設定①
　　グラフィック要素の挿入と書式設定
第 12 回　オブジェクトの挿入と書式設定②
　　SmartArtの挿入と書式設定
第 13 回　文書表現の応用①
　　目的や状況に応じた文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
　　説得力のある文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：金曜日 3限目
・場所：研究棟2階
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能でアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能でも随時受け付けます。

精神保健Ⅱ

4007
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
三島　利江子

〔到達目標〕
精神保健の基礎概念とその生物学的基盤、精神障害の原因、ライフサイクルの発達段階における心の発達と問題、精神保健の意義を考える。
精神保健の基本的な考え方や、生物学・心理学の二つの視点からみる心の働き、ライフサイクルにおける精神衛生、精神面の健康保持・増進について学び理解できるようにする。
〔授業の概要〕
世界（主に西洋）と日本における精神障害者の治療の歴史、精神の働きと脳をはじめとする身体との関係、幼児期から老年期までの精神発達、家庭・学校・職場・地域社会における精神保健上の種々の問題について講義する。また学習者同士の話し合いや各自調べてきたことの発表を行うこともある。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習として、テキストを読む。
また、普段より、精神保健に関する話題に広く関心を持つ。
〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
　　授業の目標，授業進行の予定，成績評価方法，参考文献と資料の紹介。
第 2 回　精神保健とは
　　精神的健康を対象とする学問と実践活動、精神保健の意義と目的について学ぶ。
第 3 回　精神保健の歴史（1）
　　世界（主に西洋）における精神保健の歴史について学ぶ。
第 4 回　精神保健の歴史（2）
　　日本における精神保健の歴史について学ぶ。
第 5 回　心の働きとその理解（1）
　　生物学的な立場から、心の働きについて学ぶ。
第 6 回　心の働きとその理解（2）
　　心理学的な立場から、心の働きについて学ぶ。
第 7 回　精神障害の原因
　　精神障害を引き起す原因について学ぶ。

第 8 回　人間発達と精神保健
幼児期の精神発達について学ぶ。
第 9 回　人間発達と精神保健
学童期・青年期の精神発達について学ぶ。
第 10 回　人間発達と精神保健
成人期・高齢期の精神発達について学ぶ。
第 11 回　家庭と精神保健
家庭における精神発達と、精神保健に関わる問題について学ぶ。
第 12 回　学校と精神保健
学校保健と精神保健活動との関連について学ぶ。
第 13 回　職場と精神保健
精神保健活動と職場における適応障害について学ぶ。
第 14 回　地域社会と精神保健
地域精神保健の考え方と、最近の動向、活動の実際について学ぶ。
第 15 回　まとめ
授業全体のまとめ。

〔成績評価〕
期末試験80点、授業態度20点

〔教科書〕
石井（監修）・相澤・浅野・斎藤・白澤（共著）（2016），『新版　精神保健　第３版』医学出版社

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜　11:30~12:00　３０４教室

情報リテラシー

4103
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社

「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

政治学概論Ⅰ

4110
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
国内政治の仕組みについて多角的な側面から学びながら、現在国内社会で起こっている様々な政治動向や時事問題について、自ら考察できるようにする。
〔授業の概要〕
人間の生活と政治は不可分の関係にあることを理解し「政治」を身近に感じる。現代、自由民主主義体制の下で進展してきた諸政治制度、戦後日本の政治制度や国内における様々な政治過程について学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアで取り上げられる事件や時事問題に関心を持ち、新聞などの活字情報を取得して読むこと。
〔授業計画〕
1. オリエンテーション・アイスブレイク・政治学とは何か
2. Unit1-2 権力と自由/国家・集団・個人
3. Unit3-4 法と政治/政治と非政治
4. Unit5-6 デモクラシーの思想/リベラル･デモクラシーの発展
5. Unit7-9 福祉国家の諸問題/非民主的体制/政治教育
6. Unit10-11 日本の政党政治/政治家と官僚
7. Unit12-13 政治参加と選挙/マス・メディアと政治
8. Unit14-15 世界の中の日本/戦後日本の政治学
9. Unit16-17 主権と国際制度/ナショナリズム
10. Unit18-19 テクノロジーの奇襲/デモクラティック・ピース？
11. Unit20 人権と介入
12. Unit21-22 グローバリゼーションの中のアメリカ/移民問題を通してのEU
13. Unit23-24 戦争責任問題韓国/アジアの地域主義
14. Unit25-26 環境問題と政治/ジェンダーの政治
15. テスト
定期試験
〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回､新聞記事を持参し､討議に積極的に参加する。 30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する　20%
〔教科書〕
苅部直ほか『政治学をつかむ』有斐閣(2011)
〔参考文献〕
適宜指定する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学、政治学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、必修
〔オフィスアワー〕
授業の前後

教育学概論Ⅰ①【中等】

4208
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
津田　　徹

〔到達目標〕
人間を人間として成立させているものについて考察する場合、教育作用は非常に大きな位置を占めています。この講義では、教育とは何かについて、その理念と歴史を簡単に知ることができます。なぜ人間に教育が必要なのかという教育の理念の確認から開始して、教育という語の語源、教育の本質、人間活動と教育、現代社会と教育、社会と教育理念等について学ぶことができます。こうした内容をについて理解し、現代社会の自分で考えることを目標とします。
〔授業の概要〕
この講義においては教育学の基礎について、その理念、歴史、内容、方法などについて歴史的、場所的観点から、講述して、教育学に対する認識を深化させることを目指す。
講義方法は、教科書に従って講述することを基本とするが、場合によっては、討論、発表、視聴覚資料や教材による検討、レポート課題の作成と発表を通して、教育学に対する認識を深化させてゆく予定である。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分)。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション

講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介
第 2 回　教育の場所
家庭、学校、地域社会とそれぞれの教育理念
第 3 回　教育の目的（1）
教育の本質、何をめざして教育はなされるべきか、教育基本法など法令等による
目的・目標
第 4 回　教育の目的（2）
人間観と教育観、現代社会と教育への要請
第 5 回　教育の必要性
ポルトマン、アヴェロンの野生児、自己実現の理念
第 6 回　教育観の対立
これまでの教育観の経緯と対立、伝達観と助成観
第 7 回　家庭教育
家庭教育と人間形成、問われる家庭教育、望ましい家庭教育
第 8 回　社会教育：社会教育の理念
社会教育の理念、生涯学習社会の提唱、社会教育の充実
第 9 回　学校教育：学校教育の理念
学校教育の理念、近代学校制度の誕生と教師、学校経営
第 10 回　日本の近代化と教育の役割
日本の近代化と教育理念、公教育の誕生
第 11 回　教育理念と教育思想（1）
教育理念と教育思想（1）：学制、福沢諭吉、森有礼、教育令、教育勅語
第 12 回　教育理念と教育思想（2）
教育理念と教育思想（2）：大正自由教育運動、国民学校令、教育基本法、改正教育基本法
第 13 回　教育理念と教育思想（3）
ソクラテス、コメニウス、ルソーの各生涯と各教育思想
第 14 回　教育理念と教育思想（4）
フレーベル、ペスタロッチ、デューイの各生涯と各教育思想：フレーベル、ペスタロッチ、デューイの各生涯と各教育思想
第 15 回　まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕
定期試験（70%）、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）
〔教科書〕
広岡義之編、『新しい教育原理ー第2版ー』、ミネルヴァ書房。この書は第1回目から使用します。
内閣府・文部科学省・厚生労働省編、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）
文部科学省編、『幼稚園教育要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『小学校　学習指導要領』（平成29年）、東洋館出版。
文部科学省編、『中学校　学習指導要領』（平成29年）、東山書房。
文部科学省編、『高等学校　学習指導要領』（平成30年）、東山書房。
〔参考文献〕
レーブレ（広岡他訳）、『教育学の歴史』、青土社、2015年。
パーマー（広岡他訳）、『教育思想の50人』、青土社、2012年。
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の理念及び教育に関する歴史及び思想、中一種、高一種、必修
〔オフィスアワー〕
木曜3時間目休み時間。

教育学概論Ⅰ②【中等】

4209
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
小川　雄

〔到達目標〕
人間を人間として成立させているものについて考察する場合、教育作用は非常に大きな位置を占めています。この講義では、教育とは何かについて、その理念と歴史を知ることができます。なぜ人間に教育が必要なのかという教育の理念の確認から開始して、教育という語の語源、教育のあり方、人間活動と教育、現代社会と教育、社会と教育の理念等について学ぶことができます。こうした内容について理解し、教育のあるべき姿をイメージしながら、その実現に向けて自分で考えることを目標とします。
〔授業の概要〕
この講義においては教育学の基礎について、その理念、歴史、内容、方法などを歴史的、場所的観点から説明して、教育学に対する認識を深化させることを目指す。
講義方法は、phollyを使ったオンデマンド形式で行います。詳細については第１回のガイダンスで説明しますが、基本的には、講義スライドを視聴して、それに関連する課題に取り組み、提出する、という流れです。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。
事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、ノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分)。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス

講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法
第 2 回　教育の場所
家庭、学校、地域社会とそれぞれの教育について
第 3 回　教育の目的（1）
何をめざして教育はなされるべきか、教育基本法など法令等による目的・目標
第 4 回　教育の目的（2）
人間観と教育観、現代社会と教育への要請
第 5 回　教育の必要性
自己実現の理念
第 6 回　教育観の対立（1）
系統主義と経験主義
第 7 回　教育観の対立（2）
学問中心主義と子ども中心主義
第 8 回　家庭教育
家庭教育の意義と役割
第 9 回　社会教育
社会教育の理念と役割
第 10 回　学校教育の歴史（1）
近代から第二次世界大戦までの日本の教育の歴史
第 11 回　学校教育の歴史（2）
第二次世界大戦から現代までの日本の教育の歴史
第 12 回　近代の教育思想
ルソーとペスタロッチの教育思想
第 13 回　現代の教育思想
デューイとノディングズの教育思想
第 14 回　学校教育の現代の課題
スクールカースト
第 15 回　まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題

〔成績評価〕
期末レポート（70%）、各授業に対応した課題の提出（30%）

〔教科書〕
広岡義之編、『新しい教育原理ー第2版ー』、ミネルヴァ書房、２０１５年

〔参考文献〕
内閣府・文部科学省・厚生労働省編、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年）
文部科学省編、『幼稚園教育要領』（平成29年）、東山書房
文部科学省編、『小学校　学習指導要領』（平成29年）、東洋館出版
文部科学省編、『中学校　学習指導要領』（平成29年）、東山書房
文部科学省編、『高等学校　学習指導要領』（平成30年）、東山書房
※他の文献については授業中に適宜紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の理念及び教育に関する歴史及び思想、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
基本的に、Phollyでの対応になります。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡をとってください。

公衆衛生学

4221
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
内田　勇人

〔到達目標〕
今日の健康に関わる諸課題を理解した上で、個人と集団の疾病罹患を予防し、健康の維持・増進を図れるかについて考察できるようになることをテーマとする。以下の３点を本授業における具体的な到達目標とする。
１．公衆衛生に関する知識を習得する。
２．現代社会における健康問題について、追求すべき問題を見つけることができる。
３．公衆衛生の知識を活用して、健康に関する時事問題を理解し、自分の見解や問題解決のための対策について考えることができる。

〔授業の概要〕
公衆衛生は集団・地域社会が健康であるための知識体系と機構を指す。本講義では、疾病構造の変化、食生活の変化、人口構造の変化、少子高齢社会の実態、貧困と健康、国際保健、WHO・ユニセフの活動、健康政策、疫学、各年齢階層における保健行政の実際について講述する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストに沿って進むので、毎回予習・復讐を行うこと。
ニュース等で報じられる健康に関わる出来事や法律の改正等に関連付けて考える発想や問題意識を持つように心掛けておくこと。(60分)
少子高齢化社会の実態とその施策について関心を持ち詳しく調べておくこと。(60分)
復習においては、事項についての発展的学習を行うこと。(60分)

〔授業計画〕
第 1 回　健康、公衆衛生の定義
健康の定義、公衆衛生の定義と目的
第 2 回　健康政策
健康政策とは、個人レベルと集団レベルの健康を取り巻く背景、発展途上国・先進工業国における健康政策
第 3 回　人口・保健統計
保健統計の意義、人口静態統計、人口動態統計、生命表
第 4 回　個人の健康指標
身体的健康度、各種健康指標の基準値と内容
第 5 回　疫学
疫学の概念、歴史、因果推論、応用
第 6 回　疾病頻度の測定

疾病頻度の尺度、有病割合、罹患率、リスク比、オッズ比、疫学研究方法
第 7 回　バイアスとスクリーニング
バイアス、交絡、スクリーニング検査の精度、感度、特異度、カットオフ値、根拠に基づいた保健対策、疫学研究と倫理
第 8 回　母子保健
母子保健の歴史と制度の変遷
第 9 回　小児の死亡原因と予防
先天異常、病気、不慮の事故、予防法
第 10 回　学校保健
学校保健、歴史、保健管理、保健教育、安全管理指導、学校保健安全法
第 11 回　学童の疾病・異常の被患率の推移
う歯、ぜん息、裸眼視力、肥満、痩身、運動器障害
第 12 回　産業保健・公害
産業保健の歴史と制度の変遷、メンタルヘルス、物理的環境因子による健康障害、化学的環境因子による健康障害、公害
第 13 回　地域保健
地域保健の歴史と制度の変遷、保健所と市町村保健センター、地域保健活動の具体例、メタボリックシンドローム対策
第 14 回　高齢者保健
高齢者保健の歴史と制度の変遷、新たな高齢者医療制度と特定健診・保健指導
第 15 回　まとめと評価
まとめおよび到達度の確認

〔成績評価〕
レポート・小テスト20%、定期試験（中間40%・期末40%）を基準として総合的に評価する。

〔教科書〕
事前にテキスト資料をLMSにて配信する。各自、電子機器にて閲覧するか印刷等をして授業に臨んでください。

〔参考文献〕
シンプル衛生公衆衛生学2020、編著：鈴木庄亮/小山洋/辻一郎（南江堂）、その他公衆衛生学関連書籍

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、衛生学・公衆衛生学、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
事前にメールにて連絡をすること。そのうえで授業前か授業後に面談。

衛生学

4222
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
内田　勇人

〔到達目標〕
私たちの健康の成り立ちに関する正しい知識の修得と健康的な生活環境の創造にかかわる知識の獲得をテーマとする。
以下の３点を本授業における具体的な到達目標とする。
１．身体的健康度、心理社会的健康度、疲労度等や労働衛生、衛生管理全般に関わる制度等を正しく理解し援用できる。
２．より良い健康の達成や疾病の予防に関わる知見を正しく理解し、それらを知識として活用することができる。
３．社会、職場のありようが人々の健康に及ぼす影響について多面的に理解し、個人や集団の健康に役立てることができる。

〔授業の概要〕
衛生には生命を衛るという意味がある。本講義では衛生に関わる今日的動向、諸課題を中心としつつ、歴史的な側面にも目を向け、体系的に検討する。具体的には衛生学の沿革、健康管理、社会と健康、職場の健康、作業環境、身体的健康度、心理社会的健康度、疲労、衛生管理体制、THPについて考えていく。受講生自身が日常の生活習慣や国・地方公共団体の衛生行政への関心を高め、生涯にわたる健康の実現に向けた知識を養うことを目的とする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストに沿って進むので、毎回予習・復讐を行うこと。
ニュース等で報じられる健康に関わる出来事や法律の改正等に関連付けて考える発想や問題意識を持つように心掛けておくこと。(60分)
私たちが日々生活する環境（空気、温熱、光、騒音等）について関心を持ち詳しく調べておくこと。(60分)
復習においては、事項についての発展的学習を行うこと。(60分)

〔授業計画〕
第 1 回　衛生学とは、衛生学の沿革
定義、国民衛生の動向、仕事に関連する疾病、衛生管理体制の概略、衛生学という学問の始まり、国内外における衛生学の沿革
第 2 回　近年の衛生学関連の動向
近年の健康、医療、福祉の動向、および将来予測
第 3 回　日本人の健康を取り巻く背景の変化
疾病構造の変化、食生活の変化、多産多死から少産少死へ、産業構造の変化
第 4 回　健康管理
健康管理、健康診断、保健指導、健康相談
第 5 回　救急対策
救急蘇生法、突然死の予防、一次救命処置、応急手当、緊急時の連絡マニュアル
第 6 回　社会関係資本と健康

社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）と健康との関連
第 7 回　日本人はなぜ長寿なのか
日本人が長寿である理由、遺伝、生活水準、生活様式、社会的・文化的要因
第 8 回　健康の社会的決定要因
健康の社会的決定要因の成立とその背景、社会のありようが健康に影響を及ぼす機序
第 9 回　職場の健康
過去から現代にいたるまでの産業と労働の内容の変化
第 10 回　仕事に関連する疾病
作業関連性疾患の実態とその対応
第 11 回　作業環境を測る
温熱環境、空気環境、視環境、音環境の計測方法とその意義
第 12 回　作業環境と人体の機能の関係
温熱環境、空気環境、視環境、音環境等の変化が人体に与える影響
第 13 回　安全衛生管理体制
安全衛生管理体制の実際と衛生管理者の職務、事業場における衛生管理者のあり方
第 14 回　THP（Total Health Promotion）とは
働く人々の心とからだの健康づくりの実際
第 15 回　まとめと評価（到達度の確認）
衛生学の考え方、年齢階層の健康課題や健康管理の方法、保健福祉施策

〔成績評価〕
レポート・小テスト20%、定期試験（中間40%・期末40%）を基準として総合的に評価する。

〔教科書〕
事前にテキスト資料をLMSにて配信する。各自、電子機器にて閲覧するか印刷等をして授業に臨んでください。

〔参考文献〕
衛生学、編著：近籐雄二（化学同人）、その他衛生学関連書籍

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、衛生学・公衆衛生学、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
事前にメールにて連絡をすること。そのうえで授業前か授業後に面談。

武道Ｂ（剣道）【再履修】

4223
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
実務経験有
伊藤　　武徳

〔到達目標〕
１）この授業を通して、剣道を基礎基本の段階から学び、授業構成をする上での知識を得る事ができる。
２）技能面では、１級受験可能レベルを目標とする。
３）教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。

〔授業の概要〕
・剣道の起源と変遷および剣道の特性を理解し、剣道の基本動作そして対人的技能を習得させる。
・剣道の理念である「剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。
・武道必修化に伴い中学生に剣道を伝えるための知識とスキルを学ぶ。
・課題に対してペアワークやグループワークを活用し学生主体による学習形態を構築する。
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ）」を提出する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
中学校における武道必修化に伴い、必ず身に付けないとならない知識技能であり、しっかりと身に付くまで授業外学習をすること。
予習：毎時指定した教科書及び当該教科の文献を熟読してくること。（毎回2時間）。
復習：毎時課題に対しての知識的理解と実践的取り組みを行うこと。（毎回2時間）。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、剣道の概要
第 2 回　剣道着の着脱法、 礼法（座礼・立礼）
稽古着・袴着脱法、 礼法（座礼・立礼）の説明と実践
第 3 回　「木刀による基本稽古法①」
基本動作（素振り・送り足）、受け方、打ち方の説明と実践
「基本１」 一本打ちの技　＜正面、小手、胴（右胴）、突き＞
「基本２」 二・三段の技　＜小手⇒面＞
「基本３」 払い技　＜払い面（表）＞
「基本４」 引き技　＜引き胴（右胴）＞
「基本５」 抜き技　＜面抜き胴（右胴）＞

第 4 回　「木刀による基本稽古法②」
基本動作（素振り・送り足）、基本となる技の説明と実践
「基本６」 すり上げ技　＜小手すり上げ面（裏）

＞
「基本７」 出ばな技　　＜出ばな小手＞
「基本８」 返し技　　＜面返し胴（右胴）＞
「基本９」 打ち落とし技＜胴（右胴）打ち落とし面＞
第 5 回 「竹刀打ちこみ稽古法①」
基本動作（素振り・送り足)、基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 6 回 「竹刀打ちこみ稽古法②」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：しかけ技（連続技・払い技・すり上げ技・打ち落とし技）
第 7 回 「防具を用いた稽古法①」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 8 回 「防具を用いた稽古法②」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手）
第 9 回 「防具を用いた稽古法③」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手・小手返し面）
第 10 回 剣道の審判法について
剣道の試合審判規則・細則の説明。
第 11 回 判定試合
判定による勝敗を通して審判を体験する。
第 12 回 1本勝負試合
有効打突（1本）による勝敗を通して審判を体験する。
第 13 回 試合（団体戦）
団体戦による試合形式を体験する。
第 14 回 演武会
演武を行うことで試合との違いや武道を体験する
第 15 回 試験とまとめ
実技試験

〔成績評価〕

・技能（20%）
・知識理解（20%）
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ)」（60%）を総合的に評価する。
※レポート課については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕

文部科学省：『剣道指導の手引き』
全日本剣道連盟：『木刀による基本指導法の手引き』

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
学校現場などでの武道（剣道）講師と指導者の経験より、実践教育と効果的な指導方法を学校教育の実態と体験を踏まえ指導する。

〔オフィスアワー〕

水曜日12 : 10〜13 : 10となります。事前予約をお願いします。
tito@ashiya-u.ac.jp

武道Ａ（柔道）【再履修】

4224
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
武田　光平　新　和己

〔到達目標〕

本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。
科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技)、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。
教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。

〔授業の概要〕

柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作そして対人的技能を習得させる。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

中高学習指導要領及び当該教科の文献などを積極的に参照すること。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション、柔道の概要
柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について学習する。
第 2 回 柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
柔道衣の着方について学習する。礼の意味を理解し、礼法（立礼、座礼）について学習する。
第 3 回 後ろ受け身、横受け身、前受け身
受け身の目的を理解し、後ろ受け身、横受け身、前受け身について
学習する。
第 4 回 ：前回り受け身（立ち上がらない)、横四方固め
前回り受け身（立ち上がらない）について学習する。抑え込み技の定義について理解し、横四方固めについて学習する。
第 5 回 前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
前回り受け身（立ち上がる)、上四方固めについて学習する。
第 6 回 袈裟固め、組み方、八方の崩し
袈裟固め、組み方、八方の崩しについて学習する。
第 7 回 投げ技の基本①
柔道投技の「膝車」、「大外刈」について学習する。
第 8 回 投技の基本②
柔道投技の「大内刈」、「体落」について学習する。

第 9 回　投技の基本③
　　柔道投技の「釣込腰」、「背負投」について学習する。
第 10 回　動きの中で技を掛ける
　　これまでに習得してきた技を、動きの中で掛ける動作について学習する。
第 11 回　投の形（手技）
　　投の形（手技）「浮落」「背負投」「肩車」について学習する。
第 12 回　投の形（腰技）
　　投の形（腰技）「浮腰」「払腰」「釣込腰」について学習する。
第 13 回　投の形（足技）
　　投の形（足技）「送足払」「支釣込足」「内股」について学習する。
第 14 回　審判法
　　柔道のルールについて学習する。
第 15 回　まとめ
　　実技試験。

〔成績評価〕

・授業への積極的参加度も重視し、実技と合わせて総合的に評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布。

〔参考文献〕

講義中に紹介。

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕

場所：記念館2階講師控室
日時：火曜日13:30～17:00
基本的に来室の際にはアポイントを取ってください。

児童体育

4231
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
竹安　　知枝

〔到達目標〕

・小学校の体育科領域の目標や内容について説明できる。
・児童期の子どもに対する運動指導のスキルについて身に付ける。
・体育の教材（用具類も含む）の特性を把握し、運動指導の場面で適切に使用することができる。

〔授業の概要〕

実技は、小学校体育科の領域の内容（体つくり、器械運動、走・跳の運動、ゲーム、ボール運動、リズム遊びなど）を主とする。実技を中心に行うが、グループごとに実技の練習方法や指導方法について、ディスカッションし、全体で発表を行う。

講義の主な内容は「体育科の目標及び内容」「児童期の運動（遊び）の重要性」「保健」「コーディネーション能力を高めるための運動（遊び)」「安全対策」等とする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

【予習】準備運動をしっかりと行い、その日に実施予定の実技の練習も行うこと。また、その日に実施する運動の特徴や競技ルール等についても調べておくこと。（２時間）
【復習】授業内容について自分なりにまとめること。また、苦手な運動種目については、授業後に練習を行い、ストレッチ体操も十分に行うこと。（２時間）

〔授業計画〕

第 1 回　体育科の目標及び内容・児童期の発達
　　授業の概要・評価について
　　体育科の目標と運動領域（内容）について
　　児童期の発達についての理解
第 2 回　体つくり運動①
　　体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動遊び
第 3 回　体つくり運動②
　　体力を高める運動
第 4 回　器械・器具を使っての運動遊び
　　鉄棒・跳び箱などを使った運動の指導方法、補助の仕方
第 5 回　器械運動
　　マット運動・平均台運動の指導方法、補助の仕方
第 6 回　走・跳の運動（遊び）
　　ハードル走・リレーの指導方法
第 7 回　縄跳び（短縄・長縄）
　　短縄・・・前跳び・後ろ跳び・二重跳びなど
　　長縄・・・遊びの展開、指導方法
第 8 回　水遊び・水泳
　　水遊び・・・浮く・もぐる遊びなど
　　水泳・・・クロール・平泳ぎなど
第 9 回　ゲーム
　　鬼ごっこ・ボール遊びなど
第 10 回　ボール運動①
　　ドッジボール・ポートボールなど
第 11 回　ボール運動②
　　バレーボール・バスケットボールなど
第 12 回　リズム遊び・表現運動
　　簡単なフォークダンスや創作ダンスなど
第 13 回　サーキット運動（遊び）
　　多種多様な動きの組み合わせによる遊びの展開
第 14 回　保健・安全対策
　　保健の領域について
　　コーディネーション能力（調整力）を高める運動と遊びについて
　　安全対策（遊具の安全点検・応急処置等）について
第 15 回　振り返りとまとめ
　　様々な場面における運動指導に関して（ディスカッション）
　　全体の振り返りとまとめ（発表）

〔成績評価〕
実技テスト　50%
提出物（レポート）30%
学習意欲・授業態度　20%
〔教科書〕
【体育編】小学校学習指導要領（平成29年3月31日告示）文部科学省
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育、小一種、必修
〔オフィスアワー〕
【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

教育心理学研究法Ⅰ

4237
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 教育心理学における実証的研究方法についての知識並びに技能を獲得し,それを他者へ適切に説明することができる。
2. 現代における教育心理学の研究に関する深い認識を基に,自ら研究計画を立案し，適切に研究を実施する際における限界点並びに倫理的配慮について理解することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に心理学的な観点から，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。
〔授業の概要〕
本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び2の獲得を目指すものである。
心理学（psychology）とは，我々の「行動と心的過程についての科学的学問」（Edward E. Smith et al., 2015 内田訳 2015）である。本講義では，“心”を巡る様々な問題について触れながら，教育心理学における実証的な研究法について解説を実施する。それを通じて，“心”にまつわす様々な問題に対して科学的に解決する視点や研究倫理を身につけることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用して調査し，ノートに整理する。
〔授業計画〕
第 1 回　**教育心理学における研究法**
・授業の進め方や成績評価について
・「科学」と「心理学」; 心理学における「研究」
・心理学研究法の分類と特徴
・心理学研究法の歴史
・研究倫理
第 2 回　**観察法**
・心理学における観察法の意義
・自然的観察法，実験的観察法，参与的観察法
第 3 回　**実験法**
・心理学における実験法の意義，重要性
・実験法の特徴；仮説演繹法
・実験計画
第 4 回　**質問紙法**
・質問紙法の実施方法
・心理尺度の構成; 質問項目作成の方法や回答方式
・信頼性と妥当性
第 5 回　**面接法**
・面接法の意義
・臨床的面接法の特徴，面接者の要件について
・調査的面接法の特徴
第 6 回　**検査法**
・検査法の特徴
・作業検査法，知能検査法（WISC並びにWAIS等），人格検査法，投影法
第 7 回　**事例研究法**
・心理臨床と事例研究; 教育場面における事例研究
・心理学研究法としての事例研究
・事例の取扱いと倫理的配慮
第 8 回　**実践的研究法**
・教育場面における実践的研究法; アクションリサーチ，フィールドワーク
・質的研究法との関連
第 9 回　**精神生理学的研究法**
・生理指標；眼球運動，脳波（fMRIなど），事象関連電位，皮膚電気反応
・神経心理学的手法
第 10 回　**教育心理学分野の研究法①：発達**
・発達における研究法の特徴; 縦断的研究，横断的研究，コホート分析
・各発達段階における研究法の特徴
第 11 回　**教育心理学分野の研究法②：学習**
・学習心理学，認知心理学との関連
・学習に関連した研究の特徴; 教室場面における学習行動の分析，教授－学習過程分析，授業研究

第 12 回　**教育心理学分野の研究法③：臨床**
・学校臨床場面における研究手法；事例研究法
・特別支援教育における研究法の特徴
第 13 回　**教育心理学分野の研究法④：測定**
・教育測定の手法，測定理論
・教育心理学における研究モデルの構成
・教育評価における研究法の特徴
第 14 回　**心理学論文の作成方法**
・心理学における論文，論文の執筆方法
・文献収集の方法；書籍，雑誌，電子媒体
・文献研究
第 15 回　**統括**
・「教育心理学研究法Ⅰ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕
授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%

〔教科書〕
村井 潤一郎 (編) (2019). Progress & Application 心理学研究法　サイエンス社
その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕
南風原 朝和・市川 伸一・下山 晴彦 (編) (2004). 心理学研究法――調査・実験から実践まで――　東京大学出版会
Ann Searle (1999). *Introducing Research and Date in Psychology*. England: Routledge.
（アン・サール. 宮本 聡介・渡邊 真由美 (訳) (2017). 心理学研究法入門　新曜社）
その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

視聴覚教育Ⅰ

4320
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
西光　晴彦

〔到達目標〕
・視聴覚教育の現状と課題について知る。
・視聴覚教育の今後の在り方について考察できる。

〔授業の概要〕
現代の子ども達は、技術革新により急激に発達した情報化社会の中で生活している。
マスメディアから発信される情報が子ども達に与えてきた影響を研究してゆく。そのために受講学生に毎授業終了から1週間のマスメディアの報道を興味深く観察させ次講義時に発表させ受講学生間で議論させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　教育と伝達①
人類社会における伝達方法の発達
第 2 回　教育と伝達②
人類社会における教育伝達の歴史
第 3 回　視聴覚教育の史的展開
学習指導における視聴覚教育的補助教材としての発達
第 4 回　視聴覚教育の語源
「視覚教育と視覚的方法」「視聴覚教育」「視聴覚的方法」
第 5 回　視聴覚教育の作用
全国視聴覚教育学会での最新発表論文の検証
第 6 回　視聴覚教育を活かした指導実践事例
公立小学校における国語科学習指導案
第 7 回　文字記号伝達について
文字記号伝達と映像記号伝達の比較調査①
第 8 回　映像記号伝達について
文字記号伝達と映像記号伝達の比較調査②
第 9 回　視聴覚的経験の構造
デールの経験の円錐（具体と抽象）
第 10 回　視聴覚メディアの変化とニューメディア
新しいメディアの登場への社会の情報化的状況の準備
第 11 回　サインとシンボル
新しいメディアの登場への社会の情報化的状況の準備
第 12 回　新しいメディアとしてのコンピュータ
計算機機能から電脳機能を有する発展
第 13 回　電子文房具としてのワープロ
コンピュータを作文の道具として活用することの注意
第 14 回　放送教育の変容情報伝達
システムの特性と進化における放送教育の是非
第 15 回　視聴覚教育の新しい展開
総括としての「視聴覚教育の新しい展開」の討議

〔成績評価〕
その他に講義平常点10%
小テスト20%
定期試験70%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
木曜日11：30～12：00

日本国憲法

4333
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
松本　　達也

〔到達目標〕
近代憲法の歴史的理解と日本国憲法の歴史とその体系の理解を目指す。状況に応じて社会的関心を集める問題をその都度素材に取り上げ、憲法的観点から考察する。政治が憲法に基づいて行われていることについて多面的・多角的に考察し、議論し、更に小論文として表現する。
〔授業の概要〕
国法システムの中で、憲法が「最高の法規」であるということの意味を確認する。国家が存在する以上、その公権力の行使に正当性を与える法、すなわち憲法が必ず必要になる。従って、憲法は国の数だけ存在する。この最高法規を基本から学習することになる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：一週間の憲法関連の新聞報道等の理解。

復習：毎回の講義のテーマを200字程度でまとめる。
〔授業計画〕
第 1 回　国家
　　国家の概念と国家形態
第 2 回　憲法の意義と類型
　　憲法の意義と憲法の類型
第 3 回　近代憲法の成立と特色
　　英米仏独の憲法、現代憲法の登場
第 4 回　明治憲法の成立と特色
　　明治憲法の成立過程、明治憲法の特色
第 5 回　日本国憲法の成立
　　ポツダム宣言の受諾、日本国憲法の成立過程とその問題点
第 6 回　日本国憲法の基本原理
　　国民主権主義、平和主義、人権尊重主義
第 7 回　天皇制
　　天皇の地位、皇位の継承、天皇の権能、摂政、皇室の財政
第 8 回　戦争の放棄
　　天皇の地位、皇位の継承、天皇の権能、摂政、皇室の財政
第 9 回　基本的人権の保障
　　基本的人権の性格、平等権、自由権、社会権、参政権
第 10 回　国会
　　二院制、議員の選挙、議員の地位、議員の組織、会期、国会権限
第 11 回　内閣
　　行政権、内閣組織、内閣の職務、活動、内閣と国会の関係
第 12 回　裁判所
　　司法権の概念、裁判所の構成、司法権の地位と裁判官、違憲審査権
第 13 回　財政
　　財政の基本原理、予算、団体自治、公金支出の制限
第 14 回　地方自治体
　　地方自治体の本旨、住民自治、団体自治、特別法
第 15 回　憲法改正
　　憲法典の変更、日本国憲法の改正、改正の限界
〔成績評価〕
定期試験：筆記試験50%
授業内提出物30%
授業への取り組み姿勢20%
〔教科書〕
講義時間毎に教材・資料等を印刷物で配布する。
〔参考文献〕
新版現代社会の法と憲法（松本他著建帛社）
文部科学省中・高新学習指導要領
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

国際政治学 I

4344
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
1. 国際問題について自らの意見を述べられるようになる。
2. 現代の国際政治体制の下で展開された戦争や国際協調に関する具体的な事例を取り上げ、単なる「出来事」としてではなく深く理解する。
〔授業の概要〕
安全保障と武力紛争、世界平和のための国際協調などについて問題を考察し、国際政治に対する理解を深めると共に、国際政治体制の下で起こった象徴的な出来事について、国際政治学者の緒方貞子さんがかかわった事例から具体的に学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアで取り上げられる国際問題や時事問題に関心を持ち、新聞などの活字情報を取得して読むこと。

〔授業計画〕
1. オリエンテーション・アイスブレイク・評価方法・国際政治とは何か
2. 1章　国連難民高等弁務官への道①
3. 1章　国連難民高等弁務官への道②
4. 2章　「冷戦後」の始まりークルド難民
5. 3章　「民族浄化」の中でー旧ユーゴ紛争①-1
6. 3章　「民族浄化」の中でー旧ユーゴ紛争①-2
7. 4章　国際政治と人道援助ー旧ユーゴ紛争②-1
8. 4章　国際政治と人道援助ー旧ユーゴ紛争②-2
9. 5章　厳しさを増す人道援助ールワンダ難民①
10. 5章　厳しさを増す人道援助ールワンダ難民②
11. 6章　紛争地域の再生に向けて
12. 7章　同時多発テロとアフガン難民支援
13. 8章　「人間の安全保障」にむけて
14. 終章　イラク戦争、そして日本
15. テスト
定期試験
〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回､新聞記事を持参し､討議に積極的に参加する。 30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する　20%
〔教科書〕
東野真『緒方貞子ー難民支援の現場から』集英社(2003)
〔参考文献〕
適宜指定する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。)、政治学（国際政治を含む。)」、高一種（公民)、選択
〔オフィスアワー〕
授業の前後

中等教科教育法Ⅰ（社会・公民）

4402
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.高等学校学習指導要領における公民科の科目構成と、科目構成見直しに至る経緯、学習指導要領の求める学習指導の改善充実等、各科目の性格と目標について理解している。
2.高等学校学習指導要領解説公民編の示す「公民科の目標」について深く理解し、自らもまたより良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようと態度を養い、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚している。
3.高等学校学習指導要領解説公民編の示す「社会的な見方・考え方」を理解している。
4.授業デザインの基本を理解し、授業実践に活きる指導案の原案を作成できるノウハウを身に付けている。
〔授業の概要〕
今次の高等学校学習指導要領改訂の方向性の一端を示しながら、高等学校公民科教育の構造を中学校社会科などとのつながりの中でとらえ、公民科を形成する各科目（「公共」「倫理」「政治・経済」）の性格と目標について、学習指導要領解説公民編解説の内容から学ぶ。
特に、内容の指導に当たり、「政治及び宗教に関する教育」について、教育基本法第14条及び第15条の規定に基づいた適切な指導が行うことができるとともに、選挙権年齢引き下げの中で、授業の対象となる生徒が積極的に国家や社会の形成に参画する主体となり得る指導法を考察する。
前期の授業では、授業デザインの考え方を中心に学び、その１つの完成形としての学習指導案を作成する力を身に付けることを目指す。授業の中で、高等学校の公民科教育の目標と内容について十分に理解を深め、自分なりの授業づくりの手法を身に付けてほしい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
＊授業の際に範囲を指定するので、次の授業までに「高等学校学習指導要領解説」（総則編、公民編）に眼を通してから授業に臨む
＊授業後の振り返りシートを提出する
〔授業計画〕
第 1 回　高等学校教育の直面する課題
（特色ある学校づくり、大学入試への対応、現代の高校生に求められる資質・能力）
第 2 回　平成28年12月中教審答申を踏まえた今次の学習指導要領改訂の基本方針
（「育成を目指す資質・能力の明確化」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」）
第 3 回　公民科改訂の趣旨　「公民科における社会的な見方・考え方」
（公民科の改訂の基本的な考え方）
第 4 回　科目の性格と目標 「公共」①
（科目の性格と目標・内容とその取扱い・指導計画の作成と指導上の配慮事項）
第 5 回　科目の性格と目標 「公共」②
（科目の性格と目標・内容とその取扱い・指導計画の作成と指導上の配慮事項）
第 6 回　科目の性格と目標 「倫理」
（科目の性格と目標・内容とその取扱い・指導計画の作成と指導上の配慮事項）
第 7 回　科目の性格と目標 「政治・経済」
（科目の性格と目標・内容とその取扱い・指導計画の作成と指導上の配慮事項）
第 8 回　学習評価、授業評価に対する取組
（評価基準と評価材料、研究授業に対する視点）
第 9 回　単元構成作成の考え方　授業デザイン・学習指導案の構造とつくり方
（年間指導計画の作成と単元構成）
第 10 回　各科目にわたる指導計画作成・内容の取扱いに当たっての配慮事項

（インクルーシブ教育の構築、言語活動の重視、信頼性を踏まえた適切な資料の活用、PCやJTNの活用）
第 11 回 「倫理」の授業づくり
（「フランス啓蒙主義」について考える）
第 12 回 「公共」の授業づくり①
（「社会契約説」について考える）
第 13 回 「公共」の授業づくり②
（「公共性と人権」について考える）
第 14 回 「政治・経済」の授業づくり
（世界のグローバル化、情報化社会、防災、SDGs、等からテーマを１つ選んで考える）
第 15 回 「ICT教育」についての理解
（ICT機器を用いた授業の効果と陥りがちな「落とし穴」）

〔成績評価〕
期末のレポート(60%)、振り返りシート(30%)、学習指導案作成 (10%)

〔教科書〕
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編

〔参考文献〕
テキストは使用せず授業の中で随時紹介、または適宜プリントを配付

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、高一種（公民）、必修

【実務経験の活用】
公民科の指導法について学習指導要領の示す内容を理解することを中心に授業を進めたい。
教員、市教委事務局職員として学んだことを基に、最新の情報を含めた教科指導法として、将来、教員を目指そうという志をもつ学生に伝える。

〔オフィスアワー〕
・金曜日：15:30から16:30
・場　所：研究室
・連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
・その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

日本文化史研究Ⅰ

4405
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
杉島　　威一郎

〔到達目標〕
各時代の文化とそれを生み出した時代的背景との関連、外来の文化などとの接触や交流による文化の変容や発展の過程などにも着目し、我が国の伝統と文化の特色とそれを形成した様々な要因を総合的に考察する。

〔授業の概要〕
基本的な事項を確認する。年表、地図その他の史料を使用しながら各時代の文化を理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業のおわりに、次回の課題図書を提示するので読んでおくこと。(2時間)
授業冒頭に前回授業の小テストを行う。(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　日本文化とは
本講義で何を学ぶかを確認する
第 2 回　大和政権と古墳文化
大陸との関係を踏まえながら日本の国家形成について考える
第 3 回　飛鳥時代の文化
中央集権国家が形成される時代の文化を考える
第 4 回　奈良時代の文化
奈良時代の文化・天平文化について考える
第 5 回　平安時代の文化
弘仁貞観文化、国風文化について考える
第 6 回　平安末期の文化
院政期の文化について考える
第 7 回　鎌倉時代の文化
新仏教の興隆と当時の文化について考える
第 8 回　室町時代の文化
北山文化と東山文化について考える
第 9 回　安土・桃山時代の文化
南蛮文化について考える
第 10 回　江戸時代の文化（１）
元禄文化、化政文化について考える
第 11 回　江戸時代の文化（２）
江戸時代の学問について考える
第 12 回　明治時代の文化
西洋文化の流入について考える
第 13 回　大正時代・昭和初期の文化
大正期から戦前期の日本の文化について考える
第 14 回　戦後の文化
戦後の日本文化について考える
第 15 回　まとめ
前期のまとめを行う

〔成績評価〕
期末のテスト（70パーセント)、授業時の小テスト（30パーセント）

〔教科書〕
中学校学習指導要領
高等学校学習指導要領

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

学習心理学Ⅰ

4409
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
学習の理論の理解。学習意欲、学習指導法、学習理論の応用についての理解。
〔授業の概要〕
一般的に学習とは、経験や勉強によって知識、理解、習熟を増すこと、記憶すること、経験を通して獲得すること、わかることをさす。一方、心理学では学習は経験による比較的永続的な行動の変容とされるが、この授業ではこのような「学習」に焦点をあてて講義する。
授業にあたっては、下記予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業計画に沿って各回のテーマについてネットなどで調べておくこと。(90分)
授業後は各回のテーマの要点をまとめておくこと。ネットなどで関連項目についてより広く調べてみること。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　学習とは　学習心理学の内容
第 2 回　学習の理論（1）
　　連合説　　パブロフの古典的条件づけ　スキナーによるオペラント条件づけ
第 3 回　学習の理論（2）
　　認知説　　観察学習　　モデリング　　社会的学習　技能学習
第 4 回　学習意欲（1）
　　達成動機　マズローによる欲求階層説　内発的動機づけ　原因帰属理論
第 5 回　学習意欲（2）
　　自己決定理論　アンダーマイニング効果　達成目標理論
第 6 回　学習意欲（3）
　　学ぶ意欲のプロセスモデル　発達段階と動機づけ　人間関係と動機づけ
第 7 回　学習指導（1）
　　学習指導の要件　さまざまな学習指導法　　ATI
第 8 回　学習指導（2）
　　授業設計　インストラクショナルデザイン　学習意欲のデザイン
第 9 回　学習指導（3）
　　協同学習　アクティブラーニング　構成主義の学習理論
第 10 回　学習理論の臨床的応用（1）
　　認知行動療法
第 11 回　学習理論の臨床的応用（2）
　　応用行動分析
第 12 回　学習理論の臨床的応用（1）
　　特別支援教育への応用
第 13 回　学習と知能
　　知能とは　知能のモデル　学習と知能の関係
第 14 回　学力と学習
　　学力とは　学力のモデル　学力と学習の関係
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
期末試験　１００％
〔教科書〕
用いない
〔参考文献〕
学習の理論　上・下
バウアー・ヒルガード（梅本堯夫監訳）　培風館
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

会計学Ⅰ

4411
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
清原　裕平

〔到達目標〕
「会計」とは、企業等の経済活動の結果（成果）について、一定の測定ルールに従い貨幣額を用いて記録（記帳）し、利害関係者（ステークホルダー）に伝達（報告）するためのシステムといえます。
「会計学Ⅰ」では、こうしたディスクロージャー制度の一環として求められる会計の意義や役割等について、会計基準・企業会計原則・概念フレームワークなどを参照しながら確認するほか、「資産」と「負債」に係る重要論点について学習します。
〔授業の概要〕
授業は、主に教科書及び参考文献を使用して進めていきます。なお、授業の進捗状況に応じて、適宜資料を配付したり、課題を指示したりすることがあります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　課題を除き、授業時間外・準備学習として求めることは基本的にありません。なお、「簿記」の学習は、「会計学」の深度ある理解や習得に寄与するものと考えます。
〔授業計画〕
第 1 回　会計総論
　　会計の意義、種類、役割などについて学習します。
第 2 回　企業会計の仕組み
　　企業会計の仕組みや特徴などについて学習します。
第 3 回　企業会計原則
　　企業会計原則について原文を参照しながら学習します。
第 4 回　概念フレームワーク
　　概念フレームワークについて原文を参照しながら学習します。
第 5 回　企業会計制度
　　会社法、金融商品取引法、法人税法における会計規定などについて学習します。
第 6 回　資産（1）
　　資産の意義、分類、評価などについて学習します。
第 7 回　資産（2）
　　流動資産のうち、当座資産や棚卸資産について学習します。
第 8 回　資産（3）
　　流動資産のうち、棚卸資産やその他の流動資産について学習します。
第 9 回　資産（4）
　　固定資産のうち、有形固定資産について学習します。
第 10 回　資産（5）
　　固定資産のうち、無形固定資産や投資その他の資産について学習します。
第 11 回　資産（6）
　　繰延資産について学習します。
第 12 回　負債（1）
　　負債の意義、分類、負債性引当金などについて学習します。
第 13 回　負債（2）
　　流動負債について学習します。
第 14 回　負債（3）
　　固定負債について学習します。
第 15 回　まとめ
　　これまで学習した範囲の中から重要論点を再度整理し、学習効果を高めます。
〔成績評価〕
授業への出席及び学習態度　50%
試験　50%
〔教科書〕
『新版　現代会計学（第３版）』（中央経済社）
〔参考文献〕
『新版　会計法規集（第11版）』（中央経済社）
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
①前期
②水曜日　15:20～16:00
③場所　　対面授業の場合は講義教室、ＬＭＳ授業の場合はメールで対応します。
④連絡先　yk-cpa429@agate.plala.or.jp　宛てにメールで質問等の内容を送信してください。
⑤その他（相談をする際の留意事項等）
　事前予約制となっていますので、必ずアポイントメントを取ってください。

日本語Ⅰ①

4420
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
日本語の上級レベル（日本語能力試験N1レベル）の力をつけることを目
的とする
い
〔授業の概要〕
日本語能力試験N1~N2レベルの文章を読み、同時に文法・語彙の使い方を学び、漢字の読み書きも練習する。習った文法・語彙を使って、自分で文を作成する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)
〔授業計画〕
第 1 回　読解①
　　自己紹介と本当の自分
第 2 回　文法・語彙①
　　自己紹介と本当の自分
第 3 回　読解②
　　若者の自己評価
第 4 回　文法・語彙②
　　若者の自己評価
第 5 回　読解③
　　ジェンダーを考える
第 6 回　文法・語彙③
　　ジェンダーを考える
第 7 回　読解④
　　ことばと文化
第 8 回　文法・語彙④
　　ことばと文化
第 9 回　読解⑤
　　心と体のバランス
第 10 回　文法・語彙⑤

心と体のバランス
第 11 回　読解⑥
働くということ
第 12 回　文法・語彙⑥
働くということ
第 13 回　読解⑦
日本の多様性
第 14 回　文法・語彙⑦
日本の多様性
第 15 回　まとめ
模擬試験　読解

〔成績評価〕
授業への参加度・態度：20%
宿題・提出物：20%
小テスト：30%
期末テスト：30%

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
「新中級から上級への日本語』(Japan Times)
『日本語総まとめ問題集Ｎ１ 漢字』（アスク）
『新完全マスター文法日本語能力試験Ｎ１』（スリーエーネットワーク）
『日本語能力試験Ｎ１予想問題集改訂版』（国書日本語学校）他。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日２限（12：10～13：40）

日本語Ⅰ②

4421
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　泰洋

〔到達目標〕
◎大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎（日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す。

〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
日本語の学習方法についての指示等を与える。
ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　異文化との出会い
「留学することの意義」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、それぞれの経験も踏まえながらその内容に関して意見を出し合う。
第 3 回　人生とキャリア
「『就活』を考える」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、それぞれの将来の進路に関して意見を出し合う。
第 4 回　地域と共に生きる
「商店街でみんな元気に」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、日常生活に関して意見を出し合う。
第 5 回　自然との共生
「里山ー自然と人間が共生する場所ー」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、自然との共生に関して意見を出し合う。
第 6 回　食にみる世界
「１杯のコーヒーから世界を考える」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、食生活に関して意見を出し合う。
第 7 回　子どもと教育
「教室のお客様」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、教育に関して意見を出し合う。
第 8 回　新聞記事１
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 9 回　新聞記事２
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 10 回　新聞記事３
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 11 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解す

ると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 12 回　新聞記事5
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 13 回　新聞記事６
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 14 回　新聞記事７
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。
〔教科書〕
プリントを配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。
〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語Ⅲ①

4422
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
N1レベルの文法力をブラッシュアップしつつ、読解力・語彙力をつけ 、Ｎ１に合格する力をつけていくことを目標とする。
〔授業の概要〕
日本語能力試験N1レベルの読解を中心に、文字・語彙・文法も併行して学び、日本語能力試験Ｎ１に確実に合格できる力を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
まちがった問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。（30 分）
〔授業計画〕
第 1 回　Ｎ１レベル言語知識　模擬試験
Ｎ１レベル　読解・語彙・文法・文字の模擬試験
第 2 回　Ｎ１レベル〈語彙・文法〉
模擬試験のフィードバック
文法・語彙問題演習
第 3 回　読解①
パラサイト・シングルの社会的功罪
第 4 回　語彙・文法①
パラサイト・シングルの社会的功罪
第 5 回　読解②
情報化社会に必要な姿勢や能力とは
第 6 回　語彙・文法②
情報化社会に必要な姿勢や能力とは
第 7 回　読解③
日本の伝統文化”相撲”
第 8 回　語彙・文法③
日本の伝統文化”相撲”
第 9 回　読解④
医師不足の悩む日本の医療
第 10 回　語彙・文法④
医師不足の悩む日本の医療
第 11 回　読解⑤
犯罪　新しい詐欺の形
第 12 回　語彙・文法⑤
犯罪　新しい詐欺の形
第 13 回　読解⑥
科学技術　ロボットは科学技術の申し子
第 14 回　語彙・文法⑥
科学技術　ロボットは科学技術の申し子
第 15 回　Ｎ１レベル〈言語知識〉
Ｎ１レベル　模擬試験
〔成績評価〕
授業への参加度・態度：20%
宿題・提出物：20%
小テスト：30%
期末テスト：30%
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
『学ぼう！にほんご　上級』（専門教育出版）
『日本語総まとめ問題集Ｎ１ 漢字』（アスク）
『新完全マスター文法日本語能力試験Ｎ１』（スリーエーネットワーク）
『日本語能力試験Ｎ１予想問題集改訂版』（国書日本語学校）他。

〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日３限（13：50～15：20）

日本語Ⅲ②

4423
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
中西　泰洋

〔到達目標〕
◎「日本語Ⅰ・Ⅱ」に続き、大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎 （日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す
〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。 日本語の学習方法についての指示等を与える。 ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　統計と数字
『統計数字を疑う　なぜ実感とズレるのか？』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 3 回　背理法
『数学的思考法　説明力を鍛えるヒント』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 4 回　ぼくは勉強ができない１
『ぼくは勉強ができない』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 5 回　ぼくは勉強ができない２
『ぼくは勉強ができない』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 6 回　「待つ」こと
『態度がわるくてすみません　内なる「他者」との出会い』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 7 回　ついでに何をする？
『おまけより割引してほしい　値ごろ感の経済心理学』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 8 回　同性愛のHIV感染者
「同性愛のHIV感染者　性教育教師に」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 9 回　ウイルス発見！
『生物と無生物のあいだ』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 10 回　新聞記事１
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 11 回　新聞記事２
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 12 回　新聞記事3
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 13 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 14 回　新聞記事５
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。
〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。
〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。
〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

教育社会学

5016
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.現在の教育現場で顕在化している諸課題の実態（事実・活動・現象・体系・制度、等）とそれを生み出している社会構造・社会関係・社会規範の一端を授業で紹介された事例を通じて理解する。
2.また、それらについて、さらに探求しようとする関心・意欲をもつ。
3.「私事化(privatization)」の概念を理解している。
4.我が国における「私事化」の進行と「いじめ・不登校」の問題をとらえる視点を確立できる。
5.教育問題（教育病理）に関して、解決の糸口を主体的に見出そうとする意欲をもつ。
〔授業の概要〕
現在の教育現場における諸課題を切り口にし、海外の状況や学生自身の実体験も織り交ぜながら、それらの背景にある社会構造・社会関係・社会規範について考察する。
特に、「私事化(privatization)」の概念に着目し、現代社会における「私事化」の進行を背景とした「いじめ・不登校」の問題を理論化し、学生自身の生活経験・実体験との対照比較などの中で深めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊授業の際に次時のテーマを指定するので、次の授業までにテーマに関する予備知識を身に付けて授業に臨む
＊授業後の振り返りシートを提出する
〔授業計画〕
第 1 回　教育社会学の授業について　ガイダンス
（教育社会学の研究領域・アプローチについて、今後の授業で扱うテーマに関するワークショップグループを編成）
第 2 回　「新しい学力観」登場以後の「学力観」変遷
（「臨教審答申（S62.12)」を受けて策定された学習指導要領に謳われた「新しい学力観」から今に至る流れ）
第 3 回　「子どもたちの現実」①（学力格差）
（現代の教育の生み出す「選別・格差拡大機能」についての初歩的な理解）
第 4 回　「ICT教育」
（プラグマティズムに対する「或る種の危惧」とその克服の模索）
第 5 回　「職員室の課題」①
（平成27年教育委員会制度改変以降の学校現場）
第 6 回　「職員室の課題」②
（「指導力不足教員」「教員による不祥事」「OJT」）
第 7 回　「少年非行と学校の荒れ」
（青少年問題行動の時代的な特徴・「学校の荒れ」の諸様相とその背景）
第 8 回　「学級集団」
（QUテストとは/その結果などから読み取れる、崩壊しない学級経営のタイプ）
第 9 回　「職員室の課題」③
（「部活動指導」、「業務改善」）
第 10 回　「子どもたちの現実」②（環境）
（「子どもの貧困・虐待」に関する初歩的な理解）
第 11 回　「私事化(privatization)」の進行①
（「私事化」の概念についての初歩的な理解）
第 12 回　「私事化(privatization)」の進行②
（「私事化」の進行と「いじめ問題」）
第 13 回　「私事化(privatization)」の進行③
（「私事化」の進行と「不登校」「その他、青少年の社会問題」）
第 14 回　「学校・地域・家庭で子どもたちをはぐくむ」
（平成9年須磨事件、阪神淡路大震災等の教訓）
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
（社会の生み出してきた教育問題、教育の生み出してきた社会問題、まとめ）
〔成績評価〕
期末のレポート(60%)、振り返りシート(30%)、グループワークへの参加の状況 (10%)
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
幼稚園教育要領（平成29年改訂）解説
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編
特別支援学校学習指導要領等（平成29・30年改訂）
テキストは使用せず授業の中で随時紹介、または適宜プリントを配付
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的

事項、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、高一種（公民）、選択

【実務経験の活用】
教員、市教委事務局職員として感じてきた我が国の教育界の動向や課題について、先行研究の諸説を紹介しながら、指導していく。
〔オフィスアワー〕
水曜日：15:00から16:00
場　所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

スポーツ経営管理学

5212
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
青山　将己

〔到達目標〕
本授業では、以下3点を到達目標とする。
1. スポーツ経営管理に関する基礎的な知識を習得する。
2. スポーツ経営管理に関する「ヒト・モノ・カネ」の流れについて理解を深める。
3. スポーツ経営管理に関する現場での事例を理解し、問題点や解決策を見つける。
〔授業の概要〕
本授業は、スポーツ経営管理の基礎的概念を学ぶとともに、スポーツにおける「ヒト・モノ・カネ」といった資源のマネジメント方法について理解することを目的とします。また、様々な事例をもとに、現場での問題点や解決策について議論します。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：テレビや新聞、WEB等を通して、スポーツ経営管理に関する情報を収集する。
復習：各回における授業のまとめ、あるいは自身が興味を持ったトピックについて詳細に調べ、理解を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、授業内容、評価方法について
第 2 回　日本のスポーツ振興政策
　　スポーツ経営管理に関連する日本のスポーツ振興政策について
第 3 回　スポーツチームの経営管理
　　プロスポーツチームをはじめとするスポーツチームの経営管理について
第 4 回　スポーツリーグの経営管理
　　Jリーグやプロ野球、Bリーグをはじめとするスポーツリーグの経営管理について
第 5 回　トップスポーツ選手の経営管理
　　トップスポーツ選手の契約システムやセカンドキャリアについて
第 6 回　大学スポーツの経営管理（UNIVAS）
　　大学スポーツの経営管理と大学スポーツ協会（UNIVAS）について
第 7 回　スポーツ組織の経営管理
　　我が国を取り巻くスポーツ組織構造と組織体制について
第 8 回　スポーツファンの経営管理
　　スポーツにおけるファン・サポーター特性とその行動について
第 9 回　子どもスポーツの経営管理
　　教育現場や地域における子どもスポーツの経営管理について
第 10 回　健康スポーツの経営管理
　　フィットネス関連の経営管理とヘルスプロモーションについて
第 11 回　障害者スポーツの経営管理
　　パラリンピックをはじめとする障害者スポーツの経営管理について
第 12 回　民間スポーツ施設の経営管理
　　民間スポーツ施設の経営管理と指定管理者制度について
第 13 回　総合型地域スポーツクラブの経営管理
　　総合型地域スポーツクラブの設置背景と課題について
第 14 回　スポーツイベントの経営管理
　　メガスポーツイベントや市民マラソンをはじめとするスポーツイベントの経営管理について
第 15 回　スポーツボランティアの経営管理
　　クラブ・団体ボランティア、イベントボランティア、アスリートボランティアの役割について
〔成績評価〕
定期試験：50%
小レポート・レポート：30%
授業態度：20%
〔教科書〕
使用しない（毎授業、プリントを配布します）。
〔参考文献〕
参考資料は以下の4点である。
1.「よくわかるスポーツマネジメント」（柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著、ミネルヴァ書房）
2.「スポーツマネジメント」（原田宗彦・小笠原悦子編著、大修館書店）
3.「中学校学習指導要領解説：保健体育編」（平成29年7月告示 文部科学省）
4.「高等学校学習指導要領解説：保健体育編」（平成30年7月告示 文部科学省）
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
非常勤のため、連絡はaoyama@ashiya-u.ac.jpまで。

スポーツ社会学①

5214
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
金　　相煥

〔到達目標〕
さまざまな時代や社会におけるスポーツの状況及び歴史的な変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得する。その学習を通して、社会の変化とスポーツの変化とを相関的に見る視点を養うと同時に、現代のスポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することが出来るようにする。そして、現代のスポーツにおける課題や問題点、さらには今後のスポーツのあるべき姿についての自らの考えを持てるようにする

〔授業の概要〕
スポーツ社会学の基礎を習得することにより、現代社会におけるスポーツ社会学の意義を理解する。そして様々な事象とスポーツとの関連を理解することにより、今後のスポーツの在り方を説明できるようにする
なお、前半回は講義型授業が主となるが、後半回からは受講生（個人・集団）によるプレゼンテーション及び討論による課題発見・解決型授業を実施してゆく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回・次回に向けての文献読み込み、要約の作成など、授業時間外の学習も指示する。
日頃から「スポーツ」について興味・関心を持って情報収集に努めるとともに問題意識を考えることを習慣化すること

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　講義の進め方、受講の共通理解、評価の内容伝達
第 2 回　スポーツの概念と歴史
　スポーツの意義と価値、スポーツの歴史的発展と変容、近代スポーツ
第 3 回　文化としてのスポーツ
　スポーツとは、文化とは、スポーツ観、スポーツマンシップとフェアプレー
第 4 回　社会の中のスポーツ
　中高年とスポーツ、女性とスポーツ、スポーツにおける動機づけ
第 5 回　障害者とスポーツ
　障害者スポーツの歴史、パラリンピック
第 6 回　障害者スポーツの取り組み
　障害者スポーツの現状と課題
第 7 回　地域スポーツクラブ
　我が国のスポーツ施策、地域スポーツクラブの運営と課題
第 8 回　地域におけるスポーツ振興
　地域スポーツクラブの具体例と可能性、スポーツ少年団の活動分野と内容
第 9 回　保健体育の体育理論について
　学習指導要領について学ぶ
第 10 回　これからのスポーツについて
　スポーツの課題とこれからのスポーツが貢献しうる可能性について考える
第 11 回　これからの体育について
　体育授業についての課題とこれからの学校体育について考える
第 12 回　学校と運動部を考える
　自己の運動部経験等と理想の運動部の姿をプレゼンテーションする
第 13 回　現代社会におけるスポーツを考える
　スポーツトピックス（ハラスメント・コンプライアンス）について考える
第 14 回　スポーツと生活を考える
　社会におけるスポーツの現状と課題について考える
第 15 回　スポーツの現状と課題を考える
　スポーツの現状と課題についてグループディスカッションを含んでまとめを行う

〔成績評価〕
定期試験（50%）、授業への取組・授業内提出物（20%）、課題発表（30%）

〔教科書〕
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する

〔参考文献〕
スポーツ社会学講義　　（大修館書店）
公認スポーツ指導者要請テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅱ
（財団法人　日本体育協会）

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

【実務経験の活用】
「地域スポーツの現場やプロスポーツクラブでの経験を生かした指導実習を行う」
「学内の課外活動（部活動）における課題についての対処法などの指導を行う」

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②木曜日：14：30～15：30
③場所：金相煥研究室
④連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤来室の際には、事前にメールでアポイントを取ってください。

倫理学概論Ⅰ

5220
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
小川　雄

〔到達目標〕

最新の学習指導要領にあるように、これからの社会において求められるのは、「知識・技能」や「思考力・表現力」はもとより、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送れるか」と問いかけ続ける「人間性」、あるいは、「態度」である。倫理学は、まさにこのような問いを探究してきた。だから、これから教職に携わろうとするひとにとって、倫理学について学ぶことは必須の教養であると言える。そこで、本科目では、古今東西の代表的な倫理思想を紹介して、受講生が倫理的な観点から自らの生き方と社会や世界との関わりを捉えられるようにしたい。受講生のそれぞれが先哲の思想に学びながらよりよい生き方やよりよい社会を構想するための原理的な指針を構想すること、これが本科目のテーマである。

到達目標
（1）古今東西の倫理学の基本的知識を身につけること。
（2）その知識を使って、社会問題について、ほかのひととコミュニケーションをとりながら、
　　多角的に考えられるようになること。
（3）人間や社会のあり方を倫理的な観点から捉えられるようになること。

〔授業の概要〕

テーマや到達目標に基づいて、本科目では、古代から現代までの代表的な倫理思想について学ぶ。これと併せて、新聞記事等の資料をとおして現代の社会問題について考察する機会を設ける。

Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は、ガイダンスで説明するが、基本的には、講義スライドを視聴して、それに関連する課題に取り組み、提出する、という流れである。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各授業後、その授業で学んだことを確認し（９０分）、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　　成績評価や授業形式、講義内容に関する説明
第 2 回　第１章：古代ギリシアの倫理思想①
　　ソフィストとソクラテスについて
第 3 回　第１章：古代ギリシアの倫理思想②
　　プラトンについて
第 4 回　第１章：古代ギリシアの倫理思想③
　　アリストテレスについて
第 5 回　第２章：東洋の倫理思想①
　　儒家思想について
第 6 回　第２章：東洋の倫理思想②
　　釈迦について
第 7 回　第３章：ヘレニズム期の倫理思想
　　エピクロス派とストア派について
第 8 回　中間レポート
　　レポートの書き方と課題の公示
第 9 回　第４章：中世の倫理思想①
　　アウグスティヌス について
第 10 回　第４章：中世の倫理思想②
　　トマス・アクィナスについて
第 11 回　第５章：近代の倫理思想①
　　カントについて
第 12 回　第５章：近代の倫理思想②
　　ベンサムとミルについて
第 13 回　第６章：現代の倫理思想①
　　ニーチェについて
第 14 回　第６章：現代の倫理思想②
　　ケアの倫理思想について
第 15 回　まとめ
　　全体の振り返り

〔成績評価〕

平常点４０％
：それぞれの授業ごとに課題を用意している。それに取り組む。

中間レポート３０％
：第７回に課題を公開する。書式や文字数に関しては、後日こちらが指定する。

期末レポート３０％
：受講生自身が講義全体から主題を探し、それに即してレポートを執筆する。
　書式や文字数に関しては、後日こちらが指定する。

〔教科書〕

中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成３０年３月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成２９年７月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成３０年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、必修

〔オフィスアワー〕

基本的に、Phollyでの対応になる。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡をとること。

哲学概論Ⅰ

5221
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
小川　雄

〔到達目標〕
今後、ＡＩの発達と普及により社会のありようは大きく変化すると言われている。このような状況のなかで、わたしたち人間の強みとして着目されているのは、さまざまな存在についてその価値や意味を考察したり、あるいは、目的のよさ・正 しさ・美しさを判断したりする知的な営み、つまり、哲学的な思考である。本講義では、受講生がこうした営為に関心を持ち、哲学的な思考を実践できるようにするために、哲学の歴史を紐解きながら、哲学的な思考の型を紹介する。

到達目標
（1）西洋哲学の基本的知識を身につけること。
（2）その知識を使って考え議論し、自身の主張をほかのひとに伝えられるようになること。
（3）人間を様々な局面から捉えられるようになり、人間の理解を深めること。

〔授業の概要〕
テーマや到達目標に基づいて、本科目では、古代から現代の代表的な哲学思想について学ぶ。これと併せて、新聞記事等の資料をとおして現代の社会問題について考察する機会を設ける。
Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は第１回のガイダンスで説明するが、基本的には、講義スライドを視聴して、それに関連した課題に取り組み、課題を提出する、という流れになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業後、その授業で学んだことを要約すること（９０分）と、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　成績評価や授業形式、講義内容に関する説明
第 2 回　第１章：古代の哲学①
　　古代ギリシアの自然哲学について
第 3 回　第１章：古代の哲学②
　　ソクラテスの思想について
第 4 回　第１章：古代の哲学③
　　プラトンの思想について
第 5 回　第１章：古代の哲学④
　　アリストテレスの思想について
第 6 回　第１章：古代の哲学⑤
　　キケロの思想について
第 7 回　中間レポート
　　レポートの書き方と課題の公示
第 8 回　第２章：中世の哲学①
　　キリスト教的な世界観について
第 9 回　第２章：中世の哲学②
　　教父哲学について
第 10 回　第２章：中世の哲学③
　　スコラ哲学について
第 11 回　第３章：近代の哲学①
　　大陸合理論について
第 12 回　第３章：近代の哲学②
　　イギリス経験論について
第 13 回　第３章：近代の哲学③
　　ドイツ観念論について
第 14 回　第４章：現代の哲学
　　プラグマティズムについて
第 15 回　まとめ
　　講義全体の振り返り

〔成績評価〕
平常点４０％
：それぞれの授業ごとに簡単な確認テストを用意している。それに取り組む。
中間レポート３０％
：第7回に公開する。書式や字数については、第7回で説明する。
期末レポート３０％
：試験期間内に課題を公開する。書式や文字数に関しては、後日こちらが指定する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成３０年３月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成２９年７月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成３０年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を紹介、配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、必修

〔オフィスアワー〕
基本的に、Phollyでの対応になる。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡をとること。

社会学概論Ⅰ

5301
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
翁　和美

〔到達目標〕
1. 受講生は、社会的存在である人間を理解できるようになる。
2. 受講生は、社会的人間を理解するための補助線となる社会学的用語や概念をあつかうことができるようになる。

3．受講生は、積極的なstudy（ラテン語で、「熱意をもって追求する」が原義）の心構えを身につけるようになる。

〔授業の概要〕

「社会とはなにか」と問われれば、多くの人は、答えに窮するだろう。それは、自らが生まれ育ち所属する社会が私たちにとって自明であり、その自明性を問いかけることがないほど私たちが社会化されているからである。私たちは誰しもが社会的存在である。この講義では、社会的存在である人間を理解することを第一の目的にする。先人がいかに社会を明らかにし、それと向き合ってきたのかをたどるとともに、私たちが生きている現代社会の具体的な状況や文脈を取り上げて「社会とはなにか」を考えていく。とにかく受講生は深く思考することが求められる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各授業時間内で指示する内容にしたがって、授業内のポイントを要約する。

〔授業計画〕

第 1 回　社会と社会学
　　社会学の目的と本授業の目標を知る。
第 2 回　産業社会とその組織
　　近代化の過程とともに、産業社会の特徴について考える。
第 3 回　ジェンダー（社会的・文化的性差）
　　社会行為の根拠に潜む社会的・文化的性差を見い出す。
第 4 回　教育と学校制度
　　教育と学校の社会的機能の違いをとらえる。
第 5 回　近代国民国家と民族
　　近代国民国家の特徴から民族紛争の根本原因を理解する。
第 6 回　近代家族
　　都市化に注目しながら、現在の核家族化と少子化現象について検討する。
第 7 回　大衆社会
　　ナチスドイツの台頭を事例に、大衆社会の特徴を学ぶ。
第 8 回　逸脱ー選抜と排除の機制
　　逸脱に関する理論から社会学的発想を身につける。
第 9 回　文化と貧困
　　植林を事例に、環境保全ボランティアの「落とし穴」を発見する。
第 10 回　（応用1）自己決定・自己責任論
　　文化に関する現代社会のイデオロギーを脱構築する。
第 11 回　（応用2）他者関係性
　　安楽死・尊厳死を事例に、私的領域における関係性の課題を追究する。
第 12 回　（応用3）私的領域の社会化
　　文化に関する現代社会のイデオロギーならびに私的領域における関係性の課題を解決する糸口を手繰り寄せる。
第 13 回　（実践1）日常生活世界1
　　ルワンダならびに南アフリカの大量殺戮を事例に、多文化共存実現の手がかりを探る。
第 14 回　（実践2）日常生活世界2
　　医療の場に「日常生活世界」という社会形式を接ぎ木して、認知症患者と良好な関係を切り結ぶことを試みている事例を参照に、多文化共存実現のヒントを得る。
第 15 回　まとめ
　　別世界のあり方を構想・模索する力としての社会学をつかむ。

〔成績評価〕

授業内に行なうリアクション・ペーパーと小レポート（配分は40%）ならびに最終課題（配分は60%）で総合的に評価する。リアクション・ペーパーの配点は、回を重ねるにしたがって高くなる。到達目標1と2は、リアクション・ペーパーと小レポートの内容で評価する。到達目標3は、最終課題で評価する。リアクション・ペーパーのテーマは各回で異なるが、いずれも、他受講生の意見や授業内で行なうディスカッションを通じて深めた自身の考えを根拠づけて論理立てて表明する必要がある。最終課題は、受講生の発言内容とリアクション・ペーパーの内容に応じて決定する。

〔教科書〕

「特になし」

「平成29年・30年改訂学習指導要領の詳しい内容」（平成29年3月告示、文部科学省）（URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm）

「学習指導要領の趣旨実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実に関する参考資料」（平成33年6月告示、文部科学省）（URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_01317.html）

〔参考文献〕

「特になし」

「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学」、中一種（社会）、必修

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、高一種（公民）、必修

〔オフィスアワー〕

本授業は集中講義であるため、質問は授業時間内に受けつける。

環境保全管理学

5312
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
池田　聡

〔到達目標〕
受講生の環境保全問題に関する各自の明確な見解と様々な対策を理解
分析能力および表現力の向上
上記の内容を目標にする。
〔授業の概要〕
地球環境の歴史と現状について学習し、環境保全のための対策（家庭や地域においての対策から温暖化等を含む地球規模での対策）について学ぶ。
ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（30分）
講義内で指定した課題の予習（30分）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　環境保全管理学で何を学ぶかについて
　　環境保全管理学で何を学ぶかについての導入
第 2 回　過去と現状の地球環境の比較
　　過去と現状の地球環境の比較について学習する
第 3 回　地球温暖化について学ぶ
　　地球温暖化について学習する
第 4 回　映像を用いて地球温暖化を考える
　　映像を用いて地球温暖化を学習する
第 5 回　各世代にあわせた環境教育について学ぶ
　　各世代にあわせた環境教育について学習する
第 6 回　種・生態系・遺伝子の多様性について学ぶ
　　種・生態系・遺伝子の多様性について学習する
第 7 回　「沈黙の春」を題材に環境保全を考える
　　「沈黙の春」を題材に環境保全を学習する
　　グループワーク
第 8 回　自然保護の概念と倫理を学ぶ
　　自然保護の概念と倫理について学習する
第 9 回　自然観察の視点から環境保全を学ぶ
　　自然観察の視点から環境保全を学習する
第 10 回　環境問題に関する実践的な取組みについて学ぶ
　　環境問題に関する実践的な取組みについて学習する
第 11 回　エコツーリズムとは何かについて学ぶ
　　エコツーリズムとは何かについて学習する
第 12 回　エコツーリズムの実践例について
　　エコツーリズムの実践例について学習する
　　ネイチャーゲームを用いてのアクティブラーニング
第 13 回　地域の分析能力と表現力について
　　地域の分析能力と表現力について学習する
第 14 回　個人課題の報告
　　個人課題の全体報告
第 15 回　全体のまとめ
　　全体のまとめ及び定期試験の説明
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

地誌学概論 I

5403
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
伊藤　善文

〔到達目標〕
１．地誌学の対象である地表面に展開する諸事象を自然環境と人文現象の両面から相関的・総合的に理解する。
２．地域の特色や課題を地域構造図でまとめる。
３．中学校社会科や高等学校公民科の教員となるうえで必要な地理的知識・技能と地理的見方・考え方を修得する。
〔授業の概要〕
地誌学は地域地理学といわれ、地域の諸事象を自然環境と人文現象の両面から相関的・総合的に学ぶ学問である。この授業では日本全体の自然環境・歴史的背景・社会的条件を概観し、その後、各地域の地誌をとおして、地理的見方・考え方を育成する。また、各地域の特色や課題を地域構造図でまとめる。後期の地誌学概論IIと合わせて履修することが望ましい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で出た地名や用語を地図帳で必ずチェックする。20分
地理や地域情報に関心をもち、新聞記事等を読む。30分
講義内容のまとめ（復習）を行う。60分
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業内容や評価方法等を説明する。
　　地誌学の内容と地理的見方・考え方を学ぶ。
第 2 回　日本の自然環境
　　日本の地形や気候について学ぶ。
第 3 回　日本の歴史的背景
　　日本の旧国名や都道府県などについて学ぶ。
第 4 回　日本の社会的条件
　　日本の人口・産業・都市・村落などについて学ぶ。
第 5 回　九州・沖縄地方
　　九州・沖縄地方（特に沖縄県）の地誌について学ぶ。

第 6 回　中国・四国地方
　　中国・四国地方の地誌について学ぶ。
第 7 回　近畿地方１
　　近畿地方（特に芦屋市）の地誌について学ぶ。
第 8 回　近畿地方２
　　近畿地方（特に神戸市）の地誌について学ぶ。
第 9 回　近畿地方
　　近畿地方（特に大阪市）の地誌について学ぶ。
第 10 回　中部地方
　　中部地方の地誌について学ぶ。
第 11 回　関東地方１
　　関東地方（特に横浜市）の地誌について学ぶ。
第 12 回　関東地方２
　　関東地方の地誌について学ぶ。
第 13 回　東北地方
　　東北地方の地誌について学ぶ。
第 14 回　北海道地方
　　北海道地方の地誌について学ぶ。
第 15 回　まとめ
　　全体のまとめと前期試験（論述試験）について説明する。

〔成績評価〕

振り返りシート（30%）、授業中の課題（20%）、論述試験（50%）で総合的に評価する。

〔教科書〕

中学校または高等学校で使用した地図帳
その他，授業時に資料を配布する。

〔参考文献〕

中学校地理教科書または高等学校地理B（地理Ａ）教科書
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編　文部科学省
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史科編　文部科学省
長谷川直子編 (2018)『今こそ学ぼう地理の基本』山川出版社
その他、授業中の資料に明記し、適宜指示する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、地理学（地誌を含む。）、中一種（社会）、必修

〔オフィスアワー〕

授業終了後、講義教室で対応します。

地理学概論Ⅰ

5423
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
伊藤　善文

〔到達目標〕

１．地理学の対象である地表面に展開する諸事象を自然環境と人文現象の両面から相関的・総合的に理解する。
２．中学校社会科や高等学校公民科の教員となるうえで必要な地理的知識・技能と地理的見方・考え方を修得する。

〔授業の概要〕

地理学は地表面に展開する諸事象を自然環境と人文現象の両面から相関的・総合的に学ぶ学問である。この授業では地理学の主要な手法である地図について学んだうえで、大学周辺のフィールドワークなどをとおして、地理的見方・考え方を育成する。後期の地理学概論IIと合わせて履修することが望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業で出た地名や用語を地図帳で必ずチェックする。20分
地理や地域情報に関心をもち、新聞記事等を読む。30分
講義内容のまとめ（復習）を行う。60分

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　　授業内容や評価方法等を説明する。
　　地理学の内容と地理的見方・考え方を学ぶ。
第 2 回　メンタルマップ
　　略地図を描き、世界観や地理的見方・考え方を養う。
第 3 回　さまざまな地図
　　さまざまな地図をとおして地理的見方・考え方を学ぶ。
第 4 回　地球儀をつくろう
　　地球儀をつくり、距離や方位、面積などを学ぶ。
第 5 回　地形図読図１
　　地形図を読図し、地形や土地利用などを学ぶ。
第 6 回　地形図読図２
　　地理院地図を読図し、地域の特色を学ぶ。
第 7 回　地形図読図３
　　今昔マップを読図し、地域の変遷を学ぶ。
第 8 回　景観と地理学
　　地域の景観を歴史地理学的視点から学ぶ。
第 9 回　フィールドワーク事前学習
　　大学周辺の机上地域調査を行う。
第 10 回　フィールドワーク
　　大学周辺の地域調査を行う。
第 11 回　フィールドワーク事後学習
　　大学周辺の地域調査をまとめる。
第 12 回　防災と地理学１
　　六甲山系と阪神大水害について学ぶ。
第 13 回　防災と地理学２
　　六甲山系と阪神淡路大震災について学ぶ。
第 14 回　ご当地グルメと地理学
　　ご当地グルメを地理学から学ぶ。
第 15 回　まとめ
　　全体のまとめと前期試験（論述試験）について説明する。

〔成績評価〕

振り返りシート（30%）、授業中の課題（20%）、論述試験（50%）で総合的に評価する。

〔教科書〕

中学校または高等学校で使用した地図帳
その他，授業時に資料を配布する。

〔参考文献〕
中学校地理教科書または高等学校地理B（地理A）教科書
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編　文部科学省
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史科編　文部科学省
長谷川直子編（2018）『今こそ学ぼう地理の基本』山川出版社
その他、授業中の資料に明記し、適宜指示する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、地理学（地誌を含む。）、中一種（社会）、必修
〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します。

簿記入門

6101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
由里　悦子

〔到達目標〕
会計はビジネスの共通言語といわれており、今では「会計」や「簿記」の知識は働くすべての人たちにとって必要不可欠なものとなりました。
本授業では、ビジネスにおいて欠かせない「簿記」の初歩的な仕組みやルール、一連の手続きを習得し、社会人として必要となる簿記の基礎を身につけることを目標とします。
〔授業の概要〕
小規模な株式会社を前提とする商業簿記を学習の範囲とします。
テキストに即して、株式会社のお金や商品の出入りについて、一連の手続きや日常の取引記録のルールを学習します。年間を通して記録が正しく行われているかどうかを確かめるための試算表の作成や貸借対照表、損益計算書という報告書についても学習します。基礎的な簿記の知識（基本用語や仕組み等）と技術（記録、集計、報告）を習得するため、主にテキスト学習と演習の形式で進めます。
電卓（12桁が望ましい、関数電卓は不可）を持参してください。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
簿記の学習は積み重ねの学習であり、各回の内容を正しく理解することが大切です。特に復習に重点を置き、テキストの例題やトレーニングを活用し、電卓とペンを使用して解答欄に書き込む練習が最も効果的な学習方法です。ひとつひとつ確実に理解できるように心がけてください。
〔授業計画〕
第 1 回　簿記の基礎
　　簿記とは何か、目的や概要、簿記の５要素
第 2 回　日常の手続き
　　取引、仕訳、転記、記帳手続や帳簿の種類
第 3 回　商品売買Ⅰ
　　商品の購入と販売の取引、商品売買代金
第 4 回　商品売買Ⅱ
　　商品売買の返品、仕入・売上時の諸掛り
第 5 回　現金預金、クレジット売掛金
　　現金、当座預金、クレジットカードを利用した取引
第 6 回　手形取引、電子記録債権債務・帳簿
　　代金の受け払いに用いる手形や電子記録債権・債務、主要簿と補助簿の関係
第 7 回　その他の取引、訂正仕訳
　　貸付金・借入金、有形固定資産、仮払金・仮受金、仕訳の訂正
第 8 回　試算表
　　試算表の特徴、形式、作成
第 9 回　決算、決算整理Ⅰ
　　決算のあらましと手続き、決算整理（現金過不足、貯蔵品、当座借越、売上原価）
第 10 回　決算整理Ⅱ
　　決算整理（貸倒れ、減価償却）
第 11 回　決算整理Ⅲ
　　決算整理（経過勘定項目）
第 12 回　決算整理後残高試算表、精算表
　　決算整理の後の残高試算表と計算手続きの一覧表となる精算表
第 13 回　帳簿の締切
　　英米式決算法による帳簿の締め切り
第 14 回　株式の発行、剰余金の配当と処分、税金
　　資本の概要と株式発行の処理、利益の配当と処分、法人税等と消費税
第 15 回　証ひょうと伝票
　　証ひょうと伝票の仕組み、起票方法や転記の仕方
〔成績評価〕
小テスト　40％　（4回程度実施予定）
期末試験　60％
〔教科書〕
・『よくわかる簿記シリーズ　合格テキスト　日商簿記３級（Ver.12.0）』
　（TAC出版　2021年3月25日改訂　2,000円＋税）（バージョンにご注意ください）
・『よくわかる簿記シリーズ　合格トレーニング　日商簿記３級（Ver.12.0）』
　（TAC出版　2021年3月25日改訂　1,500円＋税）（バージョンにご注意ください）
〔参考文献〕
特になし（必要になれば授業中に適宜紹介します）
〔履修条件〕
〔備考〕
授業計画は、要望や進捗度に応じて一部変更することがあります。
〔オフィスアワー〕
LMS科目になりますので、質問等はPhollyのメッセージかメールで受け付けます。

特別活動の指導法【中等】

6201
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中岡　禎雄

〔到達目標〕
特別活動は、望ましい集団活動を通して、人格の調和的な発達を図り、健全な社会生活を営む上で、必要な資質を養うことを目標とする教育である。
○ 特別活動の重要性について理解を深める。
○ 特別活動の歴史、教育課程上の位置づけ等について理解を深める。
○ 特別活動の意義・内容・指導方法等についての理解を深める。
○ 将来、教員として、特別活動に積極的に取り組む自覚を持てるようにする。

〔授業の概要〕
生徒が学校生活に魅力を感じるかどうかは、特別活動のあり方に関わっているとも言われるほど重要な役割を担っている。本授業では、特別活動の教育課程における位置、教育活動を通しての意義・内容・指導方法等について、学校の状況や生徒の実態についても触れながら授業を進める。また、教育現場で生きる授業にするため、話し合いや意見をまとめ発表する場を設定し、実践力を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間後講義内容を、資料やテキストをもとに復習し、レポート作成を行う（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　特別活動の指導法開講にあたって
　授業予定・評価方法・テキスト紹介・特別活動の位置づけ・人間形成と特別活動・自らの特別活動の振り返り
第 2 回　特別活動の歴史、生徒の現状と特別活動
　特別活動の歴史・生徒の現状と特別活動の役割
第 3 回　特別活動に関わる指導理論
　自主性と指導性の関係・個と集団の関係・リーダー性の育成
第 4 回　特別活動の教育的意義、全体指導計画
　特別活動の教育的意義・全体指導計画
第 5 回　学級活動・ホームルーム活動(1)
　学級活動・ホームルーム活動の目標・内容・指導計画
第 6 回　学級活動・ホームルーム活動(2)
　実習計画づくり、学級活動・ホームルーム活動指導案の作成
第 7 回　学級活動・ホームルーム活動(3)
　学級生活の向上を図る指導計画
第 8 回　学級活動・ホームルーム活動(4)
　学級における人間関係を育む実践の指導計画
第 9 回　生徒会活動(1)
　生徒会活動の目標・内容・指導計画
第 10 回　生徒会活動(2)
　生徒会活動の組織、指導上の留意点、委員会活動の目的・種類等
第 11 回　部活動
　部活動の特質・内容・特質
第 12 回　学校行事
　学校行事の目標・内容・特質
第 13 回　特別活動と他の教育活動との関連
　特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間との時間等との関連
第 14 回　特別活動と地域連携
　特別活動と地域連携の実際と実践計画
第 15 回　特別活動の指導姿勢、特別活動の評価、まとめ
　特別活動の指導姿勢の在り方・特別活動の評価・まとめ

〔成績評価〕
筆記試験・課題提出・自主的な授業態度等を総合的に評価する。
（定期試験60%、授業への取り組み20%・授業内課題20%）
評価方法および評価の割合を明記すること
出席点は入れないこと
出席状況・出席重視・出席回数を加味する表記は避けること

〔教科書〕
中学校学習指導要領解説　特別活動編（平成２９年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
LMSにて質問及び相談を受け付ける。

道徳教育の指導法【中等】

6202
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
木村　重房

〔到達目標〕
（１）道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
（２）教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
（３）作成した学習指導案で模擬授業を実施し、その後授業をふりかえり学習指導案を練り直す。その上で再度、模擬授業を行い、授業力向上の過程を体験する。

〔授業の概要〕
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義時間中に指示するが、模擬授業の指導案（略案）や模擬授業教材の予習等を課す予定である。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
「道徳教育とはなにか」について講義する。また毎授業のふりかえりのためのノート（B６サイズ）を配布し、毎時間の提出を求める。

第 2 回　学校における道徳教育
学校現場での道徳授業の実際を、資料を示し解説する。その上で、学校現場での課題と道徳教育が求められる教育効果について調べ学習等を用い、探求する。

第 3 回　現代社会における道徳教育の課題
いじめ・モラル等について具体的な事案を取り上げながら、どのように学校現場で指導することが、より効果的か生徒指導との関連も含めて講義し話し合い活動等で学びを深める。

第 4 回　道徳教育の歴史
道徳教育がどのような過程を経て、現在に至ったかを講義する。

第 5 回　子供の心の成長に応じた道徳教育
校種に応じた道徳教育とはどのようなものかを、小学校・中学校等の具体的な教材を示し、講義する。

第 6 回　道徳教育及び道徳教育の目標
学習指導要領及び解説に示された「道徳教育及び道徳教育の目標」を、「学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編」に基づき講義する。

第 7 回　学校における道徳教育の必要性
学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の重要性を具体的な学校の取組を紹介した上で、その背景と道徳教育の必要性について講義する。

第 8 回　道徳科の多様な指導方法の理解
道徳科の特質を生かした多様な指導方法の理解するため、模範授業を示し、その上で各自が指導案を作成してグループ別模擬授業（5～10分間）を行う。

第 9 回　道徳授業設計の方法
道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計の方法を指導略案作成を説明し、模範授業を行う。その上で、略案作成を体験し、それに基づく模擬授業体験を行う。

第 10 回　道徳授業の指導案作成
模範となる指導案を提示し、教材を指定して「道徳授業のねらい」や「指導過程」を明確にして指導案を作成する。それに基づく授業実践を生徒役として体験する。

第 11 回　道徳科の学習評価
学習指導要領に基づき、道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を講義する。

第 12 回　模擬授業体験
模擬授業の実施と授業者や生徒役のふりかえりを通して授業改善の視点を身につけるため、模擬授業を生徒役と先生役に分かれて体験する。

第 13 回　授業改善の視点で指導案の修正を行う。
前回の授業体験での生徒役からの授業評価と先生役としてのふりかえりを基に、指導案を修正し、授業改善の方法を体験する。

第 14 回　模擬授業の再挑戦
修正した模擬授業の実施と授業者や生徒役のふりかえりを通して再度授業改善の視点を身につけるため、再度模擬授業に挑戦する。

第 15 回　まとめ
道徳教育を生徒の立場に立ってどのように進めていくかについて講義した上で、14回の学びを自己評価し、そして講座全体の授業評価を行い、それを全員の前で1分間で発表を行う。

〔成績評価〕
定期試験（60%）と授業での提出物（40%）とを合わせて総合的に評価する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　【特別の教科　道徳編】（平成29年7月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、道徳の理論及び指導法、中一種、必修

【実務経験の活用】
教育現場経験より、今日的な課題（いじめ・不登校等）の対応を指導する。

〔オフィスアワー〕
土曜日の授業後、授業実施教室にて質問等を受け付ける。

教職総合演習1−Ⅰ（面接）

7001
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
秋本　　隆夫

〔到達目標〕
「教育は人なり」といわれるように直接、児童生徒の指導にあたる教師は人間性、教育観、指導力などの資質能力が求められる。また、教師は児童生徒の前に立ち、模範となったり、指導する立場になるので教師自身の人間性が児童生徒の人間形成に大きな影響を与えます。これに加え、教師には探究心を持ち、自律的に学び続ける姿勢も必要とされている。本授業では、教員採用試験対策として、主として、面接（個人面接、集団面接、集団討議、場面指導など）についての技法を繰り返し体験しながら、目標に向かって励む場として授業を展開したい。また。本授業を通して、学校現場における様々な課題解決への理解を深め、教師としての基本的な資質や実践的な能力の向上を高めていきたい。

〔授業の概要〕
教員として求められる以下の事項を、集団面接、集団討議、場面指導及び個人面接の演習形式ですすめる。
(1)使命感や責任感に関する事項
(2)社会性や対人関係能力に関する事項
(3)児童生徒理解や学級経営等に関する事項
(4)教科内容等の指導力に関する事項
(5)学校現場の諸課題の解決に関する事項

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
受講生が教職への志を強く持ち、中央教育議会答申や新学習指導要領など、最近の教育課題に関連する資料等への関心を持ち、理解を深めるために主体的に取り組むことを希望する。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本授業の目的、内容、評価方法及び参考文献等の紹介。
また、面接技法の基本について理解する。
第 2 回　教師に求められているもの
国、都道府県市が求めている教師像について紹介をするとともに、自己課題の発見の第一歩とする。また、面接技法の基本について理解する。
第 3 回　教師を目指す志望動機について
「教師を目指す動機、理由」などについて、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。
第 4 回　各都道府県市が求めている教師像
「なぜ、その自治体を受験するのか？」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。
第 5 回　各都道府県市が目指す教育計画
「受験志望の自治体の目指す教育計画」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面において、口頭による回答練習を行う。
第 6 回　志望理由②
「なぜ、小学校の先生を目指すのか？」「なぜ、中学校の○○科の先生を目指すのか？」について、面接ノートにまとめる。集団的な面接場面で口頭による回答練習を行う。
第 7 回　教職を目指すための資質について①
「どのような先生になりたいか？」「先生になれば、どのようなことをしたいのか？」など、教職に対する自らの課題を把握し、口頭で回答できるよう、まとめる。
第 8 回　教職を目指すための資質について②
前回の課題に加え、「信頼される先生とは？」「教員として、大切な資質とは？」について、集団的な面接場面において、口頭での回答練習を行う。
第 9 回　学校課題（学習指導）について①
集団討議的な場面を設定し「分かる授業とは？」「楽しい授業とは？」「主体的な学びとは？」「対話的な学びとは？」「深い学びとは？」について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。
第 10 回　学校課題（学習指導）について②
前回に続き、集団討議的な場面を設定し「分かる授業とは？」「楽しい授業とは？」「主体的な学びとは？」「対話的な学びとは？」「深い学びとは？」について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。
第 11 回　学校課題（生徒指導）について①
集団討議的な場面を設定し「不登校についての対応」「いじめ問題への対応」
「体罰について」について、自由討議を行うとともに振り返りにより、理解を深める。
第 12 回　学校課題（生徒指導）について②
「不登校についての対応」「いじめ問題への対応」「体罰について」についての場面指導的な場面を設定し、各個人による、口頭による回答練習を行う。
第 13 回　教育時事（教育課題など）について
学校を取り巻く様々な教育課題について理解を深め、その対応について、口頭による回答練習を行う。
第 14 回　個人面接①
これまでの各項目について、個人面接形式で口頭による回答を行うとともに振り返りにより評価を行う。
第 15 回　個人面接及び授業のまとめ
これまでの各項目について、個人面接形式で口頭による回答を行うとともに教員採用試験に向けての具体的な対策を行う。

〔成績評価〕
・授業への取組、意見発表及び受講意欲・態度　３０％
・毎時間の課題レポート　４０％
・定期試験（課題レポート）３０％
〔教科書〕
小・中学校新学習指導要領（文部科学省）
生徒指導提要（文部科学省）
適時、資料を配付する。
〔参考文献〕
授業内で紹介する。適時、資料を配付する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
９：５０～１３：００（火曜日：研究棟　金属加工室準備室）

教職総合演習Ⅱ-1（面接）

7002
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
笠原　清次　中村　整七

〔到達目標〕
・教採面接を繰り返し体験する中で、自分の良さや学ぶ姿勢が強いことを言葉や態度で表現することができる。
・集団面接、集団活動を実体験することを通して、教育課題に対しての自分の考えをつくり、他者の考えを受け止め、話し合いを広げたり、深めたりすることができる。
〔授業の概要〕
教育施策や教育現場の実態から取り組むべき課題等について研究をする。
個人面接・集団面接(討議)・集団活動・場面指導などの演習を各自治体の出題傾向に合わせて行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の個人面接ノートづくり（2時間）
授業後の個人練習（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　個人面接、集団面接について各自治体の傾向を知り、演習を行う。
第 2 回　個人面接・集団面接
　各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団面接の演習を行う。
第 3 回　個人面接・集団活動
　各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と集団活動の演習を行う。
第 4 回　個人面接・グループ討議
　各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬グループ討議の演習を行う。
第 5 回　個人面接・集団面接
　各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団面接の演習を行う。
第 6 回　個人面接・集団活動
　各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬集団活動の演習を行う。
第 7 回　個人面接・グループ討議
　各自治体の出題傾向に合わせた個人面接の練習と模擬グルー討議の演習を行う。
第 8 回　場面指導・個人面接
　自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイを行う。
　ペアで相互個人面接の練習を行う。
第 9 回　集団面接・個人面接
　自治体の出題傾向に合わせた課題研究と模擬集団面接と個人面接の演習を行う。
第 10 回　集団活動・個人面接
　自治体の出題傾向に合わせた模擬集団活動と個人面接の演習を行う。
第 11 回　集団討議・個人面接
　自治体の出題傾向に合わせた課題研究と模擬集団討議と個人面接を行う。
第 12 回　場面指導・個人面接
　自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイと個人面接を行う。
第 13 回　場面指導・個人面接
　自治体の出題傾向に合わせた場面指導のロールプレイと個人面接を行う。
第 14 回　個人面接
　自治体の出題傾向に合わせた個人面接の演習を相互に行う。
第 15 回　個人面接
〔成績評価〕
演習参画意識と学修に取り組む態度を評価する。
面接、討議の中での発言内容を評価をする。
〔教科書〕
授業中に適宜教材資料を配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
火曜日15:30～17:00・水曜日15:30～17:00
研究室1

教職総合演習Ⅲ-1（論作文）

7003
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4年
1単位　前期
笠原　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な様々な学校教育にかかる知識・情報を見直し、理解する。

○教育原理の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。

〔授業の概要〕

○各種の教育課題を調べまとめるとともに、それぞれの果たしている役割を理解する。

○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ考えを深めるとともに、重要な教育課題について、自分の考えを論理的文章に表し発表することができる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

(１) 毎回、授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく。(３０分)

(２) 論作文は、時間外となっても仕上げ、翌日までに提出する。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス１
授業の目標，予定，進め方，評価方法等について理解する。
論作文(小論文)記述の要点を知る。

第 2 回　ガイダンス２
構想メモを使って論作文(小論文)を書くことを理解する。

第 3 回　児童生徒の指導に関わること１
生徒指導上の問題について，考えを論作文に表す。

第 4 回　児童生徒の指導に関わること２
授業づくりの課題について，考えを論作文に表す。

第 5 回　児童生徒の指導に関わること３
人権教育の課題について，考えを論作文に表す。

第 6 回　児童生徒の指導に関わること４
特別支援教育の課題について，考えを論作文に表す。

第 7 回　学校や教師に関わること１
学校が果たす役割について，考えを論作文に表す。

第 8 回　学校や教師に関わること２
教育課題１（防災教育、学校安全、キャリア教育等）について，考えを論作文に表す。

第 9 回　学校や教師に関わること３
学力、豊かな心)について知識を整理し，考えを論作文に表す。

第 10 回　学校や教師に関わること４
「主体的・対話的で深い学び」について，考えを論作文に表す。

第 11 回　学校や教師に関わること５
教員の資質向上について，考えを論作文に表す。

第 12 回　学校や教師に関わること６
教員の協働性、地域との連携・協働について，考えを論作文に表す。

第 13 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ１
過去問の中から一つ選び，考えを論作文に表す。

第 14 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ２
自ら問題設定し，考えを論作文に表す。

第 15 回　論作文(小論文)の書き方のまとめ３
これまでの学習を振り返り，論作文の記述の仕方を整理する。

〔成績評価〕

論作文（６０％）
学習姿勢・態度(４０％)

〔教科書〕

自作テキスト「論作文(小論文)の手引き」

〔参考文献〕

随時提供する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時

②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。

③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。

④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅳ-1【保健体育】

7004
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
青木　　敦英

〔到達目標〕

本講義では、保健体育科の教員の資質向上を目指すことを目的として、体育分野と保健分野に関する専門的知識の習得を目指す。

〔授業の概要〕

体育分野では、各運動領域に関するキーワードを探りながら、指導の際のポイントならびに競技ルールや歴史などの基礎知識を習得する。保健分野では、アクティブラーニング形式を用いながら、知識の習得だけでなく、先生と生徒の相互理解を深める指導法を実践していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

日頃から、教育に関する時事問題やニュースに目を向けておくとともに、中学校や高等学校の保健体育の教科書を熟読しておくこと。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
本講義の目的、評価、授業内容について

第 2 回　学習指導要領
中学校ならびに高等学校の学習指導要領の内容や目標について理解を深める

第 3 回　体育分野①：器械体操

中学校ならびに高等学校の器械体操におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 4 回　体育分野②：陸上競技
中学校ならびに高等学校の陸上競技におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 5 回　体育分野③：水泳
中学校ならびに高等学校の水泳におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 6 回　体育分野④：球技
中学校ならびに高等学校の球技におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 7 回　体育分野⑤：武道・ダンス
中学校ならびに高等学校の武道・ダンスにおけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 8 回　体育分野⑥：体育理論
中学校ならびに高等学校の体育理論におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 9 回　保健分野①：現代社会と健康
中学校ならびに高等学校の現代社会と健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 10 回　保健分野②：生涯を通じる健康
中学校ならびに高等学校の生涯を通じる健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 11 回　保健分野③：社会生活と健康
中学校ならびに高等学校の社会生活と健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 12 回　体育授業におけるアクティブラーニング
現在実践されている最新の体育授業形態を紹介
第 13 回　保健授業におけるアクティブラーニング
現在実践されている最新の保健授業形態を紹介
第 14 回　教師に求められる総合的人間力について
これからの保健体育教員に求められる資質などについて解説
第 15 回　まとめ
体育分野と保健分野の知識の総合理解確認

〔成績評価〕
受講態度（20%）、授業内テスト（50%）、レポート（30%）などから総合的に評価する

〔教科書〕
適宜プリントを配布します。

〔参考文献〕
中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　東山書房（平成29年3月）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　東山書房（平成30年7月）

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教職総合演習Ⅳ－Ⅰ【数学】

7005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4年
1単位　前期
笠原　清次

〔到達目標〕
小学校学習指導要領解説算数編の要点を理解するとともに、学習指導の要となる数学の専門的な知識と教養を深めて、教科学習の指導力を向上することができる。

〔授業の概要〕
１．学習指導要領算数科の目標、内容及び指導上の留意事項の理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．基礎的な問題は，その都度問題集を用いて予習する。(30分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。(60分)

〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領
小学校学習指導要領解説算数編を読み，要点を調べる。
第 2 回　数学演習1
数学演習問題基礎（数と式）を解く。
第 3 回　数学演習2
数学演習問題応用（数と式）を解く。
第 4 回　数学演習3
数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。
第 5 回　数学演習4
数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。
第 6 回　数学演習5
数学演習問題基礎（関数）を解く。
第 7 回　数学演習６
数学演習問題応用（関数）を解く。
第 8 回　数学演習７
数学演習問題基礎（平面図形）を解く。
第 9 回　数学演習８
数学演習問題応用（平面図形1）を解く。
第 10 回　数学演習９
数学演習問題応用（平面図形2）を解く。
第 11 回　数学演習１０
数学演習問題基礎（空間図形）を解く。

第 12 回　数学演習１１
　　数学演習問題応用（空間図形）を解く。
第 13 回　数学演習１２
　　数学演習問題基礎（確率）を解く。
第 14 回　数学演習１３
　　数学演習問題応用（確率）を解く。
第 15 回　学習のまとめ
　　自己の課題に挑戦する。

〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）

〔参考文献〕
授業ごとに問題プリントを配付する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
参考文献の問題集３冊は購入し，自学課題とする。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅲ－Ⅰ（教職教養）

7007
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
3年
1単位　前期
笠原　　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な学校教育に係る様々な知識・情報を整理し、まとめる。
○教職教養の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。

〔授業の概要〕
○教育法規、教育史、教育原理、教育時事等関係資料を調べ、教職教養の理解を確かなものにする。
○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ、教育課題について自分の考えをまとめる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回､授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく｡(３０分)
授業時に学修した内容を中心に，練習問題を解き理解を定着させる。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の到達目標及び概要，進め方，予習・復習の仕方，授業計画及び評価について理解する。
第 2 回　教育法規１
　　学校教育に関する法規を調べ，まとめる。
第 3 回　教育法規２
　　教職員に関する法規を調べ，まとめる。
第 4 回　教育法規３
　　教育法規についてまとめる。
第 5 回　教育原理１
　　人権教育関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 6 回　教育原理２
　　特別支援関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 7 回　教育原理３
　　学校安全・防災教育等関係資料を調べ，まとめる。
第 8 回　教育時事１
　　中教審関係資料等を調べ，まとめる。
第 9 回　教育時事２
　　文部科学省通知・通達を調べ，まとめる。
第 10 回　教育時事３
　　その他各種関係資料，手引き等を調べ，まとめる。

第 11 回　教育史1
　　西洋教育史を調べ、まとめる。
第 12 回　教育史２
　　日本教育史を調べ、まとめる。
第 13 回　教育心理１
　　発達・学習理論を調べ、まとめる。
第 14 回　教育心理２
　　教育評価・人格心理検査等を調べ、まとめる。
第 15 回　教職教養のまとめ
　　教職教養に関する要点を整理し，理解を深める。

〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度(４０％)

〔教科書〕
自作テキスト「教職教養資料①教育法規編」「　〃　②人権教育・特別支援教育編」「　〃　③教育時事編」「　〃　教育史・教育心理編」

問題プリントは毎回配付する。

〔参考文献〕
「教職教養ランナー 2022年度版」(一ツ橋書店)

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕
参考文献を予習・復習時に活用し，理解を深める。

〔オフィスアワー〕
①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

英語Ⅲ【再履修】

7050
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
野島　　晃子

〔到達目標〕
１．さまざまな英語の文型について基礎から応用まで身につける。
２．基本的な会話のリスニング力をつける。
〔授業の概要〕
英文の仕組みや談話のまとまり・流れを学ぶ。語彙・や表現方法を学び、自分の言葉として使えるよう繰り返し練習を通して定着を図る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業内容（語彙や文型）を復習し、定着させる。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・実力テスト
　授業方針、目標、内容、評価の方法の説明。
　基本的な内容の実力テストを実施。
第 2 回　文型
　基本的な５文型について復習する。
第 3 回　時制
　現在形から未来完了形まで習得する。
第 4 回　助動詞
　助動詞を習得する。
第 5 回　不定詞・動名詞
　不定詞と動名詞を習得する。
第 6 回　小テスト①
　第2回から第5回までの内容の復習テストを実施する。
第 7 回　受動態・分詞
　受動態と分詞の習得。
第 8 回　関係詞
　関係詞の習得。
第 9 回　比較
　比較の習得。
第 10 回　小テスト②
　第7回から第9回までの内容の復習テストを実施する。
第 11 回　仮定法
　仮定法の習得。
第 12 回　さまざまな構文や表現
　間接疑問や強調構文などを習得する。
第 13 回　接続詞・前置詞
　接続詞と前置詞の習得。
第 14 回　小テスト③
　第11回から第13回までの内容の復習テストを実施する。
第 15 回　全体の振り返りと最終試験
　これまでに学習した内容の振り返りと期末試験に相当する試験を実施する。
〔成績評価〕
毎回の課題（20%）
小テスト（30%）
定期試験（50%）
〔教科書〕
配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。
〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日

大学生活入門　教育⑥

8114
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
石川　　峻

〔到達目標〕
少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
円満に意志疎通を図ることができる。
コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。
〔授業の概要〕
学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望

ましい。
次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。
・(全) 記号は全学科合同での実施メニュー
・(学科) 記号は教育学科合同での実施メニュー
・(クラス) 記号は各クラスでの実施メニュー
〔授業計画〕
第 1 回 (全) 講話 (各諸部長)、授業概要、作文講話 (学部長、学生部長、各担当者紹介、など) と本授業の概要、評価の説明
作文 :「4年後に卒業する自分に宛てた手紙」の記述ワーク
第 2 回 (全) スマホセキュリティ (教学支援部ほか)
学生のほぼ100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。
第 3 回 (全) FFSリーダー特性 (藤本ほか)
自己分析の判断基軸となるチャート分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また演習仲間との相互チャート比較などもおこなう。
第 4 回 (全) キャリア形成について①働く
就職部主催 : 働くことの意味、意義を知って、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な関心度を深める。
第 5 回 (学科) Aドリル ①
第 6 回 (学科) Aドリル ②
第 7 回 (学科) スポーツ大会
第 8 回 (全) ハラスメント・ＤＶ被害 (三浦ほか)
ハラスメント、ＤＶ被害についての認識を映像で学び、併せて大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報等を周知する。
第 9 回 (クラス) 図書館利用案内
第 10 回 (クラス) コミュニケーション学習①
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 11 回 (クラス) コミュニケーション学習②
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 12 回 (全) 違法薬物 動画 (武田ほか)
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。
第 13 回 (学科) 読書案内
第 14 回 (学科) Aドリル ペーパーテスト
第 15 回 (学科) まとめレポート
〔成績評価〕
レポート評価100%
・小レポート記述 (量､質) のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②フォリーでメッセージを送ってください。
③事務所に問い合わせてください。

大学生活入門 教育⑤

8115
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位 前期
武田 光平

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。
〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動 (アクティブラーニング) である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・(全) 記号は全学科合同での実施メニュー
・(学科) 記号は教育学科合同での実施メニュー
・(クラス) 記号は各クラスでの実施メニュー
〔授業時間外・準備学習 (予習復習)〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル (Word、パワポ) は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。
〔授業計画〕
第 1 回 (全) 講話
講話 (各諸部長)、授業概要、作文講話 (学部長、学生部長、各担当者紹介、など) と本授業の概要、評価の説明。作文 :「4年後に卒業する自分に宛てた手紙」の記述ワーク。

第 2 回 （全）スマホセキュリティ (教学支援部、ほか)
学生のほぼ100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。
第 3 回 （全）FFSリーダー特性 (藤、ほか)
自己分析の判断基軸となるチャート分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また演習仲間との相互チャート比較などもおこなう。
第 4 回 （全体）キャリア形成について（1）…働く…
就職部主催：働くことの意味、意義を知って、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な関心度を深める。
第 5 回 （学科）Aドリル ①
第 6 回 （学科）Aドリル ②
第 7 回 （学科）スポーツ大会
第 8 回 （全）ハラスメント・ＤＶ被害（三、ほか）
ハラスメント、ＤＶ被害についての認識を映像で学び、併せて大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報等を周知する。
第 9 回 （クラス）図書館利用案内
第 10 回 （クラス）コミュニケーション学習（１）
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 11 回 （クラス）コミュニケーション学習（２）
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 12 回 （全） 違法薬物 動画（武、ほか）
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。
第 13 回 （学科） 読書案内
第 14 回 （学科） Aドリル ペーパーテスト
第 15 回 （学科） まとめレポート

〔成績評価〕

・レポート評価100%
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期
②フォリーでメッセージを送ってください。
③事務所に問い合わせてください。

大学生活入門 教育①

8116
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位 前期
三浦 正樹

〔到達目標〕

1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。

〔授業計画〕

第 1 回 全体
講話（各諸部長）、授業概要、作文講話（学部長、学生部長、各担当者紹介、など）と本授業の概要、評価の説明。作文：「4年後に卒業する自分に宛てた手紙」の記述ワーク。
第 2 回 全体 スマホセキュリティ
学生のほぼ100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。
第 3 回 全体 FFSリーダー特性
自己分析の判断基軸となるチャート分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また演習仲間との相互チャート比較などもおこなう。
第 4 回 全体 キャリア形成について（1）…働く…
就職部主催：働くことの意味、意義を知って、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な関心度を深める。
第 5 回 学科
Aドリル ①

第 6 回　学科
Aドリル　②
第 7 回　学科
スポーツ大会
第 8 回　全体　ハラスメント・ＤＶ予防教育
ハラスメント、ＤＶ被害についての認識を映像で学び、併せて大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報等を周知する。
第 9 回　クラス
図書館利用案内
第 10 回　クラス
コミュニケーション学習（１）：集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 11 回　クラス
コミュニケーション学習（２）：集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 12 回　全体　違法薬物
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。
第 13 回　学科
読書案内
第 14 回　学科
Aドリル　ペーパーテスト
第 15 回　学科
まとめ

〔成績評価〕

レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

〔教科書〕

特に用いない

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

大学生活入門　教育②

8117
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
金　　相煥

〔到達目標〕

1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・（全）記号は全学科合同での実施メニュー
・（学科）記号は教育学科合同での実施メニュー
・（クラス）記号は各クラスでの実施メニュー

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。

〔授業計画〕

第 1 回　（全）　講話（各諸部長）、授業概要、作文講話（学部長、学生部長、各担当者紹介、など）と本授業の概要、評価の説明。
作文：「4年後に卒業する自分に宛てた手紙」の記述ワーク。
第 2 回　（全）　スマホセキュリティ (教学支援部、ほか)
学生のほぼ100％が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。
第 3 回　（全）　FFSリーダー特性 (藤本、ほか)
自己分析の判断基軸となるチャート分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また演習仲間との相互チャート比較などもおこなう。
第 4 回　（全体）　キャリア形成について（1）…働く…

就職部主催：働くことの意味、意義を知って、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な関心度を深める。
第 5 回 （学科） Aドリル ①
第 6 回 （学科） Aドリル ②
第 7 回 （学科） スポーツ大会
第 8 回 （全） ハラスメント・ＤＶ被害（三浦、ほか）
ハラスメント、ＤＶ被害についての認識を映像で学び、併せて大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報等を周知する。
第 9 回 （クラス） ：図書館利用案内
第 10 回 （クラス） ：コミュニケーション学習（１）
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 11 回 （クラス） ：コミュニケーション学習（２）
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 12 回 （全） 違法薬物 動画（武田、ほか）
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。
第 13 回 （学科） 読書案内
第 14 回 （学科） Aドリル ペーパーテスト
第 15 回 （学科） まとめレポート
定期試験

〔成績評価〕
・レポート評価100％
・小レポート記述（量､質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②フォリーでメッセージを送ってください。
③事務所に問い合わせてください。

大学生活入門 教育④

8119
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位 前期
伊藤 武徳

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1~2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動(アクティブラーニング)である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・(全)記号は全学科合同での実施メニュー
・(学科)記号は教育学科合同での実施メニュー
・(クラス)記号は各クラスでの実施メニュー

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、PCなどの情報機器基礎スキル(Word、パワポ)は、各自で身に着けておくことを推奨する。また
ノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。

〔授業計画〕
第 1 回 (全)講話
講話(各諸部長)、授業概要、作文講話(学部長、学生部長、各担当者紹介、など)と本授業の概要、評価の説明。作文:「4年後に卒業する自分に宛てた手紙」の記述ワーク。
第 2 回 (全)スマホセキュリティ (教学支援部、ほか)
学生のほぼ100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。
第 3 回 (全)FFSリーダー特性 (藤、ほか)
自己分析の判断基軸となるチャート分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また演習仲間との相互チャート比較などもおこなう。
第 4 回 (全体)キャリア形成について(1)...働く...
就職部主催:働くことの意味、意義を知って、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な関心度を深める。
第 5 回 (学科)Aドリル 1
第 6 回 (学科)Aドリル 2
第 7 回 (学科)スポーツ大会
第 8 回 (全)ハラスメント・DV被害(三、ほか)
ハラスメント、DV被害についての認識を映像で学び、併せて大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報等を周知する。
第 9 回 (クラス)図書館利用案内
第 10 回 (クラス)コミュニケーション学習(1)

集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 11 回　(クラス)コミュニケーション学習(2)
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 12 回　(全) 違法薬物 動画(武、ほか)
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。
第 13 回　(学科) 読書案内
第 14 回　(学科) Aドリル ペーパーテスト
第 15 回　(学科) まとめレポート

〔成績評価〕

・レポート評価100%
・小レポート記述(量、質)のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

水曜日12 : 10〜13 : 10となります。事前予約をお願いします。
tito@ashiya-u.ac.jp

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　教育①

8211
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
林　　知代

〔到達目標〕

1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1〜2名の担任を配置する。
・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)および学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。
・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。(2時間)
復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　（学科）授業概要、評価の説明
自己分析シートの作成。Aドリル学習についての説明。
第 2 回　（全）スマホセキュリティ (教学支援部、ほか)
学生のほぼ100％が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。
第 3 回　（学科）大学で修得すべきこととは（カリキュラムポリシーとディプロマポリシーと卒業要件）
自身の所属している学科のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーを理解し、より大学での学びに参加するという方向性を明確にする。
第 4 回　（クラス）自分を知ろう①（自己分析シートの振り返り及び面談）
自己分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また、担任と面談をおこない前期の目標設定をおこなう。
第 5 回　（学科）キャリア形成について（就職課）
履歴書の書き方、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な方法論を知る。
第 6 回　（クラス）　Aドリル学習①
基礎学力向上に向け、Aドリルを活用した勉強法を学ぶ。
第 7 回　（学科）しあわせな仕事に就くために（外部講師による講話）
充実感を味わうことの出来る仕事に就くために、今取組むべきことは何かを講話から探る。
第 8 回　（クラス）　Aドリル学習②
基礎学力向上に向け、Aドリルを応用した勉強法を学ぶ。
第 9 回　（学科）　スポーツ大会
スポーツ交流を通じて、集団や社会での協調性や多様な価値観、充実感を高める。
第 10 回　（学科）薬物防止及び振り込め詐欺について（外部講師による講話）

法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。

第 11 回　（クラス）コミュニケーション実践①　（私の大切なもの）
「私の大切なもの」の話を共有することで自分の思いや考えを他者に伝えることを学ぶと共に自己理解を深める。さらに活動を通し、個の多様な価値観を認識する。

第 12 回　（クラス）　コミュニケーション実践②　（仕事に必要な情報収集）
将来自分がやってみたい仕事について、情報のリストアップ（インターネットネット、書籍、人、その他）をおこなう。また、魅力を感じる情報とは何かをグループで話し合う。

第 13 回　（クラス）　コミュニケーション実践③（「なりたい私」）
将来自分が就職したい仕事について調査した項目をパワーポイントにまとめ発表する。

第 14 回　（学科）　Aドリル
ペーパーテスト

第 15 回　（学科）　まとめレポート
前期を総合的に振り返り、評価するとともに、今後に向けての目標設定を行う。

〔成績評価〕

平常点(50%)、まとめレポート(20%)、Aドリルテスト(30%)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。

・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。

・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

使用しない

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期共通
②基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　教育②

8213
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
青木　　敦英

〔到達目標〕

1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。

・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)および学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。

・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。

・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。

・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。(2時間)

復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　（学科）授業概要、評価の説明
自己分析シートの作成。Aドリル学習についての説明。

第 2 回　（全）スマホセキュリティ (教学支援部、ほか)
学生のほぼ100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。

第 3 回　（学科）大学で修得すべきこととは（カリキュラムポリシーとディプロマポリシーと卒業要件）
自身の所属している学科のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーを理解し、より大学での学びに参加するという方向性を明確にする。

第 4 回　（クラス）自分を知ろう①（自己分析シートの振り返り及び面談）
自己分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また、担任と面談をおこない前期の目標設定をおこなう。

第 5 回　（学科）キャリア形成について（就職課）
履歴書の書き方、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な方法論を知る。

第 6 回 （クラス） Aドリル学習①
基礎学力向上に向け、Aドリルを活用した勉強法を学ぶ。
第 7 回 （学科）しあわせな仕事に就くために（外部講師による講話）
充実感を味わうことの出来る仕事に就くために、今取組むべきことは何かを講話から探る。
第 8 回 （クラス） Aドリル学習②
基礎学力向上に向け、Aドリルを応用した勉強法を学ぶ。
第 9 回 （学科） スポーツ大会
スポーツ交流を通じて、集団や社会での協調性や多様な価値観、充実感を高める。
第 10 回 （学科）薬物防止及び振り込め詐欺について（外部講師による講話）
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。
第 11 回 （クラス）コミュニケーション実践①（私の大切なもの）
「私の大切なもの」の話を共有することで自分の思いや考えを他者に伝えることを学ぶと共に自己理解を深める。さらに活動を通し、個の多様な価値観を認識する。
第 12 回 （クラス） コミュニケーション実践②（仕事に必要な情報収集）
将来自分がやってみたい仕事について、情報のリストアップ（インターネットネット、書籍、人、その他）をおこなう。また、魅力を感じる情報とは何かをグループで話し合う。
第 13 回 （クラス） コミュニケーション実践③（「なりたい私」）
将来自分が就職したい仕事について調査した項目をパワーポイントにまとめ発表する。
第 14 回 （学科） Aドリル
ペーパーテスト
第 15 回 （学科） まとめレポート
前期を総合的に振り返り、評価するとともに、今後に向けての目標設定を行う。

〔成績評価〕
平常点(50%)、まとめレポート(20%)、Aドリルテスト(30%)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕
使用しない

〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 教育④

8214
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位 前期
別當 和香

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)および学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。
・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。(2時間)
復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回 （学科）授業概要、評価の説明

自己分析シートの作成。Aドリル学習についての説明。

第 2 回　（全）スマホセキュリティ (教学支援部、ほか)
学生のほぼ100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。

第 3 回　（学科）大学で修得すべきこととは（カリキュラムポリシーとディプロマポリシーと卒業要件）
自身の所属している学科のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーを理解し、より大学での学びに参加するという方向性を明確にする。

第 4 回　（クラス）自分を知ろう①（自己分析シートの振り返り及び面談）
自己分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また、担任と面談をおこない前期の目標設定をおこなう。

第 5 回　（学科）キャリア形成について（就職課）
履歴書の書き方、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な方法論を知る。

第 6 回　（クラス）　Aドリル学習①
基礎学力向上に向け、Aドリルを活用した勉強法を学ぶ。

第 7 回　（学科）しあわせな仕事に就くために（外部講師による講話）
充実感を味わうことの出来る仕事に就くために、今取組むべきことは何かを講話から探る。

第 8 回　（クラス）　Aドリル学習②
基礎学力向上に向け、Aドリルを応用した勉強法を学ぶ。

第 9 回　（学科）　スポーツ大会
スポーツ交流を通じて、集団や社会での協調性や多様な価値観、充実感を高める。

第 10 回　（学科）薬物防止及び振り込め詐欺について（外部講師による講話）
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。

第 11 回　（クラス）コミュニケーション実践①　（私の大切なもの）
「私の大切なもの」の話を共有することで自分の思いや考えを他者に伝えることを学ぶと共に自己理解を深める。さらに活動を通し、個の多様な価値観を認識する。

第 12 回　（クラス）　コミュニケーション実践②　（仕事に必要な情報収集）
将来自分がやってみたい仕事について、情報のリストアップ（インターネットネット、書籍、人、その他）をおこなう。また、魅力を感じる情報とは何かをグループで話し合う。

第 13 回　（クラス）　コミュニケーション実践③（「なりたい私」）
将来自分が就職したい仕事について調査した項目をパワーポイントにまとめ発表する。

第 14 回　（学科）　Aドリル
ペーパーテスト

第 15 回　（学科）　まとめレポート
前期を総合的に振り返り、評価するとともに、今後に向けての目標設定を行う。

〔成績評価〕
平常点(50%)、まとめレポート(20%)、Aドリルテスト(30%)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕
使用しない

〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　教育⑤

8215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
奥野　拓司

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)および学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。

・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。(2時間)

復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回 （学科）授業概要、評価の説明
自己分析シートの作成。Aドリル学習についての説明。

第 2 回 （全）スマホセキュリティ (教学支援部、ほか)
学生のほぼ100％が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。

第 3 回 （学科）大学で修得すべきこととは（カリキュラムポリシーとディプロマポリシーと卒業要件）
自身の所属している学科のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーを理解し、より大学での学びに参加するという方向性を明確にする。

第 4 回 （クラス）自分を知ろう①（自己分析シートの振り返り及び面談）
自己分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また、担任と面談をおこない前期の目標設定をおこなう。

第 5 回 （学科）キャリア形成について（就職課）
履歴書の書き方、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な方法論を知る。

第 6 回 （クラス） Aドリル学習①
基礎学力向上に向け、Aドリルを活用した勉強法を学ぶ。

第 7 回 （学科）しあわせな仕事に就くために（外部講師による講話）
充実感を味わうことの出来る仕事に就くために、今取組むべきことは何かを講話から探る。

第 8 回 （クラス） Aドリル学習②
基礎学力向上に向け、Aドリルを応用した勉強法を学ぶ。

第 9 回 （学科） スポーツ大会
スポーツ交流を通じて、集団や社会での協調性や多様な価値観、充実感を高める。

第 10 回 （学科）薬物防止及び振り込め詐欺について（外部講師による講話）
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。

第 11 回 （クラス）コミュニケーション実践①（私の大切なもの）
「私の大切なもの」の話を共有することで自分の思いや考えを他者に伝えることを学ぶと共に自己理解を深める。さらに活動を通し、個の多様な価値観を認識する。

第 12 回 （クラス） コミュニケーション実践②（仕事に必要な情報収集）
将来自分がやってみたい仕事について、情報のリストアップ（インターネットネット、書籍、人、その他）をおこなう。また、魅力を感じる情報とは何かをグループで話し合う。

第 13 回 （クラス） コミュニケーション実践③（「なりたい私」）
将来自分が就職したい仕事について調査した項目をパワーポイントにまとめ発表する。

第 14 回 （学科） Aドリル
ペーパーテスト

第 15 回 （学科） まとめレポート
前期を総合的に振り返り、評価するとともに、今後に向けての目標設定を行う。

〔成績評価〕

平常点(50%)、まとめレポート(20%)、Aドリルテスト(30％)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

使用しない

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期共通
②基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　教育③

8216
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
西光　　哲治

〔到達目標〕

1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表お

よび書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)および学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。
・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。(2時間)
復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　（学科）授業概要、評価の説明
自己分析シートの作成。Aドリル学習についての説明。

第 2 回　（全）スマホセキュリティ (教学支援部、ほか)
学生のほぼ100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識の向上を掌握理解のため、外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。

第 3 回　（学科）大学で修得すべきこととは（カリキュラムポリシーとディプロマポリシーと卒業要件）
自身の所属している学科のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーを理解し、より大学での学びに参加するという方向性を明確にする。

第 4 回　（クラス）自分を知ろう①（自己分析シートの振り返り及び面談）
自己分析シートを使って、自分の特性を客観的に理解する。また、担任と面談をおこない前期の目標設定をおこなう。

第 5 回　（学科）キャリア形成について（就職課）
履歴書の書き方、実際の就職活動や将来目指す職業への具体的な方法論を知る。

第 6 回　（クラス）　Aドリル学習①
基礎学力向上に向け、Aドリルを活用した勉強法を学ぶ。

第 7 回　（学科）しあわせな仕事に就くために（外部講師による講話）
充実感を味わうことの出来る仕事に就くために、今取組むべきことは何かを講話から探る。

第 8 回　（クラス）　Aドリル学習②
基礎学力向上に向け、Aドリルを応用した勉強法を学ぶ。

第 9 回　（学科）　スポーツ大会
スポーツ交流を通じて、集団や社会での協調性や多様な価値観、充実感を高める。

第 10 回　（学科）薬物防止及び振り込め詐欺について（外部講師による講話）
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。

第 11 回　（クラス）コミュニケーション実践①　（私の大切なもの）
「私の大切なもの」の話を共有することで自分の思いや考えを他者に伝えることを学ぶと共に自己理解を深める。さらに活動を通し、個の多様な価値観を認識する。

第 12 回　（クラス）　コミュニケーション実践②　（仕事に必要な情報収集）
将来自分がやってみたい仕事について、情報のリストアップ（インターネットネット、書籍、人、その他）をおこなう。また、魅力を感じる情報とは何かをグループで話し合う。

第 13 回　（クラス）　コミュニケーション実践③（「なりたい私」）
将来自分が就職したい仕事について調査した項目をパワーポイントにまとめ発表する。

第 14 回　（学科）　Aドリル
ペーパーテスト

第 15 回　（学科）　まとめレポート
前期を総合的に振り返り、評価するとともに、今後に向けての目標設定を行う。

〔成績評価〕

平常点(50%)、まとめレポート(20%)、Aドリルテスト(30%)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

使用しない

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

演習Ⅰ【日本文化史】

8311
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
杉島　　威一郎

〔到達目標〕
与えられた課題に対し、文章で自分の考えを的確に書けるようになる。また、ゼミ内でパワーポイントを使い、発表できるようになる。
〔授業の概要〕
教員から課題を与え、その問いについて学生自身で調査を行い発表してもらう。調査で必要となる図書館の利用法、資料検索法などについて実践する。課題に対し、自分の考えを文章で表現できるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時、指定図書を通読する。(2時間)
毎時、レポート作成を課す。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の進め方、受講上の注意、評価方法について
第 2 回　図書館の利用①
　　大学図書館の利用方法を確認し、資料を探す。
第 3 回　図書館の利用②
　　地域図書館の利用方法を確認し、資料を探す。
第 4 回　図書館の利用③
　　他大学の図書館の利用方法を確認し、資料を探す。
第 5 回　図書館の利用④
　　国立国会図書館の利用方法を確認し、資料を探す。
第 6 回　ネットで論文を検索する
　　ネットで論文を検索できるようになる。
第 7 回　ネットで資料を検索する
　　ネットで稀覯本を所蔵する図書館を検索する。
第 8 回　稀覯本を検索する
　　古書店が所有する稀覯本を探す。
第 9 回　小論文の書き方①
　　小論文の型を学ぶ。
第 10 回　小論文の書き方②
　　文章の基礎を学ぶ。
第 11 回　小論文の書き方③
　　資料の引用方法を学ぶ。
第 12 回　小論文の書き方④
　　課題に対する小論文を書く。
第 13 回　小論文を読む①
　　他ゼミ生の小論文を読み、意見を述べる。
第 14 回　小論文を読む②
　　他ゼミ生の小論文を読み、意見を述べる。
第 15 回　まとめ
　　前期の学習を振り返る。
〔成績評価〕
毎時間課すレポートを評価する。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

演習Ⅰ【教育心理学演習】

8324
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
専門としての教育心理学の理解
〔授業の概要〕
実験法、質問紙法、調査法、検査法などの基礎的な方法について指導する。３年次の段階で、実習レポートの書き方、心理学における実証的方法の意義、心理学における法則とは何か、心理学における理論と説明、データ分析の仕方（心理統計法）など、実験系心理学の一通りの基礎を学ぶ。並行して心理系の専門誌を講読していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内容の予習（90分）
授業内容の復習（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　導入
　　専門の教育心理学とは
第 2 回　観察法１
第 3 回　観察法２
第 4 回　実験法１
第 5 回　実験法２
第 6 回　調査法1
第 7 回　調査法2
第 8 回　検査法１
第 9 回　検査法2
第 10 回　事例研究法１
第 11 回　事例研究法２
第 12 回　統計１
第 13 回　統計２

第 14 回　統計3
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
授業中の発表、討論（50%）
期末レポート（50%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30〜13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

演習Ⅰ【近代日本教育史の研究】

8335
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
三羽　光彦

〔到達目標〕
この演習では教育に関する思想や名著を紹介して、それを解説する形で進めます。古代から現代に至る教育思想家の思索の跡をたどることにします。現代日本の教育を考察する観点を養ってもらいたいと思います。①紹介した思想家の業績、著作の内容、思想の特徴を理解する。②紹介した古典の文章に即してその論点を把握する。④進んで全文を読み進めて自己の教育観と比べながら対話的に考察する。以上が到達目標です。
〔授業の概要〕
読書離れが進んでいるといわれる学生諸君は、古典といわれる名著をじっくり読むことがあるでしょうか。試験対策として人や書物の名前を棒暗記するだけでは残念です。今、対話的で深い学力や読解力の必要性が叫ばれています。すぐれた過去の教育家との対話の旅に出かけましょう。何か興味を持った著作があったら、進んで全文を読んでもらえれば案内者として幸せです。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各教育家の思想の特徴と、著作の内容を理解した上で、参考資料や参考文献を図書館やインターネットによって探し、読んでおいて下さい（100分）、授業後には小レポートを作成して提出して下さい（100分）。
〔授業計画〕
第 1 回　プラトンの『ソクラテスの弁明』を読む
ソクラテスは著作を残しておりませんが、プラトンの対話編によってその思想を知ることができます。『ソクラテスの弁明』は、「青少年を惑わした」という理由で裁判にかけられたソクラテスが、市民に向かって自分の信念を述べた様子をプラトンが描いた書です。
第 2 回　孔子の『論語』を読む
『論語』は孔子の死後、弟子たちが編纂した孔子とその弟子の言行録で、儒教の根本的な書とされています。さまざまな名言に富み、古来から中国を始め韓国や日本で人間形成のための基本文献とされてきました。
第 3 回　釈迦の思想を探求する
釈迦（ゴータマ・シッダルタ）は、東洋・日本思想の底流にある仏教の開祖です。一切皆苦、諸行無常を説きました。あらためて仏教思想の基本を学習しましょう。
第 4 回　ロックの『統治論』を読む
ロックの『統治論』は、『統治二論』『市民政府二論』ともよばれ、名誉革命を推進した思想を理論化したもので、人民主権に基づく社会契約説が説かれています。子どもの教育についても、さまざまな含蓄のある文章が随所に見られます。
第 5 回　ルソーの『エミール』を読む（1）
最も有名な教育古典ともいえるルソーの『エミール』は、孤児エミールが理想的な教師のもとで成長していく過程を描いた教育小説です。みんなで読み解いていきましょう。
第 6 回　ルソーの『エミール』を読む（2）
エミールには、子どもが本来持っている自然な人間性の発達を尊重し、人為的な干渉を控える消極教育が主張されています。
第 7 回　カントの純粋理性批判を読む
人間の認識能力としての理性を理論的に検討した『純粋理性批判』、難解な書ですがその要点、教育との関係を考えます。
第 8 回　カントの実践理性批判を読む
人間の道徳的能力としての実践理性を検討した『実践理性批判』、対象からその根拠となる普遍的なものを導き出す反省的な判断力を検討した『判断力批判』、これを読み解きます。
第 9 回　ペスタロッチーの『隠者の夕暮れ』を読む
ペスタロッチー（1746-1827）は、スイスの教育者で孤児や貧しい家庭の子どもたちの教育に献身しました。数多くの名著がありますが、『隠者の夕暮れ』の味わい深い教育論を読んでみましょう。
第 10 回　福沢諭吉の『学問のすゝめ』を読む
「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」というフレーズは誰もがよく知っています。しかし諭吉がいいたかったことはこのあとです。「されば」とつないで、現実には貴賤貧富など人間に雲泥の差があるのはなぜかと問いかけます。教育の必要性を説いた明治期のベストセラーです。
第 11 回　フレーベルの『人間の教育』を読む
フレーベル（1782-1852）はドイツの教育家で幼稚園の創設者として有名です。子どもの遊技の用具として「恩物」を考案したことで有名です。『人

間の教育』では「子どもの本姓にある神性の自己展開をはかるのが教育の目的である」と説きました。

第 12 回　デューイの『学校と社会』を読む
児童中心主義と社会改革を志向する経験主義の立場から、プラグマティズムの教育学を確立したのがデューイ（1859-1952）です。その出発点となったシカゴ大学附属の実験学校の報告書が、この『学校と社会』です。

第 13 回　ブルーナの『教育の過程』を読む
スプートニクショック後、全米から教育家を集めてウッズホール会議が開催されました。その議長がブルーナー（1915-2016）でした。その会議をまとめたものが、彼の主著『教育の過程』です。この書は、教育の現代化の理論的基礎を提供しました。

第 14 回　イリイチの『脱学校論』を読む
イリイチ（1926－2002）は、過剰な効率性を追い求めるなかで人間の自律性を喪失させる現代文明を批判しました。そうした文明の組織の最たるものとして学校教育を位置づけています。『脱学校論』はラディカルな現代教育批判として有名です。

第 15 回　フレイレの『被抑圧者の教育学』を読む
フレイレ（1921-1997）はブラジルの思想家で、貧困と抑圧からの解放を自己の思想のよりどころとしています。支配者に都合のいい有能な人材になるのではなく、抑圧からの自己解放を支援する教育こそが真の教育であると説いています。

〔成績評価〕

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）40点、毎時の課題（小レポート）あわせて60点、合計100点によって評価します。また各時間には、就職活動や学生生活についての連絡や相談も行います。

〔教科書〕

教科書は使いません。適宜資料を紹介または提示します。

〔参考文献〕

寺﨑・古沢・増井『教育課程新書・名著解題』共同出版、2009年など。

〔履修条件〕

〔備考〕

演習ですから、適宜、興味関心に従って自主的に学習を進めてください。

〔オフィスアワー〕

各州水曜日12時30分から14時までです。できればあらかじめアポを取って下さい。

演習Ⅰ【日本武道】

8345
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　前期
西光　哲治

〔到達目標〕

少人数で専門的知識取得したことを説明できる。担当教員の指導のもとで自己の学習課題を見つけ文献資料の精読等によって自分の論文テーマとその構成を模索できる。

〔授業の概要〕

武道に関するテーマを与え、それに必要な情報をパソコン、文献などで収集しコメント文を作成し、各自発表するという授業形態を行う。それによって卒業論文のテーマを模索する。また、論文作成に必要な知識も学ばせる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

前回授業の復習とノートの整理(2時間)　次回行うテーマについて調べる(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　日本武道の由来①縄文時代
縄文時代に対人戦闘用の武器が誕生した経緯をパソコン・文献などで調べさせ発表させる。原始共産制社会で狩り・採取による食糧獲得から農業の誕生・発展よる富の集中が表れ、その富を奪う者と守る者が出現しその結果、武器が誕生した説を理解させる

第 2 回　日本武道の由来②弥生時代
弥生時代に金属製（青銅製）の武器が誕生した経緯をパソコン・文献などで調べさせ発表させる。紀元前3世紀ごろ中国から青銅器・鉄器が輸入されその技術が伝わり、青銅製の武器（矛・剣）誕生や青銅材質の使用した理由など理解させる。

第 3 回　日本武道の由来③古墳時代
古墳時代に技術の発展により鉄の武器が主流になった経緯をパソコン・文献などで調べさせ発表させる。「炉」を使用とする鉄の鋳造技術が発展したことや武器の強度上昇、資源が豊富などの理由から鉄の武器が主流になったことを理解させる。

第 4 回　日本武道の由来④鎌倉時代
鎌倉時代、武士の必須の武芸として弓術・馬術・流鏑馬が盛んに行われたことをパソコン・文献などで調べさせ発表させる。平安時代では幾度となく戦があった経緯から戦では弓術・馬術が重要な力になるため武士の必須の武芸となったことを理解させる。

第 5 回　日本武道の由来⑤戦国時代に興った兵法三大源流
1566年兵法三大源流が興ったが、その三大源流とはとは何かパソコン・文献などで調べさせ発表させる。陰流・神道流・念流の概要とその三大源流から新陰流・一刀流・中条流などが派生して一挙に剣の道が広まったことを理解させる。

第 6 回　日本武道の由来⑥江戸時代

武術の様々な流派が発展したのは戦乱が収まった江戸時代であることをパソコン・文献などで調べさせ発表させる。長く続いた平和によって武士の余暇の楽しみ、武士の嗜みとして広まりそして流派は幕末までに数百を超えたことを理解させる。

第 7 回　日本武道の由来⑦明治・大正時代　1
明治時代の武術がどのように扱われたのかパソコン・文献などで調べさせ発表させる。明治維新後、武士の身分が廃止され武術が時代遅れとなり衰退し、武術が見世物興行とし細々と伝わったことを理解させる。

第 8 回　日本武道の由来⑦明治・大正時代　2
明治時代衰退した武術のうち、柔術から発展した柔道の誕生についてパソコン・文献などで調べさせ発表させる。明治15年に加納治五郎が独自に技術体系の柔道を創ったとこやこれを皮切りに大正8年に「武術」から「武道」に名称変更した理由を理解させる。

第 9 回　日本武道の由来⑧昭和時代から現在
第二次世界大戦敗戦直後、ＧＨＱによる武道・武術が禁止されたがそれをどのような形で復活させたかパソコン・文献などで調べさせ発表させる。人格形成を理念としたスポーツとして位置付けて再開したことを理解させる。

第 10 回　論文作成必要な知識①作文と論文の違い
作文と論文の定義、論文は何を書くものかについてパソコン・文献などで調べさせ発表させる。

第 11 回　論文に必要な知識②事実と意見の区別
事実は①誰ても経験できる物事②調査や実験で確認できる③正しいか正しくないかのどちらか④事実を記述する文の形は「・・である」という表現意見は①自分の判断や考え②調査や実験で判断できないこともある③正しいか正しくないか決められないこともある④意見を記述する文の形は「・・であると考える」などを理解させる。

第 12 回　論文に必要な知識③論文の構成　序論・本論・結論
論文の序論・本論・結論とは何かパソコン・文献などで調べさせ発表させる。①序論では言いたいことを（目的）を示す②言いたいことの根拠を示す③本論部分の根拠を簡潔にまとめる・論文で言いたかったこと（目的）の答えを示すなどを理解させる。

第 13 回　論文に必要な知識④卒論の書き方とコツ
①研究テーマの選び方、②限定的なテーマの設定、③卒論の準備スタート時期、
④初めに準備するものなどを各自に考えさせ発表させる。①は過去にない話題性のあるテーマ、②は的を絞り方向性を明確化、③は訂正や途中で方向転換の対応のため四年生直ぐのスタート、④先行研究の整理、参考文献の収集など大切なことを理解させ意識づけさせる。

第 14 回　論文に必要な知識⑤論文に必要な情報収集方法
パソコンによるCinii・Wikipedia・Webcat plus・amazon・統計データ・ポータブルサイト検索などによる情報収集方法を理解させる。

第 15 回　まとめ
前期の反省と今後の展望のレポート作成

〔成績評価〕
授業への取組む姿勢(50%)
レポート作成(50%)

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②木曜日　10:00～11:30
③場所：西光研究室(福山記念館１階)
④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

演習Ⅰ【国際観光ビジネス】

8349
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　前期
松本　達也

〔到達目標〕
観光の定義及び意義等について基本的な事項を認識した上で、底辺の広い観光ビジネスについて調査・研究する。

〔授業の概要〕
我が国が観光立国から観光大国を目指す上での課題を学習者同士の話し合い、関心事項の発表を中心に授業を進める。さらに、IR授業の新設問題を含めこれからの観光ビジネスのあり方についても議論する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
一週間の観光分野での新しいニュースを各自準備・発表する（３０分)。授業後のレポート作成（３０分)。

〔授業計画〕
第 1 回　世界と日本における観光の状況
第 2 回　観光ビジネスの現状と未来戦略
第 3 回　旅行業ビジネス
第 4 回　インバウンドビジネス
第 5 回　MICEビジネス
第 6 回　産業ツーリズムビジネス
第 7 回　エコツーリズムビジネス
第 8 回　カルチャービジネス
第 9 回　宿泊ビジネス
第 10 回　運送ビジネス
第 11 回　まちづくりと観光
第 12 回　レジャー観光ビジネス

第 13 回　飲食・土産観光ビジネス
第 14 回　教育・文化ビジネス
第 15 回　IRビジネス
〔成績評価〕
講義時に適宜課題を与えて小論文にまとめる。加えて、授業時の積極的な提言や発言も参考としながら定期試験の評価を併せて行う。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
『国際観光入門』松本達也（高文堂出版社）
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

演習Ⅰ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学発育発達に関する研究】

8350
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
石川　　峻

〔到達目標〕
１）研究内容や研究方法を理解し、実施できる。
２）他者と協力しながら積極的に課題の解決に取り組める。
３）結果や自身の考えを論理的にまとめ、他者に分かりやすく伝えることができる。
〔授業の概要〕
健康、スポーツ分野での調査、測定、分析、発育・発達段階での育成法や課題等の調査、分析を行う。そして結果の考察や発表、ディスカッション等を通して自身の知見を深めるとともに、それらにより得られた知識を用いたコーチング法や、スポーツ観の確立を目指す。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業外でのレポート（4時間）
パワーポイント資料作成（4時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の概要や進め方、受講上の注意事項、評価方法等について
第 2 回　プレゼンテーション・スキル①
　　自己紹介の実施
第 3 回　プレゼンテーション・スキル②
　　各スポーツの歴史の紹介①
第 4 回　プレゼンテーション・スキル③
　　各スポーツの歴史の紹介②
第 5 回　スポーツ交流
　　スポーツでの交流を通してスポーツの意義、価値を考える
第 6 回　ジュニア期の育成①
　　日本における育成システム
第 7 回　ジュニア期の育成②
　　海外の事例について
第 8 回　ディベート
　　地域か学校か
第 9 回　スモールサイドゲーム①
　　スモールサイドゲームとは何か
第 10 回　スモールサイドゲームの実験①
　　人数、コートの大きさ、ルールを工夫したゲームの実施
第 11 回　スモールサイドゲームの実験②
　　人数、コートの大きさ、ルールを工夫したゲームの実施
第 12 回　データ分析
　　データ処置の方法
第 13 回　実験のまとめ①
　　心拍数、触球数等の分析
第 14 回　実験のまとめ②
　　心拍数、触球数等の分析
第 15 回　グループ発表
　　各グループの発表、ディスカッション
〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　30%
授業内発表　30%
授業内外レポート　40%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
水曜１限、２限

演習Ⅰ【地域スポーツ・スポーツ指導に関する研究】

8351
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
金　　相煥

〔到達目標〕
スポーツの本質を多面的な分野から研究し、分析をする。また、地域スポーツにおけるスポーツ観の発展性を理解し、スポーツがもたらす社会的・文化的背景を比較・検証し知見を深めていくことを目指す。
〔授業の概要〕
・スポーツに関する教本や資料・論文を熟読する
・スポーツの本質を求める演習を目指す。
・テーマを決め、仲間と意見交換をするプレゼンテーショ

ンは勿論、映像を用いての試合分析、分析ビデオの作成を行いながらコーチング技術の習得を目指す。
・毎週の授業に加えて、試合観戦や練習観戦、スポーツ現場での実践（スクール運営・指導補助）等を研修の一環とし「現場を体験し、本物を知る」といった学外活動への参加も積極的に行う。
・スポーツや健康の分野などにとらわれず疑問、問題点など興味あるテーマを設定し、調査、研究する

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
第1回：特になし
第2～14回：前回授業への取り組みと復讐
15回：復習
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　前期の計画、自己紹介
第 2 回　指導者について
　　これまでに出会った指導者について
第 3 回　論文について
　　レポートと論文の違いについて学ぶ
第 4 回　グループ調査1
　　グループに分かれて関心あるテーマを決める
第 5 回　グループ調査2
　　調査方法と役割分担を明確化する
第 6 回　グループ調査3
　　テーマに沿ってグループ別調査
第 7 回　グループ調査4
　　グループ別レジュメの作成
第 8 回　グループ調査5
　　グループ別発表準備
第 9 回　プレゼンテーション1
　　グループ別発表
第 10 回　プレゼンテーション2
　　グループ別発表
第 11 回　プレゼンテーション3
　　グループ別発表
第 12 回　プレゼンテーション4
　　グループ別発表
第 13 回　プレゼンテーション5
　　グループ別発表
第 14 回　プレゼンテーション6
　　グループ別発表
第 15 回　前期まとめ
　　前期の反省点を確認し、後期に備える
〔成績評価〕
プレゼンテーション30％、小論文・学外活動50％、調査研究20％
〔教科書〕
必要に応じて資料を提供する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
① 前期・後期共通
② 木曜日：14：30～15：30
③ 場所：金相煥研究室
④ 連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください

演習Ⅰ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学、ｽﾎﾟｰﾂ指導に関する研究】

8358
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　前期
青木　敦英

〔到達目標〕
本演習では、健康やスポーツに関わる分野において調査・測定・分析を行い、得られた結果をもとに新しいスポーツの指導方法や健康・スポーツに関する知見を深めていくことを目的としている。
〔授業の概要〕
卒業論文作成に向けて論文作成に関わる基本事項を学習するとともに、自身のテーマを設定するにあたって様々な知見を広げる取り組みや活動を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
PCの操作に関する技能は必須となるので、早めに習熟することが望ましい。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　内容、方針について
第 2 回　論文についての基礎理解①
　　感想文やレポートと卒業論群の違いについて
第 3 回　論文についての基礎理解②
　　グループワークによる実習：論理的な検証とは？
第 4 回　論文についての基礎理解③
　　研究手順と論文の構成について
第 5 回　論文についての基礎理解④
　　先行研究の調査方法について
第 6 回　論文についての基礎理解⑤
　　先行研究の内容をまとめる
第 7 回　論文についての基礎理解⑥
　　先行研究の内容を発表
第 8 回　論文についての基礎理解⑦
　　先行研究、文献を整理する
第 9 回　論文についての基礎理解⑦
　　論文らしい文章表現について
第 10 回　論文作成のためのＰＣ操作演習①
　　データの入力とグラフ作成
第 11 回　論文作成のためのＰＣ操作演習②
　　データの分析（統計処理）
第 12 回　論文作成のためのＰＣ操作演習③
　　発表のためのパワーポイント作成
第 13 回　論文作成のためのＰＣ操作演習④
　　パワーポイントを用いた模擬研究発表

第 14 回　最近の研究に関するトピック
　　トレーニング科学、健康科学分野における最新の研究について
第 15 回　まとめ
　　前期で学習した内容についてレポート作成

〔成績評価〕

学習意欲と取り組み（50%）、レポート作成（50%）を中心に評価を行う。

〔教科書〕

適宜プリントを配布します

〔参考文献〕

出村慎一・山次俊介 「健康/スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」杏林書院

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

演習Ⅰ【学校教育やｽﾎﾟｰﾂ指導に関する研究】

8364
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　前期
中村　光男

〔到達目標〕

本演習では、保健体育を中心とする学校教育活動全般、スポーツに関わる分野において調査・測定・分析を行い、得られた結果をもとに学校教育活動やスポーツの分野においての知見を深めるとともに今後それぞれの分野で実践できるようにすることを目的とする。さらにアクティブラーニングによる授業で、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うとともに人間関係力を備えた人間力を育成することを目的とする。

〔授業の概要〕

・ 自分自身を理解し、将来の目標を設定し、そのために必要な人間力を身につける。
・ 新聞情報により社会情勢を知り、意見交換を通して自分の考えを整理する。
・ スピーチ、ディスカッション等によりコミュニケーション能力やプレゼン能力を養う。
・ レポート作成について学ぶ。
・ 自由研究をし、その発表をする。
・ 卒業論文の研究テーマを探る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

「自由研究発表の準備をする。」「授業で学んだことを日常生活で実践する。」など

〔授業計画〕

第 1 回　授業の進め方・顔合わせ
　　1．自己紹介１分間スピーチ　2．交流会
　　※１分間スピーチ・新聞記事を読み意見交換・Aドリルの活用・レポート提出(毎回実施)
第 2 回　スピーチⅠ
　　1．自己紹介ワークⅠ　2．自己分析Ⅰ
第 3 回　スピーチⅡ
　　1．自己紹介ワークⅡ　2．自己分析Ⅱ
第 4 回　傾聴について考えるⅠ
　　1．良い聴き方のワークⅠ　2．自己分析Ⅲ
第 5 回　傾聴について考えるⅡ
　　1．良い聴き方のワークⅡ　2．自己PRⅠ
第 6 回　人生について考えるⅠ
　　1．「君たちに伝えたい幸せの法則」とは　意見交換　2．自己PRⅡ
第 7 回　人生について考えるⅡ
　　1．羽生結弦（はにゅうゆずる）の人間性を鍛えることば　意見交換　2．将来の目標Ⅰ
第 8 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅠ
　　1．自分が付きたい仕事について考えるⅠ（仕事内容・募集要項・応募フォーム）　2．将来の目標Ⅱ
第 9 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅡ
　　1．自分が付きたい仕事について考えるⅡ（仕事内容・募集要項・応募フォーム）　2．エントリーシート等の作成Ⅰ
第 10 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅢ
　　1．エントリーシート等の作成Ⅱ　2．自己ＰＲ、志望動機Ⅰ　チーム内プレゼン→感想、意見交換
第 11 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅣ
　　1．エントリーシート等の作成Ⅲ　2．自己ＰＲ、志望動機Ⅱ　「Ｑ＆Ａ」の作成
第 12 回　ディスカッションⅠ
　　1．新聞記事等をテーマにディベートⅠ
第 13 回　ディスカッションⅡ
　　1．新聞記事等をテーマにディベートⅡ
第 14 回　プレゼンテーションⅠ
　　1．卒論の理解を深め、テーマについて考えるⅠ　2．自分の好きなスポーツについて調べてプレゼンテーションをするⅠ
第 15 回　プレゼンテーションⅡ
　　1．卒論の理解を深め、テーマについて考えるⅡ　2．自分の好きなスポーツについて調べてプレゼンテーションをするⅡ

〔成績評価〕

日常の授業準備や授業中における意見、質問などの積極的姿勢(50%)、レポートなどの提出物や発表内容(50%)など併せて総合的に評価します。授業への積極的姿勢と発表内容は、評価に大きく影響するので真剣に取り組んでください。

〔教科書〕

「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕

「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①通年　②月・金曜日：午前10時30分～午前11時30分　③場所：本館4階研究室　④連絡先：090-1595-6206　m-nakamura@ashiya-u.ac.jpで質問・相談してください。 ⑤その他：来室の際は、事前にアポイントメントを取ること。

演習Ⅱ【教育心理学演習】

8426
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
三浦　正樹

〔到達目標〕
各自のテーマに沿った教育心理学の論文作成
〔授業の概要〕
論文の書き方、特に心理学論文の書き方について指導する。各自のテーマが決まったら、テーマに沿った論文作成計画を立て卒論指導を行っていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テーマに沿った文献をまとめる
〔授業計画〕
第 1 回　論文とは
　　論文作成の仕方
第 2 回　実験計画１
第 3 回　実験計画２
第 4 回　テーマの設定１
第 5 回　テーマの設定２
第 6 回　文研研究１
第 7 回　文研研究２
第 8 回　仮説の立て方
第 9 回　方法論１
第 10 回　方法論2
第 11 回　結果分析１
第 12 回　結果分析
第 13 回　図表のまとめ方
第 14 回　考察の仕方
第 15 回　プレゼンテーションの仕方
〔成績評価〕
期末レポート100％
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

演習Ⅱ【ｽﾎﾟｰﾂ（ｻｯｶｰ）】

8432
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
金　相煥

〔到達目標〕
スポーツの本質を多面的な分野から研究し、分析をする。また、地域スポーツにおけるスポーツ観の発展性を理解し、スポーツがもたらす社会的・文化的背景を比較・検証し知見を深めていくことを目指す
〔授業の概要〕
3年（前期・後期）の実施内容を継続する。
・スポーツに関する教本や資料・論文を熟読する
・スポーツの本質を求める演習を目指す。
・テーマを決め、仲間と意見交換をするプレゼンテーションは勿論、映像を用いての試合分析、分析ビデオの作成を行いながらコーチング技術の習得を目指す。
・毎週の授業に加えて、試合観戦や練習観戦、スポーツ現場での実践（スクール運営・指導補助）等を研修の一環とし「現場を体験し、本物を知る」といった学外活動への参加も積極的に行う。
・各個人の研究テーマを前期に決定し、資料収集の整理、分析し論文作成に入る

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
第1回：特になし
第2～14回：前回授業への取り組みと復讐
15回：復習
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　年間計画について
第 2 回　卒論テーマの決定1
　　3年時の専門演習の論文分析
第 3 回　卒論テーマの決定2
　　3年時の内容を踏まえテーマの再考
第 4 回　卒論テーマの決定3
　　テーマを決定する
第 5 回　研究方法
　　研究方法の検討と計画
第 6 回　資料の収集1
　　テーマに関する先行研究の収集と整理
第 7 回　資料の収集2
　　テーマに関する先行研究の収集と整理
第 8 回　資料の収集3
　　テーマに関する先行研究の収集と整理
第 9 回　資料の収集4
　　テーマに関する先行研究の収集と整理
第 10 回　収集資料の分析1

テーマに関する資料の分析
第 11 回　収集資料の分析2
テーマに関する資料の分析
第 12 回　収集資料の分析3
テーマに関する資料の分析
第 13 回　収集資料の分析4
テーマに関する資料の分析
第 14 回　収集資料の分析5
テーマに関する資料の分析
第 15 回　前期のまとめ

〔成績評価〕

プレゼンテーション30%、小論文・学外活動50%、調査研究20%

〔教科書〕

必要に応じて資料を提供する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

① 前期・後期共通
② 木曜日：14：30～15：30
③ 場所：金相煥研究室
④ 連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください

演習Ⅱ【近代日本史研究】

8433
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
三羽　光彦

〔到達目標〕

この演習は4年生を対象としています。内容は、①卒業論文の研究と指導、②就職活動の指導、です。卒論の完成と就職の実現に向けて頑張りましょう。

〔授業の概要〕

各回、参加者の卒業論文のテーマにそって、論文作成の指導を行います。またあわせて就職指導などキャリアガイダンスも行います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

図書館での文献調査や地域でのフィールド調査を自主的に行うこと。

〔授業計画〕

第 1 回　論文の書き方　1
テーマの設定について。
第 2 回　論文の書き方　2
論文とは何か。
第 3 回　論文の書き方　3
文献の探し方。
第 4 回　論文の書き方　4
資料収集について。
第 5 回　論文の書き方　5
文献・書物の読み方。
第 6 回　論文の書き方　6
仮説と実証について。
第 7 回　論文の書き方　7
質的研究と量的研究。
第 8 回　論文の書き方　8
データの収集について。
第 9 回　論文の書き方　9
研究倫理について。
第 10 回　論文の書き方　10
章節構成について。
第 11 回　論文の書き方　11
語彙と文章について。
第 12 回　論文の書き方　12
発表について。
第 13 回　キャリアガイダンス　1
自己認識について。
第 14 回　キャリアガイダンス　2
企業研究について。
第 15 回　まとめ
全体を通じて個別に指導する時間を設けます。

〔成績評価〕

レポート（100点）によって評価する。

〔教科書〕

特に設けない。

〔参考文献〕

授業中に適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

あらかじめ受講許可者のみ受講可。

〔オフィスアワー〕

水曜日12時30分から14時まで。できればあらかじめアポをとってください。

演習Ⅱ【日本文化史】

8438
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
杉島　威一郎

〔到達目標〕

卒業論文のテーマを確定し、章立てを決める。

〔授業の概要〕

題目や章立てを作成する。論文を書き始める。前期終わりにはゼミ内で途中経過を発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

毎時、指定図書を通読する。(2時間)
卒業論文の問題点を指摘するので、次回までに修正をする。(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス

授業の進め方、受講上の注意、評価方法について
第 2 回　卒業論文のテーマ設定①
卒業論文のテーマについて検討
第 3 回　卒業論文のテーマ設定②
卒業論文のテーマを決定
第 4 回　卒業論文の章立て
卒業論文の章立てを検討する
第 5 回　参考資料の検討①
参考資料を集める
第 6 回　参考資料の検討②
参考資料を集める
第 7 回　参考資料の読解①
参考資料を読み解く
第 8 回　参考資料の読解②
参考資料を読み解く
第 9 回　先行学説の比較①
読解した先行学説を比較検討する
第 10 回　先行学説の比較②
読解した先行学説を比較検討する
第 11 回　卒業論文の作成①
卒業論文を書く
第 12 回　卒業論文の作成②
卒業論文を書き進める
第 13 回　卒業論文の作成③
卒業論文を書き進める
第 14 回　卒論発表の作成④
卒業論文を書き進める
第 15 回　まとめ
卒業論文の進捗状況を確認し、夏季休暇の課題、後期の進め方を検討する。

〔成績評価〕
卒業論文の進捗を評価する。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

演習Ⅱ【日本武道】

8445
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
西光　哲治

〔到達目標〕
武道について幅広く科学的に分析したことを討議できる。文献講読を通じて、論理的・科学的に分析する力を身につけたことを説明できる。
〔授業の概要〕
論文作成に必要な知識や情報を収集させる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・武道に関する書物を探して読むこと(2時間)
・テーマに関する資料収集し整理しておくこと(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・これまでの卒業生の取り組みの紹介
過去の卒業生の論文紹介(良い論文・粗末な論文)
第 2 回　卒業論文のテーマ設定について
テーマ設定にあたっては、問題意識を持ったテーマ、大きすぎない限定的なテーマ、過去に誰もやってない研究、話題性のある研究など鑑みて設定しなければならないことを理解させる。
第 3 回　先行研究の検討について
自分が行う研究がその分野でどの位置にあるかや同じ研究として被さっていないか、あるいは同じ分野でもまだ研究されていない内容を把握するため先行研究が必要であることを理解させる。パソコンにて先行研究とは何か調べさせる。
第 4 回　各自の研究目的の明確化
論文では研究を始めるに至った問題意識を整理し、その上でその研究の目的を明確にすることが必要。研究テーマにおける問題意識とは何か、そしてそれに対する目的とは何かについて考えさせ発表させる。
第 5 回　研究方法について
研究方法や調査・実験方法を各自発表させる。周囲の者にそれを聞いてもらい研究方法と調査・実験に矛盾や不備がないか確認させる。
第 6 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ収集)
パソコンにてCinii・Webcat plua・統計データポータプルサイト検索などで必要な情報収集作業をさせる。
第 7 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ収集)
パソコンにてCinii・Webcat plua・統計データポータプルサイト検索などで必要な情報収集作業をさせる。
第 8 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ収集)
パソコンにてCinii・Webcat plua・統計データポータプルサイト検索などで収集した資料・データを整理させる。

第 9 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ収集)
自己のテーマに関するキーワード見つけ、そのキーワードをもとに図書館に行って何冊か似たような本を探させる。
第 10 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ収集)
前回と同じく自己のテーマに関するキーワード見つけ、そのキーワードをもとに図書館に行って何冊か似たような本を探させる。
第 11 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ整理)
パソコンにてCinii・Webcat plua・統計データポータプルサイト検索や書籍などで収集した資料・データを整理させる。
第 12 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ整理)
パソコンにてCinii・Webcat plua・統計データポータプルサイト検索や書籍などで収集した資料・データを整理させる。
第 13 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ考察)
Cinii・Webcat plua・統計データポータプルサイト検索や書籍などで収集した資料・データを基に考察させる。
第 14 回　テーマに基づく研究推進(資料・データ考察)
Cinii・Webcat plua・統計データポータプルサイト検索や書籍などで収集した資料・データを基に考察させる。
第 15 回　中間発表
各自、研究経過を報告させる。

〔成績評価〕
授業への取組む姿勢(50%)
レポート作成(50%)

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②木曜日　10:00～11:30
③場所：西光研究室(福山記念館 1 階)
④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

演習Ⅱ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学、スポーツ指導に関する研究】

8458
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
青木　敦英

〔到達目標〕
3年次で決定した研究テーマについて、学習した論文作成についての知識を生かして、論文作成のためのデータ収集、測定を行いデータの分析、論文の執筆につなげていく。

〔授業の概要〕
データの収集、測定にあたって、被験者の設定、データ収集の方法、測定内容、トレーニング期間の設定など、自身の研究仮説を実証できる方法の設定について吟味する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
データの収集、測定にあたってはクラブ員やゼミの仲間等の協力が必要となります。協力していただけるような場作りを事前に行ってください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本講義の内容、評価について
第 2 回　研究方法の確認①
研究のアウトラインと研究デザインの設定
第 3 回　研究方法の確認②
研究の限界について
第 4 回　研究計画
被験者、測定内容等について具体的に検討
第 5 回　データの収集、測定①
検者としての準備、注意点の確認
第 6 回　データの収集、測定②
アンケートによるデータ収集
第 7 回　データの収集、測定③
様々な器具を用いた測定
第 8 回　データの収集、測定④
図書館、インターネットを利用した資料の収集
第 9 回　収集したデータの分析①
データのパソコンへの入力のコツ
第 10 回　収集したデータの分析②
図表の作成のコツとポイント
第 11 回　収集したデータの分析③
統計的手法を用いた解析方法について
第 12 回　発表のための準備①
パワーポイントによる発表のスライド作成→基本操作の理解
第 13 回　発表のための準備②
パワーポイントによる発表のスライド作成→スライド作成のコツとポイント
第 14 回　発表のための準備③
スライドの完成、発表の練習
第 15 回　卒業論文中間発表
目的と方法についてプレゼンテーションを行う

〔成績評価〕
学習意欲と取り組み（50%）、中間発表（50%）を中心に評価を行う。
〔教科書〕
適宜プリントを配布します
〔参考文献〕
出村慎一・山次俊介 「健康/スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」杏林書院
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00〜11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

演習Ⅱ【学校教育やｽﾎﾟｰﾂ指導に関する研究】

8459
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
中村　光男

〔到達目標〕
本演習では、保健体育を中心とする学校教育活動全般、スポーツに関わる分野において調査・測定・分析を行い、得られた結果をもとに学校教育活動やスポーツの分野においての知見を深めるとともに今後それぞれの分野で実践できるようにすることを目的とする。さらにアクティブラーニングによる授業で、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うとともに人間関係力を備えた人間力を育成することを目的とする。
〔授業の概要〕
・ 自分自身を理解し、将来の目標を設定し、そのために必要な人間力を身につける。
・ 新聞情報により社会情勢を知り、自分の考えを整理する。
・ スピーチ、ディスカッション等によりコミュニケーション能力やプレゼン能力を養う。
・　自分の進路について考え、進路決定をする。
・ 卒業論文を作成する。(個別指導が中心の授業を実施する。)
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「卒業論文作成のための準備をする。」「授業で学んだことを日常生活で実践する。」など
〔授業計画〕
第 1 回　授業の進め方
　　１．４回生の豊富についてスピーチ　２．卒論、就活について
　　※１分間スピーチ・新聞記事を読み意見交換・Aドリルの活用・レポート提出(毎回実施)
第 2 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅠ
　　１．卒論とはⅠ　２．自己PR・志望動機・履歴書作成Ⅰ　３．コミュニケーショントレーニングⅠ
第 3 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅡ
　　１．卒論とはⅡ　２．自己PR・志望動機・履歴書作成Ⅱ　３．コミュニケーショントレーニングⅡ
第 4 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅢ
　　１．卒論テーマ・序論作成Ⅰ　２．自己PR・志望動機・履歴書作成Ⅲ　３．コミュニケーショントレーニングⅢ
第 5 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅣ
　　１．卒論テーマ・序論作成Ⅱ　２．面接練習Ⅰ　３．コミュニケーショントレーニングⅣ
第 6 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅤ
　　１．卒論テーマ・序論作成Ⅲ　２．面接練習Ⅱ　３．コミュニケーショントレーニングⅤ
第 7 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅥ
　　１．卒論テーマ・序論作成Ⅳ　２．面接練習Ⅲ　３．コミュニケーショントレーニングⅥ
第 8 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅦ
　　１．卒論作成方法Ⅰ　２．面接練習Ⅳ　３．コミュニケーショントレーニングⅦ
第 9 回　自分の将来の夢実現へ向けてⅧ
　　１．卒論作成方法Ⅱ　２．集団面接Ⅰ　３．コミュニケーショントレーニングⅧ
第 10 回　卒業論文作成Ⅰ
　　１．卒論調査・研究Ⅰ　２．集団面接Ⅱ　３．コミュニケーショントレーニングⅨ
第 11 回　卒業論文作成Ⅱ
　　１．卒論調査・研究Ⅱ　２．集団面接Ⅲ　３．コミュニケーショントレーニングⅩ
第 12 回　卒業論文作成Ⅲ
　　１．卒論調査・研究Ⅲ　２．集団討論Ⅰ　３．コミュニケーショントレーニングⅪ
第 13 回　卒業論文作成Ⅳ
　　１．卒論調査・研究Ⅳ　２．集団討論Ⅱ　３．コミュニケーショントレーニングⅫ
第 14 回　卒業論文作成Ⅴ
　　１．卒論調査・研究Ⅴ　２．集団討論Ⅲ
第 15 回　前期のまとめと今後について
　　卒論調査・研究、就活状況等の前期の振り返りと今後について
〔成績評価〕
日常の授業準備や授業中における意見、質問などの積極的姿勢(50%)、レポートなどの提出物や発表内容(50%)、と併せて総合的に評価します。授業への積極的姿勢と発表内容は、評価に影響するので真剣に取り組んでください。
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①通年　②月・金曜日：午前10時30分～午前11時30分　③場所：本館4階研究室　④連絡先：090-1595-6206　m-nakamura@ashiya-u.ac.jpで質問・相談してください。 ⑤その他：来室の際は、事前にアポイントメントを取ること。

演習Ⅱ【英米文化理解】

8460
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
中田　　智也

〔到達目標〕
英語に関する文化的事象からテーマを定め、そのテーマに関わる資料・文献の収集、読解、研究を経て、自分の意見を構築し、卒業論文のアウトライン（輪郭）を作る。
〔授業の概要〕
前期の終わりには卒業論文のアウトライン（輪郭）ができていることを目標に、次のようなことを総合的に学ぶ。
①テーマに関わる資料・文献を収集すること
②集めた資料・文献を理解し、研究し、整理すること
③ ②をもとに自分の意見を考え、吟味し、深めること
④論文における実質的な文章の書き方（引用の仕方や参考文献の書き方などを含む）
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文の執筆において授業は、方向づけ、軌道修正の指針、ペースメーカーという位置付けになる。卒業論文を完成させるには、各自の日々の努力、取り組みが不可欠となる。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
前期中に卒業論文のアウトラインを作る作業工程を理解する。
第 2 回　テーマの設定①
英語に関係することで、興味・関心のあることの理解を深め、卒業論文のテーマを設定する。
第 3 回　テーマの設定②
英語に関係することで、興味・関心のあることの理解を深め、卒業論文のテーマを設定する。
第 4 回　資料・文献の収集とその方法①
設定したテーマに関わる資料・文献の収集方法を学び、実際に収集作業を行う。
第 5 回　資料・文献の収集とその方法②
設定したテーマに関わる資料・文献の収集方法を学び、実際に収集作業を行う。
第 6 回　重要参考文献の要旨①
収集した資料・文献の中から、論文を書く上で重要なものを選定し、その要旨をまとめる。
第 7 回　重要参考文献の要旨②
収集した資料・文献の中から、論文を書く上で重要なものを選定し、その要旨をまとめる。
第 8 回　重要参考文献の要旨（発表）①
重要参考文献の要旨を発表し、ディスカッションを行い、さらに問題意識を深める。
第 9 回　重要参考文献の要旨（発表）②
重要参考文献の要旨を発表し、ディスカッションを行い、さらに問題意識を深める。
第 10 回　「問い」の設定①
論文全体を貫く「問い」を設定する。この「問い」に対する自分の意見・解答を論証することが論文の中心になる。
第 11 回　「問い」の設定②
論文全体を貫く「問い」を設定する。この「問い」に対する自分の意見・解答を論証することが論文の中心になる。
第 12 回　「問い」に対する既存の意見①
前回までに設定した「問い」に対する既存の意見、既存の解答を考察する。
第 13 回　「問い」に対する既存の意見②
前回までに設定した「問い」に対する既存の意見、既存の解答を考察する。
第 14 回　「問い」に対する自分の意見①
「問い」に対する既存の意見、既存の解答の批判的考察を経て、自分の意見、解答を提示する。
第 15 回　「問い」に対する自分の意見②
「問い」に対する既存の意見、既存の解答の批判的考察を経て、自分の意見、解答を提示する。
〔成績評価〕
毎回の授業への取り組み（アウトライン作成に向けて正確にステップを踏んでいるかどうか）：50%
最終的に提出した卒業論文：50%
〔教科書〕
適宜紹介
〔参考文献〕
「学生便覧」の「卒業論文について」を必ず読んでおくこと。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
質問・相談などは授業終了後か、Phollyの「メッセージ」で受け付けます。

演習Ⅱ【国際ビジネス】

8469
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
松本　　達也

〔到達目標〕
前年度である程度研究課題を発見した上で、更に深く問題点を追及する。初稿作成のため、徹底的な論文指導・添削作業に入る

〔授業の概要〕
各自の課題について学習者らと意見交換を行うと共に、基本的な論文作成指導も行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習として毎回小論文（学習者が関心のあるテーマを選択）の発表を行うと共に議論する
〔授業計画〕
第 1 回　アジアダイナミズム
　　アジアにおける日本の位置
第 2 回　日本の人口構造
　　成熟化と産業構造
第 3 回　観光立国
　　基盤インフラトシテノ総合交通体系の整備
第 4 回　移動と交流
　　観光を支える哲学
第 5 回　創造的観光
　　日本に引き付ける魅力はあるか
第 6 回　真のIR戦略とは何か
　　カジノ問題と世界の現状
第 7 回　日本経済が直面する課題
　　貿易収支、工業生産力、少子高齢
第 8 回　観光立国の試み
　　地域活性化のキーワード
第 9 回　世界の事例
　　ツーリズムの多様性。シンガポール、オランダ、フランスなど
第 10 回　産業としての観光戦略
　　製造業の限界
第 11 回　統合型リゾート構想
　　先進各国の状況
第 12 回　アジアダイナミズムへの対応
　　アジアの人口・経済規模の動向
第 13 回　日本の人口推移と将来予測
　　日本の産業構造の変化と今後のr対応
第 14 回　総合交通体系
　　交通ネットワークの高速化と高度化
第 15 回　移動と交流
　　人の進化。経済の活性化
〔成績評価〕
毎回提出し発表する小論文や最後の試験（レポート作成）を加味しながら、授業時の積極的な発表等も考慮する
〔教科書〕
各種白書など
〔参考文献〕
し特にない
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

放送教育Ⅱ

3403
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西光　晴彦

〔到達目標〕
・放送メディアの基礎的な理解をする。
・放送メディアの問題点を知る。
・放送メディアと法律・行政との関係を知る。
・放送メディアの教育への更なる応用の可能性を考察する。
〔授業の概要〕
教育における放送利用の実情、未来像などについて、実例をもとに分かりやすく、かつ具体的に描き出す。なお、自ら学び、他者と積極的に意見交換するなど、能動的な学びを取り入れる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　授業方針のガイダンス
　　後期授業方針、評価方針の説明と確認
第 2 回　放送の現状と課題（法的問題点）
　　法規範とメディアの関係
第 3 回　放送の課題と現状（行政、特に国家権力との関係における問題点）
　　法規範とメディアの関係
第 4 回　放送の課題と現状（市民のアクセス権とメディアスクラムをめぐる今日的問題）
　　放送法の目的、効果
第 5 回　市民社会における放送の役割と可能性
　　メディアが市民社会への可能性具体的番組視聴
第 6 回　視聴番組をめぐる問題と具体的番組視聴
　　メディアが市民社会に敵対する可能性
第 7 回　視聴番組の改善点について
　　放送番組制作の潜在的可能性を探る
第 8 回　放送の教育への応用（総論）
　　実際に行われている放送教育の素材を使用
第 9 回　放送の教育への応用（各論）
　　その潜在的可能性を知る
第 10 回　放送の教育への応用
　　その潜在的可能性を知る
第 11 回　放送環境と法（憲法）
　　現代日本の法システムを概観
第 12 回　放送環境と法（公法）
　　メディア全般をコントロールするもの
第 13 回　放送環境と法（私法）
　　自主規制と視聴者からの改善申告
第 14 回　放送教育総括
　　現代社会における存在意義、未来の可能性
第 15 回　まとめ
　　年間授業の総括を行う

〔成績評価〕
小テスト20%
その他平常点10%
定期試験70%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
水曜日11：00～11：30

視聴覚教育Ⅱ

4320
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西光　　晴彦

〔到達目標〕
・視聴覚教育の現状と課題について知る。
・視聴覚教育の今後の在り方について考察できる。
・生涯学習としての視聴覚教育について考察できる。
〔授業の概要〕
現代の子ども達は、技術革新により急激に発達した情報化社会の中で生活している。
マスメディアから発信される情報が子ども達に与えてきた影響を研究してゆく。そのために受講学生に毎授業終了から１週間のマスメディアの報道を興味深く観察させ次講義時に発表させ受講学生間で議論させる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　放送教育①
　　放送教育の沿革と放送局の種類・放送局の内容別区分
第 2 回　放送教育②
　　放送教育の特性と放送局の配置とネットワーク
第 3 回　教育放送番組の開始と発達
　　放送教育の歴史と背景社会情勢と放送開始
第 4 回　学校放送番組の利用
　　テレビ・ラジオ教材と他の視聴覚教材の違い
第 5 回　放送教育の今後の展開
　　録画機器の普及、教師の教材感の変化、放送以外の優れた教育メディアの出現
第 6 回　教授活動のモデルと教育機器
　　学習者の学習を効果的に成立させる様々な活動
第 7 回　コマーシャルメッセージ①
　　我が国のＣＭの歴史
第 8 回　コマーシャルメッセージ②
　　ＣＭに関する規定(時間制限・内容制限等)
第 9 回　コマーシャルメッセージ③
　　特殊なＣＭ・効果のあるＣＭ
第 10 回　生涯教育と視聴覚教育①
　　生涯教育の考え方と定義「生涯学習意欲向上のための視聴覚教育」
第 11 回　生涯教育と視聴覚教育②
　　日常生活における視聴覚メディアの利用
第 12 回　生涯教育と視聴覚教育③
　　生涯学習における視聴覚メディアの利用
第 13 回　生涯教育と視聴覚教育④
　　生涯教育とメディア活用能力の開発
第 14 回　視聴覚教育の新しい展開
　　総括としての「視聴覚教育の新しい展開」の討議
第 15 回　試験範囲の確認
　　重要ポイントの復習・告知
〔成績評価〕
その他平常点10%
小テスト20%
定期試験70%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日11：30～12：00

教育方法の文学

5299
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
白江　　恒夫

〔到達目標〕
東洋（古代中国）における教育方法の古典「学記」をテキストとして、
・「学記」の訓読（日本語読み）ができる。
・「学記」の読解ができる。
・「学記」の内容説明ができる。
・現代の教育方法との比較ができる。
〔授業の概要〕
・東洋（古代中国）の教育とその方法を記した『礼記＜ライキ＞』巻十八の「学記」を扱う。
・原典が漢文なので、これを訓読文（日本語による書き下し文）に直す。
・訓読した文章を、小項目に分けて読解（内容理解）する。
・現代の教育方法と比較して、通用するものとしないものとを識別する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・原典の本文と訓読文を提供するので、訓読文をノートに自筆書写する。（予習１時間）
・授業中に行なった本文と古注の説明をノートに清書する。（復習1.5時間）
〔授業計画〕
第 1 回　四書五経について。
・奈良時代以来、日本の政治、文化、教育に大きな影響を与えた儒教の経典である四書五経について概説する。
第 2 回　『礼記』所収の「大学」と「学記」。
・『礼記』の各一編である「大学」と「学記」との関係について。
第 3 回　「大学」教育の綱領。
・学問教育の必要性と目的について。
第 4 回　古代中国の教育機関。
・家に塾あり。党にショウあり。術に序あり。国に学あり。
第 5 回　教えの大倫七ヶ条。
１、学問を敬するを示す。２、始めを官にする。３、学業に恭順ならしめる。
４、威儀を整える。５、余裕を与えてのびやかにする。６、時を得た教育をする。７、教えの程度を越えない。
第 6 回　正業と居学。
・大学教育の正課と自宅学習について。
・蔵修の学問と息遊の学問との関係。
第 7 回　今（当時）の教育の批判。
・教科書を読み上げて難問を多くし、言が多岐に渡る。
・学習範囲を広めて急ぎ、学生の習熟を顧みない。
・学生の個性・才能を尽くさない。etc。
第 8 回　四法ー教授法の四つの方法ー。
・予法、時法、孫法、摩法について。
・四法の教育効果。
第 9 回　四法の逆の方法。
・四法の逆の教授法と、その教育効果。
第 10 回　師のあるべき姿。
・教えの由りて興る所を知る。
・教えの由りて廃する所を知る。
第 11 回　師のとるべき方法。
・道〈みちひ〉きて牽〈ひ〉かず。
・強〈つと〉めしめて抑〈お〉さず。
・開きて達せず。
第 12 回　学生の四つの偏り。
・多きに失す。　・寡〈すくな〉きに失す。
・易きに失す。　・止るに失す。
第 13 回　学問教育と政治との関連。
・学に至るの難易を知り、その美悪を知る。
・よく博く喩してよく師となり、よく長となりよく君となる。
第 14 回　師の尊厳性。
・師を厳にして道尊し。道尊くして後に、民、学を敬するを知る。
・大学の礼は、天子は北面し、師は南面する。「天子に詔〈つ〉ぐと雖も北面すること無し。」。
第 15 回　実際教育上の技術。
・易しい所を先にし、難しい所を後にする。
・質問規模の大小に応じて答える。
・初めは問う所に応じて答え、やがては大切な問題に導く。
定期考査。
〔成績評価〕
・定期考査（筆記試験又はレポート提出）で評価する（100%）。
・再試験は行わない。
〔教科書〕
・授業中に適宜プリント資料を配付する。
〔参考文献〕
・漢文大系『礼記』（冨山房）。
・新版漢語林（大修館書店）。
・国語辞典。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
・質問等は、各講義後に受け付ける。

生理学

1208
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
渡　康彦

〔到達目標〕
ほとんどの生物が持っている体内時計とはどのようなものなのかを解釈する。
様々な生物での体内時計の性質や人の睡眠と体内時計の重要な関係を説明できる。
〔授業の概要〕
体内時計の重要な３つの性質、周期性、温度補償性、同調、そして、いろんな生物の時計のありかについて説明し、時計が実際に使われている様々な生物の事例について概説し、人と体内時計の関係、とくに睡眠における重要性を述べる。学習者同士で話し合い、意見をまとめ発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布プリントを見直す（120分）
プリントでわからないこと、興味のあることなどを調べる（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　はじめに
生理学でどのようなことを学ぶかについて知る。
第 2 回　体内時計の性質（１）
体内時計の周期性、温度補償性について考える。
第 3 回　体内時計の性質（２）
体内時計の環境とくに光への同調について考える。
第 4 回　体内時計の光受容器

いろんな生物の体内時計の光受容について考える。
第 5 回　体内時計のありか（1）
昆虫の体内時計はどこにあるのかについて考える。
第 6 回　体内時計のありか（2）
軟体動物や脊椎動物の体内時計のありかについて考える。
第 7 回　体内時計を持つ理由
鳥の渡りとミツバチの八の字ダンスにおける太陽コンパスと体内時計の利用ついて考える。
第 8 回　睡眠の重要性
睡眠への体内時計のかかわりと睡眠の重要性について考える。
第 9 回　人の健康と光と体内時計
体内時計と睡眠と光の関係、睡眠障害への光療法の実施方法とその利用について考える。
第 10 回　体内時計と食事のリズム
朝食と脳の活動、体内時計を動かす光と食事の重要性について考える。
第 11 回　子どもの睡眠
「早寝早起き朝ごはん」の重要性について考える。
第 12 回　時計遺伝子
周期をきめる遺伝子per遺伝子の発現場所、負のフィードバック機構について考える。
第 13 回　光周性（１）
植物の季節適応、光周性について考える。
第 14 回　光周性（２）
動物の季節適応、光周性について考える。
第 15 回　まとめ
生理学についての総括をする。

〔成績評価〕
プリント提出（20%）と期末試験（80%）にて評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します。

英語Ⅱ【再履修】

1507
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
野島　　晃子

〔到達目標〕
1. 基本的な単語、熟語を身につけ、日常会話で使うことができるようにする。
2. 基礎的な英文の構造を理解し、応用できるようにする。
3. 日常会話程度のリスニング力を身につける。

〔授業の概要〕
英語の基本文型やイディオムなどを授業ごとに提示し、解説を理解したうえで問題を解くことでいっそうの基礎固めを図る。
授業内で扱った文型や語彙を復習し定着させ、日常会話へと応用できるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学んだ内容をより確実で実践的にするため、毎回60分程度の復習を推奨する。また、知識の定着を確認するためのテストを３回実施するので、試験対策のための学習を各回60分程度行うことを推奨する。
〔授業計画〕
第 1 回　be動詞、一般動詞の現在形
be動詞、一般動詞の現在形を使った英文に慣れる。
聴き取り：空港での会話、ホテルでの会話。
第 2 回　代名詞
代名詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：お礼を言う。
第 3 回　進行形
進行形を使った英文に慣れる。
聴き取り：探しているものを伝える。
第 4 回　時と場所を表す前置詞
時と場所を表す前置詞の使い方に慣れる。
聴き取り：相手にお願いしてみる。
第 5 回　テスト①
第１回から第４回までの内容の復習テストを実施する。
第 6 回　可算名詞・不加算名詞
可算名詞・不可算名詞の使い方に慣れる。
聴き取り：単位の違いを理解する。
第 7 回　一般動詞の過去形
一般動詞の過去形を使った英文に慣れる。
聴き取り：感想を述べる。
第 8 回　疑問形
疑問詞の使い方に慣れる。
聴き取り：会話を続ける。
第 9 回　接続詞、動名詞、不定詞
接続詞、動名詞、不定詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：食べ物を注文する、自分のやりたいことを伝える。
第 10 回　テスト②
第６回から第９回までの内容の復習テストを実施する。
第 11 回　未来形、現在完了形
未来形、現在完了形を使った英文に慣れる。
聴き取り：滞在日数を伝える、期間を尋ねる。
第 12 回　比較級・最上級
比較級・最上級を使った英文に慣れる。
聴き取り：おすすめについて話す。
第 13 回　助動詞

助動詞を使った英文に慣れる。
聴き取り：相手を褒める。

第 14 回　受動態
受動態を使った英文に慣れる。
聴き取り：思い出を話す。

第 15 回　テスト③
第１０回から第１４回までの内容の復習テストを実施する。

〔成績評価〕

各回の課題の提出と得点（55%）
テスト①・②・③（各15%合計45%）

〔教科書〕

配布する資料や問題は教員から提示するため教科書は指定しない。

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

集中講義期間中（課題最終締め切り日まで）にメール、Phollyで随時受け付けます。
メールアドレス　nojima@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅱ④

1504
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
浜本　幸子

〔到達目標〕

１．語彙を増やし、慣用表現を習得する
２．英語を的確に聞き取る力を養成する
３．機能別に英語表現を学ぶ

〔授業の概要〕

会話文を中心に、文の仕組みや談話のまとまり・流れを学ぶ。また、様々な機能に沿った表現方法を学び、自分の言葉として使えるよう繰り返し練習を通して定着を図る。さらに、学んだ表現を使って学習者同士で自分の考え、希望などを伝えられるよう実践練習を繰り返し行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学んだ内容をより確実で実践的にするため、授業内で小テスト・発表を実施する。それらの学習、練習として、その都度60~90分程度の時間が必要。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション、前期の復習
授業方針、目標、内容、評価方法の説明。前期の復習。

第 2 回　Unit 1 -(1)
Pleased to meet you. 人を出迎えたり、紹介するときに必要な語彙・表現を習得する。文法として、be動詞を復習する。

第 3 回　Unit 1 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。

第 4 回　Unit 2 -(1)
Do you remember me? 仕事に関連して、尋ねたり説明したりする語彙・表現を習得する。文法として、一般動詞の現在形を復習する。

第 5 回　Unit 2 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。

第 6 回　Unit 3 -(1)
I spoke to Ms. Hayashi yesterday. 苦情の電話対応時に必要な語彙・表現を習得する。文法として、一般動詞の過去形を復習する。

第 7 回　Unit3 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。

第 8 回　Unit 4 -(1)
When does the meeting start? 会議について、時間や場所など打合せ時に必要な語彙・表現を習得する。文法として、疑問詞を復習する。

第 9 回　Unit4 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。

第 10 回　Unit 5 -(1)
Can you meet me at the airport? 人に何かを依頼するときに必要な語彙・表現を習得する。

第 11 回　Unit 5 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。

第 12 回　Unit 6 -(1)
Feel free to ask me anytime. 職場で機械類の使い方など尋ねる場合に必要な語彙・表現を習得する。

第 13 回　Unit 6 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。

第 14 回　Unit 7 -(1)
I'm thinking about quitting my job. 職場で人に相談したり、励ましたりする場合に必要な語彙・表現を習得する。

第 15 回　Unit 7 -(2)
前回の続き。聴く・読む・話す・書くことを通して学んだことを補強し、定着を図る。全体の復習。

〔成績評価〕

提出物（10%）
小テスト・発表（30%）
試験（60%)

〔教科書〕

Let's Read Aloud & Learn English!　Teruhiko Kadoyama, Simon Capper（成美堂）

〔参考文献〕

必要に応じて授業中に紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日

日本事情演習

4122
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．日本の文化、行事、社会情勢を学ぶことで日本についての理解を深める。
２．社会の一員として様々な人々と円滑なコミュニケーションを図ることができるような豊かな表現力を養成する。
〔授業の概要〕
一年、12か月を月ごとの文化や行事などを取り上げて、その本来の意味について解説。そして、現代社会でそれらがどんな意味を持ち、どのように行われているかなどについて共に考えていく。また、留学生のそれぞれの出身国での文化や行事との相違点についても話し合う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
復習（90分）
発表内容作成・練習（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、自己紹介
授業の目標、方針、評価方法などの説明。自己紹介。
第 2 回　日本の地理、自然環境
47都道府県名と特徴。自然環境、起こりうる災害、防災について。
第 3 回　日本の政治制度、天皇制と皇室
政治制度の概要。天皇制と皇室の概要。
第 4 回　10月の伝統的文化・行事・風習
季節の変わり目での自然の楽しみ方、行事、その意義などについて。
第 5 回　11月の伝統的文化・行事・風習
祝日の意義、現在での一般的な祝い方など。
第 6 回　12月・1月の伝統的文化・行事・風習
冬の行事、年末年始行事や一般的な過ごし方など。
第 7 回　2月・3月の伝統的文化・行事・風習
季節の変わり目やそれにかかわる行事について。祝日の意義や現在の受け止め方。
第 8 回　4月・5月の伝統的文化・行事・風習
お花見など、季節の行事の楽しみ方、文化としての意義など。
第 9 回　6月・7月の伝統的文化・行事・風習
自然の美しさ、自然がもたらすめぐみ、そして自然災害などの脅威について。
第 10 回　8月･9月の伝統的文化・行事・風習
夏祭りなど、地域の文化や行事を調べる。それらを通して都会と地方の格差にも注目する。
第 11 回　中間試験
授業で配布されたワークシートを中心に、授業内容の理解度を図る。
第 12 回　試験のフィードバックとスピーチ作成
試験内容について補足と解説を実施。
この授業で学んだことについてテーマを決め、スピーチ原稿を作成。
第 13 回　発表
作成したスピーチを発表し、他者のスピーチを鑑賞、評価する。
第 14 回　伝統文化実践
日本の伝統文化を一つ取り上げ、実践する。
第 15 回　まとめと補足、質問
全体をまとめながら補足。質疑応答。
〔成績評価〕
提出物（10%）
中間テスト（40%）
発表(30%)
原稿(20%)
〔教科書〕
担当者作成のパワーポイントを資料として授業を進めるため、テキストは特に指定しない。
毎回ワークシートを配布。
〔参考文献〕
必要に応じて授業中に紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日

演習Ⅱ【教育心理学演習】

8426
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
教育心理学論文の作成
〔授業の概要〕
論文の書き方、特に心理学論文の書き方について指導する。各自のテーマが決まったら、テーマに沿った論文作成計画を立て卒論指導を行っていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
論文計画に従って論文作成を進める
〔授業計画〕
第 1 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 2 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 3 回　論文指導

各自のテーマに沿った論文指導
第 4 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 5 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 6 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 7 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 8 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 9 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 10 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 11 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 12 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 13 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 14 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導
第 15 回　論文指導
各自のテーマに沿った論文指導

〔成績評価〕
レポート試験100％
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

キャリア基礎　教育①

8116
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。
〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。

〔授業計画〕
第 1 回　全体　モチベーションアップ
モチベーションを高めるための脳活用の方法。プロ100人に聴いた極意を知る。
第 2 回　全体
学園祭の取組み　後…クラス別
第 3 回　学科
小論文の書き方①
第 4 回　学科
小論文の書き方②
第 5 回　全体　学園祭運営委員会より
大学学園祭の実施、運営・企画にあたり、各イベント内容の周知と任務、役割分担など。
第 6 回　全体　税について
外部講師講演　芦屋税務署さまより税についての基調講演。参照映像やクイズ形式などにより、税についての深い知見を得る。
第 7 回　クラス　キャリア教育について①
第 8 回　クラス　キャリア教育について②
第 9 回　学科　卒業生に聞く
第 10 回　全体　　キャリア形成について（2）
就職部主催：就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣など、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を知る。
第 11 回　学科　Aドリル：ペーパーテスト
第 12 回　全体　裁判員制度について
裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。
第 13 回　学科　コース説明
第 14 回　全体　キャリア形成について(3)

先輩からの声…就職部・教職支援センター主催：学生シンポジウム…就活成功への秘訣。－就職内定者、教職合格者、インターンシップ体験学生に聴く
第 15 回　学科
まとめ

〔成績評価〕
・レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。

〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

演習Ⅰ【教育心理学演習】

8324
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
専門としての教育心理学の理解
〔授業の概要〕
実験法、質問紙法、調査法、検査法などの基礎的な方法について指導する。３年次の段階で、実習レポートの書き方、心理学における実証的方法の意義、心理学における法則とは何か、心理学における理論と説明、データ分析の仕方（心理統計法）など、実験系心理学の一通りの基礎を学ぶ。並行して心理系の専門誌を講読していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業の予習、発表資料の準備（90分）
授業の復習（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　文献の紹介
文献の読み方、まとめ方
第 2 回　心理学研究１
第 3 回　心理学研究２
第 4 回　教育心理学研究１
第 5 回　教育心理学研究２
第 6 回　発達心理学研究１
第 7 回　発達心理学研究２
第 8 回　心理学評論１
第 9 回　心理学評論２
第 10 回　児童心理１
第 11 回　児童心理2
第 12 回　こころの科学１
第 13 回　こころの科学２
第 14 回　心身医学
第 15 回　まとめ
〔成績評価〕
授業発表、討論（50％）
期末試験（50％）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

学習心理学Ⅱ

4409
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
知識、理解、記憶、思考、言語など認知心理学の理解。学習と記憶に関する神経心理学的理解。
〔授業の概要〕
一般的に学習とは、経験や勉強によって知識、理解、習熟を増すこと、記憶すること、経験を通して獲得すること、わかることをさす。このように、学習には認知、思考、言語などが関与し、また学習に関連した脳科学からの研究も多い。この授業では認知心理学と神経心理学の側面から学習について講義する。
授業にあたっては、下記予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業計画に沿って各回のテーマについてネットなどで調べておくこと。(90分)
授業後は各回のテーマの要点をまとめておくこと。ネットなどで関連項目についてより広く調べてみること。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
認知心理学とは　学習・記憶の神経心理学とは
認知心理学の歴史
第 2 回　認知心理学（１）

認知とは　記憶の情報処理モデル　短期記憶　ワーキングメモリと学習
第 3 回　認知心理学（2）
長期記憶　エピソード記憶　意味記憶　知識・概念
第 4 回　認知心理学（3）
日常記憶　展望記憶　記憶の変容　記憶と臨床
第 5 回　認知心理学（4）
認知と教育　メタ認知　学習観　学習方略　「わかる」とは何か
第 6 回　認知心理学（5）
教科教育への応用　文章理解　問題解決　外国語学習
第 7 回　認知心理学（6）
認知の個人差　メンタルスピード　認知スタイル　認知の性差
第 8 回　神経心理学（1）
脳科学と学習・記憶　脳科学の基礎　神経心理学の歴史
第 9 回　神経心理学（2）
学習・記憶の神経心理学　シナプス可塑性　記憶障害　認知症
第 10 回　神経心理学（3）
脳と感情　感情の理論　感情の神経心理学　ダマシオ　扁桃体　感情と学習
第 11 回　神経心理学（4）
高次脳機能障害　失語症　言語野　ロゴジェンモデル　言語と学習
第 12 回　神経心理学（5）
脳の機能的非対称性　ラテラリティ　分割脳研究　右半球障害
第 13 回　神経心理学（6）
回復・リハビリテーション　　いくつかの回復ケース　　脳の可塑性と学習
第 14 回　認知、教育、学習、脳
それぞれの関係性について
第 15 回　まとめ

〔成績評価〕

期末試験　１００％

〔教科書〕

特に用いない。

〔参考文献〕

現代の認知心理学１～７
日本認知心理学会　北大路書房

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

情報機器の操作【初級】

1034
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕

１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1

条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕

授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕

教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕

私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕

月曜日2限目

情報機器の操作【初等】

2193
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕

１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1

条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕

授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕

教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕

私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕

月曜日2限目

情報機器の操作【初級】

1100
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕

１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1

条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕

授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕

教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕

私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕

月曜日2限目

情報機器の操作【初級】

2192
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

情報機器の操作技術のみのとどまらず、情報を適切に選択することが出来る。
情報を活用していくための能力等を身につけることを到達目標とする。
また、この講座では、コンピュータの基礎知識から学習をし、情報リテラシー、情報モラルまで広く学習をします。

〔授業の概要〕

１単元の中で、前半は講義形式、後半は実技形式の授業形態です。毎時間課題を課します。
また、グループディスカッションで調べたことわかったことも話し合います。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前に調べることや授業中に使用するデータを授業時間外に、自宅のパソコンや本館１階のPCコーナーなどで授業時間外に準備が必要です。復習プリントも配付して、学習を深めます。
予習や復習・学習の準備をしていただく内容の授業になります。(180分程度)

〔授業計画〕

第 1 回　講義　授業の目的
記録媒体(補助記憶装置の説明とその準備について)
第 2 回　文書の作成
ワープロソフトの基本操作
第 3 回　メール操作
基本的なメールアクセスからメールのマナーまでを実習にて操作
第 4 回　定型文書の作成1
定型文書とはどのようなものかを、実際に作成しながら講義を行う
第 5 回　定型文書の作成2
均等割付や表の挿入を学習し、学習指導案を作成する。
第 6 回　注目度の高い文書の作成
視覚効果のついた文字や画像挿入画像と文字の位置関係について学習する。
第 7 回　デジタル画像処理
小さな写真を加工してデジタル画像処理について学習をする。
第 8 回　表計算ソフトの操作
オートフィル機能や関数計算について学習をし、割合と比率についても復習をしながら練習問題を完成する。グラフ作成まで
第 9 回　表計算ソフト応用的な関数1

条件で変わる計算式を学習する。順位をつける関数を学習。同じものを探して数える関数を学習。
第 10 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味や意義、データの可視化について
第 11 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 12 回　情報を効果的に伝える方法
プレゼンテーションソフトの基本操作
インターネットを活用して旅行計画を立てる
調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる
第 13 回　プレゼンテーションソフトの応用テクニック
そもそもプレゼンとは？からはじめ、基本操作から箇条書きにまとめるテクニック、リハーサルの大切さ、作成順番についても言及する
第 14 回　プレゼンテーション機器の配線とＰＤＣＡ
作成したプレゼンテーション資料を基にどこが良かったかどこが修正できるかをグループディスカッションする
プロジェクターの配線について
第 15 回　インターネットを安全に使うために
情報セキュリティや情報モラルを事例から学ぶ

〔成績評価〕

授業中に作成する課題と小テスト、および学期末試験による総合評価(点数配分は課題４割・試験６割です)
授業に積極的に発言をしている場合には考慮点もある

〔教科書〕

教職必修　情報機器の操作
教員のためのICT活用法　実教出版(１９４４円)

〔参考文献〕

私情教「インターネットと情報倫理」
私情教「基礎的情報モデル」
文部科学省「中学校学習指導要領第８節」
「高等学校学習指導要領第１０節」

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
教育現場経験より、小中高生への情報の基礎的な実習の指導の方法と、教育者としてパソコンを活用する基礎的スキルの必要性含め実習指導する。

〔オフィスアワー〕

月曜日2限目

ネットワーク技術

3318
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
中村　　宏敏

〔到達目標〕

コンピュータネットワークを活用する知識の習得その活用手法を学び、web技術について広く学習し実験実習をする。教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

〔授業の概要〕

目的を持ったホームページ作成を通して情報発信モラルについて学習する。
ネット検索にかけるためにはどのようにす履きかなど、SEO対策についても広く学習をする。ホームページ作成については、計画段階と完成段階においてグループディスカッションを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

基礎用語については事前の学習が必要（自宅や・本館1階のＰＣコーナーにて各自準備が必要）
ＷＥＢ制作については、素材集めや、文章作成は事業時間外に準備が必要
復習については学習確認プリントを配布
事前準備90分＋事後復習90分＋制作が間に合わない場合は本館1階ＰＣコーナーにて制作

〔授業計画〕

第 1 回　ネットワークの歴史について
インターネットの歴史について
第 2 回　ネットワークについて
そもそもネットワークにつながるとは
第 3 回　ダイアルアップからADSL・光無線LANまで
いろんな回線について
第 4 回　ネットワークケーブル作成と調査
カテゴリー5ケーブルの作成
第 5 回　簡易ネットワークの構築
ハブを使い小規模ネットワークの作成
第 6 回　ネットワークセキュリティについて
自分の使っているパソコンのｏｓやウィルス対策ソフト・ウィルスに感染したらどうなるかを事例を見ながら学習
第 7 回　Ｗｅｂ制作準備
スタイルシートを使いＷｅｂページの作成準備
企画したＷｅｂページをグループディスカッションで発表討議
第 8 回　Ｗｅｂ制作ソフト操作方法
ソフトの操作説明
第 9 回　Ｗｅｂページ制作1
トップページの重要性と閲覧者の心理
第 10 回　Ｗｅｂページ制作2
画像編集（大きなサイズでは表示に時間がかかる）
第 11 回　Ｗｅｂページ制作3

リンク構造について
第 12 回　Ｗｅｂページ制作4
制作作業
第 13 回　Ｗｅｂページ制作5
制作作業
第 14 回　SEO対策について
Ｗｅｂページ登録作業方法と検索サイトで上位に来るためには
第 15 回　学習のまとめ
全員で各自の作成したＷｅｂページを見て、自分が作成したＷｅｂページとの比較と評価、また、次回に作る機会があった場合の反省点をグループ討議する

〔成績評価〕
授業に対する意欲も評価をします。授業途中のレポート提出と実技、期末には試験を行い総合評価をします。

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
ここから始めるLAN　日本実業出版社
２台目からのパソコンLAN(株)技術評論社
初めての情報ネットワーク　森北出版(株)

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
学校現場でのネットワーク構造やネット環境、またネットワークを活用した情報発信などの自習作業を行う。

〔オフィスアワー〕
水曜日3限目

情報科学

1307
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。情報リテラシーから継続して学び、この情報科学を受講してExcelの応用技術を身につける。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、より効果的にコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
セル操作(ワークシート操作と情報リテラシーの復習)
第 3 回　Excel基本操作(2)
関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索、情報リテラシーの復習)
第 4 回　Excel基本操作(3)
値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
SUM ／ AVERAGE ／ MAX ／ MIN ／ COUNT ／ COUNTA／RANK／絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
ROUND／ROUNDUP／ROUNDDOWN／INT
第 7 回　Excel関数(3)
UMIF ／ COUNTIF ／ COUNTBLANK ／ AVERAGEIF
第 8 回　Excelデータベース機能
並べ替え／オートフィルタ
第 9 回　Excelグラフ機能
グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
IF(発展・実践と発展・多重判断文、AND、OR)
第 13 回　データ分析とデータベース関数
VLOOKUP
第 14 回　プレテスト
定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「教養情報科学概論」共立出版
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

情報リテラシー

4103
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。
〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
　　セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
　　関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
　　値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
　　SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
　　MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
　　COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
　　データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
　　グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
　　基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
　　IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
　　IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
　　データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
　　定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
　　定期試験
〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。
〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

情報リテラシー

4104
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
森下　　博行

〔到達目標〕
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標として、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目的とする。この情報リテラシーを受講してExcelの基礎操作能力の定着を目指す。今後の学生生活や将来の職場で活用できるための力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
この授業は、大学生および社会人としての活動において不可欠となっているコンピュータ操作の基本を身につけることを目標とした選択科目である。表計算ソフトウェアの活用技術を修得していることは、大学での調査研究活動や実社会での業務を行う上で有益である。この講義では、大学や企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用等、具体的な操作方法を学習する。また操作のみではなく、具体的な問題の解決など目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、基礎的なコンピュータを活用する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
当日の朝刊等から、コンピュータ、ユビキタス、スマートフォン等、情報技術に関する問題や時事問題について調べて常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。またタイピング練習は、日常的に行っておく。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　オリエンテーション(ガイダンス)
第 2 回　Excel基本操作(1)
　　セル操作、ワークシート操作
第 3 回　Excel基本操作(2)
　　関数の基本(オートSUM／基本書式／関数検索)
第 4 回　Excel基本操作(3)
　　値の表示形式、値の種類
第 5 回　Excel関数(1)
　　SUM／AVERAGE／相対参照と絶対参照
第 6 回　Excel関数(2)
　　MAX／MIN
第 7 回　Excel関数(3)
　　COUNT／COUNTA／RANK
第 8 回　Excelデータベース機能
　　データベースと並べ替え
第 9 回　Excelグラフ機能
　　グラフ作成と効果的で訴求力のあるグラフ作成
第 10 回　小テスト
　　基本的な関数の扱い方(過去の検定試験問題集から)
第 11 回　論理関数 Excel関数基礎(4)
　　IF
第 12 回　論理関数 Excel関数応用(5)
　　IF(発展・多重判断文)
第 13 回　データベース機能
　　データベース機能などの便利な機能の活用(データの分析と整理)
第 14 回　プレテスト
　　定期試験を想定した練習問題
第 15 回　定期試験
　　定期試験

〔成績評価〕
受講態度及び定期試験（筆記試験）等による評価とする。
定期試験70%
授業への取り組み10%
ノート点20%

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
「これだけは知っておきたい情報リテラシー大学や社会で活躍するために」オーム社
「表計算」日本情報処理検定協会出版
その他、適宜授業内で紹介

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
目的に応じて適切に情報を収集、活用、発信できるよう、情報機器やインターネット、その活用について指導する。

〔オフィスアワー〕
月曜日1限目、水曜日1限目

社会学入門

3101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
堂本　直貴

〔到達目標〕
①社会学におけるものの見方を学ぶ
②社会学が関心の対象とする現代社会の課題について学ぶ
受講生には、この二点を通じて、現代社会の問題を自分自身に引きつけて考え、より良い答えを求め続ける姿勢を期待します。

〔授業の概要〕
社会学がカバーする対象は多岐にわたり、そのすべてを扱うことは難しいです。
この授業では、指定した教科書を基礎とします。その教科書を用いて、社会学特有のものの見方や概念、用語を学びつつ、受講生が関心をもてる具体的な事例を説明します。
また、受講生には、教科書に記載されたデータやグラフの読み取り、文章の朗読などをしてもらうため、必ず教科書

を持参してください。
各回の授業終了時にコメントペーパーを提出してください。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備学習として、教科書の指定箇所を読んでください。
復習としては、配布レジュメの参考文献などを、関心に合わせて読んでください。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の目標／授業進行予定／成績評価方法／参考文献の紹介／社会学とは何か
第 2 回　社会学の歴史①
ヴェーバー／デュルケム／ジンメル
第 3 回　社会学の歴史②
シカゴ学派と社会調査
第 4 回　社会学の歴史③
パーソンズ／マートン／シンボリック相互行為論／エスノメソドロジー
第 5 回　社会学の歴史④
フーコー／ルーマン／ギデンズ／ブルデュー
第 6 回　コミュニケーション
外的コミュニケーションと内的コミュニケーション／印象操作と儀礼的無関心／感情
第 7 回　ジェンダー・セクシュアリティ
ジェンダー、セクシュアリティという概念／性役割の社会化／性別と職業
第 8 回　家族
家族の「定義」／結婚の個人化／夫婦・親子の関係／家族という形の変容
第 9 回　教育
趣味と階層／教育と不平等／子どもの貧困
第 10 回　労働
日本的雇用の再編成／就業形態の多様化と問題点／フォーディズム
第 11 回　都市と地域
コミュニティの現状と意義／再開発の問題／農山村の過疎化と可能性
第 12 回　伝統と宗教
宗教の社会的機能／集合的沸騰／創られた伝統
第 13 回　環境
環境とは／環境問題の歴史／ゴミ（廃棄物）の問題／環境社会学と生活環境主義
第 14 回　メディア
メディアということば／活字からインターネットへ／情報化社会の公共性
第 15 回　まとめ
授業全体のまとめ／試験について
〔成績評価〕
試験（70%）と出席およびコメントペーパー（30%）
〔教科書〕
宇都宮京子, 西澤晃彦, 2020『よくわかる社会学（第3版）』ミネルヴァ書房.
（かならず「第3版」を用意してください。）
＊さらに授業時に、レジュメ等を配布します。
〔参考文献〕
各回の配布資料（レジュメ）に記載します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業終了後に対応します。

教育実習事後指導【社会】

1000
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.教育実習終了後、実習校および大学に対する事務手続きを、時間を置かず適切に処理できる。
2.教育実習の経験を通じて自分を振り返り、自らの成長に役立てる。
3.教育実習での学びが今後の人生にどのように位置付けられるかを整理する。
〔授業の概要〕
実習校に対する最後の事務手続きを怠ることのないようフォローしながら、教育実習前設定した目標に対する実習中の自らの取組を自己評価する。
実習中に実習校の教員や生徒とのコミュニケーションや授業実践の中で感じ取った自分の長所・短所を冷静に見つめ、実習経験を通じて自分自身を知ったことを自身の成長につなげる。
教育実習の意義を整理し、その学びを今後の人生にどう生かすかを考える。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊実習日誌の最後のページを記入し、実習校に持参する
＊「教育実習の手引き」を確認し、実習後の必要事項を確認しておくこと
〔授業計画〕
第 1 回　教育実習のリフレクション
（実習前に設定した自らの課題、実習の目標について振り返り、文章化する）
第 2 回　実習日誌の仕上げ
（終了後すぐに、大学の担当教員とディスカッションの後、適切に記入する）
第 3 回　大学への報告書の作成
（取組の意欲、生徒理解、学級活動への参加、研究授業など観点を明確にして自己評価する）
第 4 回　実習校への「お礼状」の作成
（礼儀を踏まえ心込めて手書きで作成し郵送する）
第 5 回　自分自身を知る
（実習期間中の生徒・教員とのコミュニケーションや教育実践の振り返りから自らの長所・短所を見つめる）
第 6 回　経験を生かし自分を高める

（SWOT分析などの手法を学び、自己分析の結果を自らの成長につなげる）
第 7 回　実習での学びをどう生かすか
（各人にとって今後の人生における「教育実習の意義」を整理する）
第 8 回　これからの人生と教育との関わり
（実習体験から得たことをもとに、これから自分がどのような形で教育・学校に向き合っていくのかをまとめる）

〔成績評価〕
終了後のレポート(60%)、振り返りシート(24%)、課題作成(16%)

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編
もしくは、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編
芦屋大学編「教育実習の手引き」（実習日誌）

〔参考文献〕
テキストは使用せず授業の中で随時紹介、または適宜プリントを配付

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（社会）、必修

〔オフィスアワー〕
水曜日：14:00から15:00
場　所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールでアポイントを取ってください
その他：来室のうえ、（原則） 面談で対応します （場合によってはリモート）

教育実習【社会】

1007
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.学校組織の仕組みを、校務分掌のあり方等に関する講話とともに、実際の教職員の動きの中にあって理解する。
2.教員としての初歩的な実践力を学ぶとともに、服務・規範意識など教育に携わる者としての自覚と態度を身に付ける。
3.実習生どうしの相互討論・共同作業によって同僚性を養うことを目指す。

〔授業の概要〕
　実習校でプログラムされた講話の中で、学習指導・生徒指導や教育課程の現実と留意事項を学び、学級担任の補助として学級経営の一端を担う。主たる取組は、実習校における教員の学習指導を参観しつつ、自らも学習指導案を作成して授業実践に臨む。生徒とのコミュニケーションを通じて良い人間関係を構築することを目指しながら、なおかつ自分が教育に携わる者であることを自覚する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊教育実習の1年前までには関係教育委員会もしくは当該実習校に対し、大学を通じて、実習受入願いの手続きを申請する
＊教育実習参加要件を満たす必要があり、「教職課程の手引き」を確認しておくこと

〔授業計画〕
第 1 回　実習校での事前打合せ
（留意事項の理解、実習に用意するもの）
第 2 回　事前学習の復習
（学習指導案の作成、道徳科の授業づくり）
第 3 回　実習校での実習①
（職員・生徒への挨拶、講話：校長より、教育課程・学習指導・生徒指導について、等）
第 4 回　実習校での実習②
（ショート・ホームルームの運営、給食指導）
第 5 回　実習校での実習③
（指導教員の授業を参観）
第 6 回　実習校での実習④
（学習指導案作成に向けた教材研究）
第 7 回　実習校での実習⑤
（実習日誌の記入と指導教官からの指導助言）
第 8 回　実習校での実習⑥
（部活動指導への参加）
第 9 回　実習校での実習⑦
（学年集会、全校集会への参加）《全体指導・生徒への語りかけ方の学び》
第 10 回　実習校での実習⑧
（実習生どうしによるマイクロティーチング）
第 11 回　実習校での実習⑨
（授業実践とリフレクション、指導教官からの指導助言）
第 12 回　実習校での実習⑩
（実習生どうしによる授業評価）
第 13 回　実習校での実習⑪
（研究授業に向けた教材研究）
第 14 回　実習校での実習⑫
（研究授業のための学習指導案づくり）
第 15 回　実習校での実習⑬
（研究授業実践と研究協議、教育実習の総括）

〔成績評価〕
研究授業もしくは学習指導案(15%)、実習日誌(15%)、実習校からの評価 (70%)

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編
芦屋大学編「教育実習の手引き」（実習日誌）

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（社会）、必修

〔オフィスアワー〕
水曜日：14:00から15:00
場　所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

演習Ⅱ【日本文化史】

8438
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
杉島　　威一郎

〔到達目標〕
卒業論文の完成と発表資料の完成
〔授業の概要〕
卒業論文を完成させるとともに、学科卒論発表会に向けパワーポイントの資料を作成する
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時、指定図書を通読する。(2時間)
毎時、レポート作成を課す。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の進め方、受講上の注意、評価方法について
第 2 回　卒業論文の作成①
　　卒業論文を書き進める
第 3 回　卒業論文の作成②
　　卒業論文を書き進める
第 4 回　卒業論文の作成③
　　卒業論文を書き進める
第 5 回　発表資料の作成①
　　発表用のパワーポイントを作成する
第 6 回　発表資料の作成②
　　発表用のパワーポイントを作成する
第 7 回　発表資料の作成③
　　発表用のパワーポイントを作成する
第 8 回　ゼミ内発表①
　　ゼミの中で論文の内容を発表する
第 9 回　ゼミ内発表②
　　ゼミの中で論文の内容を発表する
第 10 回　ゼミ内発表の検討①
　　ゼミでの発表を相互に検討し、課題を明らかにする
第 11 回　ゼミ内発表の検討②
　　ゼミでの発表を相互に検討し、課題を明らかにする
第 12 回　卒業論文の完成①
　　ゼミ生の指摘を卒業論文に反映させ、論文を完成させる
第 13 回　卒業論文の完成②
　　ゼミ生の指摘を卒業論文に反映させ、論文を完成させる
第 14 回　卒業論文の発表
　　学科卒論発表会あるいは大学の卒業論文発表会に参加する
第 15 回　まとめ
　　卒業論文作成について下級生に説明する
〔成績評価〕
卒業論文の内容、パワーポイントの資料を総合的に判断する
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

日本文化史研究Ⅱ

4405
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
杉島　　威一郎

〔到達目標〕
地域社会の歴史と文化、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを、靖国神社問題、地域の祭などを通して理解する。各自がまつりにつて調査し、わかりやすく発表する。
〔授業の概要〕
我が国の伝統と文化の特色とそれを形成した様々な要因を総合的に考察する。風習、信仰などの生活文化についても、時代の特色や地域社会の様子などと関連付けながら、民俗学や考古学などの成果を駆使し説明する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業のおわりに、次回の課題図書を提示するので読んでおくこと。(2時間)
授業冒頭に前回授業の小テストを行う。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　日本文化について
　　本講義で何を学ぶか、どう進めるかについて説明する
第 2 回　靖国問題について
　　現在、靖国神社の何が問題となっているか整理する
第 3 回　靖国神社の歴史について
　　靖国神社のあゆみについて解説する

第 4 回　神社の成立と展開
神道の成立と時代毎に変化した神社行政について説明する
第 5 回　人を祀る神社について
人を祀った神社を挙げ、大別する
第 6 回　日本人の霊魂観について
日本人の霊魂観について概説する
第 7 回　靖国神社の未来について
これからの靖国神社のあり方について議論する
第 8 回　地域の文化とマツリ
地域文化を支えるマツリについて概説する
第 9 回　「神戸まつり」について
「神戸まつり」の歴史とその意義について説明する
第 10 回　「岸和田だんじり祭」について
「岸和田だんじり祭」について・「岸和田だんじり祭」の歴史とその意義について説明する
第 11 回　「灘けんか祭」について
「灘けんか祭」の歴史とその意義について説明する
第 12 回　「祇園祭」について
「祇園祭」の歴史とその意義について説明する
第 13 回　十二支について
十二支について説明する
第 14 回　十干について
十干について説明し、十二支と十干の組み合わせを理解する
第 15 回　まとめ
後期のまとめを行う

〔成績評価〕
期末のテスト（60パーセント）
授業時のレポート（20パーセント）
授業時の課題発表（20パーセント）

〔教科書〕
中学校学習指導要領
高等学校学習指導要領

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

日本史概論Ⅱ

2405
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
杉島　威一郎

〔到達目標〕
古代日本の主要な文献史料を読めるようになる。
関連する中国史料を理解できるようになる。

〔授業の概要〕
我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色について認識を深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業のおわりに、次回の課題図書を提示するので読んでおくこと。(2時間)
授業冒頭に前回授業の小テストを行う。(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　日本史を学ぶとは
本講義で何を学ぶかについて
第 2 回　古代史の研究資料（１）
古代史に於ける基礎資料を挙げ説明する
第 3 回　古代史の研究資料（２）
古代史に於ける基礎資料を挙げ説明する
第 4 回　邪馬台国と卑弥呼
邪馬台国と卑弥呼について解説する
第 5 回　『魏志倭人伝』を読む（１）
『魏志倭人伝』を読み、当時の日本社会について説明する
第 6 回　『魏志倭人伝』を読む（２）
『魏志倭人伝』を読み、当時の習俗について説明する
第 7 回　大和政権と大陸との交渉
中国史料に描かれる、日本の姿を確認する
第 8 回　中央集権国家の成立
律令国家と奈良時代について
第 9 回　『古事記』について
『古事記』について説明し、『古事記』序文を読
第 10 回　『日本書紀』について
『日本書紀』の特徴について説明し、『日本書紀』の一部を読む
第 11 回　日本神話と聖書
『古事記』『日本書紀』に描かれる神のなりたちと『聖書』に描かれる神のなりたちを比較検討する
第 12 回　『万葉集』、『風土記』について
『万葉集』、『風土記』について説明し、それぞれの一部を読む
第 13 回　仏教伝来について
原始仏教について説明するとともに、日本に伝わった仏教とその定着について説明する
第 14 回　神仏習合について
我が国に根付いた仏教がどのように神道と習合したかについて説明する

第 15 回　神仏分離について
明治維新を迎え、神仏習合状態にあった神道と仏教が分離される。その過程と展開について説明する

〔成績評価〕
期末に筆記テスト（70パーセント）
授業時の小テスト（30パーセント）
〔教科書〕
中学校学習指導要領
高等学校学習指導要領
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、日本史・外国史、中一種（社会）、選択
〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

演習Ⅰ【日本文化史】

8311
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
杉島　　威一郎

〔到達目標〕
卒業論文のテーマを決める。教員と共に課題図書を決め、精読する。１２月に卒論のタイトルを決める。
〔授業の概要〕
前期に引き続き小論文を書くとともに、プレゼンテーション技術について学ぶ。
卒業論文のテーマを決める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時、指定図書を通読する。(2時間)
毎時、レポート作成を課す。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の進め方、受講上の注意、評価方法について
第 2 回　小論文の書き方①
与えられた課題に対し、自分の考えを述べる。
第 3 回　小論文の書き方②
与えられた課題に対し、自分の考えを述べる。
第 4 回　小論文の書き方③
与えられた課題に対し、自分の考えを述べる。
第 5 回　小論文の書き方④
与えられた課題に対し、自分の考えを述べる。
第 6 回　プレゼンテーションの技術①
人前で話す心構えや、技術について学ぶ。
第 7 回　プレゼンテーションの技術②
パワーポイントの使い方について学ぶ。
第 8 回　発表資料の作成①
後期のゼミで書いた小論文を選び、パワーポイント資料を作成する。
第 9 回　発表資料の作成②
後期のゼミで書いた小論文を選び、パワーポイント資料を作成する。
第 10 回　発表資料の作成③
後期のゼミで書いた小論文を選び、パワーポイント資料を作成する。
第 11 回　ゼミ内発表①
ゼミ内で作成したパワーポイントを使いプレゼンテーションを行う。ゼミ内で課題を話し合う。
第 12 回　ゼミ内発表②
ゼミ内で作成したパワーポイントを使いプレゼンテーションを行う。ゼミ内で課題を話し合う。
第 13 回　ゼミ内発表③
ゼミ内で作成したパワーポイントを使いプレゼンテーションを行う。ゼミ内で課題を話し合う。
第 14 回　卒業論文のテーマを決める
卒業論文のテーマを決める
第 15 回　課題図書を選定
卒業論文作成にあたり、課題図書を決め、春休みの課題とする。
〔成績評価〕
小論文の評価（50%）とゼミ発表の評価（50%）とする。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
・水曜日：14時から15時
・場　所：研究室
・連絡先：sugisima@ashiya-u.ac.jpにメールで質問・相談をしてください。
・その他：来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。

教育心理学研究法Ⅱ

4237
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 教育心理学における統計的手法についての知識並びに技能を獲得し，それを適切に用いることができる。
2. 現代における教育心理学の研究に関する深い認識を基に，

自ら研究計画を立案し，適切に研究を実施する際における留意点や限界点について理解することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に心理学的な観点から，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。

〔授業の概要〕

本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び2の獲得を目指すものである。
心理学（psychology）とは，我々の「行動と心的過程についての科学的学問」（Edward E. Smith et al., 2015 内田訳 2015）である。本講義では，“心”を巡る様々な問題について触れながら，教育心理学における統計的解析手法についての解説を実施する。それを通じて，“心”にまつわす様々な問題に対して科学的に解決する視点を身につけることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。また，必要に応じてコンピュータを利用した演習も実施する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用して調査し，ノートに整理する。

〔授業計画〕

第 1 回　**心理統計学の基礎①**
・授業の進め方や成績評価について
・「統計」とは？；心理学における「統計」の意義
・統計学における用語；変数とデータ，分布

第 2 回　**心理統計学の基礎②**
・記述統計の基礎；データの数値要約
・変数の関係並びに変換について

第 3 回　**心理統計学の基礎③**
・信頼性，妥当性
・項目分析

第 4 回　**心理統計学の応用①**
・独立変数，従属変数
・統計的検定の基礎

第 5 回　**心理統計学の応用②**
・統計的検定の実際

第 6 回　**心理統計学の応用③**
・多変量解析①

第 7 回　**心理統計学の応用④**
・多変量解析②

第 8 回　**心理調査法の基礎①**
・質問紙を用いた調査法：質問紙作成の基礎，実施方法

第 9 回　**心理調査法の基礎②**
・質問紙を用いた調査法：心理尺度の作成①

第 10 回　**心理調査法の基礎③**
・質問紙を用いた調査法：心理尺度の作成②

第 11 回　**心理調査法の実際①**
・質問紙を用いた調査法：データの処理法①

第 12 回　**心理調査法の実際②**
・質問紙を用いた調査法：データの処理法②

第 13 回　**心理調査法の実際③**
・質問紙を用いた調査法：質問紙法の実際①

第 14 回　**心理調査法の実際④**
・質問紙を用いた調査法：質問紙法の実際②

第 15 回　**統括**
・「教育心理学研究法Ⅱ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕

授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%

〔教科書〕

山田 剛史・村井 潤一郎 (2004). よくわかる心理統計　ミネルヴァ書房
南風原 朝和 (2002). 心理統計学の基礎――統合的理解のために――　有斐閣
その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕

吉田 寿夫 (1998). 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本　北大路書房
南風原 朝和・杉澤 武俊・平井 洋子 (2009). 心理統計学ワークブック――理解の確認と深化のために――　有斐閣
その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

世界教育史Ⅱ

3205
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
津田　徹

〔到達目標〕

社会背景や時代背景などを基本として、その中で展開される教育理念（子ども、教育者、教育機関、文化施設、教育手段など）の展開を、学生自らが関心や興味をもって理解することに努め、最終的に教育史上の主要な展開について簡単に説明することができることを目標とします。

〔授業の概要〕

世界教育の歴史のうち、西洋の教育理念（近世から現代）を解説し、さらに現代の日本の教育現象や教育問題を、学

生自身が簡単で基本的な原典資料や翻訳資料、二次資料などを読解したり調査すること更にはグループ別の議論も試みながら、教育理念の歴史的理解を深化させていきます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

事前学習（予習）については、シラバスの計画を参考に、取り上げられる内容（項目、人物、時代、概念等）についてあらかじめ教科書や書物、インターネットなどを活用して調べておくこと(90分)。

事後学習（復習）については、授業で取り上げた内容について理解できているか、言葉で説明できるかどうか等を確認し、出来ない場合については、教科書やノートを見直しておくこと。また授業内で取り上げた書籍等についてさらに学習を進め内容の深化を目指すこと（90分)。

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション
講義目標、内容、方法、受講上の注意、評価の方法、参考文献の紹介

第 2 回　18世紀の西洋教育１
ルソー（『エミール』、消極教育、自然主義教育、近代子ども観）

第 3 回　18世紀の西洋教育２
18世紀の西洋教育２：汎愛派（ザルツマン、汎愛学舎）

第 4 回　18世紀の西洋教育３
ドイツ観念論と教育（カント、フィヒテ、ヘーゲル、シュライエルマッハー）

第 5 回　19世紀の西洋教育１
ペスタロッチ（スイスの貧民教育の祖、基礎陶冶、教育実践活動

第 6 回　19世紀の西洋教育２
フレーベル（『人間の教育』の教育観、幼稚園の理念、恩物

第 7 回　19世紀の西洋教育３
ヘルバルト、段階教授法、教育目的と教育方法、ヘルバルト学派

第 8 回　20世紀の西洋教育１
アメリカ新教育、プラグマティズム、デューイの生涯

第 9 回　20世紀の西洋教育２
デューイの教育観（生活経験、問題解決学習、なすことにより学ぶ）

第 10 回　20世紀の西洋教育３
プログレッシヴィズムとエッセンシャリズム

第 11 回　20世紀の西洋教育４
シュタイナーの教育（ヴァルドルフシューレ)、エレン・ケイの教育活動

第 12 回　20世紀の西洋教育６
キルパトリックの教育、プロジェクト・メソッド、物作りと教育方法の登場

第 13 回　20世紀の西洋教育６
キルパトリックの教育、プロジェクト・メソッド、物作りと教育方法の登場

第 14 回　20世紀の西洋教育７
パーカーストの教育（ドルトン・プラン、アサイメント・ラボラトリー、日本へ）

第 15 回　現代の教育思想家の紹介、まとめ
学びを通して得られた視点と教育的課題、質疑応答

〔成績評価〕

定期試験（70%)、講義への取り組み・課題・レポートの提出（30%）

〔教科書〕

広岡義之他著、『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』、ミネルヴァ書房、2019年。

教科書を毎回使用します。世界教育史Ｉと同じテキストです。一回目から持参すること。

小学校学習指導要領（平成28年度3月告示、文部科学省）
中学校学校学習指導要領（平成28年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

〔参考文献〕

パーマー編（広岡他訳)、『教育思想の50人』、青土社。
レーブレ（広岡他訳)、『教育学の歴史』、青土社。

その他、授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜2時間目休み時間。

起業論

5015
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
今岡　重男

〔到達目標〕

起業（初めて会社やお店などを作り、新たに事業を手がけること）の目的や方法を学び、マーケティング戦略や競争戦略から、効率的な成長を促す成長戦略までを理論・実践の両面から学ぶことを目標にする。

この講義は、起業に関心がある学生はもちろんであるが、一般企業への就職を希望する学生にも役立つものである。

内容は初心者向きで、分かりやすく指導する。

〔授業の概要〕

この授業は、PhollyとYoutubeを使って遠隔で下記の内容で行います。

（１） まず「起業・開業のための基礎知識」を習得する。

（２） さらに、起業も目的や方法について学び考える

（３） 実際に起業事の事例から、起業の動機・理念（目的)、起業のプロセス、マーケティング戦略、競争戦略、成長戦

略や起業の夢や苦心についても学ぶ。

（4） 最終的には「ビジネスプラン(事業計画)」の立て方まで学ぶことにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

まず、身の回りにあるお店や会社に関心を持って下さい。お店や会社は、社会の求める商品やサービスを提供し、社会に役立つための活動をしています。もし、自分が起業するとすれば、どのようにして社会に役立とうとするのか、身近なお店や会社の事例を参考にして考えて下さい。さらに、新聞やテレビなどで紹介される企業の成功事例などもよく見て、日ごろから、起業や企業の実際の活動についての関心を高めて下さい。

〔授業計画〕

第 1 回　起業は面白い（授業の進め方説明）
この授業の概要と進め方の説明を行ったあと自己紹介を行う。
起業の具体的事例を紹介しながら、起業の面白さや厳しさを考える。

第 2 回　副業的起業の具体例
多くの会社で原則として副業を禁止してきた。しかし、「積極的に副業を推進する」政府の働き方改革の方針により、今後、多くの会社で副業が禁止から容認に変化していくと考えられる。最初は会社勤務などの本業を持ち空いた時間で副業をするのが安全だと考えられる。その副業を少しずつ大きくしていく起業の具体例を学ぶ。

第 3 回　副業的起業の方法
前回の事例を参考に、どのように副業を開始すればよいか、その方法をステップを考える。

第 4 回　スモールビジネスの実際
まとまった資金や従業員を必要としない「1人での会社経営」を選ぶ経営者が増えている。昨今では大学を卒業後すぐに、または在学中に起業する人も少なくない。
彼らはマイクロアントレプレナー（マイクロ起業家）と呼ばれるが、その目的はビジネスを拡大することだけでなく、「好きなことを仕事にして自由に稼ぐという新しいライフスタイルを実現する」ことだ。そのメリット・デメリットは何だろうか？今回はその具体事例を学ぶ。

第 5 回　起業に向けてのステップ
起業するには次のようなステップを踏むことが重要である。
1.起業の目的・理由を決める　2.アイデアを生み出す　3.コンセプトを決める　4.事業計画を立てる　5.必要な設備・場所・人材を考える　6.資金の調達方法を考える　7.起業の形態を決める　8.起業する時期を考える　9.起業手続きや各種届出、許認可　10.事業のスタート
今回はそのステップを一つずつ学ぶ。

第 6 回　ビジネスモデルとは何か
ビジネスモデルは、簡単に言うと「価値を創造し、提供する仕組み」とか「もうけの仕組み」などと言われている。起業を考える時、どんな事業で収益を上げるか、事業のターゲット層をどこに設定するか、どのような製品やサービスを市場に提供するかなどビジネスモデルを論理的に体系化しなければならない。今回はビジネスモデルとは何かを学ぶ。

第 7 回　ビジネスモデルの作り方
ビジネスのモデルの作り方としてビジネスモデルキャンバスを使用する方法がある。ビジネスモデルキャンバスというのは、どのような方法なのかを学ぶ。

第 8 回　ビジネスモデルの具体例
経営や事業に大きな影響を与えるため、多くの企業はビジネスモデルの構築に力を注いでいる。コンビニやamazon、ユニクロなどの企業はどのようにしてビジネスモデルを作成したのか、具体事例を見ながらビジネスモデルの作り方を学ぶ。

第 9 回　顧客のニーズに合致した価値提供の方法
新しく起業する時に、これから提供する価値と顧客のニーズとのズレを見つけて顧客のニーズにマッチするビジネスアイデアにすることが重要である。今回は、そのための利用する「バリュープロポジションキャンバス」という手法を考える。

第 10 回　バリュープロポジションキャンバスの具体例
提供する価値と顧客のニーズとのズレを見つけるためのバリュープロポジションキャンバスという手法とその具体例について学ぶ。

第 11 回　ビジネスモデルと経営理念
ビジネスモデルを考える時には、経営理念→経営戦略→ビジネスモデルの順に考えることになる。今回は、その最初に考える経営理念（経営目的）について考えてみる。多くの企業の経営理念を実際にみながら、経営理念の重要性について学ぶ。

第 12 回　起業時に考える経営戦略
企業に際して、経営理念→経営戦略→ビジネスモデルはどのように考えるのか、今回はその中で経営理念はどのように考えるのかについて学ぶ。

第 13 回　経営戦略の具体的事例
前回の授業に沿って、どのような経営戦略があるのか。具体的な事例を学びながら、自分が起業する際の経営理念→経営戦略→ビジネスモデルといった一連の流れを考えてみる。

第 14 回　ビジネスプランを書いてみる
自分が起業をすると仮定しビジネスプランを書いてみる。

第 15 回　まとめ
最後に、講義の振り返り復習を行う。

〔成績評価〕

授業における毎回の課題レポートや期末レポートなどを総合的に判定して評価する。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
長谷川博和『ベンチャー経営論』東洋経済新報社、2018年
グロービス経営?学院『グロービスMBAビジネスプラン』ダイヤモンド社、2010年
柳孝一『ベンチャー経営論 : 創造的破壊と矛盾のマネジメント』日本経済新聞社、 2004年
金井一賴・角田隆太郎『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年
〔履修条件〕
〔備考〕

私自身の起業経験と研究を活かした授業を行います。起業するための目的や方法を学び、マーケティング戦略や競争戦略から、効率的な成長を促す成長戦略までを講義する。
〔オフィスアワー〕
今回は遠隔授業を行うので、質問や相談のある人は、電話またはメールでで連絡ください。
携帯電話：09083751660
パソコンメールアドレス：imaoka@ashiya-u.ac.jp

人事労務管理論

3014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
今岡　　重男

〔到達目標〕
企業が活動するためには、人　モノ　カネ　情報といった経営資源が必要である。これらの資源を上手く使って経営に役立てることができれば、企業を発展させることができる。経営資源の中でも、人が最も重要な資源だと言われることがある。
そこで企業経営と人事労務管理について深く学ぶことにより、経営者を目指す学生だけではなく、普通に企業に就職することを目指す学生にとっても、将来、組織の管理者となった場合に、役立つような実践的な人事管理労務の知識習得を目標とする。
〔授業の概要〕
従業員の管理は企業経営の重要課題の一つである。人の管理がうまくいかいかないと、事業もうまくいかない。
そこで、この授業では、人事労務管理の理論的な側面と共に、実際に企業の中で行われている人事労務管理の実践的な内容を具体的な事例や産業界における話題などもできる限り取り入れて分かりやすい授業を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学生は企業内で本格的に働いたことがないと考えられる。それでも、企業の商品やサービスなら、生活の中でも触れることが多いが、企業内の人事労務管理に直接触れることは通常はない。
従って、テキストの予習や新聞などからの情報収集などで人事労務に関する関心を持つよう努めてください。

〔授業計画〕
第 1 回　授業ガイダンス
授業の進め方の説明と大学において人事労務管理論を学ぶことの意義を解説する。
第 2 回　企業経営と人事労務管理
企業経営者の主要な課題としては、環境変化を読む、戦略を立てる、組織をつくる、人を動かすなどが考えられる。企業は目的に沿ってこの中の　人を動かす　という課題に沿ってこの授業を行う。人事労務管理の目的や人事労務管理は誰が行うのかなど、実例のなかで学ぶ。
第 3 回　人事労務管理の領域
人事労務管理の領域は次の5つの領域をいうが、その概要を学ぶ。
人材の確保
人材の配置
人材の育成
給与に関する管理
職場環境の最適化
第 4 回　雇用管理
採用から配置・異動など、人的資源としての　人　の確保から活用に至るプロセスと雇用に関わる法的な側面についても学ぶ。
第 5 回　人材育成①
人材育成の基本について学ぶ。
第 6 回　人材育成②
人材育成の具体例について学ぶ。
第 7 回　賃金制度と評価制度
賃金の本質は何かを考え、企業内の賃金制度などの事例研究を踏まえ、評価制度あり方について学ぶ。
第 8 回　マネジメント理論の発展
テイラーの科学的管理法は経営学の始まりと言われているが、その後どのようにしてマネジメント理論が発展していったかについて学ぶ。
第 9 回　科学的管理法からトヨタ生産システムへ
科学的管理法を活用してフォードやトヨタ自動車などが生産システムを開発していったといわれています。科学的管理法をどのようにして活用したのかを考える。
第 10 回　トヨタ生産システム 1
トヨタのものつくり哲学、高い技能を育む風土やカンバン方式等のトヨタ生産システムの概要を学ぶ。また、それが人事労務管理とどのように関係しているかを考える。
第 11 回　トヨタ生産システム 2
トヨタ生産システムを構成するカンバン方式、一個ながし、にんべんのついた自働化、生産管理板、あんどん、THE KAIZENについて学ぶ。また、それが人事労務管理とどのように関係しているかを考える。
第 12 回　G.E.メイヨーの人間関係論

G.E.メイヨーは、1924年から1932年の約8年をかけて労働の生産性を上げる要因を追求する実験を行った。その結果、生産性を高めるためには従業員の士気（モラール）を高めることが必要なこととその士気を高めるためには職場の人間関係の改善が必要であることを主旨とする理論である　人間関係論　を提唱した。1950年代のアメリカ産業界や戦後日本の産業界に大きな影響を与えたこの理論を考察する。

第 13 回　マズローの欲求5段階説
この説は、心理学者A.マズローが　人間は自己実現に向かって絶えず成長する生きものである　と仮定し、人間の欲求を5段階に理論化した。この5つの欲求はピラミッド状の序列があり、低次の欲求が満たされるごとに、もう一つ上の欲求を持つようになるとした。人事管理の世界でも活用されることがあるので学んでおく。

第 14 回　Ｐ.Ｆ.ドラッカーの目標管理
チームをマネジメントする立場になった時、どのような能力や資質が求められるのか把握しておくことは大切である。ここでは、マネジメントの意味や役割、ドラッカーが提唱したマネージャーに必要な5つの基本能力、マネージャーに求められる資質について学ぶ。

第 15 回　まとめ
全授業を振り返り質疑応答を通じてまとめをする。

〔成績評価〕
毎回の授業後のレポートと期末レポートの総合評価で採点する。

〔教科書〕
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理　第5版』有斐閣アルマ、2015/10/19

〔参考文献〕
奥林康司・上林憲雄・平野光俊　入門人的資源管理　中央経済社、2010年3月1日

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
企業勤務経験も交え、理論と実践の両面から講義を行う。

〔オフィスアワー〕
質問などがあれば、まずimaoka@ashiya-u.ac.jp今岡重男にメールを下さい。メールを頂ければ、電話などでお話しします。

簿記論

6101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
加茂川　悠介

〔到達目標〕
簿記論では、帳簿への記帳の仕方、および１年間の利益を計算することを目的に決算整理仕訳と精算表を経て損益計算書と貸借対照表が作られる迄の理解がテーマです。

ビジネスを語るうえで欠かせない１年間の利益の計算方法について、商業簿記３級の範囲内の知識の習得が到達目標となります。

〔授業の概要〕
商業簿記３級の範囲となる、商品売買取引から帳簿記帳等や決算整理仕訳までを学習し､本決算までを題材に講じます。

講義と演習を行うため、毎回下記持参のこと。
テキスト
電卓（１２桁電卓が望ましい)。
筆記用具
(鉛筆又はシャープペンシル・消しゴムなど)

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
予習は望ましいですが効率的ではないので、復習に重点を置いてください。問題を解くことが効果的な復習になるので、テキストに記載されている問題を解くこと。望ましくは参考文献に指定した問題集を解くこと。どのテーマにおいても、自分の力で「仕訳を切ることができるかどうか」意識しながら勉強してください。

〔授業計画〕
第 1 回　商品売買
商品売買における仕訳について学習します。

第 2 回　現金
現金に関する仕訳を学習します。

第 3 回　普通預金等
預金関係について、仕訳を学習します。

第 4 回　小口現金
小口現金に関する仕訳について学習します。

第 5 回　手形と電子記録債権（債務）
手形と電子記録債権（債務）について学習します。

第 6 回　貸付金・借入金
貸付金や借入金について学習します。

第 7 回　その他の債権債務
商品以外のものを後払いで買ったときの仕訳などを学習します。

第 8 回　その他の費用
消耗品などを買ったときの仕訳を学習します。

第 9 回　貸倒れと貸倒引当金
貸倒引当金について学習します。

第 10 回　有形固定資産と減価償却
有形固定資産と減価償却について学習します。

第 11 回　株式の発行、剰余金の配当と処分
株式の発行や剰余金の配当と処分について学習します。
第 12 回　法人税等と消費税
税金関係の仕訳について学習します。
第 13 回　費用・収益の前払い・前受けなど
費用や収益の見越・繰延を学習します。
第 14 回　財務諸表
財務諸表の作成について学習します。
第 15 回　総まとめ
商業簿記３級で学習した範囲の総まとめ。

〔成績評価〕

期末筆記試験（１００%）

〔教科書〕

スッキリわかる日商簿記３級　第１２版
（TAC出版　滝澤ななみ著　１，０００円＋税）

〔参考文献〕

授業では使いませんが復習用に指定します。
よくわかる簿記シリーズ合格トレーニング
日商簿記３級　Ver.12.0
（TAC出版　簿記検定講座編著　１，６５０円）

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

講義の前後で質問等の対応を行います。

会計学Ⅱ

4411
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
清原　裕平

〔到達目標〕

「会計」とは、企業等の経済活動の結果（成果）について、一定の測定ルールに従い貨幣額を用いて記録（記帳）し、利害関係者（ステークホルダー）に伝達（報告）するためのシステムといえます。

「会計学Ⅱ」では、こうしたディスクロージャー制度の一環として求められる会計の中から、「資本」と「損益」に関する重要論点を学習するほか、学生自身による財務諸表の作成や分析を通じて、会計のより一層の理解と習得を図ります。

〔授業の概要〕

授業は、主に教科書及び参考文献を使用して進めていきます。なお、授業の進捗状況に応じて、適宜資料を配付したり、課題を指示したりすることがあります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

課題を除き、授業時間外・準備学習として求めることは基本的にありません。なお、「簿記」の学習は、「会計学」の深度ある理解や習得に寄与するものと考えます。

〔授業計画〕

第 1 回　資本（1）
資本の意義、分類などについて学習します。
第 2 回　資本（2）
資本金、資本剰余金、利益剰余金などについて学習します。
第 3 回　資本（3）
自己株式、評価・換算差額等、新株予約権について学習します。
第 4 回　損益（1）
損益の意義、分類、諸原則などについて学習します。
第 5 回　損益（2）
費用収益対応の原則、費用収益の計上原則などについて学習します。
第 6 回　損益（3）
営業収益について学習します。
第 7 回　損益（4）
営業費用について学習します。
第 8 回　損益（5）
営業外損益、特別損益、法人税等について学習します。
第 9 回　財務諸表作成（1）
財務諸表の意義や種類、作成方法などについて学習します。
第 10 回　財務諸表作成（2）
学生自身が実際に財務諸表を作成します。
第 11 回　連結財務諸表
連結財務諸表の意義や目的、作成方法などについて学習します。
第 12 回　企業結合と事業分離
企業結合と事業分離の意義や会計処理などについて学習します。
第 13 回　財務諸表分析（1）
財務諸表分析の意義や目的、方法などについて学習します。
第 14 回　財務諸表分析（2）
学生自身が実際に財務諸表の分析を行います。
第 15 回　まとめ
これまで学習した範囲の中から重要論点を再度整理し、学習効果を高めます。

〔成績評価〕

授業への出席及び学習態度　50%
試験　50%

〔教科書〕

『新版　現代会計学（第３版）』（中央経済社）

〔参考文献〕

『新版　会計法規集（第11版）』（中央経済社）

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①後期
②水曜日　15:20～16:00
③場所　　対面授業の場合は講義教室、ＬＭＳ授業の場合はメールで対応します。
④連絡先　yk-cpa429@agate.plala.or.jp　宛てにメールで質問

等の内容を送信してください。
⑤その他（相談をする際の留意事項等）
　事前予約制となっていますので、必ずアポイントメントを取ってください。

経済学概論Ⅱ

3221
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
岡田　　光正

〔到達目標〕
授業では、経済学の伝統的な理論や学説を取り上げ、経済学に対する理解を深めるとともに、現代の様々な経済・社会問題ににアプローチできる経済学的素養を習得する。
〔授業の概要〕
経済学の伝統は、現代の様々な軽罪社規問題を読み解く鍵を提供してくれる豊かな宝庫と言えます。授業では毎回、主要経済学者によって展開された理論や学説をトピックとして取り上げ、その内容について学習しながら、現代の経済社会や経済問題を科学的にみる目を養います。
　アクティブラーニングとして毎回、授業内容の要点や授業に対する意見を各自まとめて発表してもらいます。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
普段から新聞や雑誌の経済記事、トピックなどに目を通したり、テレビのニュースや経済番組を視聴したりして、経済や経済問題への関心を育むように心がけてください。
〔授業計画〕
第 1 回　シュンペーターの経済発展論について
　シュンペーター（1883～1950）は、企業者の行う不断のイノベーション（革新）が経済を発展させるという理論を構築し、ケインズと並び称せられる天才経済学者の一人。授業では、彼の経済発展論の概要について学習します。
第 2 回　シュンペーターとコンドラチェフ
　ニコライ・コンドラチェフ（1892～1938）は、ロシアの著名な経済学者ですが、今日、50年周期の「長期循環」の研究者として有名です。シュンペーターはそれを「コンドラチェフの波」と命名し、世界的に知られるところとなりました。授業では、「コンドラチェフの波」を取り上げ、世界経済の今後を展望します。
第 3 回　イノベーションと企業者精神
　シュンペーターが挙げているイノベーションの５つの事例とその遂行に不可欠な企業者精神について学習します。
第 4 回　リカードの比較優位の原理について（１）
　イギリスの経済学者リカード（1772～1823）は、「自国の得意とする生産に特化し、それ以外は貿易によって賄えば、互いに利益となる」という比較優位の考え方を提唱、自由貿易を支持しました。授業では、この比較優位の原理について考察します。
第 5 回　リカードの比較優位の原理について（２）
　簡単な数値例を用いて、リカードの比較優位の原理について理解を深めます。
第 6 回　比較優位とTPP問題
　比較優位の観点からTPP問題（アメリカのTPP不参加、保護貿易主義、中国との貿易戦争等）について考察します。
第 7 回　限界効用理論について（１）
　限界効用理論は、1870年代に3人の経済学者、メンガー、ジェヴォンズ、ワルラスによってほぼ同時に提唱されました。これは今日、経済学上の「限界革命」と呼ばれています。これによって経済学と数学が直接結びつき、今日のミクロ経済学の原点となりました。授業では、限界効用、限界効用逓減の法則、無差別曲線等について学習します。
第 8 回　限界効用理論について（２）
　与えられた予算制約のもとで効用が最大となる「最適消費量」の求め方について学習します。
第 9 回　演算：最適消費量を求める
　簡単な数値例を用いて、最適消費量を求める演算を行います。
第 10 回　ヘンリー・フォードの偉業について
　戦後の「大量生産・大量消費」体制の先駆けとなった「自動車王」ヘンリー・フォード（1863～1947）の偉業について考察します。
第 11 回　フォーディズムについて
　戦後の「大量生産・大量消費」体制は、ヘンリー・フォードにちなんで、フォーディズムと呼ばれています。戦後の黄金時代をもたらしたフォーディズムについて学習します。
第 12 回　マルクスの『資本論』について（１）
　今日、格差（社会）の問題が再びクローズアップされ、マルクス（1818～1883）の『資本論』を見直す動きがみられます。マルクスが『資本論』で暴いたとされる資本主義の実態とは何か、考察します。
第 13 回　マルクスの『資本論』について（２）
　マルクスは、資本主義についての批判的分析から、自由競争をやめ、計画経済による理想の社会を目指しました。彼が資本主義に代わるものとして描いた理想の社会（社会主義）とはどのようなものだったのか、考察します。
第 14 回　格差の問題について
　最近、フランスの経済学者トマ・ピケティが、『21世紀の資本』で、資本主義経済の内的メカニズムの結果として格差と不平等が拡大することを実証しました。グローバル経済化によって、なぜ格差社会が生まれるのか、その背景と実態について考察します。
第 15 回　授業のまとめ
　授業のまとめと定期試験の準備をします。

〔成績評価〕
定期試験（80%）
平常成績（20%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

中学校学習指導要領（平成29年7月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年7月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成29年7月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成30年7月告示、文部科学省）
〔参考文献〕
『経済社会学キーワード集』（経済社会学会編、富永健一監修）　その他、授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、高一種（公民）、選択
〔オフィスアワー〕
毎回のLMS授業の内容や課題レポートなどについて質問や疑問、相談があれば、eメールにて受け付けます。受講生の皆様とのメールでのやり取りを通じて、理解がより深まり、学園生活の充実につながればと願っています。メール先：rqkw75325@leto.eonet.ne.jp 時間：毎週水曜日
14:30~15:30
　なお、メールでの返答が翌日以降になる場合もありますが、ご了承ください。

演習Ⅱ【近代日本史研究】

8433
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
三羽　光彦

〔到達目標〕
この演習は4年生を対象としています。内容は、①卒業論文の研究と指導、②就職活動の指導、です。卒論の完成と就職の実現に向けて頑張りましょう。
〔授業の概要〕
各回、参加者の卒業論文のテーマにそって、論文作成の指導を行います。またあわせて就職指導などキャリアガイダンスも行います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
図書館での文献調査や地域でのフィールド調査を自主的に行うこと。
〔授業計画〕
第 1 回　論文の書き方　1
　テーマの設定について。
第 2 回　論文の書き方　2
　論文とは何か。
第 3 回　論文の書き方　3
　文献の探し方。
第 4 回　論文の書き方　4
　資料収集について。
第 5 回　論文の書き方　5
　文献・書物の読み方。
第 6 回　論文の書き方　6
　仮説と実証について。
第 7 回　論文の書き方　7
　質的研究と量的研究。
第 8 回　論文の書き方　8
　データの収集について。
第 9 回　論文の書き方　9
　研究倫理について。
第 10 回　論文の書き方　10
　章節構成について。
第 11 回　論文の書き方　11
　語彙と文章について。
第 12 回　論文の書き方　12
　発表について。
第 13 回　キャリアガイダンス　1
　自己認識について。
第 14 回　キャリアガイダンス　2
　企業研究について。
第 15 回　まとめ
　全体を通じて個別に指導する時間を設けます。
〔成績評価〕
レポート（100点）によって評価する。
〔教科書〕
特に設けない。
〔参考文献〕
授業中に適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
あらかじめ受講許可者のみ受講可。
〔オフィスアワー〕
水曜日12時30分から14時まで。できればあらかじめアポをとってください。

教育行政学【中等】

1022
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
三羽　光彦

〔到達目標〕
①学校教育を中心とする教育行政の基礎知識を習得する。②教育政策や教育法の改正動向を知る。③近年の教育行政学の研究成果や論点を整理する。④教育と教育行政を動かす法的メカニズムを学校教育の現場に即して理解する。以

上を到達目標とし、あわせて将来学校教員となる者のための教職教養としての観点から、学校現場で教育行政的知見を活用できるようにする。

〔授業の概要〕

授業内容は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方公務員法、地方教育行政法、学習指導要領など、法制度的な枠組みを軸に、重要な教育行政の基礎知識や研究成果、論点を明らかにする。授業はあらかじめ講義概要と参考文献、参考資料を提示し、それに基づいて自学自習したうえでレポートを提出、そのレポート教師に基づいて学習者同士の話し合を行う形で進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業概要と参考文献や資料を示すのでそれにあたって読んでおくこと(予習100分)、授業内容に即したレポート課題を出すので、それを作成すること、授業後のレポート作成（100分)。

〔授業計画〕

第 1 回　教育行政の意義と機能
教育目的としては個人と国家・社会という二重性、人権保障のシステムとしては自由権と社会権の二重性、教育政策的には、人権保障のシステムとしての理念的側面と人材養成としての現実的側面、それらが矛盾しながら複合している教育行政について理解する。

第 2 回　日本国憲法と教育を受ける権利
日本国憲法の教育条項の意義について、歴史的、国際的に理解し、法解釈をめぐる諸学説を整理する。あわせて教育を受ける権利をめぐる今日的課題を考察する。

第 3 回　教育基本法の意義と論点
2006年に改正された教育基本法（新教育基本法）を1947年に制定された旧教育基本法と照らし合わせながら、各条項の意義、問題点、論点などを整理する。

第 4 回　学習権保障と義務教育制度
現代日本の義務教育法制の基礎を理解した上で、学習権、就学権保障の問題を理解し、夜間中学や義務教育学校、義務教育年限延長や学校統廃合問題について考察する。

第 5 回　教職員の権利と責務
学校教員の勤務条件と権利、専門職としての教員のあり方、さまざまな学校職員の役割と関係、教員の養成・採用・研修のあり方を理解し、あわせて教師の教育の自由についてその法的考察を行う。

第 6 回　公教育の無償制と教育財政
公教育における私費負担問題、公教育の機会均等の原則と無償制原則、高等教育財政と高等教育無償制、私学助成、幼児教育無償制などを理解した上で、日本の文教予算の動向について考察する。

第 7 回　教育行政の原理と教育委員会制度
教育の自主性を尊重し、教育の地方自治を原理とする教育と教育行政の関係、教育条件整備を目的とする教育行政のあり方について考察する。

第 8 回　教育委員会制度の変遷と教育行政改革
戦前教育行政の諸問題、教育委員会制度の理念と原理、教育委員会制度の変遷を理解するとともに、今日の教育行政改革について考察する。

第 9 回　教育課程行政の制度と課題
教育課程行政の仕組み、学習指導要領の役割と法的性格、教科書の検定・採択・使用等について理解した上で、家永教科書裁判が提起した問題について考察する。

第 10 回　初等・中等教育の学校制度とその原理
近代学校の成り立ちと、統一学校運動、中等教育一元化の歴史、戦後日本の中等教育改革の意義を理解し、あわせて2007年学校教育法改正の諸問題を考察する。

第 11 回　近年の学校制度改革の動向
単位制高等学校、総合学科の設置、学校選択制の導入、中等教育学校・義務教育学校の創設などを理解し、学校制度の諸問題を考察する。

第 12 回　幼稚園・保育所の現状と幼児教育の諸問題
幼児教育の義務化問題、無償化の動向、幼保一元化・一体化の課題を理解した上で、あるべき幼児教育を考察する。

第 13 回　高等教育行政と大学
公教育機関としての大学の理念、学問の自由、教育を受ける権利を基礎とした大学自治、大学の質保障・大学評価の問題を理解し、大学教育のあり方を考察する。

第 14 回　特別支援教育の制度と学校の危機管理
特別支援学校の種類、特別支援学級、通級指導について理解し、特別支援教育の理念と制度について考察する。また、学校安全、災害対応、感染症対策など学校の危機管理についても理解を深める。

第 15 回　まとめ
全体として授業を振り返り、学校教育を中心とする教育行政のしくみと課題を復習する。

〔成績評価〕

レポートによって試験を実施する。評価は、最終課題（定期試験レポート）50%、毎時の課題（小レポート）あわせて50%によって評価する。

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

井深・大橋・中嶋・川口編著『テキスト教育と教育行政』勁草書房、2015年。
文部科学省『小学校学友指導要領』、『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

教育の基礎的理解に関する科目、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）、中一種、高一種、必修

〔オフィスアワー〕
毎週水曜日昼12時30分から14時まで、三羽 研究室（本館4階17）にて。できれば事前にアポを取ってください。

演習Ⅰ【近代日本教育史の研究】

8335
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
三羽　　光彦

〔到達目標〕
この演習は3年前期の続きです。内容は、①卒業論文の研究と指導、②就職活動の指導、です。卒論の完成と就職の実現に向けて頑張りましょう。
〔授業の概要〕
各回、参加者の卒業論文のテーマにそって、論文作成の指導を行います。またあわせて就職指導などキャリアガイダンスも行います。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
図書館での文献調査や地域でのフィールド調査を自主的に行うこと。
〔授業計画〕
第 1 回　論文の書き方　1
　　テーマの設定について。
第 2 回　論文の書き方　2
　　論文とは何か。
第 3 回　論文の書き方　3
　　文献の探し方。
第 4 回　論文の書き方　4
　　資料収集について。
第 5 回　論文の書き方　5
　　文献・書物の読み方。
第 6 回　論文の書き方　6
　　仮説と実証について。
第 7 回　論文の書き方　7
　　質的研究と量的研究。
第 8 回　論文の書き方　8
　　データの収集について。
第 9 回　論文の書き方　9
　　研究倫理について。
第 10 回　論文の書き方　10
　　章節構成について。
第 11 回　論文の書き方　11
　　語彙と文章について。
第 12 回　論文の書き方　12
　　発表について。
第 13 回　キャリアガイダンス　1
　　自己認識について。
第 14 回　キャリアガイダンス　2
　　企業研究について。
第 15 回　まとめ
　　全体を通じて個別に指導する時間を設けます。
〔成績評価〕
レポート（100点）によって評価する。
〔教科書〕
特に設けない。
〔参考文献〕
授業中に適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
あらかじめ受講許可者のみ受講可。
〔オフィスアワー〕
水曜日12時30分から14時まで。できればあらかじめアポをとってください。

中等教科教育法Ⅱ（社会）

2102
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.中学校学習指導要領解説社会編が、それぞれの分野・単元で示す「目標及び内容」「内容の取扱い」についての理解を探求しようとする態度を身に付けている。
2.中学校学習指導要領解説社会編が、それぞれの分野・単元で示している「社会科的な見方・考え方」について、迷いなく生徒に指導できるよう、十分に咀嚼し、自らの言葉で語ることができる。
3.的確な学習指導案を作成できるとともに、適切な評価基準を設定することができる。
4.模擬授業を通じ、「発問・指示・板書」などを含む実際の授業を展開する際の指導上のスキル・留意事項を身に付けている。
5.学習指導案の作成、模擬授業の分析等を他とのディスカッションを通じて行う「教員の同僚性」の基礎を体得する。
〔授業の概要〕
　後期の授業では、前期で中学校学習指導要領解説社会編の見方、授業デザインの考え方等を学んだことを受け、各自が作成した指導案にもとづく模擬授業を通じて、「発問・指示・板書」などを含む実際の授業を展開する際のスキル・指導上の留意事項について学びたい。
　また、自らの授業に対して、生徒を適切に評価する観点・方法についてもふれてみたい。そのために、授業後の「テスト作成」にも挑戦することができればありがたい。
　なお、後期の授業においては、多くの場面でグループワークを取り入れていく。今次の学習指導要領改訂の柱である「アクティブラーニング（対話的な深い学び）」を体得してほしい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊授業の際に範囲を指定するので、次の授業までに「中学校学習指導要領解説社会編」に眼を通してから授業に臨む
＊指導案作成、単元テスト作成のグループワークを行なう
＊授業後の振り返りシートを提出する

〔授業計画〕
第 1 回　授業評価をもとにした授業改善のあり方
（学習指導案の見方、授業観察のポイント、授業評価シート、グループワークの班編成）
第 2 回　教員の「授業テクニック 」
（授業者の役割、プレゼンテーションスキル、「分かりやすい教え方」の技術、）
第 3 回　学習指導案の作成（地理）
（グループワークによる授業構想づくり…次時の模擬授業実施グループを決定）
第 4 回　模擬授業の実施（地理）
（班ごとに授業評価⇒全体化⇒講評・まとめ）
第 5 回　学習指導案の作成（歴史）
（グループワークによる授業構想づくり…次時の模擬授業実施グループを決定）
第 6 回　模擬授業の実施（歴史）
（班ごとに授業評価⇒全体化⇒講評・まとめ）
第 7 回　学習指導案の作成（公民）
（グループワークによる授業構想づくり…次時の模擬授業実施グループを決定）
第 8 回　模擬授業の実施（公民）
（班ごとに授業評価⇒全体化⇒講評・まとめ）
第 9 回　ICT活用を意識した模擬授業の実施
（班ごとに授業評価⇒全体化⇒講評・まとめ）
第 10 回　学習評価と授業改善
（観点別評価、評価材料、評価規準、評価基準）
第 11 回　模擬授業実施と評価問題作成（地理）
（授業に関連した評価材料をグループワーク、（課題）テスト問題1問作成）
第 12 回　模擬授業実施と評価問題作成（歴史）
（授業に関連した評価材料をグループワーク、（課題）テスト問題1問作成）
第 13 回　模擬授業実施と評価問題作成（公民）
（授業に関連した評価材料をグループワーク、（課題）テスト問題1問作成）
第 14 回　授業の中での生徒とのコミュニケーション
（「自尊感情」の承認、「共感力」、「建前と本音のバランス」、「承認」のコミュニケーション）
第 15 回　授業スキルの向上・自己トレーニングの実際
（生徒の「やる気」構造、「気づき」の感性、思考力を向上させる「発問」、日々の心がけ）

〔成績評価〕
期末のレポート(45%)、振り返りシート(30%)、課題作成(15%)、グループワークの状況 (10%)、模擬授業実施者には(10%)の加点

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

〔参考文献〕
テキストは使用せず授業の中で随時紹介、指導案作成・模擬授業実施にあたっては、適宜、関連プリントを配付する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種（社会）、必修
✰前期に学んだ指導法理論を、教育実践に活きる指導技術として身に付け、大学卒業後も即戦力として期待されるよう支援したい

【実務経験の活用】
教員、市教委事務局職員として学んだことを基に、最新の情報を含めた教科指導法として、将来、教員を目指そうという志をもつ学生に伝える。

〔オフィスアワー〕
水曜日：16:00から17:00
場　所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

中等教科教育法Ⅱ（社会・公民）

4402
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.高等学校学習指導要領解説公民編が、それぞれの分野・単元で示す「目標及び内容」「内容の取扱い」についての理解を探求しようとする態度を身に付けている。
2.高等学校学習指導要領解説公民編が、それぞれの科目で示している「社会的な見方・考え方」について、迷いなく生徒に指導できるよう、十分に咀嚼し、自らの言葉で語ることができる。
3.的確な学習指導案を作成できるとともに、適切な評価基準を設定することができる。
4.模擬授業を通じ、「発問・指示・板書」などを含む実際の授業を展開する際の指導上のスキル・留意事項を身に付けている。
5.学習指導案の作成、模擬授業の分析等を他とのディスカッションを通じて行う「教員の同僚性」の基礎を体得する。

〔授業の概要〕
後期の授業では、前期で高等学校学習指導要領解説公民編の見方、授業デザインの考え方等を学んだことを受け、各自が作成した指導案にもとづく模擬授業を通じて、「発問・指示・板書」などを含む実際の授業を展開する際のスキル・指導上の留意事項について学びたい。
また、自らの授業に対して、生徒を適切に評価する観点・方法についてもふれてみたい。そのために、授業後の「テスト作成」にも挑戦することができればありがたい。
なお、後期の授業においては、多くの場面でグループワークを取り入れていく。今次の学習指導要領改訂の柱であ

る「アクティブラーニング（対話的な深い学び)」を体得してほしい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

＊授業の際に範囲を指定するので、次の授業までに「高等学校学習指導要領解説公民編」に眼を通してから授業に臨む
＊指導案作成、単元テスト作成のグループワークを行なう
＊授業後の振り返りシートを提出する

〔授業計画〕

第 1 回　授業評価をもとにした授業改善のあり方
（学習指導案の見方、授業観察のポイント、授業評価シート、グループワークの班編成）
第 2 回　教員の「授業テクニック」
（授業者の役割、プレゼンテーションスキル、「分かりやすい教え方」の技術、等）
第 3 回　学習指導案の作成（公共）
（グループワークによる授業構想づくり…次時の模擬授業実施グループを決定）
第 4 回　模擬授業の実施（公共）
（班ごとに授業評価⇒全体化⇒講評・まとめ）
第 5 回　学習指導案の作成（倫理）
（グループワークによる授業構想づくり…次時の模擬授業実施グループを決定）
第 6 回　模擬授業の実施（倫理）
（班ごとに授業評価⇒全体化⇒講評・まとめ）
第 7 回　学習指導案の作成（政治・経済）
（グループワークによる授業構想づくり…次時の模擬授業実施グループを決定
第 8 回　模擬授業の実施（政治・経済）
（班ごとに授業評価⇒全体化⇒講評・まとめ）
第 9 回　ICTの活用を意識した模擬授業の実施
（班ごとに授業評価⇒全体化⇒講評・まとめ）
第 10 回　学習評価と授業改善
（観点別評価、評価材料、評価規準、評価基準）
第 11 回　模擬授業実施と評価問題作成（公共）
（授業に関連した評価材料をグループワーク、（課題）テスト問題1問作成）
第 12 回　模擬授業実施と評価問題作成（倫理）
（授業に関連した評価材料をグループワーク、（課題）テスト問題1問作成）
第 13 回　模擬授業実施と評価問題作成（政治・経済）
（授業に関連した評価材料をグループワーク、（課題）テスト問題1問作成）
第 14 回　授業の中での生徒とのコミュニケーション
（「自尊感情」の承認、「共感力」、「建前と本音のバランス」、「承認」のコミュニケーション）
第 15 回　授業のスキル向上・自己トレーニングの実際
（生徒の「やる気」構造、「気づき」の感性、思考力を向上させる「発問」、日々の心がけ）

〔成績評価〕

期末のレポート(45%)、振り返りシート(30%)、課題作成(15%)、グループワークの状況 (10%)、模擬授業実施者には(10%)の加点

〔教科書〕

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編

〔参考文献〕

テキストは使用せず授業の中で随時紹介、指導案作成・模擬授業実施にあたっては、適宜、関連プリントを配付する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。)、高一種（公民)、必修
☆前期に学んだ指導法理論を、教育実践に活きる指導技術として身に付け、大学卒業後も即戦力として期待されるよう支援したい

【実務経験の活用】

教員、市教委事務局職員として学んだことを基に、最新の情報を含めた教科指導法として、将来、教員を目指そうという志をもつ学生に伝える。

〔オフィスアワー〕

金曜日：15:30から16:30
場　所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　教育⑤

8216
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
林　　知代

〔到達目標〕

１．少人数制大学の特色を生かし、学科を超えたより良い人間関係の構築
２．本学における習得すべきことを理解したうえで、自主的に学び新たな発見を導き出せる力
　を見つける。
３．コミュニケーション力を養う。論理的かつ冷静に議論し、自分の考えを発表し書くことが
　できる能力を養う。
４．本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
５．有為な社会人となるため、夫々の学科の専門性基づく知識と社会人基礎力習得の必要性を
　理化し、各自のキャリアプランを自ら構築する。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各々クラスに1~2名の担任を配置する。双方向型授業を中心に展開する。
・授業形態は全体会及び学科別・クラス別授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーにのっとり、キャリアプランについてグループディスカッションし、自
　らの学生機関の学習行動計画を立てる。

・A泥るを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生性格上起こりうるトラブルとその可決方法などを学び、グループディスカッション等を
通じて、良識ある行動をするための自己規範を構築する。
・(全)記号は全学科合同、(学科)記号は教育学科合同、(クラス)記号は各クラスでの実施メニュ
ー。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中にプレゼン発表をするので、情報機器の基礎的操作は各自身に着
けておくこと。ノートPCやICT端末を授業に持ち込むことが望ましい。

〔授業計画〕

第 1 回　開講にあたって
授業概要、評価の説明。社会人基礎力シートの作成。Aドリル学習についての説明。

第 2 回　学生会活動とその意義(学生部及び学友会)
学生会活動についての説明および学園祭での各イベント内容の周知と役割分担について。

第 3 回　(クラス)自分を知ろう④
社会人基礎力シートの振り返りおよび面談。自分の適性を知る。および担任との面台を行い後期の目標設定をする。

第 4 回　(クラス)読書案内
学科の教員推薦図書を参考に読みたい本を吟味する。

第 5 回　(学科)ビジネスマナーについてDVD視聴
社会人としての常識・礼儀・マナーについて学ぶ。

第 6 回　(学科)卒業生に聞く
社会人となって頑張っている本学卒業生の話を聴く。

第 7 回　(学科)リーダーシップとは
外部講師による講話

第 8 回　(クラス)グループワークとプレゼンテーション
自己を高める大学生活について

第 9 回　(クラス)自分を知ろう⑥
キャリアプランの立案。
前期で作成したワークを基に自身のキャリアプランを立てる。

第 10 回　(クラス)専門演習での図書館の活用
次年度の専門演習についての心構え。

第 11 回　(クラス)文献・情報の利用と研究倫理
著作権・肖像権とSNSの問題点

第 12 回　(学科)SPIテスト
就職に備えて自覚をする。

第 13 回　(学科)専門演習ガイダンス
各ゼミ担当の教員によるシラバス説明。

第 14 回　教育学科卒業論文発表会
先輩の卒業論文発表を聴く。

第 15 回　(学科)まとめ
レポート。これまでの復讐・解説を行い授業の理解を深める。

〔成績評価〕

平常点(50%)、まとめレポート(20%)、SPIテスト(30%)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述(量と質)のポートフォリオ評価を行う。
・授業内での発表や参加大度を評価加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日1限目

教育相談の理論と方法【中等】

2407
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
林　　知代

〔到達目標〕

生徒の心理的問題を軽減・緩和し、学校集団生活が充実したものになるため、個々に置かれた状況や特性、発達に即した支援に必要な、心理的基礎知識を身に着け教育現場でどう役立てるのかその方法を学ぶ。

〔授業の概要〕

青年期前期に該当する心身の変化の激しい生徒に対し、彼らの不安や悩みを個々の成長・発達を見据えていかに対応するかについて、テキスト及び資料を基に現場事例や臨床心理学的問題も挟みながら理解を深めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習として、学ぶ単元についての自身の学校生活や、教育関連のニュースを調べておく。
復習として、授業で知り得たことを具体的に自分の言葉でまとめる。

〔授業計画〕

第 1 回　開講にあたって
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介

第 2 回　教育相談の意義と概要
学校における教育相談の特徴をチーム学校という視点から理解し意義を認識する。

第 3 回　教師の視点からの生徒理解
信頼に基づく教師と生徒の関係性について理解を深める。

第 4 回　発達の視点からの生徒理解
青年期に生じる不安と自己理解の視点から理解を深める。

第 5 回　教師におけるカウンセリング技法
カウンセリングについて、基本的な理論と心理療法技法を学ぶ。
第 6 回　学校における教育相談の在り方
教育相談に関わるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教員などの学校内でのあり方を知る。
第 7 回　学校に関連する問題についての理解
いじめ、不登校、中途退学、虐待、非行など、学校と関連する生徒の問題について検討する。
第 8 回　学校に関連する問題についての対応
いじめ、不登校、中途退学、虐待、非行など、学校と関連する生徒の問題への対応を考える。
第 9 回　問題行為についての理解と対応
リストカット、家出、暴力行為、インターネット、性の問題などの問題行為の理解と対応を考える。
第 10 回　発達に注意を要する生徒への理解
特に外見上判別しがたいが発達特性を持つ生徒の集団生活の困難さの気づき理解を深める。同時に保護者への対応についても学ぶ。
第 11 回　中高生に起こりやすい精神疾患と身体疾患
自分では気づかないうちに過剰に適応的であったり抑圧するなどで生じる精神的、身体的疾患を考える。
第 12 回　教育相談に必要な連携
学校の中で、チームとして機能するための教育相談の在り方と、学校外でも専門機関や専門家との協働で動く際の教育相談の役割を説明する。
第 13 回　保護者との協力体制
保護者もそれぞれに個性を持ち社会的役割を担っている存在であることを了解しながら、生徒のバックグラウンドとなっている環境の大きな要素である保護者とどう協力していくかについて考える。
第 14 回　教員のメンタルヘルス
教員が問題を一人で抱え込むことのない環境づくりをチーム学校という概念を念頭に考えていく。
第 15 回　まとめ
定期試験

〔成績評価〕
ポートフォリオ(30%)
授業中の態度(10%)
試験(60%)

〔教科書〕
教育相談の理論と方法 - 中学校・高校編 - (2015、原田真理著　玉川大学出版部)

〔参考文献〕
児童生徒の教育相談の充実について－学校の教育力を高める組織的な教育相談体制付く－（2017年1月　教育相談等に関する調査研究協力者会議報告)、その他。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法、中一種、高一種、必修

【実務経験の活用】
教育現場経験により、今日的な課題（いじめ・不登校等）の対応を生徒視点と教員、保護者の各視点の多次元的捉え方から問題を個々に応じた方向性に導くことの指導をする。

〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ心理学Ⅱ

3301
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
林　　知代

〔到達目標〕
前期の心理カウンセリング１で培った知識理解に基づき、実際のカウンセリング場面を想定して実践的に理解を深める。
心理アセスメントに役立てる心理テストや知能検査、心理療法を体験しカウンセリングへの関心意欲を高め、心理療法の技能を理解する

〔授業の概要〕
カウンセリングで活用される主な心理テストを理論だけはなく、実践を通して実際のカウンセリングの組み方について説明をしていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
授業で行う心理テストや検査について調べておく。
授業で実施した心理テストや検査を再度やって自分で結果を精査する。

〔授業計画〕
第 1 回　開講にあたって
カウンセリング心理学1との関連、授業の目的、授業の予定、参考文献・資料の紹介をする。
第 2 回　心理テストのカウンセリングへの活用
カウンセリングの方針を決める時の心理テストのバッテリーを組む際の活用と注意点を知る。
第 3 回　心理テストの報告書の書き方
アセスメントの際の心理テスターの心得について説明する。
第 4 回　自律神経失調症
日常生活を送りながら不調を感じる不定愁訴をはじめとして、自律神経の状態を理解し調べる。
第 5 回　性格検査　1
性格を知るための代表的検査を体験する。クレッチマー気質検査、TEG検査の体験とそれぞれの違いと活用を学ぶ。
第 6 回　性格検査　2

性格検査YGを体験し、他の性格検査と比較結果を多重的に知る。
第 7 回　知能テスト1
知能テストから何を知るのかを学ぶ。世界的に使用されているWISC‐Ⅳ, WAIS-Ⅳの下位項目を実際に体験する。
第 8 回　知能テスト２
田中ビネーと京大NXを評価の仕方をWISCと比較しつつ説明する。
どちらかを体験しその違いを体験する。
第 9 回　Ｐ－Ｆスタディ
P－Fスタディの体験から、人のフラストレーションの状況時の感情と表出のあり方を学ぶ。
第 10 回　文章完成テスト（SCT）
文章完成テストSCTを体験し、そこから捉えられるもののポイントを深く知る
第 11 回　夢
カウンセリングにおける夢の活用の仕方を学び、自分が見た夢を通してその時の心理状態を把握していく。
第 12 回　HTP描画療法１
ゴッホの絵画の変遷をたどり、HTPの読み解きを参考に彼の内的世界を探求する。
第 13 回　HTP描画療法２
HTPテストもしくはバウムテスト、を体験し、どのような人に実施し、効果的活用となるかを学ぶ。
第 14 回　箱庭療法
箱庭療法を実際体験する。人数が多いときは箱庭の説明をしたうえでコラージュ療法を実施する。自身の作品をもとにどのように読み解くかについて学ぶ。
第 15 回　講義のまとめ
授業を振り返り、改めて心理テストのバッテリーの組み方とアセスメントについて理解を深める。

〔成績評価〕
ポートフォリオ（30%）
授業態度　(10%)
期末試験　(60%)
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
松原 達哉「心理テスト法入門」(2002)
鑢 幹八郎「夢分析入門」(1976)「夢分析の実際」(1979)

中学校学習指導要領解説　文部科学省
高等学校学習指導要領解説　文部科学省
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
カウンセリング理論が机上のものでなく実践に即したものであることを伝えること、また、心理検査や観察などの手法が自身の理解を深めるよう教授する。

〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

演習Ⅱ【日本武道】

8445
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西光　哲治

〔到達目標〕
各自が選択したテーマについてさらに深く主体的に学んでいくことで、 卒業論文のテーマを絞り込んでいくことができる。
〔授業の概要〕
前期までに学んだ理論や研究アプローチを実際に用いて調査研究を行い、卒業論文を作成する。。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
具体的な学修内容をご記入すること
・授業前の武道関係書物の収集及び読書（2時間）
・授業後のノート整理と内容確認(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　テーマにおける研究推進(論文の章立ての検討)
テーマが決まりつつあるときや決まったらある程度の漠然とした章立てを考えさせる。全体で何章構成、各章にどんなことをだいたい配するのか、卒業論文の章立ての形式的な基本などを確認させる。
第 2 回　テーマにおける研究推進(論文の章立ての検討)
前回同様、章立ての検討をさせる。
第 3 回　卒業論文「はじめに」の作成
論文が「何を意図しているか」「どのような問題意識を持っているか」「どのような結論に至ったか」「どのような結論に至ったか」「どのように議論していくか」などの点を押えてパソコンで作成させる。
第 4 回　卒業論文「本論」の作成
構成として問題・課題の説明、問題・課題に対する解決の手法によりどう解くのかパソコンにて作成させる。また論文の読みやすさを向上させるための図や表・参考文献なども取り入れる。
第 5 回　卒業論文「本論」の作成
前回同様、本論の作成。
第 6 回　卒業論文「本論」の作成
前回同様、本論の作成。
第 7 回　卒業論文「本論」の作成
前回同様、本論の作成。
第 8 回　卒業論文「結果」の作成
本研究で何を明らかにしたのか、また、 今後の課題としてどのような問題が残されているのか、といったことをパソコンで作成させる。
第 9 回　卒業論文「結果」の作成
前回同様、結論の作成。
第 10 回　卒業論文「考察」の作成

本研究での認められた有効性、関連研究と比較によるメリットなどポイントにしてパソコンで作成させる。また本研究の問題点などについてもふれる。

第 11 回　卒業論文「まとめ」の作成
本研究で何を明らかにしたこと、本論で議論したことをサマライズして答えを出す。

第 12 回　卒業論文「引用・参考文献」の執筆
論文を書く上で参考にした文献を、番号を振って列挙する。パソコンで参考文献の書き方を調べて作成させる。

第 13 回　卒業論文原稿の最終校正
文体、構成と見出し表記、目次、書式設定、誤字脱字などを確認させる。

第 14 回　卒業論文原稿の作成
最終校正を終えた者は原稿を作成させる。

第 15 回　卒業論文提出前の最終確認
製本完成の確認(黒表紙・背表紙・中表紙・目次など)

〔成績評価〕
授業への取組む姿勢(50%)
レポート作成(50%)
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②木曜日　10:00～11:30
③場所：西光研究室(福山記念館１階)
④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

演習Ⅰ【日本武道】

8345
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西光　　哲治

〔到達目標〕
少人数で専門的知識取得したことを説明できる。担当教員の指導のもとで自己の学習課題を見つけ文献資料の精読等によって自分の論文テーマとその構成を模索できる。
〔授業の概要〕
武道に関するテーマを与え、それに必要な情報をパソコン、文献などで収集しコメント文を作成し、各自発表するという授業形態を行う。それによって卒業論文のテーマを模索する。また、論文作成に必要な知識も学ばせる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回授業の復習とノートの整理(2時間)　次回行うテーマについて調べる(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　ティンバーゲンのテーマの掘り下げ術４つの問い
①調査対象の効果や目的を問いかけるテーマ、②調査対象の変化してきた理由や今後の変化予測、③目的を達成する仕組み、④研究対象の事情による成長と対象を取巻く環境に対応したカスタマイズの着目などの掘り下げ術を理解させる。

第 2 回　論文の構成
論文の構成のテーマ、要旨、目次、まえがき、本文、むすび、参考文献、付録の内容についてパソコンにて各自調べさせてる。理解したことや留意点、自己の論文テーマ構想について発表させる。

第 3 回　武道とスポーツの相違点
パソコンにて武道とスポーツの相違点を調べさせ、レポートを作成させる。各自、発表させディスカッションさせる。

第 4 回　武道と武術の相違点
パソコンにて武道と武術の相違点を調べさせ、レポートを作成させる。各自、発表させディスカッションさせる。

第 5 回　参考文献について
参考文献の意味、参考文献と著作権、参考文献の明示方法について調べさせる。

第 6 回　書籍を読書
図書館にて武道に関しての書物を探し読書する。それによって論文の構想を模索させる。次回に感想文の提出及感想文の発表をさせる。

第 7 回　書籍を読書しての批評
図書館にて武道に関しての書物を探し読書させる。次回の演習までに読み終え指定の用紙に批評を書いて提出及び批評を発表させる。発表後、質疑応答を行う。

第 8 回　卒論に必要な情報収集
パソコンによるCinii・Wikipedia・Webcat plus・amazon・統計データ・ポータブルサイト検索などを使って武道に関する情報収集をさせる。

第 9 回　卒論に必要な情報収集
パソコンによるCinii・Wikipedia・Webcat plus・amazon・統計データ・ポータブルサイト検索などを使って武道に関する情報収集をさせる。

第 10 回　卒論に必要な情報収集
パソコンによるCinii・Wikipedia・Webcat plus・amazon・統計データ・ポータブルサイト検索などを使って武道に関する情報収集をさせる。

第 11 回　卒論に必要な情報収集
パソコンによるCinii・Wikipedia・Webcat plus・amazon・統計データ・ポータブルサイト検索などを使って武道に関する情報収集をさせる。

第 12 回　卒論に必要な情報収集

パソコンによるCinii・Wikipedia・Webcat plus・amazon・統計データ・ポータブルサイト検索などを使って武道に関する情報収集をさせる。

第 13 回　卒論に必要な情報収集
パソコンによるCinii・Wikipedia・Webcat plus・amazon・統計データ・ポータブルサイト検索などを使って武道に関する情報収集をさせる。

第 14 回　卒論に必要な情報収集
パソコンによるCinii・Wikipedia・Webcat plus・amazon・統計データ・ポータブルサイト検索などを使って武道に関する情報収集をさせる。

第 15 回　まとめ
・卒論テーマ、卒論構想などを発表させる。
・本年度の反省と来年度の展望(卒論作成計画)のレポート作成

〔成績評価〕
授業への取組む姿勢(50%)
レポート作成(50%)

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②木曜日　10:00～11:30
③場所：西光研究室(福山記念館１階)
④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

スポーツ演習Ⅳ【護身術・ｽﾎﾟｰﾂﾁｬﾝﾊﾞﾗ】

2037
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
西光　哲治

〔到達目標〕
礼節の順守と精神の鍛練を心掛けることができる。
護身術（日本拳法)・スポーツチャンバラの基本技を身につけ基本ルールのもと試合ができる。活動を通じて護身術・スポーツチャンバラの意義と修練の目的を理解できる。

〔授業の概要〕
はじめに準備体操及びストレッチを入念に行う。次に発声練習を行って十分に気を引き締めさせる。そして次に形（構え）を正しく整えさせることに留意させる。その後、基本技を習得するため反復練習を十分行い、基本技術がある程度身に付くようになったら乱取稽古を行う。
前半の演習は護身術（日本拳法)、後半の演習はスポーツチャンバラを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
事前に日本拳法・スポーツチャンバラの歴史・特徴・技の構成などについて書物やインターネットで調べておく(2時間)
演習後は技の留意点を意識して自主的に反復練習を行う(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
受講の共通理解及び受講上の注意事項、けが防止の心得、準備物の確認を行う。

第 2 回　日本拳法における立礼・座礼・蹲踞の礼及び構え
立礼・座礼・蹲踞の礼の励行と構え(身構え・心構え)についての理解

第 3 回　日本拳法　基本突きと歩法について
平行自然体の両手突き、前拳・後拳の面突き、寄り足（歩法）と突きを連携した移動稽古、寄り足と突きを連携した撃ち込み稽古（二人一組で）を行う。これの反復練習を行う。撃ち込み稽古ではお互いに良い点や改善点があれはアドバイスする。

第 4 回　日本拳法　蹴り技の修得
各種蹴り技の理解と突き蹴りの習得練習。蹴りのポイントと留意点を説明し見本を見せる。蹴り技の練習は胴の防具たげを付けて二人一組になり一方が突き蹴りの練習(5分)をし、もう一方は技のポイントや留意点ができていないところがあればアドバイスする。それが終わったらもう一方も同じことをする。これの反復練習を行う。

第 5 回　日本拳法　投技について
大外刈り・内股技の習得練習。これらの投技のポイントと留意点を説明し見本を見せる。投げ技の練習は二人一組になり一方が投技の練習(5分)をし、もう一方は技のポイントや留意点ができていないところがあればアドバイスする。それが終わったらもう一方も同じことをする。この練習を何回か続ける。次に投げてから押え込んでの突き・膝蹴りなどに発展させる決め技の修得練習を行う。この時点では防具着装はしない。

第 6 回　日本拳法　関節技について
横受からの逆技・組討ちからの逆技の習得練習。これらの関節技のポイントと留意点を説明し見本を見せる。関節技の練習は二人一組になり一方が横受からの逆・組打ちからの逆などの習得練習(5分）をし、もう一方は技のポイントや留意点ができていないところがあればアドバイスする。それが終わったらもう一方も同じことをする。この時点では防具着装はしない。

第 7 回　日本拳法　打ち込み及び約束練習
打込み：個々の技の正確さとスピードのある技の習得練習。(胴だけ着用)
約束練習：相手の動きに合わせて技を掛ける練習。(合わせ技・後寄足・反身)

第 8 回　日本拳法　乱取稽古及び試合

防具着装して自由に当身技を用いた技の掛け合い稽古と試合を行う。
・①突き技のみの乱取　②蹴り技のみの乱取　③投技のみの乱取
　④①～③の技を駆使しての乱取
・試合実施

第 9 回　スポーツチャンバラ　基本技術①構えと基本技
・構えについて小太刀の片手持ち・両手持ち、足の左前・右前を確認させる。
・基本技の①押え打ち②すくい打ち③扇打ち④突きなどの習得練習を行う。
・上記①～④の基本技を組合せて二連の攻撃、三連の攻撃を行わせる。
・乱取稽古を行い二連の攻撃、三連の攻撃の練習をさせる。

第 10 回　スホーツチャンバラ　基本技術②移動稽古
押え打ち・すくい打ち・扇打ち・突きなどの基本練習と移動しての打突練習を行う。次に面の防具を着装して小太刀を用いて乱取稽古を行う。
乱取稽古終わった後に各自に良かった点や改善点を発表させる。それらを踏まえてもう一度乱取稽古を行う。最後に自由稽古の時間を与え、各自に良かった点や改善点を基に技の復習をさせる。

第 11 回　スポーツチャンバラ　基本技術③防御（囲い）
防御の技のポイントや留意点について説明し見本を見せる。
二人一組になり一方が押え打ち・すくい打ち・扇打ちを行い、それに対してもう一方が囲い技の上囲い・左胴囲い・右胴囲いの防御練習（5分）を行う。それが終わったらもう一方も同じことをする。これの反復練習を行う。技のポイントや留意点ができていないところがあればお互いにアドバイスする。それを踏まえて乱取稽古にて囲いの練習を行う。

第 12 回　スポーツチャンバラ　基本技術④防御と反撃技
防御と反撃技のポイントや留意点について説明し見本を見せる。二人一組になり一方が攻撃を仕掛けそれに対してもう一方が囲いからの反撃技・バックステップからの反撃技の技術習得練習を行う。それが終わったらもう一方も同じことをする。これの反復練習を行う。技のポイントや留意点ができていないところがあればお互いにアドバイスする。それを踏まえて乱取稽古にて防御と反撃技の練習を行う。

第 13 回　スポーツチャンバラ　乱取稽古と試合
乱取稽古を中心に行い実践力を養わせる。次に一本取り勝負の総当たり戦を行い良い点や改善点を各自に簡単に発表させる。それを意識させて再度、乱取稽古を行わせる。

第 14 回　スポーツチャンバラ　試合形式による対戦
乱取稽古にてウォーミングアップ及び技の確認を行わせる。
試合ルールに従って個人戦・団体戦を行う。
各自に勝因や敗因を発表させる。

第 15 回　合戦・サバイバルゲーム
・乱取稽古にてウォーミングアップ及び技の確認を行わせる。
・多対多によってコート内で入り乱れて戦う「合戦」ゲームを行う。
・多人数による乱戦形式で生き残りを争う「サバイバル」ゲームを行う。

〔成績評価〕
定期試験（実技試験）50%
実技発表　30%
授業への取組む姿勢　20%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
改訂版　日本拳法　著者　澤山宗海
国際スポーツチャンバラ協会公式サイト
照尾暢浩「子供を守る護身術」（出版芸能社、2007年）

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②木曜日　10:00～11:30
③場所：西光研究室(福山記念館１階)
④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　教育③

8215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西光　　哲治

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)およ

び学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。
・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。（２時間）
復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。（２時間）

〔授業計画〕

第 1 回 （学科） 授業概要、評価の説明
社会人基礎力シートの作成。Aドリル学習についての説明。
第 2 回 （学科） 学生会活動とその意義（学生部および学友会）
学生会活動についての説明及び学園祭での各イベント内容の周知と役割分担について理解する。
第 3 回 （クラス） 自分を知ろう②(社会人基礎力シートの振り返り及び面談)
社会人基礎力の理解と自身の適性を知る。また、担任と面談をおこない後期の目標設定をおこなう。
第 4 回 （学科） ビジネスマナーについて（DVD映像）
社会人としての常識・礼儀・マナーについて学ぶ。
第 5 回 （学科） 文章による表現力を学ぶ
文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など)。また、論文作成のための手法や考え方を学ぶ。
第 6 回 （学科） 情報収集方法と図書館の利用について
文献・情報の利用と研究倫理（著作権・肖像権とSNSの問題点）の理解。論文作成に向けての図書館利用、活用法を知る。
第 7 回 （学科） 先輩の話に学ぶ（本学卒業生による講話）
本学科の先輩の体験について聞き、今後の大学生活に役立てる。
第 8 回 （クラス） グループワークとプレゼンテーションの構想・作成
「自己を高める大学生活について」グループワークをおこない、グループ発表に向けての手順を知る。
第 9 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの準備①
グループでテーマを決め、プレゼンのストーリーを構築する。
第 10 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの準備②
グループで決めたテーマについて、プレゼン資料の作成をおこなう。
第 11 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの実践
プレゼンテーションを御互いに聴き、相互評価（良かった点・改善点）をおこなう。
第 12 回 （学科） SPIテスト
WEBテスト
第 13 回 （学科） プレゼンテーション大会
各クラス１グループ
第 14 回 （学科） 専門演習ガイダンス(各ゼミ担当の教員によるシラバス説明)
3年次に向けての専門演習の選択。および学問を追及するもとして基本的な研究倫理についての説明。
第 15 回 （学科） 教育学科卒論発表会
4年生の卒業研究発表を聞くことで、研究への意識と理解を深める。

〔成績評価〕

平常点(50%)、まとめレポート(20%)、SPIテスト(30%)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

とくになし

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期共通
②基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

武道論2（日本拳法）

2030
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
西光　　哲治

〔到達目標〕

礼儀作法と精神修養を心掛けて参加できる。
日本拳法の基本技を理解し、基本ルールのもと乱取稽古ができる。
活動（実践）を通じて日本拳法の意義と修練の目的が理解できる。

〔授業の概要〕
座学を行った後、実践練習を行い座学で学んだ知識が実践でどう活かされるか気づかせ発表させる。実践練習では気を引き締めさせ能動的に活動させる。男子の場合、防具着装しての「乱稽古」を中心に実施する。女子は基本を中心にしてそれを実践的に発展できるよう練習させる。実践練習の後、各自の良かった点、悪かった点を考えさせて発表させる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・学ぶ技や動作を調べる(2時間)
・学んだ技や動作の反復練習を行う(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
受講の共通理解及び受講上の注意事項、けが防止の心得、準備物の確認させる。

第 2 回　現代社会における武道の意義・効果
初めにスポーツと武道の共通して得られる意義・効果について考えさせる。次に武道が練習してそれ以外に得られる意義・効果について考えさせる。武道が他のスポーツにはない相手の攻撃による「恐怖心・痛さを乗り越え逃げない姿勢が身に付く」ことや相手の攻撃を捌く練習による「冷静に対処する平常心を養う」ことを気づかせる。

第 3 回　実践武道の日本拳法の歴史と目的
実践武道の日本拳法が誕生した経緯と日本拳法の真の目的とは何か理解させる。日本古来の柔術からの発展したことや創始の目的が実践力を身に付けることによって人格形成が養うことを理解させる。

第 4 回　日本拳法の基本技と競技ルール
日本拳法紹介ＤＶＤを用いて技のポイントや留意点の解説とルール(決め技・勝敗・反則)の説明。DVD視聴して次回からの実践練習をする場合の心構えや取り組みの注意点、ケガ防止のための対策などについてレポートを書かせて発表させる。

第 5 回　礼法（立礼・座礼・蹲踞の礼)及び構えと掛け声
立礼・座礼・蹲踞の礼法修得、構え(心構え・身構え)の修得と掛け声の発声練習を行わせる。

第 6 回　実践指導①　構えからの直突、移動突稽古
中段の構えからの直突・歩法と連携した直突のポイントと留意点を説明し見本を見せる。中段の構えからの直突練習は二人一組になり一方が直突の練習(5分)をし、もう一方は技のポイントや留意点などできていないところがあればアドバイスする。この時点では防具着装はしない。それが終わったらもう一方も同じことをする。これの反復練習を行う。次に応用の技として移動突稽古(前にステップして直突を繰り出す)の反復練習を行わせる。

第 7 回　実践指導②　蹴り、膝蹴りの練習、防具着装方法、打込み稽古
蹴りのポイントと留意点を説明し見本を見せる。蹴りの練習は二人一組になり一方が蹴りの練習(5分)をし、もう一方は技のポイントや留意点などできていないところがあればアドバイスする。それが終わったらもう一方も同じことをする。膝蹴りについても蹴りと同じやり方を行う。防具着装方法を教える。防具着装後、二人一組になり前回行った直突と今回行った蹴りと膝蹴りの打込み稽古(寸止めではく実際に衝撃を加える)を能動的に行わせる。

第 8 回　実践指導③　投技　乱取稽古
大外刈り・体落としの技のポイントと留意点を説明し見本を見せる。大外刈りの練習は二人一組になり一方が大外刈りの練習(5分)をし、もう一方は技のポイントや留意点などできてないところがあればアドバイスする。それが終わったらもう一方も同じことをする。体落としの練習も大外刈りの練習と同じやり方を行う。
防具着装しての投技の乱取稽古を行う。

第 9 回　実戦指導④　投げからの突き・膝蹴り・踏み蹴りと乱取稽古
投げからの突き・膝蹴り・踏み蹴りの技のポイントと留意点を説明し見本を見せる。二人一組になり、一方が投げからの突き・膝蹴り・踏み蹴りの練習をし、もう一方は技のポイントや留意点などできてないところがあればアドバイスする。それが終わったらもう一方も同じことをする。防具着装しての投げからの突き・膝蹴り・踏み蹴りの乱取稽古を行う。

第 10 回　実践指導⑤関節技　乱取稽古
関節技の脇捕逆・横受からの逆技・反身からの逆技のポイントと留意点を説明し見本を見せる。二人一組になり一方が脇捕逆・横受からの逆技・反身からの逆技の練習をし、もう一方は技のポイントや留意点などできてないところがあればアドバイスする。それが終わったらもう一方も同じことをする。防具着装して脇捕逆・横受からの逆技・反身からの逆技の乱取稽古行う。

第 11 回　実践指導⑥間合の取り方　乱取稽古
二人一組にならせお互いに攻撃（直突）と防御（横受）を行わせ、攻撃の間合は近間で防御の間合は遠間であることを確認させる。各自に攻撃の際、どこまで近づくことが適切か、あるいは防御の際、どこまで離れることが適切かを体感させる。防具装着して攻撃・防御の間合を意識して乱取稽古を行う。

第 12 回　実践指導⑦コンビネーション攻撃
突き技からの蹴り技、蹴り技からの突き技のコンビネーション攻撃の修得練習。
防具着装して二人一組になり当身技を使ってのコンビネーション攻撃練習。
コンビネーション修得練習ではお互いに良いところと悪いところのアドバイスし合う。防具装着してコンビネーションを使っての攻撃練習を行う。

第 13 回　実践指導⑧同一連撃　乱取稽古

同一連撃については前拳の面突きからの胴突き・胴突きからの面突き、直突きの面突きからの胴突き・胴突きからの面突きの修得練習を行う。防具着装して二人一組になり同一連撃の打込みを行う。同一連撃の修得練習ではお互いに良いところと悪いところのアドバイスし合う。防具装着して同一連撃を使っての攻撃練習を行う。

第 14 回　実戦指導⑨乱取稽古と試合形式の3本勝負
今までの学んだ技を駆使して乱取稽古と試合形式の3本勝負（2本先取りで勝ち）
を行う。

第 15 回　まとめ
構え・突き技・蹴り技・投げ技などの再確認と実技発表（乱取）

〔成績評価〕

定期試験（実技試験）50%
実技発表　30%
授業への取組　20%

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

改訂版　日本拳法　著者　澤山　宗海
絵説　日本拳法　著者　森　良之祐

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期共通
②木曜日　10:00～11:30
③場所：西光研究室(福山記念館１階)
④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

健康運動実践演習 I

2025
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西山　　清子

〔到達目標〕

健康運動実践指導者資格の合格を目標に、健康・体力づくりに必要な知識を身に付ける。

〔授業の概要〕

テキストに沿った授業を行う。
単元ごとに過去問を使用しながら、重要箇所のまとめを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学生間でテキストに引いたアンダーラインの確認をし合う。また授業前に読み返しておく。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
健康運動実践指導者の役割と資格取得方法について説明する。

第 2 回　健康づくり概論①
我が国の現状と健康づくり施策

第 3 回　健康づくり概論②
アクティブガイド2013

第 4 回　運動生理学①
骨格筋の構造。筋繊維タイプと収縮特性

第 5 回　運動生理学②
エネルギー生産とエネルギー機構

第 6 回　運動生理学③
運動の持続と呼吸循環系

第 7 回　栄養摂取と運動①
栄養素の役割

第 8 回　栄養摂取と運動②
肥満になるメカニズム

第 9 回　体力測定と評価
有酸素性能力と無酸素性能力の測定。体脂肪量の測定

第 10 回　体力測定
新体力測定と評価について

第 11 回　機能解剖とバイオメカニクス①
身体運動に関する筋と骨

第 12 回　機能解剖とバイオメカニクス②
仕事とエネルギー。筋腱複合体の弾性要素と弾性エネルギーが利用できる運動様式

第 13 回　運動指導の心理学
運動実践にかかわる社会・心理・環境的要因

第 14 回　運動障害と予防
運動中止の判定基準。内科的な急性障害と慢性障害

第 15 回　応急処置
救急処置（一時救命処置、応急手当）
整形外科的障害と外科的救急処置およびテーピング

〔成績評価〕

授業への取り組み（20%）
授業中の課題（30%）
レポート（20%）
定期試験（30%）

〔教科書〕

「健康運動実践指導者養成テキスト」健康・体力づくり事業財団

〔参考文献〕

「健康運動指導者必携ハンドブック」健康・体力づくり事業財団
厚生労働省発表資料

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、日時を相談して後日、研究室にて行う。

健康運動実践演習Ⅲ

2026
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西山　　清子

〔到達目標〕
健康運動実践指導者資格合格を目標に、健康・体力づくりに必要な知識を身に付ける。
11月の実技試験および1月の筆記試験の合格を目指す。
〔授業の概要〕
講義形式の授業は行わず、実技試験および筆記試験の対策が中心である。
実技試験および筆記試験に向けて特別講義も設定して徹底した合格対策を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
空き時間を活用して、受験者同士で実技試験日まで実技試験の練習を行う。
実技試験が終了後は、4冊の過去問に取り組む。
〔授業計画〕
第 1 回　健康づくり施策概論
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 2 回　運動生理学
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 3 回　機能解剖とバイオメカニクス
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 4 回　栄養摂取と運動
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 5 回　体力の測定と評価
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 6 回　健康づくりと運動プログラム
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 7 回　運動指導の心理学(社会学)的基礎
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 8 回　運動指導と実際
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 9 回　運動障害と予防・応急処置
テキストの復習。課題を見つけ弱点を補強。
過去問で対策。
第 10 回　有酸素運動の指導法①
健康運動実践指導者　養成用DVDを使用した実技試験対応①
実技試験の練習。
第 11 回　有酸素運動の指導法②
健康運動実践指導者　養成用DVDを使用した実技試験対応②
実技試験の練習。
第 12 回　有酸素運動の指導法③
健康運動実践指導者　養成用DVDを使用した実技試験対応③
実技試験の練習。
第 13 回　テキストのまとめと筆記試験対応①
筆記試験対策。テキストの復習と過去問①
第 14 回　テキストのまとめと筆記試験対応②
筆記試験対策。テキストの復習と過去問②
第 15 回　テキストのまとめと筆記試験対応③
筆記試験対策。テキストの復習と過去問③および練習問題
〔成績評価〕
授業の取り組み(20%)
実技小テスト(40%)
筆記小テスト(40%)
〔教科書〕
「健康運動実践指導者養成テキスト」健康・体力づくり事業財団
〔参考文献〕
「健康運動実践指導者試験筆記対策分野別＆模擬問題集」桑山純一他（NESTA JAPAN）
「健康運動実践指導者認定試験対策問題集」西端泉(ラウンドフラット)
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
相談して日時を設定して研究室にて行う。

運動学（運動方法学含む）

4019
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
田路　秀樹

〔到達目標〕
本講義の到達目標は、１．骨格筋のしくみ、働きを修得すること、２．運動と力学の法則を修得すること、３．身体重心の求めかたを修得すること、４．走・跳・投、打・蹴・泳・滑における力学的法則を修得すること、５．身体活動の法則の理解を通して効果的な動作を考察することができるようになることである。
〔授業の概要〕
本科目は、教職（保健体育）における必修科目である。本授業は力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用して、身体活動のしくみをよりよく理解し、獲得した知識により指導に役立てるものである。そのために、優れた選手の動

作を確認し、法則性等を知り、その法則性を実際に算出したり、図示したりして理解を高めていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

本講義は教科書を基に説明するとともに、ガイダンス時に穴埋め形式になった資料を配布する。授業時は教科書、説明を参考に穴埋めを行うことによって理解を深める。授業終了後は、教科書及び資料を熟読し復習する（90分）。授業前には予習として教科書及び資料を必ず読んでくる（90分）。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス、運動学とは
　授業の進め方と内容を説明し、資料を配布する。
　運動学の定義、基礎と応用について説明する。
第 2 回　エンジンとしての筋
　筋の種類と構造、収縮様式を理解する。
第 3 回　エネルギーと神経
　エネルギー供給機構、運動の指令と調整機構を理解する。
第 4 回　骨・からだの構造
　骨格系、筋系、からだの軸と関節運動を理解する。
第 5 回　運動と力学
　運動の３法則、質量と重量、運動量と力積を理解する。
第 6 回　立つ・重心
　立位姿勢、姿勢の調整、身体重心の求め方を理解し、実際に求めてみる。
第 7 回　歩く
　歩の力学的エネルギーを理解する。
第 8 回　走る
　走の力学的エネルギーを理解する。
第 9 回　跳ぶ１
　高く跳ぶ力学を理解する。
第 10 回　跳ぶ２
　遠くへ跳ぶ力学を理解する。
第 11 回　投げる１
　種々の投げる運動１の力学を理解する。
第 12 回　投げる２・打つ１
　種々の投げる運動２と打つ動作１の力学を理解する。
第 13 回　打つ２
　種々の打つ動作２の力学を理解する。
第 14 回　蹴る・泳ぐ
　蹴る動作の法則・効率と泳ぐ動作の力学を理解する。
第 15 回　滑る、回転運動
　滑る動作の分析、回転力、モーメントアームを理解する。

〔成績評価〕

基礎知識を活用して、身体活動のしくみを理解し、獲得した知識を指導に役立てることができる者に単位を授与する。到達目標に記載する能力の程度に応じて成績を与える。
成績評価の方法：授業中の質疑・発表（10%）、定期試験（90%）を基準として、受講態度を含めて総合的に判断する。

〔教科書〕

スポーツ・バイオメカニクス入門　第３版、金子公宥著、杏林書院、2006年発行
授業開始時に資料を配布する。

〔参考文献〕

スポーツバイオメカニクス、深代・桜井・平野・阿江編著、朝倉書店、2000年発行
バイオメカニクス、金子・福永編、杏林書院、2004年発行

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕

授業終了後

運動指導と実際

4026
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
西山　清子

〔到達目標〕

運動指導の目的を理解し体力向上と健康管理に繋げるために健康の基礎知識を身に付ける。
あらゆる方面から健康について理解し指導方法を身に付ける。
また、健康作りに必要な運動プログラムが立案、実施できるようになる。

〔授業の概要〕

運動の役割や効果について事例と共に解説していく。
健康づくりのプログラムの立案および指導方法を学ぶ。
また、リーダー性、発信力を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

健康の関する情報を毎日のニュースや新聞などから収集しておく。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　授業内容および運動指導者に必要とされる能力について説明する。
第 2 回　健康と運動①
　健康日本２１と第二次健康日本２１。
　健康の在り方について学ぶ。
第 3 回　健康と運動②
　健康づくりのための身体活動基準2013。運動の効果について。
第 4 回　生活習慣病
　生活習慣病発症のメカニズムおよび原因と予防改善方法。
第 5 回　体力
　体力について。行動体力と防衛体力。

第 6 回　有酸素運動
強度設定とATを超えない運動強度について。
第 7 回　筋力・筋持久力
筋力トレーニングの特性。ウォームアップとクールダウン。
第 8 回　関節可動域の拡大
ストレッチの効果および有酸素運動の効果。ロコモティブシンドロームの予防改善。
第 9 回　応急処置
1次救命（CPR、AED、異物除去)。RICE処置。
第 10 回　運動プログラムの基礎
対象者に合わせたプログラムの作成。
第 11 回　指導方法
手本となる動きや動きの説明の練習。
第 12 回　指導上の留意点
運動強度と運動内容の選択の見直しおよび安全対策。
第 13 回　運動指導①
作成したプログラムの発表。
第 14 回　運動指導②
運動指導の実際。
第 15 回　運動指導③
運動指導のまとめ。

〔成績評価〕

授業への取り組み（20%）
授業中の課題（30%）
運動プログラム作成（20%）
定期試験（30%）

〔教科書〕

特になし
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

「健康運動実践指導者養成テキスト」健康・体力づくり事業財団
「運動処方の指針ー運動負荷試験と運動プログラム」日本体力医学会体力科学委員会編

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。)、中一種（保健体育)、高一種（保健体育)、選択

〔オフィスアワー〕

授業終了後、相談して日時を設定し研究室にて行う。

健康スポーツ科学概論（1年教育・児童）

2339
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
別當　和香　伊藤　武徳　武田　光平

〔到達目標〕

1）健康を疎外する要因・運動生理学の基礎を理解し、自己の健康感の確立を図ることができる。

2）トレーニングの基礎的知識・応急処置の基本的原理・原則、スポーツ障害についての知識を習得し、自身のコンディショニングを評価することができる。

3）健康とスポーツ科学に関するグループワークを通じて、生活に運動を取り入れ、自身のスポーツライフを豊かにすることができる。

〔授業の概要〕

現代の健康に関する諸問題を取り上げるとともに、自らの健康・体力の維持増進を図る生涯スポーツと自らの能力と技術の限界に挑む競技スポーツを中心に紹介し、健康スポーツ科学への理解を深めていく。また、協同学習を通して生活習慣病の予防方法を理解し、正しい健康管理方法の実践を促す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

予習：授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておくこと。(2時間)

復習：講義内容を復習し、ノートなどにまとめておくこと。(2時間)

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
講義の進め方、受講の共通理解、評価の内容伝達(伊藤・武田・別當)
第 2 回　健康について①
現代の生活と健康（別當）
第 3 回　健康について②
心の健康（別當）
第 4 回　健康について③
現代の社会と健康（別當）
第 5 回　健康について④
健康と食事、肥満と生活習慣（別當）
第 6 回　大学生活と健康・スポーツ
減量問題、食事バランスガイド、エルゴジェニックエイド（別當）
第 7 回　運動について①
身体を知る、発育・発達とスポーツ（武田）
第 8 回　運動について②
体力づくりと体力の構成要素・新体力テストの測定方法と効果について（武田）
第 9 回　運動について③

トレーニングの原理原則、トレーニングの種類、運動の効果と分類（武田）
第 10 回　スポーツについて
スポーツの意味、「する」「みる」「ささえる」スポーツ（武田）
第 11 回　生涯スポーツについて
生涯スポーツの必要性、年齢別にみるスポーツの関わり方（伊藤）
第 12 回　スポーツにおけるリスクマネジメント
運動プログラム、ジョギング、ストレッチング、ウォーミングアップ、 クールダウン（伊藤）
第 13 回　スポーツ活動中に多い怪我と病気
スポーツ障害の予防と応急処置、熱中症、貧血、突然死（伊藤）
第 14 回　運動・スポーツ活動と安全
応急処置の基本原則、テーピングの基本と注意点(伊藤)
第 15 回　まとめ
まとめテスト(伊藤・武田・別當)

〔成績評価〕
≪配点内訳≫
毎回の授業で各先生の講義における小レポート＋授業態度＋意欲を含んだ得点が各15点
15点×4人＝60点に最終テストの40点を加えて
総合的に評価する。

〔教科書〕
適宜資料配布する
各担当の先生に確認する

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領・解説(最新版)
適宜紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
保健授業の経験を活かし、体つくり運動や健康の維持・増進やスポーツ現場における課題や問題の指導を行う。

〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

ｽﾎﾟｰﾂ演習Ⅴ【縄跳び・ﾊﾞｽｹ指導法】

2012
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
別當　和香

〔到達目標〕
1）出来るだけ多くの種目を紹介し、実習を通じてニュースポーツの楽しさと達成感を獲得することができる。

2）技術的には手軽に参加できるものが多いため、実践を通して自分の体力に応じた「新たなスポーツ」を楽しむ方策などを見つけ出すことができる。

3）バスケットボールのゲーム性とルールを理解した上で、技術・戦術のゲーム形式指導法を身に付けることができる。

〔授業の概要〕
?既成のスポーツ競技や種目にとらわれることなく、新たに開発されたスポーツ種目や世界各国のスポーツ伝統的な種目などを体験する。

?バスケットボールのルールや特性を理解したうえで、ゲーム形式指導法を通じ個人技術及びチーム戦術の獲得を目指す。

◇受講要件◇
・実技科目にふさわしい服装で受講すること
・体育館では室内シューズを使用すること
・15分を過ぎての入室及び15分以上の退室は欠席扱いとする
・腕時計、ピアス等の着用禁止
・爪は短く、長い者はテーピングで保護する事

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：シラバスで授業内容を確認し、ニュースポーツ・バスケットボールの特性に関する情報収集を事前におこなっておくこと(2時間)

復習：講義内容を復習し、ゲーム形式指導法の考案などをノートにまとめておくこと(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業目的や概要の説明・学習上の諸注意・評価について
第 2 回　アイスブレーキングの技法
様々なアイスブレイクの紹介と実践
第 3 回　ニュースポーツ（ソフトバレーボール）
ソフトバレーボールの実践による種目の概要理解
第 4 回　ニュースポーツ（インディアカ）
インディアカの実践による種目の概要理解
第 5 回　ニュースポーツ（アルティメット）
アルティメットの実践による種目の概要理解
第 6 回　ニュースポーツ（ユニバーサルホッケー）

ユニバーサルホッケーの実践による種目の概要理解
第 7 回　ニュースポーツ（キンボール）
キンボールの実践による種目の概要理解
第 8 回　バスケットボールの基礎①
ドリブル・パスの基礎とその練習法
第 9 回　バスケットボールの基礎②
シュートの基礎とその練習法
第 10 回　バスケットボールの基礎③
ディフェンスの基礎とその練習法
第 11 回　バスケットボール指導実践①
数的有利を創り出す戦術指導法①（速攻）
第 12 回　バスケットボール指導実践②
数的有利を創り出す戦術指導法②（スクリーンプレイ）
第 13 回　バスケットボール指導実践③
グループ戦術指導法（オフェンス）
第 14 回　バスケットボール指導実践④
グループ戦術指導法（ディフェンス）
第 15 回　ゲームによる評価
ゲームによる総合評価

〔成績評価〕

≪配点内訳≫
・授業への取り組み・態度　50%
・実技点　30%
・指導実践　20%

〔教科書〕

必要に応じて資料を配布する

〔参考文献〕

授業時に適宜紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕

担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

器械運動①

2016
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
実務経験有
磯貝　康成

〔到達目標〕

本科目は、教職課程認定科目で、中学教科の保健体育における器械運動領域に関する科目である。
本科目履修時に学校教育で取り扱う器械運動領域の学習内容の理解をするとともに、自らが学習指導要領に記載されている技の習得とあわせて学習時に必要な技術的な能力の習得を目指す。

〔授業の概要〕

本授業では、マット、跳び箱、鉄棒、平均台などを教材として使用し、スモールステップ(段階的学習)の必要性を自らの技の習得と合わせて学習していく。
また、技の習得段階で受講者それぞれの感じたことを共有しあい、受講者同士で技の補助をしあうなど技術の習得と合わせて、指導技術の向上を図る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前・授業中含め、準備体操・ストレッチはしっかり行うこと。
器械運動は非日常的な動きが多く大きな怪我につながる特徴を持っている。
必ず技に関する特性や留意点などについて事前に調べて準備を行うこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
器械運動の基礎知識について
第 2 回　ストレッチ講座
ストレッチングの知識と実践
第 3 回　基礎運動
マット運動に必要な前段階の関連動作の実施
第 4 回　マット運動①
前転系・後転系の回転運動
第 5 回　マット運動②
倒立、前転系・後転系の回転運動
第 6 回　マット運動③
倒立回転系の運動
第 7 回　マット運動④
倒立回転系の運動(発展技)
第 8 回　マット運動⑤
技のつなぎと構成
第 9 回　跳び箱運動①
助走とロイター板の使い方、開脚跳び・閉脚跳び
第 10 回　跳び箱運動②
台上前転
第 11 回　跳び箱運動③
倒立回転跳び
第 12 回　平均台運動①
歩く・走る・跳ぶ・バランス
第 13 回　平均台運動②
波動・回転系
第 14 回　鉄棒運動①
懸垂・振動・支持回転
第 15 回　器械運動まとめ
実技試験、評価について

〔成績評価〕

満点を100とする。
内訳【実技試験(50点)・ノート提出(30点)・授業態度(20点)】
※上記を総合的に判断して採点する。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
現場での実体験を踏まえた、実技指導においてのポイント、技の習得ができる実技授業の展開する。また民間企業、学校現場における今後の社会で求められる人物像、能力を伝えていき、学生の進路により幅広い考え方がもたらせられる指導をする。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②水曜10－13:40(後期は－11:30)、木曜10－11:30
③授業終了後、講義教室で対応
④isogai@ashiya.ac.jpおよびPhollyのメッセージにて対応
⑤特になし

体育実技（ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ男子）

2004
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
実務経験有
別當　　和香

〔到達目標〕
バスケットボールの基礎技能、戦術の習得とその球技の特性を生かした学習指導法の探求及びルール・審判法の習得を目指す。
〔授業の概要〕
シュート、パス、ドリブルなどの個人的技能を高めるとともに、攻撃や防御の戦術をチームで工夫、協力しておこなうことから、意図的に変化に富んだゲームを運営していくことに期待する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：技術的課題と戦術的課題を前もって確認しておくこと
復習：次週に繋げられるグループワークをおこなうこと
　　配布プリントの熟読と理解
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方や成績評価の方法、受講マナーについてガイダンスを行う。
第 2 回　バスケットボールの基礎①
　　基本運動（特性を生かす準備運動と補強運動）と基本ルールの習得
第 3 回　バスケットボールの基礎②
　　基本技術（パス・ドリブル・シュート）の習得。
第 4 回　審判法とゲームの基本理解
　　ルールの理解および審判法を知る 。
第 5 回　リーグ戦(1回目)
　　リーグ戦の運営方法を学ぶ。チームの戦力を把握する 。
第 6 回　パッシング・ゲームを作る①(ハーフコート3対3)
　　技術的課題 :キャッチングとピボットの基本
　　戦術的課題 :場所の優先順位を理解して攻撃する
第 7 回　パッシング・ゲームを作る②(ハーフコート3対3)
　　技術的課題 :ピボットを使ってボールを守る
　　戦術的課題 :空間へパスを送って攻撃する
第 8 回　パッシング・ゲームを作る③(ハーフコート3対3)
　　技術的課題 :各種パスを使い分ける
　　戦術的課題 :2人のコンビネーションプレーを使って攻撃する
第 9 回　パッシング・ゲームを作る④(ハーフ3対3→ハーフ5対5)
　　戦術的課題 :パスを自由自在に使い、攻撃する空間を創りながら攻撃を連続する
第 10 回　パッシング・ゲームを作る⑤(ハーフ5対5→オール5対5)
　　戦術的課題 :速攻とセットオフェンスを使い分ける
第 11 回　リーグ戦(2回目)
　　パスを効果的に使って戦う。チームの戦力向上度を評価する。
第 12 回　攻撃にドリブルを加える1 (ハーフコート3対3)
　　技術的課題 : ドリブルペネトレーション
　　戦術的課題 :ドリブルを使うべき状況を理解して攻撃する
第 13 回　攻撃にドリブルを加える2 (オールコート5対5)
　　戦術的課題 :ドリブルとパスを効果的に使い分けて攻撃する
第 14 回　トーナメント戦
　　戦術課題評価:トーナメント戦の方法を知る。
第 15 回　スキル評価
　　ボールハンドリング・ドリブル・パス・シュートスキルの評価
〔成績評価〕
平常点等(100 点)
≪配点内訳≫
・ノート提出 :20点
・授業内レポート :20点
・スキルテストによる個人技術評価及びチーム戦術達成度評価 ：40点
・チーム勝敗成績評価　:20点
〔教科書〕
文部科学省 学習指導要領
〔参考文献〕
成美堂出版/「わかりやすいバスケットのルール」
日本バス ケットボール協会/バスケットボール指導教本/大修館書店
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
部活動指導を通じて、専門的な技術・戦術の指導及び学校体育現場の球技に関する指導。また、保護者対応やコーチングに必要な知識や実践例の紹介を行う。
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　教育②

8213
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
別當　和香

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。
〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)および学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。
・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。（２時間）
復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。（２時間）
〔授業計画〕
第 1 回 （学科） 授業概要、評価の説明
社会人基礎力シートの作成。Aドリル学習についての説明。
第 2 回 （学科） 学生会活動とその意義（学生部および学友会）
学生会活動についての説明及び学園祭での各イベント内容の周知と役割分担について理解する。
第 3 回 （クラス） 自分を知ろう②(社会人基礎力シートの振り返り及び面談)
社会人基礎力の理解と自身の適性を知る。また、担任と面談をおこない後期の目標設定をおこなう。
第 4 回 （学科） ビジネスマナーについて（DVD映像）
社会人としての常識・礼儀・マナーについて学ぶ。
第 5 回 （学科） 文章による表現力を学ぶ
文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など）。また、論文作成のための手法や考え方を学ぶ。
第 6 回 （学科） 情報収集方法と図書館の利用について
文献・情報の利用と研究倫理（著作権・肖像権とSNSの問題点）の理解。論文作成に向けての図書館利用、活用法を知る。
第 7 回 （学科） 先輩の話に学ぶ（本学卒業生による講話）
本学科の先輩の体験について聞き、今後の大学生活に役立てる。
第 8 回 （クラス） グループワークとプレゼンテーションの構想・作成
「自己を高める大学生活について」グループワークをおこない、グループ発表に向けての手順を知る。
第 9 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの準備①
グループでテーマを決め、プレゼンのストーリーを構築する。
第 10 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの準備②
グループで決めたテーマについて、プレゼン資料の作成をおこなう。
第 11 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの実践
プレゼンテーションを御互いに聴き、相互評価（良かった点・改善点）をおこなう。
第 12 回 （学科） SPIテスト
WEBテスト
第 13 回 （学科） プレゼンテーション大会
各クラス１グループ
第 14 回 （学科） 専門演習ガイダンス(各ゼミ担当の教員によるシラバス説明)
3年次に向けての専門演習の選択。および学問を追及するもとして基本的な研究倫理についての説明。

第 15 回 （学科） 教育学科卒論発表会
4年生の卒業研究発表を聞くことで、研究への意識と理解を深める。

〔成績評価〕
平常点(50%)、まとめレポート(20%)、SPIテスト(30%)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕
とくになし

〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

生活とスポーツ

5014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
別當　和香

〔到達目標〕
1）講義を通じて、スポーツを「する」「見る」「支える」のそれぞれの視点で参加することができる。

2）現代社会におけるスポーツの役割を人文社会学的な視点から説明することができる。

３）スポーツを生涯の友とするライフスタイルについて、また、生涯スポーツ社会の実現に必要な客体的条件について考える力を身につけることができる。

〔授業の概要〕
スポーツの社会的役割とスポーツ文化の本質を理解することから、生涯スポーツ社会の主体形成と客体整備について学び考える。生涯にわたりスポーツ文化を享受するために、スポーツの本質を理解し、スポーツの果たす機能を理解することが必要である。本講義では、そのために必要な知見や考え方を、課題発見・解決型学習を取り入れて習得していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：シラバスで授業内容の確認をおこなっておくこと。(2時間)

復習：講義で客体化された内容をまとめ、自身の生涯スポーツ確立の実現に必要なスポーツを「する」「見る」「支える」の視点から積極的におこなうこと。(2時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業目的や概要の説明・学習上の諸注意・評価について
第 2 回　現代生活とスポーツ
スポーツが担うべき社会的役割について
第 3 回　生活の質と自由時間
生活の質に果たす自由時間の機能や役割
第 4 回　自由時間の内容とスポーツ参加
自由時間におけるスポーツ参加と生活の質との関係性
第 5 回　スポーツの手段化とスポーツの文化
スポーツの意義や価値について
第 6 回　生涯スポーツにおけるスポーツ規範
スポーツ規範とスポーツ文化の関係について
第 7 回　生涯スポーツとスポーツ技術
生涯スポーツにおける技術や戦術とスポーツ文化の関係について
第 8 回　生涯スポーツとスポーツの物的事物
生涯スポーツにおける用品・用具や施設・設備とスポーツ文化の関係性
第 9 回　コミュニティ形成と生涯スポーツ
スポーツのコミュニティ形成機能について
第 10 回　スポーツ観戦と生涯スポーツ
スポーツの直接的観戦行動と生涯スポーツの関係性について
第 11 回　メディアスポーツと生涯スポーツ
スポーツの間接的観戦行動と生涯スポーツの関係性について
第 12 回　生涯スポーツの振興施策
我が国のスポーツ振興施策の変遷と諸外国におけるスポーツ振興施策の特徴
第 13 回　スポーツ組織による生涯スポーツ振興への取り組み
(1)日本体育協会や国内統括競技団体によるスポーツ振興への取り組み
(2)日本レクリエーション協会や各種レクリエーション団体
第 14 回　スポーツ産業による生涯スポーツ振興への取り組み
スイミング・フィットネス・テニス・スキーなど各種の民間企業による生涯スポーツ振興への取り組み
第 15 回　自身の生涯スポーツを作る
「みる・やる・ささえる」から生涯スポーツへ

〔成績評価〕
≪配点内訳≫
授業への取り組み・態度　40 点
課題発表　20 点
レポート　40 点

〔教科書〕
必要に応じて資料を配布する

〔参考文献〕
授業時に適宜紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

コーチ学総論

2038
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有

別當　和香　樋山　茂　金　相煥　伊藤　武徳　石川　峻　武田　光平

〔到達目標〕
１）各競技の技術や戦術、チームビルディング、サポートスタッフの役割について学び、スポーツの価値について説明することができる。

２）自分なりのスポーツの楽しみ方を発見することやスポーツを生活の一部とする術を獲得できる。

3）スポーツを通して社会生活に必要な態度やモラルを身に付けることができる。

4）またそこから、指導者に必要とされる様々なコーチングテクニックを習得することができる。
〔授業の概要〕
それぞれの専門競技の特性を、映像を用いて概説する。
勝利に向けての各競技の取り組みの紹介。
各スポーツの見方、楽しみ方を教授する。
また、ＰＢＬ（課題解決型学習）方式の講義や実技を通して、スチューデント・アスリートとして主体的・能動的に競技できる力を習熟する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：授業計画に記載されている競技種目について事前に調べておくこと(2時間)
復習：講義内容を復習し、専用のノートにまとめておくこと(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業目的や概要の説明・学習上の諸注意・評価について　（別當）
スポーツの価値、スチューデント・アスリートとしての心構えについて
第 2 回　バスケットボール①
競技特性を学ぶ　バスケットボールの楽しみ方　（石川）
第 3 回　バスケットボール②
本学バスケットボール部の取組み　（石川）
第 4 回　バレーボール①
競技特性を学ぶ　バレーボールの楽しみ方　（番平）
第 5 回　バレーボール①
本学バレーボール部の取組み　（番平）
第 6 回　サッカー①
競技特性を学ぶ　サッカーの楽しみ方　（金）
第 7 回　サッカー②
本学サッカー部の取組み　（金）
第 8 回　ボクシング①
競技特性を学ぶ　ボクシングの楽しみ方　（樋山）
第 9 回　ボクシング②
本学ボクシング部の取組み　（樋山）
第 10 回　柔道①
競技特性を学ぶ　柔道の楽しみ方　（武田）
第 11 回　柔道②
本学柔道部の取組み　（武田）
第 12 回　プランニングについて①
プランニングの重要性を知る。　（別當）
第 13 回　剣道①
競技特性を学ぶ　剣道の楽しみ方　（伊藤）
第 14 回　剣道②
本学剣道部の取組み　（伊藤）
第 15 回　プランニングについて②
年間計画表作成。オフシーズンについて。　（別當）
〔成績評価〕
≪配点内訳≫
授業への取り組み・態度　50点
専用ノート　30点
テストレポート　20点

〔教科書〕
必要に応じて資料を配布する
〔参考文献〕
授業時に紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
部活動指導を通じて、専門的な技術・戦術の指導及び学校体育現場の球技に関する指導。また、保護者対応やコーチ

ングに必要な知識や実践例の紹介を行う。
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。
〔オフィスアワー〕
主担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40～15：20　水曜日10：00～11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

コーチング演習

2008
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
別當　和香

〔到達目標〕
１）健全な健康づくりのための評価方法や競技スポーツ現場における適切な体力評価方法・スキル評価方法を実施する事ができる。

2）コンディショニングの基本概念と理論的側面を説明することができる。

3）スポーツ現場で必要とされるストレッチング・マッサージ・テーピングの基本技術や正しい応急処置方法を、実践することができる。
〔授業の概要〕
合理的な体力づくり、健全な健康づくり、競技能力向上のためには、まず、体力や健康レベルを科学的に測定、評価する必要がある。本科目では、前期のコーチング論に基づき、既成のラボラトリーテストおよびフィールドテストによる測定方法を実習する。
また、実際の指導現場でおこなわれているコンディショニングの実際について理論学習を行い、ストレッチング・マッサージ・テーピング・応急処置方法の基本技術についての実習を行う。
◇受講要件◇
・実技科目にふさわしい服装で受講すること
・体育館では室内シューズを使用すること
・15分を過ぎての入室及び15分以上の退室は欠席扱いとする
・腕時計、ピアス等の着用禁止
・テーピング実費として2000円を第１回講義時に徴収
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：シラバスの項目に携わる文献を積極的に読んでおくこと。(2時間)
復習：講義内容の理解および実践力向上の獲得のため、講義・実技内容をノートにまとめておくこと。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　コンディショニングの考え方と実際
　　授業目的や概要の説明・学習上の諸注意・評価について
第 2 回　健康・スポーツ科学における測定と評価のあり方①
　　測定評価の目的、対象、方法 、体力・運動能力のとらえ方
第 3 回　健康・スポーツ科学における測定と評価のあり方②
　　①体力づくり、健康づくりのためのトレーニングと体力テスト
　　②ライフステージ（発育発達・老化）に応じた体力テスト
第 4 回　体力・運動能力の測定と評価①
　　柔軟性の測定
　　文部科学省の新体力テスト（持久力の測定）
第 5 回　体力・運動能力の測定と評価②
　　文部科学省の新体力テスト（筋力、筋持久力、柔軟性、敏捷性、パワー）
第 6 回　体力・運動能力の測定と評価③
　　体力・運動能力の評価とトレーニングへの応用
第 7 回　競技スポーツの専門的体力の測定と評価①
　　跳躍力（バネ）の測定と評価
第 8 回　競技スポーツの専門的体力の測定と評価②
　　方向変換走能力の測定と評価
　　競技力向上への応用
第 9 回　コンディショニング実習①
　　①ストレッチングの目的、効果と各種方法の紹介
　　②ストレッチ実習（上肢・下肢・体幹）
第 10 回　コンディショニング実習②
　　救急処置（救急蘇生法）
第 11 回　コンディショニング実習③
　　救急処置（外科的応急処置）
第 12 回　コンディショニング実習④
　　①テーピングの目的、効果と各種手法の紹介
　　②足関節のテーピング
第 13 回　コンディショニング実習⑤
　　①膝関節のテーピング
　　②上肢のテーピング
第 14 回　コンディショニング実習⑥
　　コンディショニングテクニック
第 15 回　コンディショニング実習⑦
　　テーピングの実技テスト
〔成績評価〕
≪配点内訳≫
・テストレポート点　　20点
・授業への取り組み　　20点
・実技評価　　30点×2回
〔教科書〕
授業時に適宜紹介する
〔参考文献〕
授業時に適宜紹介する
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体

育)、高一種（保健体育)、選択

部活動指導を通じて、専門的な技術・戦術の指導及び学校体育現場の球技に関する指導。また、保護者対応やコーチングに必要な知識や実践例の紹介を行う。
教育現場での経験により、生徒とのコミュニケーション法や選手のモチベーションアップ方法などを指導する。

〔オフィスアワー〕
担当教員：別當和香
①前期・後期共通
②時間：火曜日13：40〜15：20　水曜日10：00〜11：30
③連絡先：メール（betto@ashiya-u.ac.jp）にて対応
④基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教育実習事後指導【保体】

1013
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
青木　　敦英

〔到達目標〕
教育実習の反省や習得できた知識を整理して、将来の保健体育教師にとって必要な資質について学習する。

〔授業の概要〕
教育実習を終えて、実習で学んだことを生かすために教育実習報告会を行う。また将来、保健体育教師にとって必要とされる資質等について解説を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
教育実習ノートおよび教育実習で作成した学習指導案を提出していただきます。

〔授業計画〕
第 1 回　教育実習事前指導①
　　事前指導の内容を参照
第 2 回　教育実習事前指導②
　　事前指導の内容を参照
第 3 回　教育実習事前指導③
　　事前指導の内容を参照
第 4 回　教育実習事前指導④
　　事前指導の内容を参照
第 5 回　教育実習事前指導⑤
　　事前指導の内容を参照
第 6 回　教育実習事前指導⑥
　　事前指導の内容を参照
第 7 回　教育実習事前指導⑦
　　事前指導の内容を参照
第 8 回　教育実習事前指導⑧
　　事前指導の内容を参照

〔成績評価〕
受講態度、授業内レポートなどによって総合的に評価する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領解説　保健体育　文部科学省
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　文部科学省

〔参考文献〕
必要に応じて紹介する

〔履修条件〕

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（保健体育)、高一種（保健体育)、必修

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00〜11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教育実習【保健体育】

1014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
青木　　敦英

〔到達目標〕
教育実習の目的は多岐にわたるが、保健体育教師としての実践的な力量を習得することや教育者としての自覚を育てることを目標としてほしい。

〔授業の概要〕
実際の教育現場にて、教員として経験が出来る貴重な場である。最も大事なことは教科指導であるが、他にも学級指導、部活動指導、生徒指導など様々な指導の機会がある。生徒理解を中心としながら、様々な指導力を高めるように心がけること。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
教育実習を行うには、実習の1年前には各自で実習校への受け入れを申請する必要がある。また、教育実習に参加するためにはいくつかの要件を満たすことが必要である。「教職課程の手引き」をしっかりと確認してください。

〔授業計画〕
第 1 回　実習校での事前打ち合わせ
　　担当クラス、授業内容等の確認
第 2 回　実習校での実習①
　　授業観察、学内業務についての理解
第 3 回　実習校での実習②
　　学級担任の仕事についての理解
第 4 回　実習校での実習③
　　学校経営についての理解
第 5 回　実習校での実習④
　　学級指導および生徒指導の実践
第 6 回　実習校での実習⑤
　　実習生同士によるマイクロティーチン
第 7 回　実習校での実習⑥
　　授業実習に向けた教材研究
第 8 回　実習校での実習⑦
　　部活動指導
第 9 回　実習校での実習⑧
　　職員会議および職員研修への参加

第 10 回　実習校での実習⑨
　　学習指導案の作成（体育と保健）
第 11 回　実習校での実習⑩
　　体育の授業実践とリフレクション
第 12 回　実習校での実習⑪
　　保健の授業実践とリフレクション
第 13 回　実習校での実習⑫
　　研究授業に向けた教材研究
第 14 回　実習校での実習⑬
　　研究授業
第 15 回　実習校での実習⑭
　　研究授業のリフレクション

〔成績評価〕
実習校の指導教員による評価、教育実習ノートの内容、学習指導案などから総合的に判断する

〔教科書〕
中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　東山書房（平成29年3月）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　東山書房（平成21年3月）

〔参考文献〕
めざそう！保健体育教師　杉山重利・佐藤豊・園山和夫（編）　朝日出版社

〔履修条件〕

〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

スキー実習

7100
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期

金　相煥　西光　哲治　青木　敦英　別當　和香　伊藤　武徳　石川　峻

〔到達目標〕
スキー実習は、野外教育におけるスキー活動の理論と実技の学習を包括し、同時に自然の美しい環境の中で組織的な団体生活を通して、正しい人間関係を経験・体得し社会的態度を向上させようとする教育活動である。また、スキーの特性を理解し技能習得を目指すとともに、指導者として必要な資質を養うことを目的とする。

〔授業の概要〕
菅平高原スキー場（長野県上田市）にて、個人のレベルに応じ班別でスキーの技能を習得する。また、マナー・ルール・傷害防止・安全への配慮といったスキーに関する知識を学習していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
集中講義のため全日程の出席が最低要件となる。実習前および実習期間中の健康管理には十分留意すること。

〔授業計画〕
第 1 回　事前授業①
　　実習の詳細、評価、内容について
第 2 回　事前授業②
　　スキーの特性、基本技能、マナーと安全、用具の使い方など
第 3 回　実習①：初級技能①
　　スキーの着脱、歩行、推進滑走、方向転換など
第 4 回　実習②：初級技能②
　　スケーティング、登行、プルークファーレンからの制動動作、リフトの乗り方
第 5 回　実習③：初級技能③
　　プルーク、プルークからの制動
第 6 回　実習④：中級技能①
　　緩中斜面でのプルークターン
第 7 回　実習⑤：中級技能②
　　シュテムターン
第 8 回　実習⑥：中級技能③
　　横ずれの多いターンで安全に滑る技術を身につける
第 9 回　実習⑦：上級技能①
　　パラレルターン技能の習得（中・急斜面）
第 10 回　実習⑧：上級技能②
　　ずれの少ないターンと小回り
第 11 回　実習⑨：上級技能③
　　様々な斜面に応じたターン技能の習得
第 12 回　実習⑩：上級技能④
　　級別バッジテストに向けて（理論と対策）
第 13 回　実習⑪：級別バッジテスト
　　レベルに応じて受験する級を設定し、級別バッジテストを行う
第 14 回　実習⑫：総合滑走
　　まとめ、ゲレンデ散策
第 15 回　事後指導
　　レポート作成「生涯スポーツとしてのスキー」

〔成績評価〕
授業への取り組む姿勢（50%）、スキー技能（30%）、レポート（20%）にて、総合的に判断する。

〔教科書〕
適宜、プリントを配布します。

〔参考文献〕
2016年度 教育本部オフィシャルブック（全日本スキー連盟発行）

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
主担当教員：青木敦英
①前期・後期共通

②時間：月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

演習Ⅱ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学、ｽﾎﾟｰﾂ指導に関する研究】

8458
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
青木　　敦英

〔到達目標〕
3年前期に収集したデータを元に、卒業論文の執筆を行うとともに、最終発表を行えるように、論文の内容についてより深い理解をすることが求められる。
〔授業の概要〕
論文の執筆にあたって、文章表現に留意するとともに、研究テーマとして設定した仮説に対してどの程度の結果が得られたのか、十分に考察していく必要がある。関連する文献や資料などから客観的な考察が出来る力を身につけていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
論文執筆には多大な時間を要します。ゼミの時間以外にも積極的に論文執筆を行うように心がけてください。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　本講義の内容、評価、今後の予定について
第 2 回　卒業論文の執筆・作成①
　　論文の目的①→研究テーマに関する専門的な知識
第 3 回　卒業論文の執筆・作成②
　　論文の目的②→研究テーマに類似した先行研究と本研究との関連
第 4 回　卒業論文の執筆・作成③
　　論文の目的③→本研究の仮説
第 5 回　卒業論文の執筆・作成④
　　方法①→被験者、測定内容、調査内容など
第 6 回　卒業論文の執筆・作成⑤
　　方法②→分析方法、統計的解析方法など
第 7 回　卒業論文の執筆・作成⑥
　　論文の結果③→引用・参考文献との本研究の結果を照らし合わせる
第 8 回　卒業論文の執筆・作成⑦
　　論文の考察①→引用・参考文献との本研究の結果を照らし合わせる
第 9 回　卒業論文の執筆・作成⑧
　　論文の考察②→本研究の結果から導かれる内容
第 10 回　卒業論文の執筆・作成⑨
　　論文のまとめ
第 11 回　卒業論文の執筆・作成⑩
　　引用参考文献の整理
第 12 回　卒業論文の執筆・作成⑪
　　卒業論文の最終チェック
第 13 回　発表のための準備①
　　中間発表のスライドを元に最終発表のスライドを作成
第 14 回　発表のための準備②
　　最終発表のスライドを完成させ、発表のための練習を行う
第 15 回　卒業論文最終発表
　　卒業論文発表会を行い、自身の卒業論文についてプレゼンテーションを行う
〔成績評価〕
学習意欲と取り組み（20%）、最終発表（30%）、卒業論文（50%）を中心に評価を行う。
〔教科書〕
適宜プリントを配布します
〔参考文献〕
出村慎一・山次俊介 「健康/スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」 杏林書院
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

体力測定と評価②

2021
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
石川　　峻

〔到達目標〕
１）基本的な体力の測定方法について説明することができる。
２）基本的な体力の分析方法について説明することができる。
３）安全に配慮して体力測定を実施することができる。
４）仲間と協力して積極的に授業に参加することができる。
〔授業の概要〕
本講義では身体能力や運動の基礎能力を知るための客観的尺度について理解し、その手法を習得することを目的とする。具体的には形態や身体組成の測定法や体力テストの実施方法について理解し、実践することが出来るようになること、また測定したデータに対して客観的な検証を行うことが出来る能力を身につける。また、結果の考察等においてはグループディスカッションも用いる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の予習（3時間）
授業後の振り返り（3時間）
Excelの基本的な操作方法の予習（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の目的・内容、体力とは
第 2 回　体力測定の歴史と意義、行い方

体力測定の歴史と意義、行い方の注意点について
第 3 回　形態および身体組成の測定と評価
形態および身体組成の測定方法やその意義について
第 4 回　筋力、筋パワーの測定と評価
筋力、筋パワーの測定方法やその意義について
第 5 回　測定演習①
形態および身体組成の計測、筋力の測定
第 6 回　測定演習②
筋力、筋パワーの測定
第 7 回　調整力の測定と評価
柔軟性や平衡性、巧緻性の測定方法やその意義について
第 8 回　アジリティ、スプリント能力の測定と評価
アジリティ、スプリント能力の測定方法やその意義について
第 9 回　測定演習③
調整力の測定
第 10 回　測定演習④
アジリティ、スプリント能力の測定
第 11 回　全身持久力、運動強度、身体活動量の測定と評価
全身持久力、運動強度の測定方法やその意義について
第 12 回　測定演習⑤
全身持久力、運動強度についての測定
第 13 回　基本統計演習①
表計算ソフトExcelを使った度数分布、平均値、標準偏差等の算出とグラフの作成
第 14 回　基本統計演習②
表計算ソフトExcelを使った平均値の検定方法（t検定）について
第 15 回　基本統計演習③
表計算ソフトExcelを使った相関と回帰

〔成績評価〕

期末試験　30%
レポート、提出物　40%
授業への取り組み態度・意欲　30%

〔教科書〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕

山本利春（2004）測定と評価．ブックハウスHD
David H. Fukuda（2019）スポーツパフォーマンスのアセスメント．ナップ
独立行政法人日本スポーツ振興センター（2021）フィットネスチェックハンドブック．大修館書店
大阪体育大学体力トレーニング教室（2015）体力トレーニングの理論と実際．大修館書店

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、生理学（運動生理学を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕

水曜１、２限

演習Ⅰ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学、ｽﾎﾟｰﾂ指導に関する研究】

8358
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
青木　敦英

〔到達目標〕

本演習では、健康やスポーツに関わる分野において調査・測定・分析を行い、得られた結果をもとに新しいスポーツの指導方法や健康・スポーツに関する知見を深めていくことを目的としている。

〔授業の概要〕

卒業論文作成に向けて論文作成に関わる基本事項を学習するとともに、自身のテーマを設定するにあたって様々な知見を広げる取り組みや活動を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

PCの操作に関する技能は必須となるので、苦手な学生は時間外で学習するようにしてください。また、興味ある分野に対する先行研究についても積極的に入手しておくようにしてください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
内容と評価などについて
第 2 回　様々な測定と分析①：脚筋力①
脚筋力計を用いた脚筋力の測定方法と演習
第 3 回　様々な測定と分析①：脚筋力②
脚筋力のデータ入力と分析
第 4 回　様々な測定と分析②：投球速度①
スピードガンを用いた投球速度の測定方法と演習
第 5 回　様々な測定と分析②：投球速度②
投球速度のデータ入力と分析
第 6 回　様々な測定と分析③：跳躍力①
ジャンプメーター、マットスイッチを用いた跳躍力の測定方法と演習
第 7 回　様々な測定と分析③：跳躍力②
跳躍力のデータ入力と分析
第 8 回　様々な測定と分析④：心拍数①
心拍センサーを用いた心拍数の測定方法と演習
第 9 回　様々な測定と分析④：心拍数②
心拍数のデータ入力と分析
第 10 回　様々な測定と分析⑤：アンケート調査①
アンケート調査の方法と演習
第 11 回　様々な測定と分析⑤：アンケート調査②
アンケート調査のデータ入力と分析
第 12 回　研究に取りかかるための注意①
測定の利点と欠点、注意点などについて
第 13 回　研究に取りかかるための注意②
インフォームドコンセント、研究倫理などについて
第 14 回　研究の着想

研究テーマの決定
第 15 回　まとめ
後期で学習した内容についてレポート作成

〔成績評価〕
学習意欲と取り組み（50%）、レポート作成（50%）を中心に評価を行う。

〔教科書〕
適宜プリントを配布します

〔参考文献〕
出村慎一・山次俊介 「健康/スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」杏林書院

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教職総合演習Ⅳ-2【保健体育】

7004
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
青木　　敦英

〔到達目標〕
本講義では、保健体育科の教員の資質向上を目指すことを目的として、体育分野と保健分野に関する専門的知識の習得を目指す。

〔授業の概要〕
体育分野では、各運動領域に関するキーワードを探りながら、指導の際のポイントならびに競技ルールや歴史などの基礎知識を習得する。保健分野では、アクティブラーニング形式を用いながら、知識の習得だけでなく、先生と生徒の相互理解を深める指導法を実践していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃から、教育に関する時事問題やニュースに目を向けておくとともに、中学校や高等学校の保健体育の教科書を熟読しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本講義の目的、評価、授業内容について
第 2 回　学習指導要領
中学校ならびに高等学校の学習指導要領の内容や目標について理解を深める
第 3 回　体育分野①：器械体操
中学校ならびに高等学校の器械体操におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 4 回　体育分野②：陸上競技
中学校ならびに高等学校の陸上競技におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 5 回　体育分野③：水泳
中学校ならびに高等学校の水泳におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 6 回　体育分野④：球技
中学校ならびに高等学校の球技におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 7 回　体育分野⑤：武道・ダンス
中学校ならびに高等学校の武道・ダンスにおけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 8 回　体育分野⑥：体育理論
中学校ならびに高等学校の体育理論におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 9 回　保健分野①：現代社会と健康
中学校ならびに高等学校の現代社会と健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 10 回　保健分野②：生涯を通じる健康
中学校ならびに高等学校の生涯を通じる健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 11 回　保健分野③：社会生活と健康
中学校ならびに高等学校の社会生活と健康におけるキーワード、知識、指導のポイントについて理解を深める
第 12 回　体育授業におけるアクティブラーニング
現在実践されている最新の体育授業形態を紹介
第 13 回　保健授業におけるアクティブラーニング
現在実践されている最新の保健授業形態を紹介
第 14 回　教師に求められる総合的人間力について
これからの保健体育教員に求められる資質などについて解説
第 15 回　まとめ
体育分野と保健分野の知識の総合理解確認

〔成績評価〕
受講態度（20%）、授業内テスト（50%）、レポート（30%）などから総合的に評価する

〔教科書〕
適宜プリントを配布します。

〔参考文献〕
中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省　東山書房（平成29年3月）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編　文部科学省　東山書房（平成30年7月）

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30

③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

トレーニング演習

2020
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
青木　　敦英

〔到達目標〕
本講義では、アスリートの競技力向上を目的としたトレーニングだけでなく、子どもや高齢者の体力の向上など幅広い目的に応じたトレーニング内容について解説するものである。
〔授業の概要〕
運動生理学等で学んだ基礎的な知識に加え、トレーニングの種類や効果的なトレーニング計画について理解する。また、実際に演習を行うことでより実践的に内容を理解していくだけでなく、トレーニング指導する際のチェックポイントについても理解を深めていく事が望ましい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で実際にトレーニング等を行うので、コンディションをしっかりと整えておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本講義における目的、内容、評価方法について
第 2 回　トレーニング理論①
効果的なトレーニングを行うための体力要素との関わりについて解説
第 3 回　トレーニング理論②
トレーニングの原理・原則と最新のトレーニング科学に関する知見について
第 4 回　筋力トレーニング①
特別な道具を用いない筋力トレーニング方法について
第 5 回　筋力トレーニング②
ウェイトトレーニングの実際と注意点、1RMの間接調査法など
第 6 回　SAQトレーニング
敏捷性向上のためのトレーニング方法について
第 7 回　持久力トレーニング①
自転車エルゴメーターを用いたトレーニング方法について
第 8 回　持久力トレーニング②
LSDトレーニングの実践
第 9 回　柔軟性のトレーニング
ペアストレッチ、ダイナミックストレッチの実践
第 10 回　パワーアップのトレーニング①
プライオメトリックトレーニングの理論と実
第 11 回　パワーアップのトレーニング②
無酸素パワーのトレーニング理論と実際
第 12 回　コーディネーショントレーニング
運動神経向上のためのトレーニング
第 13 回　トレーニング効果の評価
トレーニング後の評価方法とトレーニングにおける効果的な頻度、時間などについて
第 14 回　メディカルチェック
トレーニング開始前のメディカルチェックの内容と調査方法について
第 15 回　トレーニング計画
コンディションを整えるためのピーキングについて理解し計画を立案する
〔成績評価〕
受講態度（20%）、授業内レポート（20%）、期末テスト（60%）などから総合的に評価する。
〔教科書〕
適宜プリントを配布します。
〔参考文献〕
体力トレーニングの理論と実際　大修館書店
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　教育①

8211
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
青木　　敦英

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。
〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)およ

び学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。
・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。（２時間）
復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。（２時間）

〔授業計画〕

第 1 回 （学科） 授業概要、評価の説明
社会人基礎力シートの作成。Aドリル学習についての説明。
第 2 回 （学科） 学生会活動とその意義（学生部および学友会）
学生会活動についての説明及び学園祭での各イベント内容の周知と役割分担について理解する。
第 3 回 （クラス） 自分を知ろう②(社会人基礎力シートの振り返り及び面談)
社会人基礎力の理解と自身の適性を知る。また、担任と面談をおこない後期の目標設定をおこなう。
第 4 回 （学科） ビジネスマナーについて（DVD映像）
社会人としての常識・礼儀・マナーについて学ぶ。
第 5 回 （学科） 文章による表現力を学ぶ
文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など)。また、論文作成のための手法や考え方を学ぶ。
第 6 回 （学科） 情報収集方法と図書館の利用について
文献・情報の利用と研究倫理（著作権・肖像権とSNSの問題点）の理解。論文作成に向けての図書館利用、活用法を知る。
第 7 回 （学科） 先輩の話に学ぶ（本学卒業生による講話）
本学科の先輩の体験について聞き、今後の大学生活に役立てる。
第 8 回 （クラス） グループワークとプレゼンテーションの構想・作成
「自己を高める大学生活について」グループワークをおこない、グループ発表に向けての手順を知る。
第 9 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの準備①
グループでテーマを決め、プレゼンのストーリーを構築する。
第 10 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの準備②
グループで決めたテーマについて、プレゼン資料の作成をおこなう。
第 11 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの実践
プレゼンテーションを御互いに聴き、相互評価（良かった点・改善点）をおこなう。
第 12 回 （学科） SPIテスト
WEBテスト
第 13 回 （学科） プレゼンテーション大会
各クラス１グループ
第 14 回 （学科） 専門演習ガイダンス(各ゼミ担当の教員によるシラバス説明)
3年次に向けての専門演習の選択。および学問を追及するもとして基本的な研究倫理についての説明。
第 15 回 （学科） 教育学科卒論発表会
4年生の卒業研究発表を聞くことで、研究への意識と理解を深める。

〔成績評価〕

平常点(50%)、まとめレポート(20%)、SPIテスト(30%)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

とくになし

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

陸上競技②

2005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
石川　　峻

〔到達目標〕

１）自身の記録の向上や仲間との競争を楽しむことができる。
２）各種競技の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントを理解する。
３）基本的な動きや効率のよい動きを身につける。

〔授業の概要〕
陸上競技は、走・跳・投といった個人的な基本運動から構成されており、自己の能力を最大限に発揮し技能を高めることに楽しさを見いだすことが出来る。本講義では陸上競技の走種目・跳躍種目・投擲種目にかかわる技能の習得だけではなく測定方法やルール、技能構造などの知識についての理解を深める。また、グループで指導案を作成した後、ディスカッションを通してより良い指導法に関して考察していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業後のレポート作成（2時間）
指導案の作成（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、短距離走、リレーの指導法解説
授業の概要や進め方、受講上の注意事項、評価方法等
短距離走、リレーの競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイント
第 2 回　短距離走①
スタートについて基本的な技能を身につける。
第 3 回　短距離走②
中間疾走について基本的な技能を身につける。
第 4 回　短距離走③
リレーの効率的なバトンパスについて基本的な技能を身につける。
第 5 回　短距離走のまとめ・ハードル走、長距離走の指導法解説
短距離の指導法についてディスカッションを通して考える。
ハードル走、長距離走の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントについて理解する。
第 6 回　ハードル走①
自分にあったインターバルを知り、リズミカルに走る技能を身につける。
第 7 回　ハードル走②
抜き足と振り上げ足の使い方を理解し、スムーズなハードリングについて基本的な技能を身につける。
第 8 回　長距離走①
リラックスして走れるフォームを身につける。
第 9 回　長距離走②
自分にあったペースを理解し、そのペースでの走り方を身につける。
第 10 回　長距離走のまとめ・跳躍、投擲の指導法解説
ハードル走、長距離走の指導法についてディスカッションを通して考える。
跳躍、投擲の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントについて理解する。
第 11 回　跳躍競技①
走り幅跳びにおいて踏み切り、着地の基本的な技能を身につける。
第 12 回　跳躍競技②
走り幅跳びおいて助走の基本的な技能を身につける。
第 13 回　投擲競技①
ターボジャブを前方にまっすぐ投げる技能を身につける。
第 14 回　投擲競技②
ターボジャブを短い助走から投げる技能を身につける。
第 15 回　跳躍、投擲のまとめ
跳躍、投擲の指導法についてディスカッションを通して考える。
まとめレポートを作成する。
〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　20%
技能評価　20%
授業内外レポート　40%
期末試験 20%
〔教科書〕
文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説（平成29年7月告示）保健体育編.
文部科学省（2018）高等学校学習指導要領解説（平成30年7月告示）保健体育編体育編.
その他、適宜プリントを配布する
〔参考文献〕
小木曽一之ほか（2017）中学・高校　陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫. 道和書院.
日本陸上競技連盟 編（2018）中学校部活動における陸上競技指導の手引き.
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修
〔オフィスアワー〕
水曜１限、２限

運動生理学

4025
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
青木　敦英

〔到達目標〕
スポーツ指導者として必要な、運動の意義や運動中の人体生理反応に関する基礎的知識について理解すること、また、効果的なトレーニング方法などについての科学的知識について興味関心を持つことを目標とする。
〔授業の概要〕
本講義では、人体における運動時の生体の諸機能の変化やトレーニング効果について学ぶとともに、様々な年代においてその変化や効果の違いについて解説する。これらの知識を身につけることで、理論や根拠に基づいた効果的なスポーツ指導、トレーニング指導、運動処方につなげていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
これまでにクラブ活動など行ってきたトレーニングや練習方法について振り返っておくこと。初回の課題とします。また毎授業後にはレポート提出を行います。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
本講義の目的および評価方法、運動生理学の基本概念について
第 2 回　人体の構造と機能
人間が運動を行う上での基本的な仕組みやメカニズムについて
第 3 回　骨格筋の構造と機能①
人体を構成する骨と筋肉について
第 4 回　骨格筋の構造と機能②
運動に大きく関わる骨格筋の仕組みと役割について
第 5 回　筋の収縮様式
筋の収縮様式の違いが発揮する筋力などに与える影響について
第 6 回　運動時のエネルギー供給
筋収縮のエネルギー供給について
第 7 回　運動と神経
脳・神経系の構造と機能について
第 8 回　運動時の呼吸
運動時のガス交換のメカニズムについて
第 9 回　運動時の血液循環
血液循環のメカニズムと運動時の変化について
第 10 回　筋力トレーニング
トレーニングの基本原理・原則について
第 11 回　持久力トレーニングと最大酸素摂取量
持久的トレーニングのメカニズムについて
第 12 回　高齢者における運動生理
様々な身体機能の加齢変化について
第 13 回　こどもの成長からみた運動生理
こどもの発達の特徴と運動時の生理機能の変化について
第 14 回　運動と環境
様々な環境下における運動生理について
第 15 回　健康づくりのための運動基準
生活習慣病の予防や健康維持に関わる運動について
〔成績評価〕
受講態度（20%）、授業内レポート（20%）、期末テスト（60%）などから総合的に評価する。
〔教科書〕
適宜プリントを配布します。
〔参考文献〕
『運動生理学』オストランド（大修館書店）
『教養としての身体運動・健康科学』東京大学身体運動科学研究室（東京大学出版会）
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、生理学（運動生理学を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日10：00～11：30
③場所：教授研究棟（1号館）3F114青木研究室
④連絡先：メール（a-aoki@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

演習Ⅱ【国際観光ビジネス】

8469
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
松本　達也

〔到達目標〕
卒業論文の完成に向けて第二稿を１０月中に提出する。次いで年末には最終稿というスケージュール。徹底的な論文指導・添削指導を行う。
〔授業の概要〕
個別的な指導を行うと共に、毎回新情報に関する発表練習や議論も実施する
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業時間外学習として添削された論文の更なるチェック。加えて、新聞等で最新情報を学習者の前で発表、議論する
〔授業計画〕
第 1 回　統合型リゾートの代表例１
ディズニー・ワールドリゾート
第 2 回　統合型リゾートの代表例２
ラスベガス
第 3 回　統合型リゾートの代表例３
シンガポール
第 4 回　世界のカジノの概要１
マカオ、アトランティックシティ、モナコ
第 5 回　世界のカジノノ概要２
バーデンバーデン、カンウォンド
第 6 回　地域創生の実例１
幸福探求ツーリズム
第 7 回　地域創生の実例２
北海道
第 8 回　地域創生の実例３
東北地域
第 9 回　地域創生の実例４
近畿地域
第 10 回　地域創生の実例５
四国地域
第 11 回　地域創生の実例６
沖縄地域
第 12 回　論文指導
添削指導の徹底
第 13 回　論文指導

添削指導の徹底
第 14 回　論文指導
添削指導の徹底
第 15 回　卒業論文の最終指導
最終確認作業

〔成績評価〕
論文指導と並行して実施する小論文を作成並びに発表・議論などを加味しながら、卒業論文評価を行う

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

法律学概論Ⅱ

2211
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
松本　達也

〔到達目標〕
法関連の時事問題とトレンドを理解すると共に、自分の考え方を的確に発表、更に文章として表現することを目指す。

〔授業の概要〕
全講義の中で、法的思考力と法解釈力を併せ持つことを主眼に講義を進める。その根底には、問題の発見と解決する能力を養うことが大きな狙いである。六法を知り、それを応用することで社会において発生する法に関係する諸問題について具体的に解明する。そこでは、受講生全員による議論を行い、各自の意見をまとめることになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：一週間の法律関連の新聞報道等への理解。
復習：毎回の講義におけるテーマを２００字程度でまとめる。

〔授業計画〕
第 1 回　国家とは何か
リベラリズムとデモクラシーに関して概括する。
第 2 回　民主主義の実現のための諸制度
首相公選制、住民投票制度、国民投票制について解説する。
第 3 回　行政の民主化
その必要性と具体的手段、情報公開制度を概説する。
第 4 回　福祉国家の課題と問題点
歴史的背景、規制緩和について解説する。
第 5 回　個人情報保護法と人権
個人のプライバシーの保障について学習する。
第 6 回　女性差別と女性の人権確立
差別撤廃に向けての国際協力と労働面の改革を論説する。
第 7 回　外国人の人権確立
出入国管理法、参政権問題を討議する。
第 8 回　平和主義
集団的自衛権、テロ対策問題について概説する。
第 9 回　財政問題
財政の仕組みと機能について解説する。
第 10 回　格差社会
格差の原因、現状と対策について議論する。
第 11 回　社会保障制度の仕組みと問題点
少子高齢社会の現状と課題について概説する。
第 12 回　労働の現状と諸問題
雇用状況の背景と問題点について学習する。
第 13 回　司法制度改革と問題点
裁判員制度の問題点等、少年法について議論する。
第 14 回　環境問題と法
公害対策とリサイクル社会の確立について解説する。
第 15 回　総括
日本社会が抱える諸問題と法との関わりについてまとめる。

〔成績評価〕
講義時間に適時課題を示して小論文を作成し、提出する。最終的な成績評価はこのことを含めて、定期試験の結果を併せて行う。

〔教科書〕
講義毎に教材・資料を印刷物で配布する。

〔参考文献〕
新版現代社会の法と憲法（松本他建帛社）
文部科学省　中学・高校新学習指導要領解説

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学、政治学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

国際法Ⅱ

1311
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
松本　達也

〔到達目標〕
実際の国際関係や国際政治の場面における様々な問題点や課題を掘り起こす作業の中で、国際法の働きと課題を理解する。関連する時事問題を講義毎に取り上げ議論する。特に、国連等の国際機関の役割、地球環境、資源・エネルギー、貧困等の課題多面的・多角的に考察し議論や小論文等で表現力を身に付ける。

〔授業の概要〕
メディア等で報道される国際的な事件や紛争等を知り、理解し、考える。それにより個人を取り巻く国際的環境を現実のものとして確実に捉えていく。ここで国際法がどう機能しているか否かを学習すると共に、その課題を考察し、解決のための活動を構想し発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：一週間の海外等の動きを理解する。新聞等の切り抜きも持参し講義当日に発表させる。

・復習：毎回の講義テーマを200字程度で自分の見解等を論述する。

〔授業計画〕
第 1 回　導入
国際情勢のあらましを概説後、今後の授業計画を説明する。
第 2 回　米ロの核軍縮と世界の核開発
核軍縮、核不拡散、核テロ防止に対する取り組みを概説する。
第 3 回　世界の独立運動
独立運動が生起する背景、世界の紛争・動乱マップを解説する。
第 4 回　日本の領土問題
北方領土、竹島、尖閣諸島問題を詳しく解説する。
第 5 回　北朝鮮問題
北朝鮮の動向、6カ国協議等、朝鮮半島情勢を解説する。
第 6 回　中東情勢とその歴史
IS等の紛争の根源を解説し、民族・宗教分布等を学習する。
第 7 回　パレスチナ問題
中東の歴史、イスラエルとアラブの対立を深く考察する。
第 8 回　G８とG２０
先進国と途上国、世界の多極化の観点から概説する。
第 9 回　EU問題
英国の離脱等、EUが抱える問題点を解説する。
第 10 回　改革に挑む国際連合
国連の全体像を掴むと同時に抱える課題を提示する。
第 11 回　政府開発援助
ODAの仕組みと課題を解説し、戦略的ODA、NGOの途上国支援を学習する。
第 12 回　地球温暖化問題
世界的な取り組みと課題を概説する。
第 13 回　新エネルギー問題
ソフトパスエネルギー等の新エネルギー問題を概説する。
第 14 回　保全と開発に揺れる世界遺産
世界遺産と日本の世界遺産を学習すると共に観光資源問題も考察する。
第 15 回　総括
国際法に関わる国際情勢をまとめて、概括する。

〔成績評価〕
講義時間に適宜課題を与え小論文にまとめる。成績評価は、この課題提出及び定期試験の評価を併せて行う。

〔教科書〕
講義時間毎に教材」・資料等を印刷物で配布する。

〔参考文献〕
文部科学省　高等学校新学習指導要領解説
現代国際法（松本他嵯峨野書院）
PKOと国際貢献（松本著建帛社）
メルコスールの挑戦（松本著キャンパスシネマ）

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

演習Ⅰ【国際観光ビジネス】

8349
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
松本　達也

〔到達目標〕
訪日観光の動向を認識すると共に浮き彫りになってくる課題等の問題点を探る。訪日観光について多面的・多角的に考察し、議論し、更に毎回小論文としてまとめる。

〔授業の概要〕
2013年日本を訪れる外国人の総数は初めて年間１０００万人を超えた
本格的な訪日観光の時代が、幕を開けたのである。その理由だけでなく実際どのような観光をしているのか、どの国からの訪問か、現状と課題等を議論する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前準備として、毎回新聞等での新情報を発表するための情報収集。
〔授業計画〕
第 1 回　今どうして訪日観光なのか１
　　急増するまでの推移
　　訪日観光強化の目的
第 2 回　今どうして訪日観光なのか２
　　企業のグローバル化と同じ構造
　　日本は観光大国になれるか
第 3 回　どのような観光をしているのか１
　　観光目的のケース
　　SITの重要性
第 4 回　どのような観光をしているのか２
　　業務を目的とするケース
　　その他のケース
第 5 回　ターゲットはアジア人？１
　　韓国、中国、香港
第 6 回　ターゲットはアジア人２
　　欧米からは？
第 7 回　彼らは満足しているか？
　　何に満足しているのか
　　不満のトップは？
第 8 回　訪日観光の現状と課題１
　　その市場と業界
　　旅行業界
第 9 回　訪日観光の現状と課題２
　　訪日観光のツアーオペレーター
　　旅行会社のビジネスモデル
第 10 回　訪日観光の現状と課題３
　　宿泊業の事情
第 11 回　訪日観光の現状と課題４
　　観光政策と地域活性化
　　地方観光
第 12 回　訪日観光の現状と課題５
　　観光まちづくり
　　グローバルな観光をめざして
第 13 回　国内外の事例１
　　国内事例
第 14 回　国内外の事例２
　　海外の事例
第 15 回　訪日観光の未来予想図
　　訪日観光が日本を変えるか
〔成績評価〕
毎回提出の小論文と最終試験からの評価
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
① 前期･後期 ② 水曜日／10:00～11:00 ③ 研究室 ④ メール: matumoto@ashiya-u.ac.jp ⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ること。授業の質問は前述のメールまたは、phollyのメッセージで連絡してください。

中等教科教育法Ⅳ（保健 体育）

2013
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
3年
2単位　後期
実務経験有
木村　　重房

〔到達目標〕
（１）体育分野（科目「体育」）の授業実践において必要とされる基礎的な知識や技術、指導法、教材研究の方法について修得したことに基に、提示された課題に対して自己の考えを論述したり、模擬授業を行ったりすることができる。
（２） 保健分野（科目「保健」）の授業づくりの特徴やポイントを理解し、生徒が主体的に取り組もうとする授業づくりができる。
〔授業の概要〕
（１）体育分野（科目「体育」）の球技・陸上競技・武道を取り上げる。指導案を作成する。その際、授業を指導する際に必要な教材理解、技術指導、マネイジメント、インストラクション、安全上の配慮および留意点、生徒のつまづきに対する対処法、練習法、集団行動等々について理解を深める。その上で、学生相互で模擬授業を行う。
（２） 保健分野（科目「保健」）では「現代社会と健康」と「生涯を通じる健康」を取り上げる。授業では生徒の興味関心を高めるよう効果的な導入を実施した上で、生徒が知識を自らの生活実践にいかせるよう工夫を凝らした内容で指導案を作成する。その上で、学生相互で模擬授業を行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
担当時間の指導案作成および授業後のふりかえりをノートに記載する。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　2回目以後の授業予定と担当者を割り振る。公欠予定等を把握し14回の効率的な人数配置に努める。
第 2 回　陸上競技短距離走の授業受講
　　担当教員が模範授業を行う。授業後、授業内容を解説する。学生は生徒役を体験し、次回の授業までに指導案等を作成し、指導を準備を行う。
第 3 回　陸上競技短距離走の授業指導体験
　　指導案を作成し、50分程度の授業を２～３か所に分かれて実施する。授業後、ふりかえりを行い、指導案の修正や指導法の反省を行う。
第 4 回　バスケットボールの授業受講
　　担当教員が模範授業を行う。授業後、授業内容を解説する。学生は生徒役を体験し、次回の授業までに指導案等を作成し、指導を準備を行う。

第 5 回　バスケットボールの授業指導体験
指導案を作成し、50分程度の授業を２～３か所に分かれて実施する。授業後、ふりかえりを行い、指導案の修正や指導法の反省を行う。
第 6 回　保健（現代社会と健康）の授業受講
担当教員が模範授業を行う。授業後、授業内容を解説する。学生は生徒役を体験し、次回の授業までに指導案等を作成し、指導を準備を行う。
第 7 回　保健（現代社会と健康）の授業指導体験
指導案を作成し、50分程度の授業を２～３か所に分かれて実施する。授業後、ふりかえりを行い、指導案の修正や指導法の反省を行う。
第 8 回　柔道の授業受講
担当教員が模範授業を行う。授業後、授業内容を解説する。学生は生徒役を体験し、次回の授業までに指導案等を作成し、指導を準備を行う。
第 9 回　柔道の授業指導体験
指導案を作成し、50分程度の授業を２～３か所に分かれて実施する。授業後、ふりかえりを行い、指導案の修正や指導法の反省を行う。
第 10 回　保健（生涯を通じる健康）の授業受講
担当教員が模範授業を行う。授業後、授業内容を解説する。学生は生徒役を体験し、次回の授業までに指導案等を作成し、指導を準備を行う。
第 11 回　保健（生涯を通じる健康）の授業指導体験
指導案を作成し、50分程度の授業を２～３か所に分かれて実施する。授業後、ふりかえりを行い、指導案の修正や指導法の反省を行う。
第 12 回　バレーボールの授業受講
担当教員が模範授業を行う。授業後、授業内容を解説する。学生は生徒役を体験し、次回の授業までに指導案等を作成し、指導を準備を行う。
第 13 回　バレーボールの授業指導体験
指導案を作成し、50分程度の授業を２～３か所に分かれて実施する。授業後、ふりかえりを行い、指導案の修正や指導法の反省を行う。
第 14 回　まとめ
12回の模範授業受講と、指導体験および指導体験授業受講のふりかえりを行う。また作成した授業の指導案を提出すると共に、各授業評価から今後の具体的な改善点を探る。保健体育指導に関する専門的な知識の重要性について講義を行う。
第 15 回　定期テスト
小論文テスト「目指す保健体育科教師像」

〔成績評価〕
平常点(20%) : 活動に取り組む姿勢・態度
小論文テスト(50%) : 15回目に実施
指導案等の提出（30%）: 提出された指導案

〔教科書〕
『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』（東山書房）　平成30年7月

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
教育現場経験より、授業計画や指導方法について講義し、運動会などの体育教員が関わる学校行事への取り組みと役割についても講義していく。

〔オフィスアワー〕
土曜の授業前後に、教室等の授業実施場所で質問等を受け付ける。

演習Ⅱ【ｽﾎﾟｰﾂ（ｻｯｶｰ）】

8432
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
金　　相煥

〔到達目標〕
スポーツの本質を多面的な分野から研究し、分析をする。また、地域スポーツにおけるスポーツ観の発展性を理解し、スポーツがもたらす社会的・文化的背景を比較・検証し知見を深めていくことを目指す

〔授業の概要〕
前期の実施内容を継続する。
後期には論文の構成法を学び、正確な状況証拠や物的証拠を取集した論文執筆・校正を行う
各自の研究テーマをより深く掘り下げ、疑問点を整理し、これまでの専門演習の卒業論文作成の内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
第1回：特になし
第2～14回：前回授業への取り組みと復習
15回：復習

〔授業計画〕
第 1 回　中間報告1
進行状況の確認
第 2 回　中間報告2
進行状況の確認
第 3 回　中間報告3
進行状況の確認
第 4 回　中間報告4
進行状況の確認
第 5 回　卒業論文作成1
論文作成。必要に応じて経過報告する
第 6 回　卒業論文作成2
論文作成。必要に応じて経過報告する
第 7 回　卒業論文作成3
論文作成。必要に応じて経過報告する

第 8 回　卒業論文作成4
論文作成。必要に応じて経過報告する
第 9 回　卒業論文作成5
論文作成。必要に応じて経過報告する
第 10 回　卒業論文作成6
論文作成。必要に応じて経過報告する
第 11 回　卒業論文作成7
論文作成。必要に応じて経過報告する
第 12 回　ゼミ発表
ゼミで論文発表
第 13 回　最終確認1
卒業論文の内容・構成を再度検討する。抄録作成
第 14 回　最終確認2
卒業論文の内容・構成を再度検討する。抄録作成
第 15 回　卒業論文提出
論文を完成させ提出する

〔成績評価〕
プレゼンテーション30%、小論文・学外活動50%、調査研究20%
〔教科書〕
必要に応じて資料を提供する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
① 前期・後期共通
② 木曜日：14：30～15：30
③ 場所：金相煥研究室
④ 連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください

演習Ⅰ【地域スポーツ・スポーツ指導に関する研究】

8351
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
金　　相煥

〔到達目標〕
スポーツの本質を多面的な分野から研究し、分析をする。また、地域スポーツにおけるスポーツ観の発展性を理解し、スポーツがもたらす社会的・文化的背景を比較・検証し知見を深めていくことを目指す。
〔授業の概要〕
前期の実施内容を継続する。
・スポーツに関する教本や資料・論文を熟読する
・スポーツの本質を求める演習を目指す。
・テーマを決め、仲間と意見交換をするプレゼンテーションは勿論、映像を用いての試合分析、分析ビデオの作成を行いながらコーチング技術の習得を目指す。
・毎週の授業に加えて、試合観戦や練習観戦、スポーツ現場での実践（スクール運営・指導補助）等を研修の一環とし「現場を体験し、本物を知る」といった学外活動への参加も積極的に行う。
・スポーツや健康の分野などにとらわれず疑問、問題点など興味あるテーマを設定し、調査、研究する

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
第1回：特になし
第2～14回：前回授業への取り組みと復讐
15回：復習
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
後期の計画
第 2 回　個人研究テーマの検討
各自の研究テーマを検討する
第 3 回　個人研究テーマの決定1
各自の研究テーマ発表
第 4 回　個人研究テーマの決定2
各自の研究テーマ発表
第 5 回　個人研究テーマの決定3
各自の研究テーマ発表
第 6 回　個人別研究中間発表1
文献の検討と購読。レジュメの作成
第 7 回　個人別研究中間発表2
文献の検討と購読。レジュメの作成
第 8 回　個人別研究中間発表3
文献の検討と購読。レジュメの作成
第 9 回　個人別研究中間発表4
文献の検討と購読。レジュメの作成
第 10 回　個人別研究発表1
個人別研究発表。論文作成
第 11 回　個人別研究発表2
個人別研究発表。論文作成
第 12 回　個人別研究発表3
個人別研究発表。論文作成
第 13 回　個人別研究発表4
個人別研究発表。論文作成
第 14 回　個人別研究発表5
個人別研究発表。論文作成
第 15 回　後期まとめ
年間の授業の反省点・問題点を総括し、次年度に備える
〔成績評価〕
プレゼンテーション30%、小論文・学外活動50%、調査研究20%
〔教科書〕
必要に応じて資料を提供する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
① 前期・後期共通
② 木曜日：14：30～15：30
③ 場所：金相煥研究室
④ 連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください

コーチング法基礎

2032
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
金　　相煥

〔到達目標〕
日本サッカー協会公認指導者資格の保有を目指し、教員やスポーツ指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。
〔授業の概要〕
サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を取得した上で、試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導できる人材を育成・養成することを目的とする
※1回目ORの授業に参加しなければ履修できない。また、人数制限があるため、抽選を行うこともある

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
スポーツに関する知識は、メディア、インターネット、参考書等、予習・復習を通して情報収集することを望む。また、教職課程に関わる内容については、学習指導要領を積極的に参照する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　履修者の決定と授業説明
第 2 回　サッカーってなに？
　　サッカー文化とスポーツマネージメント
第 3 回　子どもの成長とサッカー
　　子どもの能力を伸ばす
第 4 回　サッカーとコミュニティー形成①
　　NPO法人とこれからのクラブ
第 5 回　サッカーとコミュニティー形成②
　　クラブ、サッカー協会との連携
第 6 回　コミュニティーにおけるサッカーの現状
　　兵庫県・芦屋市のキッズ及びユース改革
第 7 回　キッズサッカーのこれから
　　日本におけるキッズサッカーの現状と未来
第 8 回　サッカー文化の構築に向けて
　　サッカーの楽しさ・本質を探る
第 9 回　キッズリーダーU―6指導プログラムの実践①
　　学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 10 回　キッズリーダーU―6指導プログラムの実践②
　　学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 11 回　キッズリーダーU―8 導プログラムの実践①
　　学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 12 回　キッズリーダーU―8 導プログラムの実践②
　　学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 13 回　キッズリーダーU―10指導プログラムの実践①
　　学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 14 回　キッズリーダーU―10指導プログラムの実践②
　　学生3名（監督1名、コーチ2名）がテーマに沿った指導案を作成し、指導実践を行う
第 15 回　まとめ
　　指導実践を振り返ってディスカッションを行い、指導法についてのまとめを行う

〔成績評価〕
指導テスト（70%）、実技テスト（30%）
〔教科書〕
必要に応じて資料を配布する
〔参考文献〕
JFAキッズドリル
JFAアイスブレイク集
（財団法人　日本サッカー協会　発刊）
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
「地域スポーツの現場やプロスポーツクラブでの経験を生かした指導実習を行う」
「学内の課外活動（部活動）における課題についての対処法などの指導を行う」
〔オフィスアワー〕
① 前期・後期共通
② 木曜日：14：30～15：30
③ 場所：金相煥研究室
④ 連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤ 来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください

体育実技Ｃ（ｻｯｶｰ･ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ）男子②

2206
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
実務経験有
金坂　　正廣

〔到達目標〕
ゴール型球技であるサッカーと野球型球技のソフトボールを「マッチ（試合形式）」を通してその楽しみを体験することを第一目標とする。授業の展開はＭＴＭ法を活用し、基本的な技術や戦術の取得をより効果的に高める方法を学び

合うことで競技への興味関心と理解を高める基礎としたい。さらに、小学生から中学生を指導するノウハウを獲得するため各授業の振り返り学習を重視する。加えて、指導者としての「デモンストレーション力」の向上を目指す。

〔授業の概要〕

実技と理論の乖離を避けるため各時間にゲーム形式を重視する事で繋がりを持つ授業内容とした。そのために「前振り」と「振り返り」を取り入れた授業を行う。また、グループ活動で学生同士の気づきを共有することで将来の「指導実践」に繋がる授業を展開する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

スポーツに関する情報収集学習として、新聞・雑誌、インターネットなど各種メディアの活用して、「スポーツとは」、サッカー競技の「歴史」、さらにサッカー競技の「構成要素」と「特性」、サッカー競技の「指導者」に関する理論に関する課題を提示し、その課題に関して自学自習とレポート作成を通してサッカー競技に関しての造詣を深めて欲しいと考えている。次にもう一つのテーマとして、今後ソフトボールに代わって手軽なベースボール型スポーツとなるであろう「ベースボール５」についての理解を「実技」をとおして深める。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
①指導者、学生の自己紹介。②授業進行等の説明、諸注意。③理論Ⅰ：「ｽﾎﾟｰﾂとは」

第 2 回　①サッカー実技Ⅰ　②理論Ⅱ：サッカーの歴史
技術Ⅰ：ﾎﾞｰﾙﾌｨｰｰﾘﾝｸﾞ（体とボールを馴染ませる運ぶ、止める、蹴る）とGAME（少人数の試合形式）でサッカーを楽しむ　理論Ⅱ　サッカーの歴史古代～現在

第 3 回　①サッカー実技Ⅱ　②理論Ⅲ：サッカーの特性
技術Ⅱ：全身でボールに触れる動き（運ぶ、止める、蹴る、投げる、打つ、捕らえる）、測定2種（8の字ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ、リフテイング）とGAME（LineGoal、2GOAL)
理論Ⅲ：サッカー競技の特性

第 4 回　①サッカー実技Ⅲ　②理論Ⅳ：サッカーのﾃｸﾆｯｸ
技術Ⅲ：GoalKeeper　トレーニング　とGAME
理論Ⅳ：サッカーの様々な技術

第 5 回　①サッカー実技Ⅳ　②理論Ⅴ：指導者とは
技術Ⅳ：ボールを奪われないための技術（ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ）とボールを奪うための技術（ﾁｬｰｼﾞとﾀｯｸﾙ）
戦術Ⅰ：ボールを奪われないための戦術（ｻﾎﾟｰﾄ）とボールを奪うための戦術（ｶﾊﾞｰﾘﾝｸﾞ）
理論

第 6 回　①サッカー実技Ⅴ　②理論：今日の実技振返り
技術Ⅳ：ボールを奪われないための技術（キックやパスプレーの精度ＵＰ）　ボールを奪うための技術（チャージとタックル）
戦術Ⅲ：ボールを奪われないための戦術（周囲の状況を観て判断するプレー)
ボールを奪うための戦術（インターセプト）
実技振り返りレポート作成

第 7 回　①サッカー実技Ⅵ　②理論：今日の実技振返り
ゲームⅠ：様々なゲーム（スモールサイド、4ゴール、ラインゴール、複数ゴール）
実技振り返りレポート作成

第 8 回　①サッカー実技Ⅶ　②理論：今日の実技振返り
ゲームⅡ：クアトロゲームによる試合運営と審判
実技振り返りレポート作成

第 9 回　①サッカー実技Ⅸ　②理論：今日の実技振り返り
ゲームⅢ：ノーマルゲーム（８－８or11－11）
実技振り返りレポートの作成

第 10 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５）②理論　ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5の技術Ⅰ：投げる、捕らえる、打つ。走る動作の要素を知る

第 11 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5）②理論　実技振返り
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5技術Ⅱ：投げる、捕らえる、打つ、走る動作を試合で試す。
理論Ⅰ　今日の試合を振り返りレポートの作成

第 12 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5）
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５技術Ⅲ：相手選手の裏をかくプレーにチャレンジする。
ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ5戦術Ⅰ：技術を発揮するために、ルールを理解し模擬試合で戦い方等を学ぶ

第 13 回　①ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ実技（ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ５）
試合Ⅰ：試合の運営方法等の再認識とルールの統一
理論　今日の試合に関する振り返りレポートを作成する。

第 14 回　①サッカー実技　②今日の試合の振り返り
試合Ⅱ：GAME（学生が考えたルールと運営）
理論：今日の実技振り返りレポートの作成

第 15 回　①サッカー実技　②今日の試合の振り返り
試合Ⅲ：GAME（クアトロゲーム）個人の評価
理論：授業全体を通しての振り返りレポート作成。

〔成績評価〕

A:振り返りレポート等の提出物の成果（４０）
B:実技テスト・測定・試合結果（４０）
C:授業への取り組む姿勢（２０）

〔教科書〕

「なし」、適時資料を配布する。

〔参考文献〕

・日本サッカー（JFA）協会編　サッカー指導教本(2012,2014,2016,2018,2020版)
・ミニサッカーのいろいろ(遊戯社：監修　日本ミニサッカー連盟)
・21世紀のサッカー選手育成法ジュニアー編（大修館書店ｹﾞﾛﾋﾞｻﾝﾂ他著)
※その他授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

※大学からの指示でCOVID19の感染状況により実技授業や対面授業の実施が出来ない状況になった場合には2020年度

と同様にHollyによるリモート学習を活用した授業とします。なお、「実技の振り返りレポート」はHollyを活用してレポートを提出することとします。
また、シラバスを一部変更して授業を進める場合もあります。その時には事前或いは事後に受講学生に改めて内容を提示します。
〔オフィスアワー〕
基本的にはHolly上でのやり取りとします。

キャリア基礎　教育②

8117
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
金　　相煥

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。
〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・（全）記号は全学科合同での実施メニュー
・（学科）記号は教育学科合同での実施メニュー
・（クラス）記号は各クラスでの実施メニュー
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。
〔授業計画〕
第 1 回 （全） モチベーションアップ（藤本、ほか）
DVD映像を参照…モチベーションを高めるための脳活用の方法。プロ100人に聴いた極意を知る。
第 2 回 （全） 学園祭の取組み
第 3 回 （学科） 小論文の書き方①
第 4 回 （全体） キャリア形成について（1）…働く…（学科） 小論文の書き方②
第 5 回 （全） 学園祭運営委員会より
大学学園祭の実施、運営・企画にあたり、各イベント内容の周知と任務、役割分担など。
第 6 回 （全） 税について…外部講師講演
芦屋税務署さまより税についての基調講演。参照映像やクイズ形式などにより、税についての深い知見を得る。
第 7 回 （クラス） 実践PBL（１）
グループによるPBL（Problem Based Learning）【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 8 回 （クラス） 実践PBL（２）
グループによるPBL（Problem Based Learning）【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 9 回 （学科） 卒業生に聞く
第 10 回 （全） キャリア形成について（2）…SPIなど…就職部主催
就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣など、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を知る。
第 11 回 （学科） Aドリル：ペーパーテスト
第 12 回 （全） 裁判員制度について
DVD映像、裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。
第 13 回 （学科） 教育学科コース説明
第 14 回 （全） キャリア形成について(3)…先輩からの声…就職部・教職支援センター主催
学生シンポジウム…就活成功への秘訣。－就職内定者、教職合格者、インターンシップ体験学生に聴く－
第 15 回 （学科） まとめレポート
定期試験
〔成績評価〕
・レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②フォリーでメッセージを送ってください。
③事務所に問い合わせてください。

スポーツ社会学②

5214
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
金　　相煥

〔到達目標〕
さまざまな時代や社会におけるスポーツの状況及び歴史的な変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得する。その学習を通して、社会の変化とスポーツの変化とを相関的に見る視点を養うと同時に、現代のスポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することが出来るようにする。そして、現代のスポーツにおける課題や問題点、さらには今後のスポーツのあるべき姿についての自らの考えを持てるようにする

〔授業の概要〕
スポーツ社会学の基礎を習得することにより、現代社会におけるスポーツ社会学の意義を理解する。そして様々な事象とスポーツとの関連を理解することにより、今後のスポーツの在り方を説明できるようにする
なお、前半回は講義型授業が主となるが、後半回からは受講生（個人・集団）によるプレゼンテーション及び討論による課題発見・解決型授業を実施してゆく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回・次回に向けての文献読み込み、要約の作成など、授業時間外の学習も指示する。
日頃から「スポーツ」について興味・関心を持って情報収集に努めるとともに問題意識を考えることを習慣化すること

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　講義の進め方、受講の共通理解、評価の内容伝達
第 2 回　スポーツの概念と歴史
　スポーツの意義と価値、スポーツの歴史的発展と変容、近代スポーツ
第 3 回　文化としてのスポーツ
　スポーツとは、文化とは、スポーツ観、スポーツマンシップとフェアプレー
第 4 回　社会の中のスポーツ
　中高年とスポーツ、女性とスポーツ、スポーツにおける動機づけ
第 5 回　障害者とスポーツ
　障害者スポーツの歴史、パラリンピック
第 6 回　障害者スポーツの取り組み
　障害者スポーツの現状と課題
第 7 回　地域スポーツクラブ
　我が国のスポーツ施策、地域スポーツクラブの運営と課題
第 8 回　地域におけるスポーツ振興
　地域スポーツクラブの具体例と可能性、スポーツ少年団の活動分野と内容
第 9 回　保健体育の体育理論について
　学習指導要領について学ぶ
第 10 回　これからのスポーツについて
　スポーツの課題とこれからのスポーツが貢献しうる可能性について考える
第 11 回　これからの体育について
　体育授業についての課題とこれからの学校体育について考える
第 12 回　学校と運動部を考える
　自己の運動部経験等と理想の運動部の姿をプレゼンテーションする
第 13 回　現代社会におけるスポーツを考える
　スポーツトピックス（ハラスメント・コンプライアンス）について考える
第 14 回　スポーツと生活を考える
　社会におけるスポーツの現状と課題について考える
第 15 回　スポーツの現状と課題を考える
　スポーツの現状と課題についてグループディスカッションを含んでまとめを行う

〔成績評価〕
定期試験（50%）、授業への取組・授業内提出物（20%）、課題発表（30%）

〔教科書〕
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する

〔参考文献〕
スポーツ社会学講義　　（大修館書店）
公認スポーツ指導者要請テキスト
共通科目Ⅰ・Ⅱ　（財団法人　日本体育協会）

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

【実務経験の活用】
「地域スポーツの現場やプロスポーツクラブでの経験を生かした指導実習を行う」
「学内の課外活動（部活動）における課題についての対処法などの指導を行う」

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②木曜日：14：30～15：30
③場所：金相煥研究室
④連絡先：メール（sanghwan@ashiya-u.ac.jp）にて対応
⑤来室の際には、事前にメールでアポイントを取ってください。

小児保健（スポーツ医学）

4012
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
田中　　健一

〔到達目標〕
小児、学童、生徒の心身の健康や安全を守るために必要な知識や技術を得る
〔授業の概要〕
現代社会が抱える健康の諸問題をはじめ、小児から学童、生徒に発生する様々な健康や安全の諸問題について学ぶ。講義では写真や動画、またデモンストレーションをおこない使える知識と技術を習得してもらう
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次講義の内容を毎回講義の最後に予告する。その内容について参考文献などを見ながら次の授業の予習をしてくることが望ましい。特に運動器疾患の講義については該当部位の解剖学を30分程度予習してくることが望ましい
〔授業計画〕
第 1 回　小児保健（スポーツ医学）概論
・小児保健とは
・学校保健とは
・スポーツ医学とは
第 2 回　保健と健康
・保健と健康について
・日本と世界の死亡率、平均寿命
・疾病構造の変化
・生活習慣病とその危険因子、予防方法
第 3 回　発育・発達
・小児期の区分と各期の発育、発達
・骨の成長過程　など
第 4 回　児童・生徒の運動器障害
・児童、生徒の運動器障害の実態、特徴
・部活動中に発生する外傷、障害　など
第 5 回　足関節・足部のスポーツ外傷・障害
・足関節および足部のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（足関節内反捻挫、足関節外反捻挫、過剰骨障害、踵骨骨端症など）
第 6 回　膝関節のスポーツ外傷・障害（前半）
・膝関節のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷、膝内側側副靭帯損傷、膝半月板損傷など）
第 7 回　膝関節のスポーツ外傷・障害（後半）
・膝関節のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（膝軟骨損傷、膝蓋骨脱臼、膝蓋靭帯炎、鵞足炎、腸脛靭帯炎、膝骨端症など）
第 8 回　股関節・大腿・下腿部のスポーツ外傷・障害
・股関節、大腿部、下腿部のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（鼠蹊部痛症候群、股関節唇損傷、肉離れ、アキレス腱断裂、骨盤剥離骨折など）
第 9 回　腰部のスポーツ外傷・障害
・腰部のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、筋膜性腰痛症、腰椎圧迫骨折など）
第 10 回　頚部のスポーツ外傷・障害
・頚部のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（頸椎捻挫、バーナー症候群、頸椎椎間板ヘルニア、脊椎・脊髄損傷など）
第 11 回　肩関節のスポーツ外傷・障害
・肩関節のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（肩関節脱臼、肩腱板損傷、肩鎖関節脱臼、投球障害肩など）
第 12 回　肘関節・前腕・手関節のスポーツ外傷・障害
・肘関節および前腕、手関節のスポーツ外傷・障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（肘内側側副靭帯損傷、肘内側上顆炎、肘外側上顆炎、TFCC損傷など）
第 13 回　内科的・生命に関わるスポーツ疾患（第１回）
・内科的な急性障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（突然死、熱中症、過換気症候群、運動時側腹痛、運動誘発性アナフィラキシーショックなど）
第 14 回　内科的・生命に関わるスポーツ疾患（第２回）
・内科的な慢性障害の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（貧血、オーバートレーニング症候群など）
第 15 回　内科的・生命に関わるスポーツ疾患（第３回）
・スポーツ現場で起こりうる生命に関わる疾患の病態、評価方法、対処方法を学ぶ（頭部外傷（脳震盪）、心臓震盪など）
・医師法と裁判事例
〔成績評価〕
授業内提出物10%、後期試験90%により評価する
もしオンライン授業となった場合はこの通りでなく臨機応変に評価をおこなう。具体的方法については第一回授業でアナウンスする。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
・廣島英夫 編「新小児保健学」
・JSPO-AT 専門科目テキスト③、④
・臨床スポーツ医学「学校スポーツにおける外傷・障害診療ガイド」
・小出清一 著「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕
後期、木曜日１限　受業終了後 5～10分程度対応します。オンライン授業となった場合や直接コミュニケーションをとる時間がない場合はPhollyのメッセージかメールで連絡をお願いします。 メールアドレス：k-tanaka@ashiya-u.ac.jp

日本語Ⅱ①

4420
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
日本語の上級レベル（日本語能力試験N1レベル）に合格できる力をつけ
ることを目的とする
〔授業の概要〕
日本語能力試験N1レベルの文章を読み、文法・語彙の使い方を学び、学んだ文法・語彙を実際に使って、文・文章を作成し、Ｎ１レベルに対応する実践力を身につける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)
〔授業計画〕
第 1 回　模擬試験
　　言語知識（読解・文法・文字・語彙〉
第 2 回　言語知識①
　　模擬試験のフィードバック
　　文法・語彙問題練習
第 3 回　読解①
　　日本語の多様性
第 4 回　文法・語彙①
　　日本語の多様性
第 5 回　総合①
　　復習　模擬試験　（読解）
第 6 回　文法・語彙②
　　環境のためにできること
第 7 回　読解②
　　環境のためにできること
第 8 回　総合②
　　復習　模擬試験
第 9 回　文法・語彙③
　　食の共同性
第 10 回　読解③
　　食の共同性
第 11 回　総合③
　　復習　模擬試験
第 12 回　文法・語彙④
　　笑いのちから
第 13 回　読解④
　　笑いのちから
第 14 回　総合④
　　復習　模擬試験
第 15 回　模擬試験
　　Ｎ１レベル模擬試験　言語知識
〔成績評価〕
授業への参加度・態度：20%
宿題・提出物：20%
小テスト：30%
期末テスト：30%
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
『中級から上級への日本語』（専門教育出版）
『改訂版どんなときどう使う日本語表現文型 500』（アルク）
『パターン学ぶＮ１文字語彙問題集』（Ｊリサーチ 出版）
『日本語能力予想試験問題集Ｎ１』（国書会日本 語学校）他
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日２限（12：10～13：40）

日本語特別演習Ⅰ

2714
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
鷲見　　まゆみ

〔到達目標〕
日本語能力試験Ｎ１レベルに高得点で合格することを目標とする
〔授業の概要〕
Ｎ１レベルの模擬試験を数多く解きながら、文法力、読解力・語彙力をつけ ていくことを目標とする
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
（予習・復習）及び時間等

間違えた問題、理解できなかった問題を復習する。(30 分)
漢字の練習（30 分）
新しいことばや文法を使って、例文を作る。(30 分)

〔授業計画〕
第 1 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 2 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 3 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 4 回　模擬試験１＜読解＞
　　Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 5 回　模擬試験１＜言語知識＞
　　Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 6 回　模擬試験１＜読解＞

Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 7 回　模擬試験１＜言語知識＞
Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 8 回　模擬試験１＜読解＞
Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 9 回　模擬試験１＜言語知識＞
Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 10 回　模擬試験１＜読解＞
Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 11 回　模擬試験１＜言語知識＞
Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 12 回　模擬試験１＜読解＞
Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 13 回　模擬試験１＜言語知識＞
Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題
第 14 回　模擬試験１＜読解＞
Ｎ１レベルの読解の総合問題
第 15 回　模擬試験１＜言語知識＞
Ｎ１レベルの文字・語彙・文法の総合問題

〔成績評価〕
参加度　３０％
宿題　提出物　１０％
小テスト　３０％
期末テスト　３０％

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
phollyの課題の最後に書いてください。 木曜日３限（13：50～15：20）

ダンス（教職）①

2000
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
実務経験有
磯貝　康成

〔到達目標〕
本講義では､学校体育で取り扱うダンス領域の理解を深める。また、学習指導要領で取り上げられる内容に従事した講義内容で実施し、運動技能の向上も含めて身体表現につ いて習得していくことを目標とする

〔授業の概要〕
本講義では、ダンスの実技を通じて、様々な身体表現の仕方について学習していく。個人的な技能と合わせて、グループ学習を通じた他人とのコミュニケーションを深めつつ様々な表現技能を身に着ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
実技科目にふさわしい服装で受講。
準備運動をしっかりと行い、怪我がないように準備をしておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業オリエンテーション
第 2 回　ダンスとリズム
リズムやテンポに合わせた身体活動について
第 3 回　ストレッチ講座
ストレッチングについて
第 4 回　リズムダンス①
第 5 回　リズムダンス②
第 6 回　リズムダンス③
第 7 回　リズムダンス④
第 8 回　学校教育とダンス
学校教育におけるダンスの必要性
第 9 回　創作ダンス①
ワークショップ
第 10 回　創作ダンス②
模倣
第 11 回　創作ダンス③
即興
第 12 回　創作ダンス④
ひとながれの動きづくり
第 13 回　創作ダンス⑤
作品づくり
第 14 回　創作ダンス⑥
群舞
第 15 回　まとめ
総括

〔成績評価〕
平常点　100点
【内訳】
・ノート提出　70点
・授業態度等　30点
※上記を踏まえ総合的に判断する

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項､体育実技､中一種（保健体育）､高一種（保健体育）､必修

【実務経験の活用】
現場での実体験を踏まえた、実技指導においてのポイント、技の習得ができる実技授業の展開する。また民間企業、学校現場における今後の社会で求められる人物像、能力を伝えていき、学生の進路により幅広い考え方がもたらせられる指導をする。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②水曜10－13:40(後期は－11:30)、木曜10－11:30
③授業終了後、講義教室で対応
④isogai@ashiya.ac.jpおよびPhollyのメッセージにて対応
⑤特になし

ダンス（教職）④

2019
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
斉尾　博美

〔到達目標〕
本科目は教職課程認定で中学校及び高等学校第一種免許状保健体育の「教科に関する科目」として配置されています。保健体育実技におけるダンス分野を一般的包括的な内容を含み、専門的知識と基本的知識と基本的技能の習得を目標としています。
ダンスの特性や由来、表現の仕方などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通した交流ができるようになることを目標とします。
〔授業の概要〕
ダンスについて次の事項を身につける。
①感じを込めて踊る。
②みんなで自由に踊る楽しさや喜びを味わう。
③ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解する。
④イメージを深めた表現、踊りを通して交流や発表をする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業の復習を行い次週に備えて予習する。（３０分）
フォークダンス、リズムダンスは最後の回に発表があるので予習、復習をする。（３０分）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業内容についてのガイダンス
　　身体作りの基礎プログラム①ストレッチ②リズム取り
第 2 回　リズムと身体表現
　　リズムの取り方を習得する
第 3 回　リズムと身体表現
　　様々な音楽に合わせてリズム感を養う
第 4 回　リズムと身体表現
　　リズムの特徴を捉え、リズムにのって全身で表現し踊る
第 5 回　フォークダンス
　　外国のフォークダンス「マイム・マイム」の習得
第 6 回　フォークダンス
　　外国のフォークダンス「オクラホマ・ミクサー」「コロブチカ」の習得
第 7 回　フォークダンス
　　日本の民謡「よさこいソーラン節」踊りの習得
第 8 回　フォークダンス
　　日本の民謡「よさこいソーラン節」踊りの習得
第 9 回　フォークダンス
　　日本の民謡「よさこいソーラン節」発表
第 10 回　リズムダンス
　　リズム取り、アイソレーションの習得
第 11 回　リズムダンス
　　基本ステップ、テクニック習得
第 12 回　リズムダンス
　　テクニック、ダンスフレーズ習得
第 13 回　リズムダンス
　　現代的なダンスの作品練習
第 14 回　リズムダンス
　　現代的なダンスの作品練習、フォーメーション構成の習得
第 15 回　リズムダンス
　　現代的なダンスの作品発表
　　前期のまとめ
〔成績評価〕
授業への取り組み７０％
作品発表２０％
レポート１０％
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
中学校学習指導要領（ダンス）
高等学校学習指導要領（ダンス）
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種、高一種、必修
〔オフィスアワー〕
後期
土曜日　１１：００から１２：００
授業前にダンススタジオで対応します。
Gメールのsaio@ashiya-u.ac.jpかPhollyのメッセージに前日までに質問・相談の連絡の有無を入れ確認をしてください。

芸能と経営

5011
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
井村　薫子

〔到達目標〕
芸能の発達とその時代のスポンサーの変遷を説明できる。芸能と文化の背景にある、政治的な環境を関係づけることができる。現代メディアの中での芸能の経済的効果を討議できるようになる。
〔授業の概要〕
芸能の歴史を通して、スポンサーとなる受容者は誰であったかを類推する。時代によって変遷するメディアの変化をDVDなどの映像資料によりみていく。現代のメディア芸能

の経済的規模の考察。現代人と芸能の関わり合いについて、クラスでディスカッションする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

配布した資料の熟読
授業後のレポートを書く

〔授業計画〕

第 1 回　芸能・芸術の定義
　　芸能の社会的な位置付けについて。
第 2 回　日本古代の芸能　1
　　日本神道における芸能。歴史的背景。
第 3 回　日本古代の芸能　2
　　日本古来の神道における芸能。
第 4 回　海外の芸能　1
　　ヒンズー、ギリシアなどにおける芸能。歴史的背景。
第 5 回　海外の芸能　2
　　ヒンズー、ギリシアなどにおける芸能ビデオ鑑賞（ヒンズー舞踊）
第 6 回　能楽と狂言　1
　　能楽と狂言について。足利将軍や社寺の加護とその政治的背景。
第 7 回　能楽と狂言　2
　　能楽と狂言について　ビデオ鑑賞。
第 8 回　歌舞伎　1
第 9 回　歌舞伎　2
第 10 回　西欧のバレエ
　　バレエの歴史。ルイ１４世から現代までにおけるパトロネージのまで変遷。
第 11 回　現代の芸能　1
　　ストリートダンスなどを含む現代のダンスの背景。
第 12 回　現代の芸能　2
　　マスメディア・テレビの影響について。芸能プロダクションや視聴率の仕組み。
第 13 回　現代の芸能　3
　　映画について。ディズニーのようなエンターテインメント産業として多角化の例。
第 14 回　現代の芸能　4
　　インターネット社会でのスポンサーシップ。YouTube等の芸能媒体の変化。
第 15 回　ディスカッション
　　現代人と芸能の関わりについて、受容側と供給側に分かれてディスカッションする。

〔成績評価〕

レポート提出３０％、ディスカッション３０％、筆記試験４０％

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

大系日本歴史と芸能（平凡社）
日本芸能の起源（大和書房）
芸能の文明開化（平凡社）
世界のダンス（大修館書店）

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00～16:00、水曜日：13:00～16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imuta@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします

教職総合演習1−Ⅱ（面接）

7001
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
秋本　　隆夫

〔到達目標〕

本授業では、教員採用試験を受験することを前提とし、様々な面接技法を通して、学校現場における課題やあらゆる場面への対応について、理解を深めながら、教師としての基本的な資質や実践的な資質能力の向上を高めていく。

〔授業の概要〕

教員採用試験の面接対策として、教師として求められる以下の実践的事項について、集団面接、集団討議及び個人面接の技法の基本的な演習を中心にすすめる。
(1)各都道府県が求める教師像に関する事項
(2)教師を目指す志望動機等に関する事項
(3)教職をめぐる様々な課題に関する事項
(4))教師としての自分の課題を発見し、その課題解決に関する事項
(5)「教師は教室で勝負する」に関する事項
(6)より高い専門性をもった教師に関する事

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

受講生が教職への志を強く持ち、学校現場での実践力の向上に向けて、平素から、教育課題についての情報を適切に収集し、選択し、活用する力を高めておくとともに、熱意をもって、主体的に取り組むことを希望

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　　本授業の目的、内容、方法及、評価及び参考文献について紹介する。
第 2 回　教員採用試験について
　　各都道府県の教員採用試験募集要項についての資料収集を行う。
第 3 回　教員に求められているもの
　　各都道府県が求めている教師像について、各関係資料から分析を行い、課題設定の第一歩とする。
第 4 回　教師を目指す志望動機について
　　「教師を目指す動機や理由」について、自由討議を行う。
第 5 回　各都道府県市が目指す教育計画について①
　　各教育委員会が目指している教育方針、目標及び内容について、理解を深め、教育現場での課題についての関心を高める。
第 6 回　各都道府県市が目指す教育計画について②

教育委員会が目指している教育方針、目標及び内容について、自由討議を行い、教育現場での課題についての関心を高める。
第 7 回　教員の資質について①
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」について、自由討議を行う。
第 8 回　教員の資質について②
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」について、自由討議を行う。
第 9 回　学校における課題①
教育委員会、学校、児童生徒、保護者及び地域が求める「先生」についての自分自身の課題を設定し、教職を目指すための資質向上のための方策を探る。
第 10 回　学校における課題②
学校での主たる活動である学習指導についての課題について、自由討議を行う。
第 11 回　学校における課題③
学校での児童生徒にかかわる諸課題（生徒指導・生活指導）について、自由討議を行う。
第 12 回　学校における課題④
学校組織の一員として、学校を取り巻く課題の解決について、最近の教育時事を踏まえ、自由討議を行う。
第 13 回　教員採用試験対策①
様々な面接技法について、理解を深め、口頭による回答練習を行う。
第 14 回　教員採用試験対策②
各都道府県市の教員採用試験における面接試験について、理解し、その対応ができるように個人的な面接練習を行い、今後の方策をまとめる。
第 15 回　教員採用試験③と授業のまとめ
個人面接の場面を設定し、これまでの項目について、口頭による回答練習を行うとともに今後の課題についての振り返りを行う。

〔成績評価〕
・授業への取組、意見発表及び受講態度　４０％
・毎時間の振り返り　３０％
・課題レポート　　４０％

〔教科書〕
小・中学校新学習指導要領（文部科学省）、生徒指導提要（文部科学省）
適時、資料を配布する。

〔参考文献〕
授業にて、適時、紹介する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
１２：４５～１４：３０（火曜日：研究棟金属加工実習室準備室

武道Ｂ（剣道）①

2323
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
実務経験有
伊藤　　武徳

〔到達目標〕
１）この授業を通して、剣道を基礎基本の段階から学び、授業構成をする上での知識を得る事ができる。
２）技能面では、１級受験可能レベルを目標とする。
３）教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。

〔授業の概要〕
・剣道の起源と変遷および剣道の特性を理解し、剣道の基本動作そして対人的技能を習得させる。
・剣道の理念である「剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。
・武道必修化に伴い中学生に剣道を伝えるための知識とスキルを学ぶ。
・課題に対してペアワークやグループワークを活用し学生主体による学習形態を構築する。
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ）」を提出する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
中学校における武道必修化に伴い、必ず身に付けないとならない知識技能であり、しっかりと身に付くまで授業外学習をすること。
予習：毎時指定した教科書及び当該教科の文献を熟読してくること。（毎回2時間）。
復習：毎時課題に対しての知識的理解と実践的取り組みを行うこと。（毎回2時間）。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、剣道の概要
第 2 回　剣道着の着脱法、 礼法（座礼・立礼）
稽古着・袴着脱法、 礼法（座礼・立礼）の説明と実践
第 3 回　「木刀による基本稽古法①」
基本動作（素振り・送り足）、受け方、打ち方の説明と実践
「基本１」 一本打ちの技　＜正面、小手、胴（右胴）、突き＞
「基本２」 二・三段の技　＜小手⇒面＞
「基本３」 払い技　＜払い面（表）＞
「基本４」 引き技　＜引き胴（右胴）＞
「基本５」 抜き技　＜面抜き胴（右胴）＞

第 4 回　「木刀による基本稽古法②」
基本動作（素振り・送り足）、基本となる技の説明と実践
「基本６」 すり上げ技　＜小手すり上げ面（裏）

＞
「基本７」 出ばな技　　＜出ばな小手＞
「基本８」 返し技　　＜面返し胴（右胴）＞
「基本９」 打ち落とし技＜胴（右胴）打ち落とし面＞
第 5 回 「竹刀打ちこみ稽古法①」
基本動作（素振り・送り足)、基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 6 回 「竹刀打ちこみ稽古法②」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：しかけ技（連続技・払い技・すり上げ技・打ち落とし技）
第 7 回 「防具を用いた稽古法①」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 8 回 「防具を用いた稽古法②」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手）
第 9 回 「防具を用いた稽古法③」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手・小手返し面）
第 10 回 剣道の審判法について
剣道の試合審判規則・細則の説明。
第 11 回 判定試合
判定による勝敗を通して審判を体験する。
第 12 回 1本勝負試合
有効打突（1本）による勝敗を通して審判を体験する。
第 13 回 試合（団体戦）
団体戦による試合形式を体験する。
第 14 回 演武会
演武を行うことで試合との違いや武道を体験する
第 15 回 試験とまとめ
実技試験

〔成績評価〕

・技能（20%）
・知識理解（20%）
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ)」（60%）を総合的に評価する。
※レポート課については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕

文部科学省：『剣道指導の手引き』
全日本剣道連盟：『木刀による基本指導法の手引き』

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

【実務経験の活用】
学校現場などでの武道（剣道）講師と指導者の経験より、実践教育と効果的な指導方法を学校教育の実態と体験を踏まえ指導する。

〔オフィスアワー〕

水曜日12 : 10～13 : 10となります。事前予約をお願いします。
tito@ashiya-u.ac.jp

武道Ｂ（剣道）②

2342
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
実務経験有
伊藤　　武徳

〔到達目標〕

１）この授業を通して、剣道を基礎基本の段階から学び、授業構成をする上での知識を得る事ができる。
２）技能面では、１級受験可能レベルを目標とする。
３）教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。

〔授業の概要〕

・剣道の起源と変遷および剣道の特性を理解し、剣道の基本動作そして対人的技能を習得させる。
・剣道の理念である「剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。
・武道必修化に伴い中学生に剣道を伝えるための知識とスキルを学ぶ。
・課題に対してペアワークやグループワークを活用し学生主体による学習形態を構築する。
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ)」を提出する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

中学校における武道必修化に伴い、必ず身に付けないとならない知識技能であり、しっかりと身に付くまで授業外学習をすること。
予習：毎時指定した教科書及び当該教科の文献を熟読してくること。(毎回2時間)。
復習：毎時課題に対しての知識的理解と実践的取り組みを行うこと。(毎回2時間)。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、剣道の概要
第 2 回 剣道着の着脱法、 礼法（座礼・立礼）
稽古着・袴着脱法、 礼法（座礼・立礼）の説明と実践
第 3 回 「木刀による基本稽古法①」
基本動作（素振り・送り足)、受け方、打ち方の説明と実践
「基本１」 一本打ちの技　＜正面、小手、胴（右胴)、突き＞
「基本２」 二・三段の技　＜小手⇒面＞
「基本３」 払い技　　＜払い面（表）＞
「基本４」 引き技　　＜引き胴（右胴）＞
「基本５」 抜き技　　＜面抜き胴（右胴）＞

第 4 回 「木刀による基本稽古法②」
基本動作（素振り・送り足)、基本となる技の説明と実践
「基本６」 すり上げ技 ＜小手すり上げ面（裏）＞
「基本７」 出ばな技 ＜出ばな小手＞
「基本８」 返し技 ＜面返し胴（右胴）＞
「基本９」 打ち落とし技＜胴（右胴）打ち落とし面＞
第 5 回 「竹刀打ちこみ稽古法①」
基本動作（素振り・送り足)、基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 6 回 「竹刀打ちこみ稽古法②」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：しかけ技（連続技・払い技・すり上げ技・打ち落とし技）
第 7 回 「防具を用いた稽古法①」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：しかけ技（面・小手・胴）
第 8 回 「防具を用いた稽古法②」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手）
第 9 回 「防具を用いた稽古法③」
基本動作（素振り・送り足）
基本となる技：応じ技（面返し胴・出小手・小手返し面）
第 10 回 剣道の審判法について
剣道の試合審判規則・細則の説明。
第 11 回 判定試合
判定による勝敗を通して審判を体験する。
第 12 回 1本勝負試合
有効打突（1本）による勝敗を通して審判を体験する。
第 13 回 試合（団体戦）
団体戦による試合形式を体験する。
第 14 回 演武会
演武を行うことで試合との違いや武道を体験する
第 15 回 試験とまとめ
実技試験

〔成績評価〕

・技能（20%）
・知識理解（20%）
・毎回「学習の記録（ポートフォリオ)」（60%）を総合的に評価する。
※レポート課については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕

文部科学省：『剣道指導の手引き』
全日本剣道連盟：『木刀による基本指導法の手引き』

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

水曜日12:10〜13:10となります。事前に予約をお願いします。
tito@ashiya-u.ac.jp

キャリア基礎　教育③

8119
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
伊藤　　武徳

〔到達目標〕

1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1~2名 の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動(アクティブラーニング)である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・(全)記号は全学科合同での実施メニュー
・(学科)記号は教育学科合同での実施メニュー
・(クラス)記号は各クラスでの実施メニュー

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、PCなどの情報機器基礎スキル(Word、 パワポ)は、各自で身に着けておくことを推奨する。また ノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが 望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。

〔授業計画〕

第 1 回 (全) モチベーションアップ(藤、ほか)
DVD映像を参照...モチベーションを高めるための脳活用の方法。プロ100人に聴いた極意を知る。
第 2 回 (全) 学園祭の取組み 後...クラス別
第 3 回 (学科) 小論文の書き方1
第 4 回 (学科) 小論文の書き方2
第 5 回 (全) 学園祭運営委員会より
大学学園祭の実施、運営・企画にあたり、各イベント内容の周知と任務、役割分担など。
第 6 回 (全) 税について...外部講師講演

芦屋税務署さまより税についての基調講演。参照映像やクイズ形式などにより、税についての深い知見を得る。
第 7 回　(クラス) 実践PBL(1)
グループによるPBL(Problem Based Learning)【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 8 回　(クラス) 実践PBL(2)
グループによるPBL(Problem Based Learning)【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 9 回　(学科) 卒業生に聞く
第 10 回　(全) キャリア形成について(2)
SPIなど...就職部主催:就職試験の日程掌握、SPI 対策、基礎学力向上の秘訣など、就職に必要な具 体的キャリア形成をステップアップするための手法を知る。
第 11 回　(学科) Aドリル:ペーパーテスト
第 12 回　(全) 裁判員制度について
DVD映像、裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。
第 13 回　(学科) 教育学科コース説明
第 14 回　(全) キャリア形成について(3)
先輩からの声...就職部・教職支援センター主催:学生シンポジウム...就活成功への秘訣。-就職内定者、教職合格者、インターンシップ体験学生に聴く-
第 15 回　(学科) まとめレポート

〔成績評価〕

・レポート評価100%
・小レポート記述(量、質)のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①前期・後期
②フォリーでメッセージを送ってください。
③事務所に問い合わせてください。

家庭教育論 I

1018
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
大江　まゆ子

〔到達目標〕

・家族は子どもの発達にとって最も基礎的な集団であると同時に、子どもは家族以外の多様な社会化作用を受けて発達することを説明することができる。
・家庭教育を社会全体のあり方と関連付けて考察する視点を獲得する。
・現代の子育て困難家庭に対する有効なアプローチを文献やインターネットによって調べ、意見交流することにより考えを広げ、多様な子育て家庭の問題に関心を示す。

〔授業の概要〕

少子化・高齢化・核家族化・共働きの増加など社会の変化に伴い、家族・家庭のあり方が大きく変化している。本講義では、子どもの人間形成の視点から、子どもが成長していくために重要な環境である家族・家庭をめぐる諸問題をテーマとし、今後の家庭教育と家庭支援のあり方について考える。
子どもの育ちの場として重要な役割を果たす家庭をめぐる現代的な課題とその課題の解決方法を学習者同士が話し合い、意見をまとめて発表することを求める。その過程で各自が子どもの育ちと家庭教育、家庭支援についての考察を深め、多面的な視点から子どもの育ちを保障する社会と社会を構成する自らのあり方について考えを深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

【予習】120分
家庭教育や家庭支援に関する今日的課題とそれに対する取り組みついて授業内発表を求める。そのため、資料を収集してレポート作成を行い、事前に提出すること。
また、授業内でグループワークを行うため、日頃から新聞、テレビなどで報道される家族や子どもに関する今日的課題、および書籍等で取り上げられる家族像といった多様な家族、子どもについての記事に関心を持ち、自らの家庭教育に対する考えを深めておくこと。
【復習】120分
授業内の内容を整理し、関心を抱いた点について情報を収集し、自らの家庭教育および家庭支援に対する発展的学習を行うこと。

〔授業計画〕

第 1 回　子どもの発達と家庭教育
家庭の機能と子どもの発達の関係について理解を深める。
第 2 回　家庭の定義・意義・機能
子どもの社会化の場と家庭の意義について学習する。
第 3 回　家庭における子どもの発達
家庭支援ニーズの高まりと背景にあるものへの理解を深め、現代の家庭における子育ての課題を考える。

第 4 回　男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス
日本が目指す男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランスについて学習する。
第 5 回　多様な家族形態と家庭の役割を考える
子どもを取りまく現代社会の課題である少子化、児童虐待の問題を取り上げ、里親制度や特別養子縁組など多様な家族形態についての理解を深める。
第 6 回　現代の子育て困難家庭へのアプローチを考える(1)
児童虐待に至るプロセスに対する理解を深める。その上で児童虐待へのエスカレーションサイクルを断ち切る有効な取り組みについて、各自、考察する。
第 7 回　現代の子育て困難家庭へのアプローチを考える(2)
マルトリートメントについて学びを深め、児童虐待へのエスカレーションサイクルを断ち切る各自治体などの取り組みを調べた上で、自分ができることは何かを具体的に考える。
第 8 回　親子関係と子どもの自我形成
子どもの自我形成のプロセスに対する理解を深め、子どもの育ちと親子関係について考える。
第 9 回　子育て家庭の福祉を図るための社会資源
子育て家庭の福祉を図る様々な社会資源についての理解を深める。
第 10 回　ひとり親家庭と子どもの生活
ひとり親家庭の子育て・生活支援についての理解を深め、子どもの育ちを守る社会資源と様々な取り組みについて考える。
第 11 回　児童虐待のメカニズム
児童虐待を引き起こす様々な要因を知り、支援の方法について考える。
第 12 回　社会の変化と家庭教育
子どもの育ちを社会環境から捉える視点をもち、家庭の機能について考える。
第 13 回　育児環境の変化と育児支援（1）　都市環境おける子育て
都市における育児環境の変化への理解に基づき、育児支援を行う者に求められる姿勢について学習する。
第 14 回　育児環境の変化と育児支援（2）子育ての現代的課題と地域の子育て支援環境を考える
子育てをめぐる現代的課題について各自が考えたことをもとに話し合い、地域に求められる子育て支援環境を考える。
第 15 回　「子育て困難」時代と家庭教育の問題
これまで学習してきたことを踏まえ、多様な家庭のあり方と子どもの最善の利益の保障の関連について考察する。

〔成績評価〕
レポート作成（60%）、提出物（20%）、授業への取組姿勢（20%）

〔教科書〕
伊藤嘉余子、野口啓示編著『家庭支援論』ミネルヴァ書房
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
後期、水曜日　13：50〜15：20、教員研究室
※来室の際はフォリーのメッセージ等で必ずアポイントメントを取ること。

日本教育史Ⅰ

1028
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
廣岡　義之

〔到達目標〕
日本における古代から現代までの教育の流れをたどり発展の軌跡を追うことによって未来の望ましい教育を構想する。
〔授業の概要〕
日本の教育を、①古代、中世の教育　②明治、大正時代の教育　③昭和、平成時代の教育と区分することによって、最終的に現代の日本の教育がどうしてこのような形で実現されているのかを再検証する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テキストに沿って進むので、毎回予習・復習を行うこと。毎回発表（プレゼンテーション）を課すので、内容を事前に調べておくこと。(90分)
特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。(90分)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
講義の進め方、試験方法等について理解する。
第 2 回　古代の教育制度と教育の歴史
大和時代、奈良時代、平安時代の教育と教育制度について理解する。
第 3 回　中世の教育制度と教育の歴史
中世の教育と教育制度について理解する。
第 4 回　明治維新と教育（1）
学制、学校令について、詳細に説明することができる。
第 5 回　明治維新と教育（2）
師範学校について詳細に説明することができる。
第 6 回　近代国家の確立と教育（1）
教育勅語について詳細に説明することができる。
第 7 回　近代国家の確立と教育（2）
学校教育制度の整備と拡充について詳細に説明することができる。
第 8 回　大正ﾃﾞﾓｸﾗｼｰと教育
大正自由教育運動、八大教育主張について理解する。

第 9 回　戦時下体制の教育
国民学校と青年学校、学徒動員等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
第 10 回　戦後の教育政策（1）
占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、について説明を加えることができる。
第 11 回　戦後の教育政策（2）
教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
第 12 回　1950～80年代の教育制度の状況
1950年代～80年代の特徴について説明を加えることができる。
第 13 回　2000年以降の教育制度の状況
2000年以降の教育改革の諸相を理解する。
第 14 回　改正教育基本法について
改正教育基本法の特徴について解説することができる。
第 15 回　教育制度と教職員
教職員をとりまく制度と環境について解説することができる。
定期試験

〔成績評価〕
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
〔教科書〕
広岡義之他著『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房、2019
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
Phollyのメッセージで相談・質問をしてください。

中等教科教育法Ⅱ（保健･体育）

1006
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
石川　　峻

〔到達目標〕
１）体育授業の指導案を作成することができ、決められた時間内に運営することができる。２）体育授業における基礎的な教授技術について理解し、模擬授業において実践することができる。
３）体育授業の構造について理解することができる。
〔授業の概要〕
授業前半では体育授業における基本的な構造について紹介する。後半ではそれらを用いて1人1人が模擬授業を行う。毎回の模擬授業終了後に全員でリフレクションを行い、より良い体育授業の実践について議論し考察していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業後のレポート作成（2時間）
模擬授業担当種目の教材研究（4時間）
指導案の作成（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、体育授業の構造①
授業の概要や進め方、受講上の注意事項、評価方法、体育授業の組み立て方
第 2 回　体育授業の構造②
体育授業における教師の行動
第 3 回　体育授業の構造③
体育授業における教授法
第 4 回　体育授業の構造④
教材づくり
第 5 回　体育授業の指導計画
単元計画、指導案作成
第 6 回　体育授業の評価
体育授業の評価方法
第 7 回　模擬授業①
模擬授業の実施とそのリフレクション
第 8 回　模擬授業②
模擬授業の実施とそのリフレクション
第 9 回　模擬授業③
模擬授業の実施とそのリフレクション
第 10 回　模擬授業④
模擬授業の実施とそのリフレクション
第 11 回　模擬授業の振り返り
模擬授業①－④の振り返り
模擬授業⑤－⑧に向けて
第 12 回　模擬授業⑤
模擬授業の実施とそのリフレクション
第 13 回　模擬授業⑥
模擬授業の実施とそのリフレクション
第 14 回　模擬授業⑦
模擬授業の実施とそのリフレクション
第 15 回　模擬授業⑧、まとめ
模擬授業の実施とそのリフレクション
授業のまとめ
〔成績評価〕
模擬授業　30%
レポート、指導案　40%
授業への取り組み・態度　10%
期末試験　20%
〔教科書〕
文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説（平成29年7月告示）保健体育編.
文部科学省（2018）高等学校学習指導要領解説（平成30年7月告示）保健体育編体育編.
※その他、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖（著）新版 体育科教育学入門、大修館書店
※その他、授業中に紹介する

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
教育現場経験より、分かりやすい授業作り（授業構成、教材、教具）や教科指導法を指導する。
〔オフィスアワー〕
水曜１、２限

キャリア基礎　教育⑤

8115
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
武田　　光平

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。
〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・（全）記号は全学科合同での実施メニュー
・（学科）記号は教育学科合同での実施メニュー
・（クラス）記号は各クラスでの実施メニュー
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。
〔授業計画〕
第 1 回 （全） モチベーションアップ（藤、ほか）
DVD映像を参照…モチベーションを高めるための脳活用の方法。プロ100人に聴いた極意を知る。
第 2 回 （全） 学園祭の取組み
後…クラス別
第 3 回 （学科） 小論文の書き方①
第 4 回 （学科） 小論文の書き方②
第 5 回 （全） 学園祭運営委員会より
大学学園祭の実施、運営・企画にあたり、各イベント内容の周知と任務、役割分担など。
第 6 回 （全） 税について…外部講師講演
芦屋税務署さまより税についての基調講演。参照映像やクイズ形式などにより、税についての深い知見を得る。
第 7 回 （クラス） 実践PBL（１）
グループによるPBL（Problem Based Learning）【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 8 回 （クラス） 実践PBL（２）
グループによるPBL（Problem Based Learning）【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 9 回 （学科） 卒業生に聞く
第 10 回 （全） キャリア形成について（2）
SPIなど…就職部主催：就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣など、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を知る。
第 11 回 （学科） Aドリル：ペーパーテスト
第 12 回 （全） 裁判員制度について
DVD映像、裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。
第 13 回 （学科） 教育学科コース説明
第 14 回 （全） キャリア形成について(3)
先輩からの声…就職部・教職支援センター主催：学生シンポジウム…就活成功への秘訣。－就職内定者、教職合格者、インターンシップ体験学生に聴く－
第 15 回 （学科） まとめレポート
〔成績評価〕
・レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②フォリーでメッセージを送ってください。
③事務所に問い合わせてください。

中等教科教育法Ⅱ（英語）

3233
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
中学英語教師として必要な知識教養を身につける。
教師であることの基本を踏まえながら，英語教師に必要な資質を身につける。
生徒の知識理解、関心意欲、技能表現を育む授業者としての技能の基礎を身につける。
〔授業の概要〕
授業内の課題を能動的かつ自立的に学び続けることができるよう、学生同士の話し合いや意見発表の機会を織り込みながら体験的に授業を進めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業の復習や演習課題をしておくこと。(120分)
予習を十分に行って授業に臨むことが必至である。(120分)
〔授業計画〕
第 1 回　英語教育の意義目的を復習
英語Ⅰの骨子を復習しながら、個々の英語学習の成果を交流する。
第 2 回　英語の４技能、５領域の概要整理
読む、書く、聴く、話す（やり取り、発表）の4技能5領域が連動した授業づくりの在り方を考察する。
第 3 回　入門期の発音指導の重要性や教師に必要な授業音声
フォニックスの基本を整理するとともに、授業者に必要な音声を考察する。
実践交流を通して、学生個々の課題発見の授業とする。
第 4 回　英語学習における「主体的で深い学び」
英語の授業におけるアクティブラーニングの実例を挙げながら、生徒が主体的に自立した学習を構築していく過程を考察する。
第 5 回　文法指導を授業に取り入れる方法
英語で授業を進める中で、どのように生徒の文法力を定着させていくのかを考察する。また、文法知識の必要性を整理する。
第 6 回　リスニング力の効果的指導法
リスニングにおける場面と機能の重要性、予測や推測能力を使うリスニングを具体例を挙げて整理する。
第 7 回　リーディング力を高める指導法
スキミング、スキャニングといった情報収集の方法を含め、効果的なリーディングの方法を整理する。
第 8 回　ライティング力を高める指導法
対話文から説明文、説明文から対話文、要約文など実践的な書く力を構築する方法を整理する。
第 9 回　ティームティーチングに必要な構成力と課題。
ALTの示す授業課題を整理しながらJTEとの有効なTTの在り方を整理する。
第 10 回　IT機器やデジタル教材の活用
IT機器やデジタル教材の具体的な活用例を挙げながら授業での効果的な利用方法を整理する。
第 11 回　パフォーマンス評価，ルーブリック，ポートフォリオなどの評価法
3観点をどのように評価し、生徒の学習改善を図るかを考察する。
3観点の評価場面を具体例を挙げて整理する。
第 12 回　教材研究と学習指導案例
学習指導案の例を提示し、教材研究をどのように進めていくのかを整理する。
第 13 回　模擬授業（１）
模擬授業を相互評価し合い、授業構築の在り方を学ぶ。
第 14 回　模擬授業（２）
模擬授業を相互評価し合い、授業構築の在り方を学ぶ。
第 15 回　まとめ
後期授業の骨子を振り返り、今後の英語学習の目標を整理する。
〔成績評価〕
への参加態度，レポート　２５％
定期試験　　７５％
〔教科書〕
学校学習指導要領解説　外国語編（平成２９年３月告示、文部科学省）
適宜資料を配布する
〔参考文献〕
育の基礎知識（大修館書店）
中学校用教科書
Let’s Try！, We can！　（文部科学省）
小学校用教科書　など
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。
中学校教諭や教育委員会での実体験を活かして、「教師に必要な資質」や「学校教育の抱える課題対応」を指導する。
〔オフィスアワー〕
木曜日3限、研究室

教職論【中等】

2303
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
中学校・高等学校の教師を目指す者にとって必要な理念・制度・法律などの基礎的知識を修得する。
教師としての資質・使命についての認識を深める。
望ましい教師像の基盤を構築する。重ねて、将来の進路選択を考える機会とする。

〔授業の概要〕
教育に携わる者としての心得や教育の目指すべき姿を学校現場での具体的な事例を扱いながら，受講生個々の資質向上を図る。毎時間の演習課題に取り組みながら、生徒・保護者・地域に信頼される教師像を考察していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間の復習と演習課題に取り組むこと。(120分)
次時に向けて提示する資料を予習して授業に臨むこと。(120分)

〔授業計画〕
第 1 回　教職論の目的及び学校教育の目的
憲法、教育基本法に定める教育の目的。教師という言葉の概念。
第 2 回　教師に求められる資質・能力
教師の仕事の特殊性。これからの教員に求められる資質能力。
「チームとしての学校」が求められる背景。
第 3 回　児童・生徒の発達の特徴
発達段階区分の特徴。学習指導要領（特別活動の目標）から見る発達段階の目標。
受講生の中学時代の成長を振り返る。
第 4 回　生徒指導の意義
学校生活への適応・不適応。生徒理解の原理。
第 5 回　学級活動と生徒指導の関連性
集団形成に必要な学級経営の要素。学級活動と生徒指導の関連性。
第 6 回　授業と生徒指導
生徒の学習環境を整えるために必要な視点。学級担任が扱う実務・公簿などに関する基礎知識。
第 7 回　いじめと体罰
いじめ防止対策推進法の整理。学校教育法第11条から「懲戒と体罰」の違い。
第 8 回　教員の資格と研修
教員免許制度の概要。教員免許更新制の理解。
第 9 回　教員の服務・制度
教員の服務上の義務と勤務時間外の身分上の義務。分限と懲戒。
綱紀粛正及び服務規律の確保。
第 10 回　教員の勤務条件
時間外勤務。休業日・週休日の勤務の違い。主な休暇・休業制度。
第 11 回　特別支援教育の概要とその必要性
障害を抱える生徒への関わり方。「障害者の権利に関する条約」及び「障害者差別解消法」に触れる。
第 12 回　特別の教科道徳
学習指導要領の変遷。道徳の目標及び道徳的価値。道徳科の評価。
第 13 回　学校法規基礎演習①
学校法規の種類。日本国憲法、教育基本法、学校教育法の必修内容を演習を通して理解する。
第 14 回　学校法規基礎演習②
学校教育施行令、学校教育施行規則に必修内容を演習を通して理解する。
教員が国民全体の奉仕者であることの定義。
第 15 回　教師という仕事の意義
授業全体を振り返りながら、教師に求められる資質と受講生自身の課題を整理する。

〔成績評価〕
定期試験75%　　平素の演習レポート25%

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
授業中適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
生徒指導提要等（文部科学省）
教職論（教職につくための基礎・基本）　東海大学出版会等

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教育の基礎的理解に関する科目、教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）、中一種、高一種、必修

【実務経験の活用】
中学校教諭や教育委員会での実体験を活かして、「教師に必要な資質」や「学校教育の抱える課題対応」を指導する。

〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅱ③

1503
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
TOEIC新形式の初級レベルの問題に慣れる。
4技能のうち、特に、Reading ,Listeningの基礎を身につける。
教科書にある英文を参考にし、身近な英語表現力を身につける。

〔授業の概要〕
各UnitのPart 1~Part 4はListening とディクテーションを基本にしながら、受講生自身がペアやグループで英文を作成し、英語を発信する練習をする。
Part 5～Part 7は、文法理解と内容理解の練習を重ねていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎時間の復習をし、次時の確認テストの学習をすること。(120分)
指示した内容についての十分な予習をしておくことが必要である。(120分)
〔授業計画〕
第 1 回　復習
前期、英語 I で学修した単語や語句を中心に復習する。
既習の内容の英文をディクテーションする。
第 2 回　Unit 2　Travel
旅行に関する英語
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する。
第 3 回　Unit 2　Travel
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 4 回　Unit 3　Hotels
ホテルでの業務などに関する英語
Part1～Part4　リスニング、ディクテーション
第 5 回　Unit 3　Hotels
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 6 回　Unit 4　Dining
レストンで使う英語
Part1～Part4　リスニング、ディクテーション
第 7 回　Unit4　Dining
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 8 回　Unit 5　Sports and Hobbies
スポーツや趣味の英語
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 9 回　Unit 5 Sports and Hobbies
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 10 回　Unit 6 Phone Calls and Emails
電話対応やメールに関する英語
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 11 回　Unit 6 Phone Calls and Emails
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 12 回　Unit 7　Health
健康に関する英語
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 13 回　Unit 7　Health
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
第 14 回　Unit 8　Ecology
環境問題に関する英語
Part 1～Part 4 Listening, Dictation.　放送文を参考にして、英文を作成する
第 15 回　Unit 8　Ecology　　まとめ
Part 5～ Part 7の内容理解。新出語彙、語句の学習。
既習の単語、語彙、重要構文の整理をする
〔成績評価〕
授業での課題への取り組み　25%　　テスト　75%
〔教科書〕
RAISING YOUR LEVEL !
FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST （南雲堂）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。
〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室11

心理学入門

3110
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
三島　利江子

〔到達目標〕
①大学基礎教養レベルの心理学の知識の習得
②習得した知識を日常生活で応用できること
これらを主な到達目標とする。
心理学の諸領域に、学生が興味を持てるように講義したい。心理学を学ぶことで、学生が、自己や他者といった「人間」に対する理解を深めることを期待する。
〔授業の概要〕
心理学全般について講義する。
授業で扱う内容は、学習心理学、発達心理学、認知心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の諸領域を網羅する。また学習者同士の話し合いの時間を設ける。講義はテキストに沿って進めるため、受講にあたってはテキストを毎回、必ず持参すること。

なお、授業内容は、学生のニーズや、必要に応じて、多少の変更も有り得る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

準備学習として、テキストを読み内容を把握する。

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション
　　授業の目標，授業進行の予定，成績評価方法，参考文献と資料の紹介
第 2 回　心理学とは何か
　　心理学の目指すこと，心理学の歴史，心理学の研究領域，心理学の研究方法
第 3 回　知覚
　　知覚心理学とは，知覚の働きにおける「見る」しくみ
第 4 回　動機づけ
　　動機とは，動機の種類，欲求の階層，外発的動機付けと内発的動機付け，葛藤
第 5 回　発達の理論
　　発達心理学とは，遺伝と環境，成熟と学習，発達の捉え方
第 6 回　発達の過程
　　胎児期，新生児期，乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期
第 7 回　パーソナリティー
　　その人らしさとは，パーソナリティーの形成，パーソナリティーの諸理論
第 8 回　学習
　　学習心理学とは，人間行動の進化と特徴，条件付け，社会における学習
第 9 回　認知心理学
　　認知心理学とは，記憶の諸側面，考える仕組み，知能
第 10 回　社会的認知
　　社会心理学とは，他人を知る，態度，ステレオタイプ，対人魅力，自己を知る
第 11 回　集団
　　集団とは，集団凝集性，集団規範，リーダーシップ，人からの影響
第 12 回　適応と不適応
　　こころの健康，適応と不適応，ストレス，いじめ，非行，犯罪
第 13 回　こころの病とその癒し
　　こころの病とは，精神障害の種類，カウンセリングと心理療法
第 14 回　心理学を役立てる
　　日常生活と心理学，心理学を活かせる仕事，心理学に関わる資格
第 15 回　まとめ
　　授業全体のまとめ　試験について

〔成績評価〕

期末の試験による

〔教科書〕

中里・松井・中村（編著）『新・心理学の基礎を学ぶ』八千代出版

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

金曜　１限　授業終了後，同教室にて　11:30~11:50

教育心理学実験Ⅱ

3217
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
三島　利江子

〔到達目標〕

心理学における実験的研究の基礎を習得する。心理学の基礎的実験・実習を経験するとともに、得られたデータを分析・考察して、実験レポートを作成することを通じて、心理学における実験的技法・実証的手法の知識を身につける。また教育心理学における科学的手法の意義についても学ぶ。

〔授業の概要〕

教育心理学における実験的研究の基礎を習得するために、心理学の基礎的な実験・実習として著名なものを体験する。知覚、認知、社会などの領域を中心に、実験、観察、調査、心理テスト等の方法について、学習者が互いに協力しつつ、実験者および研究対象者として参加体験し、データ分析・考察、報告書作成により、基礎的体系的知識を学習する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

各課題ごとの実験レポートの作成

〔授業計画〕

第 1 回　教育心理学実験とは
　　授業の進め方、内容、予定、評価方法等の説明，参考文献等の紹介　教育心理学実験とは何かについて、データ処理、レポートの書き方について説明する
第 2 回　触二点閾（1）
　　触二点閾の心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。
第 3 回　触二点閾（２）
　　実験者及び実験参加者として行った触二点閾の心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。
第 4 回　日常記憶（１）
　　日常記憶の心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。
第 5 回　日常記憶（２）
　　実験者及び実験参加者として行った日常記憶の心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。
第 6 回　連想プライミング（１）
　　連想プライミングの心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。
第 7 回　連想プライミング（２）

実験者及び実験参加者として行った連想プライミングの心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。
第 8 回　神経心理学的テスト（1）
神経心理学的テストの心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。
第 9 回　神経心理学的テスト（2）
実験者及び実験参加者として行った神経心理学的テストの心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。
第 10 回　社会的促進（1）
社会的促進の心理学実験を実験者及び実験参加者として行う。
第 11 回　社会的促進（2）
実験者及び実験参加者として行った社会的促進の心理学実験のデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。
第 12 回　投影法のパーソナリティテスト
バウムテストの心理学実験を実験者及び実験参加者として行い、かつデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。
第 13 回　投影法のパーソナリティテスト
PFスタディの心理学実験を実験者及び実験参加者として行い、かつデータ分析、考察、報告書を作成し、実験的研究の基礎を学習する。
第 14 回　発表会
授業を通して行ってきた心理学実験について発表を行う。
第 15 回　授業のまとめ
授業全体のまとめを通じて心理学の実験的研究の重要点を学ぶ。

〔成績評価〕
平常点40%、レポート60%で総合的に評価を行う。
〔教科書〕
日本心理学会・認定心理士資格認定協会編（2015）．認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
〔参考文献〕
高石浩一・谷口高士著（2006）．心理学実習基礎編　培風館
その他、授業中に適宜紹介、配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
金曜　2限　授業終了後，同教室にて　13:40~14:00

ジャズ（int.）Ⅰ-2

1935
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
加藤　雅子

〔到達目標〕
卒業公演に向けて作品を仕上げる
〔授業の概要〕
毎週振り付けを覚え、各自必ず自主練習をして来る。
最終全てを繋げ合わせて１つの作品にし、披露する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業の復習、自主練習 90分
〔授業計画〕
第 1 回　前期のおさらい
前期振り付けのおさらい
第 2 回　振り付け、おさらい
新たな振り付け、おさらい
第 3 回　振り付け、おさらい
新たな振り付け、おさらい
第 4 回　作品全体完成に近づける
仕上げ作業
第 5 回　作品全体完成に近づける
仕上げ作業
第 6 回　手直し
更に良くなる様手直し
第 7 回　手直し
更に良くなる様手直し
第 8 回　作品完成
全て完成
第 9 回　作品完成踊り込み
全ての踊り込み
第 10 回　作品完成踊り込み
全て踊り込み
第 11 回　作品完成踊り込み
全て踊り込み
第 12 回　作品完成踊り込み
全て踊り込み
第 13 回　お互いに見せ合い披露
半分づつに分かれて披露し合う
第 14 回　作品に対して意見を出し合う
作品完成、訂正作業、踊り込み、個々に意見を出し作品を良くする
第 15 回　発表
まとめ
〔成績評価〕
授業態度50%、技術力50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
〔オフィスアワー〕
いつでも受付ます

ジャズ（int.）Ⅱ-2

1937
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
加藤　雅子

〔到達目標〕
卒業公演に向けて作品を仕上げる
〔授業の概要〕
毎週振り付けを覚え、各自必ず自主練習をして来る。
最終全てを繋げ合わせて１つの作品にし、披露する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業の復習、自主練習 90分
〔授業計画〕
第 1 回　前期のおさらい
　　前期振り付けのおさらい
第 2 回　振り付け、おさらい
　　新たな振り付け、おさらい
第 3 回　振り付け、おさらい
　　新たな振り付け、おさらい
第 4 回　作品全体完成に近づける
　　仕上げ作業
第 5 回　作品全体完成に近づける
　　仕上げ作業
第 6 回　手直し
　　更に良くなる様手直し
第 7 回　手直し
　　更に良くなる様手直し
第 8 回　作品完成
　　全て完成
第 9 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 10 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 11 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 12 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 13 回　お互いに見せ合い披露
　　半分づつに分かれて披露し合う
第 14 回　作品に対して意見を出し合う
　　作品完成、訂正作業、踊り込み、個々に意見を出し作品を良くする
第 15 回　発表
　　まとめ
〔成績評価〕
授業態度50%、技術力50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
いつでも受付ます

ジャズ（int.）Ⅲ-2

1939
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
加藤　雅子

〔到達目標〕
卒業公演に向けて作品を仕上げる
〔授業の概要〕
毎週振り付けを覚え、各自必ず自主練習をして来る。
最終全てを繋げ合わせて１つの作品にし、披露する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業の復習、自主練習 90分
〔授業計画〕
第 1 回　前期のおさらい
　　前期振り付けのおさらい
第 2 回　振り付け、おさらい
　　新たな振り付け、おさらい
第 3 回　振り付け、おさらい
　　新たな振り付け、おさらい
第 4 回　作品全体完成に近づける
　　仕上げ作業
第 5 回　作品全体完成に近づける
　　仕上げ作業
第 6 回　手直し
　　更に良くなる様手直し
第 7 回　手直し
　　更に良くなる様手直し
第 8 回　作品完成
　　全て完成
第 9 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 10 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 11 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 12 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 13 回　お互いに見せ合い披露
　　半分づつに分かれて披露し合う
第 14 回　作品に対して意見を出し合う
　　作品完成、訂正作業、踊り込み、個々に意見を出し作品を良くする
第 15 回　発表
　　まとめ

〔成績評価〕
授業態度50%、技術力50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
いつでも受付ます

ジャズ（int.）Ⅳ-2

1941
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
加藤　雅子

〔到達目標〕
卒業公演に向けて作品を仕上げる
〔授業の概要〕
毎週振り付けを覚え、各自必ず自主練習をして来る。
最終全てを繋げ合わせて１つの作品にし、披露する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回の授業の復習、自主練習 90分
〔授業計画〕
第 1 回　前期のおさらい
　　前期振り付けのおさらい
第 2 回　振り付け、おさらい
　　新たな振り付け、おさらい
第 3 回　振り付け、おさらい
　　新たな振り付け、おさらい
第 4 回　作品全体完成に近づける
　　仕上げ作業
第 5 回　作品全体完成に近づける
　　仕上げ作業
第 6 回　手直し
　　更に良くなる様手直し
第 7 回　手直し
　　更に良くなる様手直し
第 8 回　作品完成
　　すべて完成
第 9 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 10 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 11 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 12 回　作品完成踊り込み
　　全ての踊り込み
第 13 回　お互いに見せ合い披露
　　半分づつに分かれて披露し合う
第 14 回　作品に対して意見を出し合う
　　作品完成、訂正作業、踊り込み、個々に意見を出し作品を良くする
第 15 回　発表
　　まとめ
〔成績評価〕
授業態度50%、技術力50%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
いつでも受付ます

不動産ビジネス経営論

1021
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
吉村　　一成

〔到達目標〕
不動産とは、土地や建物などの財産のことを言う。
人は、物としての不動産を様々な形で利用するが、人が利用することによって、その不動産に価値が生じる。そこからまた、不動産ビジネスが展開していくことになる。
本講義では、このようにして発生してきた不動産業の歴史と不動産ビジネスの概要について理解し、不動産と人との関りを通して経済・社会を見る目を養い、加えて不動産業界に就業する学生の基礎知識習得にを目標とする。
〔授業の概要〕
本講義は、不動産業界といわれるビジネスには一体どのようなものがあるのかについて概観すし、社会・経済と不動産との関りを学習する。
前半においては、不動産と人との関りの中で、どのようにして不動産業が発展してきたのかについて学ぶ。
後半においては、不動産業が業態別にどのように分類されるのか、それぞれの業態にはどのような企業があって、どのようなビジネスを行っているのかについて学び、不動産業の果たす役割と今後の展望について考える。
また、住宅又はオフィスなどの不動産の市場分析や投資分析、不動産の評価手法と、不動産ビジネスの関係についても学習する予定である。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習は原則として必要ないが、授業で学習したことから、街中の身近な不動産について興味を持ち、現実に落とし込んで考えてみて欲しい。
〔授業計画〕
【授業計画】
１回目　イントロダクション
２回目　不動産業の歴史①「江戸時代～明治時代⑴」
３回目　不動産業の歴史②「江戸時代～明治時代⑵」

４回目　不動産業の歴史③「大正時代」
５回目　不動産業の歴史④「昭和時代・前期（終戦まで)」
６回目　不動産業の歴史⑤「昭和時代・前期」
７回目　不動産業の歴史⑥「昭和時代・後期」
８回目　不動産業の歴史⑦「昭和時代・末期～平成時代)」
９回目　現代の不動産業にはどのようなものがあるか
10回目　日本の不動産業の業務分野①（住宅）
11回目　日本の不動産業の業務分野②（都市再開発）
12回目　日本の不動産業の業務分野③（賃貸）
13回目　日本の不動産業の業務分野④（不動産流通）
14回目　日本の不動産業の業務分野⑤（不動産証券化、J-REIT）
15回目　不動産業の課題と展望

〔成績評価〕

考える力を養うことを主眼とし、試験は行わず、各授業における課題レポートによって評価する。

〔教科書〕

使用しない

〔参考文献〕

蒲池紀生著「不動産業の歴史入門」（住宅新報社、2008年12月10日）
「業界地図」（東洋経済新報社、2021年版又は2022年版）
一般社団法人不動産協会「日本の不動産業」（2018年版～）（https://www.fdk.or.jp/）
牧野知弘（祥伝社新書、2020年4月10日）
その他参考WEBサイト
　一般社団法人不動産証券化協会（https://www.ares.or.jp/）

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

LMS科目になるので、質問等はメールで受け付ける。
原則として、次回の授業開始日までに回答する。

スポーツ栄養学

2024
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
坂元　美子

〔到達目標〕

栄養の基本概念を学び、体や健康を維持するための栄養とアスリートが体力と競技能力を向上させるための栄養を理解する。

〔授業の概要〕

運動・栄養・休養は健康づくりの3要素であると同時に、アスリートの体力向上・競技力向上にも欠かせない要素である。各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、アスリートに必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法を学ぶ。健康の保持・増進のための栄養に関する知識を身に付ける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

前回の授業内容を次の授業までにテキスト・ノートで90分程度復習しておく。授業時間内で理解しきれなかったことや、疑問に思ったことは90分程度事前に調べておく。

〔授業計画〕

１、栄養とは、スポーツ・健康栄養の歴史と位置づけ
２、栄養とは・五大栄養素
３、糖質
４、脂質
５、たんぱく質
６、ビタミン
７、ミネラル
８、栄養素の摂取方法
９、エネルギー代謝と栄養素
１０、スポーツ選手の食事摂取基準
１１、スポーツ選手の栄養ケア
１２、シーズン別スポーツ選手の食事
１３、スポーツ選手の体づくり
１４、健康の保持増進のための運動と栄養
１５、スポーツ・健康とサプリメント（ドーピング）
定期試験

〔成績評価〕

試験１００％

〔教科書〕

スポーツ・健康栄養学　化学同人　坂元美子編著
ISBN978-4-7598-1709-6

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、生理学（運動生理学を含む。)、中一種（保健体育)、高一種（保健体育)、選択

〔オフィスアワー〕

授業の内容に対して、質問がある場合は、芦屋大学Phollyにメッセージを送ってください。

ダンス表現Ⅰ（ロック）

1928
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
戸嶋　雄二

〔到達目標〕

前期で学んだことを踏まえ、スキルや表現力の更なる向上を目指す。

〔授業の概要〕

ウォームアップも兼ね、筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニングでLOCKに必要な体作りをし、後期の全授業で１つの作品を作り上げ、それを発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

前回までの復習と、振付を考えてくる。

〔授業計画〕
第 1 回　作品A作り（ユニゾン①の前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品A音源の確認。
・ユニゾン①の前半の振付。
第 2 回　作品A作り（ユニゾン①の後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ユニゾン①の後半の振付。
第 3 回　作品A作り（ユニゾン②の前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ユニゾン②の前半の振付。
第 4 回　作品A作り（ユニゾン②の後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ユニゾン②の後半の振付。
第 5 回　作品A作り（ユニゾン①②のまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回までの復習をし、ユニゾン①②を踊り込む。
第 6 回　作品A作り（各パート前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・パート分けをし、各パート前半の振付。
第 7 回　作品A作り（各パート後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、各パート後半の振付。
第 8 回　作品A作り（各パートのまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回までの復習をし、ユニゾン①②と各パートの振付を踊り込む。
・グループに分けて、お互いの成果を見せ合う。
第 9 回　作品A作り（ユニゾン①②、各パートのまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・細部の表現を意識し、更に踊り込む。
・グループに分けて、お互いの成果を見せ合う。
第 10 回　作品A作り（構成付け）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品全体に構成を付ける。
第 11 回　作品A作り（作品の完成）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品Aを完成させる。
第 12 回　作品Aのまとめ
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・細部の表現を意識し、更に踊り込む。
第 13 回　作品A発表
・作品A振付の最終確認。
・作品Aを披露する。
第 14 回　作品B作り
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品Bの振付。
・作品B用にグループ分けをし、自由部分の振付を考える。
第 15 回　作品B発表
・作品Bの振付の最終確認。
・グループに分かれて、各グループで発表。
〔成績評価〕
授業態度・意欲（６０％）
スキルアップ度（４０％）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業終了後

ロックⅡ-1（Int）（作品）

1929
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
戸嶋　雄二

〔到達目標〕
前期で学んだことを踏まえ、スキルや表現力の更なる向上を目指す。
〔授業の概要〕
ウォームアップも兼ね、筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニングでLOCKに必要な体作りをし、後期の全授業で１つの作品を作り上げ、それを発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回までの復習と、振付を考えてくる。
〔授業計画〕
第 1 回　作品A作り（ユニゾン①の前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品音源の確認。
・ユニゾン①の前半の振付。
第 2 回　作品A作り（ユニゾン①の後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ユニゾン①の後半の振付。
第 3 回　作品A作り（ユニゾン②の前半）

・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ユニゾン②の前半の振付。
第 4 回　作品A作り（ユニゾン②の後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ユニゾン②の後半の振付。
第 5 回　作品A作り（ユニゾン①②のまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回までの復習をし、ユニゾン①②を踊り込む。
第 6 回　作品A作り（各パート前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・パート分けをし、各パート前半の振付。
第 7 回　作品A作り（各パート後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、各パート後半の振付。
第 8 回　作品A作り（各パートのまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回までの復習をし、ユニゾン①②と各パートの振付を踊り込む。
・グループに分けて、お互いの成果を見せ合う。
第 9 回　作品A作り（ユニゾン①②、各パートのまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・細部の表現を意識し、更に踊り込む。
・グループに分けて、お互いの成果を見せ合う。
第 10 回　作品A作り（構成付け）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品全体に構成をつける。
第 11 回　作品A作り（作品の完成）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品Aを完成させる。
第 12 回　作品Aのまとめ
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・細部の表現を意識し、更に踊り込む。
第 13 回　作品A発表
・作品A振付の最終確認。
・作品Aを披露する。
第 14 回　作品B作り
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品Bの振付。
・作品B用にグループ分けをし、自由部分の振付を考える。
第 15 回　作品B発表
・作品Bの振付の最終確認。
・グループに分かれて、各グループで発表。

〔成績評価〕
授業態度・意欲（６０％）
スキルアップ度（４０％）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業終了後

ロックⅢ-1（Int）（作品）

1931
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
戸嶋　雄二

〔到達目標〕
前期で学んだことを踏まえ、スキルや表現力の更なる向上を目指す。
〔授業の概要〕
ウォームアップも兼ね、筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニングでLOCKに必要な体作りをし、後期の全授業で１つの作品を作り上げ、それを発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回までの復習と、振付を考えてくる。
〔授業計画〕
第 1 回　作品A作り（ユニゾン①の前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品A音源の確認。
・ユニゾン①の前半の振付。
第 2 回　作品A作り（ユニゾン①の後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ユニゾン①の後半の振付。
第 3 回　作品A作り（ユニゾン②の前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ユニゾン②の前半の振付。
第 4 回　作品A作り（ユニゾン②の後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ユニゾン②の後半の振付。
第 5 回　作品A作り（ユニゾン①②のまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回までの復習をし、ユニゾン①②を踊り込む。

第 6 回　作品A作り（各パート前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・パート分けをし、各パート前半の振付。
第 7 回　作品A作り（各パート後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・パート分けをし、各パート後半の振付。
第 8 回　作品A作り（各パートのまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回までの復習をし、ユニゾン①②と各パートの振付を踊り込む。
・グループに分けて、お互いの成果を見せ合う。
第 9 回　作品A作り（ユニゾン①②、各パートのまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・細部の表現を意識し、更に踊り込む。
・グループに分けて、お互いの成果を見せ合う。
第 10 回　作品A作り（構成付け）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品全体に構成を付ける。
第 11 回　作品A作り（作品の完成）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品Aを完成させる。
第 12 回　作品Aのまとめ
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・細部の表現を意識し、更に踊り込む。
第 13 回　作品A発表
・作品A振付の最終確認。
・作品Aを披露する。
第 14 回　作品B作り
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品Bの振付。
・作品B用にグループ分けをし、自由部分の振付を考える。
第 15 回　作品B発表
・作品Bの振付の最終確認。
・グループに分かれて、各グループで発表。

〔成績評価〕
授業態度・意欲（６０％）
スキルアップ度（４０％）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業終了後

ロックⅣ-2（Int）（作品）

1947
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
戸嶋　雄二

〔到達目標〕
前期で学んだことを踏まえ、スキルや表現力の更なる向上を目指す。
〔授業の概要〕
ウォームアップも兼ね、筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニングでLOCKに必要な体作りをし、後期の全授業で１つの作品を作り上げ、それを発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回までの復習と、振付を考えてくる。
〔授業計画〕
第 1 回　作品A作り（ユニゾン①の前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品A音源の確認。
・ユニゾン①の前半の振付。
第 2 回　作品A作り（ユニゾン①の後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ユニゾン①の後半の振付。
第 3 回　作品A作り（ユニゾン②の前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・ユニゾン②の前半の振付。
第 4 回　作品A作り（ユニゾン②の後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、ユニゾン②の後半の振付。
第 5 回　作品A作り（ユニゾン①②のまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回までの復習をし、ユニゾン①②を踊り込む。
第 6 回　作品A作り（各パート前半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・パート分けをし、各パート前半の振付。
第 7 回　作品A作り（各パート後半）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回の復習をし、各パート後半の振付。
第 8 回　作品A作り（各パートのまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・前回までの復習をし、ユニゾン①②と各パートの振付を踊り込む。
・グループに分けて、お互いの成果を見せ合う。

第 9 回　作品A作り（ユニゾン①②、各パートのまとめ）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・細部の表現を意識し、更に踊り込む。
・グループに分けて、お互いの成果を見せ合う。
第 10 回　作品A作り（構成付け）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品全体に構成を付ける。
第 11 回　作品A作り（作品の完成）
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品Aを完成させる。
第 12 回　作品Aのまとめ
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・細部の表現を意識し、更に踊り込む。
第 13 回　作品A発表
・作品A振付の最終確認。
・作品Aを披露する。
第 14 回　作品B作り
・筋力トレーニング、ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング。
・作品Bの振付。
・作品B用にグループ分けをし、自由部分の振付を考える。
第 15 回　作品B発表
・作品Bの振付の最終確認。
・グループに分かれて、各グループで発表。

〔成績評価〕
授業態度・意欲（６０％）
スキルアップ度（４０％）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業終了後

体育実技Ａ（ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ女子）

1993
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
実務経験有
番平　守

〔到達目標〕
１）バレーボール競技を通して、ネット型ゲームの理論を説明することができる。
2）ゲーム実践に求められ得る個人の基礎技能の習得および仲間との協力関係における集団技能の習得、そして円滑なゲーム運営に関する審判法を身に付けることができる。
3）バレーボール競技の特性を理解しながら、自らがバレーボール競技の楽しさについて触れる機会を増やし、自発的に学習に取り組むことができる。
〔授業の概要〕
双方向型学習及びPBL(課題解決型学習)を取り入れた授業展開をおこない、バレーボールの基本技術習得の基礎練習法及びゲームを通じての練習方式を学ぶ。
また、コートの設営方法やゲームの企画・運営力及び審判法の理解を深め専門知識の習得を図る。
※ホイッスルを準備すること
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：次回の実技課題を確認し、事前にルールブック(ルールとシグナル)を熟読すること。(2時間)
復習：バレーの特性を理解するために、積極的にバレーボールゲームの観戦及び審判のジャッジに注目する。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、評価、注意事項
第 2 回　バレーボールの歴史と発展
歴史的側面からバレーボール競技の特徴を理解する
第 3 回　基礎技能の理解と習得①
コートづくり ボールハンドリング
第 4 回　基礎技能の理解と習得②
パス技術の獲得とその練習法①
第 5 回　基礎技能の理解と習得③
パス技術の獲得とその練習法②
簡単なパスゲーム
第 6 回　基礎技能の理解と習得④
パス技術の練習と指導法
第 7 回　基礎技能の理解と習得⑤
サーブ技術の獲得とその練習法
簡易ゲーム
第 8 回　基礎技能の理解と習得⑥
サーブレシーブ技術の獲得とその練習法・指導法
第 9 回　基礎技能の理解と習得⑦
スパイク技術の獲得とその練習法
第 10 回　基礎技能の理解と習得⑧
スパイク技術の獲得とその練習法
簡易ゲーム
第 11 回　基礎技能の理解と習得⑨
レシーブとトス技術の獲得とその練習法
第 12 回　基礎技能の理解と習得⑩
スパイクレシーブとブロック技術の獲得とその練習法
第 13 回　運営計画と審判技術の獲得
主審・副審・線審の役割
第 14 回　大会運営の実際（戦術と戦略）
グループによる試合及び試合運営
第 15 回　実技テスト
スキルテスト及びレポート課題

〔成績評価〕
・授業態度による評価 50%
・実技テスト　30%
・レポート課題 20%
〔教科書〕
・文部科学省 学習指導要領
・文部科学省 学習指導要領
・バレーボール 6 人制競技規則(ルールブック)の購入が望ましい
〔参考文献〕
「わかりやすいバレーボールのルール」(成美堂出版)
「バレーボール6人制競技規則」(財団法人日本バレーボール協会)
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
企業チームでのコーチ経験を活かし、体育教員としてのコーチング（方法論）やバレーボールにおける理論や技術・戦術、指導方法に関する講義を行う。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日：11:30～13:30
③場所：体育準備室(福山記念館 1 階　入り口左側)
④連絡先：メール(bandaira@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

体育実技Ａ（ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ男子）②

1027
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
実務経験有
番平　　守

〔到達目標〕
１）バレーボール競技を通して、ネット型ゲームの理論を説明することができる。
2）ゲーム実践に求められ得る個人の基礎技能の習得および仲間との協力関係における集団技能の習得、そして円滑なゲーム運営に関する審判法を身に付けることができる。
3）バレーボール競技の特性を理解しながら、自らがバレーボール競技の楽しさについて触れる機会を増やし、自発的に学習に取り組むことができる。
〔授業の概要〕
双方向型学習及びPBL(課題解決型学習)を取り入れた授業展開をおこない、バレーボールの基本技術習得の基礎練習法及びゲームを通じての練習方式を学ぶ。
また、コートの設営方法やゲームの企画・運営力及び審判法の理解を深め専門知識の習得を図る。
※ホイッスルを準備すること

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：次回の実技課題を確認し、事前にルールブック(ルールとシグナル)を熟読すること。(2時間)
復習：バレーの特性を理解するために、積極的にバレーボールゲームの観戦及び審判のジャッジに注目する。(2時間)
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、評価、注意事項
第 2 回　バレーボールの歴史と発展
　　歴史的側面からバレーボール競技の特徴を理解する
第 3 回　基礎技能の理解と習得①
　　コートづくり ボールハンドリング
第 4 回　基礎技能の理解と習得②
　　パス技術の獲得とその練習法①
第 5 回　基礎技能の理解と習得③
　　パス技術の獲得とその練習法②
　　簡単なパスゲーム
第 6 回　基礎技能の理解と習得④
　　パス技術の練習と指導法
第 7 回　基礎技能の理解と習得⑤
　　サーブ技術の獲得とその練習法
　　簡易ゲーム
第 8 回　基礎技能の理解と習得⑥
　　サーブレシーブ技術の獲得とその練習法・指導法
第 9 回　基礎技能の理解と習得⑦
　　スパイク技術の獲得とその練習法
第 10 回　基礎技能の理解と習得⑧
　　スパイク技術の獲得とその練習法
　　簡易ゲーム
第 11 回　基礎技能の理解と習得⑨
　　レシーブとトス技術の獲得とその練習法
第 12 回　基礎技能の理解と習得⑩
　　スパイクレシーブとブロック技術の獲得とその練習法
第 13 回　運営計画と審判技術の獲得
　　主審・副審・線審の役割
第 14 回　大会運営の実際（戦術と戦略）
　　グループによる試合及び試合運営
第 15 回　実技テスト
　　スキルテスト及びレポート課題
〔成績評価〕
・授業態度による評価 50%
・実技テスト　30%
・レポート課題 20%
〔教科書〕
・文部科学省 学習指導要領
・文部科学省 学習指導要領
・バレーボール 6 人制競技規則(ルールブック)の購入が望ましい

〔参考文献〕
「わかりやすいバレーボールのルール」(成美堂出版)
「バレーボール6人制競技規則」(財団法人日本バレーボール協会)
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

【実務経験の活用】
企業チームでのコーチ経験を活かし、体育教員としてのコーチング（方法論）やバレーボールにおける理論や技術・戦術、指導方法に関する講義を行う。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②月曜日：11:30〜13:30
③場所：体育準備室(福山記念館１階　入り口左側)
④連絡先：メール(bandaira@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

English CommunicationⅥ

2331
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
中田　　康行

〔到達目標〕
英語のディスクを聞きながら英語の表現に慣れること。文法的に妥当な表現ができるようになること。
〔授業の概要〕
アメリカに留学した女子学生を想定したテキストを聞き、、様々な場面での会話を中心に多様な表現を練習する。。文法を気にかけなくても良くなる程度にまで聞き取りの訓練を行い、発話訓練をも行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ふだんから英語放送やインターネットなどの音声メディア接し、耳の訓練をしておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　授業概要の説明
授業全般の注意事項の説明。聞き取り訓練上の要点など。
第 2 回　Å Luxurious Flight to Los Angeles(テキスト確認)
MaiがJudyとLos Angelesを飛行機で訪れる。Double booking (二重予約)のおかげで二人はビジネスクラスに乗れることになる。
第 3 回　A Luxurious Flight to Los Angeles（練習問題）
ニジネスクラスの快適なが様子が二人の会話にあらわされる。
第 4 回　Los Angeles, Here I am!（テキスト確認）
Los Angeesのホテルでの会話、並びにショッピング。
第 5 回　Los Angeles, Here I am!（練習問題）
博利物館や美術館訪問。地下鉄際利用の際の会話など。
第 6 回　To Judy’s Home in Santa Monica（テキスト確認）
Santa Monica のJudyの実家の話題・家族や町の様子など。
第 7 回　To Judy’s Home in Santa Monica（練習問題）
HudyがMaiを実家に招待する。Judyの家族との対面など。
第 8 回　At Judy’s Home （テキスト確認）
Judyの実家をMaigがたずね、歓迎される。
第 9 回　At Judy’s Home（練習問題）
Judyの家に週末止めてもらったMaiは楽しい経験をする
第 10 回　Los Angeles. What a Big City （テキスト確認）
日本の都市とは規模の異なるアメリカの大都市を経験する。
第 11 回　Los Angeles. What a Big City（練習問題）
Maiは日本の大都市とアメリカの大都市の相違を身でもって理解する。
第 12 回　Going to the Beach （テキスト確認）
JudyとともにSanta Monica のビーチを訪ねる。
第 13 回　Going to the Beach（練習問題）
ビーチの美しさと観光客の多さにMaiは驚く。
第 14 回　Visiting UCLA (テキスト確認)
UCLA（カリフォルニア大学ロサンジェルス校)を訪ね、その広大なキャンパスを見て感嘆する。
第 15 回　So long, America
一年の留学を終えて、Maiが帰国する。授業の総括として、日ごろの練習の重要さを再確認する。
〔成績評価〕
確認テスト(60%)
聞き取りテスト数回(40%)
〔教科書〕
Ånthony Parker, Let’s Enjoy English at Home and Abroad ((松柏社)
)(教科書を持参しない学生の受講は許可しない。)
〔参考文献〕
授業中適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

English CommunicationⅧ

2319
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
中田　　康行

〔到達目標〕
英語のテープ（ディスク）を聞きながらリスニング力とスピーキング力を高められること。アメリカに留学した日本人学生のキャンパス・ライフを題材にした様々な場面を参考に英語運用力を養う。

〔授業の概要〕
アメリカの大学生の学業生活、キャンパスの様子、授業、パーティ、サンディェゴの気候など多様な内容をテーマとしながら、英語の音声を通して運用力を養う。授業はおおむね英語で行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テレビやインターネットなどを利用し、英語の放送や番組などに進んで取り組むこと。

〔授業計画〕
第 1 回　授業概要の説明
授業概要（方法、進度、成績・評価）の説明。
第 2 回　Meeting People
(テキスト確認)
パーティーで知り合った人たちとの社交時の会話表現。
第 3 回　Meeting People
(練習問題)
知り合った人たちの家に招かれることが多いが、そのような時の話題とは。
第 4 回　A Letter from Cathy
(テキスト確認
)Misaが受け取った手紙の内容。外国人は意外なことに関心がある(陶芸や酒つくりなどの日本の伝統文化)。
第 5 回　A Letter from Cathy
(練習問題)
実際に物つくりの現場を訪ねてみる。
第 6 回　A Telephone Conversation
(テキスト確認)MisaがCathyから国際電話を受ける。
第 7 回　A Telephone Conversation
(練習問題)
電話での会話は結構難しい。相手の様子が見えないので音声のみが頼りとなる。
第 8 回　A Hostess is a Tough Job!
(テキスト確認)
hostessというのはパーティーを行う家の女性(主婦）のこと。
第 9 回　A Hostess is a Tough Job
(練習問題)
hostessはいろいろと気配りが必要である。招かれた客もマナーが必要。
第 10 回　Parking on Campus is a Problem
(テキスト確認)
アメリカの大学は大きなキャンパスを有している。しかし公共交通機関は極めて不便なので、ほとんどの学生が車で通学する。
第 11 回　Parking on Campus is a Problem
(練習問題)
学生はキャンパスに駐車するのに有料の許可証の交付を受けなければならないが、それがあっても駐車は困難なことが多い。
第 12 回　At Dr Harris’ Ofice
(テキスト確認)
教授の研究室を訪ねる。
第 13 回　At Dr Harris’ Office
(練習問題)
教授からアメリカの大学での勉強の仕方や研究についてのアドヴァイスを聞く。
第 14 回　Free Talks
英語圏の国に留学すると仮定し、各自自己紹介、研究目標などについてグループ（あう累はペア）できる限り英語で話す(発表する)。
第 15 回　Free Talks
前回の練習をもとに各自、順番に発表する。後期授業の総括を行う。

〔成績評価〕
聞き取りテスト数回(40%）
確認テスト(60%）

〔教科書〕
From Listening to Speaking
書籍絶版によりハンドアウト配布

〔参考文献〕
授業中に指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

英語Ⅱ②

1502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
中田　　康行

〔到達目標〕
英語を日本語に訳さないで理解できるような程度にまで英語に習熟できることを目標にする。

〔授業の概要〕
この授業では英語の文章を精読し、正確に意味解釈を行う訓練をする。世界文化の様々な側面を理解するうえで、英語の重要性を深く認識する。適宜、英文の構造、慣用法などに注意し英語表現に慣れる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃から英語に接する機会（テレビやインターネットなど）を見つけて、英語に慣れるようにすること
〔授業計画〕
第 1 回　後期授業概要の説明。
後期の授業内容、進度の説明、および成績・評価方法の確認。
第 2 回　Greek and Japanese mythologies
ギリシア神話と日本神話に関する共通点や相違点を扱うッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 3 回　Greek and Japanese mythologies
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 4 回　Children’s recreation in the world
子供の遊びを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 5 回　Childrｎ’s recreation in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 6 回　Sports of the world: the Olympics
オリンピックを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 7 回　Sports of the world: the Olympics
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 8 回　A strange custom: geophagy
世界の奇妙な風習や習慣を紹介するを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 9 回　A strange custom: geophagy
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 10 回　Religions vary in the world
世界の宗教、言語観、自然崇拝を扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 11 回　Religions vary in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 12 回　”Right” always right
「右側通行」や「左側乗船」などの右・左についてのテーマを扱うエッセイを読む。語彙の確認、テクストの聞き取り。
第 13 回　Religions vary in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題。
第 14 回　The past versus the future
世界の国々の過去観・未来観をテーマとするエッセイを読む。観彙の確認、テクストの聞き取り。
第 15 回　The past versus the future
テクストの再聞き取り、および練習問題。後期授業の要点整理・確認。
〔成績評価〕
授業時の発表（２０％）
小テスト（２０％）
確認テスト２回(60％)
〔教科書〕
石井　隆之　監修　Cかいross-Cultural Awareness
開文社
(各自教科書を購入して授業に臨むこと。スマホ等によるコピーは認めません、)
〔参考文献〕
授業時に適宜指示。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

ＥＵ文化研究Ⅰ

4303
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
中田　　康行

〔到達目標〕
EU(EU(ヨーロッパ連合）の文化のルーツをたどり、現代EUの国々の文化状況を概括的に理解する
〔授業の概要〕
現代EUの国々を含めたヨーロッパの民族、歴史、文化のルーツを様々な角度からたどりながらEU文化圏の文化の諸特徴を概括的に考察する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ヨーロッパの歴史に関心を持って、普段からニュースや新聞、雑誌、メディア等の情報を集め、関心を高めること。
〔授業計画〕
第 1 回　授業概要の説明
授業概要、授業内容、出欠、成績評価方法などの説明
第 2 回　ヨーロッパの歴史的発達（古代）
古典時代ギリシアとローマの発展
第 3 回　ヨーロッパの歴史的発達（中世）
西ローマ帝国の崩壊とゲルマン国家の樹立
第 4 回　ヨーロッパの歴史的発達（近代・現代）
16世紀後期の近代国家建国。ヨーロッパ諸国の国境画定
第 5 回　ローマ世界とゲルマン民族（前半）
紀元後一、二世紀ころのローマ帝国の領土(植民地、Provinces）拡張、r長、および北方ゲルマン民族の動静・
第 6 回　ローマ世界とゲルマン民族（後半）
東ローマ帝国建国とヨーロをッパ北中部中心とするゲルマン国家形成。
第 7 回　ヨーロッパ中世暗黒時代（前半）
ヨーロッパ歩武中部のにゲルマン諸国家の発展とゲルマン文化の特徴
第 8 回　ヨーロッパ中世暗黒時代（後半）
ペトラルカ(14世紀イタリア文人)の言う「暗黒時代」とは何を意味するか
第 9 回　ヨーロッパの民族と言語分布（１）

ヨ。ーロッパの言語はほとんどすべてがインド=ヨーロッパ語族に属するものであるが、その発展を簡潔に眺める

第 10 回　ヨーロッパの民族と言語分布(2)+
の紀元後インド=ヨーロッパ0語族は12の語族に分かれるが、その中でゲルマン語族を中心に考察する。

第 11 回　ヨーロッパの民族と言語分布(3御
ゲルマン語族の最大の一派である西ゲルマン語群を取上げ、多少、詳細な検討を行う。

第 12 回　東西冷戦終結
「ベルリンの壁」崩壊に代表される東西冷戦の終結は世界に何をもたらしたかをテーマに考察する。

第 13 回　EU経済圏と日本
和数くの日本企業がヨーロッパ各国で事業展開している今日の経済状況を簡単に考察する。

第 14 回　EU文化・経済圏とイギリス
イギリスがEU 離脱すると、いかなる経済的(文化的)影響が起きるかを考察する。

第 15 回　期授業の総括と要点整理
授業の総括並びに重要事項の整理・確認。

〔成績評価〕

レポート(50%)
確認テスト(50%)

〔教科書〕

ハンドアウト配布

〔参考文献〕

中田康行訳『アングロ=サクソン人』(晃洋書房)

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

Intercultural StudiesⅡ

2217
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
中田　　康行

〔到達目標〕

言語文化といった言い方は日常聞かれるが、漠然としていて、結局何の事なのか十分に理解していない人が多い。文化が如何に言語表現、言語の用法に関係しているかを明確に理解できること。

〔授業の概要〕

日本語と英語の単語の構造、語彙の形成法の相違、人称代名詞の使用、話法の相違、物の数の言語表現化の相違などの興味深いテーマを考察しながら文化が如何に言語表現に影響するかを考察する。。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業概要に示すようなテーマに関して、自分で数多くの日本語と英語の例を集め分析してみること。.

〔授業計画〕

第 1 回　授業概要の説明
授業概要（方法、、進度、成績・評価）の説明。言語と文化)導入）

第 2 回　古代の文化・言語研究
ギリシア古典時代から言語がいかに誤った見通しの中で主観的に研究されてきたかを解説する・

第 3 回　人々の言語・文化意識（の希薄さとその原因）
一般に人々が言語に対していかなる意識(明確なものではない）を抱いているか、またそのような意識がどこから来るのかをを解説する。

第 4 回　文化・言語の対照研究（その具体的方法）
言語の対照研究とはいかなる研究かをを示し、具体例を検討する。

第 5 回　漢字二字の名詞の構成（法）
漢字二字からなる名詞には幾つかの意味構造(文法構造)の違いがあるが、普段は意識されもしない。数多くの具体例を検討し、そこにどのような規則性があるかを調べる。

第 6 回　日本語の動詞形成ルール
第5回目の講義で配布したハンドアウトを検討し、漢字二字の名詞を動詞化する場合の規則性を考える。

第 7 回　英語の語彙構成法
英語おける単語の品詞がいかに規則的(あるいは不規則的）に構成されているかを
数多くの具体例からひも解く。

第 8 回　同形異品詞
英語の難しさの一端を構成する問題である『同形異品詞」の問題を検討する。

第 9 回　称代名詞など
日英両語の人称代名詞についていかに異なるかを研究する。

第 10 回　英語の名詞化.と日本語の動詞表現
主に日本語/英語間の翻訳にかかわる問題だが、このようなことに習熟しないとこなれた訳にはならないことを検討する。

第 11 回　英語の前置詞と日本語の動詞表現
りか0回同様、日本語/英語間の翻訳にかかわる問題でもあるが、この問題は両言語間における品詞の対応関係の問題であることを理解する。

第 12 回　英語の再帰代名詞の構造記述と日本語の「自分」
英語の一self形と日本語の「自分」がいかにも意味的に異なるかを検討する。

第 13 回　物の数、人間関係の認知と言語表現
日本語は、物の数え方が極めて特徴的であるが、英語や他の言語は必ずしもそうではない。このような問題から、言語の実相の相違を理解する。

第 14 回　文化・文明と言語（１）

外国語の学習は広義言えば、外国の文化研究である。そこには文化史などが密接に関係する旨を深く理解する。

第 15 回　文化・文明と言語（２）
言語と文化は密接に関係しており、言語学習は文化習慣の習得でもあることを認識する。本講義の総括と要点整理。

〔成績評価〕

小レポート、発表など(50%)
講義内容の確認テスト(50%)

〔教科書〕

ハンドアウト・資料配布

〔参考文献〕

中田康行著 『応用英語学の研究』(晃洋書房)/アマゾン電子書籍版

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

教育実習事後指導【英語】

1002
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕

１．教育実習で体験した生徒との関わりや学習・生徒指導等について互いに伝え合うことによ
り、中学・高校教員に必要な資質について考察を広げ深める。
２．中学・高校教員を目指すに当たっての自己の課題をつかみ、解決方策を探求する。

〔授業の概要〕

1. 実習を終えた感想をまとめて交流・協議し、教員としての在り方について認識を深める。
2. 小学校教員になるに当たっての自己の課題を選定し、課題ごとに協議しながら研修する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕

１．研修課題について文献等を用いて調べたり、学校関係者に尋ねたりして調査する。
（60分）
２．研修課題を探求した成果をまとめる。(90分)

〔授業計画〕

第 1 回　教育実習の準備１
教育実習中の授業を想定し、準備する。
第 2 回　教育実習の準備２
教育実習中の生徒指導を想定し、準備する。
第 3 回　教育実習の振り返り１
教育実習を振り返り、所定の項目ごとに感想や考えを記入する。
第 4 回　教育実習の振り返り２
教育実習を振り返り、学習指導の在り方について協議し深める。
第 5 回　教育実習の振り返り３
教育実習を振り返り、生徒指導の在り方について協議し深める。
第 6 回　教育実習の振り返り４
教育実習を振り返り、教職を志望する動機、理由を再確認する。
第 7 回　研修課題への取り組み１
教師に必要な資質・能力、手本とすべき教師像をまとめる。
第 8 回　研修課題への取り組み２
目指すべき教師像をまとめる。

〔成績評価〕

１．研修課題への取り組み（70%）
２．授業ごとのの感想（30%）

〔教科書〕

芦屋大学「教育実習ハンドブック」
中学校学習指導要領　外国語編（平成29年告示　文部科学省）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

教育実践に関する科目、教育実習、中一種（英語)、高一種(英語)、必修

〔オフィスアワー〕

tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室１１

教育実習【英語】

1008
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
丹下　　秀夫

〔到達目標〕

１．教育実習の意義や心得等、教育実習に臨む態度と能力を持つことができる。
２．授業実践者に相応しい英語科の知識や技能、指導力を持つことができる。
３．学習指導要領「中学校（英語)」の内容が反映された指導案を作成することができる。
４．ICT機器などを利用して、英語科５領域の内容を熟知し指導できる。
５．様々な場面で生徒理解に努め、実習校に対して有意義な活動を行うことができる。

〔授業の概要〕

教職課程及び教科に関する専門科目の学習で身につけた知識や理解をもとに、教育実習を行う。また、教育実習の事

前・事後指導を行う。事前指導では、教育実習の意義や実習にあたっての心得を中心に、教材研究、指導案作成、模擬授業、授業評価を確認する。事後指導では、各自の教育実習を振り返り、学生間で学びや反省を共有して学びを深める。実習中は、実習校での指導を仰ぎながら生徒との対話的で深い学びを自ら企画し教師力を磨く。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・学校現場での様々な教育活動に実際に関わり、教材研究や指導案の作成などは時間外学習で行う。（120分）

・担当教員や管理職の指示があれば、校外学習や休日の部活指導等にも積極的に参加する。

（120分）

〔授業計画〕

第 1 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 2 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。また、各学校や地区の教育委員会の指導方針に従うこと。

第 3 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。

第 4 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。

第 5 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。

第 6 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。

第 7 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。

第 8 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。

第 9 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。

第 10 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。

第 11 回　実習校での指導実践
管理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。研究授業の準備をする。

第 12 回　実習校での指導実践
理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。研究授業の準備をする。

第 13 回　実習校での指導実践
理職（校長、教頭、副校長）、担当教員、学級指導担当などの指導により、実習中の現場でしかできない様々な活動を率先して行う。専門教科以外の教科や施設見学、校務主事の仕事などを参観しながら教職の実際を学ぶ。研究授業の準備をする。

第 14 回　実習校での指導実践
研究授業を行い。事後指導で、実習校の教員から指導を受け、授業改善への課題を整理する。

第 15 回　実習校での指導実践
教育実習全体を振り返り、自らの教師としての資質・能力の改善すべき点を認識し、今後の修養の糧とする。

〔成績評価〕

教育実習の実績（40%）、指導案＆研究授業の実績（40%）、教育実習の感想記録、生徒・担当教員などへのお礼の手紙など（20%）で総合的に評価する。

〔教科書〕

中学校学習指導要領解説　外国語編（平成29年告示、文部科学省）

実習校で使用している「英語科」教科書

〔参考文献〕
教育実習事前指導で配布した資料
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教育実践に関する科目、教育実習、中一種（英語）、高一種（英語）、必修
〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室１１

演習Ⅱ【英米文化理解】

8460
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
中田　智也

〔到達目標〕
前期に作ったアウトライン（輪郭）をもとに、卒業論文を作成し、完成させる。
〔授業の概要〕
卒業論文の作成に尽きる。中間発表の機会を設ける。これは、互いの論文の内容を知り、刺激し合い、高め合う場となることを望んでいる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
卒業論文の執筆において授業は、方向づけ、軌道修正の指針、ペースメーカーという位置付けになる。卒業論文を完成させるには、各自の日々の努力、取り組みが不可欠となる。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
前期に作ったアウトラインをもとに、卒業論文を完成させるイメージを持つ。
第 2 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 3 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 4 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 5 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 6 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 7 回　中間発表①
できたところまでの内容、完成までの展望などについて、発表を行う。互いに評価し合い、高め合う場となることを望んでいる。
第 8 回　中間発表②
できたところまでの内容、完成までの展望などについて、発表を行う。互いに評価し合い、高め合う場となることを望んでいる。
第 9 回　論文の軌道修正
中間発表の結果を経て、論文の軌道に必要な修正を加える。
第 10 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 11 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 12 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 13 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 14 回　卒業論文の作成
論文を書き進める。書き進める中で生じた問題を解決する。
第 15 回　卒業論文を完成させる
体裁、誤字脱字、引用の明記、参考文献など提出前の最終的なチェックを行う。
〔成績評価〕
毎回の授業への取り組み（適正なペースで論文を書き進めているかどうか）：50%
卒業論文：50%
〔教科書〕
適宜紹介
〔参考文献〕
「学生便覧」の「卒業論文について」を必ず読んでおくこと。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
質問・相談などは授業終了後か、Phollyの「メッセージ」で受け付けます。

キャリア基礎　教育⑥

8118
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
阪本　朋子

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
2) 円満に意志疎通を図ることができる。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。

4) 論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。

〔授業の概要〕

・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
・授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
・演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・（全）記号は全学科合同での実施メニュー
・（学科）記号は教育学科合同での実施メニュー
・（クラス）記号は各クラスでの実施メニュー

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
・次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。

〔授業計画〕

第 1 回 （全） モチベーションアップ（藤、ほか）
DVD映像を参照…モチベーションを高めるための脳活用の方法。プロ100人に聴いた極意を知る。
第 2 回 （全） 学園祭の取組み
後半はクラス別
第 3 回 （学科） 小論文の書き方①
第 4 回 （学科） 小論文の書き方②
第 5 回 （全） 学園祭運営委員会より
大学学園祭の実施、運営・企画にあたり、各イベント内容の周知と任務、役割分担など。
第 6 回 （全） 税について…外部講師講演
芦屋税務署さまより税についての基調講演。参照映像やクイズ形式などにより、税についての深い知見を得る。
第 7 回 （クラス） 実践PBL（１）：グループによるPBL（Problem Based Learning）
【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 8 回 （クラス） 実践PBL（２）：グループによるPBL（Problem Based Learning）
【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 9 回 （学科） 卒業生に聞く
第 10 回 （全） キャリア形成について（2）
SPIなど…就職部主催：就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣など、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を知る。
第 11 回 （学科） Aドリル：ペーパーテスト
第 12 回 （全） 裁判員制度についてDVD映像
裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。
第 13 回 （学科） 教育学科コース説明
第 14 回 （全） キャリア形成について(3)
先輩からの声…就職部・教職支援センター主催：学生シンポジウム…就活成功への秘訣。－就職内定者、教職合格者、インターンシップ体験学生に聴く－
第 15 回 （学科） まとめレポート
定期試験

〔成績評価〕

・レポート評価100％
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

(1)前期
(2)水曜日14:00～15:00
(3)教員研究室
(4)連絡先はliebesbotschaft.tomoko@docomo.ne.jp
(5)相談の際には事前にメールでアポイントメントを取ること。

英語Ⅱ⑩

1511
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕

様々な英語表現に触れることによって大学生にふさわしい知識と教養を身につけ、英語の持つ特徴を知り英語を母国語とする人々の文化や考え方を理解できるようになる。

〔授業の概要〕

多様な視点から英語にアプローチし、言葉を通して英語圏の文化を知る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学習内容を復習し、毎回課題を提出。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション
授業の進め方や評価方法について説明する。

第 2 回　Proverbs
英語のことわざを学習し、英語圏の人々の国民性を知る。また、内容に関連した文法を学習する。
第 3 回　シェイクスピアの名言①
シェイクスピアの名言を読んで理解できるようになる。また、内容に関連した文法を学習する。
第 4 回　シェイクスピアの名言②
シェイクスピアの名言を読んで理解できるようになる。また、内容に関連した文法を学習する。
第 5 回　キング牧師の演説①
キング牧師について知り、スピーチから英文法を学習する。
第 6 回　キング牧師の演説②
キング牧師について知り、スピーチから英文法を学習する。
第 7 回　洋楽で学ぶ英文法①
英語の歌の歌詞から文法を学習する。
第 8 回　洋楽で学ぶ英文法②
英語の歌の歌詞から文法を学習する。
第 9 回　Jokes
英語のジョークを読んで理解する。ジョークから英語の特徴を理解し、関連した文法を学習する。
第 10 回　多読のすすめ①
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 11 回　多読のすすめ②
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 12 回　多読のすすめ③
小説やコミックなどの抜粋を読んで理解する。また、関連した文法を学習する。
第 13 回　英語圏の行事と英語表現
英語圏で一般的に行われる行事と、その際に用いられる英語表現について知る。また、関連した文法を学習する。
第 14 回　まとめ①
これまでの学習の振り返りとまとめを行う。
第 15 回　まとめ②
これまでの学習の振り返りとまとめを行う。

〔成績評価〕
毎回の提出物　100%

〔教科書〕
行方昭夫『ユニーク英語講座―英語の根幹―』南雲堂

〔参考文献〕
必要に応じてプリントを配布

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕
質問等はPhollyのメッセージ機能で随時受け付ける。

データサイエンス

3504
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
若杉　祥太

〔到達目標〕
・Excelを使用した統計処理方法を身に付け、データ分析ができる。
・データを分析し、その数値から原因や今後の将来性を見据えた説得力のある説明ができる。

〔授業の概要〕
データサイエンスに関する基礎知識や分析方法を学ぶ。また、実際にデータの収集・加工・処理、分析、解釈、活用を行い、問題分析や意思決定の受容性を学ぶ。
また、データ分析技能を証明する「ビジネス統計スペシャリスト　エクセル分析ベーシック」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：毎時指定した教科書範囲を熟読してくること。
復習：毎時指定した教科書の知識問題・実践問題を解いてくること。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、成績評価、データサイエンスの概要
第 2 回　基礎統計量①
平均値、中央値の求め方
第 3 回　基礎統計量②
最頻値、レンジの求め方
第 4 回　基礎統計量③
標準偏差の求め方
第 5 回　データの異常値
散布図や折れ線グラフを用いた外れ値の検出
第 6 回　度数分布
度数分布表を用いたデータ全体の分布の把握
第 7 回　単位の異なるデータの比較
標準偏差を用いた標準化
第 8 回　時系列データ①
移動平均を用いた時系列データの分析
第 9 回　時系列データ②
季節調整を用いた時系列データの分析
第 10 回　2変量間の関係性①
集計による比較　質的変数と量的変数の関係性
第 11 回　2変量間の関係性②
散布図を用いた量的変数と量的変数の関係性
第 12 回　2変量間の関係性③
相関係数を用いた量的変数と量的変数の関係性
第 13 回　2変量間の関係性④
回帰分析を用いた直線関係の具体化
第 14 回　2変量間の関係性⑤

ソルバーを用いた条件達成のための最適化
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
まとめ

〔成績評価〕

小テスト50%
定期試験50%（実技）
※小テストやレポート課題については評価後、個別コメントつけて返します。

〔教科書〕

現場公規、湊宣明、豊田裕貴「Excelで学ぶ―ビジネスデータ分析の基礎」Odyssey、2016（1,500円（税抜））

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

授業日（オンライン方式）、相談時はPC操作画面を開いた上で行うこと。

英語Ⅱ⑧

1509
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
杉島　　未来

〔到達目標〕

中学生レベルの基本的な英語の知識を再確認しながら、英語抜きでは成り立たない、私たちの身の回りで接する英語への興味を高め、自信をつける。

英語の基礎的な問題を解くことで理解を深め、知識を蓄積することができ、なおかつその知識を運用して考える力、思考力や表現力をつけることもできる。最初から簡単にはできないであろうが、思考力・表現力を必要とする問題を自ら回答していくことにより、じっくり問題と向き合って、自分で考え、自分の力で解けたときの高揚感や達成感を経験することにより、各自英語への自信が持てるようになる。

〔授業の概要〕

授日常よく使う英語表現を学び、タスクと呼ばれる指定された情報を集めるゲームまたはシミュレーション形式の方法で何度もそれらの表現を口から発し、脳に定着させることで、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。丸暗記ではなく、ある特定の状況を設定し、そのなかで必要な情報を得るために学んだ会話表現を使っていくことで、自然にそれらの表現が使えるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習・復習課題を出します。

〔授業計画〕

第 1 回　After Summer Vacation & Quiz
第 2 回　Auxiliary Verbs
第 3 回　Phrasal Verbs
第 4 回　Conjunctions 1
第 5 回　Conjunctions 2
第 6 回　Comparisons
第 7 回　Paragraphs
第 8 回　Tenses 1
第 9 回　Present Perfect & Future
第 10 回　Self-Learning Tech & Quiz
第 11 回　Active Voice & Passive Voice
第 12 回　Tenses 2
第 13 回　Conditionals & Subjunctives
第 14 回　Pronunciation and Stress
第 15 回　Preparation for Term Exam

〔成績評価〕

小テスト、提出物、授業態度　　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕

Basic College English Seminar

〔参考文献〕

配布資料
文部科学省　学習指導要領
学研パーフェクトコース　中学英語
学習指導要領 他適宜紹介

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、講義教室で対応します

英語コミュニケーション

2508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
杉島　　未来

〔到達目標〕

異文化への理解を高め、さまざまな文化的背景を持つ人たちと積極的に接することができるように、リスニングとスピーキングのスキルを向上させる。

英語をかたまりで覚えることにより、表現方法の幅を広げる。動詞中心の日常動作にスポットライトを当てることで、かたまりで英語表現を習得できるようになる。

Reading through compact “culture studies” reference works, lessons focus on understanding a different country or region and the lives and customs of the people who live there.

〔授業の概要〕

英語でコミュニケーションができるようになるには、基本的な文章を暗記し、場面に応じて活用する練習が不可欠なので、日常よく使う英語表現を何度も繰り返し発音することで、英語で会話ができる練習をする。

The readings (China’s own exam hell, South Korea’s beauty obsessions, Africa’s surprisingly modern child-raising practices, New Zealand’s changing farming celebrations, the UAE’s updated sporting traditions, and many other fascinating global cultural phenomena) can be comprehensively overviewed by matching given word meanings and words in context, rewriting

sentences by substituting phrases, and retrieving information and ideas from context by oneself.

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

適宜判断して行うものとする。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション（自己紹介・適性・アンケート）
第 2 回　Living Room & Bedroom
第 3 回　Kitchen
第 4 回　Bathroom
第 5 回　Housekeeping
第 6 回　Jobs
第 7 回　Public Transportation
第 8 回　Car
第 9 回　School
第 10 回　Hospital
第 11 回　Office
第 12 回　Sports
第 13 回　Leisure
第 14 回　Shopping
第 15 回　Rstaurant

〔成績評価〕

授業態度、提出物、小テスト　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕

Expressions For Everyday Actions

〔参考文献〕

配布資料、文部科学省学習指導要領、
What in the World, Japan Goes Global!
World Heritage on DVD
Fifteen English Biographies of Famous Japanese

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

授業終了後、講義教室で対応します

WritingⅡ

3419
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
杉島　未来

〔到達目標〕

母国語での作文でも同様のことであるが、外国語におけるその習得、本授業においては、English Basic Writingでは、より深くその言語を身に着ける方法として、書き換えが一つの方法として挙げられる。

与えられた英文の意味を変えずに、その構造のみを変えることで、English Writingにおける表現方法を豊かにすることで、元文の解釈をより深めると同時に、基礎的英文法も身に着ける。

〔授業の概要〕

ある一文が、ほぼ同じ内容をさまざまな形式で表現できることに着目し、基本的な英文の書き換え法則をそれに関する空所穴埋め問題・書き換え問題・整序作文問題・和文英訳問題を通して、英語作文における表現力を上げる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習用の課題を出します。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション（Self-Introduction・適性・アンケート）
授業方針、目標、授業内容、評価方法などについて説明する
第 2 回　日本語と英語の語順・動詞構文を好む日本語、名詞構文を好む英語
第 3 回　「ナル」型言語の日本語、「スル」型言語の英語・「経過」重視の日本語、「結果」重視の英語
第 4 回　日本語と英語の肯定表現と否定表現・「BE言語」の日本語、「HAVE言語」の英語
第 5 回　日本語の「無界性」と英語の「有界性」の傾向・「状況」に焦点を置く日本語、「人間」に焦点を置く英語
第 6 回　日本語の「人間主語」と英語の「無生物主語」・日本語の自動表現/間接受動文とそれらに対応する英語表現
第 7 回　日本語の間接受動文と英語の能動文、直接受動文・日本語の「テイル」表現とそれに対応する英語表現
第 8 回　日本語の完了相と英語の完了相・日英語の心理動詞/心理形容詞
第 9 回　日本語の視点、英語の視点（時制の比較）・自己を他社と捉える視点を持つ英語、持たない日本語・日本語の「来る」「行く」と英語の「come」「go」・ウチの観察者の立場からとソトの観察者の立場からの表現
第 10 回　後方重心型の日本語、前方重心型の英語・日本語の接続表現と英語の接続表現
第 11 回　日本語のイディオムと英語のイディオム・日本語のイディオムを英語に直す
第 12 回　日本語のカタカナ語とそれに対応する英語（1）（2）
第 13 回　英語に直しにくい日本語表現（1）（2）
第 14 回　日本語らしい日本語を英語に直す（1）（2）
第 15 回　日本語のオノマトペを英語に直す（1）（2）

〔成績評価〕

授業態度、提出物、小テスト　　60%
期末テスト 40%

〔教科書〕

English Composition Based on the Comparison Between English and Japanese

〔参考文献〕

配布資料、文部科学省学習指導要領、
A Shorter Course in Basic Sentences、How to Rephrase、Writing for Presentations in English

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します

演習Ⅱ【学校教育やｽﾎﾟｰﾂ指導に関する研究】

8459
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
中村　光男

〔到達目標〕
本演習では、保健体育を中心とする学校教育活動全般、スポーツに関わる分野において調査・測定・分析を行い、得られた結果をもとに学校教育活動やスポーツの分野においての知見を深めるとともに今後それぞれの分野で実践できるようにすることを目的とする。さらにアクティブラーニングによる授業で、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うとともに人間関係力を備えた人間力を育成することを目的とする。
〔授業の概要〕
・ 自分自身を理解し、将来の目標を設定し、そのために必要な人間力を身につける。
・ 新聞情報により社会情勢を知り、自分の考えを整理する。
・ スピーチ、ディスカッション等によりコミュニケーション能力やプレゼン能力を養う。
・　自分の進路について考え、進路決定をする。
・ 卒業論文を完成する。(個別指導が中心の授業を実施する。)
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「卒業論文を完成するための準備をする。」「授業で学んだことを日常生活で実践する。」など
〔授業計画〕
第 1 回　前期の振り返り・後期の授業の進め方
　　１．夏休みの思い出(１分間スピーチ)　２．卒論、人間力について
　　※１分間スピーチ・新聞記事を読み意見交換・Aドリルの活用・レポート提出(毎回実施)
第 2 回　卒業論文作成・学園祭へ向けてⅠ
　　１．卒論調査・研究Ⅰ　２．学園祭企画
第 3 回　卒業論文作成・学園祭へ向けてⅡ
　　１．卒論調査・研究Ⅱ　２．学園祭企画
第 4 回　卒業論文作成・学園祭へ向けてⅢ
　　１．卒論調査・研究Ⅲ　２．学園祭企画
第 5 回　卒業論文作成・学園祭へ向けてⅣ
　　１．卒論調査・研究Ⅳ　２．学園祭企画
第 6 回　卒業論文作成・学園祭へ向けてⅤ
　　１．卒論研究・考察・まとめⅠ　２．学園祭企画
第 7 回　卒業論文作成Ⅰ
　　卒論研究・考察・まとめⅡ
第 8 回　卒業論文作成Ⅱ
　　卒論研究・考察・まとめⅢ
第 9 回　卒業論文作成Ⅲ
　　卒論研究・考察・まとめⅣ
第 10 回　卒業論文作成Ⅳ
　　卒論研究・考察・まとめⅤ
第 11 回　卒業論文作成Ⅴ
　　卒論研究・考察・まとめⅥ
第 12 回　卒業論文完成・プレゼンテーションⅠ
　　卒論完成・プレゼン準備Ⅰ
第 13 回　卒業論文完成・プレゼンテーションⅡ
　　卒論完成・プレゼン準備Ⅱ
第 14 回　卒業論文完成・プレゼンテーションⅢ
　　卒論完成・プレゼン準備Ⅲ
第 15 回　大学生活のまとめと今後の人生について
　　１．１年間の振り返りスピーチ　２．大学生活の振り返りと今後についてのディスカッション
〔成績評価〕
日常の授業準備や授業中における意見、質問などの積極的姿勢(50%)、レポートなどの提出物や発表内容(50%)、と併せて総合的に評価します。授業への積極的姿勢と発表内容は、評価に影響するので真剣に取り組んでください。
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①通年　②月・金曜日：午前10時30分～午前11時30分　③場所：本館4階研究室　④連絡先：090-1595-6206　m-nakamura@ashiya-u.ac.jpで質問・相談してください。　⑤その他：来室の際は、事前にアポイントメントを取ること。

基礎教養演習

2110
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
中村　光男

〔到達目標〕
【学生の課題解決能力を育てる授業】
◉目的：『将来の夢に向かってチームでお互いに教え合いながら学習を進める習慣をつける。』『早く将来の夢や目標を決める。』『勉強に対する意識を変える。』『大学生として自ら学ぶ姿勢を持つ。』『教え合う･助け合う。』
※教員採用試験、就職対策！今から始めないと間に合わない！
〔授業の概要〕
(1)Ａドリルの実施。⇒将来の自己実現に向けて各自工夫して課題解決を行う。
①Ａドリルの解答　２科目　各２５分程度。『苦手な個所の

発見と克服』
②「一般学生用問題」の解答。「留学生問題」の解答。
※各自、自己採点と課題解決を行う。
(2)レポート課題・感想等の記入、まとめをする。
・「ちょっといいお話」を読んでレポート課題を完成させて、提出する。
※お互いに教え合いながら学ぶ。(新型コロナ禍、電話やＺＯＯＭでつながって教え合う。)
※Aドリル等で弱点補強。(授業時間外に自主学習。)
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
・Ａドリル問題を解く。 ※「ﾍﾞｰｼｯｸ」or「ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」自分の力に合わせて学習。
※日頃から友達同士、お互いに教え合いながら学ぶ。
※わからないところを自分で調べる工夫をする。
〔授業計画〕
第 1 回　授業のオリエンテーション・将来の夢・目標について
第 2 回　国語、数学、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 3 回　英語、社会、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 4 回　理科、国語、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 5 回　数学、英語、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 6 回　社会、理科、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 7 回　・国語、数学、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 8 回　漢字課題を活用したアクティブラーニング
第 9 回　英語、社会、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 10 回　国語、数学、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 11 回　英語、社会、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 12 回　理科、国語、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 13 回　数学、英語、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 14 回　社会、理科、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
第 15 回　総合問題、漢字、「ちょっといい話」等の教材を活用したアクティブラーニング
〔成績評価〕
・積極的姿勢　60%
①授業態度　　②毎時間のレポート内容(質と量)
・基礎学力テスト　40%　　など
〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①通年　②月・金曜日：午前10時30分～午前11時30分　③場所：本館4階研究室　④連絡先：090-1595-6206　m-nakamura@ashiya-u.ac.jpで質問・相談してください。 ⑤その他：来室の際は、事前にアポイントメントを取ること。

演習Ⅰ【学校教育やｽﾎﾟｰﾂ指導に関する研究】

8364
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
中村　光男

〔到達目標〕
本演習では、保健体育を中心とする学校教育活動全般、スポーツに関わる分野において調査・測定・分析を行い、得られた結果をもとに学校教育活動やスポーツの分野においての知見を深めるとともに今後それぞれの分野で実践できるようにすることを目的とする。さらにアクティブラーニングによる授業で、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うとともに人間関係力を備えた人間力を育成することを目的とする。
〔授業の概要〕
・ 自分自身を理解し、将来の目標を設定し、そのために必要な人間力を身につける。
・ 新聞情報により社会情勢を知り、意見交換を通して自分の考えを整理する。
・ スピーチ、ディスカッション等によりコミュニケーション能力やプレゼン能力を養う。
・ レポート作成について学ぶ。
・ 自由研究をし、その発表をする。
・ 卒業論文の研究テーマを探る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
「自由研究発表の準備をする。」「授業で学んだことを日常生活で実践する。」など
〔授業計画〕
第 1 回　前期の振り返り・後期の授業の進め方
　１．夏休みの思い出(１分間スピーチ)　２．後期授業について
　※１分間スピーチ・新聞記事を読み意見交換・Aドリルの活用・レポート提出(毎回実施)
第 2 回　自由研究・夢実現へ向けてⅠ
　１．自由研究まとめⅠ　２．将来の夢実現に向けてⅠ
第 3 回　自由研究・夢実現へ向けてⅡ
　１．自由研究まとめⅡ・プレゼンテーションⅠ
　２．将来の夢実現に向けてⅡ
第 4 回　自由研究・夢実現へ向けてⅢ
　１．自由研究まとめⅢ・プレゼンテーションⅡ
　２．将来の夢実現に向けてⅢ
第 5 回　自由研究・夢実現へ向けてⅣ

１．自由研究まとめⅣ・プレゼンテーションⅢ
２．将来の夢実現に向けてⅣ
第 6 回　自由研究・夢実現へ向けてⅤ
１．自由研究まとめⅤ・プレゼンテーションⅣ
２．将来の夢実現に向けてⅤ
第 7 回　卒論Ⅰ・夢実現へ向けてⅥ
１．論文に親しむⅠ　２．将来の夢実現に向けてⅥ
第 8 回　卒論Ⅱ・夢実現へ向けてⅦ
１．論文に親しむⅡ　２．将来の夢実現に向けてⅦ
第 9 回　卒論Ⅲ・夢実現へ向けてⅧ
１．論文に親しむⅢ　２．将来の夢実現に向けてⅧ
第 10 回　卒論Ⅳ・夢実現へ向けてⅨ
１．卒論テーマ・序論作成Ⅰ　２．エントリーシート等の作成Ⅰ(自己ＰＲ、志望動機)
第 11 回　卒論Ⅴ・夢実現へ向けてⅩ
１．卒論テーマ・序論作成Ⅱ　２．エントリーシート等の作成Ⅱ(自己ＰＲ、志望動機)
第 12 回　卒論Ⅵ・夢実現へ向けてⅪ
１．卒論テーマ・序論作成Ⅲ　２．エントリーシート等の作成Ⅲ(自己ＰＲ、志望動機)
第 13 回　卒論Ⅶ・夢実現へ向けてⅫ
１．卒論テーマ・序論作成Ⅳ　２．エントリーシート等の作成Ⅳ(自己ＰＲ、志望動機)　３．エントリーシート等「Q&A」の作成Ⅰ
第 14 回　卒論Ⅷ・夢実現へ向けてⅩⅢ
１．卒論テーマ・序論作成Ⅴ　２．エントリーシート等の作成Ⅴ(自己ＰＲ、志望動機)　３．エントリーシート等「Q&A」の作成Ⅱ
第 15 回　１年間の振り返りとまとめ
１．１年間の振り返りディスカッションとスピーチ　２．卒論・就活の振り返りと今後の流れの確認

〔成績評価〕
日常の授業準備や授業中における意見、質問などの積極的姿勢(50%)、レポートなどの提出物や発表内容(50%)、と併せて総合的に評価します。授業への積極的姿勢と発表内容は、評価に影響するので真剣に取り組んでください。

〔教科書〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①通年　②月・金曜日：午前10時30分～午前11時30分　③場所：本館4階研究室　④連絡先：090-1595-6206　m-nakamura@ashiya-u.ac.jpで質問・相談してください。　⑤その他：来室の際は、事前にアポイントメントを取ること。

特別講義【ﾋﾟｱ･ﾒﾃﾞｨｴｰｼｮﾝ】

7206
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
中村　光男

〔到達目標〕
教育者およびリーダーとして学校や組織、そして地域コミュニティにおけるトラブルや紛争の解決と調停のための実践的スキルと指導力、そしてコミュニケーション力の養成と人間力の向上を目標としています。

〔授業の概要〕
・様々なトラブルを題材にして、人間関係の対立と葛藤を乗り越えるConflict Resolutionの考え方と実践への展開について学ぶ。
・友達同士でトラブルや紛争の解決・調停を図るピア・メディエーションの理論的内容を理解し、その仕組みづくりと展開について実践的に取り組む。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
復習として受講内容や意見をテーマごとに整理し、日常生活を通して実践するなど、指示内容に取り組むこと。
予習としては、次回の授業計画からキーワードについて調べ、また関心のある内容の資料を収集すること。

〔授業計画〕
第 1 回　安心感のある雰囲気づくり
・アイスブレーキングに始まり、参加型学習への理解と本授業の話し合いのルールづくり
第 2 回　ピアメディエーションとは
・ピアメディエーションの目的・効果　・対立と紛争について捉え直し、対立のメカニズムと対応の効用と限界を考える
第 3 回　メディエーションと裁判の違いを知る
・裁判所の役割・手続き・仕組み等、メディエーションとの違いを理解する
第 4 回　トラブルの様々なかたちと解決方法
・第３者が間に入る場合の伝統的な紛争解決法と新しい紛争解決法　・「傾聴」について
第 5 回　メディエーションの目指すもの
・人間関係のトラブルやコンフリクト　・「価値観」を実感する
第 6 回　紛争解決スタイルとその意義Ⅰ
・紛争解決スタイルとは　・そのメリットとデメリット　・紛争解決スタイルの意義
第 7 回　紛争解決スタイルとその意義Ⅱ
・紛争解決スタイルとは　・紛争解決スタイルを実感するワーク
第 8 回　調停のスキル①
・メディエーターの役割としての聴くことと対話促進のスキルについて
第 9 回　調停のスキル②
・パラフレージング、サマライジング、リフレーミングの実際について
第 10 回　対話Ⅰ

・ディベートⅠ　・コミュニケーションワークⅠ
第 11 回　対話Ⅱ
・ディベートⅡ　・コミュニケーションワークⅡ
第 12 回　ピアメディエーションに挑戦Ⅰ
・ピアメディエーションワーク（イントロダクションⅠ・実践Ⅰ）
第 13 回　ピアメディエーションに挑戦Ⅱ
・ピアメディエーションワーク（イントロダクションⅡ・実践Ⅱ）
・事案の整理の仕方と合意文書の作成方法について調停の整理と結果
第 14 回　ピアメディエーションに挑戦Ⅲ
・メディエーションのロールプレイング調停の実践
第 15 回　学びを実践に活かす
・いじめ・紛争の解決策についての考察・発表と討論

〔成績評価〕

日常の授業準備や授業中における意見、質問などの積極的姿勢(20%)、レポートなどの提出物や発表内容(30%)、メディエーター認定試験による評価(50%)と併せて総合的に評価する。特に授業への積極的姿勢と発表内容は、評価に影響するので真剣に取り組むこと。

〔教科書〕

ピアメディエーション学会監修（水野修次郎・井上孝代他共著）「ワークブック『対話』のためのコミュニケーション - ピアメディエーションによるもめごと防止 - 」 協同出版社

〔参考文献〕

・水野修次郎著「争いごと解決学練習帳-新しいトラブル防止教育-」プレーン社
・井上孝代著「あの人と和解する-仲直りの心理学-」集英社新書

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

①通年　②月・金曜日：午前10時30分～午前11時30分　③場所：本館4階研究室　④連絡先：090-1595-6206　m-nakamura@ashiya-u.ac.jpで質問・相談してください。 ⑤その他：来室の際は、事前にアポイントメントを取ること。

障害者スポーツ概論

3022
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
北林　　直哉

〔到達目標〕

１．障害についての知識と理解　２．障害者のスポーツ事情への関心　３．指導者としての取組み　４．障害者差別解消法の理解　５．その他、障害者を含むスポーツ環境を「人体のしくみの基礎」「障害に関する知識」「障害者差別解消法」の観点から学びます。

〔授業の概要〕

日本における障害者人口は１０００万人に到達しようとしている。これからの時代は、障害に関する知識・理解力・対応力を備えることが必要となります。授業では画像・映像を中心に見て学び、考える力を養います。授業中に課題を出題する（レポート作成）

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学外課外ボランティア活動などの経験
ニュースやインターネットの情報など

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
本講義の目的・意義の説明、・授業計画の説明、・評価方法の説明、・参考文献等の紹介、・資料等の紹介、・レポート作成
第 2 回　スポーツ指導者に求められる資質
組織のリーダーには、誠実・真摯・高潔といったインテグリティ(integrity)が最も重要な資質・価値観として求められる。法令順守だけでなく、より幅広い社会的責任やインテグリティマネジメント、リスクマネジメントについて学ぶ。
第 3 回　スポーツの意義と理念
日本における障害者人口は１０００万人に到達しようとしている。スポーツには「する」以外に「見る」「支える」といった関わりも含まれる。障害のある人も同等の権利があること学ぶ。
第 4 回　コミュニケーションスキルの基礎
社会において人間関係は避けて通れない事象である。意思疎通や情報伝達において、人が人を理解する意味を学ぶ。
第 5 回　各種障害の概要
障害の分類と身体・知的・精神について基本的な概要を学ぶ。
第 6 回　障害各論Ⅰ
目の機能および視覚障害、耳の機能および聴覚障害について、機能と障害の関連性について学ぶ。
第 7 回　障害各論Ⅱ
神経系機能および脊髄・頚髄損傷、骨格筋および切断・機能障害について、機能と障害の関連性について学ぶ。
第 8 回　障害各論Ⅲ
各種臓器機能および内部障害、脳の機能および脳性麻痺について、機能と障害の関連性について学ぶ。
第 9 回　障害各論Ⅳ
脳の機能および知的障害について、その特性と理解について学ぶ。
第 10 回　障害各論Ⅵ
脳の機能および精神障害、脳の機能および発達障害について、その特性と理解について学ぶ。
第 11 回　障害者スポーツの推進および諸施策・法律

障害者スポーツに関係する施策や法律「障害者差別解消法と合理的配慮の理解」を学び、障害者を取り巻くスポーツ環境ならびに事業などの取組みを学ぶ。

第 12 回　障害に配慮したスポーツ指導の留意点
障害各論で学んだことを中心に、それぞれに配慮・工夫するポイントを学ぶ。

第 13 回　全国障害者スポーツ大会の概要
全国障害者スポーツ大会（個人種目・団体種目）の概要と各地域の取組みについて学ぶ。

第 14 回　創作スポーツと指導者の在り方
「ピープルファースト」（障がい者である以前にひとりの人間である）という考え方で、障害特性を理解・配慮した誰もが楽しめるスポーツ（レクリエーション・ゲームなど）を創作する。また、指導者の在り方を検証する。

第 15 回　理解度テスト
特に、人体のしくみの基礎と障害の原因について出題する。
＊日本パーソンスポーツ指導士認定試験内容を参考にする。

〔成績評価〕

１．レポート内容で評価する。（各回6点✕提出回数）＋α
２．レポート点が不足の場合は、理解度テストで評価する。
３．日本パーソンスポーツ指導士認定試験の成績で評価する。

〔教科書〕

「特になし」

〔参考文献〕

・新版　障がい者スポーツ指導教本ー初級・中級（Amazon書店）2640円(税込)＋配送料
・日本パーソンスポーツ指導士 認定試験対策（Amazon電子書籍）1000円(税込)

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、選択

〔オフィスアワー〕

授業後30分（講師控室）

情報機器の操作【上級】

1104
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕

1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備

第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー

第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護

第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理

第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本

第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集

第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画

第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用

第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成

第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価

第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算

第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能

第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化

第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析

第 15 回　まとめ

WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

1099
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕
　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
　情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
　インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
　コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
　定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
　表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
　画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
　インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
　データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
　関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
　データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
　身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
　WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
LMS授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作（上級生対象）

2150
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕
1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる

2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
　情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
　インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
　コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
　定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
　表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
　画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
　インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
　プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
　データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
　関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
　データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
　身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
　WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕

毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

2100
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
黒川　　マキ

〔到達目標〕

1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
　講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
　情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル

インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ
WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕

毎時間の課題　40%
小テスト　40%
授業中の取組　20%

〔教科書〕

特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

LMS授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

情報機器の操作【上級】

2035
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
黒川　マキ

〔到達目標〕

1. インターネット
　個人情報の大切さやマナーを理解し、情報検索や電子メールを適切に活用することができる
2. ワープロソフト（Word）
　定型文書の形を身につける、表と図を用いた文書作成ができる
3. 表計算ソフト（Excel）
　数値データを処理し、グラフで表現することができる
4. プレゼンテーションソフト（PowerPoint）
　聴き手に応じた提示資料を作成し、自分の考えをわかりやすく説明することができる

〔授業の概要〕

　本講義では、実践的演習を交えながら、コンピュータの基本的なソフトおよびインターネットの使い方を修得します。また、個人情報の大切さやインターネットを利用する上でのマナーについて理解し、情報社会人として適切な態度を身につけます。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

　授業内容は、毎時間異なります。授業時間外に自主的・積極的に課題に取り組み、操作の復習および応用操作の確認を行ってください。
　授業では、前半に操作説明を行うため遅刻・欠席のないよう注意してください。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
講義概要、授業の進め方、データ保存媒体の準備
第 2 回　インターネットの活用
情報検索、電子メールの仕組み、電子メールの送受信とマナー
第 3 回　情報セキュリティと情報モラル
インターネットのセキュリティ、著作権、個人情報保護
第 4 回　コンピュータの基本操作
コンピュータの基本構成、ファイル・フォルダの管理
第 5 回　Wordによる文書処理
定型文書の基本
第 6 回　Wordによる文書処理
表の作成と編集
第 7 回　Wordによる文書処理
画像処理、図形描画
第 8 回　Wordによる文書処理
インターネットによる情報検索とWordの活用
第 9 回　PowerPointによるプレゼンテーション
効果的なプレゼンテーション、課題作成
第 10 回　PowerPointによるプレゼンテーション
プレゼンテーションの実施と評価
第 11 回　Excelによるデータ処理
データの入力と編集、関数による計算
第 12 回　Excelによるデータ処理
関数による計算、グラフ機能、データベース機能
第 13 回　データサイエンスの基礎
データサイエンスの意味と意義、データの可視化
第 14 回　データサイエンスの応用
身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 15 回　まとめ

WordとExcelを活用した総合課題

〔成績評価〕
毎時間の課題　40%
小テスト　　40%
授業中の取組　20%
〔教科書〕
特になし、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS 授業になるため、質問等はメール（makkie.chai@gmail.com、黒川マキ）で受け付けます。

生活の化学

3021
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
宮﨑　洋祐

〔到達目標〕
私達の周りにはさまざまな化学物質が溢れている。それらは私達の生活に大きく影響し、また、私達はそれらを利用して生活している。本授業では日常生活でのさまざまな現象を化学的に理解できるようになることを目標とする。
〔授業の概要〕
化学の基本原理から反応や物質の成り立ちをわかりやすく説明し、私達の周りにある物質や現象を通して具体的に化学を教える。得た知識を活用できるよう、学習者同士で話し合いをしたり、疑問に思ったところを述べたりする機会を設け、課題に取り組ませる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前のこれまでの復習（30 分）
授業外課題の取り組み（60 分）
〔授業計画〕
第 1 回　物質を構成する元素
化学とはどのような学問か、物質を構成する元素にはどのようなものがあるかを学ぶ。
第 2 回　物質の状態と成分
熱運動と物質の三態、純物質と混合物について学ぶ。
第 3 回　原子とその構造
原子とその構成について学ぶ。
第 4 回　電子配置と周期表
原子の電子配置、周期表と元素の分類の関係について学ぶ。
第 5 回　イオンと分子
イオンのでき方と分子のでき方について学ぶ。
第 6 回　化学結合（その１）
化学結合のうち、イオン結晶を形成するイオン結合について学ぶ。
第 7 回　化学結合（その２）
化学結合のうち、分子や共有結晶を形成する共有結合、分子結晶を形成する分子間力、金属結晶を形成する金属結合について学ぶ。
第 8 回　化学反応（その１）
化学反応および化学反応式のつくり方について学ぶ。
第 9 回　化学反応（その２）
化学反応式が表す量的関係を学ぶ。
第 10 回　酸と塩基
酸・塩基とpH、中和反応を学ぶ。
第 11 回　金属の化学
金属の種類とその性質を学ぶ。
第 12 回　酸化と還元
酸化・還元の定義、酸化数について学ぶ。
第 13 回　金属の酸化還元反応
金属のイオン化傾向、金属の製錬、電池について学ぶ。
第 14 回　プラスチックの化学とリサイクル
プラスチックの種類とその性質、さまざまな資源の再利用を学ぶ。
第 15 回　まとめ
これまでの講義のまとめを行い、項目どうしの関連について学ぶ。
〔成績評価〕
定期試験（６０％）
授業への取り組み・発表（１０％）
授業内提出物（２０％）
授業外課題（１０％）
〔教科書〕
授業中に適宜プリントを配布する。
〔参考文献〕
特になし。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
後期
水曜日：１７：００～１８：００
場所：授業終了後、講義教室で対応します。
連絡先：ymiyazaki@ashiya-u.ac.jpにメールかPhollyのメッセージで質問・相談をしてください。
留意事項：メールやメッセージへの返信は遅れることがあります。

武道Ａ（柔道）③

2336
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
新　　和己　武田　　光平

〔到達目標〕
本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。
科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技)、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。
教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。
〔授業の概要〕
柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作そして対人的技能を習得させる。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習)〕
中高学習指導要領及び当該教科の文献などを積極的に参照すること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、柔道の概要
　　柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について学習する。
第 2 回　柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
　　柔道衣の着方について学習する。礼の意味を理解し、礼法（立礼、座礼）について学習する。
第 3 回　後ろ受け身、横受け身、前受け身
　　受け身の目的を理解し、後ろ受け身、横受け身、前受け身について
　　学習する。
第 4 回　：前回り受け身（立ち上がらない)、横四方固め
　　前回り受け身（立ち上がらない）について学習する。抑え込み技の定義について理解し、横四方固めについて学習する。
第 5 回　前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
　　前回り受け身（立ち上がる)、上四方固めについて学習する。
第 6 回　袈裟固め、組み方、八方の崩し
　　袈裟固め、組み方、八方の崩しについて学習する。
第 7 回　投げ技の基本①
　　柔道投技の「膝車」、「大外刈」について学習する。
第 8 回　投技の基本②
　　柔道投技の「大内刈」、「体落」について学習する。
第 9 回　投技の基本③
　　柔道投技の「釣込腰」、「背負投」について学習する。
第 10 回　動きの中で技を掛ける
　　これまでに習得してきた技を、動きの中で掛ける動作について学習する。
第 11 回　投の形（手技）
　　投の形（手技）「浮落」「背負投」「肩車」について学習する。
第 12 回　投の形（腰技）
　　投の形（腰技）「浮腰」「払腰」「釣込腰」について学習する。
第 13 回　投の形（足技）
　　投の形（足技）「送足払」「支釣込足」「内股」について学習する。
第 14 回　審判法
　　柔道のルールについて学習する。
第 15 回　まとめ
　　実技試験。
〔成績評価〕
・授業への積極的参加度も重視し、実技と合わせて総合的に評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布。
〔参考文献〕
講義中に紹介。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育)、高一種（保健体育)、必修
〔オフィスアワー〕
場所：記念館2階講師控室
日時：火曜日13:30～17:00
基本的に来室の際にはアポイントを取ってください。

武道Ａ（柔道）④

2328
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
新　　和己　武田　　光平

〔到達目標〕
本科目は、中学校教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。
科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技)、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。
教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。
〔授業の概要〕
柔道の起源と変遷および柔道の特性を理解し、柔道の基本動作そして対人的技能を習得させる。また柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」の精神にもとづき、礼儀や相手を尊重する心などの社会的態度や行動を身につけさせる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
中高学習指導要領及び当該教科の文献などを積極的に参照すること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、柔道の概要
柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について学習する。
第 2 回　柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
柔道衣の着方について学習する。礼の意味を理解し、礼法（立礼、座礼）について学習する。
第 3 回　後ろ受け身、横受け身、前受け身
受け身の目的を理解し、後ろ受け身、横受け身、前受け身について
学習する。
第 4 回　：前回り受け身（立ち上がらない)、横四方固め
前回り受け身（立ち上がらない）について学習する。抑え込み技の定義について理解し、横四方固めについて学習する。
第 5 回　前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
前回り受け身（立ち上がる)、上四方固めについて学習する。
第 6 回　袈裟固め、組み方、八方の崩し
袈裟固め、組み方、八方の崩しについて学習する。
第 7 回　投げ技の基本①
柔道投技の「膝車」、「大外刈」について学習する。
第 8 回　投技の基本②
柔道投技の「大内刈」、「体落」について学習する。
第 9 回　投技の基本③
柔道投技の「釣込腰」、「背負投」について学習する。
第 10 回　動きの中で技を掛ける
これまでに習得してきた技を、動きの中で掛ける動作について学習する。
第 11 回　投の形（手技）
投の形（手技）「浮落」「背負投」「肩車」について学習する。
第 12 回　投の形（腰技）
投の形（腰技）「浮腰」「払腰」「釣込腰」について学習する。
第 13 回　投の形（足技）
投の形（足技）「送足払」「支釣込足」「内股」について学習する。
第 14 回　審判法
柔道のルールについて学習する。
第 15 回　まとめ
実技試験。
〔成績評価〕
・授業への積極的参加度も重視し、実技と合わせて総合的に評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布。
〔参考文献〕
講義中に紹介。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育)、高一種（保健体育)、必修
〔オフィスアワー〕
場所：記念館2階講師控室
日時：火曜日13:30～17:00
基本的に来室の際にはアポイントを取ってください。

地理学概論Ⅱ

5423
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
伊藤　善文

〔到達目標〕
１．地理学の対象である地表面に展開する諸事象を自然環境と人文現象の両面から相関的・総合的に理解する。
２．中学校社会科や高等学校公民科の教員となるうえで必要な地理的知識・技能と地理的見方・考え方を修得する。
〔授業の概要〕
地理学は地表面に展開する諸事象を自然環境と人文現象の両面から相関的・総合的に学ぶ学問である。この授業では高等学校地理Ｂの系統地理学の内容を概観し、地理的見方・考え方を育成する。前期の地理学概論Ⅰと合わせて履修することが望ましい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で出た地名や用語を地図帳で必ずチェックする。20分
地理や地域情報に関心をもち、新聞記事等を読む。30分
講義内容のまとめ（復習）を行う。60分
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業内容や評価方法等を説明する。
系統地理学の内容と地理的見方・考え方を学ぶ。
第 2 回　世界の自然環境１
世界の地形について学ぶ。
第 3 回　世界の自然環境２
世界の気候について学ぶ。
第 4 回　世界の環境問題
世界の環境問題について学ぶ。
第 5 回　世界の農林水産業と食料問題
世界の農林水産業と食料問題について学ぶ。
第 6 回　世界の資源・エネルギー問題
世界の資源・エネルギー問題について学ぶ。
第 7 回　世界の工業
世界の工業について学ぶ。
第 8 回　世界の交通・通信・貿易
世界の交通・通信・貿易について学ぶ。
第 9 回　世界の人口問題
世界の人口問題について学ぶ。

第 10 回　世界の都市・居住問題
　　世界の都市・居住問題について学ぶ。
第 11 回　世界の衣食住
　　世界の衣食住について学ぶ。
第 12 回　世界の民族・宗教
　　世界の民族・宗教について学ぶ。
第 13 回　世界の領土問題
　　世界の領土問題について学ぶ。
第 14 回　地球的課題
　　地球的課題とＳＤＧｓについて学ぶ。
第 15 回　まとめ
　　全体のまとめと後期試験（論述試験）について説明する。

〔成績評価〕

振り返りシート（30%）、授業中の課題（20%）、論述試験（50%）で総合的に評価する。

〔教科書〕

中学校または高等学校で使用した地図帳
その他，授業時に資料を配布する。

〔参考文献〕

中学校地理教科書または高等学校地理B（地理Ａ）教科書
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編　文部科学省
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史科編　文部科学省
水野一晴（2015）『自然のしくみがわかる地理学入門』ベレ出版
水野一晴（2016）『人間の営みがわかる地理学入門』ベレ出版
その他、授業中の資料に明記し、適宜指示する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、地理学（地誌を含む。）、中一種（社会）、選択

〔オフィスアワー〕

授業終了後、講義教室で対応します。

外国史概論Ⅱ

2203
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
矢野　涼子

〔到達目標〕

１．今日の世界のありように関わる近・現代の外国史をグローバルな視点から広く理解し，考える力を修得する。
２．中学社会科や高校の地理歴史科の教員となる上で必要な歴史の知識を修得する。

〔授業の概要〕

17世紀から現代に至る世界の歴史について基礎的な内容を広く概観した上で，工業化，都市化，資本主義，国民国家，帝国主義と植民地，世界大戦，脱植民地，といった問題についてより踏み込んだ内容を学ぶ。前期の外国史概論Ⅰと合わせて履修することが望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

講義内容についてのまとめ（復習）60分

〔授業計画〕

１．ガイダンス 世界の歴史と現代の世界
２．ヨーロッパの主権国家体制の展開
３．資本主義体制の確立と社会問題
４．アメリカ独立革命・フランス革命
５．ヨーロッパの再編
６．国民国家の形成
７．アメリカ合衆国の発展
８．帝国主義と各地の植民地化
９．ヨーロッパの進出とアジアの激動
１０．第一次世界大戦とロシア革命
１１．世界恐慌と第二次世界大戦
１２．冷戦
１３．各地の独立運動
１４．アナール学派――社会史とその課題
１５．授業中試験

〔成績評価〕

①授業への参加態度［授業内で行う活動や討論への参加の積極性と内容を評価する］（15%）
②小レポート［各授業の最後に毎回、小レポートの提出を求める。］（45%）
③授業内試験（40%）
①②③を総合的に判断し、成績評価を行う。

〔教科書〕

高等学校学習指導要領　2018（平成30）年3月告示，文部科学省
高等学校学習指導要領解説　地理歴史科編　2018（平成30）年3月告示，文部科学省
その他，授業時に資料を配布する。

〔参考文献〕

授業時に適宜指示する。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、日本史・外国史、中一種（社会）、選択

〔オフィスアワー〕

授業前後の時間に対応する。また、質問等はメールでも受け付ける。

地誌学概論Ⅱ

5403
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
伊藤　善文

〔到達目標〕

１．地誌学の対象である地表面に展開する諸事象を自然環境と人文現象の両面から相関的・総合的に理解する。

２．地域の特色や課題を地域構造図でまとめる。
３．中学校社会科や高等学校公民科の教員となるうえで必要な地理的知識・技能と地理的見方・考え方を修得する。

〔授業の概要〕
地誌学は地域地理学といわれ、地域の諸事象を自然環境と人文現象の両面から相関的・総合的に学ぶ学問である。この授業では世界全体の自然環境・歴史的背景・社会的条件を概観し、その後、各地域の地誌をとおして、地理的見方・考え方を育成する。また、各地域の特色や課題を地域構造図でまとめる。前期の地誌学概論Ⅰと合わせて履修することが望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で出た地名や用語を地図帳で必ずチェックする。20分
地理や地域情報に関心をもち、新聞記事等を読む。30分
講義内容のまとめ（復習）を行う。60分

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンスおよび世界の自然環境１
授業内容や評価方法等を説明する。
地誌学の内容と地理的見方・考え方を学ぶ。
世界の地形について学ぶ。
第 2 回　世界の自然環境２
世界の気候と植生について学ぶ。
第 3 回　世界の歴史的背景
世界の旧宗主国・植民地・作物伝播などについて学ぶ。
第 4 回　世界の社会的条件
世界の人口・産業・都市・村落などについて学ぶ。
第 5 回　アジア１
朝鮮半島、中国の地誌について学ぶ。
第 6 回　アジア２
東南アジア、南アジアの地誌について学ぶ。
第 7 回　アジア３
西アジア、中央アジアの地誌について学ぶ。
第 8 回　アフリカ
アフリカの地誌について学ぶ。
第 9 回　ヨーロッパ
ヨーロッパの地誌について学ぶ。
第 10 回　ロシアとその周辺国
ロシアとその周辺国の地誌について学ぶ。
第 11 回　北アメリカ（アングロアメリカ）
アメリカ合衆国、カナダの地誌について学ぶ。
第 12 回　南アメリカ（ラテンアメリカ）１
ブラジルの地誌について学ぶ。
第 13 回　南アメリカ（ラテンアメリカ）２
メキシコ以南の地誌について学ぶ。
第 14 回　オセアニア
オーストラリア、ニュージーランド、太平洋の島々の地誌について学ぶ。
第 15 回　まとめ
全体のまとめと後期試験（論述試験）について説明する。

〔成績評価〕
振り返りシート（30%）、授業中の課題（20%）、論述試験（50%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
中学校または高等学校で使用した地図帳
その他，授業時に資料を配布する。

〔参考文献〕
中学校地理教科書または高等学校地理B（地理Ａ）教科書
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編　文部科学省
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史科編　文部科学省
水野一晴（2015）『自然のしくみがわかる地理学入門』ベレ出版
水野一晴（2016）『人間の営みがわかる地理学入門』ベレ出版
その他、授業中の資料に明記し、適宜指示する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、地理学（地誌を含む。）、中一種（社会）、選択

〔オフィスアワー〕
授業終了後、講義教室で対応します。

English ConversationⅡ

3424
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕
正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。

〔授業の概要〕
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
学習内容を復習し、毎回課題を提出

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方について
第 2 回　Unit8 Who's older, you or your sister? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 3 回　Unit8 Who's older, you or your sister? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 4 回　Unit9 How was your weekend? ①

英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 5 回　Unit9 How was your weekend? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 6 回　Unit10 Have you ever been abroad? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 7 回　Unit10 Have you ever been abroad? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 8 回　Unit11 What kind of movies do you like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 9 回　Unit11 What kind of movies do you like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 10 回　Unit12 What's the weather going to be like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 11 回　Unit12 What's the weather going to be like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 12 回　Unit13 What's your favorite coffee shop? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 13 回　Unit13 What's your favorite coffee shop? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 14 回　Unit14 Do you have a part time job? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

第 15 回　Unit14 Do you have a part time job? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

〔成績評価〕

毎回の提出物　100%

〔教科書〕

New Getting Into English　南雲堂

〔参考文献〕

必要に応じてプリントを配布する

〔履修条件〕

〔備考〕

授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。

〔オフィスアワー〕

質問等は随時Phollyで受け付ける。

ﾎﾞﾃﾞｨ ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ

1808
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
井村　薫子

〔到達目標〕

ダンサーにとって「体」は長くつきあう大切な「道具」である。自分の体についての知識を深め、正しい体、筋肉、の使い方、付き合い方を身につける。
ダンサーとしての生命を長く、そしてより楽しく踊れる身体となるように訓練する。

〔授業の概要〕

人体の動きをつかさどる解剖学と人体力学の知識を学習し、日々のレッスンに活用できるようにする。フロアワークを中心に小さい器具を使っての訓練する。また実際に授業内でペアワークを行い、相手の身体を使ってエクササイズの効果を実践する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

筋肉、骨、靭帯など授業で学習した解剖学的用語を覚える。授業で行ったワークアウトを普段のレッスン前後に取り入れ活用する。

〔授業計画〕

第 1 回　コンディショニングとは…
コンディショニングの定義（リセットコンディショニング・アクティブコンディショニング）について

第 2 回　背骨・脊柱について
基本姿勢が大切な理由・姿勢アセスメント

第 3 回　クラシックバレエのターンアウトとは？
ターンアウトの正しい「感覚」を覚え、必要な筋力を養う

第 4 回　骨盤とは？
骨盤の置き方・ニュートラルポジションについて

第 5 回　インナーマッスル・アウターマッスルについて

第 6 回　腹筋・背筋運動に重点をおいて
バランスボール・スモールボールを使用しながらエクササイズを行う

第 7 回　股関節運動に重点をおいて
股関節の構造・足の動きと靭帯のつながり

第 8 回　体幹・軸を考える
体幹の構成要素とパワーハウス

第 9 回　ターンアウトを強化する
エクササイズ&ストレッチ

第 10 回　身体の側面について

腹斜筋へのアプローチ・サイドプランク
第 11 回　1〜10の復習とエクササイズ組み立て
第 12 回　故障対策のコンディショニング①
これまでのエクササイズに加え、腰痛・側弯症・股関節・膝痛に効果的なコンディショニングについての説明
第 13 回　故障対策のコンディショニング②
これまでのエクササイズに加え、足底筋膜炎・アキレス腱に効果的なコンディショニングについての説明
第 14 回　ロールプレイ　実践
第 15 回　ロールプレイ　実践

〔成績評価〕
授業毎の意欲、集中力、理解力。
実践としてのロールプレイからの評価。

〔教科書〕
授業中に適宜配布する。

〔参考文献〕
表現スポーツのコンディショニング（有吉与志恵　著・秋山エリカ　監修）
ターンアウトできてますか？（佐藤愛　著）
ピラティスインストラクターテキスト
目で見る動きの解剖学（大修館）

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
⑴前期・後期
⑵月曜日：13:00〜16:00、水曜日：13:00〜16:00
⑶芸術文化センターにて
⑷連絡先：k-imura@ashiya-u.ac.jp
⑸来室の際は、事前にメールにてご連絡をお願いします

体育原理

1019
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
三木　伸吾

〔到達目標〕
スポーツ・体育とは何かをその存在意義を位置付け、スポーツや体育の本質を考え、あるべきスポーツや体育の原理・原則を明確にしていくことができる。
具体的な到達目標は以下の通りである。
①スポーツ・体育の歴史的背景と理念の変遷を理解することができる
②スポーツ・体育の意義と価値について、多角的な視点から考えることができる
③スポーツ・体育の指導・研究実践にどのように活用していくべきか、自分の考えを確立することができる

〔授業の概要〕
スポーツ・体育の存在意義や歴史的背景、人間形成および教育における効果と課題などを講義の中で浮き彫りにしていく。日常生活としての運動、運動遊びをはじめ体育授業や部活動と、誰もが身体活動と密接な関係にある。改めて、スポーツ・体育とは何かという問いに向き合うことによって、スポーツ科学の学問分野の基盤的思考力を養っていく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間(4時間×15回)の事前事後学習が必要です。30時間の事前学習(予習)と30時間の事後学習(復習)を目安に学習に取り組んでください。
予習（90分程度）
・次回の授業テーマを予告やシラバスで確認し、その内容の概要を確認しておく
・配布プリントや参考書等を活用し、用語や内容の先行的理解を深めておく
復習（120分程度）
・授業中に示された重要箇所を再度確認し、知識理解の定着をはかる
・授業で取り扱ったテーマに興味関心をもって、身近な体育スポーツに関する理念を整理しておく

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス・体育原理とは
１．講義概要を理解することができる
２．体育原理の学問的立場を理解することができる
第 2 回　体育史と日本における体育理念の変遷
１．体育史が概観でき、人類とスポーツ・体育の関係が理解できる
２．日本におけるスポーツ・体育の関わりと教育的理念の変遷が理解できる
３．歴史的背景から、現代に求められるスポーツ・体育の意義の考えを深めることができる
第 3 回　現代スポーツの周辺①（ルール・制度）
１．スポーツ・体育の特性から、ルール・制度の必要性と変遷を理解することができる
２．現代スポーツの問題点を的確にとらえることができる
第 4 回　現代スポーツの周辺②（宗教・政治・ナショナリズム）
１．スポーツ・体育と宗教・政治・ナショナリズムの関係を理解することができる２．現代スポーツの問題点を的確にとらえることができる
第 5 回　現代スポーツの周辺③（勝利至上主義・ドーピング・フェアプレイ）
１．スポーツ・体育の特性から、勝利至上主義・ドーピング・フェアプレイについて背景を理解することができる
２．現代スポーツの問題点を的確にとらえることができる
第 6 回　体育における人間形成①
体育活動が及ぼす人間形成への影響が理解できる
第 7 回　体育における人間形成②

体育活動が及ぼす人間形成への影響が理解できる
第 8 回　学校体育と身体教育
１．学校体育の位置づけが理解できる
２．身体の概念が理解できる３．学校体育における身体教育の役割が理解できる
第 9 回　体育におけるプレイ論
プレイの概念と教育とも関係が理解できる
第 10 回　体育における競争と共同
体育の特性から、競争や共同といったものへの価値付与が理解できる
第 11 回　体育と指導①（体育教師とコーチ・技術指導）
体育における指導の在り方について考えることができる
第 12 回　体育と指導②（体育・スポーツ指導と体罰）
体育における指導の在り方について考えることができる
第 13 回　子どもからみた体育
多角的な視野をもち、指導者としての体育の在り方を考えることができる
第 14 回　これからの体育
講義内容を振り返り、今後の体育活動に活かす考えを持つことができる
第 15 回　総括・到達度確認テスト
体育・スポーツとは何かという問いに対して、講義全体から得た知見を活かして考えることができる。
体育・スポーツに対する基本的な考えを土台に、スポーツ健康についての専門分野を学んでいこうとする姿勢を持つことができる

〔成績評価〕
①平常点30%　振り返りシートの記入により、毎時間の到達度をチェックする（2%×15回）
②課題・提出物20%　2回のレポートを課す（10%×2回）
③到達度確認テスト50%　15回目の授業で本講義の総括及び60分の到達度確認テストを実施する

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
「教養としての体育原理～現代の体育・スポーツを考えるために～　友添秀則・岡出美則　大修館書店」とする。
中学校学習指導要領解説　保健体育編

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法を含む。）、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修

〔オフィスアワー〕
①後期
②金曜日　14時30分～15時30分　17時10分～17時30分
③場所：講義前後に講師控室で対応します
④連絡先：メール対応　mikisin@osaka-ohtani.ac.jp　もしくはPhollyのメッセージ
⑤その他（相談する際の留意事項）
来室の際は、事前にメールなどでアポイントを取ってください

日本語聴解・会話Ⅱ

2710
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
前田　真弥

〔到達目標〕
この授業は、日本語聴解・会話１で培った能力を引き継ぎ、より高度なスタディスキルの展開を目指すことを目的とする。
自然な速さの日本語を聞き取り、聞き取った内容を伝えることができる。また日本語を使って積極的な、円滑なコミュニケーションができるようになる。

〔授業の概要〕
音読やシャドーイングにより発音練習を行う。
グループでのタスクワークを通して、会話能力やコミュニケーション能力を高める。
グループで課題を設定し、それをまとめプレゼンテーションすることによって、調べる、整理する、議論する、発表するスキルの向上を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介
第 2 回　ブレインマップ「私の好きな○○」
自分に関する多様な話題について日本語で話すことに慣れる。協働学習。
第 3 回　個性的な自己紹介①
少ない語彙でも自分のことを説明できるようになる。協働学習。
第 4 回　個性的な自己紹介②
少ない語彙でも自分のことを説明できるようになる。協働学習。
第 5 回　雑談力を磨く
雑談の場で、自分から会話を始め、会話をリードする。協働学習。
第 6 回　ジグソー・リーディング
自己の役割を明確に持って、議論の場に参加する。協働学習。
第 7 回　説明のコツ
ストーリーや図表をわかりやすく説明できるようになる。協働学習。
第 8 回　偶然について話す
複雑に絡み合う情報を、取捨選択して伝えられるようになる。協働学習。
第 9 回　ピアレスポンス

作文の表現や内容の改善を目指し。コメントのやりとりを行う。協働学習。
第 10 回　ディベート
バランスの取れた効果的な引用の方法を習得する。協働学習。
第 11 回　発表準備①
グループでテーマを決め、アンケートを作成する。協働学習。
第 12 回　発表準備②
作成したアンケートをもとに日本人にインタビューする。結果をまとめる。
第 13 回　発表①
グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 14 回　発表②
グループによる発表。発表に対する相互評価。
第 15 回　発表③
グループによる発表。発表に対する相互評価。

〔成績評価〕
授業への取組・発表30%
授業内提出物30%
授業内発表40%

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』(スリーエーネットワーク)
『シャドーイングで日本語発音レッスン』(スリーエーネットワーク)

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①後期
②火曜日　17：00～17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

日本語文章表現Ⅱ

2711
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
前田　真弥

〔到達目標〕
この授業は、日本語文章表現１で培ったスタディスキルを引き継ぎ、学術的文章で使われる文型や表現、文章の展開の仕方を学び、日本語で論文を書く基本的な力をつける。また、レポートや論文など複雑な内容や専門的なテーマの文章も書くことができるようになる。さらに、自分の文章を、読む人の立場に立って直せるようになる。

〔授業の概要〕
論文らしい表現とはどういうものか、論理的で明晰な文章にするためにはどんな点に気をつければいいかを、練習問題を解きながら考える。序論、本論、結論の基本的な書き方を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で学んだことを復習すること。また、授業外活動として課題を出すことがある。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の目的、授業の予定、評価方法、参考文献・資料の紹介。
第 2 回　助詞の使い方
主に格助詞の使い方について理解する。
作文①（テーマは授業内で伝える）
第 3 回　言葉の形の使い分け
言葉の形の使い分けについて理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 4 回　自動詞・他動詞・受身
自動詞・他動詞・受身について理解する。
作文②（テーマは授業内で伝える）
第 5 回　呼応
呼応について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 6 回　文末表現の調整
文末表現の調整について理解し、うまく記述できるようになる。
作文③（テーマは授業内で伝える）
第 7 回　ひらがなと漢字のバランス
ひらがなと漢字のバランスについて理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 8 回　漢字の選択と誤変換
漢字の選択と誤変換について理解する。
作文④（テーマは授業内で伝える）
第 9 回　カタカナ
カタカナの使い方について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 10 回　読点の打ち方
読点の打ち方について理解する。
作文⑤（テーマは授業内で伝える）
第 11 回　書き言葉らしさ
書き言葉らしさについて理解し、うまく記述できるようになる。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 12 回　辞書の危険性
辞書の危険性について理解する。
作文⑥（テーマは授業内で伝える）
第 13 回　専門用語の選び方
専門用語の選び方について理解する。
先週の作文フィードバック→書き直し。
第 14 回　接続詞と文章の構成
接続詞と文章の構成について理解し、うまく記述できるようになる。
作文⑦（テーマは授業内で伝える）
第 15 回　復習
先週の作文フィードバック→書き直し。
これまでに学習したことを復習する。

〔成績評価〕
定期試験30%
授業への取組20%
授業内提出物50%
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク)
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①後期
②火曜日　17：00〜17：30
③場所：授業終了後、講義教室で対応します。

英語Ⅱ⑦

1508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
野島　　晃子

〔到達目標〕
・基礎英文法を再確認しながら単語や熟語の知識を増やすことができる。
・簡単な英文で自分の言いたいことを言えるようになる。
・日常会話レベルのリスニング力をつけることができる。
〔授業の概要〕
さまざまなアクティビティを通して、「英語」という言語がもつ特徴を体得する。そして、日常の簡単なことがらについて英語で話したり、相手に質問したりできるような基礎的なコミュニケーション力を身につけることをめざす。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・自分が興味をもつ分野において見聞きする英語表現を普段から気に留めること。
〔授業計画〕
第 1 回　Orientation, Chapter 1, Chapter 2
後期授業オリエンテーション
Chapter 1: Preparing for the Trip
第 2 回　Chapter 2, 3
Chapter 2: On the Airplane
Chapter 3: Arrival and Passport Control
第 3 回　Chapter 4, 5
Chapter 4: Banking and Leaving the Airport
Chapter 5: Checking Into the Hotel
第 4 回　Chapter 6
Chapter 6: Hotel Facilities
第 5 回　Chapter 7
Chapter 7: Let’s Eat!
第 6 回　Chapter 8
Chapter 8: Sightseeing
第 7 回　Chapter 9
Chapter 9: Making Small Talk
第 8 回　Chapter 10
Chapter 10: Shopping
第 9 回　Chapter 11
Chapter 11: Feeling Sick
第 10 回　Chapter 12
Chapter 12: Getting Around
第 11 回　Chapter 13
Chapter 13: Checking Out of the Hotel
第 12 回　Chapter 14
Chapter 14: Heading Home
第 13 回　Chapter 15
Chapter 15: Talking About Your Trip
第 14 回　総復習
第 15 回　前期期末試験
〔成績評価〕
・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／ミニテスト／課題　50%
・定期試験　50%
〔教科書〕
『Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere!』Diane H. Nagamoto and Fumiko Murase, 金星堂, ISBN 978-4-7647-4020-4
〔参考文献〕
必要に応じ適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

特別講義　企画力基礎講座

4009
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
野島　　晃子

〔到達目標〕
・自分のアイデアを形にすることができる。
・効果的なプレゼンテーションとは何かを体得することができる。
・論理的な表現力を身につけることができる。
・他人の話を聴く姿勢を養うことができる。
〔授業の概要〕
現代社会では、どのような分野においても自らの主張などを明確に伝える能力が求められる。この授業では、自分の企画をクラスの前で発表することを最終課題とする。企画といっても、新しい商品の開発など「無から生み出す」ことだけを指すのではない。既存のものから着想を得るための情報収集方法など基礎的な手法を学び、自分のアイデア

を形にする練習を積む。また、企画をあたためて終わるのではなく、いかに効果的に伝えるかも重要な要素となる。そのために、プレゼンテーションの方法を基礎から応用まで実践を通して学びスキルを獲得することをめざす。この場合のスキルとは単なる「話し方」ではなく、論の展開や適切な表現方法など多様な側面を指す。そして、発表においては教員のみならず学生相互の評価も取り入れることで、批判的に物事を捉える（「相手を批判する」ことではない）姿勢を養い、自分自身の発表に磨きをかけられるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・毎回の授業内容を復習し、次回の授業にのぞむこと。
・与えられた課題の研究および発表に向けての準備時間を確保すること。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
・授業方針、目標、内容、評価方法、履修にあたっての注意事項などについて説明する。
・教員およびクラスメイト同士でのかんたんな自己紹介をする。

第 2 回　情報収集の方法、読む力の養い方、ブレインストーミングの方法と活用

第 3 回　プレゼンテーションとは何か①

第 4 回　プレゼンテーションとは何か②

第 5 回　３分スピーチの実施に向けて
構想の練り方、発表準備のしかた、聴く側の姿勢について

第 6 回　第１回　３分スピーチ実践①

第 7 回　第１回　３分スピーチ実践②

第 8 回　第１回　３分スピーチの総括と講評、第２回３分スピーチに向けて

第 9 回　第２回　３分スピーチ実践①

第 10 回　第２回　３分スピーチ実践②

第 11 回　第２回　３分スピーチの総括と講評、最終課題「企画発表」に向けての準備について

第 12 回　企画を練る①

第 13 回　企画を練る②

第 14 回　各自の企画発表および講評①

第 15 回　各自の企画発表および講評②

〔成績評価〕

・授業態度／授業貢献度／コミュニケーションペーパー／授業課題／プレゼンテーション　70%
・最終課題レポート　30%

〔教科書〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕

必要に応じ適宜指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

LMS科目のため質問等はメールで受け付けし、次回の授業までに回答します。

演習Ⅰ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学発育発達に関する研究】

8350
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
石川　　峻

〔到達目標〕

１）研究内容や研究方法を理解し、実施できる。
２）他者と協力しながら積極的に課題の解決に取り組める。
３）結果や自身の考えを論理的にまとめ、他者に分かりやすく伝えることができる。
４）自身の探求心から主体的に卒業論文のテーマを策定する。

〔授業の概要〕

健康、スポーツ分野での調査、測定、分析、発育・発達段階での育成法や課題等の調査、分析を行う。そして結果の考察や発表、ディスカッション等を通して自身の知見を深めるとともに、それらにより得られた知識を用いたコーチング法や、スポーツ観の確立を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業外でのレポート（4時間）
パワーポイント資料作成（4時間）

〔授業計画〕

第 1 回　相対的年齢効果について
相対的年齢効果とは

第 2 回　相対的年齢効果の調査①
相対的年齢効果の調査

第 3 回　相対的年齢効果の調査②
相対的年齢効果の調査

第 4 回　相対的年齢効果の調査発表
各グループの発表、ディスカッション

第 5 回　配表調査について
配表調査の方法理解

第 6 回　配表調査の分析①
各グループでの分析、レポート作成

第 7 回　配表調査の分析②
各グループでの分析、レポート作成

第 8 回　配表調査の発表
各グループの発表、ディスカッション

第 9 回　論文執筆への理解
論文の構成、書き方、先行研究、資料の集め方

第 10 回　先行研究の検討①
先行研究を熟読し理解する

第 11 回　先行研究の検討②
先行研究を熟読し理解する

第 12 回　卒業論文のテーマ策定
卒業論文のテーマについて考える

第 13 回　テーマ発表の準備①
スライド作成等

第 14 回　テーマ発表の準備②
スライド作成等

第 15 回　卒業論文テーマ発表会
各自テーマを発表する

〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　30%
授業内発表　30%
授業内外レポート　40%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
水曜１限、２限

キャリア基礎　教育④

8114
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
石川　　峻

〔到達目標〕
少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
円満に意志疎通を図ることができる。
コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。
〔授業の概要〕
学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。
・（全）記号は全学科合同での実施メニュー
・（学科）記号は教育学科合同での実施メニュー
・（クラス）記号は各クラスでの実施メニュー
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。
〔授業計画〕
第 1 回　（全）モチベーションアップ（藤本ほか）
DVD映像を参照…モチベーションを高めるための脳活用の方法。プロ100人に聴いた極意を知る。
第 2 回　（全）学園祭の取組み
第 3 回　（学科）小論文の書き方①
第 4 回　（学科）小論文の書き方②
第 5 回　（全）学園祭運営委員会より
大学学園祭の実施、運営・企画にあたり、各イベント内容の周知と任務、役割分担など。
第 6 回　（全）税について…外部講師講演
芦屋税務署さまより税についての基調講演。参照映像やクイズ形式などにより、税についての深い知見を得る。
第 7 回　（クラス）実践PBL①
グループによるPBL（Problem Based Learning）【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 8 回　（クラス）実践PBL②
グループによるPBL（Problem Based Learning）【課題解決型学習】を通じて、総合的な課題解決力を養う。
第 9 回　（学科）卒業生に聞く
第 10 回　（全）キャリア形成について②SPIなど…就職部主催
就職試験の日程掌握、SPI対策、基礎学力向上の秘訣など、就職に必要な具体的キャリア形成をステップアップするための手法を知る。
第 11 回　（学科）Aドリル：ペーパーテスト
第 12 回　（全）裁判員制度について
DVD映像、裁判員に選ばれた場合での各種判例ケースを想定し、裁判員の立場に立ったケースでの思考、知見を養う。
第 13 回　（学科）教育学科コース説明
第 14 回　（全）キャリア形成について③先輩からの声…就職部・教職支援センター主催
学生シンポジウム…就活成功への秘訣。－就職内定者、教職合格者、インターンシップ体験学生に聴く－
第 15 回　（学科）まとめレポート
〔成績評価〕
レポート評価100%
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②フォリーでメッセージを送ってください。
③事務所に問い合わせてください。

陸上競技②

2005
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
石川　　峻

〔到達目標〕
１）自身の記録の向上や仲間との競争を楽しむことができる。
２）各種競技の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントを理解する。
３）基本的な動きや効率のよい動きを身につける。
〔授業の概要〕
陸上競技は、走・跳・投といった個人的な基本運動から構成されており、自己の能力を最大限に発揮し技能を高めることに楽しさを見いだすことが出来る。本講義では陸上競技の走種目・跳躍種目・投擲種目にかかわる技能の習得だけではなく測定方法やルール、技能構造などの知識についての理解を深める。また、グループで指導案を作成した後、ディスカッションを通してより良い指導法に関して考察していく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業後のレポート作成（2時間）
指導案の作成（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、短距離走、リレーの指導法解説
授業の概要や進め方、受講上の注意事項、評価方法等
短距離走、リレーの競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイント
第 2 回　短距離走①
スタートについて基本的な技能を身につける。
第 3 回　短距離走②
中間疾走について基本的な技能を身につける。
第 4 回　短距離走③
リレーの効率的なバトンパスについて基本的な技能を身につける。
第 5 回　短距離走のまとめ・ハードル走、長距離走の指導法解説
短距離の指導法についてディスカッションを通して考える。
ハードル走、長距離走の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントについて理解する。
第 6 回　ハードル走①
自分にあったインターバルを知り、リズミカルに走る技能を身につける。
第 7 回　ハードル走②
抜き足と振り上げ足の使い方を理解し、スムーズなハードリングについて基本的な技能を身につける。
第 8 回　長距離走①
リラックスして走れるフォームを身につける。
第 9 回　長距離走②
自分にあったペースを理解し、そのペースでの走り方を身につける。
第 10 回　ハードル走、長距離走のまとめ・跳躍、投擲の指導法解説
ハードル走、長距離走の指導法についてディスカッションを通して考える。
跳躍、投擲の競技特性、ルール、測定方法、指導上のポイントについて理解する。
第 11 回　跳躍競技①
走り幅跳びにおいて踏み切り、着地の基本的な技能を身につける。
第 12 回　跳躍競技②
走り幅跳びおいて助走の基本的な技能を身につける。
第 13 回　投擲競技①
ターボジャブを前方にまっすぐ投げる技能を身につける。
第 14 回　投擲競技②
ターボジャブを短い助走から投げる技能を身につける。
第 15 回　跳躍、投擲のまとめ
跳躍、投擲の指導法についてディスカッションを通して考える。
まとめレポートを作成する。
〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　20%
技能評価　20%
授業内外レポート　40%
期末試験 20%
〔教科書〕
文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説（平成29年7月告示）保健体育編.
文部科学省（2018）高等学校学習指導要領解説（平成30年7月告示）保健体育編体育編.
その他、適宜プリントを配布する
〔参考文献〕
小木曽一之ほか（2017）中学・高校　陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫. 道和書院.
日本陸上競技連盟 編（2018）中学校部活動における陸上競技指導の手引き.
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、体育実技、中一種（保健体育）、高一種（保健体育）、必修
〔オフィスアワー〕
水曜１限、２限

地域とスポーツ

2034
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
石川　　峻

〔到達目標〕
１）地域におけるスポーツについて関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。
２）地域におけるスポーツの意義について理解する。
３）スポーツを通して地域を活性化するための方法について論理的に説明できる。
〔授業の概要〕
これまでの日本のスポーツは学校と企業によって支えられてきた。しかし近年は地域密着のプロスポーツや、総合型地域スポーツクラブ等、「地域」という新たな担い手が登場した。本講義では「地域」とスポーツの関係性や課題、今後の可能性について紹介する。また、自分達が生活している地域社会において、どのようにスポーツと関わっていくか、スポーツを通してどのように地域を活性化していけるかをグループでのディスカッション等を通して考えていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
スポーツに関するニュースに関心を持ち、情報収集をする(2時間)
授業外レポート（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の概要や進め方、受講上の注意事項、評価方法等について
第 2 回　日本における近代スポーツの発展
　　日本においてどのようにスポーツが発展してきたか、日本が行なっているスポーツ政策
第 3 回　学校スポーツ
　　部活動のこれまでとこれから
第 4 回　企業スポーツからプロスポーツへ
　　企業スポーツの衰退とプロスポーツの台頭、プロスポーツの仕組み
第 5 回　地域密着型プロスポーツクラブ
　　地域におけるプロスポーツの役割
第 6 回　総合型地域スポーツクラブ①
　　総合型地域スポーツクラブの理念と現状、クラブの創設、自主運営に必要な条件
第 7 回　総合型地域スポーツクラブ②
　　総合型地域スポーツクラブの顧客とスタッフの定義、クラブマネージャー・アシスタントマネージャーとは
第 8 回　総合型地域スポーツクラブ③
　　クラブマネージャー・アシスタントマネージャーの位置づけ、求められる能力
第 9 回　総合型地域スポーツクラブ④
　　クラブ運営に必要なロジカルシンキングとコミュニケーション
第 10 回　総合型地域スポーツクラブ⑤
　　ＮＰＯ法人とは、ＮＰＯ法人格の取得手続き
第 11 回　総合型地域スポーツクラブ⑥
　　総合型地域スポーツクラブの活動拠点と財源の確保
第 12 回　大学スポーツ
　　大学スポーツ改革、地域との連携
第 13 回　スタジアムとアリーナ
　　スタジアム・アリーナ改革
第 14 回　スポーツツーリズム
　　スポーツツーリズムの推進
第 15 回　スポーツボランティア
　　スポーツボランティアの意義と役割
〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　20%
授業内レポート　50%
期末試験　30%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
プロバスケットボールクラブでの勤務経験から、地域社会とスポーツがどのように関わっているのか、地域クラブがどのように成り立っているのかを解説する。
〔オフィスアワー〕
水曜１、２限

ｺｰﾁﾝｸﾞ法演習２【バスケ】

2036
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
石川　　峻

〔到達目標〕
１）仲間と協力して授業に取り組むことができる。
２）バスケットボールの歴史やルール、特性等の知識や技能を習得する。
３）目的に応じた練習法について理解し、実践することができる。
〔授業の概要〕
バスケットボールは日本だけでなく、世界的にも多くの競技者がおり、人気スポーツの1つである。また、学校体育の中でも取り扱われ、多くの人が一度は経験したことのあるスポーツであろう。本講義ではバスケットボールとはどのようなスポーツなのかを理解できるよう、その歴史や競技特性等、様々な観点から紹介する。また、知識や技能の習得を目指すだけでなく、スモールサイドゲームやコーディネーショントレーニングを題材として用いて、より良い指

導法に関してディスカッションしながら考察し、主体的に学びを深めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
バスケットボールやスポーツ指導者に関するニュース関心を持ち、情報収集をする（2時間）
指導実践計画の作成（2時間）
授業後のレポート作成（2時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の概要や進め方、受講上の注意事項、評価方法等について
第 2 回　バスケットボールの歴史
　　バスケットボールの誕生とルールの変換
第 3 回　バスケットボールの競技特性
　　生理学的、技術・戦術的な側面から
第 4 回　バスケットボールの基礎技能①
　　アイスブレイク、ボールハンドリング、パス
第 5 回　バスケットボールの基礎技能②
　　ドリブル、シュート
第 6 回　バスケットボールの集団攻撃法①
　　空間の使い方、アウトナンバー
第 7 回　バスケットボールの集団攻撃法②
　　スクリーンプレー
第 8 回　バスケットボールの練習法の検討
　　スモールサイドゲームについて
第 9 回　スモールサイドゲームによる練習①
　　コートの大きさ、人数、ルールを工夫したゲームの実施
第 10 回　スモールサイドゲームによる練習②
　　コートの大きさ、人数、ルールを工夫したゲームの実施
第 11 回　スモールサイドゲームによる練習のまとめ
　　ディスカッション
第 12 回　バスケットボールの年代別の指導法
　　コーディネーショントレーニングについて
第 13 回　指導実践①
　　コーディネーショントレーニングの指導実践
第 14 回　指導実践②
　　コーディネーショントレーニングの指導実践
第 15 回　まとめ
　　指導実践のリフレクション、これまでのまとめ
〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　20%
授業内・授業外レポート　40%
期末試験　20%
指導実践　20%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
日本バスケットボール協会（2014）バスケットボール指導教本 改訂版 上巻．大修館書店
日本バスケットボール協会（2016）バスケットボール指導教本 改訂版 下巻．大修館書店
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
プロバスケットボールクラブのバスケットボールスクールコーチの経験から、発育発達段階に則したバスケットボールの指導法について指導する。
〔オフィスアワー〕
水曜１、２限

情報機器の操作【留学生】

1101
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
林　泰子

〔到達目標〕
・Gmail（大学の各学生のメール）を活用することができる。
・Wordを活用し、基礎的な文書を作成することができる。
・Excelを活用し、基礎的な計算とグラフを作成することができる。
・Power Pointを活用し、基礎的なプレゼンテーション用スライドを作成することができる。
・ネット社会での情報モラルの重要性を理解し、情報を適切に活用することができる。
〔授業の概要〕
レポート作成、課題・研究発表など、大学でのコンピュータ利用に対応できる基礎的な知識や技能を修得する。
Word、Excel、Power Pointを用いて課題を作成する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前にテキストに目を通して予習しておくこと。また、授業の復習をして分からなかったところなどを振り返り、次の授業での課題作成がスムーズにできるようにしておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　授業の進め方、授業概要、成績評価
　　Gmailの基礎
第 2 回　Wordを活用した文書作成１
　　Wordの基本操作、入力チェック、文章の入力
第 3 回　Wordを活用した文書作成２
　　表と罫線、ビジネス文書
第 4 回　Wordを活用した文書作成３
　　図形の描画と編集
第 5 回　Wordを活用した文書作成４
　　表や図形を活用した文書作成
第 6 回　Wordの総復習
　　Wordのチェックテスト
第 7 回　Excelを活用したデータ処理１
　　Excelの特徴、データ入力と編集
第 8 回　Excelを活用したデータ処理２
　　いろいろな計算方法、相対参照、絶対参照
第 9 回　データサイエンスの基礎
　　データサイエンスの意味や意義、データの可視化
第 10 回　データサイエンスの応用

身近なデータをもとにしたデータの収集・集計・分析
第 11 回　Excelの総復習
Excelのチェックテスト
第 12 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成１
スライド作成の基礎
第 13 回　Power Pointを活用したプレゼン資料作成２
効果的で説得力のあるスライド編集
第 14 回　Power Pointを活用したプレゼンテーション
自作のプレゼンテーション用スライドによる発表
第 15 回　情報モラル
情報の適切な取り扱い、情報セキュリティ

〔成績評価〕
課題　60%
チェックテスト　40%

〔教科書〕
『留学生のための日本語で学ぶパソコンリテラシー』橋本恵子・林泰子他、共立出版、2,200円＋税

〔参考文献〕
必要に応じて資料を配布します。

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
この授業は、パソコン教室で授業支援システムを活用し、課題の配布や回収、テストなどを実施して授業を行います。また、課題の作成状況をこのシステムでモニターしながら、学習の理解状況を把握し授業を進行します。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日：11:00～12:00
③研究室
④y.hayashi@ashiya-u.ac.jp
⑤研究室に来室の際は、事前にメールでアポイントを取ってください。
　質問等は、基本的には授業終了後に講義教室で対応します。
　それ以降は、メールで受け付けます。

哲学概論Ⅱ

5221
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
小川　雄

〔到達目標〕
今後、ＡＩの発達と普及により社会のありようは大きく変化すると言われている。このような状況のなかで、わたしたち人間の強みとして着目されているのは、さまざまな存在についてその価値や意味を考察したり、あるいは、目的のよさ・正 しさ・美しさを判断したりする知的な営み、つまり、哲学的な思考である。本講義では、受講生がこうした営為に関心を持ち、哲学的な思考を実践できるようにするために、西洋哲学の歴史を紐解きながら、哲学的な思考の型を紹介する。

到達目標
（１）西洋哲学が提示した問題を理解すること。
（２）その問題について考え議論し、自身の主張をほかのひとに伝えられるようになること。
（３）人間を様々な局面から捉えられるようになり、人間の理解を深めること。

〔授業の概要〕
テーマや到達目標に基づいて、本科目では、哲学が取り扱ってきた主題を三つ取り上げる。すなわち、言語と科学と情感である。それぞれの主題を深く掘り下げていきながら、人間を理解するための多角的な視野を養っていく。
　Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は第1回のガイダンスで説明するが、基本的には、講義スライドを視聴して、それに関連した課題に取り組み、課題を提出する、という流れになる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業後、その授業で学んだことを要約すること（９０分）と、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
成績評価や授業形式、講義内容に関する説明
第 2 回　第１章：言語①
古代ギリシアのソフィストについて
第 3 回　第１章：言語②
弁論術の概説
第 4 回　第１章：言語③
弁論術：言説の三類型
第 5 回　第１章：言語④
弁論術：「エートス」による説得術
第 6 回　第１章：言語⑤
弁論術：「パトス」による説得術
第 7 回　第１章：言語⑥
弁論術：「ロゴス」による説得術
第 8 回　中間レポート
レポートの書き方と課題の公示
第 9 回　第２章：科学①
科学とはなにか
第 10 回　第２章：科学②
演繹的な推論
第 11 回　第２章：科学③
非演繹的な推論
第 12 回　第２章：科学④
仮説演繹
第 13 回　第３章：情感①
ルソーの「ピチエ」
第 14 回　第３章：情感②
ケアの思想
第 15 回　まとめ
全体の振り返り

〔成績評価〕
平常点４０%
：それぞれの授業ごとに課題を用意している。それに取り

組む。

中間レポート３０％
：第8回に課題を公開する。
レポート３０％
：試験期間内に公開する。書式や文字数に関しては、こちらが指定する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成３０年３月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成２９年７月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成３０年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕
基本的には、Phollyで対応する。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡をとること。

倫理学概論Ⅱ

5220
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
小川　雄

〔到達目標〕
わたしたちが社会生活を営むためには、ルールとその順守が必要である。しかし、それだけではない。わたしたちには、相手を思いやる気持ち、言い換えれば、共感が必要である。本講義では、この理解に立って、著名な思想家たちが共感をどのように理解してきたかを紹介しながら、受講生とともに、人間関係の視点から倫理を考えていきたい。

到達目標
１　取り上げた思想家それぞれの考え方や主要な概念について知り、説明できるようになる。
２　共感と倫理的な生活との関わりについて理解できるようになる。
３　現代社会の問題を共感の観点から捉え直すことできるようになる。

〔授業の概要〕
テーマや到達目標に基づいて、本科目では、共感について思索した思想家の紹介をとおして、わたしたちの倫理的な生活と共感との関わりについて学ぶ。これと併せて、新聞記事等の資料をとおして現代の社会問題について考える機会を設ける。
Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は第1回のガイダンスで説明するが、基本的には、講義スライドを視聴して、それに関連する課題に取り組み、課題を提出する、という流れである。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業後、その授業で学んだことを要約すること（９０分）と、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　成績評価や授業形式、講義内容についての説明
第 2 回　序章　共感の思想のはじまり
　　道徳感情論について
第 3 回　第１章　共感の思想：ヒューム①
　　ヒュームの思想について：ヒュームの情念論
第 4 回　第１章　共感の思想：ヒューム②
　　ヒュームの思想について：ヒュームの共感
第 5 回　第１章　共感の思想：ヒューム③
　　ヒュームの思想について：「一般的観点」
第 6 回　第２章　共感の思想：アダム・スミス①
　　スミスの思想について：スミスの共感
第 7 回　第２章　共感の思想：アダム・スミス②
　　スミスの思想について：「公平な観察者」
第 8 回　中間レポート
　　レポートの書き方と課題の公開
第 9 回　第３章　共感の思想：ケアとしての共感①
　　土居健郎による「甘え」の分析
第 10 回　第３章　共感の思想：ケアとしての共感②
　　ノディングズのケアリング理論
第 11 回　第３章　共感の思想：ケアとしての共感③
　　ボウルヴィのアタッチメント理論
第 12 回　第３章　共感の思想：ケアとしての共感④
　　アタッチメント理論：「安全基地」について
第 13 回　第３章　共感の思想：ケアとしての共感⑤
　　「安全基地」の意義
第 14 回　第３章　共感の思想：ケアとしての共感⑤
　　ケアの倫理について
第 15 回　まとめ
　　全体の振り返り

〔成績評価〕
平常点４０％
：それぞれの授業ごとに簡単な確認テストを用意している。それに取り組む。
中間レポート３０％
：第8回に課題を公開する。
期末レポート３０％
：試験期間内に課題を公開する。

〔教科書〕
中学校学習指導要領（平成２９年３月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成３０年３月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　社会編（平成２９年７月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　公民編（平成３０年７月告示、文部科学省）

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学」、中一種（社会）、選択
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択
〔オフィスアワー〕
基本的に、Phollyで対応する。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡を取ること。

社会と倫理

2108
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
小川　雄

〔到達目標〕
現代の教育課題の一つは、子どもたちがよりよい社会を築けるように子どもたちを導くことである。そのためには、解決しなければならない二つの問題がある。一つは、よりよい社会とはいったいどのような社会であるのかという問題であり、もう一つは、そのような社会を実現するためになにをすべきかという問題である。本講義では、こうした問題を考える手引きとして著名な思想家の思索を紹介しながら、社会と倫理について考えていく。

到達目標
（1）よりよい社会のあり方について多角的に考えられるようになる。
（2）よりよい社会を形作るためにはどうすればよいかを知る。
〔授業の概要〕
テーマや到達目標に基づいて、本科目では、古代から現代までの代表的な政治哲学や倫理思想について学ぶ。これと併せて、新聞記事等の資料をとおして現代の社会問題について考える機会を設ける。
　Phollyによるオンデマンド形式で授業を進める。詳細は、第1回のガイダンスで説明するが、基本的に、講義スライドを視聴して、それに関連する課題に取り組み、課題を提出する、という流れになる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業後、その授業で学んだことを要約すること（９０分）と、提示された予習課題に取り組むこと（９０分）。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　成績評価や授業形式、講義内容に関する説明
第 2 回　第１章：古代における理想の社会の探究①
　　古代ギリシアの民主制
第 3 回　第１章：古代における理想の社会の探究②
　　民主制の失敗
第 4 回　第１章：古代における理想の社会の探究③
　　プラトンの思想
第 5 回　第１章：古代における理想の社会の探究④
　　アリストテレスの思想
第 6 回　第２章：帝国の時代～中世①
　　ヘレニズム・古代ローマ帝国期の社会のありようと倫理的な生活
第 7 回　第２章：帝国の時代～中世②
　　中世のキリスト教的な世界観と倫理的な生活
第 8 回　中間レポート
　　レポートの書き方と課題の公示
第 9 回　第３章：近代における理想の社会の探究①
　　ホッブスの思想
第 10 回　第３章：近代における理想の社会の探究②
　　ルソーの思想
第 11 回　第４章：現代における理想の社会の探究①
　　アメリカの共和制
第 12 回　第４章：現代における理想の社会の探究②
　　デューイの思想
第 13 回　第４章：現代における理想の社会の探究③
　　コールバーグの「道徳性発達段階説」：概説
第 14 回　第３章：現代における理想の社会の探究④
　　コールバーグの「道徳性発達段階説」:「役割取得能力」の拡張
第 15 回　まとめ
　　全体の振り返り
〔成績評価〕
平常点４０％
:それぞれの授業ごとに課題を用意している。それに取り組む

中間レポート３０％
：第8回に課題を公開する。

期末レポート３０％
：試験期間内に課題を公開する。
〔教科書〕
特になし。適宜紹介し、配布する。
〔参考文献〕
講義の中で紹介する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
基本的に、Phollyで対応する。質問や対応してほしいことがあれば、メッセージ機能を使って連絡を取ること。

英語Ⅱ⑨

1510
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
成田　沙央子

〔到達目標〕
基礎的な英文法を復習し、英語学習の基盤となる部分をしっかりと作りあげる。語彙を増やし、話法・口語表現を理解し身につける。問題演習や、実際に英語でコミュニケーションをとることを通じて、英語に対する自信を持てるようになる。
〔授業の概要〕
問題演習を通して基本的な英文法を学ぶ。また、視聴覚教材を用い、実際の生きた英語に触れ、リスニング・スピーキングにも取り組み、日常会話やコミュニケーションの基本的な技能を身に着ける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回課題を提出する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・Unit5
　　文型と文の要素（1）
第 2 回　Unit5
　　文型と文の要素（2）
第 3 回　Unit5
　　文型と文の要素（3）
第 4 回　Unit6
　　進行形（1）
第 5 回　Unit6
　　進行形（2）
第 6 回　Unit6
　　進行形（3）
第 7 回　Unit7
　　受動態（1）
第 8 回　Unit7
　　受動態（2）
第 9 回　Unit7
　　受動態（3）
第 10 回　Unit8
　　助動詞（1）
第 11 回　Unit8
　　助動詞（2）
第 12 回　Unit8
　　助動詞（3）
第 13 回　Unit5・6
　　復習・問題演習
第 14 回　Unit7・8
　　復習・問題演習
第 15 回　復習テスト
〔成績評価〕
授業内評価 60%
学期末テスト40%
〔教科書〕
Laugh and Learn: Back to the Basics（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜指示する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
木曜12:10~15:30

英語Ⅱ⑤

1505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
中田　　智也

〔到達目標〕
基本的な文法事項を理解する。
簡単な英語の文を、正確に日本語に訳せるようになる。
簡単な英作文ができるようになる。
〔授業の概要〕
この授業は、大きく分けて、①文法事項の確認、②英文和訳（英語から日本語）、③和文英訳（日本語から英語）、の３つの部分から成ります。①と②で文法事項を理解したうえで③に取り組みます。簡単な英作文を数多くこなすことにより、英語に慣れていきましょう。また、クラス全体で問題を共有しながら、難しく感じる部分も丁寧に学んでいきましょう。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業で学んだことの復習
難しく感じた英文和訳、和文英訳を重点的に復習

〔授業計画〕
第 1 回　前置詞　英文和訳
　　前置詞の種類・意味・使い方
　　「時」を表す前置詞、「場所」や「方向」を表す前置詞、その他の前置詞
第 2 回　前置詞　和文英訳
　　前置詞の種類・意味・使い方
　　「時」を表す前置詞、「場所」や「方向」を表す前置詞、その他の前置詞
第 3 回　接続詞　英文和訳
　　接続詞の種類・意味・使い方
　　文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 4 回　接続詞　和文英訳
　　接続詞の種類・意味・使い方
　　文と文をつなぐ接続詞、句と句をつなぐ接続詞、語と語をつなぐ接続詞
第 5 回　進行形　英文和訳
　　be動詞＋動詞のing形
　　進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
　　否定文、疑問文の作り方

第 6 回　進行形　和文英訳
be動詞＋動詞のing形
進行形の意味、現在進行形、過去進行形、未来進行形、その他
否定文、疑問文の作り方
第 7 回　受動態（受け身形）　英文和訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 8 回　受動態（受け身形）　和文英訳
be動詞＋動詞の過去分詞形
受け身形の意味、現在形、過去形、助動詞との組み合わせ、その他
否定文、疑問文の作り方
第 9 回　完了形（現在完了・過去完了）　英文和訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 10 回　完了形（現在完了・過去完了）　和文英訳
have / has＋動詞の過去分詞形
完了形の意味、現在完了、過去完了、その他
否定文、疑問文の作り方
第 11 回　比較　英文和訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 12 回　比較　和文英訳
形容詞と副詞の比較変化
原級、比較級、最上級
第 13 回　不定詞　英文和訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 14 回　不定詞　和文英訳
to＋動詞の原形
文の中で果たす役割（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、原形不定詞）
第 15 回　後期のまとめ
後期の要点のおさらい

〔成績評価〕
毎回のレポート提出とその内容から総合的に評価します。
〔教科書〕
Simply Grammar 〈Revised Edition〉（南雲堂）
〔参考文献〕
適宜資料を配布します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

スポーツ心理学

3015
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
柄木田　健太

〔到達目標〕
・スポーツ場面や運動場面で生じる様々な心理的変化をスポーツ心理学の知識を基に理解する。
・メンタルトレーニングの基礎と方法を理解し、実践場面で活用できる心理的スキルを身につける。
・自らの気持ちや感情、スポーツパフォーマンスの変化をスポーツ心理学の理論を基に説明することができる。
〔授業の概要〕
前半はスポーツ心理学の諸理論を基に、運動学習や動機づけ、「あがり」のメカニズムとその対処法など、個々のテーマに沿って紹介、解説する。後半には、目標設定技法やリラクセーション技法などに代表されるスポーツメンタルトレーニングの基礎と方法を中心に、様々な心理学的スキルを紹介し、自らに合った心理的スキルの発見、獲得を目指す。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・様々な場面(特にスポーツ場面)での、自らの心の変化に気づくように意識する。
・紹介したメンタルトレーニング技法に取り組み、実際に体験する。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、スポーツ心理学とは？
第 2 回　運動学習
運動学習とは？
第 3 回　スポーツスキルの学習
運動やスポーツが上手くなるということ
第 4 回　スポーツとやる気
やる気の源、「動機づけ」に関する諸理論
第 5 回　スポーツ集団の構造と機能
集団過程に関する諸理論
第 6 回　プレッシャーとあがり
様々な場面で生じるプレッシャーと「あがり」
第 7 回　あがりへの対処法
パフォーマンスを低下させないための方法
第 8 回　コーチングの心理
良いコーチとはどのようなコーチか？
第 9 回　スポーツカウンセリング
スポーツカウンセリングの方法
第 10 回　メンタルトレーニング①
自己分析の意義と方法
第 11 回　メンタルトレーニング②
目標設定の方法
第 12 回　メンタルトレーニング③
リラクセーション・サイキングアップ
第 13 回　メンタルトレーニング④
イメージトレーニング

第 14 回　メンタルトレーニング⑤
その他の心理技法の紹介(ルーティン・セルフトークなど)
第 15 回　まとめ
これまでの講義のまとめ

〔成績評価〕

授業課題30%
最終レポート70%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①後期
②木曜日5限
③対面授業の場合:授業終了後、講義教室にて対応
遠隔授業の場合:Phollyにて対応
④連絡先:Phollyのメッセージにてご連絡ください。

日本語特別演習Ⅱ

日本語特別演習Ⅱ

2712
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
中西　泰洋

〔到達目標〕

◎日本語能力試験N１に合格するための日本語能力の習得を目標とする。
◎「日本語特別演習Ⅰ」に続き、文字・語彙、文法、読解、聴解のレベルアップを図る。

〔授業の概要〕

◎日本語能力試験N1の予想問題や過去問題を解きながら、学習者に既習の学習項目を確認させる。
◎問題を解くことによって、新たな学習項目を学び、日本語能力を増強する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

◎日常生活において日本語を見聞きすることに努めること。
◎授業後は必ず音読しながら復習を十分にすること。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
日本語能力試験N1のレベルについて説明するとともに、学習方法について指示する。
ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　問題解答練習１
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 3 回　問題解答練習２
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 4 回　問題解答練習３
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 5 回　問題解答練習４
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 6 回　問題解答練習５
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 7 回　問題解答練習６
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 8 回　問題解答練習７
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 9 回　問題解答練習８
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 10 回　問題解答練習９
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 11 回　問題解答練習10
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 12 回　問題解答練習11
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 13 回　問題解答練習12
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 14 回　問題解答練習13
類似形式の問題に解答する練習によって日本語能力試験N1の問題に慣れると共に、日本語能力を増強する。
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。
また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。
〔教科書〕
プリントを配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜提示し、資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。
〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語Ⅱ②

4421
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
実務経験有
中西　　泰洋

〔到達目標〕
◎「日本語Ⅰ」に続き、大学での学習・研究活動に必要な日本語運用能力の基礎 （日本語能力試験N1レベル）を習得することを目標とする。
◎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと他の日本語授業科目と共に履修し、目標の達成を目指す。
〔授業の概要〕
◎日本語能力試験N1レベルの文章（新聞レベルの文章）を読みこなすことを通じて、「読む」「書く」の技能を高めるために、表現に多用される語彙の習得を図る。
◎読解文章のトピックについて、アクティブラーニングを取り入れた学習者同士あるいは学習者と教授者との話し合い等の学習活動を展開する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
◎予習もさることながら、特に、学習した文章を音読する復習を最低でも30分以上は必ずすること。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
本授業についての目標・進め方等について説明する。
日本語の学習方法についての指示等を与える。ポートフォリオを書かせる。
第 2 回　「科学」の定義
『99.9%は仮説』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 3 回　現代の若者のマナー
『若者の法則』からの文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 4 回　親孝行な男の子
『日本のむかし話16』からの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 5 回　ゲーム依存症
「ゲームと子ども　依存の陰に空虚感」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 6 回　金融教育
「子供への金融教育」という文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 7 回　言語と文化
『ケジメのない日本語』からの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 8 回　ローソクの進化
「ローソクだって進化する」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 9 回　「割り勘」は当然？
「大学生コンパ　男３＋女３＝￥12,000　支払いは・・・」という文章について読解 し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、その内容に関して 意見を出し合う。
第 10 回　新聞記事１
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 11 回　新聞記事２
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 12 回　新聞記事３
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 13 回　新聞記事４
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解すると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 14 回　新聞記事５
直近の新聞記事でタイムリーなトピックの文章について読解し、関連する語彙と表現形式を理解す

ると共に、そのトピックに関して意見を出し合う。
第 15 回　まとめと今後に向けて
本授業を学習者と共に振り返りながら、まとめを行う。また、今後の日本語学習について、どのようにすべきかを指示する。

〔成績評価〕
授業での学習状況（約30%）、定期試験（約70%）で総合的に評価する。

〔教科書〕
プリントを配布する。

〔参考文献〕
授業中に適宜提示したり、資料を配布する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
国語教育での実務経験を活かした日本語教育を展開する。特に、既習の日本語学習者である留学生を対象とする日本語科目に応用する。

〔オフィスアワー〕
水曜日と木曜日にオフィスアワーを行います。
何か相談したい学生は事前にメールで連絡をお願いします。メールアドレスは nakanishi@ashiya-u.ac.jp です。場所は3階の研究室６です。

日本語漢字・語彙Ⅱ

4424
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
島津　浩美

〔到達目標〕
中上級レベルの漢字300字とそれに関連する語彙を習得する。中上級レベルの漢字300字の読み書きができるようになる。また、合計950字程度の漢字と語彙を適切に使うことができるようになる。

〔授業の概要〕
テーマに沿って、日本語能力試験N2レベルに必要な漢字を毎回24字ずつ提示をし、その漢字を含んだ文を読んだり、書いたりして、定着を図る。
各課終了後に漢字の小テストを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で習った漢字について練習し、正しく覚えておく。(40分)
次回に習う漢字の語彙を調べておく。(20分)

〔授業計画〕
第 1 回　日記で使う漢字
第 2 回　手紙・はがきで使う漢字
第 3 回　買い物で使われることば
第 4 回　空港の表示
第 5 回　テレビの番組表や映画の広告の表示
第 6 回　注意書きの表示
第 7 回　ガイダンスで使われることば
第 8 回　ポスターやお知らせの表示
第 9 回　発表やレポートで使うことば
第 10 回　論文で使われることば
第 11 回　体に関することば
第 12 回　日本の地理で使われることば
第 13 回　植物に関することば
第 14 回　地球に関することば
第 15 回　これまでのまとめ

〔成績評価〕
授業への参加度・態度　20%
小テスト　30%
期末試験　50%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
佐藤尚子・佐々木仁子（2019）
『留学生のための漢字の教科書　中級700』［改訂版］ 国書刊行会
徳弘康代（2019）
『日本語学習のためのよく使う順漢字2200』

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

日本語読解Ⅱ

2713
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
島津　浩美

〔到達目標〕
大学の授業で必要な、専門的な文章を読んで内容を正確に把握し、その上で自分の考えを表現するといったことができるようになることを目指す。

〔授業の概要〕
テーマに関する2種類の文章を読んで、テーマについて考えたり、クラスメートとディスカッションをしたりして、テーマについて主体的に考える力を養う。具体的には「文章を読む」「自分の考えをまとめ、話す」「他者の考えを聞く」ということを行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次の課の単語リストが配布されたら、意味を調べておく(30分)
授業で読んだテーマに関して、話し合ったり書いたりする

ため、授業中に考えがまとめられなかった場合は、まとめておく。(60分)

〔授業計画〕

第 1 回　テーマ１ 働かない働きアリ？①アリとキリギリス
第 2 回　テーマ１　働かない働きアリ？②働かないアリにも働き
第 3 回　テーマ2　血液型①　血液型占いは当たる？
第 4 回　テーマ2　血液型②　血液型で判断してもよいのか
第 5 回　テーマ3　ＩＴ社会①　両親との約束
第 6 回　テーマ3　ＩＴ社会②　ＩＴ断食
第 7 回　テーマ4　喫煙①　祖父とキセルの記憶
第 8 回　テーマ4　喫煙②　喫煙 VS 禁煙　解決は？
第 9 回　テーマ5　Kawaii①　世界共通語となった「カワイイ」
第 10 回　テーマ5　Kawaii②　ミッキーマウス VS キティ
第 11 回　テーマ6　子どもの名前①　個性はルールを守ってこそ
第 12 回　テーマ6　子どもの名前②　名前に込められた親の願い
第 13 回　テーマ7　高齢化の中で①　80歳で3度目のエベレストへ
第 14 回　テーマ7　高齢化の中で②　老人力
第 15 回　これまでのまとめ

〔成績評価〕

授業への参加度・態度　30%
課題・提出物　30%
定期試験　40%

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

清水正幸　奥山貴之　(2018)
『日本語学習者のための読解厳選テーマ10　中上級』 凡人社

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①前期・後期
②月曜日：　13:00～13:40、17:00～17:30
③場所：　授業前か4限終了後、講義の教室で対応します。
④連絡先：h-shimazu@ashiya-u.ac.jp にメールで連絡するか、Phollyのメッセージで質問・相談してください。
⑤その他：質問や相談がある場合は、事前にメールでアポイントを取ること。
基本的にはLMS科目になるので、質問等はメールで受け付け、次回の授業までに回答します。

英語Ⅱ⑥

1506
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
山片　崇嗣

〔到達目標〕

・英語文献等を読むための基本的な英語力を養う。
・基本的な文法や語法を再確認し、英文構造の理解を定着する。
・様々な場面に応じたコミュニケーション力を高める。

〔授業の概要〕

・各章ごとに文法・語法事項の解説と問題を通じて、理解、定着、発展を深める。

※感染症対策等の理由からLMS授業になる場合もあります。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

到達目標に達するために、各章の文法事項を事前に予習し、効果的な授業の理解を目指す。また、授業後の復習を通じて、定着、発展を深める。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
　　授業の目的・方針、評価方法などの紹介。

第 2 回　第６章　不定詞①
　　to不定詞の基本３用法

第 3 回　第６章　不定詞②
　　・不定詞の否定
　　・不定詞のさまざまな形

第 4 回　第７章　動名詞①
　　動名詞の働き

第 5 回　第７章　動名詞②
　　・動名詞のさまざまな形
　　・動名詞の意味上の主語

第 6 回　第８章　分詞①
　　・分詞の意味
　　・分詞の形容詞的用法

第 7 回　第８章　分詞②
　　・分詞形容詞
　　・分詞構文

第 8 回　第11章　形容詞
　　・限定用法
　　・叙述用法

第 9 回　第12章　副詞

・副詞の用法
・副詞があらわす意味と文中での位置

第 10 回　第13章　比較
・比較級と最上級の強調
・さまざまな比較表現

第 11 回　第14章　疑問詞・疑問文
・間接疑問
・付加疑問

第 12 回　第15章　前置詞①
時間と空間を表す前置詞

第 13 回　第15章　前置詞②
前置詞と接続詞の区別

第 14 回　前期授業のまとめ
第 15 回　定期考査

〔成績評価〕
１．授業参加度・課題
２．定期試験

〔教科書〕
「入門　英文法　問題精講　４訂版」(旺文社)
その他、必要に応じてプリント等を配布します。

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領（最新版）
中学校　英語テキスト

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
時間：授業開始前の20分間
場所：教室または講師控室

ジャズⅡ（beg.）

1936
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
中村　友理

〔到達目標〕
ジャズダンスのテクニック、表現力の向上

〔授業の概要〕
ジャズダンスのテクニックを基礎トレーニング、クロスフロアーから習得し、振付の中で、振り覚えや表現力を養う

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回進んだところまでの復習、練習（90分）

〔授業計画〕
第 1 回　基礎の強化（１）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、パッセルルベアップキープ、クロスフロアー、振り
第 2 回　基礎の強化（２）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、パッセルルベアップキープ、クロスフロアー、振り
第 3 回　基礎の強化（３）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、アチチュード、
アラベスク、クロスフロアー、振り
第 4 回　基礎の強化（４）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、ウォーキング × クロスフロアー、振り
第 5 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする（１）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、ウォーキング × クロスフロアー、グランジュッテ、振り
第 6 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする（２）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、 クロスフロアーの難易度を上げる、グランジュッテ、振り
第 7 回　複合的なテクニックの習得を目指す（１）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセルルベアップキープ、 クロスフロアーの難易度を上げる、グランジュッテ、振り
第 8 回　複合的なテクニックの習得を目指す（２）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、 ウォーキング × クロスフロアー、ターンジャンプ（右)、振り
第 9 回　複合的なテクニックの習得を目指す（３）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、 ウォーキング × クロスフロアー、ターンジャンプ（右)、振り
第 10 回　複合的なテクニックの習得を目指す（４）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、 ウォーキング × クロスフロアー、ターンジャンプ（左)、振り
第 11 回　コンビネーションの難易度を上げる（１）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、クロスフロアーの難易度を上げる、振り
第 12 回　コンビネーションの難易度を上げる（２）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、軸の強化トレーニング、クロスフロアーの難易度を上げる、振り
第 13 回　テクニック、表現力の強化
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、軸の強化トレーニング、クロスフロアーの難易度を上げる、振り、表現力のアドバイス
第 14 回　試験の振りわたし
ストレッチ、プリエ、試験の振りわたし
第 15 回　試験
ストレッチ、試験

〔成績評価〕
テクニックの習得度（50%）、表現力（50%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
／

ジャズⅡ-2（beg.）

1938
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
中村　友理

〔到達目標〕
ジャズダンスのテクニック、表現力の向上
〔授業の概要〕
ジャズダンスのテクニックを基礎トレーニング、クロスフロアーから習得し、振付の中で、振り覚えや表現力を養う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回進んだところまでの復習、練習（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　基礎の強化（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、パッセルルベアップキープ、
クロスフロアー、振り
第 2 回　基礎の強化（2）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、パッセルルベアップキープ、クロスフロアー、振り
第 3 回　基礎の強化（3）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、アチチュード、
アラベスク、クロスフロアー、振り
第 4 回　基礎の強化（4）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、ウォーキング × クロスフロアー、振り
第 5 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、
ウォーキング × クロスフロアー、グランジュッテ、振り
第 6 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする（2））
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、クロスフロアーの難易度
を上げる、グランジュッテ、振り
第 7 回　複合的なテクニックの習得を目指す（1）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセルルベアップキープ、クロスフロアーの難易度を上げる、グランジュッテ、振り
第 8 回　複合的なテクニックの習得を目指す（2）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング × ク
ロスフロアー、ターンジャンプ（右）、振り
第 9 回　複合的なテクニックの習得を目指す（3）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング × ク
ロスフロアー、ターンジャンプ（右）、振り
第 10 回　複合的なテクニックの習得を目指す（4）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング × ク
ロスフロアー、ターンジャンプ（左）、振り
第 11 回　コンビネーションの難易度を上げる（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、クロスフロアーの難易度を上げる、振り
第 12 回　コンビネーションの難易度を上げる（2）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、軸の強化トレーニング、クロスフロアーの難易度を上げる、振り
第 13 回　テクニック、表現力の強化
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、軸の強化トレーニング、クロスフロアーの難易度を上げる、振り、表現力のアドバイス
第 14 回　試験の振りわたし
ストレッチ、プリエ、試験の振りわたし
第 15 回　試験
ストレッチ、試験
〔成績評価〕
テクニックの習得度（50%）、表現力（50%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
／

ジャズⅣ-2（beg.）

1940
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
中村　友理

〔到達目標〕
ジャズダンスのテクニック、表現力の向上

〔授業の概要〕
ジャズダンスのテクニックを基礎トレーニング、クロスフロアーから習得し、振付の中で、振り覚えや表現力を養う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回進んだところまでの復習、練習（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　基礎の強化（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、パッセルルベアップキープ、クロスフロアー、振り
第 2 回　基礎の強化（2）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、パッセルルベアップキープ、クロスフロアー、振り
第 3 回　基礎の強化（3）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、アチチュード、
アラベスク、クロスフロアー、振り
第 4 回　基礎の強化（4）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、ウォーキング×
クロスフロアー、振り
第 5 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、ウォーキング×クロスフロアー、グランジュッテ、振り
第 6 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする（2）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、クロスフロアーの難易度
を上げる、グランジュッテ、振り
第 7 回　複合的なテクニックの習得を目指す（1）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセルルベアップキープ、クロスフロアーの難易度を上げる、グランジュッテ、振り
第 8 回　複合的なテクニックの習得を目指す（2）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング×ク
ロスフロアー、ターンジャンプ（右）、振り
第 9 回　複合的なテクニックの習得を目指す（3）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング×ク
ロスフロアー、ターンジャンプ（右）、振り
第 10 回　複合的なテクニックの習得を目指す（4）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング×ク
ロスフロアー、ターンジャンプ（左）、振り
第 11 回　コンビネーションの難易度を上げる（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、クロスフロアーの難易度を上げる、振り
第 12 回　コンビネーションの難易度を上げる（2）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、軸の強化トレーニング、クロスフロアーの難易度を上げる、振り
第 13 回　テクニック、表現力の強化
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、軸の強化トレーニング、クロスフロアーの難易度を上げる、振り、表現力のアドバイス
第 14 回　試験の振りわたし
ストレッチ、プリエ、試験の振りわたし
第 15 回　試験
ストレッチ、試験
〔成績評価〕
テクニックの習得度（50%）、表現力（50%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
／

デザイン論

5105
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
実務経験有
井上　徹

〔到達目標〕
1.デザインの意味や役割を理解し自らの言葉で説明できる。
2.日常生活の中のデザインを発見し役割を知る。
〔授業の概要〕
・私たちの生活を豊かにしてくれるデザインは社会のあらゆる分野に存在しています。
講義では、デザインのジャンルや歴史、最新動向（IT,IoT社会のデザイン）を学び、
デザインの広がりをビジュアル資料を用い講義を行います。
日常にあるデザインを発見し、あたらな可能性や広がりを考えます。
その上で、具体的に、自らの生活でどの様なデザインがあれば、より良い生活が築けるかを議論します。

・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：まわりにあるデザインに目を向ける。（120分程度）
復習：講義内容の整理/講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。（120分程度）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・授業内容、授業の進め方について説明
・デザインとは何か？を学ぶ
第 2 回　デザイン体系
・デザインのジャンルについて学ぶ
・デザインジャンルのアンケート実施
第 3 回　2Dデザイン
・ビジュアルデザイン（ポスター・広告・雑誌）について学ぶ
第 4 回　3Dデザイン
・プロダクトデザイン（家電・自動車・車両）について学ぶ
第 5 回　建築・インテリアデザイン
・3次元空間（インテリア・建築・都市）について学ぶ
第 6 回　情報デザイン
・コミュニケーション・インターフェイスデザイン等について学ぶ
第 7 回　中間テスト
7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート
第 8 回　デザイン史1
・欧米デザイン史（アーツアンドクラフツ～デ・スティル）について学ぶ
第 9 回　デザイン史2
・欧米デザイン史（モダニズム）について学ぶ
第 10 回　デザイン教育（バウハウスデザイン）
・バウハウスデザインとデザイン教育について学ぶ
第 11 回　日本デザイン史
日本のデザイン（江戸・明治・大正・昭和・平成）の変化と背景ついて学ぶ
第 12 回　近代デザイン
・モダニズム以降のデザインについて学ぶ
第 13 回　色彩総論
・色彩基礎理論について学ぶ
第 14 回　色彩心理学
・色彩心理学
第 15 回　デザインの未来
・デザインは今後どのような変化・進展するか

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
授業内レポート・アンケート回答・発表：30%

〔教科書〕
特になし。

〔参考文献〕
阿部公正監修「世界デザイン史」美術出版社
トーマス・ハウフェ／藪亨「デザイン史入門」晃洋書房
D.A.ノーマン 「誰のためのデザイン」新曜社
その他、参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
デザイン現場の経験より、デザインの役割を初学者にも分かりやすく講義する。

〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後又は水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

国際政治学Ⅱ

4344
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
1. 国際問題について自らの意見に基づいて議論できる。
2. 現代の国際政治体制の下で展開された戦争や国際協調に関する具体的な事例を取り上げ、単なる「出来事」としてではなく深く理解し、解決案を提示できる。

〔授業の概要〕
安全保障と武力紛争、世界平和のための国際協調などについて問題を考察し、国際政治に対する理解を深めると共に、国際政治体制の下で起こった象徴的な出来事について具体的に学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアで取り上げられる国際問題や時事問題に関心を持ち、新聞などの活字情報を取得して読むこと。

〔授業計画〕
1. オリエンテーション・アイスブレイク・評価方法・国際政治とは何か
2. Unit 1. 主権国家の誕生
3. Unit 2. ナショナリズムと帝国主義の時代

4. Unit 3. 第一次世界大戦
5. Unit 4. 第二次世界大戦
6. Unit 5. 冷戦
7. Unit 7. 対立と協調
8. Unit 9. 規範と制度
9. Unit 10. 安全保障
10. Unit 15. 外交交渉
11. Unit 16. 国連の役割
12. Unit 21. 国連PKO, 人道的介入, 平和構築
13. Unit 22. 人権と民主主義
14. Unit 23. グローバリゼーション
15. テスト
定期試験

〔成績評価〕

1. テスト 50%
2. 毎回、新聞記事を持参し、討議に積極的に参加する。30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する
20%

〔教科書〕

村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣(2015)

〔参考文献〕

適宜指定する。

〔履修条件〕

〔備考〕

教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕

授業の前後

発達心理学 I

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
岡野　太郎

〔到達目標〕

1. 胎生期から児童期までの人間の発達過程における心理・行動的特徴を理解し，他者へ適切に説明することができる。
2. 人間の発達過程において生じる様々な問題に対して，得た知識をどのように活かすのか, 自ら探求することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に自己・他者を観察することを通じて，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。

〔授業の概要〕

本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び3，経営教育学部のディプロマ・ポリシーにおける2及び4の獲得を目指すものである。
「少子高齢化」が進行している現代において，乳児期・児童期に限らず，高齢期までの発達に着目した「生涯発達」という視点の重要性が高まっている。本講義では，主に胎生期から児童期までの各時期において，人間の心身，認知機能，社会性，感情，対人関係における発達についての基礎的な知識や捉え方について，発達心理学の観点から理解を深めることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用し調査し，ノートに整理する。

〔授業計画〕

第 1 回　**オリエンテーション**
- 授業の進め方や成績評価について
- 発達の定義，発達段階と発達課題
- 発達をもたらす要因；遺伝と環境
- 発達の研究方法

第 2 回　**受胎から誕生まで①**
- 胎生期での感覚・運動の発達
- 胎内における脳の発達

第 3 回　**受胎から誕生まで②**
- 胎内環境による胎児への影響
- 胎児期の子育て

第 4 回　**乳児期の発達①**
- 乳児期における感覚・知覚・脳の発達
- 認知機能の発達

第 5 回　**乳児期の発達②**
- 乳児期における身体・運動・言語の発達

第 6 回　**乳児期の発達③**
- 乳児期における子育て

第 7 回　**幼児期の発達①**
- 幼児期における身体・運動の発達
- 認知機能の発達

第 8 回　**幼児期の発達②**
- 幼児期における言語の発達
- 対人関係の発達

第 9 回　**幼児期の発達③**
- 幼児期における子育て

第 10 回　**児童期の発達①**
- 児童期における身体・運動の発達
- 認知機能の発達

第 11 回　**児童期の発達②**
- 児童期における対人関係の発達
- 動機・意欲の発達

第 12 回　**児童期の発達③**
- 児童期における子育て

第 13 回　**発達障害と臨床①**
- 発達障害について；定型発達と非定型発達
- 発達障害の分類

第 14 回　**発達障害と臨床②**
・発達障害の支援・治療
・発達障害の子育て
第 15 回　**統括**
・「発達心理学Ⅰ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕
授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%

〔教科書〕
松田 信樹 (2018). 育ちと学びの心理学――こどもの成長に寄り添うために――　あいり出版
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領解説 公民編
その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕
三浦 正樹 (編) (2016). 発達と教育の心理学　八千代出版
林 創 (編) 下山 晴彦・佐藤 隆夫・本郷 一夫 (監修) (2019). 公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑫ 発達心理学　ミネルヴァ書房
その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、必修

〔オフィスアワー〕
各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

教育心理学Ⅱ

3215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
三浦　　正樹

〔到達目標〕
授業テーマとして、従来の教育心理学の主要４領域の内、後期は主に人格、評価領域を中心に述べる。また、前期の内容を補足し、発展的に述べる。
到達目標としては、教職をめざす学生にとって必要な教育心理学の基本的知識の習得をめざす。また、教育心理学的思考力、教育現場での心理学的判断力の習得を目指す

〔授業の概要〕
現代の教育心理学は幅も広く奥も深い学問であって、教職をめざす学生にとっては是非身につけておかなければならない学問である。
ここでは、人格や適応全般について述べる。
授業理解のため、下記にある予習・復習を行い、主体的に学ぶこと。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予め授業計画にある項目について調べておくこと。(90分)
復習として、授業で示された重要キィワードをまとめておくこと。(45分)
発展学習として、まとめた重要キィワードについて図書館やネットで調べてみること。(45分)
授業で配布されたプリントを整理して保存しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
授業の目的・予定、評価方法、参考文献と資料の紹介

第 2 回　教育心理学とは
教育心理学の領域、教育心理学の新しい動向、学校心理学などについて
第 3 回　学習指導①
授業の設計、有意味受容学習、プログラム学習、発見学習について

第 4 回　学習指導②
適性処遇交互作用、協同学習による指導、自己学習能力について
第 5 回　個性を伸ばす①
個人差、パーソナリティ、知能の個人差、適性、個性について

第 6 回　個性を伸ばす②
自己意識、気質、親の養育態度、養育者との相互作用について
第 7 回　こころの悩み①
欲求不満と不適応、問題行動、性格的弱点を補うための工夫について

第 8 回　こころの悩み②
カウンセリングの種類と機能、学校におけるカウンセリングについて
第 9 回　学級集団①
学級集団とは何か、リーダーシップPM理論、教師とは何かについて

第 10 回　学級集団②
チームワーク、開発型学級、日本の学級集団の特徴について
第 11 回　教育評価①
測定とは、評価とは、教育評価とは、教育評価の目的・方法について

第 12 回　教育評価②
教育評価に生かせる検査、教育評価と数量的なデータについて
第 13 回　感情と教育
感情の理論、感情と教育、心理教育プログラムについて

第 14 回　脳と教育
　　脳科学の基礎知識、脳のシステム、神経系の発達、脳科学と教育について
第 15 回　まとめ

〔成績評価〕
定期試験(100%)

〔教科書〕
テキストは用いない。

〔参考文献〕
授業中に随時指示する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②木曜日　12：30～13：30
③教員個人研究室
④miura@ashiya-u.ac.jp
⑤授業終了後、講義室でも対応します。

発達心理学Ⅱ

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
岡野　太郎

〔到達目標〕
1. 思春期・青年期から老年期までの人間の発達過程における心理・行動的特徴を理解し，他者へ適切に説明することができる。
2. 人間の発達過程において生じる様々な問題に対して，得た知識をどのように活かすのか，自ら探求することができる。
3. 人間の心身の働きやその変化に関心を持ち，得た知識を基に自己・他者を観察することを通じて，現代社会における諸問題を総合的に理解することができる。

〔授業の概要〕
本講義は，2年次生以上を対象に開講される専門教養科目であり，臨床教育学部のディプロマ・ポリシーにおける1及び3，経営教育学部のディプロマ・ポリシーにおける2及び4の獲得を目指すものである。
「少子高齢化」が進行している現代において，乳児期・児童期に限らず，高齢期までの発達に着目した「生涯発達」という視点の重要性が高まっている。本講義では，発達心理学における歴史や様々な理論に触れながら，思春期・青年期から老年期までの各時期において，人間の心身，認知機能，社会性，感情，対人関係における発達についての基礎的な知識や捉え方について，発達心理学の観点から理解を深めることを目的とする。
なお，本講義は教員の講義を中心として進行するが，内容に応じて視覚教材を使用する他，質問や意見等に対するフィードバックを適宜実施する等，可能な限り双方向・多方向性を持った講義となるよう努める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習（授業前までに1時間以上費やして実施すること）：各回の授業計画に記載のテーマについて，教科書の該当章を読む。その上で，必要に応じて文献やインターネットを利用し，疑問点などをノートに整理する。
復習（授業後に1時間以上費やして実施すること）：配布資料及び講義中に記したノートを読み返し，内容理解に努める。その上で，講義内容に関連したテーマについて，文献やインターネットを利用して調査し，ノートに整理する。

〔授業計画〕
第 1 回　**発達心理学とその関連領域**
・授業の進め方や成績評価について
・発達心理学とその関連領域
第 2 回　**発達心理学の歴史**
・発達心理学の歴史
第 3 回　**発達心理学の理論**
・発達心理学における諸理論
第 4 回　**思春期・青年期の発達①**
・思春期・青年期における身体，認知機能，対人関係の発達
第 5 回　**思春期・青年期の発達②**
・性的成熟について
・アイデンティティの確立とそれにまつわる諸問題
・学びへの動機づけ
第 6 回　**思春期・青年期の発達③**
・思春期・青年期特有のライフイベント；仕事，就職活動
・思春期・青年期における不適応の問題について
第 7 回　**成人期の発達①**
・青年期からの自立
・知能・パーソナリティの発達
第 8 回　**成人期の発達②**
・成人期特有のライフイベント；仕事，結婚
第 9 回　**中年期の発達①**
・中年期特有のライフイベント；子育て
・身体・パーソナリティの変化
・家族関係の変化
第 10 回　**中年期の発達②**
・中年期に生じる諸問題について
・中年期から老年期への移行
第 11 回　**老年期の発達①**
・身体・パーソナリティの変化
・認知症とそれにまつわる諸問題について
第 12 回　**老年期の発達②**
・老年期の介護とそれにまつわる諸問題について
・死の受容
第 13 回　**発達障害と臨床①**
・自閉スペクトラム症（ASD：Autism Spectrum Disorder）
・ASDに対する支援
第 14 回　**発達障害と臨床②**

・注意欠如多動症（ADHD：Attention Deficit Hyperactivity Disorder）
・限局性学習症（SLD : Specific Learning Disorder）
・ADHD，SLDに対する支援
第 15 回　**統括**
・「発達心理学Ⅱ」のまとめ，振り返り

〔成績評価〕
授業への積極的参加度（課題の提出状況，授業への取組態度に基づく）：30%
期末試験：70%

〔教科書〕
松田信樹 (2018). 育ちと学びの心理学――こどもの成長に寄り添うために―― あいり出版
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領
文部科学省 (2018). 高等学校学習指導要領解説 公民編
その他，適宜授業内において資料を配布する。

〔参考文献〕
三浦正樹 (編) (2016). 発達と教育の心理学 八千代出版
林創 (編) 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 (監修) (2019). 公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑫ 発達心理学 ミネルヴァ書房
その他，授業内においても適宜紹介する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」、高一種（公民）、選択

〔オフィスアワー〕
各授業日の昼休み，または授業後に設定する。なお，場所は講義室とする。
連絡先：t-okano@ashiya-u.ac.jp

経営学入門

1105
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
井上　徹

〔到達目標〕
「なぜ人は働くのか？」「企業は何の為に存在するのか？」などを解き明かす為に経営学を様々な視点より学び、疑問に思う事や考える力を身につける事を目標とする。

1.社会と企業活動を経営学を通して関係づける。
2.なぜ経営学を学ぶのかを知る。
3.学習・勤労の意義を知る。

〔授業の概要〕
経営学を経営・会計・商学の3つのフィールドにわけて経営学の基本原理をわかりやすく講義します。
その上で、社会の中で、経営学はどのような役割を持ち役に立つかを考えます。
・授業内レポートの発表・ディスカッションを行い、全受講者と共に検討。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業の予習・復習。
予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある企業･ビジネスに関連する情報に注目する。（120分程度）
復習：講義内容の整理/講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。（120分程度）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・授業内容と授業の進め方。
第 2 回　経営学の領域
・「経営学とは何か？」について学ぶ
第 3 回　経営学のはじまり
・「会社とは何か？」について学ぶ
第 4 回　企業・組織の登場
・「企業・組織とは何か？」について学ぶ
第 5 回　経営管理の発展
・「経営管理とは何か？」について学ぶ
第 6 回　会計学の領域
・「会計学とは何か？」について学ぶ
第 7 回　財務諸表・監査
・「財務諸表とは何か？」について学ぶ
第 8 回　中間試験
・「7回までの授業内容をまとめた小テストorレポート」
第 9 回　商学の領域
・「商学とは何か？」について学ぶ
第 10 回　マーケティング
・「マーケティングとは何か」について学ぶ
第 11 回　生産・流通管理
・「生産・流通とは何か？」について学ぶ
第 12 回　モチベーション
・「なぜ人は働くのか？・モチベーションとは何か？」について学ぶ
第 13 回　リーダーシップ
・「リーダーの資質とは何か？」について学ぶ
第 14 回　コア・コンピタン
・「コア・コンピタンスとは何か？」を学ぶ
第 15 回　定期試験
・定期試験

〔成績評価〕
定期試験：40%
中間試験：30%
授業内レポート・発表：30%
※中間試験も評価に含みます。

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
「1からの経営学」「経営学入門」「やさしい経営学」「会計学入門」など

その他、参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
1.学　期：前期・後期
2.日　時：授業終了後／水曜日14：00～15：00
3.場　所：教室／研究室研究棟2Fデザイン研究室
4.連絡先：t-inoue@ashiya-u.ac.jp／LMSメッセージ機能

5.その他（相談をする際の留意事項）
①メールの場合
・急ぎの場合はメールにて相談してください。
・メールの場合は必ず以下を記入して連絡してください。
1.学年　2.学科　3.氏名　4.連絡先（連絡のつくメール又は携帯番号等）5.相談内容

②LMSメッセージの場合
・授業のレポートでの質問・相談は返信しませんので、必ず「メッセージ機能」
より連絡する様にしてください。
・急ぎの場合は上記のメールアドレスまで連絡してください。

③研究室に相談・質問に来る場合
・事前に連絡をしてアポイントを取ってください。
※突然の来室は対応できない場合があります。

教育の方法と技術【中等】

2402
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
藤本　　光司

〔到達目標〕
・授業づくりに関する教育方法および指導技術の知識を知る。（知識・理解）
・教育工学の視点からICTの活用方法や指導方法を身につける。（技能）
・教育目的に即した学習活動のあり方を探究し、教員としての資質を高める。（意欲・態度）
・よくわかる／楽しい授業を構築し、生徒の「生きる力」を育むための教材作成に取り組む。（創意工夫）
・昨今の教育事情を把握し、グループ討論を通じて問題解決に対する姿勢を育む。（課題解決）
〔授業の概要〕
この科目は、教育職員免許法施行規則の改訂により「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」に関する科目として習得しなければならなくなった。したがって、中・高の教職免許を取得しようとする学生に対する必修科目である。例年、100名を越える受講生の授業であるが、講義だけでなく学生が主体的に学ぶためにグループ演習やe-learningを随時取り入れながら、教育方法の歴史や教授学習理論を概観していく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・毎時の授業で記載したレポートを振り返り、関連する書籍や論文を読む。（120分）
・グループで討議した内容を授業中にプレゼンテーションすることもある。よって、パソコンなどの情報機器の基礎スキル（WordやPPTなど）は、各自で身につけておくこと。
・ノートPCなどを授業に持ち込んでもよい。
・次週までの課題を提示するので、各自、テキストを熟読してくこと。（120分）
〔授業計画〕
第 1 回　イントロデュース
・授業の概要（教員紹介、授業内容、課題レポート、成績評価など）
・キーコンピテンシー、p164
・教えること学ぶことの意義、
演習：学習者の「聴く」姿勢に関するグループワーク。
第 2 回　情報社会における教え方と学び方
教学とは、教学とコミュニケーション、ＫＲ情報、ICTの活用と学習効果、ムーアの法則、p1-11
演習：ICTを活用したe-learning、スマホの活用のリアルタイム授業分析（REAS）
第 3 回　生徒の自主性と学校の諸問題
自主性と主体性：自主性尺度分析、アンケートによる統計分析の手法、p186
演習：自分の自主性調査による５因子分析と自己評価
第 4 回　主体性で対話的な深い学び（伝える力）
メディアの活用、ＰＤＣＡ、視聴覚教材，ピグマリオン効果、p12-21
演習：シャノンとシュラムのコミュニケーションモデル、ビジュアルで伝える
第 5 回　自己肯定感・自尊感情
結果予期・効力予期、自尊感情、自己効力感、p21-27
演習：ほめ言葉
第 6 回　学び続ける大切さ・キャリア教育
AI時代、消える仕事・無くなる職業、キャリア教育、p27-29
演習：適職診断
第 7 回　教授・学習理論
行動主義と構成主義，これからの教え方と学び方、p39-45
演習：教師の教授法分析
第 8 回　教育評価の基本的な考え方
ブルームの評価段階、形成的評価と総括的評価、p45-47
演習：通知表に基づいた相対的評価と絶対評価
第 9 回　教育評価の方法と理論
ポートフォリオ評価、オーセンティック評価、パフォーマンス評価、p48-49
演習：中間レポート成績を振り返って，教育への質問
第 10 回　学外招聘講師による教育現場の諸事情

招聘講師（現職教員）による講話。テーマは「教育に対する夢と希望」
演習①：演習：ゲストティチャーへの質問
第 11 回　授業設計と教育効果
ピグマリオン効果、ゴーレム効果、ホーソン効果、p10
演習：教育効果の自己測定
第 12 回　教育におけるICT活用
GIGAスクール、ネット依存、p148-162
演習：ネット依存診断
第 13 回　学習者のレディネス分析
既有知識の視覚化、イメージマッピング、学習者のスキーマー、p91-95
演習：強制連結法による既有知識の可視化
第 14 回　チーム学校
リーダーシップ論とFFS理論の活用、p105-117
演習：FFS理論を活用したリーダーシップの特性分析
第 15 回　本授業のまとめ
前期授業内容をふり返り、よりよい授業を提供できるために、教育方法論の視点で認識を高め教育力を熟成する。

〔成績評価〕
15回中10回は小レポート(A4版1枚)を授業中に記述・回収し、添削後、評価して次時で返却する。ポートフォリオ化された小レポートやノートテイク、マイクロ・プレゼンテーションを形成的に評価する。試験は、最終レポートとマークシート試験(50問)、さらに授業の取り組み等総括的に評価する。

〔教科書〕
林徳治、藤本光司　編著、『アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ』、ぎょうせい（2020）　※本テキストのみ期末試験への持ち込みを可とする。

〔参考文献〕
・授業中に適宜資料を配布する
・沖裕貴、藤本光司ほか、『相互理解を深める コミュニケーション実践学』、ぎょうせい（2010改訂版）
・田中耕治ほか、『新しい時代の教育方法』、有斐閣アルマ(2012)

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）、中一種、高一種、必修

【実務経験の活用】
学校教育、国際理解教育等の現職経験（25年）を活かして教職の指導する

〔オフィスアワー〕
水曜日１，２限
金曜日４限

企業内教育論Ⅰ

2403
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
西光　晴彦

〔到達目標〕
・企業が、どのような経緯を経て歴史的に発展したのか知る。
・企業を発展させてきた人間はどのように進歩し調和し、教育されてきたのか知る。
・社会・国家に果たしてきた役割と意義を知る。
・企業が発展存続してゆくための企業内教育を考える。
・人間が人間として、人間らしく生活してゆくための労働のあり方と企業内教育について考察する。

〔授業の概要〕
企業の誕生から、その企業が発展成長してゆくための最重要課題である人材育成と企業内教育について考察してゆく。また現在、実際企業で行われている企業内教育や研修を紹介し受講学生と討論する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　企業内教育とは
企業内教育の位置付けと原則
第 2 回　我が国の企業内教育の歴史1
年功序列制度と企業内教育
第 3 回　我が国の企業内教育の歴史2
人事管理と企業内訓練の相関関係の歴史
第 4 回　我が国の企業内教育の歴史3
敗戦後の企業内教育
第 5 回　定型訓練のあり方1
TWI(Training Within In dustry)
第 6 回　定型訓練のあり方2
MTP(Management Training Program)
第 7 回　人事管理の構造1
人事管理フローと展開の契機
第 8 回　人事管理の構造2
訓練担当者と環境の変化
第 9 回　人事管理の構造3
組織と管理用具の変遷
第 10 回　企業内教育の実際1
経営方針と企業内教育
第 11 回　企業内教育の実際2
人事管理と企業内教育
第 12 回　企業内教育の実際3
企業特性を生かした企業内教育
第 13 回　企業内教育のシステム化
システム化に応じる企業内教育の変化
第 14 回　企業内教育と生涯教育
企業内教育に求められるもの
第 15 回　試験範囲の確認
重要ポイントの復習・告知

〔成績評価〕
その他に講義平常点10%
小テスト20%
定期試験70%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日11：30～12：00

企業内教育論Ⅱ

2403
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西光　晴彦

〔到達目標〕
・企業における構造改革を遂行するために、企業に携わる全ての『人』が改革の意義について認識・理解し実行する方法を考察する。
・自己の構造改革のための教育が、これからの企業内教育の研究課題の中核となってくることを考察する。
〔授業の概要〕
企業が社会に果たすべき役割と使命。更にはその企業で働く従業員に対する企業内教育が如何に重要なものなかについて考察してゆく。
また、近年はこれらの教育を外部の教育研修機関に任せている企業も多々存在する。その教育研修機関の教材やシステムについても研究する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：指定した配布プリントなどを熟読してくること。
復習：授業で学習した内容を復習し理解しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　企業内教育訓練の進め方1
　　役に立つ企業内教育訓練の展開
第 2 回　企業内教育訓練の進め方2
　　短期・中期・長期の企業内教育訓練
第 3 回　企業内教育訓練の進め方3
　　企業内教育訓練の機能
第 4 回　OJTの進め方・取り組み1
　　OJTの意義と必要性
第 5 回　OJTの進め方・取り組み2
　　OJTの方法と取り組み方
第 6 回　OJTの進め方・取り組み3
　　OJTの制度化と技法
第 7 回　問題解決訓練1
　　問題解説プロセスの確立
第 8 回　問題解決訓練2
　　問題解説プロセスの説明
第 9 回　問題解決訓練3
　　問題解説プロセスの教育訓練と技法
第 10 回　各種教育訓練の重要性と解説1
　　階層別教育訓練の必要性
第 11 回　各種教育訓練の重要性と解説2
　　青少年訓練の意義とポイント
第 12 回　企業内教育訓練の評価1
　　企業内教育訓練評価の意義と考え方
第 13 回　企業内教育訓練の評価2
　　企業内教育訓練評価方法と結果分析
第 14 回　総合的企業内教育訓練計画
　　目標管理と継続性
第 15 回　試験範囲の確認
　　重要ポイントの復習・告知
〔成績評価〕
その他平常点10%
小テスト20%
定期試験70%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
資料やプリントは講義中に随時配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日11：30～12：00

経営学基礎論

1105
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
木元　清明

〔到達目標〕
経営学は「組織（特に企業や団体）」を対象とする学問です。多くの社会人が関わるビジネスの世界において、「企業と社会の関り」「企業の形態」「働く人のモチベーション」「経営者の役割」「競争に打ち勝つための戦略」などについて、実際の企業活動の実例を通して学びを深め、その事業活動の「基本的な仕組み」を理解できるようにしましょう。
〔授業の概要〕
ただ単に「経営学の知識」を得るのではなく、なぜ社会の中で「企業」が生まれ、その「企業」がどのような歴史的過程を経ながら現在に至るのかについて、数々の企業現場における実例を紹介しながら系統的に学びます。企業とは「人の集団」であり、経営とは「人が実践する」ものです。企業を通した経営活動を「人という視座」を通して考えてみましょう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：テレビ・新聞・WEBなどを通して興味のある企業･ビジネスに関連する情報に注目する。
特に自分の身の回りで起きている企業活動や社会現象に興味を持ち「なぜそうなるの
か？」という思考を深めて下さい。
また、シラバスに明記した毎回の授業における教科書範囲を熟読して講義に出席するよ
うにして下さい。
復習：講義内容の整理：講義内容を理解した上で次回の講義に臨む様にしてください。（120分
程度）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
・教員の自己紹介
・授業の進め方と学び方
・教科書紹介と参考書籍の紹介
教科書20ページまでを熟読して講義に臨んで下さい。
第 2 回　経営学はなぜ必要か？
経営学は「これを学べば儲かる経営ができる」というハウツー的な学問ではありません。究極的には「経営する人」「働く人」「周囲の関わる人」などがすべてWin-Winの関係になるにはどうすればよいかを考えてみる学問です。
教科書32ページから68ページまでを熟読して講義に臨んで下さい。
第 3 回　企業とは何か？①
そもそも「なぜ企業という組織が、いつ頃、なぜ生まれたのか？」という原点を考えてみましょう。
教科書70ページから91ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 4 回　企業とは何か？②
日本における株式会社は、どのような歴史的背景でいつ頃に誕生して現在に至るのかについて考え、著名経営学者による「企業の定義」に触れてみましょう。
教科書91ページから108ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 5 回　職場にやる気を起こすモチベーション理論①
企業とは「人の集団」です。モチベーションを持たない人の集団は「烏合の衆」に過ぎず成果を上げることはできません。働く人は、どのようにすればモチベーションをアップすることができるのかを学びましょう。
教科書110ページから131ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 6 回　職場にやる気を起こすモチベーション理論②
近年の日本企業において導入が進む「成果主義」と「目標管理制度」について学ぶとともに、従業員自らがモチベーションを高める「内発的動機付け」について学びましょう。
教科書131ページから150ページを熟読して講義に臨んで下さい。
第 7 回　優れたリーダーの条件①
人が属するあらゆる集団においては、必ずリーダーが存在します。多くの人が所属する集団においては、優れたリーダーの存在の有無がその集団の運命を左右することになります。優れたリーダーとは何を指すのか考えてみましょう。
教科書152ページから168ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 8 回　優れたリーダーの条件②
あらゆる組織にリーダーは存在しますが、企業のリーダーは「競合企業との競争」の中で生き残りを図るために経営のかじ取りを行う必要があります。つまり、企業のリーダーには「失敗すれば倒産」という破局的運命が待っているのです。
教科書169ページから189ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 9 回　１＋１を２以上にする組織とは①
算数の世界では「１＋１＝２」と決まっています。しかし、経営の世界では「１＋１＝10」や「１＋１＝０」もあり得ます。逆に言えば、「１＋１＝２以上」にしないと経営は成り立たないということを考えてみましょう。
教科書192ページから214ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 10 回　１＋１を２以上にする組織とは②
何かの目的をもって集まった人の集団においては、集団のリーダーが生まれると同時に、それぞれの役割分担を明示した「組織」が生まれます。特に、企業における組織とはどのように編成されるかを考えてみましょう。
教科書215ページから237ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 11 回　良い戦略的経営を実現するには①
目的を持って集まった人の集団である組織の中でも、特に企業は競争に打ち勝ちながら永続的な事業活動を続けることを目標としています。そこで「戦略」という未来への生き残り方策が必要になることを考えてみましょう。
教科書240ページから275ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 12 回　良い戦略的経営を実現するには②
「戦略」という用語は二千年以上も前から使われており、古代中国や欧州における戦争用語として定着しています。企業の将来性を決定的に形作る「経営戦略」とは何かについて、古代国家戦略の実例を通して考えてみましょう。
教科書276ページから300ページまで熟読して講義に臨んで下さい。
第 13 回　これからの経営学①
日本企業は「IT革命などの情報化社会」などの様々なトレンドに取り囲まれています。特に、インターネットとスマホの急速な普及は、新しい巨大

ビジネスを生み出しながら急速に発展を遂げています。そのような状況下に、日本企業はどのように対応していけばよいのかを考えてみましょう。
教科書302ページから322ページまで熟読して講義に臨んで下さい。

第 14 回　これからの経営学②
日本企業の経営は、単一民族の企業という特殊性もあり、世界的に見れば「日本人という一つの民族で構成される珍しい存在」とされてきました。グローバル化の時代となり、この独特の日本企業の在り方がどのようになっていくのかを考えてみましょう。
教科書322ページから最後まで熟読して講義に臨んで下さい。

第 15 回　まとめ／総括
・期末試験についてのまとめを行います
・最後に「グローバル視点からみた日本企業の課題」と「少子高齢化社会が企業経
　営に与える影響」などに関して、皆さんで考えてみましょう。

〔成績評価〕
定期試験：70%
課題レポート：30％

〔教科書〕
「みんなの経営学」佐々木圭吾　日経ビジネス人文庫（日本経済新聞出版社）
※講義で使用する教科書なので予習・復習に必要です。

〔参考文献〕
参考文献は授業内にて適宜資料を紹介する。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
質問や相談がある場合には、毎回の講義終了直後の教室にて口頭で受け付けます。希望学生は授業終了後ただちに担当教員に申し出て下さい。

健康スポーツ科学概論（再履修対象）

2340
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
西光　哲治

〔到達目標〕
現代社会における我々の日常生活では身体活動が著しく低下する傾向にあり、様々な生活習慣病を引き起こしている。学生の青年期において身体的・精神的特性を理解し、そして健康で活力に満ちた生活を自ら実践する生涯スポーツ・体育への態度の育成が必要である。そこで本講義を通じて生涯にわたって体育やスポーツにかかわった生活が健康の保持・増進にとっていかに大切であるかを理解し、積極的な運動・スポーツ実践につながることを目標とする。

〔授業の概要〕
パワーポイントを活用
現代社会の健康に関する諸問題や健康を疎外するもの、或いは健康観について過去の健康に関する文献や運動生理学的視点からの基礎的知識を紹介する。また、スポーツが健康の保持・増進に関与していることからトレーニング科学や栄養についての基礎的知識も紹介し、健康スポーツ科学への理解を深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：授業計画に記載されているキーワードについて事前に調べておくこと。(1時間)
復習：講義内容を復習し、ノートなどにまとめておくこと。(1時間)

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
講義の進め方、受講の共通理解、評価の内容伝達
第 2 回　生体リズム
運動能力と精神機能、スキャモンの発達曲線、神経系、リンパ系
第 3 回　健康の指標
健康の三原則、睡眠のメカニズム、体内時計
第 4 回　現代の健康問題(1)
食生活(三大栄養素・五大栄養素)
第 5 回　現代の健康問題(2)
運動の起源、運動と筋肉
第 6 回　体力とトレーニング
体力つくりとトレーニングの原理・原則
第 7 回　健康の指針
WHOの健康観
第 8 回　健康を疎外するもの(1)
生活習慣病の現状と改善策
第 9 回　健康を疎外するもの(2)
食中毒の原因・分類・予防
第 10 回　健康を疎外するもの(3)
飲酒と喫煙の行動
第 11 回　健康を疎外するもの(4)
感染症(病原体・感染経路・予防)
第 12 回　健康を疎外するもの(5)のⅰ
性感染症　　性病の歴史、原因と現状
第 13 回　健康を疎外するもの(5)のⅱ
性感染症　　特徴と種類と予防
第 14 回　健康を疎外するもの(6)
摂食障害　　過食症と拒食症の危険
第 15 回　まとめ
まとめテスト

〔成績評価〕
毎回の授業への取組＋レポート提出＋定期試験
総合的に評価する。

〔教科書〕
適宜資料配布する。

〔参考文献〕
文部科学省　学習指導要領・解説(最新版)
適宜紹介する。
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①後期
②木曜日　10:00～11:30
③場所：西光研究室(福山記念館１階)
④連絡先：メール(tetsuji@ashiya-u.ac.jp)にて対応
⑤来室の際はメールにてアポイント取って下さい。

政治学概論Ⅱ

4110
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
安藤　　由香里

〔到達目標〕
現代、自由民主主義体制の下で進展してきた諸政治制度、戦後日本の政治制度や国内における様々な政治過程について楽しく学ぶ。国内政治の仕組みについて多角的な側面から学びながら、現在国内社会で起こっている様々な政治動向や時事問題について、自ら考察できるようにする。
〔授業の概要〕
人間の生活と政治は不可分の関係にあることを理解し「政治」を身近に感じる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 新聞、雑誌、テレビなどのマスメディアで取り上げられる事件や時事問題に関心を持ち、新聞などの活字情報を取得して読むこと。
〔授業計画〕
1. オリエンテーション・アイスブレイク・評価方法・政治学とは何か
2. 第1章 政治のとらえ方
3. 第2章 国家という枠組み
4. 第3章 政治体制
5. 第4章 選挙と投
6. 第5章 政党と政党システ
7. 第6章 政権とアカウンタビリティ
8. 第7章 執政・立法・司法
9. 第8章 政策過程と官僚制・利益団体
10. 第9章 連邦制と地方制度
11. 第10章 安全保障と平和
12. 第11章 国際政治経済
13. 第12章 国際社会と集団・個人（1）
14. 第12章 国際社会と集団・個人（２）
15. テスト
定期試験
〔成績評価〕
1. テスト　50%
2. 毎回、新聞記事を持参し、討議に積極的に参加する。30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する
20%
〔教科書〕
砂原庸介ほか『政治学の第一歩 新版』有斐閣ストゥディア(2020)
〔参考文献〕
適宜指定する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学、政治学」、中一種（社会）、必修
教科及び教科の指導法に関する科目、教科に関する専門的事項、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、高一種（公民）、選択
〔オフィスアワー〕
授業の前後

児童心理学Ⅰ

5215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
林　　知代

〔到達目標〕
乳幼児期から青年期に至るまでの子どもの心身の発達に関する心理学的知見を学び、発達に即した教育・指導について考える。
〔授業の概要〕
発達理論および乳幼児期の発達を概観し、児童期の身体・運動・注意・記憶の発達や指導について学習する。対象は発達に問題や障がいを持つ子どもも含まれる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業終了時に次回の資料を配付するので、熟読しておくこと（90分）。
各授業時に出される課題についてまとめておくこと（90分）。
〔授業計画〕
１．児童心理学Ⅰとは
２．発達とは
３．発達検査（１）
４．乳幼児期の意義と特質
５．児童期の意義と特質
６．性格検査（１）
７．思考の発達
８．9歳の壁とは
９．環境の変化と人との関わり
１０．適応に苦悩する子どもたち
１１．悩みの根っこ
１２．発達障害とは
１３．発達障害児への対応

１４．発達障害児を持つ親への対応
１５．要点と質疑応答

〔成績評価〕
授業への取組（20%）、レポートなどの提出物（40%）およびチェックテストの結果（40%）などの総合評価
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配付
〔参考文献〕
授業中に適宜文献を紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

児童心理学Ⅱ

5215
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
林　　知代

〔到達目標〕
乳幼児期から青年期に至るまでの子どもの心身の発達に関する心理学的知見を学び、発達に即した教育・指導について考える。
〔授業の概要〕
児童期の知覚・知能・思考・社会性・道徳性・自我・人格の発達と指導を学習し、青年期との関連を考える。発達障害として自閉症を取り上げ、その対応を事例を使って紹介する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業終了時に次回の資料を配付するので、熟読しておくこと（90分）。各授業時に出される課題についてまとめておくこと（90分）。
〔授業計画〕
１．児童心理学Ⅱとは
２．児童心理学研究法
３．発達検査（２）
４．小1プロブレム
５．小学2年生の心理
６．小学3年生の心理
７．小学4年生の心理
８．小学5年生の心理
９．小学6年生の心理
１０．性格検査（２）
１１．青年期の意義と特質
１２．保護者のタイプ
１３．保護者とかかわるソーシャルスキル
１４．自閉症児の事例研究
１５．要点と質疑応答
〔成績評価〕
授業への取組（20%）、レポートなどの提出物（40%）およびチェックテストの結果（40%）などの総合評価
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配付
〔参考文献〕
授業中に適宜文献を紹介
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
木曜日1限目

英語Ⅰ②

1502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
中田　　康行

〔到達目標〕
語を日本語に訳さないで理解できるような程度にまで英語に習熟できることを目標にする。
〔授業の概要〕
この授業では英語の文章を精読し、正確に意味解釈を行う訓練をする。イギリスに留学している学生が生活、文化、旅行、観光などを通してイギリスを紹介する内容の教科書を読む。適宜、英文の構造、慣用法などに注意し英語表現に慣れる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
日頃から英語に接する機会（テレビやインターネットなど）を見つけて、英語に慣れるようにすること。
〔授業計画〕
第 1 回　前期授業の概要・説明
授業内容、姿勢)についての説明。成績・評価の方法の説明。
第 2 回　Wedding ceremonies in the world
世界の結婚式を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 3 回　Wedding ceremonies in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題
第 4 回　Funerals in the world
世界の埋葬文化（葬式）を扱うエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 5 回　Funerals in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題
第 6 回　Coming of age(s day ceremonies in the world
成人式を祝われ方を扱うエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 7 回　Coming of age(s day ceremonies in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題
第 8 回　Toilets in the world

世界のトイレ事情を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 9 回　Toilets in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題
第 10 回　Alcohlibeverages in the world
世界の酒に費えのエッセイを読む。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 11 回　Alcohlibeverages in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題
第 12 回　Unusual foods in the world
世界の珍しい料理を扱うエッセイをよむ、を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 13 回　Unusual foods in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題
第 14 回　Women’s status in the world
女性の地位y社会進出を扱い￥宇エッセイをよむ。を扱うエッセイを読む。語彙の確認、およびテクストの聞き取り。
第 15 回　Women’s status in the world
テクストの再聞き取り、および練習問題
前期授業の要点整理・確認。

〔成績評価〕
授業時の発表(20%)
小テスト(20%)
確認テスト2回(60％)

〔教科書〕
石田隆之監修　Cross-Cultural lAwarenesss
開文社
(教科書を各自購入し、授業に臨むこと。スマホによるコピー等はみとめません。)

〔参考文献〕
授業時に適宜指示。

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
随時メールで受け付けます。
アドレス　nakata@ashiya-u.ac.jp

教職総合演習4−Ⅱ（数学）

7006
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2年
1単位　後期
笠原　　清次

〔到達目標〕
一般教養数学の知識及び理解を深め、指導力の向上に資することができる。

〔授業の概要〕
１．一般教養としての数学の内容理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
１．基礎的な問題は毎回予習する。(60分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。(30分)

〔授業計画〕
第 1 回　学習指導要領理解
数学（算数）指導の要点を調べ整理する。
第 2 回　数学演習1
数学演習問題基礎（数と式）を解く。
第 3 回　数学演習2
数学演習問題応用（数と式）を解く。
第 4 回　数学演習3
数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。
第 5 回　数学演習4
数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。
第 6 回　数学演習5
数学演習問題基礎（関数）を解く。
第 7 回　数学演習６
数学演習問題応用（関数）を解く。
第 8 回　数学演習７
数学演習問題基礎（平面図形）を解く。
第 9 回　数学演習８
数学演習問題応用（平面図形1）を解く。
第 10 回　数学演習９
数学演習問題応用（平面図形2）を解く。
第 11 回　数学演習１０
数学演習問題基礎（空間図形）を解く。
第 12 回　数学演習１１
数学演習問題応用（空間図形）を解く。
第 13 回　数学演習１２
数学演習問題基礎（確率）を解く。
第 14 回　数学演習１３
数学演習問題応用（確率）を解く。
第 15 回　学習のまとめ
自己の課題に挑戦する。

〔成績評価〕
テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）

〔教科書〕
小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）

〔参考文献〕
授業ごとに補充問題プリントを配付する。

〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
参考文献の問題集３冊は購入し，自学課題とする。

〔オフィスアワー〕
①前　期：水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対

応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

ダンス表現Ⅰ（作品）（ハウス）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
富田　麻里

〔到達目標〕
作品の振付をマスターし、自分のものにする
振付を体に入れ表現力を高め余裕感を持って踊れるようにする
作品を仲間達と踊るという協調性を学ぶ
〔授業の概要〕
15回で1つの作品を完成させる
本人達で話し合い案を出し合い振付を作るパートを設ける
パート練習を入念に行い、通して流れが途切れない練習も入念に行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で学んだ振付を次回までに必ず復習、練習する
ストレッチ、筋肉トレーニングを行う
作品の音源を聴きイメージトレーニングを行う
〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション
振付を進めて行くにあたりメンバーの数、メンバーのスキルやレベルを知る
作品の内容や構成を伝えてイメージをしてもらう
音源を聴いてもらいイメージをしてもらう
第 2 回　振付1
振り入れ
カウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 3 回　振付2
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 4 回　振付3
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 5 回　振付4
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 6 回　振付5
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 7 回　振付6
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 8 回　振付7
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 9 回　通し
頭から今までの振付を通し、流れが途切れないよう踊れるように反復練習点を見つけ、その部分を重点的に練習
再度、頭から通し反復練習
第 10 回　構成
移動構成パートの説明をしイメージをしてもらう
実際に説明を加えながらゆっくり動いてもらいそれぞれの軌道を確認
少し早めに動いて練習
音源で練習
第 11 回　構成
前回の復習
移動構成のクオリティーを高める
スムーズに動けるように指導する
第 12 回　本人達パート
本人達で話し合い振付を作ってもらう
確認し、修正箇所があれば修正し完成させる
反復練習
第 13 回　まとめ
締めの振り入れ
頭から最後まで再度確認
カウントと音で反復練習
第 14 回　まとめ
振付のクオリティーが上がるよう細かく指導
本人達の踊り込み
反復練習
第 15 回　ミニ発表会
作品を踊ってもらい評価をする
〔成績評価〕
実技試験100%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1.学期 前期
2.曜日・時間:月曜日 15:30~17:00
3.場所: 4.連絡先(メールアドレス)pxk5gmff@i.softbank.jp

ダンス表現Ⅲ-2（ワック）作品

1912
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
北田　美紀

〔到達目標〕
・腕の動かし方に特徴のあるWAACKの基礎を習得
・DANCEに必要なSOUL DANCE・STEPを習得
・SOUL DANCEやWAACKを踊る際に使用する音楽の紹介
・ストレッチ・リズムトレーニングを行う事でさらに身体表現の可能性を広げる
・全身を使ったダンス表現を目標とする
〔授業の概要〕
・ストレッチ・音楽に合わせて身体の色々な部分を動かしながらの
リズムトレーニング・ステップを行う事で、身体の様々な箇所を使って表現する方法を学ぶ
・WAACKは腕の動かし方に特長のある踊りなので、基礎習得と共に腕肩周りのストレッチ・筋力トレーニング・ケアの方法も伝える
・振付発表と即興で自身を表現し授業のまとめを行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・SOUL DANCE・STEPの動きと名称確認（復習）
・WAACKの基礎確認（復習）
〔授業計画〕
第 1 回　WAACK入門①・作品振付
WAACKとは・WAACK基礎・リズムトレーニング　WAACKの腕の動かし方と２・３種のSOUL DANCE・作品振り写し８×２
第 2 回　WAACK入門②・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦ライン①)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（ジゴロ・ナスティ・プレップ）・作品振り写し８×２
第 3 回　WAACK入門③・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦ライン②)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（キャベッジパッチ・ペンギン・ポップコーン）・作品振り写し８×４
第 4 回　WAACK入門④・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦～斜めライン)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（ベビーシッター・ホース・フリッキーディッキー）・作品振り写し８×４
第 5 回　WAACK入門⑤・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦～横ライン)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（フォーコーナー・プッシンクール・スパンク）・作品振り写し８×４
第 6 回　WAACK初級①・作品振付
WAACK基礎《BOLLO》・リズムトレーニング（チャチャ横～縦）
作品の振り写し８×４
第 7 回　WAACK初級②・作品振付
WAACK基礎《OPEN～CLOSE》・リズムトレーニング（フリーク・スニーク
・エルボー）・作品の振り写し８×４
第 8 回　WAACK初級③・作品振付
WAACK基礎《横巻き》・リズムトレーニング（マザーポップコーン
・パドブレ）・作品の振り写し８×４
第 9 回　WAACK初級④
WAACK基礎《巻く動きのまとめ①１》・リズムトレーニング（スネーク・ワーム）・作品の振付復習
第 10 回　WAACK初中級①
WAACK基礎《左右違う動き①》・リズムトレーニング（最初から通す）
今日の動きを使った振付８×２
第 11 回　WAACK初中級②
WAACK基礎《左右違う動き②》・リズムトレーニング（最初から通す）
今日の動きを使った振付８×２
第 12 回　後期のまとめ①
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付①８×２
第 13 回　後期のまとめ②
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付②８×２
第 14 回　後期のまとめ③
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付③８×２
第 15 回　総合発表
SOUL DANCEの動きと名称
作品発表
全員でディスカッション
〔成績評価〕
・振付発表（60点）
・SOUL DANCEとSTEPの名称と動き（30点）
・振付発表時の即興（10点）
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後

ダンス表現Ⅳ-2（ワック）作品

1914
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
北田　美紀

〔到達目標〕
・腕の動かし方に特徴のあるWAACKの基礎を習得
・DANCEに必要なSOUL DANCE・STEPを習得
・SOUL DANCEやWAACKを踊る際に使用する音楽の紹介
・ストレッチ・リズムトレーニングを行う事でさらに身体表現の可能性を広げる
・全身を使ったダンス表現を目標とする
〔授業の概要〕
・ストレッチ・音楽に合わせて身体の色々な部分を動かしながらの
リズムトレーニング・ステップを行う事で、身体の様々な箇所を使って表現する方法を学ぶ
・WAACKは腕の動かし方に特長のある踊りなので、基礎習得と共に腕肩周りのストレッチ・筋力トレーニング・ケアの方法も伝える
・振付発表と即興で自身を表現し授業のまとめを行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・SOUL DANCE・STEPの動きと名称確認（復習）
・WAACKの基礎確認（復習）
〔授業計画〕
第 1 回　WAACK入門①・作品振付
WAACKとは・WAACK基礎・リズムトレーニング　WAACKの腕の動かし方と２・３種のSOUL DANCE・作品振り写し８×２
第 2 回　WAACK入門②・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦ライン①)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（ジゴロ・ナスティ・プレップ）・作品振り写し８×２
第 3 回　WAACK入門③・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦ライン②)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（キャベッジパッチ・ペンギン・ポップコーン）・作品振り写し８×４
第 4 回　WAACK入門④・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦～斜めライン)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（ベビーシッター・ホース・フリッキーディッキー）・作品振り写し８×４
第 5 回　WAACK入門⑤・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦～横ライン)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（フォーコーナー・プッシンクール・スパンク）・作品振り写し８×４
第 6 回　WAACK初級①・作品振付
WAACK基礎《BOLLO》・リズムトレーニング（チャチャ横～縦）
作品の振り写し８×４
第 7 回　WAACK初級②・作品振付
WAACK基礎《OPEN～CLOSE》・リズムトレーニング（フリーク・スニーク
・エルボー）・作品の振り写し８×４
第 8 回　WAACK初級③・作品振付
WAACK基礎《横巻き》・リズムトレーニング（マザーポップコーン
・パドブレ）・作品の振り写し８×４
第 9 回　WAACK初級④
WAACK基礎《巻く動きのまとめ①１》・リズムトレーニング（スネーク・ワーム）・作品の振付復習
第 10 回　WAACK初中級①
WAACK基礎《左右違う動き①》・リズムトレーニング（最初から通す）
今日の動きを使った振付８×２
第 11 回　WAACK初中級②
WAACK基礎《左右違う動き②》・リズムトレーニング（最初から通す）
今日の動きを使った振付８×２
第 12 回　後期のまとめ①
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付①８×２
第 13 回　後期のまとめ②
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付②８×２
第 14 回　後期のまとめ③
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付③８×２
第 15 回　総合発表
SOUL DANCEの動きと名称
作品発表
全員でディスカッション
〔成績評価〕
・振付発表（60点）
・SOUL DANCEとSTEPの名称と動き（30点）
・振付発表時の即興（10点）
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
授業終了後

ヒップホップⅠ（Int.）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
佐伯　一哲

〔到達目標〕
HIPHOPを中心に様々な音楽に触れ合いリズムにのったり、歌詞の意味を理解し音楽に対する深みを学び体現化させる事。
〔授業の概要〕
様々な曲を聴いて、アイソレーション、リズムトレーニングをしながら体で遊び、その日のルーティン（振付）で成果を発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次週までの振付復習（２週で１曲完成）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の大まかな流れを確認
第 2 回　コンビネーションA前半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けに触れる。
第 3 回　コンビネーションA後半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けA前半の続きを行う。
第 4 回　コンビネーションB前半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けに触れる。
第 5 回　コンビネーションB後半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けB前半の続きを行う。
第 6 回　コンビネーションC前半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けに触れる。
第 7 回　コンビネーションC後半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けC前半の続きを行う。
第 8 回　コンビネーションD前半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けに触れる。
第 9 回　コンビネーションD後半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けD前半の続きを行う。
第 10 回　中間発表
　　自分達で構成をつけ、作品を完成させる。
第 11 回　コンビネーションE前半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けに触れる。
第 12 回　コンビネーションE後半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けE前半の続きを行う。
第 13 回　コンビネーションF前半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けに触れる。
第 14 回　コンビネーションF後半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けF前半の続きを行う。
第 15 回　総合発表
　　自分達で振り、構成をつけ作品を作る
〔成績評価〕
授業関心、意欲、積極性の総合点
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
特になし。

ヒップホップⅡ-2（Int.）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
佐伯　一哲

〔到達目標〕
HIPHOPを中心に様々な音楽に触れ合いリズムにのったり、歌詞の意味を理解し音楽に対する深みを学び体現化させる事。
〔授業の概要〕
様々な曲を聴いて、アイソレーション、リズムトレーニングをしながら体で遊び、その日のルーティン（振付）で成果を発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次週までの振付復習（２週で１曲完成）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　授業の大まかな流れを確認
第 2 回　コンビネーションA前半
　　ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
　　振付けに触れる。

第 3 回　コンビネーションA後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションA前半の続きを行う。
第 4 回　コンビネーションB前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 5 回　コンビネーションB後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションB前半の続きを行う。
第 6 回　コンビネーションC前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 7 回　コンビネーションC後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションC前半の続きを行う。
第 8 回　コンビネーションD前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 9 回　コンビネーションD後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションD前半の続きを行う。
第 10 回　中間発表
自分達で構成をつけ、作品を完成させる。
第 11 回　コンビネーションE前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 12 回　コンビネーションE後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションE前半の続きを行う。
第 13 回　コンビネーションF前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 14 回　コンビネーションF後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションF前半の続きを行う。
第 15 回　総合発表
自分達で振り、構成をつけ作品を作る。

〔成績評価〕
授業関心、意欲、積極性の総合点
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
特になし
〔オフィスアワー〕
講義終了後

ヒップホップⅢ-2（Int）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
佐伯　一哲

〔到達目標〕
HIPHOPを中心に様々な音楽に触れ合いリズムにのったり、歌詞の意味を理解し音楽に対する深みを学び体現化させる事。
〔授業の概要〕
様々な曲を聴いて、アイソレーション、リズムトレーニングをしながら体で遊び、その日のルーティン（振付）で成果を発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次週までの振付復習（２週で１曲完成）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の大まかな流れを確認
第 2 回　コンビネーションA前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 3 回　コンビネーションA後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションA前半の続きを行う。
第 4 回　コンビネーションB前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 5 回　コンビネーションB後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションB前半の続きを行う。
第 6 回　コンビネーションC前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 7 回　コンビネーションC後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションC前半の続きを行う。
第 8 回　コンビネーションD前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。

第 9 回　コンビネーションD後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションD前半の続きを行う。
第 10 回　中間発表
自分達で構成をつけ、作品を完成させる。
第 11 回　コンビネーションE前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 12 回　コンビネーションE後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションE前半の続きを行う。
第 13 回　コンビネーションF前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 14 回　コンビネーションF後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションF前半の続きを行う。
第 15 回　総合発表
自分達で振り、構成をつけ作品を作る。

〔成績評価〕
授業関心、意欲、積極性の総合点
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
講義終了後

ヒップホップⅣ-2（Int）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
佐伯　一哲

〔到達目標〕
HIPHOPを中心に様々な音楽に触れ合いリズムにのったり、歌詞の意味を理解し音楽に対する深みを学び体現化させる事。
〔授業の概要〕
様々な曲を聴いて、アイソレーション、リズムトレーニングをしながら体で遊び、その日のルーティン（振付）で成果を発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次週までの振付復習（２週で１曲完成）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の大まかな流れを確認
第 2 回　コンビネーションA前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 3 回　コンビネーションA後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションA前半の続きを行う。
第 4 回　コンビネーションB前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 5 回　コンビネーションB後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションB前半の続きを行う。
第 6 回　コンビネーションC前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 7 回　コンビネーションC後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションC前半の続きを行う。
第 8 回　コンビネーションD前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 9 回　コンビネーションD後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションD前半の続きを行う。
第 10 回　中間発表
自分達で構成をつけ、作品を完成させる。
第 11 回　コンビネーションE前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 12 回　コンビネーションE後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションE前半の続きを行う。
第 13 回　コンビネーションF前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
振付けに触れる。
第 14 回　振付け１２
ストレッチ、筋トレ、アイソレ、リズムトレーニング、
コンビネーションF前半の続きを行う。
第 15 回　総合発表
自分達で振り、構成をつけ作品を作る。

〔成績評価〕
授業関心、意欲、積極性の総合点
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
後期終了後

ヒップホップⅠ（Beg）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
田中　幸

〔到達目標〕
授業のテーマ及び到達目標 HIP HOPの基礎から応用までを身につけ、様々な場面で自分らしく踊れるダンサーを目指す。

〔授業の概要〕
ストレッチからリズムトレーニング(アイソレーション)、その日行う動きの練習
応用を行い、ルーティーンの流れで向上を目指す
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業内容の復習
〔授業計画〕
第 1 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
音楽、リズムの感じ方、ベーシックを中心に学ぶ
第 2 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
アイソレーション、リズムキープを中心に学ぶ
第 3 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け1、前回までの確認ルーティーン8×2?8×4
第 4 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け続き、復習、ルーティーン続き
第 5 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け2、リズムの変化、ルーティーン8×2?8×4
第 6 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け2続き、復習、ルーティーン続き
第 7 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
自分で振り付けを行う練習、振り付けを考える
第 8 回　発表
振り付けの発表中心
第 9 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け3、リズム、ステップの応用を中心とした振り付け
第 10 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け3続き、復習、ルーティーン続き
第 11 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け4、試験用振り付け
第 12 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け4続き、試験用振り付け続き
第 13 回　自作パートを考える
振り付け、自分で作る
第 14 回　自作パートを考える
振り付け全て覚えて練習
第 15 回　発表
〔成績評価〕
実技試験　（表現40%・技術40%・通常の取り組み20%）
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「特になし」
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
なし

ヒップホップⅡ-1（Beg）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
田中　幸

〔到達目標〕
授業のテーマ及び到達目標 HIP HOPの基礎から応用までを身につけ、様々な場面で自分らしく踊れるダンサーを目指す。

〔授業の概要〕
ストレッチからリズムトレーニング(アイソレーション)、その日行う動きの練習
応用を行い、ルーティーンの流れで向上を目指す

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業内容の復習
〔授業計画〕
第 1 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
音楽、リズムの感じ方、ベーシックを中心に学ぶ
第 2 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
アイソレーション、リズムキープを中心に学ぶ
第 3 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け1、前回までの確認ルーティーン8×2 8×4
第 4 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け続き、復習、ルーティーン続き
第 5 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け2、リズムの変化、ルーティーン8×2 8×4
第 6 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け2続き、復習、ルーティーン続き
第 7 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
自分で振り付けを行う練習、振り付けを考える
第 8 回　発表
振り付けの発表中心
第 9 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け3、リズム、ステップの応用を中心とした振り付け
第 10 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け3続き、復習、ルーティーン続き
第 11 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け4、試験用振り付け
第 12 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け4続き、試験用振り付け続き
第 13 回　自作パートを考える
振り付け、自分で作る
第 14 回　自作パートを考える
振り付け全て覚えて練習
第 15 回　発表
〔成績評価〕
出席60点　テスト40点
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「特になし」
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
なし

ヒップホップⅢ-1（Beg）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
田中　幸

〔到達目標〕
授業のテーマ及び到達目標 HIP HOPの基礎から応用までを身につけ、様々な場面で自分らしく踊れるダンサーを目指す。

〔授業の概要〕
ストレッチからリズムトレーニング(アイソレーション)、その日行う動きの練習
応用を行い、ルーティーンの流れで向上を目指す
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業内容の復習
〔授業計画〕
第 1 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
音楽、リズムの感じ方、ベーシックを中心に学ぶ
第 2 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
アイソレーション、リズムキープを中心に学ぶ
第 3 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け1、前回までの確認ルーティーン8×2 8×4
第 4 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け続き、復習、ルーティーン続き
第 5 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け2、リズムの変化、ルーティーン8×2 8×4
第 6 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け2続き、復習、ルーティーン続き
第 7 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
自分で振り付けを行う練習、振り付けを考える
第 8 回　発表
振り付けの発表中心
第 9 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け3、リズム、ステップの応用を中心とした振り付け
第 10 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け3続き、復習、ルーティーン続き
第 11 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)

振り付け4、試験用振り付け
第 12 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け4続き、試験用振り付け続き
第 13 回　自作パートを考える
振り付け、自分で作る
第 14 回　自作パートを考える
振り付け全て覚えて練習
第 15 回　発表
〔成績評価〕
実技試験　（表現40%・技術40%・通常の取り組み20%）
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「特になし」
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
なし

ヒップホップⅣ-1（Beg）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
田中　幸

〔到達目標〕
HIP HOPの基礎から応用までを身につけ、様々な場面で自分らしく踊れるダンサーを目指す。
〔授業の概要〕
ストレッチからリズムトレーニング(アイソレーション)、その日行う動きの練習
応用を行い、ルーティーンの流れで向上を目指す
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業内容の復習
〔授業計画〕
第 1 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
音楽、リズムの感じ方、ベーシックを中心に学ぶ
第 2 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
アイソレーション、リズムキープを中心に学ぶ
第 3 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け1、前回までの確認ルーティーン8×2 8×4
第 4 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け続き、復習、ルーティーン続き
第 5 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け2、リズムの変化、ルーティーン8×2 8×4
第 6 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け2続き、復習、ルーティーン続き
第 7 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
自分で振り付けを行う練習、振り付けを考える
第 8 回　発表
振り付けの発表中心
第 9 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け3、リズム、ステップの応用を中心とした振り付け
第 10 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け3続き、復習、ルーティーン続き
第 11 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け4、試験用振り付け
第 12 回　ストレッチ、基礎、リズムトレーニング(ベーシック)
振り付け4続き、試験用振り付け続き
第 13 回　自作パートを考える
振り付け、自分で作る
第 14 回　自作パートを考える
振り付け全て覚えて練習
第 15 回　発表
〔成績評価〕
実技試験　（表現40%・技術40%・通常の取り組み20%）
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「特になし」
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
なし

ダンス表現Ⅱ-1（作品）（ハウス）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
富田　麻里

〔到達目標〕
作品の振付をマスターし、自分のものにする
振付を体に入れ表現力を高め余裕感を持って踊れるようにする
作品を仲間達と踊るという協調性を学ぶ
〔授業の概要〕
15回で1つの作品を完成させる
本人達で話し合い案を出し合い振付を作るパートを設ける
パート練習を入念に行い、通して流れが途切れない練習も入念に行う

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で学んだ振付を次回までに必ず復習、練習する
ストレッチ、筋肉トレーニングを行う
作品の音源を聴きイメージトレーニングを行う
〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション
振付を進めて行くにあたりメンバーの数、メンバーのスキルやレベルを知る
作品の内容や構成を伝えてイメージをしてもらう
音源を聴いてもらいイメージをしてもらう
第 2 回　振付1
振り入れ
カウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 3 回　振付2
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 4 回　振付3
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 5 回　振付4
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 6 回　振付5
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 7 回　振付6
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 8 回　振付7
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 9 回　通し
頭から今までの振付を通し、流れが途切れないよう踊れるように反復練習
注意点を見つけ、その部分を重点的に練習
再度、頭から通し反復練習
第 10 回　構成
移動構成パートの説明をしイメージをしてもらう
実際に説明を加えながらゆっくり動いてもらいそれぞれの軌道を確認
少し早めに動いて練習
音源で練習
第 11 回　構成
前回の復習
移動構成のクオリティーを高める
スムーズに動けるように指導する
第 12 回　本人達パート
本人達で話し合い振付を作ってもらう
確認し、修正箇所があれば修正し完成させる
反復練習
第 13 回　まとめ
締めの振り入れ
頭から最後まで再度確認
カウントと音で反復練習
第 14 回　まとめ
振付のクオリティーが上がるよう細かく指導
本人達の踊り込み
反復練習
第 15 回　ミニ発表会
作品を踊ってもらい、評価をする
〔成績評価〕
実技100%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1.学期 前期
2.曜日・時間:月曜日 15:30~17:00
3.場所: 4.連絡先(メールアドレス)pxk5gmff@i.softbank.jp

ダンス表現Ⅲ-1（作品）（ハウス）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
富田　麻里

〔到達目標〕
作品の振付をマスターし、自分のものにする
振付を体に入れ表現力を高め余裕感を持って踊れるようにする
作品を仲間達と踊るという協調性を学ぶ
〔授業の概要〕
15回で1つの作品を完成させる
本人達で話し合い案を出し合い振付を作るパートを設ける
パート練習を入念に行い、通して流れが途切れない練習も入念に行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で学んだ振付を次回までに必ず復習、練習する
ストレッチ、筋肉トレーニングを行う
作品の音源を聴きイメージトレーニングを行う

〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション
振付を進めて行くにあたりメンバーの数、メンバーのスキルやレベルを知る
作品の内容や構成を伝えてイメージをしてもらう
音源を聴いてもらいイメージをしてもらう
第 2 回　振付1
振り入れ
カウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 3 回　振付2
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 4 回　振付3
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 5 回　振付4
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 6 回　振付5
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 7 回　振付6
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 8 回　振付7
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 9 回　通し
頭から今までを通し、流れが途切れないよう踊れるように反復練習
注意点を見つけ、その部分を重点的に練習
再度、頭から通し反復練習
第 10 回　構成
移動構成パートの説明をしイメージをしてもらう
実際に説明を加えながらゆっくり動いてもらいそれぞれの軌道を確認
少し早めに動いて練習
音源で練習
第 11 回　構成
前回の復習
移動構成のクオリティーを高める
スムーズに動けるように指導する
第 12 回　本人達パート
本人達で話し合い振付を作ってもらう
確認し、修正箇所があれば修正し完成させる
反復練習
第 13 回　まとめ
締めの振り入れ
頭から最後まで再度確認
カウントと音で反復練習
第 14 回　まとめ
振付のクオリティーが上がるよう細かく指導
本人達の踊り込み
反復練習
第 15 回　ミニ発表会
作品を踊ってもらい、評価をする
〔成績評価〕
実技100%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1.学期 前期
2.曜日・時間:月曜日 15:30~17:00
3.場所: 4.連絡先(メールアドレス)pxk5gmff@i.softbank.jp

ダンス表現Ⅳ-1（作品）（ハウス）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
富田　麻里

〔到達目標〕
作品の振付をマスターし、自分のものにする
振付を体に入れ表現力を高め余裕感を持って踊れるようにする
作品を仲間達と踊るという協調性を学ぶ
〔授業の概要〕
15回で1つの作品を完成させる
本人達で話し合い案を出し合い振付を作るパートを設ける
パート練習を入念に行い、通して流れが途切れない練習も入念に行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各回で学んだ振付を次回までに必ず復習、練習する
ストレッチ、筋肉トレーニングを行う
作品の音源を聴きイメージトレーニングを行う
〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション

振付を進めて行くにあたりメンバーの数、メンバーのスキルやレベルを知る
作品の内容や構成を伝えてイメージをしてもらう
音源を聴いてもらいイメージをしてもらう
第 2 回　振付1
振り入れ
カウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習
第 3 回　振付2
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 4 回　振付3
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 5 回　振付4
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 6 回　振付5
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 7 回　振付6
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 8 回　振付7
振り入れ
前回の復習後、続きをカウントで説明、カウントで反復練習
音に合わせて反復練習する
第 9 回　通し
頭から今までを通し、流れが途切れないよう踊れるように反復練習
注意点を見つけ、その部分を重点的に練習
再度、頭から通し反復練習
第 10 回　構成
移動構成パートの説明をしイメージをしてもらう
実際に説明を加えながらゆっくり動いてもらいそれぞれの軌道を確認
少し早めに動いて練習
音源で練習
第 11 回　構成
前回の復習
移動構成のクオリティーを高める
スムーズに動けるように指導する
第 12 回　本人達パート
本人達で話し合い振付を作ってもらう
確認し、修正箇所があれば修正し完成させる
反復練習
第 13 回　まとめ
締めの振り入れ
頭から最後まで再度確認
カウントと音で反復練習
第 14 回　まとめ
振付のクオリティーが上がるよう細かく指導
本人達の踊り込み
反復練習
第 15 回　ミニ発表会
作品を踊ってもらい、評価をする

〔成績評価〕
実技100%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
1.学期 前期
2.曜日・時間:月曜日 15:30~17:00
3.場所: 4.連絡先(メールアドレス)pxk5gmff@i.softbank.jp

ヒップホップⅡ-2(作品)(Beg)

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
田中　幸

〔到達目標〕
授業のテーマ及び到達目標 HIP HOP(FREE STYLE)を学ぶ。HIP HOPの応用、構成、ベーシックを学びながら作品を仕上げて発表する。

〔授業の概要〕
振り付けだけでなく、FREE STYLEや構成等も学習する。作品の流れをしっかり創れるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業内容の復習
〔授業計画〕
第 1 回　ストレッチ、リズムワーク
振り付け1
第 2 回　ストレッチ、リズムワーク
前回の練習、振り付け1続き
第 3 回　ストレッチ、リズムワーク
1つの動きを作ってFREEで踊る

第 4 回　ストレッチ、リズムワーク
　　復習、形にする
第 5 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け続き
第 6 回　ストレッチ、リズムワーク
　　復習、振り付け続き
第 7 回　ストレッチ、リズムワーク
　　構成を作る練習
第 8 回　ストレッチ、リズムワーク
　　構成を使った振り付け
第 9 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け応用
第 10 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け確認の続き
第 11 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け、各自苦手部分の克服
第 12 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け、全体通し練習
第 13 回　自作パートを考える
　　振り付け、練習、手直し
第 14 回　自作パートを考える
　　振り付け手直し、生徒間披露、修正
第 15 回　発表

〔成績評価〕

実技試験　（表現40%・技術40%・通常の取り組み20%）

〔教科書〕

「特になし」

〔参考文献〕

「特になし」

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

なし

ヒップホップⅢ-2（作品）（Beg）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
田中　幸

〔到達目標〕

HIP HOP(FREE STYLE)を学ぶ。
HIP HOPの応用、構成、ベーシックを学びながら作品を仕上げて発表する。

〔授業の概要〕

振り付けだけでなく、FREE STYLEや構成等も学習する。
作品の流れをしっかり創れるようにする。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

前回の授業内容の復習

〔授業計画〕

第 1 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け1
第 2 回　ストレッチ、リズムワーク
　　前回の練習、振り付け1続き
第 3 回　ストレッチ、リズムワーク
　　1つの動きを作ってFREEで踊る
第 4 回　ストレッチ、リズムワーク
　　復習、形にする
第 5 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け続き
第 6 回　ストレッチ、リズムワーク
　　復習、振り付け続き
第 7 回　ストレッチ、リズムワーク
　　構成を作る練習
第 8 回　ストレッチ、リズムワーク
　　構成を使った振り付け
第 9 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け応用
第 10 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け確認の続き
第 11 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け、各自苦手部分の克服
第 12 回　ストレッチ、リズムワーク
　　振り付け、全体通し練習
第 13 回　自作パートを考える
　　振り付け、練習、手直し
第 14 回　自作パートを考える
　　振り付け手直し、生徒間披露、修正
第 15 回　発表

〔成績評価〕

実技試験　（表現40%・技術40%・通常の取り組み20%）

〔教科書〕

「特になし」

〔参考文献〕

「特になし」

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

なし

ヒップホップⅣ-2（作品）（Beg）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
田中　幸

〔到達目標〕

授業のテーマ及び到達目標 HIP HOP(FREE STYLE)を学ぶ。
HIP HOPの応用、構成、ベーシックを学びながら作品を仕上げて発表する。

〔授業の概要〕
振り付けだけでなく、FREE STYLEや構成等も学習する。作品の流れをしっかり創れるようにする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回の授業内容の復習
〔授業計画〕
第 1 回　ストレッチ、リズムワーク
振り付け1
第 2 回　ストレッチ、リズムワーク
前回の練習、振り付け1続き
第 3 回　ストレッチ、リズムワーク
1つの動きを作ってFREEで踊る
第 4 回　ストレッチ、リズムワーク
復習、形にする
第 5 回　ストレッチ、リズムワーク
振り付け続き
第 6 回　ストレッチ、リズムワーク
復習、振り付け続き
第 7 回　ストレッチ、リズムワーク
構成を作る練習
第 8 回　ストレッチ、リズムワーク
構成を使った振り付け
第 9 回　ストレッチ、リズムワーク
振り付け応用
第 10 回　ストレッチ、リズムワーク
振り付け確認の続き
第 11 回　ストレッチ、リズムワーク
振り付け、各自苦手部分の克服
第 12 回　ストレッチ、リズムワーク
振り付け、全体通し練習
第 13 回　自作パートを考える
振り付け、練習、手直し
第 14 回　自作パートを考える
振り付け手直し、生徒間披露、修正
第 15 回　発表
〔成績評価〕
実技試験　（表現40%・技術40%・通常の取り組み20%）
〔教科書〕
「特になし」
〔参考文献〕
「特になし」
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
なし

ジャズⅢ-2（beg.）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
中村　友理

〔到達目標〕
ジャズダンスのテクニック、表現力の向上
〔授業の概要〕
ジャズダンスのテクニックを基礎トレーニング、クロスフロアーから習得し、振付の中で、振り覚えや表現力を養う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
前回進んだところまでの復習、練習（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　基礎の強化（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、パッセルルベアップキープ、
クロスフロアー、振り
第 2 回　基礎の強化（2）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、パッセルルベアップキープ、クロスフロアー、振り
第 3 回　基礎の強化（3）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、アチチュード、
アラベスク、クロスフロアー、振り
第 4 回　基礎の強化（4）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、ウォーキング×
クロスフロアー、振り
第 5 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、ウォーキング×クロスフロアー、グランジュッテ、振り
第 6 回　少しずつ難易度を上げたテクニックにトライする（2）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、クロスフロアーの難易度
を上げる、グランジュッテ、振り
第 7 回　複合的なテクニックの習得を目指す（1）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセルルベアップキープ、クロスフロアーの難易度を上げる、グランジュッテ、振り
第 8 回　複合的なテクニックの習得を目指す（2）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング×ク
ロスフロアー、ターンジャンプ（右）、振り
第 9 回　複合的なテクニックの習得を目指す（3）
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング×ク
ロスフロアー、ターンジャンプ（右）、振り
第 10 回　複合的なテクニックの習得を目指す（4）

ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、フラットバック、ウォーキング×クロスフロアー、ターンジャンプ（左）、振り

第 11 回　コンビネーションの難易度を上げる（1）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、クロスフロアーの難易度を上げる、振り

第 12 回　コンビネーションの難易度を上げる（2）
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、軸の強化トレーニング、クロスフロアーの難易度を上げる、振り

第 13 回　テクニック、表現力の強化
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、軸の強化トレーニング、クロスフロアーの難易度を上げる、振り、表現力のアドバイス

第 14 回　試験の振りわたし
ストレッチ、プリエ、試験の振りわたし

第 15 回　試験
ストレッチ、試験

〔成績評価〕

テクニックの習得度（50%）、表現力（50%）

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

／

ジャズⅢ-1（beg.）

六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
中村　友理

〔到達目標〕

ジャズダンスの基礎を習得する

〔授業の概要〕

・柔軟性のある身体づくりの為のストレッチ
・身体の軸をつくる為のプリエ
・ジャズダンスの基本的テクニック
・振付の中で、振り覚えや表現力を養う

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

前回の授業で学んだ事を復習しておく（90分）

〔授業計画〕

第 1 回　基礎の習得?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、パッセ、振り

第 2 回　基礎の習得?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、パッセ、シェネ、振り

第 3 回　基礎のブラッシュアップ?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、振り

第 4 回　基礎のブラッシュアップ?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右）、振り

第 5 回　少しづつ難易度を上げたテクニックにトライする?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右・左）、振り

第 6 回　少しづつ難易度を上げたテクニックにトライする?
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、ピルエット（右・左）、パドブレ、振り

第 7 回　複合的なテクニックの習得を目指す?
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、振り

第 8 回　複合的なテクニックの習得を目指す?
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右）、振り

第 9 回　左右共、身体技術表現ができるよう練習する?
ストレッチ、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、パッセ、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、振り

第 10 回　左右共、身体技術表現ができるよう練習する?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、ジュッテ、振り

第 11 回　コンビネーションの難易度を少しづつ上げる?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、ジュッテ、インサイドターン、振り

第 12 回　コンビネーションの難易度を少しづつ上げる?
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、ジュッテ、インサイドターン、振り

第 13 回　発表に向けて、同レベルのコンビネーションにトライする
ストレッチ、アイソレーション、プリエ、タンジュ、デガジェ、バットマン、シェネ、パドブレ×ピルエット、ピケ（右・左）、ジュッテ、インサイドターン、振り

第 14 回　発表の振りわたし
ストレッチ、プリエ、発表の振りわたし

第 15 回　発表
　　ストレッチ、発表
〔成績評価〕
テクニックの習得度（50%）・表現力（50%）
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
／

演習Ⅰ【ダンス作品制作】

8352
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
吉村　節子

〔到達目標〕
ダンス作品の制作から上演までのプロセスを実際に体験し、それに基づくレポートを作成する。
〔授業の概要〕
①ダンス作品制作のベースとなる基礎理論を学ぶ。
②作品の振付・スタイル・演出などの研究、また、文献の調査のしかた、先人の作品研究等も並行して学ぶ。
③以上のプロセスを踏まえた上で、自作作品を制作する。
④完成した作品を発表し、それに基づくレポートをまとめる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
制作したいダンススタイルの作品を、多数鑑賞しておく（90分）
〔授業計画〕
第 1 回　授業進行についてのオリエンテーション
　　ダンス作品の制作から上演までのプロセスと、それについてのレポートを作成する専門演習であることを理解する。
　　尚、各々のダンス作品制作についての習熟度に差異のある場合は、マンツーマンの指導も行う。
第 2 回　ダンス作品制作基礎理論（空間について）及び論文についての理解を深める
　　①パフォーマンススペースの理解と考察及び、構成・フォーメーション等について学ぶ。
　　②先行研究論文の講読。
第 3 回　ダンス作品制作基礎理論（テーマについて）及び論文講読
　　①ダンス作品のテーマについて及び、文献等の調査方法について学ぶ。
　　②先行研究論文の講読。
第 4 回　ダンス作品制作基礎理論（音楽について）及び論文講読
　　①1~2年次「ダンスの基礎知識」で学んだダンス音楽の歴史の知識をベースにしながら、新しい感覚を取り入れたダンス音楽とムーブメントにも触れ、各自のセンスを更に磨いていく。
　　②先行研究論文の講読。
第 5 回　ダンス作品制作基礎理論（衣装について）及び論文講読
　　①時代別の衣装を実際に手に触れ、その変遷を体感し、それをベースにしながら新世代のコスチュームデザインについても考察する。
　　②先行研究論文の講読。
第 6 回　レポートの構成、及び作品制作
　　①レポートの構成を学ぶ。
　　②各々の作品の制作を開始する。
第 7 回　レポートの書き方、及び作品制作
　　①レポートの書き方を学ぶ。
　　②引き続き各々の作品を制作する。
第 8 回　作品制作⑴
　　引き続き作品を制作する。
第 9 回　作品制作⑵
　　作品の完成を目指す。
第 10 回　中間発表
　　各々の作品を発表し、それぞれに講評を受ける。
第 11 回　作品手直し⑴
　　中間発表の講評を受けて、作品の手直しを行う。
第 12 回　作品手直し⑵
　　引き続き作品の手直しを行う。
第 13 回　作品発表
　　完成したダンス作品を発表する。
第 14 回　レポート発表
　　作品発表に関してのレポートを発表する。
第 15 回　まとめ
　　発表したダンス作品、レポートについて講評をうける。
〔成績評価〕
実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
各履修者と相談の上、決定する。

演習Ⅰ【ダンス作品制作】

8352
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
吉村　　節子

〔到達目標〕
前期で学んだ知識・体験を大切にしながら、また新しい学びを加えた新作を上演し、それに基づくレポートを作成し発表する。
〔授業の概要〕
①ダンスプロデュース・マネジメントについて学ぶ。
②同時に、前期で学んだテーマ・構成・フォーメーション・音楽・衣装などのダンス作品制作基礎理論に加え、イメージの表出のしかたなど、実際のダンス作品制作に必要なより具体的な要素も学習する。
③以上のプロセスを踏まえた上で新作を発表し、それに基づくレポートをまとめる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
各授業前にアイデアをまとめておく（９０分)。
〔授業計画〕
第 1 回　授業進行についてのオリエンテーション
新作ダンス作品の制作に取り組む上演意義を理解し、「なぜその作品を上演するのか」をディスカッションし、それをベースに対象となるパフォーマー・オーディエンス及び発表の場などを設定する。
第 2 回　プロデュースとは何か　及び作品制作
①ダンスプロデュースというクリエイティブな仕事を理解する。
②各々の作品の制作を開始する。
第 3 回　マネジメントとは何か　及び作品制作
①ダンスマネジメントについて学ぶ。
②引き続き各々の作品を制作する。
第 4 回　作品制作についての具体的な要素（イメージの表出のしかたなどについて）　及び作品制作
①テーマを表現する具体的な手法を学び、各自の作品に落とし込む。
②引き続き作品を制作する。
第 5 回　作品制作についての具体的な要素（グランドデザイン)
①音楽・衣装・装置などの各自のアイデアについてアドバイスを受ける。
②引き続き作品を制作する。
第 6 回　作品制作⑴
①引き続き作品を制作する。
②希望者は作品のアドバイスなどを受ける。
第 7 回　作品制作⑵
①引き続き作品を制作する。
②希望者は作品のチェックなどを受ける。
第 8 回　作品制作⑶
①作品の完成を目指す。
②希望者は作品の手直しなどを受ける。
第 9 回　中間発表
各々の作品を発表し、講評を受ける。
第 10 回　作品手直し⑴
中間発表の講評を受けて、作品の手直しを行う。
第 11 回　作品手直し⑵
引き続き作品の手直しを行う。
第 12 回　作品の完成　及び踊りこみ
第三者に作品を観てもらいアドバイスを受け、更に作品のグレードをあげる。
第 13 回　完成発表
完成したダンス作品を発表する。
第 14 回　レポート発表
作品発表に関してのレポートを発表する。
第 15 回　まとめ
発表したダンス作品、レポートについて講評を受ける。
〔成績評価〕
実技課題70%　レポート30%とし、総合的に評価する。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
各履修者と相談の上、決定する。

現代アジア事情

2235
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1年
2単位　前期
火曜 2限
教育_選択
安藤　　由香里

〔到達目標〕
本授業の目的は、現代のアジアについて考え、グローバル化社会での様々な現代的問題を深く理解することである。本授業を通して、学生は現代の様々なアジアの中で起こっている問題について自らの意見を述べることができようになる。
〔授業の概要〕
本授業では、現代アジアで起こっている事象を検討する。グローバル化が進展し、ヒト・モノ・カネ・ジョウホウが地球上を自由に駆け回っていたが、コロナで状況は一転した。その中で、現在のアジアが直面している現況、問題点等などを学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 指定された資料を読んで出席すること。
2. 毎回、予習・復習として授業と関連するニュースを新聞で確認し提出すること。

〔授業計画〕
1. クラスオリエンテーション・アイスブレイク・評価方法・現代アジアについて学ぶとは？
2. 現代のアジア社会（歴史的・地理的・民族的背景）
3. 生活習慣
4. 教育制度：就学前、小学校、中学校、高校、大学
5. 政治制度：民主主義、社会主義
6. 法制度：司法制度、陪審員制度
7. 地域機構：ASEAN等
8. 東アジア
9. 東南アジア①
10. 東南アジア②
11. 北アジア
12. 南アジア
13. 中央アジア（トルキスタン）
14. 西アジア（中東・近東）
15. 総括、期末レポート提出

〔成績評価〕
1. 期末レポート 3,000語　50%　(最終日提出厳守)
2. クラスでの発表 30%
3. 毎回、新聞記事を提出し、討議に積極的に参加し、コメント用紙に積極的に記入し提出する　20%
〔教科書〕
適宜指定する。
〔参考文献〕
子島進ほか編『大学における海外体験学習への挑戦』ナカニシヤ出版(2017)
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業の前後

現代欧米事情

2235
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1年
2単位　後期
火曜 2限
教育_選択
安藤　由香里

〔到達目標〕
本授業の目的は、現代の欧米について考え、グローバル化社会での様々な現代的問題を深く理解することである。本授業を通して、学生は現代の様々な欧米の中で起こっている問題について自らの意見を述べることができようになる。
〔授業の概要〕
本授業では、現代の欧米で起こっている事象を検討する。グローバル化が進展し、ヒト・モノ・カネ・ジョウホウが地球上を自由に駆け回っていたが、コロナで状況は一転した。その中で、現在の欧米が直面している現況、問題点等などを学ぶ。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 指定された文書を読んで出席すること。
2. 毎回、予習・復習として授業と関連するニュースを新聞で確認し提出すること。
〔授業計画〕
1. クラスオリエンテーション・アイスブレイク・評価方法・欧米について学ぶとは？
2. 現代の欧米社会（歴史的・地理的・民族的背景）
3. 生活習慣
4. 教育制度：就学前、小学校、中学校、高校、大学
5. 政治制度：民主主義、社会主義
6. 法制度：司法制度、陪審員制度
7. 地域機構：EU、欧州評議会、OAS、NATO等
8. 北欧
9. 西欧
10. 中欧・東欧
11. 南欧
12. アメリカ
13. カナダ
14. 中南米
15. 総括、期末レポート提出
〔成績評価〕
1. 期末レポート 3,000語　50%　(最終日提出厳守) ＊以後一切受け取りません。
2. クラスでの発表　30%
3.毎回、新聞記事を提出し、討議に積極的に参加し、コメント用紙に積極的に記入し提出する
20%
〔教科書〕
適宜指定する。
〔参考文献〕
子島進ほか編『大学における海外体験学習への挑戦』ナカニシヤ出版(2017)
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業の前後

教育現場の課題と対応（基礎）

6208
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2年
2単位　前期
土曜 4限
教育_選択
木村　重房

〔到達目標〕
現在、教育現場ではすべての校種で多様な課題が山積している。大学卒業後、教育現場に入り戸惑う初任者等教員も少なくない。各都道府県教育委員会等では、そのような現状を打破すべく様々な対策を実施している。しかし、現状では年度開始後数か月で職場から離れる教員もいる。このような事態を避けるため、大学等でも教職実践演習、フォ

ローアップ研修等に取組み、卒業生が円滑な教員生活をスタートすることに努めている。
本講座では「教員とは共に幸せになる職業である」理念の下、小・中・高など、すべての校種での教員養成大学での指導経験と幼・小・中・高などすべての校種の現役教員の免許更新講習講師の経験をいかし、家庭・地域・学校が協働をすすめるためのスキルを学ぶ。また、過去14年間で100名を越える学生等を、小・中・高のすべての校種で公立学校教諭を育成した経験をいかし、育成課程の学びを継続的・漸進的に教員に求められる「人間性、社会性、専門性」等について学びを深め「教育現場で活躍できる人材育成」を本科目の目標とする。

〔授業の概要〕

大阪府立高等学校での保健体育科・担任等教員として取組んだ29年間、管理職として人材育成等に取り組んだ9年間、保健体育科教員をめざす学生指導6年間、教員免許更新講習（幼稚園・小学校・中学校・高等学校教員等対象）講師4年間、ファシリテーターとして学校現場の研修講師として指導した8年間、小学校教員をめざす学生の指導3年間などの経験をいかし、教育現場が求める教員像、その具体的な内容とスキル修得を、言語活動等を用いてアクティブな方法で取組む。
昨年度和泉市教育委員会等から依頼を受け、和泉市立小学校に学生14名を引率して出向き、各クラス2～3名の学生が、「税の授業」アクティブな方法で行った。その学生を指導した経験をいかし、アクティブ・ラーニングでの授業づくりについても指導する。さらに「ふりかえりは学びの宝庫」を合言葉に「ふりかえり」を重要視し、自らの気づきを大切にして、継続した学びを卒業後も実践できるよう指導をすすめる。
教員を希望する者の「希望実現」めざし全力を尽くす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

都道府県等教育委員会が求める教師の専門性についての予習を課す。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
授業の進め方説明とふりかえりノート（B６サイズ）配布する。そして、文部科学省や各都道府県が求める教師像を探る。またスクール・サポーター等の経験を通して体験した児童生徒の様子や教員の指導状況から、自分であればどのように指導するかを、14回目のまとめとの違いを明らかにするために、記録しておく。

第 2 回　教員の資質について学ぶ
教育関係のキィワードから、求められる教員の資質を講義する。

第 3 回　アクティブ・ラーニングとは
「主体的で対話的な深い学び」を考え、その実際を学ぶ。

第 4 回　教育相談と生徒指導
多様な課題が教育現場ではある。その現状を解決するための具体的な方策を考える。特に、生徒指導における開発的生徒指導の「ほめて・認めて・励ます」意味と実践を体験する。

第 5 回　キャリア教育の実際と演習
キャリア教育の内容について理解し、自己実現のための意欲の向上と意欲を育てる指導法について体験する。その上で、演習を通じて自己肯定感の重要性を再確認する。

第 6 回　人権教育の実際と演習
人権とは何かを理解して上で、人権を尊重する教育について講義する。その上で、体罰やいじめ等、人権を侵害する事案について考え、人権侵害を許さない指導について演習を通じて気づきを深める。

第 7 回　生徒指導の実際と演習（個別面談を中心に）①
生徒指導における個別面談を中心に授業をすすめる。多様な課題行動の根本には、多様な自己肯定感の低さがあることを再確認する。それを共感した上で「自分はかけがえのない大切な存在である」と生徒自身が気づくよう促す様々な方法を、演習
する。

第 8 回　生徒指導の実際と演習（家族面談を中心に）
生徒が所属しているシステムについて考える。多様な課題行動は、児童生徒が所属システムに巻き込まれた結果、生起していることがある。その代表が家族である。家庭訪問・保護者面談等の様々な機会を通してどのようにシステムに教員が関わり、生徒を指導するのかについて演習する。

第 9 回　道徳教育を学ぶ
今、学校現場では道徳教育の必要性が叫ばれている。その理由は、っ児童生徒等の道徳性の欠如からくると推測される。本時間は、具体的な教材を示し道徳教育について講義する。その上で「思いは見えない。しかし思いやりは見える。」等の事例を示しながらどのように道徳教育を日々の教育現場で実践していくかを学ぶ。

第 10 回　双方向型授業を学ぶ
授業における教員と児童生徒の双方向型コミュニケーションのつくり方の実際を学ぶ。教育現場での授業は多くは、一斉講義型で教員から児童生徒への一方向的な子ユニケーションは多い。しかし、それではラーニングピラミッドのデータ等から知識の定着率は高いとはいえない。教員から児童生徒・児童生徒同士・児童生徒から教員の3方向のコミュニケーションを授業中にどのように作り出すかを講義した上で、演習する。

第 11 回　対話を育む
児童生徒間の対話を育むスキルを講義する。その上で、基本となるペア・コミュニケーションの重要性を認識し、どのようにペア・コミュニケーションの質を上げ、次の3人以上のコミュニケーションをつくるかを解説する。そのための小白板等の道具も活用し、さらに発展させ授業全体に対話と気づきを促す方法について説明し、演習を行う。

第 12 回　高め合う学級づくり

児童生徒の自尊感情を高め、互いを尊重し、互いから学ぶ姿勢を育成する方法を紹介する。その上で、それを学級全体に浸透させ「共に高め合う学級経営」を講義する。同時に、家庭や地域との連携の重要性についても学ぶ。そして、学校・家庭・地域が協働して児童生徒を育成する具体的な方法についても文部科学省の方針に基づき指導する。

第 13 回　ファシリテーションを学ぶ
「教師がファシリテーターになれば学校は変わる」という言葉も聞かれる。ファシリテーションについて学び、学生がファシリテーターを体験する。その方法をどのように学校現場で活用するかを、教育現場での実践を紹介しながら探求する。

第 14 回　まとめ
教育現場では今、何が起こっているのかを教育実習やスクール・サポーター体験を通して発表する。そこで見た児童生徒の様子や教員の指導状況を見て、自分であればどのように指導していくかを、1回目の授業で感じたこととの違いを話し合う。その上で、本授業の評価を1分間プレゼンで行う。

第 15 回　テスト
小論文「理想の教師像」についてテストを行う。

〔成績評価〕

授業への取り組みおよび受講態度30%、テスト40%、毎時間のふりかえり30%。

〔教科書〕

授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

土曜の授業後の教室にて質問等を受け付ける。

器械運動②

2016
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2年
1単位　後期
火曜 3限
実務経験有
教育_選択
磯員　康成

〔到達目標〕

本科目は、教職課程認定科目で、中学教科の保健体育における器械運動領域に関する科目である。
本科目履修時に学校教育で取り扱う器械運動領域の学習内容の理解をするとともに、自らが学習指導要領に記載されている技の習得とあわせて学習時に必要な技術的な能力の習得を目指す

〔授業の概要〕

本授業では、マット、跳び箱、鉄棒、平均台などを教材として使用し、スモールステップ(段階的学習)の必要性を自らの技の習得と合わせて学習していく。 また、技の習得段階で受講者それぞれの感じたことを共有しあい、受講者同士で技の補助をしあうなど技術の習得と合わせて、指導技術の向上を図る。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

授業前・授業中含め、準備体操・ストレッチはしっかり行うこと。
器械運動は非日常的な動きが多く大きな怪我につながる特徴を持っている。
必ず技に関する特性や留意点などについて事前に調べて準備を行うこと。

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
器械運動の基礎知識について

第 2 回　ストレッチ講座
ストレッチングの知識と実践

第 3 回　基礎運動
マット運動に必要な前段階の関連動作の実施

第 4 回　マット運動①
前転系・後転系の回転運動

第 5 回　マット運動②
倒立、前転系・後転系の回転運動

第 6 回　マット運動③
倒立回転系の運動

第 7 回　マット運動④
倒立回転系の運動(発展技)

第 8 回　マット運動⑤
技のつなぎと構成

第 9 回　跳び箱運動①
助走とロイター板の使い方、開脚跳び・閉脚跳び

第 10 回　跳び箱運動②
台上前転

第 11 回　跳び箱運動③
倒立回転跳び

第 12 回　平均台運動①
歩く・走る・跳ぶ・バランス

第 13 回　平均台運動②
波動・回転系

第 14 回　鉄棒運動①
懸垂・振動・支持回転

第 15 回　器械運動まとめ
実技試験、評価について

〔成績評価〕

満点を100とする。
内訳【実技試験(50点)・ノート提出(30点)・授業態度(20点)】
※上記を総合的に判断して採点する。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
現場での実体験を踏まえた、実技指導においてのポイント、技の習得ができる実技授業の展開する。また民間企業、学校現場における今後の社会で求められる人物像、能力を伝えていき、学生の進路により幅広い考え方がもたらせられる指導をする。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期
②水曜10－13:40(後期は－11:30)、木曜10－11:30
③授業終了後、講義教室で対応
④isogai@ashiya.ac.jpおよびPhollyのメッセージにて対応
⑤特になし

現代国際事情

2231
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
3年
2単位　後期
火曜 1限
教育_選択
安藤　　由香里

〔到達目標〕
本授業の目的は、現在、国際社会で起こっている事象についてニュースから考えることである。本授業を通して、学生は国際情勢に関する基礎知識を習得し、現代国際情勢について自らの意見を述べることができようになる。
〔授業の概要〕
ニュースを通して、国境を越えて広がる問題に国際社会はどう機能するか、国家間の利害衝突を暴力によらず平和的に処理するための制度および手法はどのようなものがあるか等を学ぶ。
国際法は難しいと思うかもしれないが、ちょっとした知識があるだけで、現代の国際問題が面白いほど理解できる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
1. 教科書の該当箇所を必ず読んで出席すること。
2. 毎回、予習・復習として授業と関連するニュースを新聞で確認し提出すること。
〔授業計画〕
1. クラスオリエンテーション、現代国際事情とニュースの読み方
2. イスラーム国は国か？ (23-31頁)
3. 沖縄が日本から独立するかもしれない？ (32-40頁)
4. 実効支配とはなにか？　(69-80頁)
5. 靖国神社参拝批判は内政干渉？ (81-90頁)
6. 日本の裁判所で外国国家を訴える？ (91-99頁)
7. 在日米軍には日本の法律は及ばない？ (100-107頁)
8. 大使館は「治外法権」か？ (108-115頁)
9. 犯罪者は逃げ得？　(126-136頁)
10. 日本は難民鎖国？　(137-145頁)
11. ヘイトスピーチも自由な表現のうち？ (146-154頁)
12. 中国による南沙諸島の埋め立ては違法？ (155-167頁)
13. 日本の捕鯨活動のなにが問題だったのか？ (225-236頁)
14. 竹島紛争は国際司法裁判所に持ち込めない？ (245-253頁)
15. テスト

〔成績評価〕
1. テスト 50%
2. 毎回､新聞記事を持参し､討議に積極的に参加する。 30%
3. コメント用紙に積極的に記入し提出する　20%
〔教科書〕
森川幸一ほか編『国際法で世界がわかるーニュースを読み解く32講』 岩波書店(2016)
〔参考文献〕
加藤信行 ほか『ビジュアルテキスト国際法 第2版』有斐閣(2020)
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
授業の前後

教育現場の課題と対応（応用）

6208
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2年
2単位　後期
土曜 4限
教育_選択
木村　　重房

〔到達目標〕
社会では、今まで経験しなかった急激な変化が続発している。このような中、前例主義ではなく社会が求める方向へ変革を推進すると共に、いかなる変化にも対応できる力が必要である。
本講座の目標は、教員としての必要な資質を修得し教育現場で活躍できる優秀な人材を送り出すことである。そのために、教員としての表面的なスキルにとどまることなく、深層まで学びをすすめ骨太のスキル修得をめざす。その前提として教員自身の人間性、社会性、専門性について指導をすすめる。
教育現場では教員の不祥事が続発している。各都道府県教育委員会等では、その根絶をめざして様々な対策に取組んでいる。そのような中、激務が原因で体調を乱したり精神的に不安定に陥る教員も、皆無ではない。そのような事態に陥らないためには、教育現場で求められる力を養成するよう全力で指導する。
すべての校種の教員をめざす者の受講を勧める。特に来年度以後、教員採用試験受験希望者、教育実習希望者の受講を期待する。
〔授業の概要〕
大阪府立高等学校教員時代管理職として大阪府立高校全体の教員を校長会人材育成担当として研修講師を務めた経験

や、近畿高等学校校長会代表として人材育成について全国校長会で発表した経験、退職後に大阪府及び大阪市の中間管理職研修資質向上研修講師経験をいかす。
現在、「兵庫県小学校等現役教員研修参加」「大阪府の高校生部活動指導」「大阪府下の小学校・中学校・高校教員研修講師」「教員免許更新講習講師（「最新の教育事情」「学校、家庭、地域の協働」「教育相談」「生徒指導の実践」）」等にも取組んいる経験から、実践的な指導をすすめる。
教員は児童生徒と共に成長できる素晴らしい職業である。児童生徒の幸せを教員自身の幸せと受け止め、日々自己研鑽に努め教育活動に取組むことは重要である。その基本となるのが「コミュニケーション力」等である。本授業ではコミュニケーション・トレーニングにも力を注いで授業をすすめる。
担当教員木村自身も研修をさらに継続し、日々変化する教育環境の中、「教育現場で求められる教員の資質獲得」のため全力で指導する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義時間中に指示する。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
ふりかえりノート（B6サイズ）を配布し、毎時間のふりかえりの重要性を再確認する。さらにこの授業はアクティブな方法を多く用いることを伝え、積極的な参加を促す。
第 2 回　教員に求められる「人間性」とは
支援学校での児童生徒に対する体罰や、教員間のいじめ問題等の不祥事について解説し、児童生徒をいかに導くかについて具体的に指導する。
第 3 回　教員に求められる「社会性」とは
教員間のチームワークづくりについては様々な課題がある。それぞれが相手を尊重し、児童生徒の幸せを教員自身の幸せとして共有し、教員間のみならず家庭や地域とも連携して教育活動をすすめることの重要性を講義する。その実際の方法についても演習を行う。
第 4 回　教員に求められる「専門性」とは
経験の短い教員は日々の教科指導準備に追われている。日々の自己研鑽の重要性を再確認し、教壇から児童生徒を授業で指導することの意味を講義する。その上で、すべての児童生徒が笑顔で自己実現できる学級に近づくための演習を行う。
第 5 回　教員としてのコミュニケーション力(基礎)
教員としてのコミュニケーション力を理解し、修得する。学校現場での混乱は教員のコミュニケーション力の未熟さからも起こっている。教員は経験の長短にかかわらず「説明責任」する立場にある。その教員が、適切な態度と言語で、説明できたならば現場の混乱数は減少すると思われる。その基礎を講義し、演習を行う。
第 6 回　教員としてのコミュニケーション力(発展)
前の時間の基礎を踏まえた発展である。学校現場では様々な出来事が日々、発生する。特に、事案発生起時の、児童生徒指導や保護者への説明が重要である。教員の対応する力がその後の児童生徒の学校生活や、保護者との連携に重要な影響を与えるからである。さらに教員間のチームワークも不可欠である。そのスキルを講義し、演習する。
第 7 回　言語活動を考える
言語活動には３つの内容がある。「話す・聞く、読む、書く」である。本時はそれらを体験しつつ、教員としての重要なすきるとして聞くことに着目してペア・コミュニケーションを使った授業を行う。
第 8 回　「開かれた質問」を学ぶ
児童生徒指導等においては、共感することと共に、「適切な質問」が重要である。その内容を指導し、それを使って演習を行い児童生徒等に気づきを促すこと過程を体験する。
第 9 回　聞いて・書くスキルを学ぶ
児童生徒指導や保護者面談等において、筆記しながら質問しながら答えるケースがある。その体験をする。それらを話す方に共感しながら承認しつつ面談をすすめるスキルを学ぶ。児童生徒指導等では重要なスキルである。特に、最後に話を互いに再確認して肯定的な方向へ導くスキルは重視したい。
第 10 回　対処的・予防的・開発的生徒指導を考える
現在の学校現場では、児童生徒を指導する際には開発的生徒指導を重視している。従来の対処的や予防的も重要であるが、課題が多様化した現在、それでは十分でなくなってきた。佐賀県中学校の例を引用しつつ、特に開発的生徒指導について学ぶ。
第 11 回　気づきを促す指導法を学ぶ
開発的な指導をすすめる前提として、児童生徒の心を「温める」ことが不可欠である。児童生徒の可能性や肯定的な行動を見逃さず、ほめ言葉のメッセージを送り続ける指導が見直されている。従来の指導の概念とは異なる指導法が必要となる。具体的には「ほめて・認めて・励ます」指導が重要である。児童生徒が自ら課題を見つけ解決する力を養えるよう教員は支援することが必要となります。その指導法について演習を通して学ぶ。
第 12 回　学校と家庭の協働を探求する
教育活動において保護者との連携の重要である。児童生徒と保護者は家庭の一員である。家庭には家庭組織があり、組織には個性がある。学校にも学校によって組織の特色がある。それぞれの組織が、児童生徒の成長のため力を合わせて取組むことで教育効果は大きく向上する。力を合わせることを「システムズアプローチに基づく家族療法」の考え方を活用して演習を行い、協働をすすめる前提となる信頼関係構築の過程を体験する。
第 13 回　「自分の長所」と「育成したい生徒像」

1分間での自己PRを作成する。具体的な作成方法は、ファシリテーションの手法を用いて自分の「長所・強み・魅力」を小白板を活用して行う。そして自己PRでプレゼンテーションした長所等を活用して「育成したい生徒像」のプレゼンテーションを行う。

第 14 回　まとめ
1回目に配布したふりかえりノートを使って「ふりかえり」を行う。その上で、授業評価を行うと共に自己評価を実施する。

第 15 回　定期試験
小論文「教員を志望する理由とめざす教師像」

〔成績評価〕

授業への取り組みおよび受講態度30%、テスト40%、毎時間のふりかえり30%。

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

土曜の授業後の教室にて質問等を受け付ける。

Reading I

3427
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1年
2単位　前期
金曜 2限
実務経験有
教育_選択
丹下　　秀夫

〔到達目標〕

・英語の語彙を増やす。
・英文の構造や品詞の役割を理解する。
・２００語程度の英文を理解する力を身につける。

〔授業の概要〕

・様々なトピックの英文に触れながら英語の読解力を身につける。
・ペアワークやグループワークを取り入れながら英語の発信力の基礎を身につける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・授業の復習や課題を必ずすること。(120分)
・次時のユニットの予習を必ずすること。(120分)

〔授業計画〕

第 1 回　Unit1,2
Topic ” Our Garden” ” Do you trust your GPS?”
be動詞の機能

第 2 回　Unit3,4
Topic ” The History of the Village” ” Waiting for a Plane”
一般動詞の機能

第 3 回　Unit5,6
Topic Where are my socks?” ” Are you all right? ”
代名詞の機能

第 4 回　Unit7,8
Topic ” Checking in at a Hotel” ” Tour schedule ”
数詞の整理

第 5 回　Unit9,10
Topic ” House for Sale ” ” The City ”
前置詞・接続詞の機能

第 6 回　Unit11,12
Topic ” Our Company” ” At the Hospital ”
助動詞の機能　完了形の整理

第 7 回　Unit13,14
Topic ”Packing Your Bags ” ” A Train Ticket ”
関係代名詞の機能

第 8 回　Unit15,16
Topic ”Airport Forms ” ” During the Flight ”
関係副詞の機能

第 9 回　Unit17,18
Topic ” What kind of person? ” ”At the Hotel ”
不定詞・動名詞の機能

第 10 回　Unit19,20
Topic ” Driving Instructions ” ” A Lovely Blouse ”
形容詞・副詞の機能

第 11 回　Unit21,22
Topic ” How was your room ?” ” What happend ?”
疑問詞・未来形の整理

第 12 回　Unit23,24
Topic ”Shopping ” ” Street Directions ”
可算名詞・不可算名詞の整理

第 13 回　Unit25,26
Topic ” My Luxury ” ” A Tall Youug Man”
使役動詞の機能

第 14 回　Unit27,28
Topic ”Reading Your Mind ” ” I Lost My Camera”
現在分詞の機能

第 15 回　Unit29,30
Topic ” In the Police Box” ” Studying English”
受動態と仮定法の整理

〔成績評価〕

・授業への参加態度・意欲　２０％
・確認テスト　２０％
・定期テスト　６０％

〔教科書〕

Enlgish Here and There　（南雲堂）

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。
〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時

ReadingⅡ

3247
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1年
2単位　後期
金曜 2限
実務経験有
教育_選択
丹下　　秀夫

〔到達目標〕
・２２０語～２８０語程度の英文読解力を身につける。
・英文法の基礎を身につける。
・TOEICテストの基本形式に慣れる。
〔授業の概要〕
・音読、T/F,ディクテーション、要約などを繰り返し、英語の発信力を向上させる。
・同時に、英語のリスニング力を向上させる。
・ペアワークやグループワークを取り入れ、英語の発信力を高める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業の復習を必ずすること。（１２０分）
次時の予習や課題を必ずすること。（１２０分）
〔授業計画〕
第 1 回　Unit 1
”An Accident”　現在形・過去形の復習
第 2 回　Unit 2
” Did You See Anything ?”　there is ,there are構文の復習
第 3 回　Unit 3
” The Bryson Engineerring Company”　冠詞・代名詞の復習
第 4 回　Unit 4
” An Interview ” 可算名詞・不可算名詞の復習
第 5 回　Unit 5
” The Police Are Puzzled ”　比較級の復習
第 6 回　Unit 6
” Two Witnesses ”　形容詞・副詞の復習
第 7 回　Unit 7
”The Car Driver” 現在完了形の復習
第 8 回　Unit 8
” Office Security ” 受動態の復習
第 9 回　Unit 9
” Her Memory Is Coming Back!” 話法の復習
第 10 回　Unit 10
” Is Ted Bryson a Criminal ?”　助動詞の復習
第 11 回　Unit 11
” Who Is She? ” 不定詞・動名詞の復習
第 12 回　Unit 12
” Do you Realise Who You Are ?” 前置詞の復習
第 13 回　Unit 13
” How Are You?”　命令文の復習
第 14 回　Unit 14
” A Face in the Crowd 関係詞の復習
第 15 回　Unit 15
” Did You Watch TV Last Night?” 仮定法の復習
〔成績評価〕
・授業への参加意欲・態度　２０％
・確認テスト　２０％
・定期テスト　　６０％
〔教科書〕
Kickoff English Mystery （南雲堂）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
【実務経験の活用】
中学校教諭での英語指導や英語学習に関する知識技能を活かして、英語の知識・技能や英語指導法に関わる指導を行う。
〔オフィスアワー〕
tange@ashiya-u.ac.jp
水曜日　14時～15時　研究室11

日本の歴史

1106
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
1年
2単位　前期
火曜 2限
池田　　聡

〔到達目標〕
日本の歴史の基礎知識
歴史を時系列的に理解する
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
日本史の基礎知識を学習する。
報告形式のアクティブラーニングを導入。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　日本の歴史で何を学ぶのか
日本の歴史で何を学ぶのか導入
第 2 回　古代・国家の形成Ⅰ
旧石器時代について学習する

第 3 回　古代・国家の形成Ⅱ
縄文時代・弥生時代について学習する
第 4 回　古代・国家の形成Ⅲ
邪馬台国、ヤマト政権と古墳文化について学習する
第 5 回　律令国家の成立
蘇我氏の国政改革、律令体制の成立過程と律令国家の発足、天平文化について
第 6 回　古代国家の成熟Ⅰ
律令の再編成、文化、政治について学習する
第 7 回　古代国家の成熟Ⅱ
受領と荘園、源氏と東国武士団について学習する
第 8 回　武家政権の誕生Ⅰ
院政と荘園公領制と文化、平氏政権について学習する
第 9 回　武家政権の誕生Ⅱ
鎌倉幕府の成立と文化、承久の乱と執権政治について学習する
第 10 回　武家政権の成長Ⅰ
室町幕府の成立と室町文化について学習する
第 11 回　武家政権の成長Ⅱ
戦国大名、織豊政権について学習する
第 12 回　幕藩体制の成立
幕藩体制の構造、寛永期の文化、文治政治、元禄文化、幕政改革について学習する
第 13 回　近代国家の形成Ⅰ
幕藩体制の変質、開国、について学習する
第 14 回　近代国家の形成Ⅱ
幕末の政局、明治維新について学習する
第 15 回　全体のまとめ
全体のまとめ及び定期試験の説明

〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

世界の歴史

1106
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1年
2単位　後期
火曜 2限
池田　聡

〔到達目標〕
世界の歴史の基礎知識
歴史を時系列的に理解する
上記の内容を目標とする
〔授業の概要〕
世界史の基礎知識を学習する。
報告形式のアクティブラーニングを導入。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
講義内で指定した課題の復習（2時間）
講義内で指定した課題の予習（2時間）
毎回講義内で課題資料を配布。
〔授業計画〕
第 1 回　世界の歴史で何を学ぶのか
世界の歴史で何を学ぶのか導入
第 2 回　イスラームの成立Ⅰ
イスラーム教の誕生、発展、文明
第 3 回　イスラームの成立Ⅱ
帝国の成立と分裂
第 4 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅰ
ゲルマン人の大移動、フランク王国の発展とローマ＝カトリック教会
第 5 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅱ
封建社会の成立と社会の変容
第 6 回　ヨーロッパ世界の形成Ⅲ
中世ヨーロッパ文化と諸国の動向
第 7 回　内陸アジアの発展とモンゴル帝国
モンゴル帝国の成立と分裂、元の成立
第 8 回　アジア諸地域の発展Ⅰ
明の衰退と清の成立と発展
第 9 回　アジア諸地域の発展Ⅱ
東アジア・東南アジア・西アジア・南アジアの動向
第 10 回　ヨーロッパの拡大と大西洋世界Ⅰ
大航海時代、ルネサンス、宗教改革
第 11 回　ヨーロッパの拡大と大西洋世界Ⅱ
主権国家の成立と覇権争い、ヨーロッパ諸国の世界進出と文化
第 12 回　アメリカの変革と国民国家の形成
産業革命とアアメリカ独立戦争、アメリカの発展ン
第 13 回　ヨーロッパの変革と国民国家の形成
産業革命、フランス革命とナポレオン、ヨーロッパの再編成
第 14 回　世界市場の形成とアジア・ヨーロッパ
近世との関連性

第 15 回　全体のまとめ
　　全体のまとめと定期試験の説明
〔成績評価〕
レポート及び課題等の評価（50%）
試験の総合評価（50%）
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
月曜日4限目または水曜日3限目

観光英語

4013

臨床教育学部 > 教育学科
3年
2単位　後期
木曜 3限
教育_選択
中田　　智也

〔到達目標〕
・海外旅行での場面を疑似体験することにより、世界へ広がる視野をもつ。
・海外旅行での場面を英語で読むことにより、単語や表現の実際の「使われ方」を理解する。
・具体的な場面に直結しているフレーズをたくさん学ぶことにより、英語の「コミュニケーションの手段」としての側面を理解する。
〔授業の概要〕
海外旅行時の典型的な場面でのやり取りを英語で読むことによって、その状況を疑似体験しながら、英語の力を養いましょう。基本的には2回1セットで進みます。1回目は具体的な状況のシミュレーション（読解重視）、2回目はその状況で知っておきたい様々なフレーズを学びます（文法重視）。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
例えば次のような方法で、授業の復習を行いましょう。
・具体的な状況の学習は、基本的に「旅行者と係の人」とのやり取りなので、どちらの役割も完全に理解できるまで、反復練習をする。
・学んだフレーズは、最終的に、日本語を見たら英語が出てくるようにしておく。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　この授業の進め方・決まり事など
第 2 回　機内シミュレーション
　　機内での客室乗務員とのやり取り
第 3 回　フレーズ学習1
　　機内での使えるフレーズ
第 4 回　空港（入国）・シミュレーション
　　空港での入国審査官とのやり取り
第 5 回　フレーズ学習2
　　入国審査を受けるときに知っておきたいフレーズ
第 6 回　ホテルのチェックイン・シミュレーション
　　ホテルのチェックイン時の受付係とのやり取り
第 7 回　フレーズ学習3
　　ホテルのチェックイン時に知っておくと便利なフレーズ
第 8 回　レストランの予約・シミュレーション
　　レストラン予約時のスタッフとのやり取り
第 9 回　フレーズ学習4
　　レストラン予約時に知っておくと便利なフレーズ
第 10 回　レストランでの注文・シミュレーション
　　レストランでの注文時の接客係とのやり取り
第 11 回　フレーズ学習5
　　レストランでの注文時に知っておくと便利なフレーズ
第 12 回　ショッピングモール・シミュレーション
　　大型ショッピングモールで買い物をするときの店員とのやり取り
第 13 回　フレーズ学習6
　　買い物を楽しむために知っておくと便利なフレーズ
第 14 回　空港（出国）・シミュレーション
　　帰国時の搭乗手続き・知っておきたいフレーズ
第 15 回　まとめ
　　要点のおさらい
〔成績評価〕
レポート提出とその内容から総合的に評価します。
〔教科書〕
適宜資料を配布します。
〔参考文献〕
適宜紹介します。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
LMS科目になるので、質問・相談はPhollyのメッセージで受け付けます。

多文化社会概論

2232

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
北原　速男

〔到達目標〕
日本における在留外国人数は増加しています。政府は新たに在留資格を創設し、外国人拡大施策を決定しました。
それに伴い留学生についても、大学卒業後引続き就職活動を行う「特定活動」と2019年4月入管法改正に伴い就職内定し就労開始時に申請する特定活動４６号も告示され、制度が運用されている。新たな外国人材の受入れや共生社会実現に向けた取り組みが進められています。
出入国管理政策の変遷と現状を理解し、将来国内外におけ

る日本企業、日系企業等で働く際に活躍できる人材になることを目指します。

〔授業の概要〕

国際化・グローバル化が進展するなかで、日本における外国人の出入国数も増加し、中長期にわたり在留する外国人も増加しています。外国人についての在留管理やその変遷や実際の事例に基づき日本の在留管理の特徴や諸課題について学びます。

また国・都道府県・市町村が取り組んでいる外国人受入れ政策について、各自治体により取り組みの状況は異なっている原因や課題について学びます。

さらに日本に暮らすために必要最低限の法的知識を学習することにより、危機管理的な場面での対応を解説します。

本講義は、講義とワークショップから構成しますが、コロナ渦のためオンライン講義及び月1回ＺＯＯＭを併用し講義を行うことも検討しています。

本講義は、講義受講後の課題提出により出席とみなします。講義内容により講義の順序変更もあるので理解しておいてください。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

シラバスを参考に、準備学習については毎時間告知いたします。

授業時間外にも質問等は受け付けます。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス・イントロダクション
授業の概要・目的・今後のスケジュール・評価方法・「入管白書」等のデーター分析資料などについても紹介します。
入管取次申請行政書士の資格説明・実務概要・在留資格変更申請・更新申請などについても解説します。

第 2 回　多文化共生社会とはなにか
日本におけるの変遷を多文化共生について（同化政策について考えます）
日本におけるアイヌ民族・琉球民族など（戸籍・言語・居住地・文化などを学習し、先住民族の権利に関する国際連合宣言との関係性についても学習します）

第 3 回　日本における出入国管理政策の変遷　その１
日本から渡航し移民の変遷を概観します。特にブラジルをはじめとする南米には多くの日本人が移民として渡航しました。特にブラジルには多数の日本人が移民として渡航しました。ブラジルをはじめとする移民の変遷を理解し、特に日系人と在留資格「定住者」との関係性、概要、多様化する諸課題について概観します。

第 4 回　日本における出入国管理政策の変遷　その２
時代の潮流に対応するように在留資格を創設してきた日本の入管政策の変遷を引き続き概観します。「永住者」「特別永住者」などの在留資格が創設された経緯・概要などを日本の入管政策の変遷について理解を深めていきます。また帰化・二重国籍等についても概観します。

第 5 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その１
現在在留資格は29種類に分けられますが、個別の活動に基づき在留資格を付与していることから実際にはさらに細分化しています。
例えば高度専門職では同1号（イ・ロ・ハ）・同2号の4種類、特定技能では1号・2号の2種類、介護に至ってはＥＰＦによる介護の「特定活動」「技能実習」の介護従事者など多様です。
活動に基づく在留資格（就労することが出来る在留資格・就労することが出来ない在留資格）・身分又は地位に基づく在留資格に大別されていますが、在留資格や種類について理解を深め概観します。

第 6 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その２
留学生にとって卒後の進路は、極めて重要と考えます。日本での就職、日本以外の国で活動するのか、あるいはさらに進学するなど、卒業後の進路は多様です。
そこで日本社会が求めている人材について「技術・人文・国際業務」「高度専門職」「特定活動46号」等について解説します。在留資格「留学」について、在留資格変更申請を行う際の留意点、特に引き続き就職活動を行う「特定活動」などを中心に解説し飛躍するための理解を深めます。

第 7 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その３
留学生の進路が決定し内定後には、「留学」から他の在留資格変更申請を行いますが、大多数が「技術・人文・国際業務」に変更になっています。しかし在留資格「技術・人文・国際業務」は、「技術」「人文知識」「国際業務」に分けられます。その延長上にある高度人材を受け入れる「高度専門職」など関連する在留資格についても学習し事例に基づき概観します。

第 8 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その４
2017年「技能実習法」が施行されました。日本は技能実習生を抜きにしては農業・水産業・製造業などの産業が成立しない状況下にあります。労働力として日本に来日している技能実習生を受け入れている法律「技能実習法」及び「技能実習制度」の法的理解や変遷について解説します。さらに諸外国の同様の制度についても概観し、送出し機関・監理団体・法的根拠・課題などについて検討していきます。

第 9 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その５
特定技能1号・2号が創設され制度が動き始めました。留学生も今後何らかの形で関連する仕事に就く可能性もあると思料することから制度の概要を理解し概観します。特定技能制度は、深刻化する人手不足に対応するため、生産性向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野（14業種）で一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れていくというものです。どんな業種が14業種なのか、なぜ人材不足なのか「特定技能」を概観します。

第 10 回　出入国管理政策における在留資格の現状　その６
これまで学習してきた在留資格以外の「日本人配偶者等」「短期滞在」「経営・管理」などの一般的な在留資格について、事例に基づきながらを検討し理解を深めます。また、在留資格は時代の変化や国の在り方によって統合・創設など行われてきています。安全安定を確保しつつ健全な発展を図るためにはどのようなことが必要か考察します。
第 11 回　日本における入国管理政策について
国際間の人の移動が活発化に伴い在留形態が多様化するなかで、不法滞在、不法就労、偽装滞在の防止など適正な在留の確保などが求められます。また難民・避難民の庇護も在留管理行政として求められることから、難民・避難民の庇護についても法的な枠組みを理解し、仕組みについて理解を深めます。
第 12 回　日本における多文化共生への取り組み
居住している外国人と身近に接するのは基礎自治体（市区町村）です。基礎自治体（市区町村）は人口規模・財政規模も多様ですが、外国人を多く受け入れている基礎自治体（市区町村）は差し迫った課題に直ちに取り組んできています。
そうした基礎自治体（市区町村）における多文化共生への取り組みについて事例を紹介し、今後の多文化共生についての取り組みや課題を検討します。
第 13 回　日本で暮らす法的理解
外国人の受入れに伴い、言語・慣習・文化などの違いにより軋轢が生じることがあります。そうした日常生活において刑事・民事を問わず事件に巻き込まれた際の対応について解説します。
警察・検察庁・弁護士制度（国選弁護士）など国の刑事手続きについてや民事事件についても、結婚・離婚など「日本人配偶者等」の在留資格との関係を事例を交えて解説し、さらに弁護士を活用する際の法テラスについても解説する。
また今後キャリアアップのためには何をすべきか、また必要なことは何かなど議論を深めます。
第 14 回　日本で暮らすとは（体験談から）
日本在住の外国人の体験や経験を視聴します。体験者の都合により本講義は講義日程が変更されることもあるので承知しておいてください。
聴取後、テーマに即して課題について掘り下げ、ディスカッションを通じて自分の考えを論述し、問題の把握力・分析力及び表現力を身に付けます。
第 15 回　まとめ
全講義をまとめてレポートを作成します。

〔成績評価〕
授業に対する関心、意欲、態度、質問、課題提出などを総合的に判定して評価する

〔教科書〕
特になし
授業中に適宜資料を配布します。

〔参考文献〕
「入管白書」出入国管理庁
「入管法の実務」山脇泰嗣著　新日本法規
その他、資料は講義中に伝えます。

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
講義の中でメールアドレスを記載し、質問には適宜答えます。また身近な自身を問わず質問したいことがあれば遠慮なく連絡可能です。

ピアノ入門講座Ⅰ

3528

臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
阪本　朋子

〔到達目標〕
・楽譜を読み取って演奏できる(初心者でも大丈夫です)
・手、指、腕の巧緻性を学び、利き手ではない方の機能を高める事ができる
・練習を通して自己研鑽の習慣を身につける事ができる

〔授業の概要〕
・個人レッスン（人数制限７名以下）
・楽譜が読めない状態からのスタートも可
・指１本から弾ける喜びを体験する
・社会人として生きて行く上で役立つリベラルアーツの重要性を認識する
・演奏のための脱力を覚える

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
課題曲に取り組む（2時間）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
受講生の今までの音楽体験を振り返る

（以下15回の内容は初心者を対象とした一例）
第 2 回　指１本で演奏①
「よろこびの歌（ベートーヴェンの有名なメロディー）」にチャレンジ
第 3 回　指１本で演奏②
「チャップスティックワルツ」
左右１本ずつの指で演奏する
第 4 回　指１本で演奏③
「グリーンスリーブス」
黒鍵も弾いてみる
第 5 回　左右５本の指にチャレンジ①
指番号を覚える
「ラ・カンパネラ」
超かんたん楽譜を使用して名曲にチャレンジ
第 6 回　左右５本の指にチャレンジ②

「アメージング・グレイス」
誰もが癒やされる美しいメロディーを歌うような気持ちで弾いてみよう
第 7 回　左右５本の指にチャレンジ③
「いつか王子様が」
シンプルなメロディーで本来の美しさを味わう
第 8 回　音楽の謎～小学館学習マンガシリーズ「コナン推理ファイル」より①
西洋音楽の謎
第 9 回　音楽の謎～小学館学習マンガシリーズ「コナン推理ファイル」より②
日本の童謡の謎
第 10 回　楽譜の読み方入門①
拍（ビート）とテンポ（速度）
第 11 回　楽譜の読み方入門②
音符の種類を覚える
第 12 回　楽譜の読み方入門③
小節線の意味を知る
第 13 回　楽譜の読み方入門④
いろいろなリズムを覚える
第 14 回　楽譜の読み方入門⑤
音の高さのしくみを知る（シャープ・フラットなど）
第 15 回　前期まとめ
人の前で演奏しよう

〔成績評価〕
授業態度・授業への参画70％
演奏発表する30％
（中間と期末に各人の現況をフィードバックする）

〔教科書〕
レベルに応じて指示

〔参考文献〕
「生涯健康脳をつくる！ゆび１本からのピアノ」Gakken
「コナン推理ファイル　音楽の謎」小学館

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
(1)前期
(2)水曜日14:00～15:00
(3)教員研究室
(4)連絡先はliebesbotschaft.tomoko@docomo.ne.jp
(5)相談の際には事前にメールでアポイントメントを取ること。

ピアノ入門講座Ⅱ

3428

臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
阪本　朋子

〔到達目標〕
ピアノ入門講座１の継続（ピアノ入門講座２からでも受講可能）
テーマ
・脳活ピアノの実践
・手・指や腕の巧緻性を知る
到達目標
・楽譜を読み取って演奏できる
・楽譜の内容を説明できる
・演奏に必要な手や指、腕を正確に動かすことができる
・暗譜で演奏できる
・自己研鑽の習慣を身につける
・西洋音楽史を自分の言葉で語る

〔授業の概要〕
・個人レッスン（人数制限７名以下）
・楽譜が読めない状態からのスタートも可
・指１本から弾ける喜びを体験する
・社会人として生きて行く上で役立つリベラルアーツの重要性を認識する
・演奏のための脱力を覚える

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
課題曲に取り組む（2時間）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
進度判定と課題曲選定
第 2 回　楽譜の基本
ピアノ楽譜でよく使うト音記号・ヘ音記号の理解と、ドレミファソラシの世界を知る
第 3 回　タッチと音色
タッチの可能性、音色は変わるか。個人に合った合理的なタッチとは？
第 4 回　音量と音楽表現について
強弱と音色とは？
第 5 回　ペダルの機能
ダンパーの働き、ペダルの原理、ペダリングの習得のためには
第 6 回　リズムとアーティキュレーション
表現の多様性とは・レガート奏法について
第 7 回　教養としての音楽史に触れる１
バロックから古典派まで～モーツァルトの困った性格
第 8 回　教養としての音楽史に触れる２
古典派からロマン派へ～ベートーヴェンは悲しい青年
第 9 回　教養としての音楽史に触れる３
ロマン派前期～シューベルト「魔王」の魅力
第 10 回　教養としての音楽史に触れる４
ロマン派中期～ピアノの詩人ショパン
第 11 回　教養としての音楽史に触れる５
国民楽派～チャイコフスキーのバレエ音楽
第 12 回　教養としての音楽史に触れる６
東欧の作曲家～ウィーン・プラハ・ブダペストの三都物語
第 13 回　教養としての音楽史に触れる７
20世紀の音楽～興味深い（好きな）作曲家を調べる

第 14 回　手塚治虫作品の中で扱われている音楽を知る
手塚治虫はどのようにして音楽好きになったか／絵で音を表現する
第 15 回　期末発表会
演奏する／自分の言葉で音楽を語る

〔成績評価〕

授業態度・授業への参画70%
演奏発表する30%
（中間と期末に各人の現況をフィードバックする）

〔教科書〕

レベルに応じて指示

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

(1)前期
(2)水曜日14:00～15:00
(3)教員研究室
(4)連絡先はliebesbotschaft.tomoko@docomo.ne.jp
(5)相談の際には事前にメールでアポイントメントを取ること。

English ConversationⅢ

3425

臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
実務経験有
武田　亜希子

〔到達目標〕

正しい発音と日常でよく使われる表現を身につけ、英語でコミュニケーションを図ることができる力を養う。

〔授業の概要〕

英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

学習内容の復習し、毎回課題を提出

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
授業の進め方、英語のリズムとイントネーションについて
第 2 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 3 回　Unit1 Hi, I'm Rina. ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 4 回　Unit2 How do you spell that? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 5 回　Unit2 How do you spell that? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 6 回　Unit3 What's the time? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 7 回　Unit3 What's the time? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 8 回　Unit4 Where are you from? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 9 回　Unit4 Where are you from? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 10 回　Unit5 What's your favorite food? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 11 回　Unit5 What's your favorite food? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 12 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 13 回　Unit6 How often do you get your hair cut? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 14 回　Unit7 What kind of music do you like? ①
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。
第 15 回　Unit7 What kind of music do you like? ②
英語のリズムとイントネーションを身につける発音練習を行い、それを生かしたリスニングとスピーキングの基礎練習を行う。

〔成績評価〕

毎回の提出物　100%

〔教科書〕

New Getting Into English　南雲堂

〔参考文献〕

必要に応じてプリントを配布

〔履修条件〕

〔備考〕
授業計画及び成績評価については、今後の感染症対策によって授業形態変更の可能性があるため必ずしも確定的ではない。また、クラスの学習状況や理解度に合わせて若干の変更の可能性あり。
〔オフィスアワー〕
質問等は随時Phollyのメッセージ機能で受け付ける。

演習Ⅱ【健康・スポーツ科学発育発達に関する研究】

8471

臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
石川　　峻

〔到達目標〕
1）他者と協力しながら積極的に課題の解決に取り組める。
2）設定したテーマについて卒業論文を完成することができる。
3）結果や自身の考えを論理的にまとめ、他者に分かりやすく伝えることができる。
〔授業の概要〕
健康、スポーツ分野での調査、測定、分析、発育・発達段階での育成法や課題等の調査、分析を行う。そして結果の考察や発表、ディスカッション等を通して自身の知見を深めるとともに、それらにより得られた知識を用いたコーチング法や、スポーツ観の確立を目指す。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
資料やデータの収集、整理（360分）
文献の購読（360分）
発表の資料作成（360分）
〔授業計画〕
第 1 回　研究計画の検討①
　　研究計画を立案、検討する
第 2 回　研究計画の検討②
　　研究計画を決定する
第 3 回　論文構成の検討①
　　論文構成を立案、検討する
第 4 回　論文構成の検討②
　　論文構成を決定する
第 5 回　資料、データの収集と整理①
　　論文の執筆に必要な資料、データを収集し整理する
第 6 回　資料、データの収集と整理②
　　論文の執筆に必要な資料、データを収集し整理する
第 7 回　資料、データの収集と整理③
　　論文の執筆に必要な資料、データを収集し整理する
第 8 回　資料、データの収集と整理④
　　論文の執筆に必要な資料、データを収集し整理する
第 9 回　論文の執筆①
　　序論の執筆
第 10 回　論文の執筆②
　　序論の執筆
第 11 回　論文の執筆③
　　序論の執筆
第 12 回　論文の執筆④
　　方法の執筆
第 13 回　論文の執筆⑤
　　方法の執筆
第 14 回　論文の執筆⑥
　　方法の執筆
第 15 回　中間発表の準備
　　中間発表の資料の作成
〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　10%
卒業論文　60%
中間発表　10%
最終発表　20%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
水曜１限、２限

大学生活入門　教育⑥

8114

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
阪本　朋子

〔到達目標〕
少人数制大学の特色を活かして学科を越えた、よりよい人間関係の構築ができる。
円満に意志疎通を図ることができる。
コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができる。
論理的かつ生産的に議論をし、お互い畏敬の念を持ち、自らもそれに参加しようとする意欲を持つことができる。
〔授業の概要〕
学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
授業形態は全体会や学科別授業とし、クラスまたは学科を軸に活動する。
授業内容はグループ活動のコミュニケーション演習などで構成し、学生の能動的な学習活動（アクティブラーニング）である。
演習は教育学や心理学、キャリア教育の基礎理論を背景に、新しい仲間との討議、協同作業を通じてコミュニケーションスキルを高めることをめざす。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。
次週までの課題の提示をすることがあるので、各自がテキストを事前に熟読しておくことを望む。
・（全）記号は全学科合同での実施メニュー
・（学科）記号は教育学科合同での実施メニュー
・（クラス）記号は各クラスでの実施メニュー
〔授業計画〕
第 1 回 （全）講話（各諸部長）、授業概要、作文講話
作文「4年後に卒業する自分に宛てた手紙」の記述ワーク
第 2 回 スマホセキュリティ（教学支援部ほか）
学生の100%が所有のICT端末、スマホセキュリティ意識向上を掌握理解のため、
外部有識者を招いての特別一斉講座でICTセキュリティの理解を深める。
第 3 回 （前）FFSリーダー特性（藤本ほか）
自己分析の判断基軸となるチャート分析シートを使って、自分の特性を客観的に
理解する。また演習仲間との相互チャート比較などもおこなう。
第 4 回 （全）キャリア形成について①働く
就職部主催：働くことの意味、異議を知って、実際の就職活動や将来を目指す職業への具体的な関心度を深める。
第 5 回 （学科）Aドリル①
第 6 回 （学科）Aドリル②
第 7 回 （学科）スポーツ大会
第 8 回 （全）ハラスメント・DU被害（三浦ほか）
ハラスメント、DV被害についての認識を映像で学び、併せて大学内ハラスメント防止委員会からの啓蒙情報等を周知する。
第 9 回 （クラス）図書館利用案内
第 10 回 （クラス）コミュニケーション学習①
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 11 回 （クラス）コミュニケーション学習②
集団や社会での協調性や多様な価値観、正確な情報等の伝達を学ぶ。
第 12 回 （全）違法薬物　動画（武田ほか）
法律で禁じられている違法薬物使用の実態を知り、身近に迫る誘惑の手口や怖さを知る。
第 13 回 （学科）読書案内
第 14 回 （学科）Aドリル　ペーパーテスト
第 15 回 （学科）まとめレポート
〔成績評価〕
レポート評価100%
・小レポート記述（量・質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
ガイダンス資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
(1)前期
(2)水曜日14:00～15:00
(3)教員研究室
(4)連絡先はliebesbotschaft.tomoko@docomo.ne.jp
(5)相談の際には事前にメールでアポイントメントを取ること。

Listening I

3426

臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
浜本　　幸子

〔到達目標〕
１．英語発音の特徴を理解し、発音された音声内容を的確に聴き取る力をつける。
２．聴き取った内容を理解し、それを受けて発話へとつなぐことができるような力をつける。
〔授業の概要〕
的確に聴き取るためには、英語がどのように発音されているかを学ぶ必要がある。そこでまず発音の基本を学び直す。その後、シャドーイングやディクテーションを交えながら、実際の音声を使って聴く力を高め、発話へと発展させていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
シャドーイング練習(60分)、その内容理解（60分）
〔授業計画〕
第 1 回 オリエンテーション
授業方針、評価について説明。リスニングテスト。リスニング力を向上させる学習方法を紹介。
第 2 回 Unit 1　母音（１）
短母音、長母音について、発音の仕組みとそれらを含む単語の発音を習得する。その上で、それらの単語を含む文章の聴き取り、シャドーイング、ディクテーションを実施。
第 3 回 Unit 2　母音（２）
二重母音、三重母音について、発音の仕組みとそれらを含む単語の発音を習得する。その上で、それらの単語を含む文章の聴き取り、シャドーイング、ディクテーションを実施。
第 4 回 Unit 3　子音（１）

子音の発音の仕組み、発音方法を習得する。その上で、習得した子音を含む単語、文章の聴き取り、シャドーイング、ディクテーションを実施。

第 5 回　Unit 4　子音（2）
子音の発音の仕組み、発音方法を習得する。その上で習得した子音を含む単語、文章の聴き取り、シャドーイング、ディクテーションを実施。

第 6 回　Unit 5　音節
音節について学び、子音が連続する場合の発音、弱母音の脱落、強勢などに注意し、それらの単語を含む文章の聴き取り、シャドーイング、ディクテーションを実施。

第 7 回　Unit 6　弱化
重要と見なされない語が強勢を受けず弱く発音されることを学び、それらの単語を含む文章の聴き取り、シャドーイング、ディクテーションを実施。

第 8 回　Unit 7　短縮（1）
be 動詞、助動詞will　がその前の語と結びついて短縮されることがよくある。それらの音に耳を慣らし、聴き取り、発音ができるようにシャドーイング、ディクテーションを実施。

第 9 回　Unit 8　短縮（2）
助動詞がその前の語と結びつき、短縮されることがよくある。それらの音に耳を慣らし、聴き取り、発音ができるようにシャドーイング、ディクテーションを実施。

第 10 回　Unit 9（脱落１）
子音が連続したときに、一方の子音が消える現象が起きる。その発音に耳を慣らし、聴き取り、発音ができるようにシャドーイング、ディクテーションを実施。

第 11 回　Unit 10（脱落２）
文末の音が脱落する現象について学ぶ。そのような発音を聴き取り、また発音できるようにシャドーイング、ディクテーションを実施。

第 12 回　Unit 11　連結（1）
音が合わさって別の子音になるという現象について学ぶ。そのような発音を聴き取り、また発音できるようにシャドーイング、ディクテーションを実施。

第 13 回　Unit 12（連結２）
音が合わさって別の子音になるという現象について学ぶ。そのような発音を聴き取り、また発音できるようにシャドーイング、ディクテーションを実施。

第 14 回　Unit 13（連結３）
子音の後に母音が続く場合の発音について学ぶ。そのような発音を聴き取り、また発音できるようにシャドーイング、ディクテーションを実施。

第 15 回　まとめと補足、リスニングテスト
全体のまとめと補足。第1回目のリスニングテストを再度実施し、各自、自分自身の聴き取る力にどのような変化が見られるかを確認する。

〔成績評価〕
毎回の授業の目標到達度（60%）
最終試験（40%）

〔教科書〕
Listening Trainer for English Communication, Shukei Funada (南雲堂)

〔参考文献〕
授業中に適宜紹介、または資料配布。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
木曜日

Listening Ⅱ

3426

臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
浜本　幸子

〔到達目標〕
１．聴き取れる語彙を増やす。
２．聴き取った英語を書くことができるようになる。
３．比較的長い文を聴き、英語で概要をまとめることができるようになる。

〔授業の概要〕
前期使用のテキストの続き。テキストに沿って英語を聴き取る力を養成する。また、ペアワークとして、シャドーイング、ディクテーションを実施したり、相手側が発した質問を聴き取り、それに即座に答える練習を繰り返すことで聴き取る力と共に英語による対応力をつける。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
聴き取った英文内容の理解（60分）
質問作成（60分）

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業方針、評価などについて説明。リスニングテスト。

第 2 回　Unit 14
［t］の有声化。無声音の［t］が有声化する現象について学ぶ。

第 3 回　Unit 15
want to, going to など2つの音が連続したとき、別の音になる場合がある。それらをここでまとめて学び、聴き取り、発音できるように練習する。

第 4 回　Unit 16
機能語の冠詞に見られる弱化と連結の現象について学び、聴き取り、発音できるように練習する。

第 5 回　Unit 17
前置詞に見られる連結、［t］の脱落と有声化、強音化について学び、聴き取り、発音できるように練習する。

第 6 回　Unit 18

接続詞に見られる弱化、強化、[t] の脱落と有声化の現象について学び、聴き取り、発音できるように練習する。

第 7 回　Unit 19
動詞　"give", "get"の他の語との連結時に起きる音けんかについて学び、聴き取り、発音できるように練習する。

第 8 回　Unit 20
復習として日常会話文を聴き取る。また、それらを今までの法則にのっとって発音できるか確認する。

第 9 回　視聴者の疑問に答える
こどもが抱いた疑問を大人が答えるという内容の話を聴き、その概要を理解する。

第 10 回　夢を語る
キング牧師の有名なスピーチを聴き、アメリカの根深い問題を見つめ、彼の夢を理解する。

第 11 回　スピーチを聴く１
現アメリカ大統領・副大統領のスピーチを聴き、その大まかな内容を理解する。

第 12 回　スピーチを聴く２
過去のアメリカ大統領のスピーチを聴き、その大まかな内容を理解する。また、印象に残ったフレーズなどについて意見を交換する。

第 13 回　スピーチを聴く３
イギリス女王のスピーチを聴き、その大まかな内容を理解する。また、印象に残ったフレーズなどについて意見を交換する。

第 14 回　スピーチを聴く４
過去の著名人のスピーチ、言葉を聴き、その大まかな内容を理解する。また、印象に残ったフレーズなどについて意見を交換する。

第 15 回　全体の復習とリスニングテスト
今期全体を振り返り、復習をする。また、リスニングテストを実施し、各自リスニング力の向上を意識する。

〔成績評価〕

毎回の授業の目標到達度（60%）
最終試験（40%）

〔教科書〕

Listening Trainer for English Communication, Shukei Funada (南雲堂)

〔参考文献〕

授業中に必要に応じて紹介、または資料を配布。

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

木曜日

演習Ⅰ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学に関する研究】

8369

臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　前期
西山　清子

〔到達目標〕

自分の強みを活かした自己PRが出来るようになる。
①マナーやコミュニケーション能力　②議論の仕方　③考え方など社会でも役に立つ能力を身に付ける。

〔授業の概要〕

自己分析しながら必要な力を高めていく。
学生同士の話し合いや様々な活動を通して自分の意見をまとめるようにする。
また、発言の機会を増やすことで資料の調べ方やまとめ方を学ぶ。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

公立の図書館や文献検索サイトを利用して参考文献や資料の検索を行い、必要な文献を準備する。
興味関心のある分野の情報収集する。

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス
ゼミの共通目標の説明。
知識の学び方について。

第 2 回　就活と教採について
自分の興味のある分野を就職に生かすために必要なことと教員志望者に向けた説明を行う。
マナー、挨拶、コミュニケーション能力について学ぶ。

第 3 回　就活の手順と教員採用試験の準備
就活希望者について、就職支援センターの利用方法、就活生対象の情報入手のための登録方法、企業セミナーの参加等を説明し、就活に向けて必要な行動の説明をする。
教員志望者について、教職支援センターの利用方法を説明する。
筆記試験、面接について説明し過去の教採を総括する。

第 4 回　個人面談①
現在困っていることや将来について話合う（順番を決めて指定日に実施する）。
1人30分～45分

第 5 回　個人面談②
現在困っていることや将来について話合う（順番を決めて指定日に実施する）。
1人30分～45分

第 6 回　個人面談③
現在困っていることや将来について話合う（順番を決めて指定日に実施する）。
1人30分～45分

第 7 回　自己分析①
過去を振り返り、自分の考え方や自分の変化を分析して自分を知る手がかりにする。

第 8 回　自己分析②
自分の強み、弱みを分析して強みを引き出す。
自分の強みを活かした自己PRが出来るようになる。
第 9 回　自己肯定感について
自己分析、行動分析を行い自己肯定感を高めるトレーニングを行う。
第 10 回　就職活動、教員採用試験に向けた心構え
就活…就職支援課との連携
教採…教職支援課との連携
情報収集方法の説明。前年度の事例から読み解く。
第 11 回　討論会
学生同士でテーマを決めて議論する。
議論によって得るものを見つける。
第 12 回　卒論テーマの見つけ方
興味ある分野をピックアップして、参考資料を集める。
第 13 回　卒論テーマの研究方法の説明
１．アンケートによる調査法…知りたい内容をアンケートで調査する。
２．実験によるデータ収集法…実施前と実施後の変化を調べる。
第 14 回　卒論の研究目的発表会について中間発表
現在、興味のある研究テーマおよび目的について発表。
第 15 回　大学生活の計画
夏休みの過ごし方について。

〔成績評価〕
課題30点。
積極的性30点。
協調性30点。

〔教科書〕
テキスト特になし、授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
特になし。各自が必要に応じて検索して引用する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
相談して実施日を設定して研究室にて行う。

演習Ⅰ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学に関する研究】

8369

臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
西山　　清子

〔到達目標〕
①マナーやコミュニケーション能力　②議論の仕方　③考え方など社会で役に立つ能力を身に付ける。
自主性、積極性、リーダー性を身に付ける。
自分の強みが活かせる。

〔授業の概要〕
課題を見つけ、解決に向けて積極的に行動出来るように予定を立てて行動する。また、学生同士で話し合い、活動し、意見をまとめ発表していくことで自主性、積極性、リーダー性の育成に繋げる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
公立、大学の図書館や文献検索サイトを利用して参考文献や資料を集める。
興味関心のある分野の情報収集をする。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
後期の目標および共通認識の確認する。
夏休みを振り返る1分間スピーチ。
第 2 回　研究テーマと課題①
興味や関心ある分野についてディスカッションする。
興味関心から卒論の研究テーマに繋げていく。
第 3 回　研究テーマと課題②
卒論の研究テーマに関する参考文献を持ち寄り研究手法を選択する。
研究テーマを見つける。
第 4 回　年間スケジュールの必要性と手順の説明
目的を達成するための時間の使い方を学ぶ。
教採や就活に対して勉強や活動の進捗を話し合う。
第 5 回　後期スケジュールの作成
研究テーマに関する参考文献を持ち寄ってミーティングを行う。
目的を明確にした月間目標、週間目標、毎日の目標を設定する。
第 6 回　中間発表
集めた参考文献をまとめて発表する。
進捗状況の説明。
第 7 回　進捗状況の発表会①
就活…進捗状況を発表する。
教採…問題集の正答率などを発表する。
第 8 回　研究テーマと手法①
実験によるデータ測定の場合「対象者、測定項目、回数、測定日程」の相談。
アンケートの場合「対象者、質問項目、実施時期」の相談。
第 9 回　研究テーマと手法②
実験によるデータ測定の場合「対象者、測定項目、回数、測定日程」を具体化する。
アンケートの場合「対象者、質問項目、実施時期」を具体化する。
第 10 回　研究テーマと手法を決定
実験によるデータ測定の場合「対象者、測定項目、回数、測定日程」を決定する。
アンケートの場合「対象者、質問項目、実施時期」を決定し作成する。
第 11 回　依頼状の作成

協力者および対象者に向けた、許可のお願い状および依頼状を作成する。
第 12 回　データ測定およびアンケートの許可を得る
作成した依頼状をもって、学内の協力者に許可を得る。
第 13 回　データ測定およびアンケートの実施
アンケートを配布する。データの測定を実施する。
第 14 回　進捗状況の発表会②
就活は進捗状況等を発表。教採は問題集の正答率等などを発表。
卒論では、データの収集およびアンケート回収状況の報告を行う。
第 15 回　アンケートおよび実験の開始
アンケートの配布、回収。
予備実験の開始。

〔成績評価〕
課題（40点）
自主性（20点）
協調性（20点）
責任感（20点）

〔教科書〕
テキスト特になし。授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
特になし。
各自が必要に応じて検索し引用する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
日時を相談後、研究室にて行う。

演習Ⅱ【健康スポーツ科学、発育発達に関する研究】

8471

臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
石川　　峻

〔到達目標〕
1）他者と協力しながら積極的に課題の解決に取り組める。
2）設定したテーマについて卒業論文を完成することができる。
3）結果や自身の考えを論理的にまとめ、他者に分かりやすく伝えることができる。

〔授業の概要〕
健康、スポーツ分野での調査、測定、分析、発育・発達段階での育成法や課題等の調査、分析を行う。そして結果の考察や発表、ディスカッション等を通して自身の知見を深めるとともに、それらにより得られた知識を用いたコーチング法や、スポーツ観の確立を目指す。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
資料やデータの収集、整理（360分）
文献の購読（360分）
発表の資料作成（360分）

〔授業計画〕
第 1 回　中間発表会
これまでのまとめと進捗状況の発表
第 2 回　論文の執筆①
結果、考察の執筆
第 3 回　論文の執筆②
結果、考察の執筆
第 4 回　論文の執筆③
結果、考察の執筆
第 5 回　論文の執筆④
結果、考察の執筆
第 6 回　論文の執筆⑤
結果、考察の執筆
第 7 回　論文の執筆⑥
まとめの執筆
第 8 回　論文の執筆⑦
まとめの執筆
第 9 回　論文の執筆⑧
引用参考文献の確認
第 10 回　論文の修正①
各章の修正と最終確認
第 11 回　論文の修正②
各章の修正と最終確認
第 12 回　論文の修正③
各章の修正と最終確認、卒業論文の完成
第 13 回　最終発表会の準備①
プレゼンテーション資料の作成
第 14 回　最終発表会の準備②
プレゼンテーション資料の作成
第 15 回　最終発表会
卒業論文のプレゼンテーション

〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　10%
卒業論文　60%
中間発表　10%
最終発表　20%

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
水曜１限、２限

演習Ⅱ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学に関する研究】

8472

臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
西山　　清子

〔到達目標〕
卒論のテーマを決定し、アンケートや実験を実施する。
収集したデータを分析し執筆を進める。
〔授業の概要〕
自らで立てた大学生活の計画に沿った生活を送る。
分からないことや疑問に対して、「調べる。確認する」習慣を付けて解決能力を身に付ける。
得られたデータをもとに卒論を書き進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
本を読んだり、色んな人の話を聞くことで、理解力や読解力、想像力を高める。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
4回生の生活計画の立案。
第 2 回　アンケートおよび実験の確認
アンケートの実施および回収。
実験では、予備実験のデータによって内容や方法の修正を行う。
第 3 回　就職活動と教員採用試験の中間発表
就活および教採の進捗状況の発表。
第 4 回　個人面談①
現在、将来について
第 5 回　個人面談②
現在、将来について
第 6 回　データ収集
得られたデータの分析。
論文構成を立てる。
第 7 回　データ入力①
パソコンにデータ入力し、一覧やグラフを作成して分析を行う。
第 8 回　データ分析
得られたデータを分析し、必要に応じて再度データ収集を行う。
アンケートの追加および追加実験の実施。
第 9 回　卒論執筆開始
構成した順に、「はじめに」「研究方法」を書き始める。
第 10 回　卒論執筆②
参考文献を活用しながら考察を行い書き進める。
第 11 回　中間発表
卒論の進捗状況について発表する。
第 12 回　卒論執筆③
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
第 13 回　卒論執筆④
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
第 14 回　卒論執筆⑤
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
第 15 回　ふりかえり
後期に向けて計画の見直しを行う。
〔成績評価〕
自主性（40点）
積極性（30点）
計画性（30点）
〔教科書〕
特になし。授業中に適宜資料を配布する。
〔参考文献〕
特に限定していない。
各自が必要に応じて検索して引用する。
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
日時を相談後、研究室にて行う。

演習Ⅱ【健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学に関する研究】

8472

臨床教育学部 > 教育学科
4単位　後期
西山　　清子

〔到達目標〕
教員志望者は教員採用試験に合格する。
就職希望者は12月に内定を得る。
健康運動実践指導者志望者は資格試験に合格する。
卒業論文は11月30日提出する。
〔授業の概要〕
目標達成にむけて、月間目標、週間目標を立てた生活を送る。
それぞれが課題を見つけて、解決するために協力し合う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
興味のある本や雑誌を読むことで、読解力を身に付ける。
ニュースを観たり聞くことで、社会情勢を知ったり語彙力を身に付ける。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
後期の生活計画を立てる。
第 2 回　アンケートおよび実験の確認
得られたデータの解析の見直し。
予備実験および予備調査の結果を分析。
得られたデータによる考察を行う。
第 3 回　パソコン操作および引用文献について
グラフおよび表の作成。
考察に必要な参考文献を読み、引用箇所を確認する。

第 4 回　論文構成の確認
データの確認や考察の順序を確認する。
進捗状況の確認。
第 5 回　進捗状況につて中間発表
アンケートおよび実験の進捗状況について報告する。
第 6 回　卒論執筆①
卒論規定に沿って各自、空き時間や自宅でも書き進める。
わからないことや問題点を見つける。
構成を確認する。
第 7 回　卒論執筆②
卒論規定に沿って各自、空き時間や自宅でも書き進める。
得られたデータでの考察を行う。
第 8 回　卒論執筆③
卒論規定に沿って各自、空き時間や自宅でも書き進める。
得られたデータでの考察を行う。
第 9 回　卒論執筆④
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
グラフ作成。表の作成。
第 10 回　卒論執筆⑤
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
統計処理の説明。
第 11 回　卒論執筆⑥
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
参考文献を引用しながら考察する。
第 12 回　卒論執筆⑦
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
参考文献を引用しながら考察する。
考察しながら課題を見つける。
第 13 回　卒論執筆⑧
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
参考文献を引用しながら考察する。
卒論規定や誤字脱字の確認を行う。
第 14 回　卒論執筆⑨
各自、空き時間や自宅でも書き進める。
卒論規定や誤字脱字の確認を行う。
第 15 回　卒論の提出
卒論規定を確認して、問題なければ提出する。
学生同士で、読み合わせて卒論規定や誤字脱字の確認を行う。

〔成績評価〕
取り組み姿勢（30点）
責任感（30点）
協調性（20点）
コミュケーション能力（20点）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献〕
特に限定しない。
各自が必要に応じて検索して引用する。

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ、資格取得希望者のみ、その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
日時を相談後、研究室にて行う。

教養の数理

1117

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　前期
齋藤　　治

〔到達目標〕
日常生活や社会生活の場面で数学がどのように使われ、応用されていくプロセスについて、原理的な観点から理解ができるようになる。加えて科学技術の知識を深めることができる。

〔授業の概要〕
数字が持つ意味をより理解することで、応用的な活用により実用製品の改良や工夫の原点となる論理思考を深めることができるスキルアップを目指す。アクティブラーニング、学習者同士の意見交換を取り入れ、理解度をより深める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テーマに沿った小課題を都度出題予定なので、事後30分程度の検証復習ワークが望ましい。また、次回のテーマに沿った内容での事前リサーチ（20分程度）を希望します。

〔授業計画〕
第 1 回　グラフと表の表現
数字を並べた表、それを用いたグラフによる描画により、数字がもつ値の表現力向上となる概念を理解できるようになる。
第 2 回　データの把握
異なった数字同士を関連付けて並べることにより、何等かの法則や傾向の特徴について理解ができるようになる。
第 3 回　集合の概念
同じ、あるいは異なった属性に分類、区分けすることにより、データ識別という効率的な処理方法についての理解ができるようになる。
第 4 回　データの計算処理
統計を処理する際の基本となる合計、平均、偏差、分布といった指数の概念が理解できるようになる。
第 5 回　金利、為替、商取引での計算
商取引、財務などで用いる貨幣計算を使った実例場面で用いる、独特な用語の背景を理解することができるようになる。

第 6 回　数値比較による選択
複数ある工業製品などが示す性能を表示する数字から、品質や性能の程度を理解することができるようになる。
第 7 回　スコアシートによる選択
メリット、デメリットをスコア化したマトリックスを用い、特徴に応じてセレクトができるようなスキルを磨くことができるようになる。
第 8 回　確立、期待値による選択
例えば、天気や気温の変動によって服装や持ち物を変化させる判断基準などを論理的に理解をすることが出来るようになる。
第 9 回　平均値を用いた予測
平均、という数値が持つ標準的、という概念から得られる、予想の範囲や評価についての理解することができるようになる。
第 10 回　加重平均を用いた予測
単なる平均だけでは表現が困難な加重平均を用いた予測によって得られる範囲や特徴について理解ができるようになる。
第 11 回　関数を用いた予測
複雑な動作を関数により、単純化する思考について、理解ができるようになる。
第 12 回　データの適切なグラフ表現について
限られたデータから得られた相関関係を適切に表現することの重要性について、理解が深まることが出来るようになる。
第 13 回　有効数字や計算精度の意味について
数字が持つ価値や、範囲についての正しい理解ができるようになる。
第 14 回　複雑系を数値で示すための表現技法
どの実務分野において、解（こたえ）が簡単には求まらない事例があることについて、数値的な感性をもって真相の理解ができるようになる。
第 15 回　各テーマでの関心度合いを集計
受講者が各テーマにおいて一番関心が高い内容、低い内容の数値的評価が理解できるようになる。

〔成績評価〕
毎回、都度小レポートを課した内容の提出をもって評価（80%）
最終の定期試験前でのまとめレポート（20%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.学期：前期
2.曜日・時間：水曜日　10：00～11：30
3.場所：研究棟2F電気研究室
4.連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.その他　LMS 科目です。可能な限り、フォリーのメールで、送ってください。

生活の物理

1117

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
齋藤　　治

〔到達目標〕
日常生活場面、ビジネスシーンで活用されている様々な道具（ツール）の動作原理や基本的な特徴について、科学（サイエンス）的な思考や判別ができるようになる。

〔授業の概要〕
物理的な原理そのものを探求するのではなく、身近なアイテムを引用したテーマを積極的に用いて理解を深めていく。アクティブラーニング形式にて応用事例について考察を深め、学習者間同士での意見交換も行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
テーマに沿った小課題を都度出題予定なので、事後30分程度の検証復習ワーク、また次回テーマに関する事前リサーチ（約20分）を希望します。

〔授業計画〕
第 1 回　運動力学の３法則
ニュートン力学（相対速度、質量、慣性、加速度、力、作用、反作用）の概念について理解することができるようになる。
第 2 回　物体の運動方程式
古典のニュートン力学の他、解析力学、流体力学、量子力学、といった分野での簡単な考え方についての理解ができるようになる。
第 3 回　円運動、向心力、遠心力
特に工学分野で理解が必要となるこれら回転系運動での諸計算準備のための基礎的な理解ができるようになる。
第 4 回　摩擦、空気抵抗、浮力
空気や水によって生じる抵抗成分、浮力、摩擦といった概念についての理解が深まることができるようになる。
第 5 回　仕事とエネルギー
仕事量、仕事率、重力の位置エネルギー、弾性力、力学的エネルギー保存の法則などについての理解を深めることができるようになる。
第 6 回　熱とエネルギー
熱と温度、熱の移動、熱運動、内部エネルギーについての概念についての理解を深めることができるようになる。
第 7 回　波動とエネルギー
波動の周期、振動数、伝達速度、波動の反射と重ね合わせ、定常波、縦波、横波についての理解を深めることができるようになる。
第 8 回　音波

音についての具体的な理解を深めることができるようになる。
第 9 回　電気とエネルギー
電荷、電気力、クーロン力、についての概念について、理解を深めることができるようになる。
第 10 回　電気と磁気、磁界、電磁誘導、電磁波
電磁気学の分野についての理解を深めることができる。
第 11 回　人類とエネルギーの利用
化石燃料、原子力エネルギー、太陽光発電、潮力風力発電、のそれぞれの特徴について、理解を深めることができる。
第 12 回　再生可能エネルギー
再生可能なエネルギーの種類や方法についての理解を深めることができる。
第 13 回　電気の種類、単位、計算
直流、交流、抵抗、電力、ジュール熱、電力量といった電気に関わる諸単位の計算などについての理解を深めることができる。
第 14 回　弦楽器、管楽器、音波
楽器の種類によって音色が異なる仕組みについての理解を深めることができる。
第 15 回　物理で使用する単位
物理量の単位、数値、計算方法などについて、基本的な理解を習得できるようになる。

〔成績評価〕
毎回、都度小レポートを課した内容の提出をもって評価（80%）
最後の定期試験前でのまとめレポート（20%）

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.学期：後期
2.曜日・時間：水曜日　10：00～11：30
3.場所：研究棟2F、電気研究室
4.連絡先（メールアドレス）saito@ashiya-u.ac.jp　…@を半角で
5.その他　※LMS科目です。可能な限り、フォリーのメールで送ってください。

教職総合演習Ⅲ-1（教職教養）

7008

臨床教育学部 > 教育学科
4年
1単位　前期
笠原　清次

〔到達目標〕
○教職者として必要な学校教育に係る様々な知識・情報を整理し、まとめる。
○教職教養の知見を広げ深めるとともに、教職者としてあるべき姿について考察を深めることができる。

〔授業の概要〕
○教育法規、教育史、教育原理、教育時事等関係資料を調べ、教職教養の理解を確かなものにする。
○教員の在るべき姿や学校教育の在り方について、話し合い活動を通して理解を広げ、教育課題について自分の考えをまとめる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
毎回､授業で取り上げる資料を繰り返し読んでおく｡(３０分)
授業時に学修した内容を中心に，練習問題を解き理解を定着させる。(６０分)

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の到達目標及び概要，進め方，予習・復習の仕方，授業計画及び評価について理解する。
第 2 回　教育法規１
学校教育に関する法規を調べ，まとめる。
第 3 回　教育法規２
教職員に関する法規を調べ，まとめる。
第 4 回　教育法規３
教育法規についてまとめる。
第 5 回　教育原理１
人権教育関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 6 回　教育原理２
特別支援関係法規・資料を調べ，まとめる。
第 7 回　教育原理３
学校安全・防災教育等関係資料を調べ，まとめる。
第 8 回　教育時事１
中教審関係資料等を調べ，まとめる。
第 9 回　教育時事２
文部科学省通知・通達を調べ，まとめる。
第 10 回　教育時事３
その他各種関係資料，手引き等を調べ，まとめる。

第 11 回　教育史1
西洋教育史を調べ、まとめる。
第 12 回　教育史２
日本教育史を調べ、まとめる。
第 13 回　教育心理１
発達・学習理論を調べ、まとめる。

第 14 回　教育心理２
　　教育評価・人格心理検査等を調べ、まとめる。
第 15 回　教職教養のまとめ
　　教職教養に関する要点を整理し，理解を深める。

〔成績評価〕

テスト（６０％）
学習姿勢・態度(４０％)

〔教科書〕

自作テキスト「教職教養資料①教育法規編」「　〃　②人権教育・特別支援教育編」「　〃　③教育時事編」「　〃　教育史・教育心理編」

問題プリントは毎回配付する。

〔参考文献〕

「教職教養ランナー 2022年度版」(一ツ橋書店)

〔履修条件〕

前期・後期も履修することが望ましい、教職課程履修者のみ

〔備考〕

参考文献を予習・復習時に活用し，理解を深める。

〔オフィスアワー〕

①前　期：月曜日と火曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

教職総合演習Ⅳ-2（数学）

7009

臨床教育学部 ＞ 教育学科
3年
15単位　後期
笠原　　清次

〔到達目標〕

学習指導の要となる数学（算数）の専門的な知識と教養を深めて、教科学習の指導力を向上することができる。

〔授業の概要〕

１．数学科（算数科）の指導内容及び指導上の留意事項の理解を深める。
２．数学の問題の解き方を話し合い、解く技能を高める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

１．基礎的な問題は毎回予習する。(60分)
２．授業終了後に毎回復習問題を課すので、翌週までに解く。(30分)

〔授業計画〕

第 1 回　学習指導要領理解
　　算数(数学)指導の要点を調べ整理する。
第 2 回　数学演習1
　　数学演習問題基礎（数と式）を解く。
第 3 回　数学演習2
　　数学演習問題応用（数と式）を解く。
第 4 回　数学演習3
　　数学演習問題基礎（方程式の利用）を解く。
第 5 回　数学演習4
　　数学演習問題応用（方程式の利用）を解く。
第 6 回　数学演習5
　　数学演習問題基礎（関数）を解く。
第 7 回　数学演習６
　　数学演習問題応用（関数）を解く。
第 8 回　数学演習７
　　数学演習問題基礎（平面図形）を解く。
第 9 回　数学演習８
　　数学演習問題応用（平面図形1）を解く。
第 10 回　数学演習９
　　数学演習問題応用（平面図形2）を解く。
第 11 回　数学演習１０
　　数学演習問題基礎（空間図形）を解く。
第 12 回　数学演習１１
　　数学演習問題応用（空間図形）を解く。
第 13 回　数学演習１２
　　数学演習問題基礎（確率）を解く。
第 14 回　数学演習１３
　　数学演習問題応用（確率）を解く。
第 15 回　学習のまとめ
　　自己の課題に挑戦する。

〔成績評価〕

テスト（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）

〔教科書〕

小学校学習指導要領解説算数編（平成29年7月　文部科学省）
中学総合的研究問題集　数学　三訂版（旺文社）

〔参考文献〕

授業ごとに補充問題プリントを配付する。

〔履修条件〕

教職課程履修者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

①前　期：.水曜日と木曜日の１４時～１５時
②場　所：授業終了後に教室(または１号館101研究室)で対応します。
③連絡先：kasahara@ashiya-u.ac.jp宛にメールかphollyのメッセージで質問・相談をしてください。
④その他：来室の際は、前もってメールで予約を取ること。

演劇Ⅱ-2

1910

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
谷　えりか

〔到達目標〕
・舞踊表現に通ずる、演劇的要素をより豊かに表現出来る技術の習得を目指す
・ステージ作りにおいてより理解を深める
〔授業の概要〕
・声と動きでの表現
・オーディションからリハーサルを経て、ショーケースを行う
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・リハーサルでの復習及びショーケースに向けての事前準備をしておくこと
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　ショーケースについての説明
第 2 回　トレーニング及びショーケースのリハーサル
　　発声や体現の応用トレーニング及びショーケース作品の本読み
第 3 回　トレーニング及びショーケースのリハーサル
　　発声や体現の応用トレーニング及びショーケース作品の配役オーディション
第 4 回　トレーニング及びショーケースのリハーサル
　　発声や体現の応用トレーニング及び決定した配役での本読み
第 5 回　ショーケースのリハーサル
　　立ち稽古
第 6 回　ショーケースのリハーサル
　　ダンスナンバーの振付１
第 7 回　ショーケースのリハーサル
　　ダンスナンバーの振付２
第 8 回　ショーケースのリハーサル
　　ダンスナンバー創作部分の振りづくり
第 9 回　ショーケースのリハーサル
　　シーン稽古１
第 10 回　ショーケースのリハーサル
　　シーン稽古２
第 11 回　ショーケースのリハーサル
　　ダンスナンバーの固め稽古
第 12 回　ショーケースのリハーサル
　　荒通し及び手直し稽古
第 13 回　ショーケースのリハーサル
　　通し稽古１
第 14 回　ショーケースのリハーサル
　　通し稽古２
第 15 回　ショーケース
　　作品発表
〔成績評価〕
授業態度・意欲（70%）
定期試験（30%）
〔教科書〕
必要時、授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
希望日時を応相談

スポーツマネジメント

2040

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
青山　将己

〔到達目標〕
本授業での到達目標は、以下の３点とする。

１．地域スポーツクラブを取り巻く政策や環境、活動を理解する。
２．地域スポーツクラブの設立手法、運営形態を理解する。
３．クラブマネジャーが果たすべき役割や能力について理解する。
〔授業の概要〕
本授業は、スポーツ組織、特に地域スポーツクラブの基礎的概念を学ぶとともに、クラブの経営及び運営に向けた「クラブマネージメント」の手法について理解することを目的とします。また、様々な事例から現場での問題点や解決策について議論するとともに、事業の企画・立案力や問題解決能力、及び当事者意識を高めるためのグループワークを実施します。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：テレビや新聞、WEB等を通して、スポーツクラブに関する情報を収集する。
復習：各回における授業のまとめ、あるいは自身が興味を持ったトピックについて詳細に調べ、理解を深める。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　本講義の目的、内容、評価方法について
第 2 回　スポーツ振興政策について①
　　我が国におけるスポーツ振興政策（スポーツ基本法・スポーツ基本計画）
第 3 回　スポーツ振興政策について②

国外におけるスポーツ振興政策（欧米諸国の事例から）
第 4 回　スポーツクラブについて①
我が国における地域、民間、企業、学校におけるスポーツクラブの仕組み
第 5 回　スポーツクラブについて②
国外におけるスポーツクラブ（イギリス、ドイツ、ニュージーランドの事例から）
第 6 回　総合型地域スポーツクラブ①
総合型地域スポーツクラブの設立背景と理念
第 7 回　総合型地域スポーツクラブ②
総合型地域スポーツクラブの現状と課題
第 8 回　総合型地域スポーツクラブ③
総合型地域スポーツクラブの活動事例の紹介
第 9 回　総合型地域スポーツクラブ④
総合型地域スポーツクラブのマネージメントの仕組み
第 10 回　総合型地域スポーツクラブ⑤
総合型地域スポーツクラブの事業計画について
第 11 回　スポーツ組織の安全管理
スポーツ活動時やスポーツクラブのリスクマネジメントについて
第 12 回　施設管理及び運営
スポーツ施設の運営にあたっての留意点や財務について
第 13 回　クラブ運営におけるホスピタリティ
スポーツクラブでの人と人との関わり合いとサービスについて
第 14 回　クラブ運営における人材育成
スタッフ（クラブマネジャー）、ボランティアのマネージメント
第 15 回　クラブ運営計画
事業計画書の作成とその評価

〔成績評価〕
定期試験：50%
小レポート・レポート：30%
グループワークへの取り組み姿勢：20%

〔教科書〕
使用しない（毎授業、プリントを配布します）。

〔参考文献〕
「スポーツクラブのすすめ–豊かなスポーツライフの実現に向けて–」（地域スポーツ推進研究会編　ぎょうせい）

〔履修条件〕

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
非常勤のため、連絡はaoyama@ashiya-u.ac.jpまで。

スポーツ統計学

2041

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
田路　秀樹

〔到達目標〕
本講義の到達目標は、スポーツ科学における統計の意義を理解し、得られた体力値、競技成績について統計手法を用いて分析することにより動機付け、競技力向上に役立てることである。

〔授業の概要〕
本科目ではエクセルを用いて、１．基本統計量、２．T-スコア、３．相関関係、４．平均値の差の検定の基礎を学び、実際のデータとして、１．全国の体格・体力値、２．大相撲力士の体格、３．プロ野球選手の競技成績を基に分析をグループごとに担当を決めて行い、最終的に結果の発表を行い、お互いに評価しあう。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
配布資料を基にパソコン室で実習を行いながら授業を進めていく。授業終了後は、資料を基に再度パソコンで確認し復習する（90分）。授業前には予習として資料を必ず読んでくる（90分）。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の進め方と内容を説明し、資料を配布する。
第 2 回　度数分布、ヒストグラム
幕内の力士の身長、体重を用い、データの並び替え（身長順、体重順）、度数分布表の作成、ヒストグラムの作成を行う。
第 3 回　代表値
幕内、十両の算術平均、代表値（最頻度、中央値、最大値、最小値）を求める。
第 4 回　散布値
幕内、十両の散布値（偏差、分散、標準偏差、変動係数、歪度、尖度、レンジ）を求める。
第 5 回　T-得点
幕内、十両全員の平均値、標準偏差、BMIの算出する。各力士のT-得点を算出（身長、体重、BMI）する。
第 6 回　相関関係
相関、相関係数、回帰直線を理解する。幕内、十両それぞれのの身長と体重の相関関係を求める。T-得点の身長の順位とT-得点の体重の順位との相関関係を求める。
第 7 回　相関図の作成
幕内、十両の身長と体重の相関図を作成する。T-得点の身長の順位とT-得点の体重の順位との相関図を作成する。
第 8 回　平均値の差の検定
群の比較について理解する。幕内と十両の身長、体重、BMIの比較し、棒グラフに示す。
第 9 回　体格・体力の変化と推移を調べる

スポーツ庁の体力・運動能力調査結果をもとに、体格・体力の年齢別変化と体格・体力の年代別推移をグラフ化する。

第 10 回　プロ野球選手の分析（グループ学習）
プロ野球選手名鑑をもとに、セパ前年度上位3チームのポジション別に得られたデータ（投手26項目、野手26項目）の平均値を求める。

第 11 回　プロ野球ポジション別分析（グループ学習）１
各チームのポジション別（投手、内野手、外野手）をセリーグ、パリーグ別に一要因分散分析を行う。

第 12 回　プロ野球ポジション別分析（グループ学習）２
第11回の授業結果をグラフにしてまとめて発表する。

第 13 回　セリーグ、パリーグの分析（グループ学習）
順位別に見たセリーグとパリーグの比較を行う。投手、内野手、外野手別に各項目のt-検定：群の比較をおこなう。

第 14 回　1位になるための要因について
セパ別に3チームの全データを使用し、１位を3点、2位を2点、3位を3点とした場合、いずれの項目の相関係数が最も高いかを調べる。各自で調べ、その結果をレポートとして提出する。

第 15 回　プロ野球選手のポジション別血液型と出身地
プロ野球選手のポジション別の血液型をカイ二乗検定を用い分析し、関係性があるかを調べてみる。プロ野球選手の多い県はいずれの県であるかも調べてみる。

〔成績評価〕

基礎知識を活用して、与えられた課題を遂行できたものに単位を授与する。到達目標に記載する能力の程度に応じて成績を与える。

成績評価の方法：レポート60％、発表20％、授業中の課題20％

〔教科書〕

授業中に資料を配布する

〔参考文献〕

健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門 、佐藤・長澤・山次著、杏林書院、2009年発行

〔履修条件〕

その他

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

＜記入項目＞

1.学期　後期

2.曜日・時間：水曜日　授業終了後

3.場所：授業教室

4.連絡先（メールアドレス）touji@ashiya-u.ac.jp

5.その他　メールでアポイントメントをとること。

ダンス表現Ⅰ（ハウス）（beg）

臨床教育学部 > 教育学科

2単位　後期

富田　麻里

〔到達目標〕

HOUSE DANCEの基礎STEPを身につける

HOUSE MUSICに合わせてSTEP、ルーティンを踊れるようにSTEPや体の動きのクオリティー、スキルを高める

〔授業の概要〕

ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、STEP練習からルーティンへの流れを反復して行い、動きを動画で撮り確認し注意点を見つけ、半分に分かれてダンスを鑑賞し合い注意するべき点を見つける

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

HOUSE MUSICを聞くようにする、ストレッチ、筋肉トレーニングを行う

習ったSTEPや動きを撮影した動画を見て確認、練習、復習をする

〔授業計画〕

第 1 回　コミュニケーション
ダンスに関しての知識、スキルの度合いを測りながらコミュニケーションをとり、HOUSE MUSICを流しリズムに乗ってもらいそれぞれの状態を確認する

第 2 回　STEP紹介 サイドステップ、パドブレ
カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 3 回　STEP紹介 2ステップ、ルーズレッグ
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 4 回　STEP紹介 サイドウォーク、ファーマー
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 5 回　STEP紹介 シャッフル
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 6 回　STEP紹介 バックスキップ
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する

音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく
第 7 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ ルーティン
習得したSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習
第 8 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する
第 9 回　サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
習得したSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習
第 10 回　サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する
第 11 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
全てのSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習
第 12 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
細かく注意点を説明、動きをクリアにしていく
第 13 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、引き続きクオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する
第 14 回　まとめ
再確認し注意すべき所を再度指摘、良くなった所など見つけて評価する
全体に余裕を持ち流れを保ちながら大きく動けるよう指導
第 15 回　発表
習得したルーティンの発表

〔成績評価〕
実技試験100%
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
1.学期 後期
2.曜日・時間:月曜日 15:30~17:00
3.場所: 4.質問は授業内で受け付けます

ダンス表現Ⅱ-2（ハウス） (beg)

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
富田　麻里

〔到達目標〕
HOUSE DANCEの基礎STEPを身につける
HOUSE MUSICに合わせてSTEP、ルーティンを踊れるようにSTEPや体の動きのクオリティー、スキルを高める
〔授業の概要〕
ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、STEP練習からルーティンへの流れを反復して行い、動きを動画で撮り確認し注意点を見つけ、半分に分かれてダンスを鑑賞し合い注意するべき点を見つける
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
HOUSE MUSICを聞くようにする、ストレッチ、筋肉トレーニングを行う
習ったSTEPや動きを撮影した動画を見て確認、練習、復習をする
〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション
ダンスに関しての知識、スキルの度合いを測りながらコミュニケーションをとり、HOUSE MUSICを流しリズムに乗ってもらいそれぞれの状態を確認する
第 2 回　STEP紹介 サイドステップ、パドブレ
カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明するってみる→反復し体で感覚を掴んでいく
第 3 回　STEP紹介 2ステップ、ルーズレッグ
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく
第 4 回　STEP紹介 サイドウォーク、ファーマー

前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 5 回　STEP紹介 シャッフル
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明するに合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 6 回　STEP紹介 バックスキップ
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 7 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ ルーティン
習得したSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 8 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 9 回　サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
習得したSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 10 回　サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 11 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
全てのSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 12 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
細かく注意点を説明、動きをクリアにしていく

第 13 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、引き続きクオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 14 回　まとめ
再確認し注意すべき所を再度指摘、良くなった所など見つけて評価する
全体に余裕を持ち流れを保ちながら大きく動けるよう指導

第 15 回　発表
習得したルーティンの発表

〔成績評価〕
実技100%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学期 後期
2.曜日・時間:月曜日 15:30~17:00
3.場所: 4.質問は授業内で受け付けます

ダンス表現Ⅲ-2（ハウス）（beg）

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
富田　麻里

〔到達目標〕
HOUSE DANCEの基礎STEPを身につける
HOUSE MUSICに合わせてSTEP、ルーティンを踊れるようにSTEPや体の動きのクオリティー、スキルを高める

〔授業の概要〕
ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、STEP練習からルーティンへの流れを反復しい、動きを動画で撮り確認し注意点を見つけ、半分に分かれてダンスを鑑賞し合い注意するべき点を見つける

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
HOUSE MUSICを聞くようにする、ストレッチ、筋肉トレーニングを行う
習ったSTEPや動きを撮影した動画を見て確認、練習、復習をする

〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション
ダンスに関しての知識、スキルの度合いを測りながらコミュニケーションをとり、HOUSE MUSICを流しリズムに乗ってもらいそれぞれの状態を確認する

第 2 回　STEP紹介 サイドステップ、パドブレ

カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明するってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 3 回　STEP紹介 2ステップ、ルーズレッグ
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 4 回　STEP紹介 サイドウォーク、ファーマー
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 5 回　STEP紹介 シャッフル
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 6 回　STEP紹介 バックスキップ
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 7 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ ルーティン
習得したSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 8 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 9 回　サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
習得したSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 10 回　サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 11 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
全てのSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 12 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
細かく注意点を説明、動きをクリアにしていく

第 13 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、引き続きクオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 14 回　まとめ
再確認し注意すべき所を再度指摘、良くなった所など見つけて評価する
全体に余裕を持ち流れを保ちながら大きく動けるよう指導

第 15 回　発表
習得したルーティンの発表

〔成績評価〕
実技100%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学期 後期
2.曜日・時間:月曜日 15:30~17:00
3.場所: 4.質問は授業内で受け付けます

ダンス表現Ⅳ-2（ハウス）（beg）

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
富田　麻里

〔到達目標〕
HOUSE DANCEの基礎STEPを身につける
HOUSE MUSICに合わせてSTEP、ルーティンを踊れるようにSTEPや体の動きのクオリティー、スキルを高める

〔授業の概要〕
ストレッチ、アイソレーション、リズムトレーニング、STEP練習からルーティンへの流れを反復しい、動きを動画で撮り確認し注意点を見つけ、半分に分かれてダンスを鑑賞し合い注意するべき点を見つける

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
HOUSE MUSICを聞くようにする、ストレッチ、筋肉トレーニングを行う
習ったSTEPや動きを撮影した動画を見て確認、練習、復習をする

〔授業計画〕

第 1 回　コミュニケーション
ダンスに関しての知識、スキルの度合いを測りながらコミュニケーションをとり、HOUSE MUSICを流しリズムに乗ってもらいそれぞれの状態を確認する

第 2 回　STEP紹介 サイドステップ、パドブレ
カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明するってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 3 回　STEP紹介 2ステップ、ルーズレッグ
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 4 回　STEP紹介 サイドウォーク、ファーマー
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 5 回　STEP紹介 シャッフル
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 6 回　STEP紹介 バックスキップ
前回の復習、カウントでゆっくり説明、足の使い方、体の使い方を説明する
音楽に合わせて踊ってみる→反復し体で感覚を掴んでいく

第 7 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ ルーティン
習得したSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 8 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 9 回　サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
習得したSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 10 回　サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 11 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
全てのSTEPを組み合わせたルーティン
カウントでゆっくり説明、練習、音楽に合わせ反復練習

第 12 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、クオリティーをあげていく
細かく注意点を説明、動きをクリアにしていく

第 13 回　サイドステップ、パドブレ、2ステップ、ルーズレッグ、 サイドウォーク、ファーマー、シャッフル、バックスキップ ルーティン
前回の復習、引き続きクオリティーをあげていく
2グループに分けて踊り合い、お互いのダンスを見て注意点を探す
再び練習、動画を撮って確認する

第 14 回　まとめ
再確認し注意すべき所を再度指摘、良くなった所など見つけて評価する
全体に余裕を持ち流れを保ちながら大きく動けるよう指導

第 15 回　発表
習得したルーティンの発表

〔成績評価〕

実技100%

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

特になし

〔履修条件〕

〔備考〕

教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕

1.学期　後期
2.曜日・時間：月曜日　15：30～17：00
3.場所：
4.質問は授業内で受け付けます

ヒップホップⅠ（作品）（int）

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
佐伯　一哲

〔到達目標〕
作品を通して、自分との対話を行い、自分の可能性を広げる。また、作品を一緒に作るメンバーとのコミュニケーションを言葉と身体で感じ、作品としての一体感を大切にする。
〔授業の概要〕
作品に対するイメージや、歌詞の意味を具体化し構成と振り付けを関連づける。
振り写し３曲、のち構成。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
作品で使用する音楽の歌詞を読む。
振り付けで必要なアイソレ、リズムの反復練習。
振り付けの練習
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　自己紹介。発表までの流れを確認。作品の大まかな流れを確認。
第 2 回　振り付けA前半
　１曲目の振り付けを進める。
第 3 回　振り付けA後半
　１曲目の振り付けを完成させる。
第 4 回　振り付けB前半
　２曲目の振り付けを進める。
第 5 回　振り付けB後半
　２曲目の振り付けを完成させる。
第 6 回　振り付けC前半
　３曲目の振り付けを進める。
第 7 回　振り付けC後半
　３曲目の振り付けを完成させる。
第 8 回　構成A
　１曲目の構成をつける。
第 9 回　構成B
　２曲目の構成をつける。
第 10 回　構成C
　３曲目の構成をつける。
第 11 回　改善
　１作品の流れを確認し、個々の改善点を見つける。
第 12 回　改善、踊り込み
　お互いに作品を見合い、流れを理解する。
　インプットとアウトプットをしっかり行う。
第 13 回　踊り込み
　お互いに作品を見合い、流れを理解する。
　インプットとアウトプットをしっかり行う。
第 14 回　踊り込み
　作品をクリアにする。
第 15 回　完成
　発表
〔成績評価〕
授業関心、意欲、積極性の総合点
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
特になし。

ヒップホップⅡ-1（作品）（int）

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
佐伯　一哲

〔到達目標〕
HIPHOPを中止に様々な音楽に触れ合い、リズムにのったり、歌詞の意味を理解したり、音楽に対する深みを学び、体現化、コミュニケーションをとる。
〔授業の概要〕
様々な曲を聴いて、アイソレーション、リズムトレーニングを体で覚え、ルーティーン（振付）で成果を発表する。
作品に対するイメージを具体化し、構成と振り付けを関連づける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
次週までの振付復習（２週で１曲完成）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　授業の大まかな流れを確認
第 2 回　コンビネーションA前半
　ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング、コンビネーションの順に進む。
第 3 回　コンビネーションA後半
　ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング、コンビネーションの順に進む。
第 4 回　コンビネーションA完成
　コンビネーションAの総復習を行い、構成をつける。
第 5 回　コンビネーションB前半
　ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング、コンビネーションの順に進む。
第 6 回　コンビネーションB後半
　ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング、コンビネーションの順に進む。
第 7 回　コンビネーションB完成
　コンビネーションBの総復習を行い、構成をつける。

第 8 回　コンビネーションC前半
ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング、コンビネーションの順に進む。
第 9 回　コンビネーションC後半
ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニング、コンビネーションの順に進む。
第 10 回　コンビネーションC完成
コンビネーションCの総復習を行い、構成をつける。
第 11 回　コンビネーションD前半
自分達で曲決め、振り分けのミーティングを行う。
第 12 回　コンビネーションD後半
振り付けの落としあいを行う。
第 13 回　コンビネーションD構成
自分達で構成を作る。
第 14 回　コンビネーションD改善
振付や、構成を客観的に捉え改善を行う。
第 15 回　総合発表（コンビネーションD完成）
一つの作品を作り上げる。

〔成績評価〕
授業関心、意欲、積極性の総合点
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
ない場合は「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」など
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
○専門演習・集中講義を含む全科目、各期最低１日、最高２日まで設定してください。
○複数担当する科目は、代表の先生方が取りまとめていただいても構いません。
○対面授業はせずにLMS授業のみの先生方は、メールなどで学生からの質問や相談に対応
をお願いします。
○相談場所は原則、専任の先生方は教員研究室、非常勤の先生方は講義教室でお願いしま
す
＜記入項目＞記入例
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：月曜日　11：30～12：30
3.場所：1号館３階、教員研究室　120
4.連絡先（メールアドレス）kyoumu@ashiya-u.ac.jp
5.その他　※来室前にメールでアポイントメントをとること。
※LMS科目なので、メールで質問等を送ってください。次回の授業までに
回答します。

ヒップホップⅣ-1（作品）（int）

臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
佐伯　一哲

〔到達目標〕
HIPHOPを中止に様々な音楽に触れ合い、リズムにのったり、歌詞の意味を理解したり、音楽に対する深みを学び、体現化、コミュニケーションをとる。
〔授業の概要〕
作品を通して、自分との対話を行い、自分の可能性を広げる。また、作品を一緒に作るメンバーとのコミュニケーションを言葉と身体で感じ、作品としての一体感を大切にする。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
作品に対するイメージや、歌詞の意味を具体化し構成と振り付けを関連づける。
振り写し３曲、のち構成。作品で使用する音楽の歌詞を読む。振り付けで必要なアイソレ、リズムの反復練習。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
自己紹介。発表までの流れを確認。作品の大まかな流れを確認。
第 2 回　振り付けA前半
１曲目の振り付けを進める。
第 3 回　振り付けA後半
１曲目の振り付けを完成させる。
第 4 回　振り付けB前半
２曲目の振り付けを進める。
第 5 回　振り付けB後半
１曲目の振り付けを完成させる。
第 6 回　振り付けC前半
３曲目に振り付けを進める。
第 7 回　振り付けC後半
３曲目の振り付けを完成させる。
第 8 回　構成A
構成をつける。
第 9 回　構成B
構成をつける。
第 10 回　構成C
構成をつける。
第 11 回　改善
１作品の流れを確認し、個々の改善点を見つける。
第 12 回　改善、踊り込み
お互いに作品を見合い、流れを理解する。
インプットとアウトプットをしっかり行う
第 13 回　踊り込み
お互いに作品を見合い、流れを理解する。
インプットとアウトプットをしっかり行う

第 14 回　踊り込み
作品をクリアにする。
第 15 回　完成
発表。

〔成績評価〕
授業関心、意欲、積極性の総合点
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
ない場合は「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」など
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
講義終了後

ヒップホップⅢ-1（作品）（int）

臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
佐伯　一哲

〔到達目標〕
作品を通して、自分との対話を行い、自分の可能性を広げる。また、作品を一緒に作るメンバーとのコミュニケーションを言葉と身体で感じ、作品としての一体感を大切にする。
〔授業の概要〕
作品に対するイメージや、歌詞の意味を具体化し構成と振り付けを関連づける。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
振り写し３曲、のち構成。作品で使用する音楽の歌詞を読む。振り付けで必要なアイソレ、リズムの反復練習。
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
自己紹介。発表までの流れを確認。作品の大まかな流れを確認。
第 2 回　振り付けA前半
１曲目の振り付けを進める。
第 3 回　振り付けA後半
１曲目の振り付けを完成させる。
第 4 回　振り付けB前半
２曲目の振り付けを進める。
第 5 回　振り付けB後半
２曲目の振り付けを完成させる。
第 6 回　振り付けC前半
２曲目の振り付けを進める。
第 7 回　振り付けC後半
２曲目の振り付けを完成させる。
第 8 回　構成A
構成をつける。
第 9 回　構成B
構成をつける。
第 10 回　構成C
構成をつける。
第 11 回　改善
１作品の流れを確認し、個々の改善点を見つける。
第 12 回　改善、踊り込み
お互いに作品を見合い、流れを理解する。
インプットとアウトプットをしっかり行う。
第 13 回　踊り込み
お互いに作品を見合い、流れを理解する。
インプットとアウトプットをしっかり行う。
第 14 回　踊り込み
作品をクリアにする。
第 15 回　完成
発表。

〔成績評価〕
授業関心、意欲、積極性の総合点
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
ない場合は「特になし」「授業中に適宜資料を配布する」など
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
特になし。

ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　教育⑤

8215

臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
奥野　拓司

〔到達目標〕
1) 少人数制大学の特色を活かし、学科を越えたよりよい人間関係の構築ができる。
2) 本学で修得すべきことは何かを理解した上で、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。
3) コミュニケーションは明晰かつ批判的に議論し、発表および書くことができるといった主体性・論理性・実行力を培う。
4) 本学の「建学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。
5) 有為な社会人となるために、それぞれの学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力修得の必要性を理解し、各自のキャリアプランを自ら構築する。

〔授業の概要〕
・学科別に20名程度のクラスを編成し、各クラスに1～2名の担任を配置する。
・授業形態は双方向型授業を中心に展開し、全体会(全)および学科別(学科)・クラス別(クラス)授業を軸に活動する。
・学科の3つのポリシーと卒業生の進路に基づき、キャリアプランについてグループディカッション等を通じて考え、自らの学生期間の学習行動計画を立てる。
・Aドリルを活用し、基礎学力向上を図る。
・学生生活上起こりうるトラブルとその解決方法等を学び、グループディスカッション等を通じて、良識ある行動をとるための自己規範を構築する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
予習：グループ討議内容を授業中にプレゼンの発表をすることもある。よって、ＰＣなどの情報機器基礎スキル（Word、パワポ）は、事前に各自で身に着けておくことを推奨する。またノートPCをはじめICT端末を授業に積極的に持ち込むことが望ましい。（２時間）
復習：各講義内容の振り返りをノートにまとめておくこと。また、次週までの課題の提示をすることがあるので、各自が資料を事前に熟読しておくこと。（２時間）
〔授業計画〕
第 1 回 （学科） 授業概要、評価の説明
社会人基礎力シートの作成。Aドリル学習についての説明。
第 2 回 （学科） 学生会活動とその意義（学生部および学友会）
学生会活動についての説明及び学園祭での各イベント内容の周知と役割分担について理解する。
第 3 回 （クラス） 自分を知ろう②(社会人基礎力シートの振り返り及び面談)
社会人基礎力の理解と自身の適性を知る。また、担任と面談をおこない後期の目標設定をおこなう。
第 4 回 （学科） ビジネスマナーについて（DVD映像）
社会人としての常識・礼儀・マナーについて学ぶ。
第 5 回 （学科） 文章による表現力を学ぶ
文章作成の注意点について考える（原稿用紙の書き方、文章を書き始める前に、文章構成、間違いやすい表現など）。また、論文作成のための手法や考え方を学ぶ。
第 6 回 （学科） 情報収集方法と図書館の利用について
文献・情報の利用と研究倫理（著作権・肖像権とSNSの問題点）の理解。論文作成に向けての図書館利用、活用法を知る。
第 7 回 （学科） 先輩の話に学ぶ（本学卒業生による講話）
本学科の先輩の体験について聞き、今後の大学生活に役立てる。
第 8 回 （クラス） グループワークとプレゼンテーションの構想・作成
「自己を高める大学生活について」グループワークをおこない、グループ発表に向けての手順を知る。
第 9 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの準備①
グループでテーマを決め、プレゼンのストーリーを構築する。
第 10 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの準備②
グループで決めたテーマについて、プレゼン資料の作成をおこなう。
第 11 回 （クラス） 協働するプレゼンテーションの実践
プレゼンテーションを御互いに聴き、相互評価（良かった点・改善点）をおこなう。
第 12 回 （学科） SPIテスト
WEBテスト
第 13 回 （学科） プレゼンテーション大会
各クラス１グループ
第 14 回 （学科） 専門演習ガイダンス(各ゼミ担当の教員によるシラバス説明)
3年次に向けての専門演習の選択。および学問を追及するもとして基本的な研究倫理についての説明。
第 15 回 （学科） 教育学科卒論発表会
4年生の卒業研究発表を聞くことで、研究への意識と理解を深める。
〔成績評価〕
平常点(50%)、まとめレポート(20%)、SPIテスト(30％)
授業では毎回課題を出す。その課題によって平常点を評価する。
・小レポート記述（量、質）のポートフォリオ評価をおこなう。
・授業内での発表や参加態度を評価に加味する。
・シラバス内のコミュニケーション演習は学科、クラスによってメニューが異なる。
〔教科書〕
とくになし
〔参考文献〕
ガイダンスの資料、演習用シートなどは必要に応じ、随時配布する。
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

演習Ⅰ

8361

臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　前期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.卒論作成に向けて、中学校現場の現状をリアルに感得することにより、より論文の構想に幅（視野）を拡げ、面接応対の基礎を学ぶ中で、卒論を作成する主体としての自覚を醸成する。
2.教育現場の実状を踏まえ、卒論のテーマを具体的に絞り込むことができ、それを探求しようとする関心・意欲をもつ。
3.相互討論・共同作業によって同僚性を養い、各自の問題意識に基づいた卒論作成が完成できることを目指す。

〔授業の概要〕
「校長室だより」として編集された冊子をテキストとして、中学校現場の全校朝集で話題にされていることを読みながら、自らの実体験と重ね合わせながら、今の学校現場の実状をトピックとして拾い出していく。その一方で、これから卒論を作成する主体としての意識を自覚するため、面接応対やプレゼンテーションの基礎を学ぶ時間も組み込んでいく。
教育現場の実情を踏まえながら、卒論の構想を具体的に絞り込んでいく。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊授業の際に範囲を指定するので次の授業までに「校長室だより」の冊子を読んで授業に臨む
＊授業後の振り返りシートを提出する

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス①
（これからのゼミの展開の見通しや約束事についての理解）
第 2 回　ガイダンス②
（卒業論文の構想について互いの見解を表明し今後なすべきことの確認）
第 3 回　「面接応対の基礎」①
（社会人として求められるマナーや態度の基礎・基本の確認）
第 4 回　「全校朝集の記録から刺激を受けたこと」①「面接応対の基礎」②
（自分自身の中に蓄積されてきた価値観との相違や合致の掘り下げ、面接練習）
第 5 回　「全校朝集の記録から刺激を受けたこと」②「面接応対の基礎」③
（自分自身の中に蓄積されてきた価値観との相違や合致の掘り下げ、面接練習）
第 6 回　「分かりやすいプレゼンテーション」
（論理的な筋道に沿った「説明」の導き方と実践上の留意点）
第 7 回　「全校朝集の記録から刺激を受けたこと」③
（自分自身の中に蓄積されてきた価値観との相違や合致の掘り下げ）
第 8 回　「全校朝集の記録から刺激を受けたこと」④
（自分自身の中に蓄積されてきた価値観との相違や合致の掘り下げ）
第 9 回　「全校朝集の記録から刺激を受けたこと」⑤
（自分自身の中に蓄積されてきた価値観との相違や合致の掘り下げ）
第 10 回　「卒論の構想（テーマ設定の進捗状況）」①
（教育現場の実状を踏まえ、卒論テーマの輪郭を明確化）
第 11 回　「卒論の構想（テーマ設定の進捗状況）」②
（教育現場の実状を踏まえ、卒論テーマの輪郭を明確化）
第 12 回　「卒論の構想（テーマ設定の進捗状況）」③
（教育現場の実状を踏まえ、卒論テーマの輪郭を明確化）
第 13 回　「関連資料の収集の仕方」①
（卒論作成にあたり何を調べ研究する必要があるのかを意見交換し、今後に向けた取組内容の具体化）
第 14 回　「関連資料の収集の仕方」②
（卒論作成にあたり何を調べ研究する必要があるのかを意見交換し、今後に向けた取組内容の具体化）
第 15 回　「後期に向けての課題」
（卒論作成にあたり今後の課題は何かを意見交換し、取組の自覚化）

〔成績評価〕
期末の卒論進捗状況レポート(55%)、振り返りシート(45%)

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
担当教員が編集した「校長室だより」冊子をテキストとして使用、また適宜プリントを配付

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場の日常を綴った冊子をテキストに使用することで、教員を目指そうという志を持つ、持たないに関わらず、自身の将来において『教育』を常に問題意識に持つことができる基礎を醸成する。
あわせて、通知表の記載を指導してきた経験や受験生徒への面接練習に関与してきた経験をもとに、卒論の作成に向けて、論理的な文章の作成方法を学ぶとともに、就職に向けた面接練習なども行う。

〔オフィスアワー〕
金曜日：16:30から17:30
場　所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください
その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

演習Ⅰ

8361

臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
実務経験有
奥野　拓司

〔到達目標〕
1.卒論作成に向けて、中学校現場の現状をリアルに感得することにより、より論文の構想に幅（視野）を拡げ、面接応対の基礎を学ぶ中で、卒論を作成する主体としての自覚を醸成する。
2.教育現場の実状を踏まえ、卒論の記述を資料に基づく具体的なものにすることができ、それを探求しようとする関心・意欲をもつ。
3.卒論を文章化する前に、その筋書・構想（プロット）をどのように組み立てればよいのかを理解し、論文作成の基礎を身に付ける。
4.論文作成の手法を学ぶ中で、ゼミ生全員の相互討論・共同作業によって同僚性を養い、各自の問題意識に基づいた卒論作成が完成できることを目指す。

〔授業の概要〕
「校長室だより」として編集された冊子をテキストとして、中学校現場の全校朝集で話題にされていることを読みながら、自らの実体験と重ね合わせながら、今の教育現場の実状を踏まえた内容へと深めていく。その一方で、これから卒論を作成する主体としての意識を自覚するため、面接応対の基礎を学ぶ時間も組み込んでいく。

卒論の文章化の前に、その筋書・構想（プロット）をどのように組み立てればよいのかを学ぶ。さらに、分かりやすい文章のあり方、正確な表記、明晰な文、明晰な文章展開、など論文作成の基礎を確認する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
＊授業の際に範囲を指定するので次の授業までに「校長室だより」の冊子を読んで授業に臨む
＊授業後の振り返りシートを提出する

〔授業計画〕
第 1 回 「卒論プロット（筋書）の作成」①
（卒論を文章化する前に、その筋書・構想（プロット）の組み立て方を理解）
第 2 回 「卒論プロット（筋書）の作成」②
（卒論を文章化する前に、テーマに沿った筋書・構想（プロット）を作成）
第 3 回 「面接応対の基礎」④
（集団面接や場面指導の実例を紹介）
第 4 回 「分かりやすい文章－論文作成の基礎」
（正確な表記、明晰な文、明晰な文章展開、など論文作成の基礎の確認）
第 5 回 「全校朝集の記録から改めて感じること」①
（「教育」「家庭」「子育て」等の問題を、より現実的・実践的課題として捉える視点を明確化）
第 6 回 「全校朝集の記録から改めて感じること」②
（「教育」「家庭」「子育て」等の問題を、より現実的・実践的課題として捉える視点を明確化）
第 7 回 「全校朝集の記録から改めて感じること」③
（「教育」「家庭」「子育て」等の問題を、より現実的・実践的課題として捉える視点を明確化）
第 8 回 「全校朝集の記録から改めて感じること」④
（「教育」「家庭」「子育て」等の問題を、より現実的・実践的課題として捉える視点を明確化）
第 9 回 「全校朝集の記録から改めて感じること」⑤
（「教育」「家庭」「子育て」等の問題を、より現実的・実践的課題として捉える視点を明確化）
第 10 回 「卒論作成の進捗状況」
（自分の課題を仲間と共有し、同僚性を体得）
第 11 回 「卒論の相互校正」①
（文章の相互校正による、誤字脱字の発見、論点・論旨の不明確な部分を指摘、）
第 12 回 「卒論の相互校正」②
（文章の相互校正による、誤字脱字の発見、論点・論旨の不明確な部分を指摘、）
第 13 回 「卒論「要旨」発表会」①
（自分の研究成果を「自らの言葉で語る」、「仲間の努力に敬意を払う」という社会人精神としての不文律を涵養）
第 14 回 「卒論「要旨」発表会」②
（自分の研究成果を「自らの言葉で語る」、「仲間の努力に敬意を払う」という社会人精神としての不文律を涵養）
第 15 回 「私の生き方」
（卒論を作成しての感想、各人が今後に思い描く人生設計）

〔成績評価〕
卒業論文(70%)、振り返りシート(30%)

〔教科書〕
「特になし」

〔参考文献〕
担当教員が編集した「校長室だより」冊子をテキストとして使用、また適宜プリントを配付

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
【実務経験の活用】
教育現場の日常を綴った冊子をテキストに使用することで、教員を目指そうという志を持つ、持たないに関わらず、自身の将来において『教育』を常に問題意識に持つことができる基礎を醸成する。
あわせて、通知表の記載を指導してきた経験や受験生徒への面接練習に関与してきた経験をもとに、卒論の作成に向けて、論理的な文章の作成方法を学ぶとともに、就職に向けた面接練習なども行う。

〔オフィスアワー〕
金曜日：16:30から17:30
場　所：研究室
連絡先：　　@ashiya-u.ac.jp にメールで質問・相談をしてください

その他：来室の際は、必ず、事前にメールでアポイントを取ってください

教職総合演習Ⅳ-1（理科）

7008

臨床教育学部 ＞ 教育学科
2年
1単位　前期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
小学校教師として必要な理科に関する基礎知識を幅広く学ぶ。
〔授業の概要〕
過去に出題された教員採用試験の問題を中心に学習する。事前に課題を出し、取組んだ課題を授業で発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備物が必要であれば事前に連絡します。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の意義、目的、授業の進め方についての講義。
第 2 回　生命①
　　生物の構造と機能
第 3 回　生命②
　　生命の連続性
第 4 回　生命③
　　生物と環境の関わり
第 5 回　地球①
　　地球の内部と地表面の変動
第 6 回　地球②
　　地球の大気と水の循環
第 7 回　地球③
　　地球と天体の運動
第 8 回　物質①
　　粒子の存在
第 9 回　物質②
　　粒子の結合
第 10 回　物質③
　　粒子の保存性
第 11 回　物質④
　　粒子の持つエネルギー
第 12 回　エネルギー①
　　エネルギーのとらえ方
第 13 回　エネルギー②
　　エネルギーの変換と保存
第 14 回　環境
　　生物と環境
第 15 回　学習指導要領
　　小学校学習指導要領理科
〔成績評価〕
テスト（８０％）
学習姿勢・態度（２０％）
〔教科書〕
小学校教員採用試験　理科問題集　改訂２版
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。
〔オフィスアワー〕
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：月曜日　11：30～12：30
3.場所：1号館３階、教員研究室　１３
4.　Phollyメッセージ
５、前もってメッセージで連絡すること

教職総合演習Ⅳ-2（理科）

7009

臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
実務経験有
毛利　　康人

〔到達目標〕
小学校教師として必要な理科に関する基礎知識を幅広く学ぶ。
〔授業の概要〕
過去に出題された教員採用試験の問題を中心に学習する。事前に課題を出し、取組んだ課題を授業で発表する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
準備物が必要であれば事前に連絡します。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の意義、目的、授業の進め方についての講義。
第 2 回　生命①
　　生物の構造と機能
第 3 回　生命②
　　生命の連続性
第 4 回　生命③
　　生物と環境の関わり
第 5 回　地球①
　　地球の内部と地表面の変動
第 6 回　地球②
　　地球の大気と水の循環
第 7 回　地球③
　　地球と天体の運動
第 8 回　物質①

粒子の存在
第 9 回　物質②
粒子の結合
第 10 回　物質③
粒子の保存性
第 11 回　物質④
粒子の持つエネルギー
第 12 回　エネルギー①
エネルギーのとらえ方
第 13 回　エネルギー②
エネルギーの変換と保存
第 14 回　環境
生物と環境
第 15 回　学習指導要領
小学校学習指導要領理科

〔成績評価〕
テスト（８０％）
学習姿勢・態度（２０％）

〔教科書〕
小学校教員採用試験　理科問題集　改訂２版

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
【実務経験の活用】
教員や指導主事、管理職の経験を活かし、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」で、「教科教育」、「指導案作成」、「模擬授業」、「教育の現状」、「教師の役割」、「今日的な教育課題」などの専門知識や技能の指導を行う。

〔オフィスアワー〕
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：水曜日　11：30～12：30
3.場所：1号館３階、教員研究室　１３
4.　Phollyメッセージ
５、前もってメッセージで連絡すること

ﾎﾞﾃﾞｨﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（ﾊﾞﾚｴⅠ）

臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
百合　真梨奈

〔到達目標〕
バレエを通して正しい姿勢で踊ること、筋肉をコントロールすることを身につける。
バレエの基本の動きを身につけ、他のジャンルのダンスにも活かせるようにする。
パの名前と動きを理解する。

〔授業の概要〕
バーレッスンとセンターレッスンにより構成。
毎回バーからセンターへと一連の流れで様々な動きを学ぶと共に各回ピックアップしたいくつかの動きを重点的に説明し習得する。
それらの反復練習により身体に記憶させるように練習する。
解剖学を取り入れてバレエの動きを学ぶことを通して筋肉や骨格の仕組みを理解する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前後のウォームアップとクールダウン、及び毎日自宅でのストレッチ

〔授業計画〕
第 1 回　実技１
基礎ポジションとパの名前、動きの理解
第 2 回　実技２
筋肉の意識の仕方(主にプリエ・タンジュ)
第 3 回　実技３
バーを正しく持って立つ、重心の移動の仕方(主にタンジュ・デガジェ)
第 4 回　実技４
アームスと上半身の使い方(主にロンドゥジャンブ・アダージオ)
第 5 回　実技５
柔軟性と瞬発力の強化(主にリンバリング・グランバットマン)
第 6 回　実技６
センターで正しく立つ、バレエの身体の方向の理解(主にセンターアダージオ・タンジュ)
第 7 回　実技７
回転の準備(パッセで正しくバランスを取る・顔のスポットの練習)
第 8 回　実技８
回転の練習(主にピルエット・シェネ・ピケ)
第 9 回　実技９
跳躍の準備(主に小さなジャンプ)
第 10 回　実技１０
跳躍の練習(主にアレグロ)
第 11 回　実技１１
跳躍の練習(主に大きいジャンプ)
第 12 回　実技１２
パを組み合わせた踊りの流れを学ぶ(主にグランワルツ)
第 13 回　実技１３
パを組み合わせた動きの流れと呼吸、強弱のつけ方
第 14 回　実技１４
バリエーションを踊り表現を学ぶ
第 15 回　実技１５
バリエーションと前期の総復習

〔成績評価〕
受講態度と成長の度合い

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
1.学期: 前期
2.曜日・時間: 木曜日　17:00-18:00
3.場所: 授業終了後、講義教室にて対応
4.連絡先: yurimari_0622@yahoo.co.jp
5.その他: 来室前にメールでアポイントメントをとること

ﾎﾞﾃﾞｨﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（バレエⅡ）

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
百合　真梨奈

〔到達目標〕
前期で学んだバレエの基礎の理解を深める。
バレエエクササイズを部活やスポーツクラブ等で初心者に解りやすく伝えられるようになることを目指す。
骨格や筋肉の仕組み、またそれらがどの様に動くのかを理解し説明できるようにする。
〔授業の概要〕
毎回行うバーレッスンにより基礎の強化と共に身体の使い方の理解を深める。
バーレッスンを行った後、バレエエクササイズを指導するにあたり必要な知識を毎回のテーマに沿って学ぶ。
各テーマを２回の授業に渡って行い、１回目に学んだことを２回目に実践として学生自身が指導をし、講師がアドバイスや改善点を指摘する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前後のウォームアップとクールダウン。
毎日自宅でのストレッチ。
授業で学んだことを次回までにノートにまとめ復習をする。
〔授業計画〕
第 1 回　実技１
　　バレエの基礎知識(歴史・スタイル・用語)
第 2 回　実技２
　　フロアで行うストレッチの指導法①-1
第 3 回　実技３
　　フロアで行うストレッチの指導法①-2(実践)
第 4 回　実技４
　　バーを使用したバレエエクササイズの指導法①-1(プリエ・タンジュ・デガジェ)
第 5 回　実技５
　　バーを使用したバレエエクササイズの指導法①-2(プリエ・タンジュ・デガジェ　実践)
第 6 回　実技６
　　バーを使用したバレエエクササイズの指導法②-1(ロンドゥジャンブ・リンバリング・グランバットマン)
第 7 回　実技７
　　バーを使用したバレエエクササイズの指導法②-2(ロンドゥジャンブ・リンバリング・グランバットマン　実践)
第 8 回　実技８
　　センターで行うバレエエクササイズの指導法①-1(タンジュ・アダージオ)
第 9 回　実技９
　　センターで行うバレエエクササイズの指導法①-2(タンジュ・アダージオ　実践)
第 10 回　実技１０
　　センターで行うバレエエクササイズの指導法②-1(回転)
第 11 回　実技１１
　　センターで行うバレエエクササイズの指導法②-2(回転　実践)
第 12 回　実技１２
　　センターで行うバレエエクササイズの指導法③-1(跳躍)
第 13 回　実技１３
　　センターで行うバレエエクササイズの指導法③-2(跳躍　実践)
第 14 回　実技１４
　　バーレッスンの指導法(実技４～７)の復習と実践
第 15 回　実技１５
　　センターレッスンの指導法(実技８～１３)の復習と実践
〔成績評価〕
受講態度と成長の度合い
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
1.学期: 後期
2.曜日・時間: 金曜日 11:30～12:30もしくは13:40～14:40
3.場所: 授業終了後、講義教室で対応
4.連絡先: yurimari_0622@yahoo.co.jp
5.その他: 来室前にメールでアポイントメントをとること

ダンスの基礎知識Ⅰ

臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
大西　早紀　佐伯　一哲　田中　梨恵　百合　真梨奈

〔到達目標〕
1. ダンスに関する基礎的知識を身に付ける。
2.教員やダンスインストラクター、及びダンサーとしてのキャリア形成のための素地を養う。

〔授業の概要〕
講義形式に加え、アクティブラーニング、プレゼンテーションも行う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業内で扱う各テーマについて予備知識を持って授業に参加すること。
〔授業計画〕
第 1 回　ダンスの歴史　ジャズダンスを中心に…　　担当：百合　真梨奈
人類はなぜ踊るのか。
人と舞踊の関わりと進化の過程を知り、またそこからどの様にジャズダンスが生まれて現在に至るのかを学ぶ。
第 2 回　ダンスの歴史　ストリートダンスを中心に…
担当：百合　真梨奈
ストリートダンスの概念とその始まり、更にどの様にして様々なスタイルが生まれ発展し現在に至るのか、ストリートダンスの歴史を知ると共にブラックカルチャーへの理解を深める。
第 3 回　音響　　担当：佐伯　一哲
1曲の編集、曲と曲の編集、多数の曲を使う際の起承転結のつけ方等を学ぶ。
難しい事は行わず最低限のことを身に付けて、応用を考えられるような時間とする。サイトはガレッジバンドを使用予定。
第 4 回　照明　　担当：大西　早紀
各照明の名前から使い方や効果を学び、それを踏まえて照明案の基本的な書き方を学ぶ。
第 5 回　セルフプロモーション①自己探索　　担当：田中　梨恵
自分を魅力的に人に伝えるための「セルフプロモーション」について段階的に学ぶ。全６回。
セルフプロモーションとは？自分とは？自分を知るためにできることとは？
自分のこと（長所・短所）を徹底的に知り、探ることによって自己分析を行う。
第 6 回　セルフプロモーション②プロフィールの作成・検索　　担当：田中　梨恵
自己探索で導き出したキーワードから自己紹介の発表。
第 7 回　セルフプロモーション③自分の魅力を開花させるためのツール探し　　担当：田中　梨恵
自分の魅力をさらに活かすためのツールを紹介し、実践する。
第 8 回　セルフプロモーション④自己表現　　担当：田中　梨恵
自分を最大限に表現するためのキャッチコピーや文章の書き方、写真の構図などを知り、①～③で学んだことをもとにSNSを使った自己表現に取り組む。
第 9 回　動画　　担当：大西　早紀
自分に合う撮影機材の選び方、撮影から編集までの流れ、そしてYouTubeやSNSへのアップロードの方法を学ぶ。
第 10 回　ティーチングについて　　担当：大西　早紀
学校、スタジオ、オンラインなど教える場所によって話し方や見せ方が変わるのでそのポイントを押さえながら、スムーズかつ伝わりやすいレッスンの流れを学ぶ。
第 11 回　セルフプロモーション⑤他者から見た自分　　担当：田中　梨恵
インタビュー形式で他己紹介をし、他者から見た自分について認識しセルフプロモーションに活かす。
第 12 回　スタジオ経営・運営　　担当：大西　早紀
経営の土台(資金や開業)について、レッスンの組み方、発表会の開催など、一通りの流れを学ぶ。質疑応答の時間を多めに取る予定。
第 13 回　発表会や公演の開催方法　　担当：大西　早紀
会場選びから押さえ方、また練習から発表会当日までの流れや実務を学ぶ。可能であれば、オンライン公演の開催方法も行う。
第 14 回　海外の現状　　担当：百合　真梨奈
様々な国のダンス・アートシーン、スタイル、流行、ダンサーの生活などを紹介しグローバルなダンサーになるための基礎知識を得る。
第 15 回　セルフプロモーション⑥ 自分のプロフィールを完成させる　　担当：田中　梨恵
セルフプロモーション①～⑤の内容を踏まえ、自己紹介をブラッシュアップさせた最終的なセルフプロモーションの発表を行う。
〔成績評価〕
授業態度・意欲（60%）
レポート・プレゼンテーション（40%）
〔教科書〕
適宜、授業内またはLMSを通して資料を配布する。
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
「セルフプロモーション」についてはLMSを使用するので、LMSでの質問等を送付あるいは掲示板の利用も可。（セルフプロモーション担当：田中梨恵）

ダンス表現Ⅰ（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘ）

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
黒木　かほ

〔到達目標〕
基礎力を高めることで身体操作の可動域を上げる
自己表現を自然とできるようにする
振付をしっかり踊れるようになる
〔授業の概要〕
基礎トレーニング、筋力トレーニング、フロアワーク、ジャンプトレーニングを使い身体操作の可動域を上げ、インプロバイゼーション、コンビネーションを使い自己表現力を高める
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチ、筋力トレーニングを行う
授業で学んだことの復習
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業内容の説明、基礎から筋力トレーニング、フロアワークまでの流れを実際行い自身の能力を知る
第 2 回　基礎トレーニング１呼吸
基礎トレーニングを行う中での呼吸方法を中心に可動域の変化を感じる。筋力トレーニングの必要さを説明し、筋力トレーニングの目的を学ぶ。
第 3 回　基礎トレーニング２下半身ポジション
正しい足のポジション、プリエを使い足の正しい角度などを学ぶ。
プリエを中心としたトレーニングを行い必要性を知る
第 4 回　基礎トレーニング３上半身ポジション
アーム、背中のポジションの大事さを知り、センター軸からの繋がりを感じる。
骨盤移動のトレーニングを加え、振付を踊るための身体作りを行う
第 5 回　基礎、ジャンプトレーニング、フロアワーク１
基礎トレーニングは継続し、ジャンプのトレーニングを加える。空中の下半身操作、上半身操作をできるようにトレーニングする。
フロアワークを使い床での身体操作を学ぶ
第 6 回　フロアワーク２
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを覚える。
第 7 回　フロアワーク３
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを使い、床での体重移動を学ぶ
第 8 回　フロアワーク４
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを使い、床での身体操作をコントロールできるようにする
第 9 回　コンビネーション１
基礎、ジャンプ、フロアトレーニングは継続。
振付を覚える。
第 10 回　コンビネーション２
振付を使い、足の使い方、ポジション、フロアへの自然な入り方など丁寧に説明し、練習する。
第 11 回　コンビネーション３
振付を通して自身の踊り方を見つける。
音の取り方を学ぶ。
第 12 回　インプロバイゼーション１、コンビネーション１
細かい身体操作から即興力につなげ自己表現を学ぶ。
新たにコンビネーションを覚える。
第 13 回　インプロバイゼーション２、コンビネーション２
即興力の幅を広げる。
振付を使い、スキルを上げる。
第 14 回　インプロバイゼーション３、コンビネーション３
コンタクトを使いインプロバイゼーションを行う。踊りながらコミュニケーションをとることを学ぶ。
振付を使い、身体操作の可動域を上げる。
第 15 回　インプロバイゼーション４、コンビネーション４
コンタクトを使いインプロバイゼーションを行う。相手との身体操作方法を学ぶ。
振付を使い、自己表現を研究する。
〔成績評価〕
実技試験を行う
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
1.学期　前期
2.曜日・時間：月曜日　15：30～17：00
3.場所：
4.連絡先　kurokikaho@gmail.com

ダンス表現Ⅱ-1（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘ）

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
黒木　かほ

〔到達目標〕
基礎力を高めることで身体操作の可動域を上げる
自己表現を自然とできるようにする
振付をしっかり踊れるようになる
〔授業の概要〕
基礎トレーニング、筋力トレーニング、フロアワーク、ジャンプトレーニングを使い身体操作の可動域を上げ、インプロバイゼーション、コンビネーションを使い自己表現力を高める
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチ、筋力トレーニングを行う
授業で学んだことの復習
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業内容の説明、基礎から筋力トレーニング、フロアワークまでの流れを実際行い自身の能力を知る
第 2 回　基礎トレーニング１呼吸
基礎トレーニングを行う中での呼吸方法を中心に可動域の変化を感じる。筋力トレーニングの必要さを説明し、筋力トレーニングの目的を学ぶ。
第 3 回　基礎トレーニング２下半身ポジション
正しい足のポジション、プリエを使い足の正しい角度などを学ぶ。
プリエを中心としたトレーニングを行い必要性を知る
第 4 回　基礎トレーニング３上半身ポジション
アーム、背中のポジションの大事さを知り、センター軸からの繋がりを感じる。
骨盤移動のトレーニングを加え、振付を踊るための身体作りを行う
第 5 回　基礎、ジャンプトレーニング、フロアワーク１
基礎トレーニングは継続し、ジャンプのトレーニングを加える。空中の下半身操作、上半身操作をできるようにトレーニングする。
フロアワークを使い床での身体操作を学ぶ
第 6 回　フロアワーク２
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを覚える。
第 7 回　フロアワーク３
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを使い、床での体重移動を学ぶ
第 8 回　フロアワーク４
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを使い、床での身体操作をコントロールできるようにする
第 9 回　コンビネーション１
基礎、ジャンプ、フロアトレーニングは継続。
振付を覚える。
第 10 回　コンビネーション２
振付を使い、足の使い方、ポジション、フロアへの自然な入り方など丁寧に説明し、練習する。
第 11 回　コンビネーション３
振付を通して自身の踊り方を見つける。
音の取り方を学ぶ。
第 12 回　インプロバイゼーション１、コンビネーション１
細かい身体操作から即興力につなげ自己表現を学ぶ。
新たにコンビネーションを覚える。
第 13 回　インプロバイゼーション２、コンビネーション２
即興力の幅を広げる。
振付を使い、スキルを上げる。
第 14 回　インプロバイゼーション３、コンビネーション３
コンタクトを使いインプロバイゼーションを行う。踊りながらコミュニケーションをとることを学ぶ。
振付を使い、身体操作の可動域を上げる。
第 15 回　インプロバイゼーション４、コンビネーション４
コンタクトを使いインプロバイゼーションを行う。相手との身体操作方法を学ぶ。
振付を使い、自己表現を研究する。
〔成績評価〕
実技試験を行う
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
質問は授業内に受付けます

ダンス表現Ⅲ-1（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘ）

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
黒木　かほ

〔到達目標〕
基礎力を高めることで身体操作の可動域を上げる
自己表現を自然とできるようにする
振付をしっかり踊れるようになる

〔授業の概要〕
基礎トレーニング、筋力トレーニング、フロアワーク、ジャンプトレーニングを使い身体操作の可動域を上げ、インプロバイゼーション、コンビネーションを使い自己表現力を高める
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチ、筋力トレーニングを行う
授業で学んだことの復習
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
授業内容の説明、基礎から筋力トレーニング、フロアワークまでの流れを実際行い自身の能力を知る
第 2 回　基礎トレーニング１呼吸
基礎トレーニングを行う中での呼吸方法を中心に可動域の変化を感じる。筋力トレーニングの必要さを説明し、筋力トレーニングの目的を学ぶ。
第 3 回　基礎トレーニング２下半身ポジション
正しい足のポジション、プリエを使い足の正しい角度などを学ぶ。
プリエを中心としたトレーニングを行い必要性を知る
第 4 回　基礎トレーニング３上半身ポジション
アーム、背中のポジションの大事さを知り、センター軸からの繋がりを感じる。
骨盤移動のトレーニングを加え、振付を踊るための身体作りを行う
第 5 回　基礎、ジャンプトレーニング、フロアワーク１
基礎トレーニングは継続し、ジャンプのトレーニングを加える。空中の下半身操作、上半身操作をできるようにトレーニングする。
フロアワークを使い床での身体操作を学ぶ
第 6 回　フロアワーク２
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを覚える。
第 7 回　フロアワーク３
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを使い、床での体重移動を学ぶ
第 8 回　フロアワーク４
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを使い、床での身体操作をコントロールできるようにする
第 9 回　コンビネーション１
基礎、ジャンプ、フロアトレーニングは継続。
振付を覚える。
第 10 回　コンビネーション２
振付を使い、足の使い方、ポジション、フロアへの自然な入り方など丁寧に説明し、練習する。
第 11 回　コンビネーション３
振付を通して自身の踊り方を見つける。
音の取り方を学ぶ。
第 12 回　インプロバイゼーション１、コンビネーション１
細かい身体操作から即興力につなげ自己表現を学ぶ。
新たにコンビネーションを覚える。
第 13 回　インプロバイゼーション２、コンビネーション２
即興力の幅を広げる。
振付を使い、スキルを上げる。
第 14 回　インプロバイゼーション３、コンビネーション３
コンタクトを使いインプロバイゼーションを行う。踊りながらコミュニケーションをとることを学ぶ。
振付を使い、身体操作の可動域を上げる。
第 15 回　インプロバイゼーション４、コンビネーション４
コンタクトを使いインプロバイゼーションを行う。相手との身体操作方法を学ぶ。
振付を使い、自己表現を研究する。
〔成績評価〕
実技試験を行う
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
質問は授業内に受付ます

ダンス表現Ⅳ-1（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘ）

臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　前期
黒木　かほ

〔到達目標〕
基礎力を高めることで身体操作の可動域を上げる
自己表現を自然とできるようにする
振付をしっかり踊れるようになる
〔授業の概要〕
基礎トレーニング、筋力トレーニング、フロアワーク、ジャンプトレーニングを使い身体操作の可動域を上げ、インプロバイゼーション、コンビネーションを使い自己表現力を高める
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
ストレッチ、筋力トレーニングを行う
授業で学んだことの復習
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション

授業内容の説明、基礎から筋力トレーニング、フロアワークまでの流れを実際行い自身の能力を知る
第 2 回　基礎トレーニング１呼吸
基礎トレーニングを行う中での呼吸方法を中心に可動域の変化を感じる。筋力トレーニングの必要さを説明し、筋力トレーニングの目的を学ぶ。
第 3 回　基礎トレーニング２下半身ポジション
正しい足のポジション、プリエを使い足の正しい角度などを学ぶ。
プリエを中心としたトレーニングを行い必要性を知る
第 4 回　基礎トレーニング３上半身ポジション
アーム、背中のポジションの大事さを知り、センター軸からの繋がりを感じる。
骨盤移動のトレーニングを加え、振付を踊るための身体作りを行う
第 5 回　基礎、ジャンプトレーニング、フロアワーク１
基礎トレーニングは継続し、ジャンプのトレーニングを加える。空中の下半身操作、上半身操作をできるようにトレーニングする。
フロアワークを使い床での身体操作を学ぶ
第 6 回　フロアワーク２
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを覚える。
第 7 回　フロアワーク３
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを使い、床での体重移動を学ぶ
第 8 回　フロアワーク４
基礎、ジャンプトレーニングのスキルを磨く。
フロアワークコンビネーションを使い、床での身体操作をコントロールできるようにする
第 9 回　コンビネーション１
基礎、ジャンプ、フロアトレーニングは継続。
振付を覚える。
第 10 回　コンビネーション２
振付を使い、足の使い方、ポジション、フロアへの自然な入り方など丁寧に説明し、練習する。
第 11 回　コンビネーション３
振付を通して自身の踊り方を見つける。
音の取り方を学ぶ。
第 12 回　インプロバイゼーション１、コンビネーション１
細かい身体操作から即興力につなげ自己表現を学ぶ。
新たにコンビネーションを覚える。
第 13 回　インプロバイゼーション２、コンビネーション２
即興力の幅を広げる。
振付を使い、スキルを上げる。
第 14 回　インプロバイゼーション３、コンビネーション３
コンタクトを使いインプロバイゼーションを行う。踊りながらコミュニケーションをとることを学ぶ。
振付を使い、身体操作の可動域を上げる。
第 15 回　インプロバイゼーション４、コンビネーション４
コンタクトを使いインプロバイゼーションを行う。相手との身体操作方法を学ぶ。
振付を使い、自己表現を研究する。

〔成績評価〕
実技試験を行う
〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
質問は授業内に受付けます

ダンス表現Ⅰ（作品）（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘ）

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
黒木　かほ

〔到達目標〕
作品を仕上げ、しっかり踊れるようになること。表現力をしっかり身につける。
〔授業の概要〕
振付を覚え、しっかり練習する。一緒に踊る人とのコミュニケーションをしっかりとる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
基礎練習、筋トレはしっかり続ける。振付の練習をする。
〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション、作品について
作品を一緒に踊るメンバーとインプロバイゼーションでコミュニケーションをとる。作品のテーマを伝え、想像を膨らませる。
第 2 回　振付１
ユニゾンなどの全員が覚えるべき振付を覚える
第 3 回　振付２
前週の振付のテクニックやアームなどの細かいところまでの練習。
第 4 回　振付、個々の振付１
パートごとの振付に入る。パートナリングを覚える。
第 5 回　振付、個々の振付２
パートごとの振付の続き。振付がある部分の練習。
第 6 回　振付、個々の振付３
パートごとの振付の続き。振付のある部分練習。

第 7 回　構成
作品全体の構成、流れを理解する。
作品についてしっかり考え、踊り方を考える。
第 8 回　作品仮通し
最初から最後まで踊りきる。
手直しする部分確認
第 9 回　作品手直し
作品手直しに入る。
細かいところまでしっかり詰めていく。
第 10 回　踊り方、コンタクト
踊り方の質感など作品の中にしっかり入り込む。
パートナリングなど人と踊るときのコンタクトの練習。
第 11 回　踊り方、コンタクト
前週よりさらに作品の質を良くする。
パートナリングを自然とできるように練習する。
第 12 回　作品全体手直し
作品の質が上がった上での手直しを加える。
第 13 回　作品踊り込み
作品通し、踊り込み。修正。
第 14 回　作品踊り込み
踊り込み。
感じたことを話し作品を深める。
第 15 回　発表
まとめ

〔成績評価〕
授業態度（作品を作り上げる過程の姿勢）100%

〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
1.学期　後期
2.曜日・時間：月曜日　15：30～17：00
4.連絡先　kurokikaho@gmail.com

ダンス表現Ⅱ-2（作品）（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘ）

臨床教育学部 ＞ 教育学科
1単位　後期
黒木　かほ

〔到達目標〕
作品を仕上げ、しっかり踊れるようになること。表現力をしっかり身につける。

〔授業の概要〕
振付を覚え、しっかり練習する。一緒に踊る人とのコミュニケーションをしっかりとる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
基礎練習、筋トレはしっかり続ける。振付の練習をする。
〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション、作品について
作品を一緒に踊るメンバーとインプロバイゼーションでコミュニケーションをとる。作品のテーマを伝え、想像を膨らませる。
第 2 回　振付１
ユニゾンなどの全員が覚えるべき振付を覚える
第 3 回　振付２
前週の振付のテクニックやアームなどの細かいところまでの練習。
第 4 回　振付、個々の振付１
パートごとの振付に入る。パートナリングを覚える。
第 5 回　振付、個々の振付２
パートごとの振付の続き。振付がある部分の練習。
第 6 回　振付、個々の振付３
パートごとの振付の続き。振付のある部分練習。
第 7 回　構成
作品全体の構成、流れを理解する。
作品についてしっかり考え、踊り方を考える。
第 8 回　作品仮通し
最初から最後まで踊りきる。
手直しする部分確認
第 9 回　作品手直し
作品手直しに入る。
細かいところまでしっかり詰めていく。
第 10 回　踊り方、コンタクト
踊り方の質感など作品の中にしっかり入り込む。
パートナリングなど人と踊るときのコンタクトの練習。
第 11 回　踊り方、コンタクト
前週よりさらに作品の質を良くする。
パートナリングを自然とできるように練習する。
第 12 回　作品全体手直し
作品の質が上がった上での手直しを加える。
第 13 回　作品踊り込み
作品通し、踊り込み。修正。
第 14 回　作品踊り込み
踊り込み。
感じたことを話し作品を深める。
第 15 回　発表
まとめ
〔成績評価〕
授業態度（作品を作り上げる過程の姿勢）100%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
質問は授業内に受付ます

ダンス表現Ⅲ-2（作品）（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘ）

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
黒木　かほ

〔到達目標〕
作品を仕上げ、しっかり踊れるようになること。表現力をしっかり身につける。
〔授業の概要〕
振付を覚え、しっかり練習する。一緒に踊る人とのコミュニケーションをしっかりとる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
基礎練習、筋トレはしっかり続ける。振付の練習をする。
〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション、作品について
作品を一緒に踊るメンバーとインプロバイゼーションでコミュニケーションをとる。作品のテーマを伝え、想像を膨らませる。
第 2 回　振付１
ユニゾンなどの全員が覚えるべき振付を覚える
第 3 回　振付２
前週の振付のテクニックやアームなどの細かいところまでの練習。
第 4 回　振付、個々の振付１
パートごとの振付に入る。パートナリングを覚える。
第 5 回　振付、個々の振付２
パートごとの振付の続き。振付がある部分の練習。
第 6 回　振付、個々の振付３
パートごとの振付の続き。振付のある部分練習。
第 7 回　構成
作品全体の構成、流れを理解する。
作品についてしっかり考え、踊り方を考える。
第 8 回　作品仮通し
最初から最後まで踊りきる。
手直しする部分確認
第 9 回　作品手直し
作品手直しに入る。
細かいところまでしっかり詰めていく。
第 10 回　踊り方、コンタクト
踊り方の質感など作品の中にしっかり入り込む。
パートナリングなど人と踊るときのコンタクトの練習。
第 11 回　踊り方、コンタクト
前週よりさらに作品の質を良くする。
パートナリングを自然とできるように練習する。
第 12 回　作品全体手直し
作品の質が上がった上での手直しを加える。
第 13 回　作品踊り込み
作品通し、踊り込み。修正。
第 14 回　作品踊り込み
踊り込み。
感じたことを話し作品を深める。
第 15 回　発表
まとめ
〔成績評価〕
授業態度（作品を作り上げる過程の姿勢）100%

〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
質問は授業内に受付ます

ダンス表現Ⅳ-2（作品）（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘ）

臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
黒木　かほ

〔到達目標〕
作品を仕上げ、しっかり踊れるようになること。表現力をしっかり身につける。
〔授業の概要〕
振付を覚え、しっかり練習する。一緒に踊る人とのコミュニケーションをしっかりとる。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
基礎練習、筋トレはしっかり続ける。振付の練習をする。
〔授業計画〕
第 1 回　コミュニケーション、作品について
作品を一緒に踊るメンバーとインプロバイゼーションでコミュニケーションをとる。作品のテーマを伝え、想像を膨らませる。
第 2 回　振付１
ユニゾンなどの全員が覚えるべき振付を覚える
第 3 回　振付２

前週の振付のテクニックやアームなどの細かいところまでの練習。
第 4 回　振付、個々の振付１
パートごとの振付に入る。パートナリングを覚える。
第 5 回　振付、個々の振付２
パートごとの振付の続き。振付がある部分の練習。
第 6 回　振付、個々の振付３
パートごとの振付の続き。振付のある部分練習。
第 7 回　構成
作品全体の構成、流れを理解する。
作品についてしっかり考え、踊り方を考える。
第 8 回　作品仮通し
最初から最後まで踊りきる。
手直しする部分確認
第 9 回　作品手直し
作品手直しに入る。
細かいところまでしっかり詰めていく。
第 10 回　踊り方、コンタクト
踊り方の質感など作品の中にしっかり入り込む。
パートナリングなど人と踊るときのコンタクトの練習。
第 11 回　踊り方、コンタクト
前週よりさらに作品の質を良くする。
パートナリングを自然とできるように練習する。
第 12 回　作品全体手直し
作品の質が上がった上での手直しを加える。
第 13 回　作品踊り込み
作品通し、踊り込み。修正。
第 14 回　作品踊り込み
踊り込み。
感じたことを話し作品を深める。
第 15 回　発表
まとめ

〔成績評価〕
授業態度（作品を作り上げる過程の姿勢）100%

〔教科書〕
特になし
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
質問は授業内に受付ます

演習Ⅱ【ダンス作品制作】

8476

臨床教育学部 > 教育学科
4単位　前期
吉村　節子

〔到達目標〕
Ⅰ-①ダンス作品を制作するための基礎理論を再確認する
-②自身の興味のある方向性を探り、ダンス作品の構築に活かす
-③形式にとらわれない、自由な作品構築の可能性を追求する

Ⅱ卒業・進級制作ステージで自作作品の発表を目指す
〔授業の概要〕
卒業・進級制作ステージの発表にむけて、各自の自作作品を制作する。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自身の興味をひく、音楽・ダンス・ファッション・ドラマ・アート等、心に響くものがあればとにかく何でもよいので、観たり聞いたり感じたりすること。
〔授業計画〕
第 1 回　スケジューリング
卒業・進級ステージにて発表する作品の制作スケジュール、及びレポート執筆までの大まかなスケジュールをたてる。
第 2 回　発表作品のプレゼンテーション
作品テーマの絞り込み、及び音楽・構成・衣装についても発表する。
第 3 回　卒業・進級ステージ演習準備⑴
作品づくりを開始する①
第 4 回　卒業・進級ステージ演習準備⑵
作品づくり②
第 5 回　卒業・進級ステージ演習準備⑶
作品づくり③
第 6 回　卒業・進級ステージ演習準備⑷
作品づくり④
第 7 回　卒業・進級ステージ演習準備⑸
作品づくり⑤
第 8 回　卒業・進級ステージ演習準備⑹
作品づくり⑥
第 9 回　卒業・進級ステージ演習準備⑺
作品づくりの継続及び、卒業・進級ステージの準備（広報の作業開始）①
第 10 回　卒業・進級ステージ演習準備⑻
作品づくりの継続及び、卒業・進級ステージ演習の準備（広報含む）②
第 11 回　調整
これまでの様々な準備の進捗状況の精査
第 12 回　卒業・進級ステージ演習準備⑼
作品づくりの継続及び、卒業・進級ステージ演習の準備（広報含む）③
第 13 回　卒業・進級ステージ演習準備⑽

作品づくりの継続及び、卒業・進級ステージ演習の準備（広報含む）④
第 14 回　卒業・進級ステージ演習準備⑾
作品づくりの継続及び、卒業・進級ステージ演習の準備（広報含む）⑤
第 15 回　卒業・進級ステージ演習準備(12)
夏季休暇のリハーサルスケジュールの作成

〔成績評価〕
授業における課題達成度（50%）、発表作品の完成度（50%）の割合で総合的に評価する。

〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕

〔オフィスアワー〕
1.学期　前期・後期
2.曜日・時間：相談に応じます
3.場所：８号館５F ダンス研究室
4.連絡先（メールアドレス）s-yoshimura@ashiya-u.ac.jp
5.その他　※来室前にメールでアポイントメントをとること。

演習Ⅱ【ダンス作品制作】

8476

臨床教育学部 ＞ 教育学科
4単位　後期
吉村　節子

〔到達目標〕
卒業・進級ステージにて自作作品を発表し、それに関する卒業論文を完成する。

〔授業の概要〕
卒業・進級ステージに向けてのリハーサル、舞台制作スタッフとの打ち合わせ等の上演準備を進行しながら、それらを論文にまとめて発表する。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
自作作品の制作（１時間以上)、先行研究・参考文献の講読（１時間以上)、論文作成（1時間以上）

〔授業計画〕
第 1 回　卒業・進級ステージ演習準備（13）
リハーサル①
第 2 回　卒業・進級ステージ演習準備（14）
リハーサル②
第 3 回　卒業・進級ステージ演習準備（15）
リハーサル③
第 4 回　卒業・進級ステージ演習準備（16）
リハーサル④
第 5 回　卒業・進級ステージ演習準備（17）
リハーサル⑤
第 6 回　卒業・進級ステージの準備（18）
作品の中間発表及び上演準備の確認
第 7 回　卒業・進級ステージの準備（19）
作品手直し及びプログラムの作成
第 8 回　卒業・進級ステージの準備（20）
作品手直し及び衣装確認
第 9 回　卒業・進級ステージの準備（21）
全ての報告と確認
第 10 回　卒論のチェックと手直し（1）
卒論の下書きのチェックとリライト
第 11 回　卒論のチェックと手直し（2）
卒論の下書きのチェックとリライト
第 12 回　卒論のチェックと手直し（3）
卒論の下書きのチェックとリライト
第 13 回　卒論提出
卒論の最終チェック
第 14 回　反省会⑴
完成した「卒業・進級ステージ」の映像を観て、感想を述べる。
第 15 回　反省会⑵
この４年間の大学での学び、また２年間修めた「演習Ⅰ・Ⅱ」に関して、今後どの様に活かしていくかを中心に話し合う。

〔成績評価〕
卒業作品50%
論文査定50%

〔教科書〕
特になし

〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する

〔履修条件〕
前期・後期も履修することが望ましい

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
前期・後期共、相談が必要な場合は、事前にメールにて連絡すること。

幼児体育

4232
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　後期
竹安　知枝

〔到達目標〕
・幼児期の子どもにとっての運動遊びの重要性について説明できる。
・運動の指導スキル（幼児の発達年齢に応じた段階的な指導方法）を身に付ける。
・幼児期における多種多様な運動遊びに関する指導方法について興味・関心を示す。

〔授業の概要〕
実技を中心に行うが、グループごとに実技の練習方法や指導方法について、ディスカッションし、全体で発表を行

う。実技においては、ボールやフラフープを使用した遊びや器械・器具を使った運動遊びを中心に、それらの指導方法について実践的に学ぶ。

講義においては、主に「幼児期の運動（遊び）の重要性」「安全対策」に関する知識について取り上げる。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

【予習】準備運動をしっかりと行い、その日に実施予定の実技の練習も行うこと。また、その日に実施する運動の特徴や環境構成・安全対策についても調べておくこと。（２時間）

【復習】授業内容について自分なりにまとめること。また、苦手な運動種目については、授業後に練習を行い、ストレッチ体操も十分に行うこと。（２時間）

〔授業計画〕

第 1 回　①授業の概要　②幼児期の発育・発達
①授業の概要・評価について
②幼児期における心身の発達について

第 2 回　多様な動きを身につける遊び①
バランス能力を養う遊び

第 3 回　多様な動きを身につける遊び②
音楽を用いた（リズム感覚を養う）遊び

第 4 回　ごっこ遊び
いろいろな鬼ごっこの遊び方

第 5 回　ボール遊び①
０～２歳児向けのボール遊び

第 6 回　ボール遊び②
３～５歳児向けのボール遊び

第 7 回　縄跳び運動（短縄）
前跳び・後ろ跳びができるようになるための段階的な遊び

第 8 回　縄跳び運動（長縄）
長縄を用いた年齢別の遊び方や指導方法

第 9 回　フープ遊び
フープ（大・小）を用いた様々な遊び

第 10 回　マット運動・跳び箱運動
前転・後転・側転等の指導方法
跳び箱の指導方法

第 11 回　鉄棒・平均台
鉄棒や平均台を用いた遊びと指導方法

第 12 回　パラバルーン
パラバルーンの遊び方と指導方法

第 13 回　サーキット遊び
多種多様な動きの組み合わせによる遊びの展開

第 14 回　幼児期の運動（遊び）の重要性・安全対策
幼児期の遊び（運動）が心身に与える影響について
安全対策（遊具の安全点検・応急処置等）について

第 15 回　振り返りとまとめ
様々な場面における運動（遊び）について（ディスカッション）
全体の振り返りとまとめ（発表）

〔成績評価〕

実技テスト　50%
提出物（レポート）30%
学習意欲・授業態度　20%

〔教科書〕

幼稚園教育要領（平成29年3月）文部科学省

〔参考文献〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔履修条件〕

資格取得希望者のみ

〔備考〕

〔オフィスアワー〕

【前期】火曜日:16:00～17:00　【後期】月曜日:16:00～17:00
【場所】第14研究室
【連絡方法】Phollyのメッセージ機能を使用し、連絡してください。

ダンス表現Ⅱ-2（ワック）作品

1915
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
北田　美紀

〔到達目標〕

・腕の動かし方に特徴のあるWAACKの基礎を習得
・DANCEに必要なSOUL DANCE・STEPを習得
・SOUL DANCEやWAACKを踊る際に使用する音楽の紹介
・ストレッチ・リズムトレーニングを行う事でさらに身体表現の可能性を広げる
・全身を使ったダンス表現を目標とする

〔授業の概要〕

・ストレッチ・音楽に合わせて身体の色々な部分を動かしながらの
リズムトレーニング・ステップを行う事で、身体の様々な箇所を使って表現する方法を学ぶ
・WAACKは腕の動かし方に特長のある踊りなので、基礎習得と共に腕肩周りのストレッチ・筋力トレーニング・ケアの方法も伝える
・振付発表と即興で自身を表現し授業のまとめを行う

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕

・SOUL DANCE・STEPの動きと名称確認（復習）
・WAACKの基礎確認（復習）

〔授業計画〕

第 1 回　WAACK入門①・作品振付
WAACKとは・WAACK基礎・リズムトレーニング　WAACKの腕の動かし方と２・３種のSOUL DANCE・作品振り写し８×２

第 2 回　WAACK入門②・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦ライン①）》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（ジゴロ・ナスティ・プレップ）・作品振り写し８×２

第 3 回　WAACK入門③・作品振付

WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦ライン②)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（キャベッジパッチ・ペンギン・ポップコーン）・作品振り写し８×４

第 4 回　WAACK入門④・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦～斜めライン)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（ベビーシッター・ホース・フリッキーディッキー）・作品振り写し８×４

第 5 回　WAACK入門⑤・作品振付
WAACK基礎《腕の巻き上げ下ろし（縦～横ライン)》・リズムトレーニング
２・３種のSOUL DANCE（フォーコーナー・プッシンクール・スパンク）・作品振り写し８×４

第 6 回　WAACK初級①・作品振付
WAACK基礎《BOLLO》・リズムトレーニング（チャチャ横～縦）
作品の振り写し８×４

第 7 回　WAACK初級②・作品振付
WAACK基礎《OPEN～CLOSE》・リズムトレーニング（フリーク・スニーク
・エルボー）・作品の振り写し８×４

第 8 回　WAACK初級③・作品振付
WAACK基礎《横巻き》・リズムトレーニング（マザーポップコーン
・パドブレ）・作品の振り写し８×４

第 9 回　WAACK初級④
WAACK基礎《巻く動きのまとめ①１》・リズムトレーニング（スネーク・ワーム）・作品の振付復習

第 10 回　WAACK初中級①
WAACK基礎《左右違う動き①》・リズムトレーニング（最初から通す）
今日の動きを使った振付８×２

第 11 回　WAACK初中級②
WAACK基礎《左右違う動き②》・リズムトレーニング（最初から通す）
今日の動きを使った振付８×２

第 12 回　後期のまとめ①
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付①８×２

第 13 回　後期のまとめ②
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付②８×２

第 14 回　後期のまとめ③
WAACK基礎《基礎の通し》・リズムトレーニング（最初から通す）
授業のまとめ作品振付③８×２

第 15 回　総合発表
SOUL DANCEの動きと名称
作品発表
全員でディスカッション

〔成績評価〕
・振付発表（60点）
・SOUL DANCEとSTEPの名称と動き（30点）
・振付発表時の即興（10点）

〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
授業終了後

演習Ⅰ（武道・コーチングに関する研究）

8370
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
3年
2単位　前期
伊藤　　武徳

〔到達目標〕
本演習では、健康やスポーツに関わる分野において調査・測定・分析を行い、得られた結果をもとに新しいスポーツの指導方法や健康・スポーツに関する知見を深めていくことを目的としている。

〔授業の概要〕
卒業論文作成に向けて論文作成に関わる基本事項を学習するとともに、自身のテーマを設定するにあたって様々な知見を広げる取り組みや活動を行う。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
PCの操作に関する技能は必須となるので、早めに習熟することが望ましい。

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
授業の概要について

第 2 回　論文についての基礎理解①
感想文やレポートと卒業論文の違いについて

第 3 回　論文についての基礎理解②
グループワークによる実習：論理的な検証とは？

第 4 回　論文についての基礎理解③
研究手順と論文の構成について

第 5 回　論文についての基礎理解④
先行研究の調査方法について

第 6 回　論文についての基礎理解⑤
先行研究の内容をまとめる

第 7 回　論文についての基礎理解⑥
先行研究の内容を発表

第 8 回　論文についての基礎理解⑦
　　先行研究、文献を整理する
第 9 回　論文についての基礎理解⑦
　　論文らしい文章表現について
第 10 回　論文作成のためのＰＣ操作演習①
　　データの入力とグラフ作成
第 11 回　論文作成のためのＰＣ操作演習②
　　データの分析（統計処理）
第 12 回　論文作成のためのＰＣ操作演習③
　　発表のためのパワーポイント作成
第 13 回　論文作成のためのＰＣ操作演習④
　　パワーポイントを用いた模擬研究発表
第 14 回　最近の研究に関するトピック
　　トレーニング科学、健康科学分野における最新の研究について
第 15 回　まとめ
　　前期で学習した内容についてレポート作成

〔成績評価〕
学習意欲と取り組み（50%）、レポート作成（50%）を中心に評価を行う。
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布します
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布します
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②金曜日　15：40〜16：45
③場所：研究棟（1号館）4F23 伊藤研究室
④連絡先：メール（tito@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

演習Ⅰ（武道・コーチング演習に関する研究）

8370
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
3年
2単位　後期
伊藤　　武徳

〔到達目標〕
１）研究内容や研究方法を理解し、実施できる。
２）他者と協力しながら積極的に課題の解決に取り組める。
３）結果や自身の考えを論理的にまとめ、他者に分かりやすく伝えることができる。
４）自身の探求心から主体的に卒業論文のテーマを策定する。

〔授業の概要〕
武道、スポーツ分野での調査、測定、分析、発達段階での育成法や課題等の調査、分析を行う。そして結果の考察や発表、ディスカッション等を通して自身の知見を深めるとともに、それらにより得られた知識を用いたコーチング法や、スポーツ観の確立を目指す。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業外でのレポート（4時間）
パワーポイント資料作成（4時間）
〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
　　後期の内容説明と評価方法について
第 2 回　研究テーマの検討①
　　各自興味関心のある分野・領域のテーマを検討する
第 3 回　研究テーマの検討②
　　テーマについての発表およびディスカッション
第 4 回　先行研究の検討①
　　先行研究を熟読し理解する
第 5 回　先行研究の検討②
　　先行研究を熟読し理解する
第 6 回　テーマ発表の準備①
　　スライド作成など
第 7 回　テーマ発表の準備②
　　スライド作成など
第 8 回　卒業論文テーマ発表会
　　各自テーマを発表する
第 9 回　研究に取りかかるための注意①
　　測定の利点と欠点、注意点などについて
第 10 回　研究に取りかかるための注意②
　　インフォームドコンセント、研究倫理などについて
第 11 回　研究中間報告会①
　　文献収集と進捗状況の情報共有をする。
第 12 回　研究中間報告会②
　　文献収集と進捗状況の情報共有をする。
第 13 回　研究中間報告会③
　　文献収集と進捗状況の情報共有をする。
第 14 回　研究中間報告会④
　　文献収集と進捗状況の情報共有をする。
第 15 回　まとめ
　　後期で学習した内容についてレポート作成
〔成績評価〕
授業に取り組む姿勢　30%
授業内発表　30%
授業内外レポート　40%
〔教科書〕
授業中に適宜資料を配布する
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
①前期・後期共通
②金曜日　15：40〜16：45
③場所：研究棟（本館）4F23 伊藤研究室　国際会議場前
④連絡先：メール（tito@asiya-u.ac.jp）にて対応
⑤基本的に来室の際にはアポイントを取ってください

教職総合演習Ⅳ-1（英語）

7012
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
丹下　秀夫

〔到達目標〕
教員採用試験に出題される英語問題に対応できるだけの文法力、読解力の素地を培い、自ら課題を解決する力を身につける。
〔授業の概要〕
英語学習の基礎を培うために、学習した内容を学生相互で確認し合ったり、疑問を出し合い、課題解決の方法を身につける。そして自立学習の素地を培う。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業課題の予習90分、授業内容の復習９０分は必至である。
〔授業計画〕
第 1 回　会話の基本表現
出題頻度の高い会話文の基本表現を整理する。
近隣自治体の過去問題の傾向を整理する。
第 2 回　英文法①
名詞、形容詞、副詞、疑問詞の役割を具体例をもとに整理する。
第 3 回　英文法②
時制　現在形、過去形、未来を表す表現を整理する。
また、進行形、完了形の特徴を整理する。
第 4 回　英文法③
受動態と比較・最上級を整理する
第 5 回　英文法④
不定詞、分詞の特徴と役割を整理する。
第 6 回　英文法⑤
関係詞の種類と役割、仮定法の構造と役割を整理する。
第 7 回　長文読解①
名詞構文、無生物主語の構文を含んだ英文の読解方法を整理する。
長文の接続詞thatを見極める。
第 8 回　長文読解②
設問の答えを説明文から見つける方法を学習する。
スキミング、スキャニングなどの技法を学ぶ。メール文やニュース記事などの特徴を整理する。
模擬問題の演習。
第 9 回　長文読解③
関係代名詞と関係副詞を見極め、長文の内容を理解する演習を行う。
模擬問題の演習。
第 10 回　長文読解④　　まとめ
強調・倒置・省略・挿入などの特殊構文を整理する。
模擬問題の演習。
〔成績評価〕
授業毎に実施する確認テストを参考に評価する。
〔教科書〕
小学校学習指導要領　外国語活動・外国語（平成29年告示）
よくわかる総合英語問題集　Gakken
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する
〔履修条件〕
〔備考〕
〔オフィスアワー〕
毎週木曜日3限、研究室

教職総合演習Ⅳ-1（理科）

7011
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
渡　康彦

〔到達目標〕
教職に必要な学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と理科の基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付けることができる。
〔授業の概要〕
小学校理科の問題について、協同して課題解決を進めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
授業前の予習（90 分）
授業後の問題解答（90 分）
〔授業計画〕
第 1 回　力のはたらき
力の分解とつり合い、バネの伸び、圧力と浮力などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 2 回　力と運動
等速直線運動や等加速度直線運動、自由落下、鉛直投げ上げ投射などについて演習問題を解き、理解を深める。

第 3 回　エネルギー
力学的エネルギー保存の法則などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 4 回　光と音
光の性質や音の性質などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 5 回　電磁気
オームの法則を用いた電流・電圧・抵抗の大きさや消費電力などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 6 回　物質の構成
物質の分類や化学反応式などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 7 回　物質の状態
質量パーセント濃度や溶解度などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 8 回　物質の変化
酸とアルカリ、中和、酸化還元反応、電気分解などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 9 回　物質の性質
気体の発生と溶液の性質などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 10 回　植物の世界
植物の分類や光合成などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 11 回　動物の世界
ヒトの血液の成分、血液循環、消化酵素、動物の分類などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 12 回　生物のつながり
細胞、遺伝、食物連鎖、物質の循環などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 13 回　大地の変化
火山の形、火成岩の分類、地震などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 14 回　大気の変化
湿度、日本の天気などについて演習問題を解き、理解を深める。
第 15 回　太陽系と宇宙
星の動き、太陽の南中高度、惑星、星座などについて演習問題を解き、理解を深める。

〔成績評価〕
試験（６０％）
学習姿勢・態度（４０％）
〔教科書〕
小学校学習指導要領解説理科編（平成29年7月　文部科学省）
〔参考文献〕
授業中に適宜資料を配布する。
〔履修条件〕
資格取得希望者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
火曜日3時間目としますが、Phollyのメッセージからいつでも対応します

教職総合演習Ⅳ-1（社会）

7014
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　前期
中村　吉次郎

〔到達目標〕
教職に必要な学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と社会科の基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付け、教員採用試験に向けた自学につなげることができる。
〔授業の概要〕
教員採用試験に向けた専門教養社会科の各分野の問題について、課題解決を協働で進めていく。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前の予習（90 分）」
「授業後の問題の復習（90 分）」
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
教員採用試験の過去問題を紹介しながら、講座全体の授業内容のオリエンテーションを行う。
第 2 回　日本史1
「日本の古代から中世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 3 回　日本史2
「日本の近世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 4 回　日本史3
「日本の近代の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 5 回　地理1
「人間と地球に関する」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 6 回　地理2
「世界の国々と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 7 回　地理3
「日本の地理と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 8 回　政治1
「民主主義の基本原理と制度」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 9 回　政治2
「現代政治の特徴」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 10 回　経済1

「現代経済の特質とその働き」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 11 回　経済2
「日本経済史と労働問題や社会福祉等の社会の課題」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 12 回　国際政治
「国際政治に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 13 回　国際経済
「国際経済に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 14 回　環境問題
「環境問題に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 15 回　まとめとテスト
講座全体をふり返り、まとめを行い、評価テストを実施する。

〔成績評価〕
評価テストを実施する。
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
○非常勤のためオフィスアワーはない。
連絡者・中村　整七

教職総合演習Ⅳ-2（社会）

7016
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
1単位　後期
中村　吉次郎

〔到達目標〕
教職に必要な社会科の学習指導要領を基にした指導内容に係る事柄と基礎的知識について学び、その知識や技能を身に付け、教員採用試験に向けた自学につなげることができる。
〔授業の概要〕
教員採用試験に向けた専門教養社会科の各分野の問題について、課題解決を協働で進めていく
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
「授業前の予習（90 分）」
「授業後の復習（90 分）」
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
教員採用試験の過去問題を紹介しながら、講座全体の授業内容のオリエンテーションを行う。
第 2 回　日本史1
「日本の古代から中世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 3 回　日本史2
「日本の近世の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 4 回　日本史3
「日本の近代の歴史」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 5 回　地理1
「人間と地球に関する」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 6 回　地理2
「世界の国々と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 7 回　地理3
「日本の地理と産業」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る
第 8 回　政治1
「民主主義の基本原理と制度」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 9 回　政治2
「現代政治の特徴」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 10 回　経済1
「現代経済の特質とその働き」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 11 回　経済2
「日本経済史と労働問題や社会福祉等の社会の課題」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 12 回　国際政治
「国際政治に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 13 回　国際経済
「国際経済に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 14 回　環境問題
「環境問題に関わること」についての問題に取り組む演習を行い、協働して課題解決を図る。
第 15 回　まとめとテスト
講座全体をふり返るまとめを行い、評価テストを実施する。
〔成績評価〕
評価テストを実施する。(100%)
〔教科書〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔参考文献〕
「授業中に適宜資料を配布する」
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
○非常勤のためオフィスアワーはない。
連絡者・中村　整七

教職実践演習【中高】

教職実践演習【中高】

教職実践演習【中高】

教職実践演習【中高】

3026
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
4年
2単位　後期
水曜 4限
教職課程履修者対象・技術・保健体育への分化

青木　敦英　藤本　光司　三羽　光彦　林　知代　林　泰子　三浦　正樹　中村　光男　奥野　拓司

〔到達目標〕
・中等教育現場で教員として通用するためには使命感や責任感、生徒に対する理解を基本とし、科目に対する専門的な知識ならびに教育スキルが必要とされる。本科目においては、上記のような能力の涵養と定着を目指す。
〔授業の概要〕
第1回から第8回においては、中等教育を取り巻く様々な環境、要因に対する知識の定着を図り、第9回以降は、保健体育、技術それぞれの科目指導に関する専門的な知識の獲得を図る。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
事前学習 : 各回のテーマを確認し、そのテーマに応じて、新聞（時事）や書籍（各論・総論）などを自身で確認する。
事後学習 : 各回の講義を受けて、事前学習時に自分自身が用意した事前の課題への考え方や、捉え方の変化をノートなどに書き留める。
〔授業計画〕
第 1 回　イントロ
　教職実践演習の授業概要と成績評価について
　授業設計と学習評価：評価が4観点から3観点に（担当：藤本）
第 2 回　生徒理解
　特別活動と部活指導（担当：青木）
第 3 回　情報教育
　GIGAスクールと情報モラル（担当：林(泰)）
第 4 回　生徒理解
　発達障害の理解，カウンセリングマインド（担当：林(知)）
第 5 回　生徒理解
　不登校生徒への対応（担当：三浦）
第 6 回　学校運営
　チーム学校とカリキュラムマネジメント（担当：三羽）
第 7 回　生徒指導
　体罰・セクハラ（担当：中村）
第 8 回　人権教育
　いじめ・学級運営（担当：奥野）
第 9 回　採用試験に向けて
　教員採用試験に向けて
　【技術・情報】担当：藤本
　【保健・体育】器械運動の指導理論と実践的指導法および評価方法について
　【社会・公民】担当：奥野
第 10 回　子どものスマホ活用の状況と今後の課題
　【3分野共通】
　ゲスト講師講演
　－　生徒指導で苦労するネットいじめの現状　－
　講師：竹内和雄（兵庫県立大学）
第 11 回　科目別各論【第2回】
　【技術・情報】材料加工の分野と環境教育（SDGs）との関連
　【保健・体育】陸上競技の指導理論と実践的指導法および評価方法について
　【社会・公民】
第 12 回　科目別各論【第3回】
　【技術・情報】エネルギー変換分野の理論と実践および評価の方法
　【保健・体育】武道と水泳の指導理論と実践的指導法および評価方法について
　【社会・公民】
第 13 回　科目別各論【第4回】
　【技術・情報】情報分野の理論と実践および評価の方法
　【保健・体育】球技の指導理論と実践的指導法および評価方法について
　【社会・公民】
第 14 回　科目別各論【第5回】
　【技術・情報】生物育成分野の理論と実践および評価の方法
　【保健・体育】保健分野の理論と実践的指導法および評価方法について
　【社会・公民】
第 15 回　科目別各論【第6回】
　【技術・情報】チーム学校として，これからの教員の資質能力について
　【保健・体育】これからの保健体育科の教員に求められる資質および能力について
　【社会・公民】
第 16 回　最終試験
　最終試験
〔成績評価〕
出席が10／15を下回った場合、最終試験を受けることができない。
評価は最終試験100点満点の評価とするが、授業中の積極性、各回の出席状況を加点要素として最大40点分まで扱う。

〔教科書〕
【技術・情報】指定なし※必要に応じてレジュメなどを配布する。
【保健・体育】指定なし※必要に応じてレジュメなどを配布する。
【社会・公民】
〔参考文献〕
適宜、対象項目の資料を配布する。
〔履修条件〕
教職課程履修者のみ
〔備考〕
1. 履修条件は、教育実習修了者もしくは今期に教育実習を行う学生に限る。
2. 開講計画は、前半に共通のカテゴリー内容で開講。後半は，教科に関する科目担当の専任教員や招聘講師で開講する。
3. 後半の教科は，取得免許とともに卒業後に必要な教科を学生が選択して受講すること。
〔オフィスアワー〕
オフィスアワーは複数担当のため、各教員の指定する時間にアポイントを取っての対応とする。

情報処理技法Ⅱ（文書作成）

3508
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
水曜 4限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　スキルチェック
　　Wordのスキルチェック
第 2 回　文書の作成と管理②
　　文書の書式設定、文書のオプションと表示のカスタマイズ
第 3 回　文書の作成と管理④
　　「文書の作成と管理」の確認問題
第 4 回　文字、段落、セクションの書式設定②
　　文字や段落の書式設定
第 5 回　文字、段落、セクションの書式設定④
　　「文字、段落、セクションの書式設定」の確認問題
第 6 回　表やリストの作成②
　　表の変更
第 7 回　表やリストの作成④
　　「表やリストの作成」の確認問題
第 8 回　参考資料の作成と管理②
　　「参考資料の作成と管理」の確認問題
第 9 回　グラフィック要素の挿入と書式設定②
　　グラフィック要素の書式設定
第 10 回　グラフィック要素の挿入と書式設定④
　　「グラフィック要素の挿入と書式設定」の確認問題
第 11 回　文書表現の応用②
　　説得力のある文書の作成
第 12 回　模擬試験対策②
　　模擬試験の実施、解説
第 13 回　模擬試験対策④
　　模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑥
　　模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
・富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
水曜日４時限目　情報処理技法Ⅰ（文書作成）も併せて履修すること。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅱ（表計算）

3507
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
金曜 2限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。
〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。
〔授業計画〕
第 1 回　スキルチェック
　　Excelのスキルチェック
第 2 回　ワークシートやブックの作成と管理②
　　ワークシートやブックの書式設定
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理④
　　「ワークシートやブックの作成と管理」の確認問題
第 4 回　セルやセル範囲のデータの管理②
　　セルやセル範囲の書式設定
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理④
　　「セルやセル範囲のデータの管理」の確認問題
第 6 回　テーブルの作成②
　　テーブルのレコードの抽出、並び替え、「テーブルの作成」の確認問題
第 7 回　数式や関数を使用した演算の実行②
　　関数を使用した条件付きの計算
第 8 回　数式や関数を使用した演算の実行④
　　「数式や関数を使用した演算の実行」の確認問題
第 9 回　グラフやオブジェクトの作成②
　　グラフの書式設定
第 10 回　グラフやオブジェクトの作成④
　　「グラフやオブジェクトの作成」の確認問題
第 11 回　表計算の応用②
　　目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算②
第 12 回　模擬試験対策②
　　模擬試験の実施、解説
第 13 回　模擬試験対策④
　　模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑥
　　模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ
〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
その他
〔備考〕
金曜日１時限目　情報処理技法Ⅰ（表計算）も併せて履修すること。
〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（文書作成）

3501
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
水曜 3限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Wordの基本的機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。
〔授業の概要〕
文書作成に欠かせないWordを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ・Ⅱ（文書作成）の概要
第 2 回　文書の作成と管理①
　　文書作成時の注意点、文書の作成、文書の移動
第 3 回　文書の作成と管理③
　　文書の印刷、文書の保存
第 4 回　文字、段落、セクションの書式設定①
　　文字列や段落の挿入
第 5 回　文字、段落、セクションの書式設定③
　　文字列や段落の並び替え、グループ化
第 6 回　表やリストの作成①
　　表の作成と変更
第 7 回　表やリストの作成③
　　リストの作成、変更
第 8 回　参考資料の作成と管理①
　　参照のための情報や記号の作成と管理、標準の参考資料の作成と管理
第 9 回　グラフィック要素の挿入と書式設定①
　　グラフィック要素の挿入
第 10 回　グラフィック要素の挿入と書式設定③
　　SmartArtの挿入、書式設定
第 11 回　文書表現の応用①
　　目的や状況に応じた文書の作成
第 12 回　模擬試験対策①
　　模擬試験の概要、模擬試験プログラムの学習方法
第 13 回　模擬試験対策③
　　模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑤
　　模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
水曜日４時限目　情報処理技法Ⅱ（文書作成）も併せて履修すること。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅰ（表計算）

3502
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 > 教育学科
2単位　後期
金曜 1限
朝野　美穂

〔到達目標〕
・Excelの基本的機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。

〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で活用できる基本的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅰ・Ⅱ（表計算）の概要
第 2 回　ワークシートやブックの作成と管理①
　　ワークシートやブックの作成、移動
第 3 回　ワークシートやブックの作成と管理③
　　ワークシートやブックのオプションと表示のカスタマイズ、配布するための設定
第 4 回　セルやセル範囲のデータの管理①
　　セルやセル範囲へのデータ挿入
第 5 回　セルやセル範囲のデータの管理③
　　データのまとめ、整理
第 6 回　テーブルの作成①
　　テーブルの作成、管理、スタイルと設定オプションの管理
第 7 回　数式や関数を使用した演算の実行①
　　関数を使用したデータ集計
第 8 回　数式や関数を使用した演算の実行③
　　関数を使用した書式設定、文字列の変更
第 9 回　グラフやオブジェクトの作成①
　　グラフの作成
第 10 回　グラフやオブジェクトの作成③
　　オブジェクトの挿入、書式設定
第 11 回　表計算の応用①
　　目的や状況に応じた視覚的効果を用いた表計算①

第 12 回　模擬試験対策①
　　模擬試験の概要、模擬試験プログラムの学習方法
第 13 回　模擬試験対策③
　　模擬試験の実施、解説
第 14 回　模擬試験対策⑤
　　模擬試験の実施、解説
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
・日常点（小課題）50%
・定期試験（実技）50%

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（2,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕
その他

〔備考〕
金曜日２時限目　情報処理技法Ⅱ（表計算）も併せて履修すること。

〔オフィスアワー〕
・曜日と時間：水曜日２限目
・場所：講師控室
・その他：来室の際は、事前にPhollyのメッセージ機能もしくは直接メールでアポイントメントを取ってください。アポイントメントがない場合は、対応ができません。また、質問等は、Phollyのメッセージ機能もしくはメールでも随時受け付けます。

情報処理技法Ⅱ（文書作成）

3505
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中谷　有里

〔到達目標〕
・Wordの応用的な機能や操作方法を知る。
・Wordを使用し、効率的に文書作成ができる。
・Wordを使用し、目的や状況に応じた文書作成ができる。

〔授業の概要〕
文書作成で必要とされるWordを用いて、社会人としてビジネスの場で効果的・効率的に活用できるより高度で実践的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Word 2016 Expert」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
※「情報処理技法Ⅰ（文書作成）」の単位を取得済かつ「Microsoft Office Specialist Word 2016」を取得済（または同等レベル以上の証明書あり）が望ましい。

〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
・予習：毎回予習するべき内容を指示するので、指示に従って学習する内容を把握し、疑問点をチェックしておくこと。
・復習：毎回学習した内容をノート等で確認しておくこと。

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅱ（文書作成）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Wordのスキルチェック
第 3 回　文書のオプションと設定の管理①
　　文書作成時の注意点、文書とテンプレートの管理
第 4 回　文書のオプションと設定の管理②
　　文書の変更の管理、校閲用の文書の準備
第 5 回　文書のオプションと設定の管理③
　　情報の安全性の確保
第 6 回　高機能を使用した文書のデザイン
　　高度な編集や書式設定、スタイルの作成
第 7 回　高機能を使用した参考資料の作成①
　　索引の作成と管理、参考資料の作成と管理
第 8 回　高機能を使用した参考資料の作成②
　　フォーム、フィールド、差し込み印刷の管理
第 9 回　ユーザー設定のWord要素の作成①
　　文書パーツ、マクロ、コントロールの作成と変更
第 10 回　ユーザー設定のWord要素の作成②
　　ユーザー設定のスタイルセットとテンプレートの作成
第 11 回　ユーザー設定のWord要素の作成③
　　ほかの言語やユーザー補助機能に対応した文書の準備
第 12 回　文書表現の基本
　　文書作成のポイント
第 13 回　文書表現の応用①
　　Wordの利用環境をカスタマイズした文書の作成
第 14 回　文書表現の応用②
　　効率的な文書の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ

〔成績評価〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）

〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Word 2016 Expert対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（3,000円（税抜））

〔参考文献〕
特になし

〔履修条件〕

〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。

〔オフィスアワー〕
金曜日3時間目
研究棟2階
事前にphollyのメッセージでアポイントを取ってください。

情報処理技法Ⅱ（表計算）

3509
六麓荘キャンパス
臨床教育学部 ＞ 教育学科
2単位　前期
中谷　　有里

〔到達目標〕
・Excelの応用的な機能や操作方法を知る。
・Excelを使用し、効率的に表計算ができる。
・Excelを使用し、目的や状況に応じた表計算ができる。
〔授業の概要〕
表計算で必要とされるExcelを用いて、社会人としてビジネスの場で効果的・効率的に活用できるより高度で実践的な知識や技能を身に付ける。
また、就職活動においてパソコンスキルをアピールできる国際資格の「Microsoft Office Specialist Excel 2016 Expert」の取得レベルを目指す。
その他、本授業内容についてはLMSを用いて教材や学修の共有、WEBテストを実施する。また、必要に応じてMOOCs配信を用いて学修を進める。
※「情報処理技法Ⅰ（表計算）」の単位を取得済かつ「Microsoft Office Specialist Excel 2016」を取得済（または同等レベル以上の証明書あり）が望ましい。
〔授業時間外・準備学習（予習復習）〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　授業の進め方、成績評価、情報処理技法Ⅱ（表計算）の概要
第 2 回　スキルチェック
　　Excelのスキルチェック
第 3 回　ブックのオプションと設定の管理
　　管理、校閲の管理
第 4 回　表示形式やレイアウトの適用①
　　ユーザー定義の表示形式と入力規則、条件付き書式やフィルターの適用
第 5 回　表示形式やレイアウトの適用②
　　ユーザー設定のブックの要素の作成と変更
第 6 回　表示形式やレイアウトの適用③
　　ほかの言語に対応したブックの準備
第 7 回　高機能な数式の作成①
　　名前付き範囲とオブジェクトの定義、数式に関数の適用
第 8 回　高機能な数式の作成②
　　関数を使用したデータの検索、高度な日付と時刻の関数の適用
第 9 回　高機能な数式の作成③
　　データ分析・ビジネス分析、数式のトラブルシューティング
第 10 回　高機能なグラフやテーブルの作成①
　　高度な機能を使用したグラフの作成
第 11 回　高機能なグラフやテーブルの作成②
　　ピボットテーブルの作成と管理
第 12 回　高機能なグラフやテーブルの作成③
　　ピボットグラフの作成と管理
第 13 回　表計算の応用①
　　効率的な集計を必要とする表計算
第 14 回　表計算の応用②
　　的確な判断と分析を必要とする表計算
第 15 回　学習の振り返りとまとめ
　　まとめ
〔成績評価〕
小テスト30%（実技）
定期試験70%（実技）
〔教科書〕
＜テキスト購入必須＞
富士通エフ・オー・エム株式会社「よくわかるマスター MOS Excel 2016 Expert対策テキスト＆問題集」FOM出版、2017（3,000円（税抜））
〔参考文献〕
特になし
〔履修条件〕
〔備考〕
教務側入力。何も書かないこと。
〔オフィスアワー〕
金曜日3時間目
研究棟2階
事前にphollyのメッセージでアポイントを取ってください。